新潟県埋蔵文化財調査報告書 第164集

日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書XVII

野中土手付遺跡
砂山中道下遺跡

２００６

新　潟　県　教　育　委　員　会

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書XVII

野中土手付遺跡
砂山中道下遺跡

２００６

新　潟　県　教　育　委　員　会

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団

序

日本海東北自動車道は、新潟市を起点に村上市、山形県酒田市、秋田県秋田市などを経由して、秋田県小坂ジャンクションに至る高速自動車道です。新潟県内では平成14年に中条インターチェンジまで開通し、現在は、中条－朝日インターチェンジ間を建設中です。

日本海東北自動車道は、北陸自動車道、磐越自動車道、山形自動車道および秋田自動車道と接続することにより、北陸・東北地方の高速道路ネットワーク機能を強化するとともに、産業、経済、文化交流の促進、観光産業の活性化に大きく寄与するものと期待されています。また、救急患者の搬送・災害時の緊急輸送等の「命の高速道」としての役割も期待されています。

本書は、この高速自動車道建設に伴う湖南工事用道路建設に先立って発掘調査した「野中土手付遺跡」と「砂山中道下遺跡」の発掘調査報告書です。調査の結果、野中土手付遺跡では、下層から古墳時代前期の竪穴住居と隣接した土坑から、土器がまとまって発見されました。上層からは古墳時代後期の遺物も出土しています。中心となるのは上層の奈良・平安時代（8世紀後半～9世紀後半）の集落で、大型の柱穴を持つ掘立柱建物や木簡が出土したことから、地域の中心的集落だった可能性があります。砂山中道下遺跡では、中世の鎌倉～室町期（14世紀）の集落が発見されています。掘立柱建物と井戸のほかに自然流路の岸から火葬跡が発見され、その中央に掘られた土坑から漆器皿と人骨の一部が発見されました。中世に於いて、葬送の方法は火葬と土葬等がありましたが、庶民は土葬あるいは特定の場所への遺棄が一般的で、火葬が行なわれたのは上流階級と考えられています。砂山中道下遺跡の一帯は中世の荘園東大寺領加地荘に当ると考えられることから、荘園に関係した在地有力者がこの集落にいたと推測されます。また、自然流路から木簡も多数出土しています。

近年阿賀野川以北では古墳時代の遺跡が多数発見され、資料が蓄積されつつあり本遺跡もそれに加えられます。また、中世においては奥山荘に代表される中世遺跡の宝庫でもあります。今回の調査成果が、考古学関係者だけでなく、地域の方々に活用されるよう願います。

最後に、この発掘調査に参加された地元住民の方々や地元区長、ならびに旧加治川村教育委員会には多大なるご協力とご援助を頂きました。また、旧日本道路公団（現東日本高速道路株式会社）には調査に際して格別のご配慮を頂きました。ここに厚く御礼申し上げます。

平成18年11月

新潟県教育委員会

教育長　武　藤　克　巳

例　　言

1　本報告書は、新潟県新発田市（旧加治川村）野中土手付ほかに所在する野中土手付遺跡、および同市（旧加治川村）湖南字砂山道下ほかに所在する砂山中道下遺跡の発掘調査記録である。

2　調査は日本海東北自動車道湖南工事用道路建設に伴い、旧日本道路公団（現東日本高速道路株式会社）から新潟県教育委員会（以下、県教委と略す）が受託した。

3　発掘調査は調査主体である県教委が、財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（以下、埋文事業団と略す）に調査を依頼し、平成10年度に実施したものである。

4　整理作業および報告書作成に係る作業は、平成17年度に埋文事業団が県教委から受託しこれにあたった。

5　出土遺物および調査・整理・自然科学分析等に係る各種資料・データ類は、一括して県教委が新潟県埋蔵文化財センターで保管・管理している。

6　遺物の註記は、野中土手付遺跡の略記号を「ノナカ」とし、出土地点や層位を記した。また、砂山中道下遺跡は略記号を「スナヤマ」とし、出土地点や層位を記した。

7　本書の図中で示す方位は、すべて真北である。ただし、ここでいう「真北」は日本平面国家座標のＸ軸方向を示す。

8　本書に掲載した遺物番号は、遺物の種類ごとに通し番号とし、本文・図面図版・写真図版の番号はすべて一致している。

9　本書の執筆・編集は佐藤友子（埋文事業団班長）が担当した。

10　第Ｖ章の自然科学分析の分析・原稿は、パリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。

11　遺物・遺構図の各種図版作成・編集に関しては、株式会社セビアスに委託してDTPソフトにより実施し、デジタルデータから直接印刷した。

12　引用文献は著者および発行年（西暦）を文中に［　］で示し、巻末に一括して掲載した。

13　調査成果の一部は野中土手付遺跡現地説明会（平成10年８月29日）、砂山中道下遺跡現地説明会（平成10年８月１日）、遺跡発掘調査報告会（平成12年２月20日）、『木簡研究』第21・22号などで公表しているが、本報告書の記述をもって正式な報告とする。

14　発掘調査から本書の作成にいたるまで、下記の方々および機関から多くの御教示・ご協力をいただいた。ここに記して厚く御礼申し上げる。（敬称略　五十音順）

相田泰臣　　相羽重徳　　伊藤　崇　　伊藤秀和　　卜部厚志　　旧加治川村教育委員会　　小林昌二
笹川一郎　　笹沢正史　　新発田市教育委員会　　高橋　学　　高濱信行　　鶴巻康志　　戸根与八郎
野水晃子　　三上喜孝　　水澤幸一　　矢田俊文

目　　次

第Ⅰ章　序　　説

1　調査に至る経緯 …… 1

2　調査の方法と経過 …… 1

A　一次調査 …… 1
B　二次調査 …… 2
C　立会い調査の結果 …… 3

3　調査体制 …… 4

A　一次調査 …… 5
B　二次調査 …… 5
C　立会い調査 …… 5

4　整理体制 …… 5

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

1　遺跡の位置と地理的環境 …… 7

2　歴史的環境と周辺の遺跡 …… 9

第Ⅲ章　野中土手付遺跡

1　調査の概要 …… 12

A　遺跡の立地と微地形 …… 12
B　グリッドの設定 …… 12

2　基本層序 …… 12

3　遺　　構 …… 13

A　概　　要 …… 13
B　記述の方法 …… 14
C　遺構各説 …… 14

4　遺　　物 …… 20

A　土器の概要 …… 20
B　古墳時代の土器 …… 20
C　古代の土器 …… 29
D　中世青磁 …… 37
E　石製品 …… 37
F　土製品 …… 37
G　木製品 …… 37
H　木　　簡 …… 39

5　ま　と　め …… 41

A　古墳時代の集落構成 …… 41
B　古墳時代の土器器種構成 …… 41
C　古代の集落構成 …… 41
D　古代の土器器種構成 …… 42
E　古代集落の性格 …… 44

第Ⅳ章　砂山中道下遺跡

1　調査の概要 …… 45
A　遺跡の立地と微地形 …… 45
B　グリッドの設定 …… 45

2　基 本 層 序 …… 45

3　遺　　構 …… 47
A　概　　要 …… 47
B　記述の方法 …… 47
C　遺 構 各 説 …… 47

4　遺　　物 …… 55
A　概　　要 …… 55
B　土　　器 …… 55
C　土 製 品 …… 56
D　石 製 品 …… 56
E　金 属 製 品 …… 56
F　木 製 品 …… 57
G　木　　簡 …… 60
H　SK27出土人骨 …… 62

5　ま と め …… 63
A　集 落 構 成 …… 63
B　中世火葬について …… 64

第Ⅴ章　自然科学分析

1　はじめに …… 65

2　木製品の樹種同定 …… 65
A　試　　料 …… 65
B　分 析 方 法 …… 65
C　結　　果 …… 65
D　考　　察 …… 74

3　花粉分析・寄生虫卵分析・種実遺体同定 …… 75
A　試　　料 …… 75
B　分 析 方 法 …… 76
C　結　　果 …… 76
D　考　　察 …… 81

《要　　約》 …… 98

《引 用 文 献》 …… 99

《観 察 表》 …… 101

挿図目次

第 1 図　遺跡の位置と工事用道路法線 ……1
第 2 図　野中土手付遺跡　トレンチ設定図 ……2
第 3 図　砂山中道下遺跡　トレンチ設定図 ……2
第 4 図　薬師山の磧石仏・岩座Ⅰの位置図 ……3
第 5 図　薬師山の磧石仏搬入礫出土状況 ……4
第 6 図　岩座Ⅰ搬入礫出土状況 ……4
第 7 図　遺跡の位置と周辺の遺跡 ……7
第 8 図　正保2（1645年）越後国絵図の復元図 …8
第 9 図　紫雲寺潟形成前の層相分布と古地理 ……8
第10図　紫雲寺潟干拓直後の層相分布と古地理 ….8

野中土手付遺跡

第11図　野中土手付遺跡　グリッド設定図……12
第12図　野中土手付遺跡　基本層序……13
第13図　古墳時代前期土器分類1 ……21
第14図　古墳時代前期土器分類2 ……22
第15図　古墳時代後期土器分類……27
第16図　古代土器分類1 ……31
第17図　古代土器分類2 ……32
第18図　郡符木簡の廃棄工程……40

砂山中道下遺跡

第19図　砂山中道下遺跡　グリッド設定図……45
第20図　砂山中道下遺跡　基本層序……46
第21図　井戸側系図……48
第22図　井戸分類図……48
第23図　SK27出土人骨 ……62

自然科学分析

第24図　花粉化石群集……76
第25図　木材（1）……85
第26図　木材（2）……86
第27図　木材（3）……87
第28図　木材（4）……88
第29図　木材（5）……89
第30図　木材（6）……90
第31図　木材（7）……91
第32図　木材（8）……92
第33図　木材（9）……93
第34図　木材（10）……94
第35図　砂山中道下遺跡の花粉化石……95
第36図　砂山中道下遺跡の種実遺体（1）……96
第37図　砂山中道下遺跡の種実遺体（2）……97

表　目　次

野中土手付遺跡

第 1 表　遺構の略称……14
第 2 表　古代土器分類……30
第 3 表　木製品器種構成……38
第 4 表　木簡一覧……40
第 5 表　古墳前期土器器種構成……41
第 6 表　SI101土器器種構成……41
第 7 表　SD101土器器種構成……42
第 8 表　SX101土器器種構成 ……42
第 9 表　SK102土器器種構成 ……42
第10表　古墳後期土器器種構成……42
第11表　古代土器器種構成……43
第12表　須恵器食膳具胎土別出土数……43

砂山中道下遺跡

第13表　遺構の略称……47
第14表　木製品器種構成……57
第15表　SE17木製品器種構成 ……58
第16表　SE171木製品器種構成 ……58
第17表　SK31木製品器種構成 ……58
第18表　SK32木製品器種構成 ……59
第19表　SX172木製品器種構成 ……59
第20表　SX175木製品器種構成 ……59
第21表　SX30木製品器種構成 ……60
第22表　SD59木製品器種構成 ……60
第23表　木簡一覧……61
第24表　SK27出土人骨 ……62

自然科学分析

第25表　樹種同定結果（野中土手付遺跡）……66
第26表　樹種同定結果（砂山中道下遺跡）……68
第27表　器種別種類構成（野中土手付遺跡）……74
第28表　器種別種類構成（砂山中道下遺跡）……75
第29表　花粉分析・寄生虫卵分析結果……76
第30表　出土種実遺体分類群一覧……79
第31表　種実同定および微細植物片分析結果……79

図版目次

野中土手付遺跡図面図版

図版1　野中土手付遺跡　遺構全体図
図版2　遺構分割図（古墳時代）
図版3　遺構分割図（古代）
図版4　古墳時代遺構個別図（1）
図版5　古墳時代遺構個別図（2）
図版6　古代遺構個別図（1）
図版7　古代遺構個別図（2）
図版8　古代遺構個別図（3）
図版9　古代遺構個別図（4）
図版10　古代遺構個別図（5）
図版11　古墳時代前期の土器（1）
図版12　古墳時代前期の土器（2）
図版13　古墳時代前期の土器（3）
図版14　古墳時代前期の土器（4）
図版15　古墳時代前期の土器（5）
図版16　古墳時代前期の土器（6）
図版17　古墳時代前期の土器（7）、古墳時代後期の土器（1）
図版18　古墳時代後期の土器（2）
図版19　古代の土器（1）
図版20　古代の土器（2）
図版21　古代の土器（3）
図版22　古代の土器（4）
図版23　古代の土器（5）
図版24　古代の土器（6）
図版25　古代の土器（7）、中世青磁
図版26　石製品、土製品
図版27　木製品（1）
図版28　木製品（2）
図版29　木製品（3）
図版30　木製品（4）
図版31　木製品（5）
図版32　木製品（6）
図版33　木製品（7）

砂山中道下遺跡図面図版

図版34　砂山中道下遺跡　遺構全体図
図版35　遺構分割図（1）
図版36　遺構分割図（2）
図版37　遺構個別図（1）
図版38　遺構個別図（2）
図版39　遺構個別図（3）
図版40　遺構個別図（4）
図版41　遺構個別図（5）
図版42　遺構個別図（6）
図版43　遺構個別図（7）
図版44　土器（1）
図版45　土器（2）、土製品、石製品、金属製品
図版46　木製品（1）
図版47　木製品（2）
図版48　木製品（3）
図版49　木製品（4）
図版50　木製品（5）
図版51　木製品（6）
図版52　木製品（7）
図版53　木製品（8）
図版54　木製品（9）
図版55　木製品（10）

野中土手付遺跡写真図版

図版56　野中土手付遺跡　遺構（1）1～15AB グリッド完掘、SI101、SK101
図版57　野中土手付遺跡　遺構（2）SK102・103、SD101・102、SX101
図版58　野中土手付遺跡　遺構（3）SB1、SD21・23、SX1
図版59　野中土手付遺跡　遺構（4）SB1
図版60　野中土手付遺跡　遺構（5）SB1・2・4・5
図版61　野中土手付遺跡　遺構（6）SB5・6・7、SD33・51
図版62　野中土手付遺跡　遺構（7）SB7、SA2、SE1
図版63　野中土手付遺跡　遺構（8）SE1、SD20・24
図版64　野中土手付遺跡　遺構（9）SD24・24’・34・4、SA3
図版65　野中土手付遺跡　古墳時代の土器（1）
図版66　野中土手付遺跡　古墳時代の土器（2）
図版67　野中土手付遺跡　古墳時代の土器（3）
図版68　野中土手付遺跡　古墳時代の土器（4）
図版69　野中土手付遺跡　古墳時代の土器（5）
図版70　野中土手付遺跡　古墳時代の土器（6）
図版71　野中土手付遺跡　古墳時代の土器（7）
図版72　野中土手付遺跡　古代の土器（1）
図版73　野中土手付遺跡　古代の土器（2）
図版74　野中土手付遺跡　古代の土器（3）
図版75　野中土手付遺跡　古代の土器（4）
図版76　野中土手付遺跡　古代の土器（5）
図版77　野中土手付遺跡　古代の土器（6）、中世青磁
図版78　野中土手付遺跡　石製品、土製品、木製品（1）
図版79　野中土手付遺跡　木製品（2）
図版80　野中土手付遺跡　木製品（3）
図版81　野中土手付遺跡　木製品（4）

図版82　野中土手付遺跡　木製品（5）
図版83　野中土手付遺跡　木製品（6）
砂山中道下遺跡写真図版
図版84　砂山中道下遺跡　遺構（1）8～28AB グリッド完掘、SB1
図版85　砂山中道下遺跡　遺構（2）SB2･3･6･7･8
図版86　砂山中道下遺跡　遺構（3）SB8、SE17･29
図版87　砂山中道下遺跡 遺構(4) SE129･171･200
図版88　砂山中道下遺跡　遺構（5）SK22、24・27
図版89　砂山中道下遺跡　遺構(6)火葬跡、SK31･32
図版90　砂山中道下遺跡　遺構（7）SK32・161、SX172・175
図版91　砂山中道下遺跡　遺構（8）SX175・30
図版92　砂山中道下遺跡　遺構(9)SD19･21･28･59
図版93　砂山中道下遺跡　遺構（10）SD79・82・143・144・204
図版94　砂山中道下遺跡　土器、土製品、石製品、金属製品
図版95　砂山中道下遺跡　木製品（1）
図版96　砂山中道下遺跡　木製品（2）
図版97　砂山中道下遺跡　木製品（3）
図版98　砂山中道下遺跡　木製品（4）
図版99　砂山中道下遺跡　木製品（5）
図版100　砂山中道下遺跡　木製品（6）
図版101　砂山中道下遺跡　木製品（7）
図版102　砂山中道下遺跡　木製品（8）

第Ⅰ章　序　　説

1　調査に至る経緯

日本海東北自動車道（以下、日東道とする）は新潟市を基点とし、日本海に沿って北上し、秋田県小坂ジャンクションに至る高速道路である。本県の延長は約100kmで既に新潟空港インターチェンジから中条インターチェンジまで、平成14年5月26日に供用が開始された。日東道は新潟平野の沖積地を通り、そのほとんどが軟弱地盤で盛土工法を採っている。この工法には大量の土砂が必要で、旧加治川村には日東道最大の箱岩土取場が確保された。埋文事業団では本線の分布調査及び確認調査を実施することになったが、箱岩土取場と本線を結ぶ湖南工事用道路（土砂運搬路）の調査が本線より優先されたことから、平成10年3月13日に分布調査を行った。その結果、1か所から平安時代の土師器片を中心に遺物が採集され（野中土手付遺跡）、また、もう1か所から中世の珠洲焼を中心に遺物が採集され、一次調査が必要であると考えられた（砂山中道下遺跡）。県教委はこの結果を3月31日付で日本道路公団（以下、公団とする）へ通知した。また、土取場となる箱岩地区には「薬師山の磧石仏」と「岩座Ⅰ」があり、平成10年8月24・25日に立会い調査を行なった。

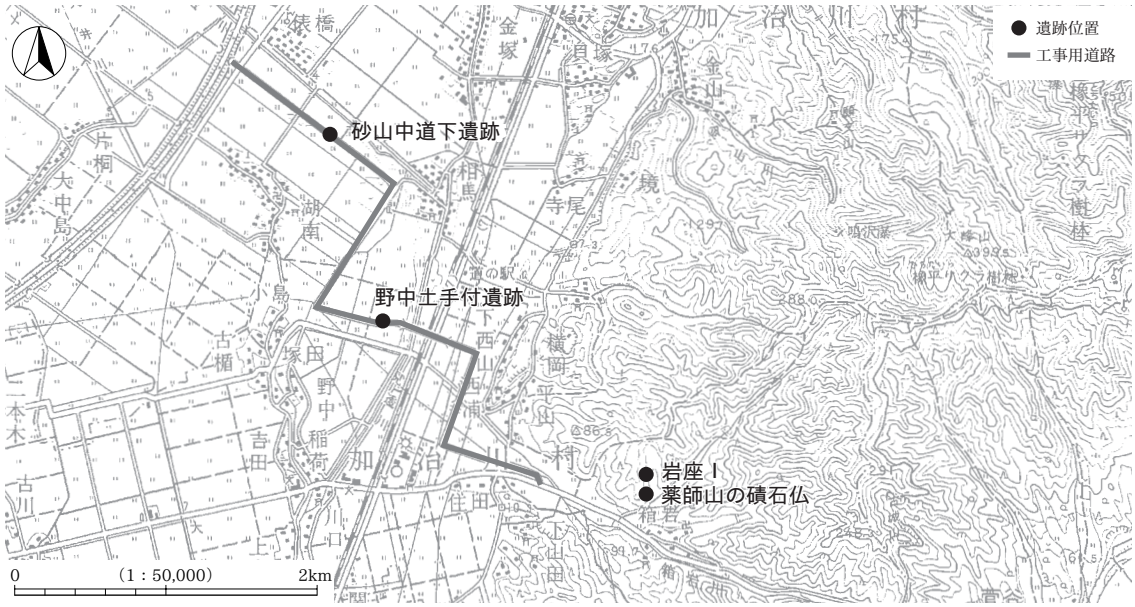
2　調査の方法と経過

A　一次調査

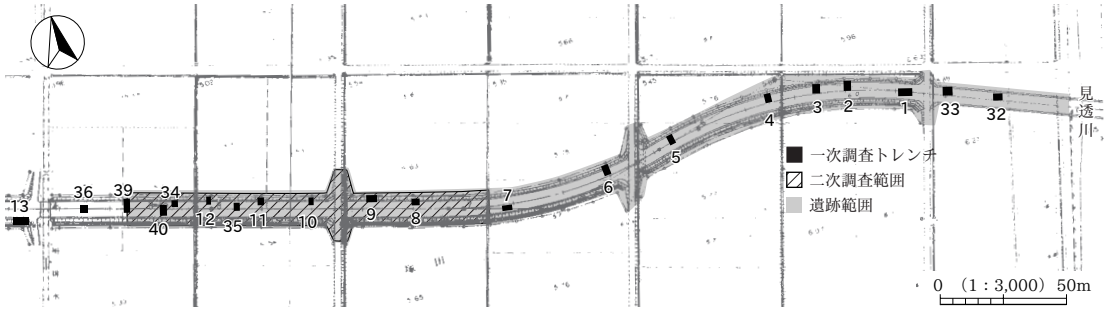
野中土手付遺跡

調査期間　平成10年4月6日～4月16日、4月23日～24日

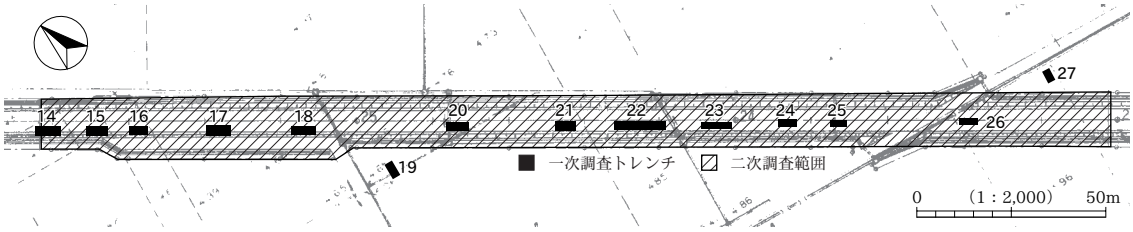
一次調査対象面積5,770m^{2}の範囲に試掘トレンチを設定した（第2図）。調査面積は185m^{2}で確認率は



第1図　遺跡の位置と工事用道路法線
（国土地理院「新発田」「中条」1:50,000原図 平成15年発行）



第２図　野中土手付遺跡　トレンチ設定図



第３図　砂山中道下遺跡　トレンチ設定図

3.2%である。作業は重機（バックフォー）を使用し、徐々に掘り下げながら遺構・遺物の有無を確認し記録した。この結果、遺物包含層を２枚検出し、古墳時代前期の土師器（4・5・8・9・10・32・33）、平安時代の土師器・須恵器（7・8・9・10・12）・木製品などが多量に出土し、９トレンチでは柱穴とみられる落ち込みも検出され集落跡と確認された。「野中土手付遺跡」として周知化した。遺跡の範囲は見透川左岸まで続き、道路法線内の遺跡面積は約4,900m^{2}であるが、見透川に向うカーブ部分は土砂運搬終了後に現況に復すため、二次調査対象範囲から除外し、2,000m^{2}となった。

砂山中道下遺跡

調査期間　平成10年3月25日～4月2日

一次調査対象面積9,880m^{2}の範囲にトレンチを設定した（第3図）。調査面積は420m^{2}で確認率は4.3%である。作業は重機を使用し、徐々に掘り下げながら遺構・遺物の有無を確認し記録した。この結果４か所（19・21・22・26）から土坑や柱穴が検出され、９か所（17・18・20～26）から中世土師器・珠洲焼・木簡２点を含む木製品が出土し、中世の集落跡と確認された。「砂山中道下遺跡」として周知化した。

B　二次調査

野中土手付遺跡

調査期間　平成10年5月6日～9月11日

県教委から委託を受けて埋文事業団が二次調査を実施した。二次調査対象面積は2,000m^{2}の予定であったが、古墳時代後期の遺物包含層が１枚追加になり3,020m^{2}である。調査区は軟弱地盤のため５月６日から13日まで矢板を打設し土留め工事を行った。５月15日～６月10日まで表土除去を行い、それと並行して、排水のための暗渠を敷設した。６月１日から作業員で１区（第11図）の包含層掘削を開始した。順次、遺構掘削・写真撮影・図面作成を行った。８月29日に現地説明会を行い126名の参加者があった。９月９日には調査を終了し、後始末終了後９月11日に公団に引き渡した。

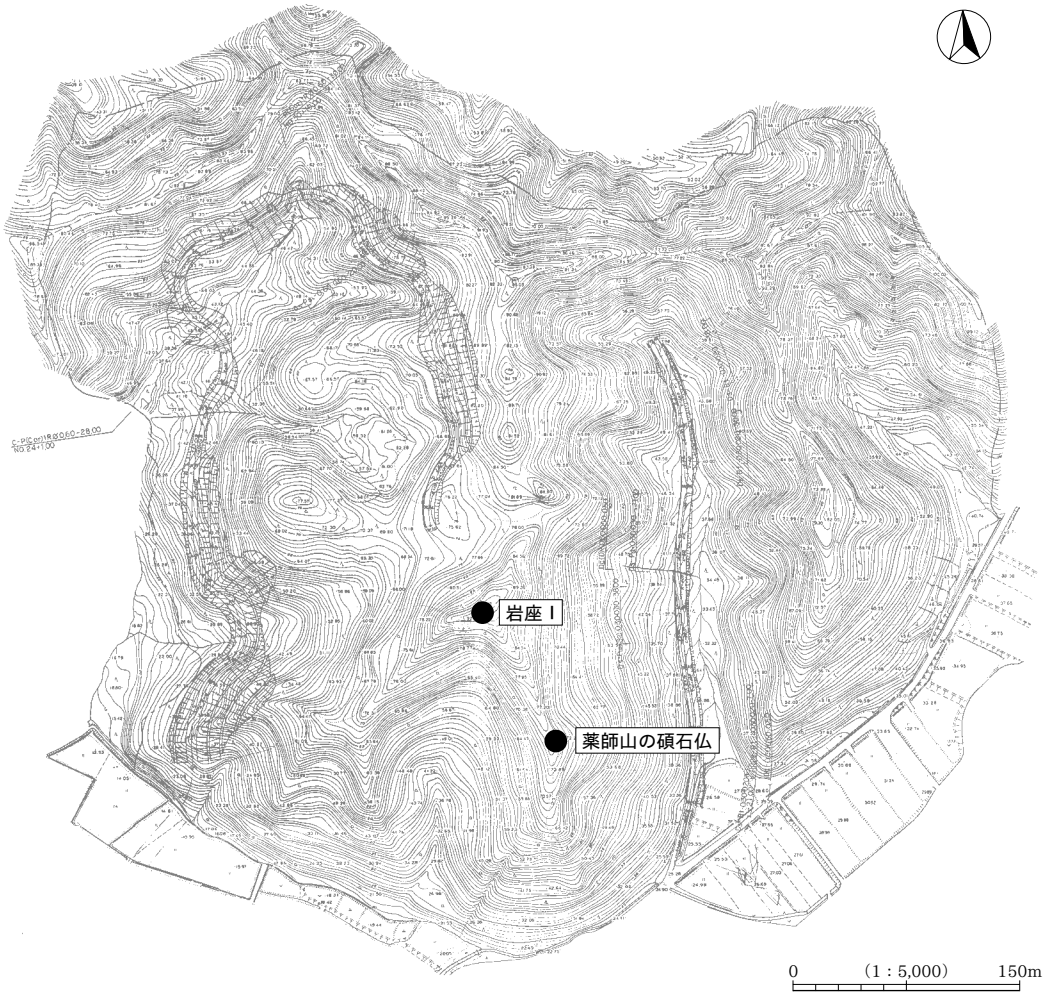
砂山中道下遺跡

調査期間　平成10年5月25日～8月20日

県教委から委託を受けて埋文事業団が二次調査を実施した。調査面積は2,590m^{2}であった。調査区内は湧水が著しく排水対策が必要で、5月6日から排水溝（暗渠と開渠を併用）掘削と表土除去を並行して行なった。排水溝工事は27日まで、表土除去は6月2日まで行なった。5月26日～28日には、土留めのため部分的に軽量矢板を打設した。5月28日からは表土除去が終了した部分から、作業員で包含層掘削を行った。順次、遺構掘削・写真撮影・図面作成を行った。7月31日の集中豪雨では、調査区が周囲の水田より低くなっているため水没した。中世の集落跡の様相が見えてきた8月1日に現現地説明会を開催し、116名の参加者があった。8月20日には調査を終了し公団に引き渡した。

C　立会い調査の結果

土取場の箱岩地区丘陵の山頂には「薬師山の磧石仏」と「岩座Ⅰ」（第4図）があり、平成10年6月23日と7月2日に旧加治川村文化財担当と公団職員立会いのもと調査地点を確認した。8月24・25日に「薬師山の磧石仏」に任意のトレンチを設定し、掘削したところ搬入礫が1点出土したほかは遺構・遺物は検出されなかった。礫の上面の標高は72.13mであった。



第4図　薬師山の磧石仏・岩座Ⅰの位置図

「岩座Ⅰ」では7月2日の調査地点確認時に発見された搬入礫を中心に、任意のトレンチを設定し掘削したところ、4個の搬入礫が方形に配置され出土した。礫は意図的に平坦部を上にして若干、地山への掘り込みを伴い据え置かれていた。4個の礫上面のレベルはほぼ一定で標高89.78mであった。搬入礫の機能は、その配置と据え置き方から石造物の縄張りおよび上部構造物の台座とも考えられるが、詳細は不明である。

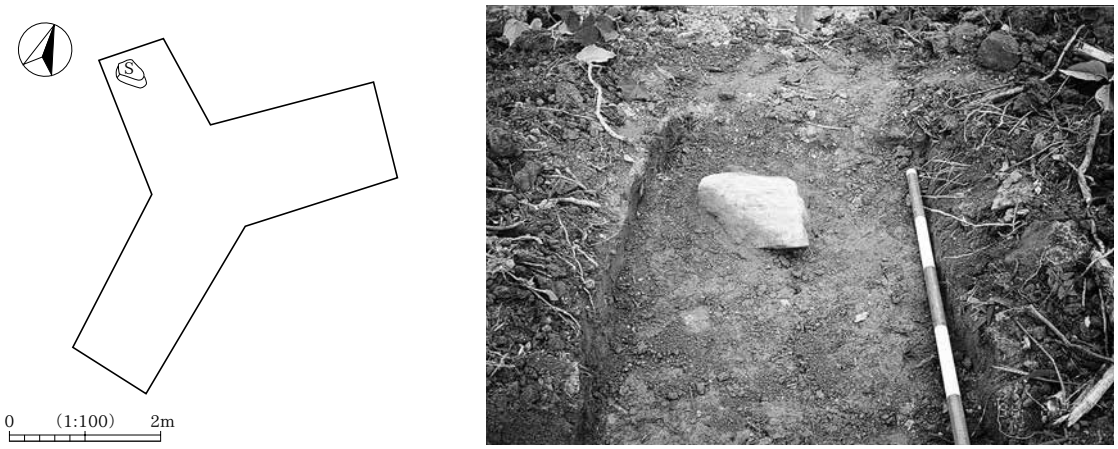
薬師山の磧石仏は、取り扱い指示の不手際から、今回の調査前に地元住民によって、箱岩集落の諏訪神社に移設されていた。したがって調査で出土した搬入礫と石造物の位置関係は不明である。両遺跡の周辺をボーリングステッキで調査したが、新たな搬入礫は発見されなかった。9月3日に調査区を測量して立会い調査を終了した。

3　調 査 体 制

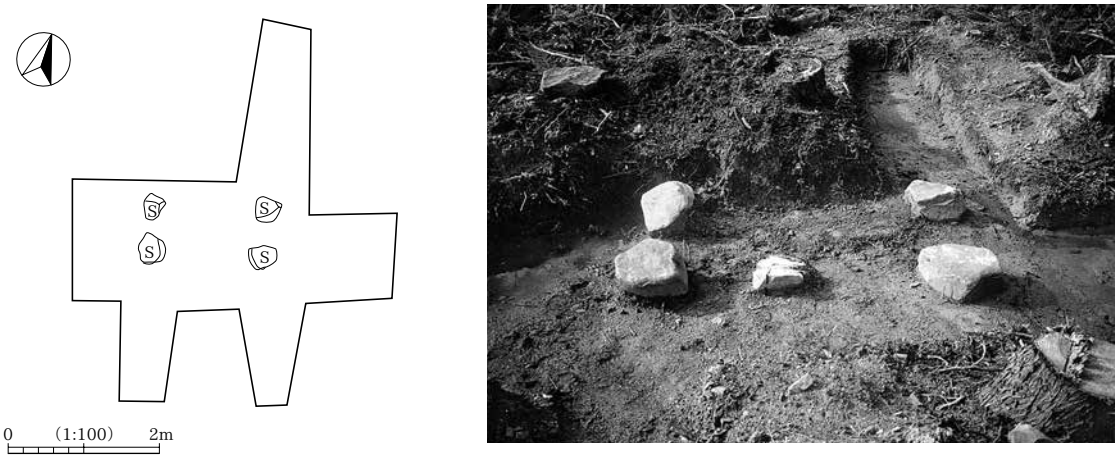
一次調査から二次調査、立会い調査までは、以下の期間・体制で行なった。調査主体から調査指導までは下記のように共通である。

調査主体　新潟県教育委員会（教育長　野本憲雄）

調　　査　財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（理事長　野本憲雄）



第5図　薬師山の磧石仏搬入礫出土状況



第6図　岩座Ⅰ搬入礫出土状況

管　　理　須田益輝（事務局長）
若槻勝則（総務課長）　本間信昭（調査課長）
庶　　務　椎谷久雄（総務課主事）
調査指導　寺崎裕助（調査課調査第一係長）

A　一次調査

野中土手付遺跡

調査期間　平成10年4月6日～4月16日、4月23日～24日
調査担当　鈴木俊成（調査課主任調査員）
調査職員　霜鳥正道（同主任調査員）　高橋　聡（同主任調査員）　鈴木　勉（同文化財調査員）
飯坂盛泰（同文化財調査員）　石田守之（同嘱託員）　湯田儀礼（同嘱託員）

砂山中道下遺跡

調査期間　平成10年3月25日～4月2日
調査担当　小田由美子（調査課主任調査員）
調査職員　岡田和則（同主任調査員）　鈴木　勉（同文化財調査員）　鹿野弘之（同文化財調査員）
石田守之（同嘱託員）　湯田儀礼（同嘱託員）　村山良紀（同嘱託員）　海津　知（同嘱託員）

B　二次調査

野中土手付遺跡

調査期間　平成10年5月6日～9月11日
調査担当　飯坂盛泰（調査課文化財調査員）
調査職員　霜鳥正道（同主任調査員）　鈴木　勉（同文化財調査員）

砂山中道下遺跡

調査期間　平成10年5月25日～8月20日
調査担当　鈴木俊成（調査課主任調査員）
調査職員　高橋　聡（同主任調査員）　石田守之（同嘱託員）　湯田儀礼（同嘱託員）

C　立会い調査

薬師山の磧石仏・岩座Ⅰ

調査期間　平成10年8月24～25日
調査担当　鈴木俊成（調査課主任調査員）
調査職員　高橋　聡（同主任調査員）

4　整理体制

報告書作成に係る整理作業は以下の期間・体制で行なった。
整理期間　平成17年4月1日～18年3月31日
整理主体　新潟県教育委員会（教育長　武藤克巳）

整理実施機関　財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団（理事長　武藤克巳）

管　　理　波多俊二（事務局長）

　　長谷川二三夫（総務課長）　藤巻正信（調査課長）

庶　　務　長谷川靖（総務課班長）

整理指導　高橋　保（調査課整理担当課長代理）

整理担当　佐藤友子（　　同　　班長）

作　　業　北見順子　小林智美　田口和子　東條シゲ子　吉田珠世（以上嘱託員）

木製品の整理と保存処理は先行して平成15年～17年度に行った。

作　　業　山下　健　小林智美　笹川陽子（以上嘱託員）

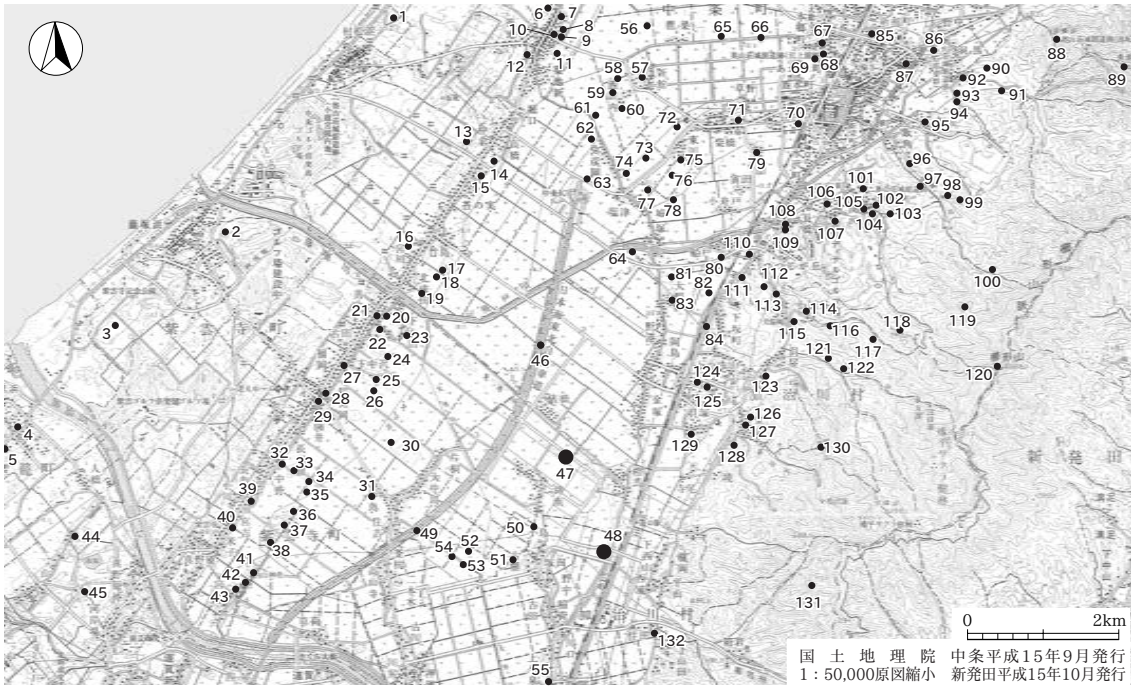
第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

1　遺跡の位置と地理的環境

野中土手付遺跡は新発田市野中土手付ほか、砂山中道下遺跡は同市湖南字砂山道下ほかに所在する。両遺跡は平成17年5月1日付けで新発田市と合併した旧加治川村に所在する。

野中土手付遺跡は新潟平野北部を西流する加治川の北方約4kmの地点に位置する。この付近は近世まで紫雲寺潟（塩津潟）が存在し、現在は近世の干拓、新田開発を経て水田となっている。遺跡の現地表面の標高は約5.5mである。

砂山中道下遺跡は、野中土手付遺跡から北西に1.3kmの紫雲寺潟（塩津潟）の南端に位置し、潟に流れ



No.	遺跡名	時代
1	下原遺跡	奈良・平安
2	葉塚山遺跡	平安
3	浜山経塚	中世
4	次第浜遺跡	平安
5	雨池遺跡	平安
6	西裏遺跡	平安・中世
7	竹の花遺跡	平安・中世
8	築地館北遺跡	奈良・中世
9	築地館跡	中世
10	くね廻り遺跡	平安・中世
11	築地館東遺跡	平安・中世
12	裏山遺跡	平安・中世
13	築地原遺跡	平安
14	中倉遺跡	平安
15	宮崎遺跡	奈良・平安
16	宮川遺跡	奈良・平安
17	四ツ持遺跡	奈良・平安
18	兵衛遺跡	奈良・平安
19	堀切遺跡	中世
20	真中中割A遺跡	奈良・平安
21	真中遺跡	奈良・平安
22	真中中割C遺跡	奈良・平安
23	真中中割B遺跡	奈良・平安
24	尖山遺跡	奈良・平安
25	下中沢遺跡	平安
26	粒山遺跡	奈良・平安
27	稲荷岡C遺跡	奈良・平安
28	稲荷岡B遺跡	奈良・平安
29	稲荷岡A遺跡	奈良・平安
30	上粒山遺跡	平安
31	長者館北境	奈良・平安
32	ドテ下遺跡	中世
33	デト山遺跡	奈良・平安・中世

No.	遺跡名	時代
34	薬師山遺跡	奈良・平安・中世
35	銭島遺跡	奈良・平安
36	夷山東遺跡	奈良・平安
37	夷山遺跡	奈良・平安
38	王子山遺跡	奈良・平安・中世
39	小川遺跡	奈良・平安
40	腹付遺跡	古代
41	白山島遺跡	奈良・平安
42	山草荷Ⅳ遺跡	中世
43	山草荷Ⅲ遺跡	平安
44	下二ツ山遺跡	奈良・平安
45	二ツ山遺跡	奈良・平安
46	青田遺跡	平安
47	砂山中道下遺跡	平安・中世
48	野中土手付遺跡	古墳・平安
49	住吉遺跡	中世
50	小島西遺跡	中世
51	古橋館	中世
52	灰塚遺跡	中世
53	中住吉遺跡	平安・中世
54	二ツ割遺跡	平安・中世
55	今泉館	中世
56	六斗蒔遺跡	古墳
57	新館跡	中世
58	反貝目遺跡	古墳
59	西川内北遺跡	古墳・古代
60	中曽根遺跡	奈良・平安
61	西川内南遺跡	古墳・平安
62	土居下遺跡	古墳
63	福田遺跡	古墳・平安・中世
64	船戸川崎遺跡	古墳・奈良・平安
65	草野遺跡	古墳・平安
66	下名倉遺跡	平安・中世

No.	遺跡名	時代
67	大江添遺跡	中世
68	江上館跡	中世
69	下町・坊城遺跡	中世
70	駒込遺跡	古代・中世
71	柴橋館跡	中世
72	野付遺跡	古墳・平安・中世
73	天野遺跡	古墳・平安・中世
74	東川内中興野遺跡	古墳
75	屋敷遺跡	古墳・平安
76	上屋敷遺跡	古墳
77	大塚遺跡	古墳・平安・中世
78	城の山古墳（大塚）	古墳
79	段袋遺跡	奈良・平安
80	船戸桜田遺跡	古墳・平安・中世
81	大野A遺跡	平安
82	下坂町遺跡	平安
83	大野B遺跡	平安
84	下坂町館	中世
85	東本町遺跡	中世
86	石仏遺跡	中世
87	石原館跡	中世
88	白鳥城跡	中世
89	鳥坂城跡	中世
90	宮ノ入遺跡	平安
91	極楽寺遺跡	古墳・中世
92	羽黒館跡	中世
93	極楽寺伝承地	中世
94	極楽寺関連遺跡	中世
95	半山館跡	中世
96	飯角竹ノ花遺跡	中世
97	倉田越遺跡	中世
98	半山廃寺	中世
99	雨窪城跡	中世

No.	遺跡名	時代
100	山居寺城跡	中世
101	倉田城跡	中世
102	堂ノ前遺跡	中世
103	関沢廃寺	中世
104	桜田遺跡	中世
105	関沢館跡	中世
106	道西遺跡	奈良・中世
107	高伝坂遺跡	平安・中世
108	長橋館北遺跡	中世
109	長橋館跡	中世
110	蔵ノ坪遺跡	平安・中世
111	蟹澤北遺跡	平安
112	升川遺跡	奈良・中世
113	大桜峠遺跡	平安・中世
114	家の下遺跡	平安
115	貝屋遺跡	平安
116	宮ノ下遺跡	平安
117	小国谷城	中世
118	高畑城跡	中世
119	市ノ沢城跡	中世
120	高つむり城跡	中世
121	貝屋C遺跡	平安・中世
122	貝屋B遺跡	中世
123	ヤソ山館	中世
124	下小中山遺跡	平安
125	下小中山窯跡	平安
126	高館	中世
127	金山館	中世
128	蛇山城	中世
129	八幡社遺跡	平安
130	宝塔山城	中世
131	水ノ尾城	中世
132	住田城	中世

第7図　遺跡の位置と周辺の遺跡（古墳・古代・中世）

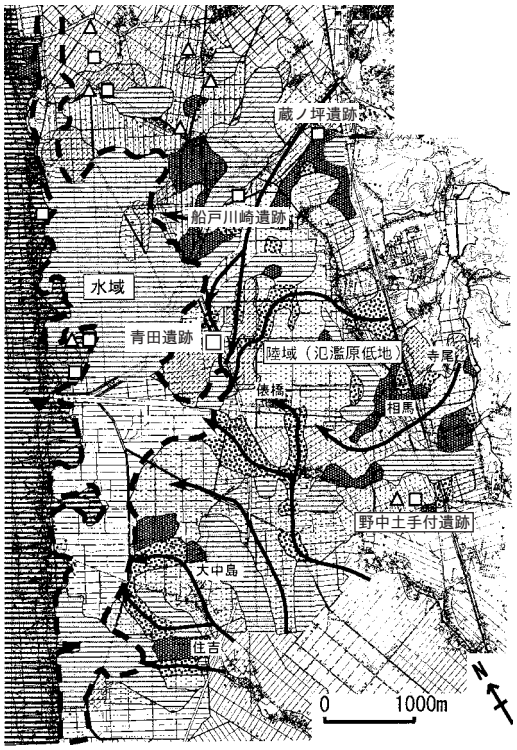
込む小河川に挟まれた自然堤防上の微高地に位置する。遺跡の現地表面の標高は4.5mである。

両遺跡は新潟県の北部、下越地方の新発田市の北東部にある。旧村名の由来ともなる加治川の扇状地と新潟平野の沖積地、東部の櫛形山脈を中心とする山間地と起伏に富んだ地形を有する。沖積地には広大な紫雲寺潟（塩津潟）を有する。海岸部には複数の砂丘列があり縄文時代からの遺跡がある。

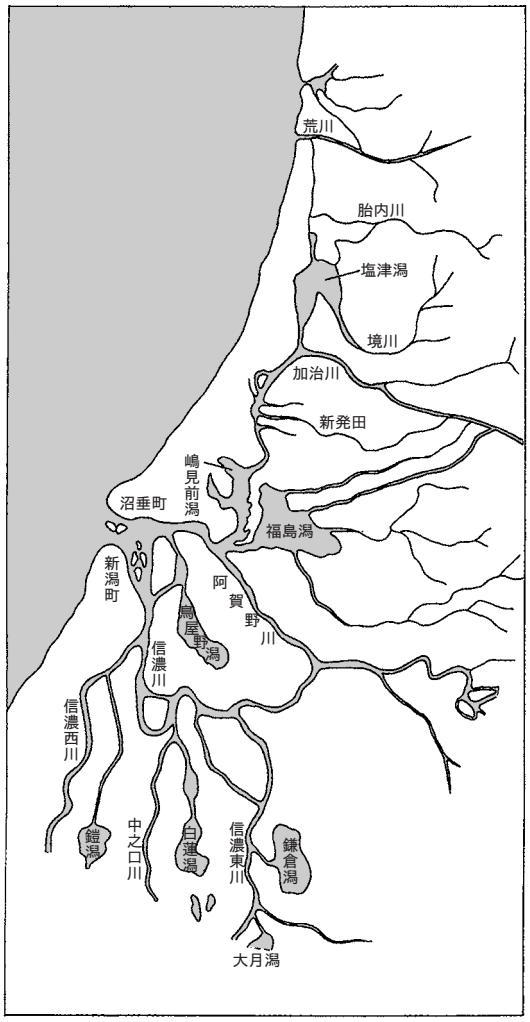
加治川とさらに北を流れる胎内川は現在、砂丘を切って直接日本海に注いでいるが、以前は南流（胎内川の一部は北流）し、阿賀野川と合流し、日本海に注いでいた。阿賀野川は信濃川と河口付近で合流していた。新潟平野には紫雲寺潟（塩津潟）をはじめ、福島潟、島見前潟など無数の潟湖があり、それらは網の目状に流れる大小河川によって繋がれ、これらを利用した内水面交通が発達したと考えられる。

紫雲寺潟（塩津潟）の形成と消滅

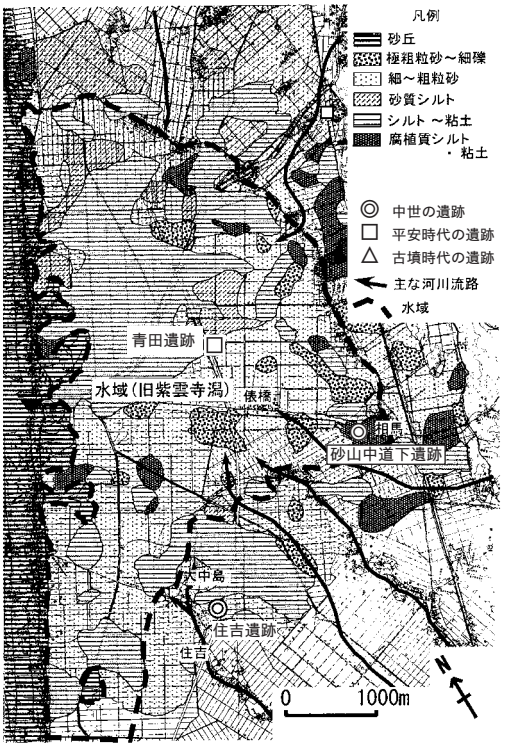
近年、両遺跡と同様、日東道関連で発見された青田遺跡（46）の発掘調査により紫雲寺潟（塩津潟）の形成過



第９図　紫雲寺潟形成前の層相分布と古地理
（［高濱・卜部2004］を一部改変）



第８図　正保２（1645年）越後国絵図の復元図
（［坂井1991］から転載）



第10図　紫雲寺潟干拓直後の層相分布と古地理
（［高濱・卜部2004］を一部改変）

程が明らかになり、紫雲寺潟（塩津潟）が9世紀末以降に地盤変動（原因の多くは地震による）により沖積地が沈降し、周辺河川から水が侵入し紫雲寺潟（塩津潟）の原形ができたとされる［高濱・卜部2002］。野中土手付遺跡が存在していた古墳時代前期から平安時代（9世紀代）にはまだ紫雲寺潟（塩津潟）は存在していないが、前紫雲寺潟（塩津潟）ともいえる水域が砂丘列東縁部に存在していたと見られる。この水域があることで当時の加治川・阿賀野川までの内水面交通が発達したと考えられる。

砂山中道下遺跡は、紫雲寺潟（塩津潟）が形成された後、約500年後に成立した中世の集落である。遺跡の範囲は紫雲寺潟（塩津潟）形成期（9世紀末）には水域に入っているが、その後の加治川支流などの流入河川が運搬する土砂によって発達した自然堤防上に成立したと考えられる。自然堤防の発達と埋積が進み、その後の潟の南端は現在の俵橋集落まで島状に張り出していた可能性も考えられる。正保2（1645）年越後国絵図では、紫雲寺潟（塩津潟）は胎内川が北から、境川が南南東から、加治川の支流が南から流れ込み潟の形状は矢羽状に描かれている（第7図）。絵図の張り出し部分は住吉～大中島～片桐～俵橋～湖南集落付近に当る可能性がある。紫雲寺潟（塩津潟）は面積約2,000haの広大なものであったが、享保12（1727）年に干拓事業が開始され、享保18（1733）年に砂丘を開削した落堀川の完成により干陸化された。福島潟と島見前潟も享保16（1731）年に現在の阿賀野川河口に当る松ヶ崎放水路が開削されて干陸化が進んだ。

2　歴史的環境と周辺の遺跡

紫雲寺潟（塩津潟）を中心とした両遺跡の周辺の遺跡は、第7図の通りである。

古墳時代

近年、紫雲寺潟（塩津潟）周辺のほ場整備および日東道関連の開発に伴い、多数の古墳時代の集落遺跡が発掘調査されている。これらの集落をまとめた有力者の墳墓を明確にするため、平成17年6月旧中条町（平成17年9月1日付黒川村と合併し、胎内市となる）の大塚遺跡（77）の中にある城の山古墳（78）が確認調査された。主体部の発掘調査は今後に委ねられているが、古墳時代前期の円墳であることが確認された。墳丘は南北34m×東西42mの楕円形を呈し、周囲より5.5mほど高くなっている。もともとあった沖積地の中島状の小丘に盛土をして築かれていた。確認された主体部は7.3m×1.6mで長辺両側に赤色顔料が残っていた。棺上から古墳時代前期の土器が出土している［中条町教委2005］。この城の山古墳の東、約200mの位置に「かごほろき山」と呼ばれる円墳がある。現在は10m四方の荒地となっており、田面から高さ1m程しか残っていないが、盛土されていることがわかり、古墳時代前期の古墳であると確認された。地籍図によると往時は20m近くの径があった［吉村2004］。

これまで前期古墳は、新潟市緒立八幡神社古墳が日本海側最北であったが、城の山古墳の調査によって、一気に阿賀野川を越え紫雲寺潟（塩津潟）北辺まで達した。城の山古墳を造営した勢力の中核的集落とみられる西川内南遺跡（61）の調査で、古墳時代前期の集落の様相が明らかになりつつある。西川内南遺跡では、円形周溝状遺構が2基検出され、1号円形集溝状は周溝を持つ平地式住居とされる。この周溝から舟形木製品が出土している。2号円形周溝状遺構は、高床式の構造を持つことから、祭祀に関する建物の可能性が指摘される。これらの祭祀に使用したとみられる、直径2.7cmの小型銅鏡が出土している［野水2005］。

城の山古墳の周辺には、同じく古墳前期の集落である屋敷遺跡（75）［水澤・吉村2004］、野付遺跡

(72)、船戸川崎遺跡（64）［水澤2004］、福田遺跡（63）［後藤2003］、反貫目遺跡（58）［寺崎ほか2004］、四ツ持遺跡（17）［水澤1998］、がある。本報告の野中土手付遺跡（48）と城の山古墳の距離は約4.8kmである。中期は天野遺跡（73）、六斗蒔遺跡（56）、後期は屋敷遺跡、野付遺跡、船戸桜田遺跡（80）［水澤・吉村2001］がある。同じく後期には村上市浦田山古墳群が造営され、その後の磐船柵造営に繋がったと見られる。

奈良･平安時代

越後国は平安時代中期に編纂された『延喜式』に頸城、古志、三島、魚沼、蒲原、沼垂、磐船の６郡があったと記載されている。本報告の両遺跡のある旧加治川村は沼垂郡に属すると考えられ、沼垂郡の範囲は阿賀野川河口付近の旧沼垂町を含む新潟市周辺からさらに北の胎内市までが想定される［轡田2004］。沼垂郡内には10世紀に成立した『倭名類聚抄』によると「足羽」「沼垂」「賀地」の３郷が記され、小郡に分類されている。

これまで足羽郡は胎内市付近、沼垂郡は古代の阿賀野川河口付近、賀地郷は加治川流域付近と推定されていた［轡田前掲］。しかし、近年の新たな文字資料の発見で、従来の郷比定地を再検討する条件が整いつつある。そのひとつが沼垂郡内の新たな郷名の発見である。平成元年平城京二条大路出土木簡に天平８（736）年頃とされる荷札木簡があり、「越後国沼足郡深江×」とあり、深江の後には「郷」の文字がくると推定される。８世紀段階で「深江郷」があったことが、新たに確認されたのである［小林2004］。さらに、これまで沼垂郡足羽郷内と推定される胎内市屋敷遺跡から、「山家」と書かれた木簡が出土し、遺跡周辺が磐船郡の山家郷の可能性がでてきた。また、同市蔵ノ坪遺跡から国司の「少目」と書かれた木簡が出土したことから、蔵ノ坪遺跡周辺も磐船郡ではないかとされる。越後国の国司制は、陸奥国と同様に分割統治を行っていた可能性があり、磐船郡に少目がいたと推測されるからである。これらのことから沼垂郡の３郷は、従来言われていた範囲より、阿賀野川河口部分と砂丘にきわめて限定された地域ではないかと言われる［平川2005］。

沼垂郡には、阿賀野川河口付近に北方政策の拠点として淳足柵が、大化３（647）年に設置され、頸城に国府が移転する８世紀初頭まで、国府機能も持ち合わせていたと考えられる。淳足柵は沼垂城と名を変えて８世紀前半まで存続していた［小林前掲］。

福島潟周辺の新発田市曽根遺跡は、「門継」と書かれた木簡や「郡」と書かれた墨書土器が出土したことから官が関連遺跡と考えられる。同じく福島潟周辺の阿賀野市発久遺跡では、「暦様木簡」や「返抄木簡」、「健児木簡」、「饗食木簡」などが出土したことから、越後国の兵庫であった可能性が高い。

阿賀野川以北の交通は磐船郡の磐船潟から荒川、胎内川、紫雲寺潟（塩津潟）、加治川、島見前潟、福島潟、阿賀野川河口にある沼垂柵（城）や国津である蒲原津までを行き来し、域内に点在する国衙、郡衙関連遺跡を内水面交通で繋いでいたと想定される。

中　　世

胎内市から新発田市内には、中世の館や山城が多数分布している。これに伴い板碑や石仏、石塔も多数分布しているが、今回板碑などは分布図から割愛している。

中世の遺跡は史跡奥山荘城館遺跡が胎内市・江上館跡（10）、鳥坂城跡（20）、倉田城跡（23）、野中石塔婆群、小鷹宮境内地、韋駄天山遺跡、黒川城跡、蔵王権現遺跡、臭水遺跡、新発田市・金山城跡にまたがってある。中核となる胎内市にある江上館跡［水澤1996］の調査が行われ、史跡整備も行われている。江上館跡は総領地頭である中条（三浦和田）氏の居館跡と伝えられている。14世紀から16世紀前半まで

の掘立柱建物や井戸、土塁、堀など良好な状態で残っていた。また、隣接する下町・坊城遺跡（39）［水澤2001］の調査では、8世紀から17世紀までの広範な遺物が出土しているが、中世の遺構・遺物の出土状態から江上館跡以前の奥山荘の中心地政所条と推定されている。

11世紀以降律令制が崩壊し、従来の国、郡、郷という支配単位が崩れ、荘園あるいは郡、郷、保、村、津などの新しい支配単位に分割・再編された。阿賀北地方には岩船郡域に小泉荘（1153年立荘）、胎内市周辺に奥山荘、加治川流域に加地荘、阿賀野川流域に白川荘（1134年立荘）が成立していた。それらの実質的経営は在地領主が担っていた。

砂山中道下遺跡周辺は加地荘に属したとみられる。加地荘は奥山荘と同じく城氏によって開発され、1130年代に東大寺（後に金剛院に移る）に寄進された。城氏滅亡後、加地荘の地頭に佐々木氏が任ぜられた。砂山中道下遺跡が存在した14世紀は、鎌倉幕府の滅亡から南北朝の動乱期を経て、足利尊氏が暦応元（1338）年に室町幕府を開いた室町時代である。南北朝から室町時代は政権の混乱も影響し、加地荘にも所領をめぐる騒乱が頻発した。その後越後は上杉氏の支配となる。

第Ⅲ章　野中土手付遺跡

1　調査の概要

A　遺跡の立地と微地形

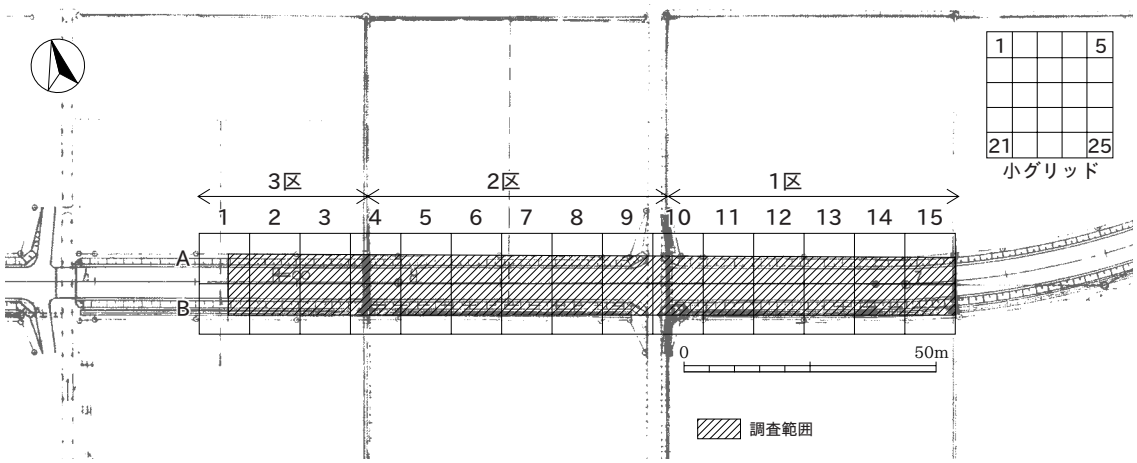
遺跡は新潟平野北部を西流する加治川の北方約4kmの地点に位置する。現況は水田で標高は約5.5mである。この付近は、近世まで紫雲寺潟（塩津潟）が存在していたところである。遺跡の存在した古墳時代から平安時代（9世紀後半）にはまだ紫雲寺潟（塩津潟）は形成されていない。遺跡は古墳時代前期に集落が形成され、しばらく土砂に埋もれた後、奈良・平安時代になって再び大規模な集落が築かれる。その後、遺跡内には腐植土が厚く堆積していることから、低湿地化が進んだと考えられる。

B　グリッドの設定（第11図）

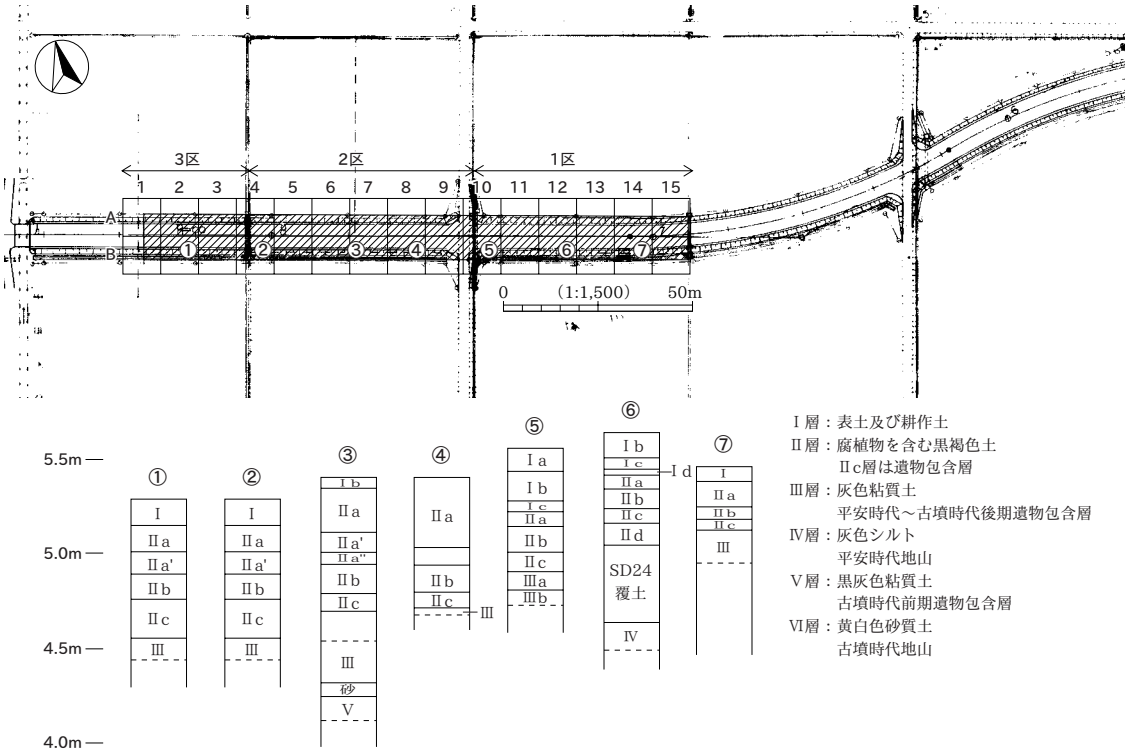
グリッドは調査範囲の幅が狭く細長いため、工事用道路法線の中心を通るように設定した。STA.7（x：222,174.203　y：75,917.539）±00とSTA.8＋40とを結んだ直線を基準線に設定し、大グリッドは10m四方を単位とし、小グリッドは大グリッドを2m四方に25等分したものである。グリッド杭の呼称は北から南へをアルファベットの大文字、西から東へを算用数字とし、両者の組み合わせで「1A」などとした。大グリッドの呼称は各グリッド北杭の呼称を用いた。小グリッドは各大グリッドの北隅を基点に1～25までの番号を付し、「1A20」などと表した。また、2本の用水路で南北を分断されたため、便宜上東から1～3区に分けて呼称した。グリッドの南北は国家座標から約15°東に傾く。

2　基 本 層 序（第12図）

遺跡の現況は水田で、標高は5.5m前後であった。Ⅱc、Ⅲ、Ⅴ層が遺物包含層でⅡc層は平安時代、Ⅲ層が古墳時代後期から平安時代の遺物包含層で、Ⅳ層が古墳時代後期～平安時代の遺構確認面である。



第11図　野中土手付遺跡　グリッド設定図



第12図　野中土手付遺跡　基本層序

Ⅴ層が古墳時代前期の遺物包含層でⅥ層が古墳時代の遺構確認面である。観察された層順を基に以下のように基本層序を設定した。

Ⅰ層　表土および耕作土

Ⅱ層　黒褐色土　腐植物を多く含む。

Ⅱａ層　黒褐色粘質土　腐植物を多く含む。粘性強、しまりなし。

Ⅱｂ層　黒褐色粘質土　腐植物を多く含む。粘性強、しまりなし。

Ⅱｃ層　黒褐色粘質土　平安時代遺物包含層　灰色粘土混入。粘性強、しまりなし。

Ⅱｄ層　黒褐色土　腐植物を多く含む。

Ⅲ層　灰色粘質土　平安時代～古墳時代後期遺物包含層　粘性強、しまりあり。

Ⅳ層　灰色シルト　青灰色の砂層含む。平安時代～古墳時代後期地山。遺構確認面である。

Ⅴ層　黒灰色粘質土　古墳時代前期遺物包含層。

Ⅵ層　黄白色砂質土　古墳時代地山。遺構確認面である。

Ⅶ層　灰白色砂層

3　遺　　構

A　概　　要

遺跡は調査範囲が幅9.0m、長さ144.0mと狭く細長いため、全体の把握は困難だが、古墳時代前期と奈良・平安時代（8世紀後半～9世紀後半）の集落跡の一部が検出された。遺構は古墳時代の竪穴住居1軒、土坑3基、古墳後期～平安時代と見られる溝状遺構2条、奈良・平安時代の掘立柱建物7棟、杭列3列、

溝状遺構40数条、井戸１基、自然流路３条が検出されている。奈良・平安時代の遺構は自然流路を挟んで東西に検出された。特に西端では掘立柱建物の西側に杭を打ち、集落の堺を区画している。

B　記述の方法

遺構は古墳時代前期の遺構、古墳時代後期～古代の遺構、古代の遺構の順に記述した。

遺構名の表記　遺構名は第１表のように略称と遺構番号の組み合わせで付した。略称は遺構の種類を表す。整理時に種類の変更が必要なものもあったが、基本的に調査段階の種類をそのまま使用している。遺構番号は、種類ごとに上層で検出されたものは１番から、下層で検出されたものは101番から番号を付けた。ピットは小グリッド単位で上層から検出されたものは１番から、下層から検出されたものは101番から付けた。ピットの表記は前にグリッドを表記し「10A20P1」などとした。

遺構の種類	略称
竪穴住居	SI
掘立柱建物	SB
杭列	SA
井戸	SE
土坑	SK
溝状遺構	SD
ピット・柱穴	P
不明遺構＊	SX

遺構名の表記例
SK　10
遺構番号
遺構略称
＊いずれにも当てはまらないもの

第１表　遺構の略称

基本土層　溝状遺構とピットの覆土（埋土）については、基本土層①～⑤（図版に説明あり）を基本にそれぞれの色調の違いや含有物を記載した。

竪穴住居　建物内で検出された土坑については遺構略称を使わず、土坑１～３とした。

掘立柱建物　柱間の多い部分（原則として長軸）を「桁行」、少ない部分を「梁行」とする。ただし、平面形が方形のものや調査区端で検出され平面形が不明なものに対しては使用しない。建物の方向は桁行を主軸とし、磁北から東西方向への角度で表した。柱穴の断面形については「柱掘形」とし、人為的に埋められたものについては「埋土」、自然堆積もしくは不明なものに対しては「覆土」とした。

土　坑　規模の記述は円形、楕円形については径（長径・短径）を用い、方形その他の不整形なものに対しては長軸・短軸とし、最大値を表している。深さについては確認面からの最深部を計測している。

溝状遺構　調査区が狭い関係で全長を検出できたものは少ない。このため全長を検出できていない溝の長さはカッコを付している。幅は最大値、深さは確認面からの最深部である。

C　遺構各説（図版１～10、56～64）

1）古墳時代

古墳時代の遺構は６～８グリッドでまとまって検出された。

SI101（図版２・４・56）

７・8ABグリッドで検出された竪穴住居である。長辺8.8m、短辺（7.2m）、深さ32cmである。北辺は調査区外にあるが、残存状況から平面形は方形になると見られる。建物内に周溝が僅かに検出され、貼床と見られる粘土も部分的に検出された。建物内に柱穴は未検出で、径40～60cmの土坑１～３が検出されたが、性格は不明である。遺物は南側に集中して出土した。遺物の年代から古墳時代前期の竪穴住居と考えられる。

SD101（図版２・５・57）

8ABグリッドでSI101の東側で検出された。検出面はⅥ層である。平面形は長軸5.44m、短軸1.8m、深さ40cmの不整楕円形である。SX101に切られ、SX101より古い。検出時に付したSDの略称をそのまま付しているが、SI101に付属の土器廃棄土坑と考えられる。SI101と同様古墳時代前期の遺構であ

る。遺物は2、４層から甕、器台の脚、蓋などの器種が出土した。

SX101（図版５・57）

8ABグリッドでSD101の東側で検出された。SD101を切る土坑である。平面形は長軸3.7m、短軸2.8m、深さ48cmの不整楕円形である。北側の立ち上がりは不鮮明である。SD101と同様、古墳時代前期のSI101に付属の土器廃棄土坑である。炭化物混じりの２層から遺物が出土し、SD101同様甕、器台の脚、蓋などの器種が目立った。

この土坑の東側は標高が下がり、大きな自然流路があった可能性がある。

SD102（図版５・57）

6B9・14・15グリッドでSI101、SX101の西側で検出された。長さ（3.1m）、幅78cm、深さ12cmである。南側はぬかるんでいたためプランが明瞭でなく、楕円形の土坑と溝が切り合っている可能性もある。古式土師器片が13点出土している。

SK101（図版４・56）

8B2グリッドに位置する。Ⅵ層で検出された。SI101と重複し、上位で検出された。長軸1.42m、短軸90cm、深さ22cmの楕円形である。

SK102（図版５・57）

7ABグリッドに位置し、SI101の西側、Ⅵ層上面で検出された。２つの土坑が切り合っている可能性もあるが、ぬかるんでおりプランは明瞭に検出できなかった。長軸6m、短軸2m、深さ24cmの楕円形である。古式土師器片約190点、木片数点が出土している。SI101の土器廃棄土坑である。

SK103（図版４・57）

6B7・12・13グリッドに位置し、Ⅵ層上面で検出された。長軸1.26m、短軸（62cm）、深さ6cmで楕円形である。２層から土器が出土している。これも土器廃棄土坑の可能性がある。

SX1（図版５・58）

6B10グリッドに位置し、Ⅲ層で検出された。西側で平安時代の土器、東側で古墳時代後期の土器が散在していた。長軸88cm、短軸37cm、深さ5cmと浅く、不整楕円形である。

SD21（図版５・58）

1ABグリッドに位置し、Ⅳ層上面で検出された。長さ（7.6m）、幅88cm、深さ12cmで南から北へカーブしながら流れている。古墳時代の装飾器台の脚・黒色処理された鉢類の土器片数点、平安時代の曲物の底板と樺皮が出土した。遺構の時期の下限は平安時代である。

SD23（図版５・58）

7A、8ABグリッドに位置し、Ⅳ層上面で検出された。周辺には古墳時代後期の土器が散在していた。長さ（7.4m）、幅20cm、深さ8cmと浅い。覆土は単層で黒色粘質土であった。古墳時代後期の黒色処理された鉢類の土器が十数点出土した。

2）古　　代

古代の遺構は11～15グリッドで検出された。さらに東、南北に広がっていると見られる。

SB1（図版６・58～60）

14ABグリッドに位置する。隅円長方形の大型柱穴で構成される掘立柱建物である。２間×３間で検出され、さらに南側に伸びる可能性もある。主軸はＮ－21°－Ｗで南北軸である。梁行5.1m、桁行7.0m

で柱間は2.5m前後である。最も残りのよい柱穴SK6の長軸は90cm、短軸70cm、深さ58cmで柱根は直径20cm程であった。SK2・10はSD20に切られる。SK3・7～9も上部の溝状遺構で撹乱されていた。埋土はほぼ共通で、ガツボと粘質土の互層が基本である。

SK2の東側に近接して先端を尖らせた木柱が3本固まって検出されている。掘り込みはなく、上端は平に削られているので廃絶後、上部を切断したと見られる。1本はSB2－1の柱穴としたが残り2本はSB1との関連は不明である。

SB2－1（図版6・60）

14ABグリッドに位置する。2×2間以上の小型柱穴で構成される総柱建物である。西南方向に伸びる可能性もある。南北柱間は2.5m、東西柱間は1.8～2.0mである。東辺はN－43°－Wである。北東隅は柱穴ではなく杭のみであり問題が残る。14B10P3は柱根が残っていた。14B9P2とSD7の切り合いは不明である。

SB2－2（図版6・60）

14ABグリッドに位置する。2×2間以上の小型柱穴で構成される掘立柱建物である。東辺の方向はN－43°－Wである。東辺3.85mである。東西柱間は1.8～2.0mである。SB2－1とほぼ同位置で方向が同一のため建て替えと考えられるが、切り合いがないため新旧は不明である。14B8P1はSK1に切られ古いが、SD7との切り合いは不明である。

SB3（図版7）

14・15ABグリッドに位置する。2×2間以上の小型柱穴で構成される掘立柱建物である。主軸はN－33°－Wである。梁行3.4m、桁行（5.0m）である。間仕切りがある。梁行きの柱間は1.6～1.8m、桁行柱間は2.7mである。15A22P1はSD9に切られ、15A16P4はSD10に切られ、15B1P102はSD3・4に切られ古い。

SB4（図版7・60）

15ABグリッドに位置する。2×2間以上の小型柱穴で構成される細い掘立柱建物である。西辺の方向はN－29°－Wである。西辺の柱は杭列SA1－1・2・4で構成され、柱間は2.0～2.2mである。北辺の柱間は2.3mである。

SB5付属SD12（図版7・60・61）

15ABグリッドに位置する。SK4・11、15B8P3の大型柱穴で構成される掘立柱建物である。南北2間のみ検出された。さらに南北、東へ伸びる可能性がある。南北辺の方向はN－5°－Eである。柱間は3.5mとかなり長い。15B8P3は全体が検出されていないが現況で長軸（50cm）、短軸（33cm）で柱根は直径20cm、長さ80cmほどあった。SK4はSD11と切り合っているが新旧は明らかでない。SK11もSD8と切りあっていたが新旧は不明である。SD12は周辺の溝状遺構と方向を変え、SB5の西辺と近接して平行していることから雨落溝と考えられる。SD12は浅く、SD2・3に切られている。SD12が雨落溝であるとするとSK4・11は溝状遺構に切られている可能性が高い。

14・15ABグリッドには、建物に復元できなかった柱穴がまだあることから、さらに数棟の掘立柱建物が建っていた可能性がある。

SB6（図版8・61）

11・12Aグリッドに位置する。建物範囲は調査区外に伸び規模は不明であるが、総柱建物と見られる。西辺の方向はN－24°－Wである。柱間は2.1～2.7mである。11A24P1はSD37を切りSD37より新

しい。11A25P3はSD33を切りSD33より新しい。

SB7（図版8・61・62）

11・12ABグリッドに位置する。2×2間の掘立柱建物である。西辺の方向軸はN－17°－Wである。南辺の長さは2.8m、東辺の長さは3.6mである。東西柱間は1.3～1.5m、南北柱間は1.5～1.9mである。北辺中央の柱穴はSD34に切られている。11B10P1はSD51を切りSD51より新しい。

SA2（図版8・62）

杭は11ABグリッドで9本検出されている。蛇行しているが概ねN－17°－Wの方向で打設されている。杭の間隔は0.7～1.2mで、上部構造は不明である。SB6・7と西側を区画するための杭列と考えられるが、詳細は不明である。11A22P1・2は途中まで掘り込みが見られることから、途中まで掘った後、杭を打ち込んだと見られる。それぞれの杭は垂直に立ったまま検出されたものはなく、傾斜している方向も東西南北とばらばらである。

SE1（図版7・62・63）

13B5・10グリッドに位置し、SD24の東岸際でSD24を僅かに掘削したところで検出された。規模は上端が1mの円形、下端は38×30cmの楕円形、深さ70cmに掘られていた。井戸側は2段構成で、上段は直径37cmの曲物側板である。2段目は口径30cm、底径22cm、高さ32.5cmの丸太を刳り抜いたものである。水溜めは口径26cm、底径15cm、高さ25cmの丸太を刳り抜いた釣瓶を転用したものである。土師器片1点が上段井戸側内から出土している。遺構確認面は平安時代の遺構確認面と同レベルであることから平安時代の井戸と考えられる。位置的にSB1あるいはSB2－1、SB2－2に伴う井戸か。SD24に水流があった時期に井戸が必要とは考えにくいので、ある程度埋積し水流がなくなった後に掘られたと考えられる。

SK1（図版7）

14B3グリッドに位置する。長軸1.4m、短軸1.0m、深さ15cm平面形は隅円長方形を呈する。14B8P1を切っている。SD7・16・26との切り合いは不明である。木片と土師器片が出土している。

14・15グリッド溝状遺構群（図版3）

溝状遺構群の方向は、ほとんどがN－45°－WでSD20に直交するように掘削されている。

SD1（図版10）

溝状遺構群は地山（Ⅳ層）直上の砂混じり層で確認された。14A、15ABグリッドに位置する。SD1と2は重複しているが、断面の観察からSD1がSD2を切っていた。また、SD3も切っている。長さ（10.0m）、幅40cm、深さ30cmである。他の溝状遺構に比べ、覆土は褐色がかりガツボの混入が多い。1層からは遺物が多く出土したが、2層からの出土は少なかった。SD1は西側に行くに従い浅く狭くなる。

SD2（図版10）

SD2はSD1に比べ覆土は灰色がかっており、SD12を切っていた。SD22とも切り合っている。幅32cm、深さ10cmである。

SD3（図版10）

14・15ABグリッドに位置する。長さ（10.0m）、幅42cm、深さ18cmである。SD4の一部を切って合流する。

SD4（図版10・64）

SD3と隣接して検出された。長さ（9.6m）、幅50cm、深さ25cmである。北端でSX2、SK8と切り合

っているが新旧は不明である。

SD7（図版10）

SD7は長さ（6.5m）、幅50cm、深さ12cm、である。Ⅱc層下部より掘り込まれている。覆土は全体的に炭化物を含み黒っぽい。SD5・20に切られ、SD5・20より古い。SD26、SK1との切り合いは不明である。

SD8・9（図版10）

14A・15ABグリッドに位置する。SD8とSD9は北側で合流する。溝内に杭跡と見られる孔が多数検出されている。SD12を切っている。

SD10（図版10）

15B16・17グリッドに位置する。長さ（1.65m）、幅48cm、深さ10cmである。断面の形状を見ると2本の溝のようにも見えるが詳細は不明である。

SD13（図版10）

14AB、15Bグリッドに位置する。西端はSX2により撹乱されている。長さ（6.8m）、幅55cm、深さ10cmである。15B1グリッドで細くなり屈曲する。

SD15・16（図版10）

SD15・16は重複するように検出された。SD15は長さ（6.3m）、幅42cm、深さ10cm、SD16は長さ（5.7m）、幅25cm、深さ56cmである。SD16がSD15を切って新しい。

SD20（図版9・63）

14ABグリッドをN－35°－Eの方向でSD24と平行して流れる自然流路である。幅2.2m、深さ40cmである。SB1の柱穴SK2、10を切っていることから、SB1より新しい。平安時代の土器、木製品、流木が多数出土していることから平安時代の流路と考えられる。SD7を切っておりSD7より新しい。SD20とSD24をつなぐようにSD54があるが、SD7が伸びたものかもしれない。SD20はSD54を切りSD54より新しい。

SD24（図版9・63・64）

12～14ABグリッドをN－40°－E東西に流れる自然流路である。幅は約12mで深さ70cmである。西側に幅6m、深さ15cm程度の浅瀬があり、さらに西側にSD24'がある。当初は境が不明瞭で1本の流路と考えられたが、断面から2本の流れが確認された。別々の流れなのか支流なのかは、調査区が狭いため不明である。川底に川砂と考えられる細かい砂がある。川底には杭が打たれ、特に13A24グリッド付近の杭は横木が組み合わされていた。ほぼ全面の2～5層で多量の古墳時代前期～平安時代の土器、木製品、流木が出土した。このことから古墳時代から流路があったと考えられる。東側でSD20に切られる。2層から古代の荷札木簡、斎串が出土し祭祀行為が行なわれていたと考えられる。川底の標高は平坦で流れの方向は不明である。

11・12グリッド溝状遺構群（図版3）

11・12グリッドの溝状遺構は方向により3グループが考えられる。AグループはN－50°－Wの方向のものでBグループの溝に切られ最も古い。BグループはN－10°－Wのほぼ南北方向に掘削され、自然流路SD24'と同方向のもの。CグループはN－90°－Wの東西方向のもので最も新しい。これらの溝は掘立柱建物SB6・7の柱穴に切られていることから、掘立柱建物より古い。

SD24'（図版９・64）

12ABグリッドをＮ－５°－Ｗの方向で流れる自然流路である。幅3.0m深さ40cmと浅い。SD24の平安時代の遺物を含む２層に切られている。西側にSD57がほぼ平行に走る。流路全体から多量の土器、木製品が出土し、東岸の１層からは木簡も出土している。川底の標高は平坦で流れの方向は不明である。第７図を見ると本遺跡地点は東から南へ流れる河川と、南から北へ流れる河川の中間地点にあり、流れの方向の推測は困難であるが、前紫雲寺潟（塩津潟）といわれる水域方向に流れていたことは確実である。

SA3（図版３・64）

SD24' 西側の底面から岸に向い、SA3の杭７本が検出されている。杭の直径は２～５cmと細く、長さは上部が切断されているが14～57cmである。掘り方は無く、打ち込んだものと見られる。杭は流路の底面に向き傾斜して検出されている。護岸の一部であろうか。

Aグループ

SD36（図版10）

11A19・20・25、12A21グリッドに位置する。Aグループの溝状遺構である。長さ（3.1m）、幅38cm、深さ12cmである。SD32～34に切られ古い。

SD40（図版10）

11B4・5、12B1に位置する。Aグループの溝状遺構である。長さ3.4m、幅40cm、深さ20cmである。

SD43（図版10）

11B9・10、12B6グリッドに位置する。Aグループの溝状遺構である。SD51に切られ古い。

SD49（図版10）

11B8・9・14グリッドに位置する。Aグループの溝状遺構である。長さ（1.6m）、幅35cm、深さ6cmである。SD48・50に切られ古い。

SD50（図版10）

11B8・13グリッドに位置する。Aグループの溝状遺構である。長さ1.05m、幅40cm、深さ14cmである。溝の北端付近にSA2－１が打設されている。覆土には多量の炭化物を含む。

Bグループ

SD32（図版10）

11A20・25、12A21グリッドに位置する。Bグループの溝状遺構である。長さ（2.85m）、幅40cm、深さ20cmである。SD36を切り、SD35に切られる。

SD34（図版10・64）

11A19・24・25、11B5グリッドに位置する。Bグループの溝状遺構である。長さ（4.3m）、幅70cm、深さ11cmで平面形は東側下端が不整形である。他の溝状遺構と比べ幅が広く、断面に段差があることから複数の溝状遺構が切り合っている可能性が高い。プラン検出時に若干覆土の違いが見られたが明確に区分できなかった。SD34はSD36を切り新しい。SD34はSD37、11A19P2に切られ古い。

SD51（図版10）

11B4・9・10・15グリッドに位置する。Bグループの溝状遺構である。長さ（4.2m）、幅95cm、深さ20cmである。自然流路以外では最も幅の広い溝状遺構である。SD45に切られ古く、SD41～43・46を切り新しい。SD48・52との切りあいは不明である。

Cグループ

SD45（図版10）

11B3・4グリッドに位置する。Cグループの溝状遺構である。長さ（1.3m）、幅20cm、深さ10cmである。SD51を切り新しい。SD52との切り合いは不明である。

SD58（図版10）

11B5、12B1グリッドに位置する。Cグループの溝状遺構である。長さ（1.1m）、幅24cm、深さ16cmである。SD40との切りあいは不明である。

SD57（図版10）

12B3・8グリッドに位置する。長さ（3.2m）、幅25cm、深さ10cmである。SD24' のすぐ西側にある。他のA～Cグループの溝状遺構群とは、1条だけ方向が違うことから、性格が異なると思われる。

SD54（図版10）

14A21グリッドに位置する。長さ1.0m、幅30cm、深さ10cmである。SD24に直交し繋がって掘削されていることから水路の可能性もあるが、深さは10cmと浅い。また、東側のSD7と同一の溝とみられるが、断面図計測地点での底面標高はSD7が若干高く、水路の想定は困難か。SD20に切られる。

SD55（図版10）

14A18・19グリッドに位置する。長さ（2.7m）、幅50cm、深さ20cmである。SB1－SK9を切っている。14・15グリッドの溝状遺構群はSD20に直交（N－25°－W）する向きに掘削されるものがほとんどだが、SD55はこれらの溝状遺構群とは別に、N－85°－Wの方向に掘削されている、数少ない溝状遺構である。途中で方向が変わる。

SD56（図版10）

13B10グリッドに位置する。長さ（1.0m）、幅20cm、深さ7cmである。SD24の東岸にあり切りあっているが、新旧は不明。ほぼ同時期のものと考えられる。

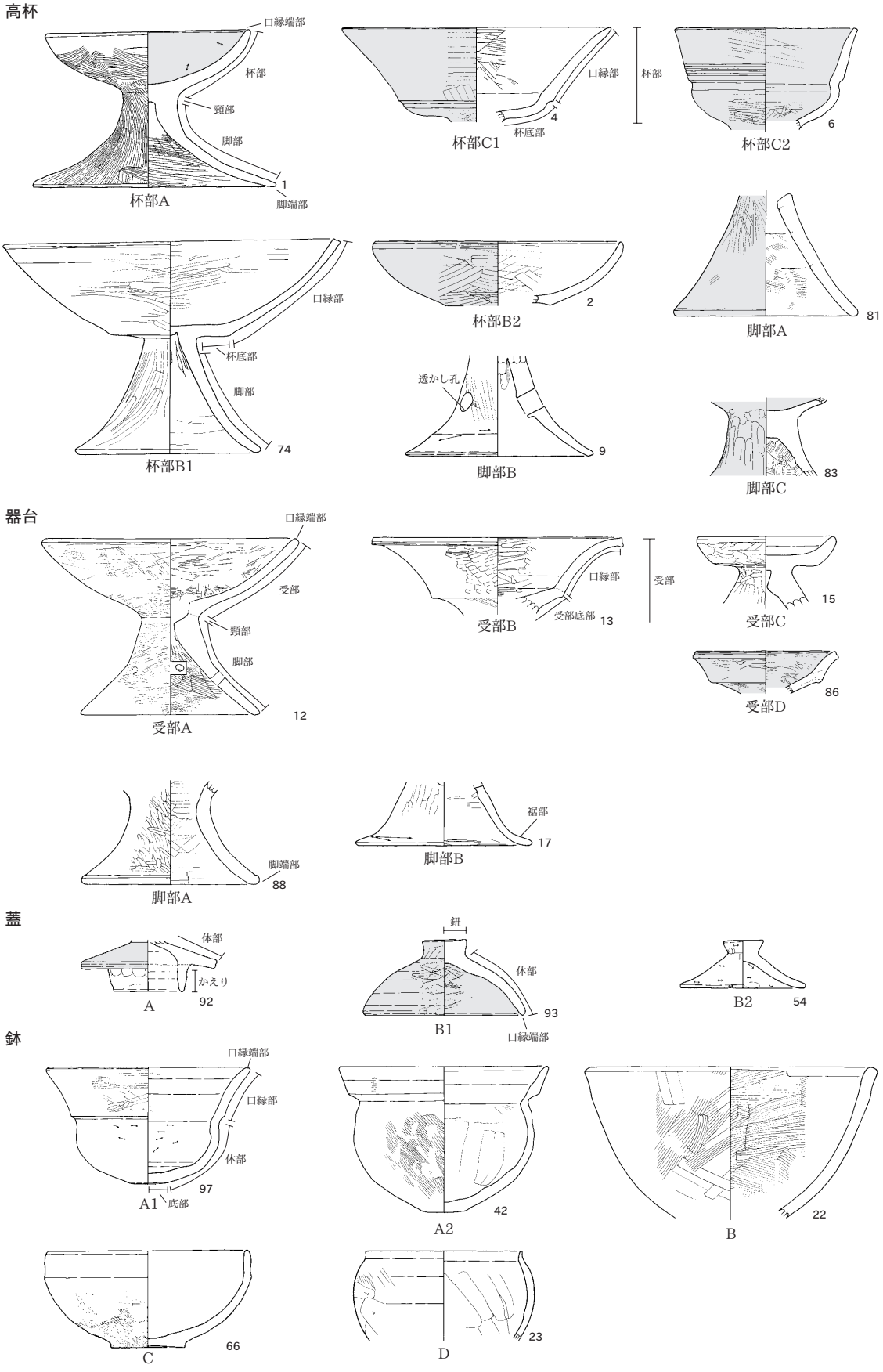
4　遺　　物

A　土器の概要

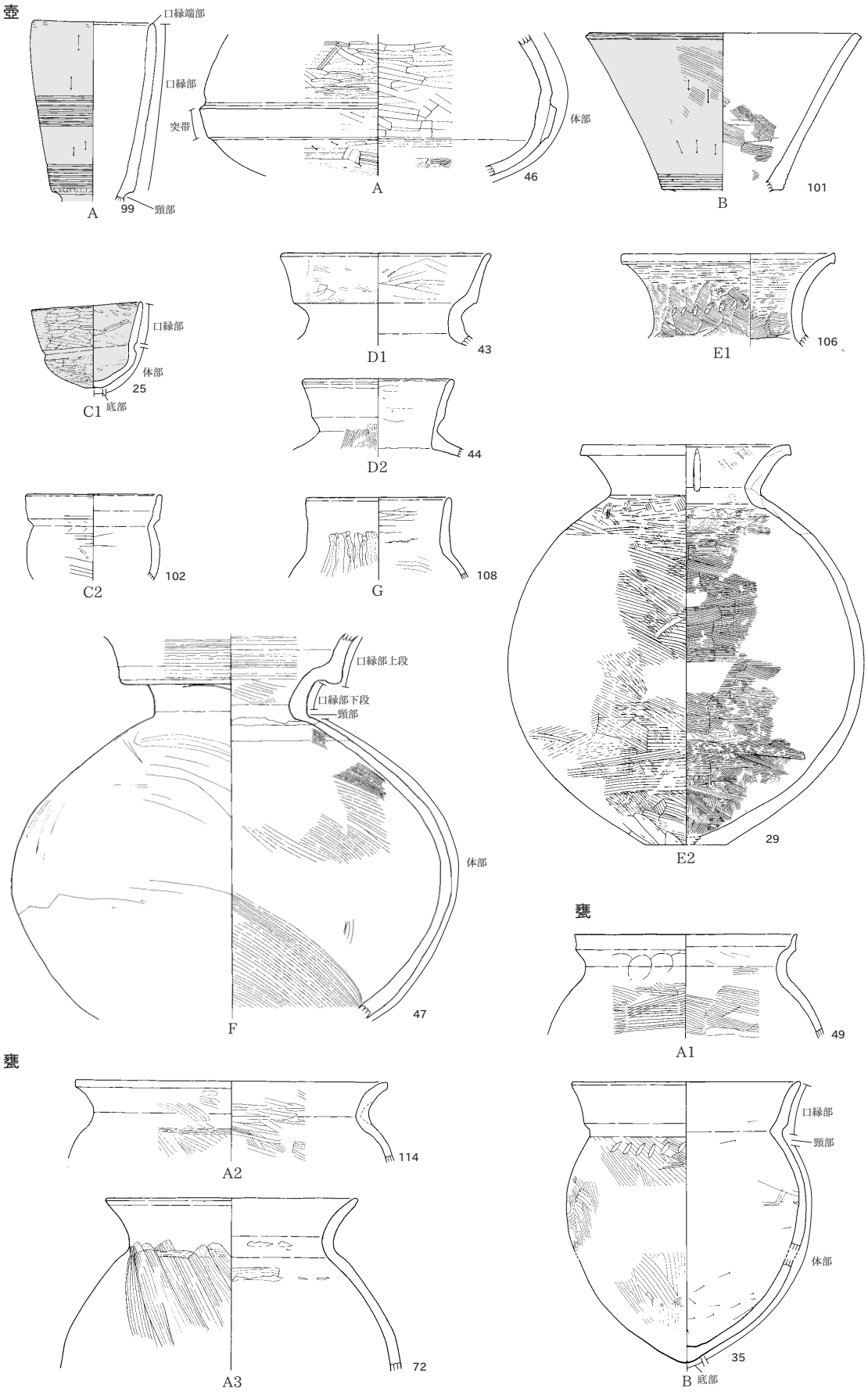
野中土手付遺跡出土の土器は平箱で66箱あり、古墳時代の土器と古代の土器はほぼ半々である。種類は古墳時代前期初頭および後期の土師器・須恵器、古代（奈良・平安時代）の須恵器、土師器がある。ほかに中世の舶載青磁片が1点出土している。SD24・SD24' から多量の土器が出土しているが、取り上げ時から註記の段階で混同しており、峻別は困難である。また両遺構から出土した土器は接合するものが多い。以下、古墳時代の土器、古代の土器として述べる。

B　古墳時代の土器（図版11～18・65～71、第13～15図）

古墳時代の土器は、前期初頭の土器がSI101と周辺の土器廃棄土坑を中心に出土している。遺物包含層（Ⅴ層）からは3～9グリッドの範囲にまとまって出土している。後期の土器は古代の土器と包含層（Ⅲ層）は同一である。調査区全域から散発的に出土しているが、主に自然流路SD24の2～5層からの出土である。



第13図　古墳時代前期土器分類1（古式土師器）



第14図　古墳時代前期土器分類2（古式土師器）

1）古墳時代前期の土器

古墳時代前期の土師器には高杯、器台、鉢、蓋、壺、甕がある。新潟シンポジウム編年［日本考古学協会新潟大会実行委員会1993］（以下、「新潟シンポ」とする）の５～６期（古墳時代前期初頭）が主体とみられる。包含層出土土器にはSI101や周辺の土坑出土土器より若干古い様相のものも見られ、５期を主体に４期のものも含まれるとみられる。

土器の分類は以下のようである。大分類はアルファベット大文字A、B、C・・を使用し、細分類は算用数字1、2、3・・とした（第13・14図）。

高　杯　杯部と脚部が接合するものが少ないことから、杯部と脚部それぞれで分類した。

杯部A類：杯部が内弯しながら立ち上がるもの。

杯部B類：口縁部が内弯しながら立ち上がり、杯底部と口縁部の境に稜をもつもの。杯部の深さによって細分した。東海系と東海系の影響を受けたものである。

１：相対的に杯部が深いもの。

２：相対的に杯部が浅いもの。

杯部C類：椀形の杯底部に外反して長くのびる口縁部がつくもの。

杯底部と口縁部の境に稜を持つ。口縁部の開きが大きいものと小さいもので細分した。

１：口縁部の開きが大きいもの（稜径／口径×100＝70未満のもの）

２：口縁部の開きが小さいもの（稜径／口径×100＝70以上のもの）

脚部A類：脚部が「ハ」の字に開くもの。

脚部B類：脚部が「八」の字に外反しながら開くもの。

脚部C類：脚部が中実になるもの。裾部は外反気味に開くと見られる。

器　台　受部と脚部が接合するものが少ないことから、受部と脚部でそれぞれ分類した。

受部A類：受部が内弯しながら立ち上がるもの。

受部B類：受部底部と口縁部に段を持ち、口縁部が大きく外反する有段口縁部となるもの。

受部C類：小型器台のうち受部は皿状で口縁部は短く立ち上がる。

受部D類：小型器台のうち口縁部は有段で短く外反する。

脚部A類：「ハ」の字に開くもの。

脚部B類：「八」の字に開くもの。

蓋　かえりの有無で分類し、体部の形態で細分した。

A類：かえりの有るもの。

B類：かえりの無いもの。

１：体部が笠状になるもの。

２：体部が「ハ」の字に開くもの。

鉢　A～D類に分類した。

A類：有段口縁鉢である。脚の付くものはない。口縁部の長さで細分した。

１：口縁部が長いもの。

２：口縁部が短いもの。

B類：全体の器形はわかるものがないが、砲弾形になると思われる。底部に孔があく有孔鉢になる

ものもあるとみられる。

C類：椀型の鉢である。

D類：内弯する体部に口縁部が上につままれるもの。

壺

A類：扁平な体部と直立する細長い口縁部をもつもの。体部に突帯が付くものがある。突帯部に擬凹線を施すものもある。

B類：口縁部が直線的に大きく開くもの。

C類：小型で有段の口縁部が付くもの。口縁部の長いものと短いもので細分した。

1：口縁部が長いもの。

2：口縁部が短いもの。

D類：細口有段口縁部が付くもの。口縁部内面の段の有無で細分した。

1：口縁部内面の段が明瞭に残るもの。

2：口縁部内面の段が無いもの。

E類：口縁部が外反し、端部が面をつくるもの。

1：口縁部が長く外反するもの。

2：口縁部が短く外反するもの。

F類：口縁部が二重に外反する二重口縁壺。

G類：短頸直口壺。

甕　甕は全体の器形がわかるものが少ないことから、口縁部の形状で分類した。

A類：頸部から口縁部にかけて「く」の字状になるものである。口縁端部で細分した。

1：いわゆる付加状口縁と呼ばれるもの。端部が上につままれる。

2：端部が面取りされたもの。

3：端部が丸く収まるものと面取りが明確でないもの。

B類：口縁部が有段のもの。

土器各説

SI101（1～36）　高杯、器台、蓋、鉢、壺、甕と本遺跡で出土した古墳時代前期の土器全ての器種が出土している。周辺のSK102、SD101、SX101出土土器と接合するものが多い。

高杯は杯部A～C類の全てが出土している。1は全体の器形がわかる数少ないものである。杯部はA類で内弯しながら立ち上がり、端部も丸くおさめる。脚部はB類で大きく「ハ」の字に開き、杯部の径より大きい。脚端部は丸みを持つ。外面および脚内部は丁寧なハケメが施される。2・3は杯部B2類の高杯である。2は端部を丸くおさめ、3は方形に面取りしている。いずれも内外面に丁寧にミガキを施す。4はC1類、5～7はC2類、8はC類の高杯である。外面のミガキの工具幅は、内面の工具より幅が狭いものを使用している。5の杯底部と口縁部の境の段は明瞭でないが、外面の段部に丁寧にミガキを施している。8は口縁部段上に3条の擬凹線を施す。6も口縁部段上に3条の擬凹線を施すが弱い。外面のミガキの工具は、内面の工具より幅が狭いものを使用している。内外面赤彩される。杯部は身が深い。7は口縁部が長く強く外反する。口縁部稜にヘラ状工具によるキザミ目が一周する。内外面赤彩される。

9・10は高杯の脚でB類、10は脚部上位に擬凹線3条施され、脚端部は面取りされやや肥厚する。

6・8の杯部に擬凹線が施されるタイプのものにつく脚と見られる。

器台は大型の12が受部A類、13・14が受部B類、15が小型の受部C類である。12は受部と脚が外面でわずかに接合した。受部と脚の内面の境に段が付く。脚は「ハ」の字に開く脚部A類で直径5mmの円い透かし孔が4個確認できる。脚の裾部は外反する。13は受部B類で、段部の径8.8cm、受部径16.8cmである。端部は面取りされわずかに肥厚する。13は中実の脚がつくものとみられる。口縁部は外反し、端部は面を作る。14は受部の段までの径が、約16cmと大型のものである。口縁部は外反しながら伸びるとみられる。月影式で5期頃のものである。15は小型器台受部C類で受部底部は平らな皿状である。口縁部は短く内弯ぎみに立ち上がる。

17は脚部B類で透かし孔が確認できる。端部は丸くおさまる。18も脚部B類で、「ハ」の字に大きく開く脚で、直径12mmの透かし孔が3個確認できる。19は三角の透かし孔を持つ脚部で、透かし孔は2個確認できる。透かし孔の周囲は沈線で囲む。高杯になる可能性もある。

20・21はかえりの無い蓋B類か。20の体部は「ハ」の字に開き、鈕は中実である。鈕と体部の境は「く」の字である。鈕天井部にもミガキを丁寧に施す。21の蓋は体部が「ハ」の字に開き、鈕は中実である。鈕と体部の境は緩やかに繋がる。

22は鉢B類で砲弾状の有孔鉢の可能性が高い。体部は内弯しながら立ち上がり、口縁端部はやや外反する。内外面ハケメ調整である。23は鉢D類で内面はヘラ状工具で下から上にナデられ、外面はハケメを消すように弱いヘラケズリがわずかに見られる。

24は壺A類で台付壺の体部突帯部分である。擬凹線が4条施される。体部径は16.0cmである。北陸北東部に多くみられるものである。25は小型の壺C1類である。外面は特に丁寧にミガキが掛けられている。底部は小さな平底である。26・27は体部が球胴形の壺である。29は壺E2類で全体の器形がわかる数少ない壺である。口縁部は短く「く」の字に外反し、端部は面取りされわずかに垂下する。体部は球胴形で底部は平底となる。口縁部内面に垂直の工具痕跡が付く。体部内外面はハケメ調整されるが、内面のハケメの筋が細かい。

30～33は甕A2類で、口縁部が「く」の字となる。体部の最大径が上方になる、倒卵形になると思われる。30の口縁端部は上にわずかにつままれ、小さな平底がつく。32は頸部にわずかに突起が付く。33は口縁部が肥厚し、強く外反する。34はA3類の甕で6期に出現するものである。35は甕B類で、月影式の有段口縁部となる。体部は倒卵形、底部は尖底である。口縁部の段が明瞭で、頸部下に刺突が一周するとみられる。6期の古段階か。

SD101（37～51）　SD101はSI101の東に隣接する土坑である。37の高杯は杯部C2類で、段部の外面はヘラで強くなでられる。内外面赤彩される。38は脚部B類で、2個1組の円い透かし孔が3単位開けられる。40～42は鉢のA2類である。40は成形時の体部内面のナデが明瞭に残る。41は体部の身が浅く、SI101・SD101の他の土器より若干新しい様相である。43は有段口縁部を持つ壺D1類で、口縁部内面の段が明瞭に残る。口縁端部に向うほど器壁が薄くなる。44はD2類の壺で口縁部内面の段は無い。45は小型の壺の頸部から肩部で、内外面横方向のハケメが施される。46は細い長頸がつく台付壺の体部と見られる。体部径は24.0cmとかなり大きく、幅2.0cmの突帯が貼り付けられる。5期頃のものと見られる。47は壺F類の二重口縁の壺である。口縁部上段には内外面横方向の弱いハケメが施される。体部中央が最も張る下膨れの形状となる。48は小型の壺の体部から底部である。細口で有段の口縁部が付くと見られる。外面は赤彩される。49・50はA1類の甕である。いわゆる付加状口縁といわれるもの

で底部は残っていないが、台付甕になると思われる。上越市中島廻り遺跡［小島1991］に出土しているものが典型的で6期頃のものである。50は上へのつまみが少なく、49よりやや新しい6～7期頃と見られる。51はA2類の甕である。体部内外面はハケメ調整であるが、内面のハケの筋が外面と比べ極端に細かい。底部は小さな平底である。

SD102（52）　52の器台は受部B類で口縁端部は丸く収める。

SX101（53～64）　SX101はSD101を切る土坑である。SD101の次に土器が大量に出土し、壺・甕類が多い。57は壺C1類で小型の壺か。外面はアバタ状に器面が荒れている。

SK102（65～69）　65の高杯は杯部C1類で有段部内面に突帯をもつ。66は椀形の鉢C類である。底部外面にもハケメが施される。67・68は壺の底部である。69は甕である。

SK103（70）　70は甕A2類で、口縁部はゆるく「く」の字に外反する。

8B－P101（71）　71は甕A2類である。口縁部は強く「く」の字に屈曲する。註記が8B－P101となっているが、この位置には該当するピットがない。8A21グリッドに遺構名不詳のピットがあるが、遺物の出土は確認できない。

SD24（72）　72は甕A3類である。口縁端部は円く収める。SD24からは、少量の古墳時代前期の土器が出土している。

包含層出土土器（73～123）

高杯（73～84）　74の高杯は杯部B1類で、口縁端部および脚部は在地形であるが、杯部のみ東海系の影響を受けていると見られる。75も杯部B1類で典型的な東海系高杯である。77の高杯は杯部B類で5期頃のものである。

器台（85～91）　85は受部B類で下段に擬凹線文が3条施され、口縁端部には2段にキザミ目が施される。

蓋（92～96）　92はかえりのある蓋A類で紐が欠損している。かえりの外面上部に指頭圧痕が残る。93はB1類の蓋で笠形の体部を持つ。94はB2類で体部は「ハ」の字に開く。

鉢（97・98）　97は身の深い鉢A1類である。98は椀形の鉢である。

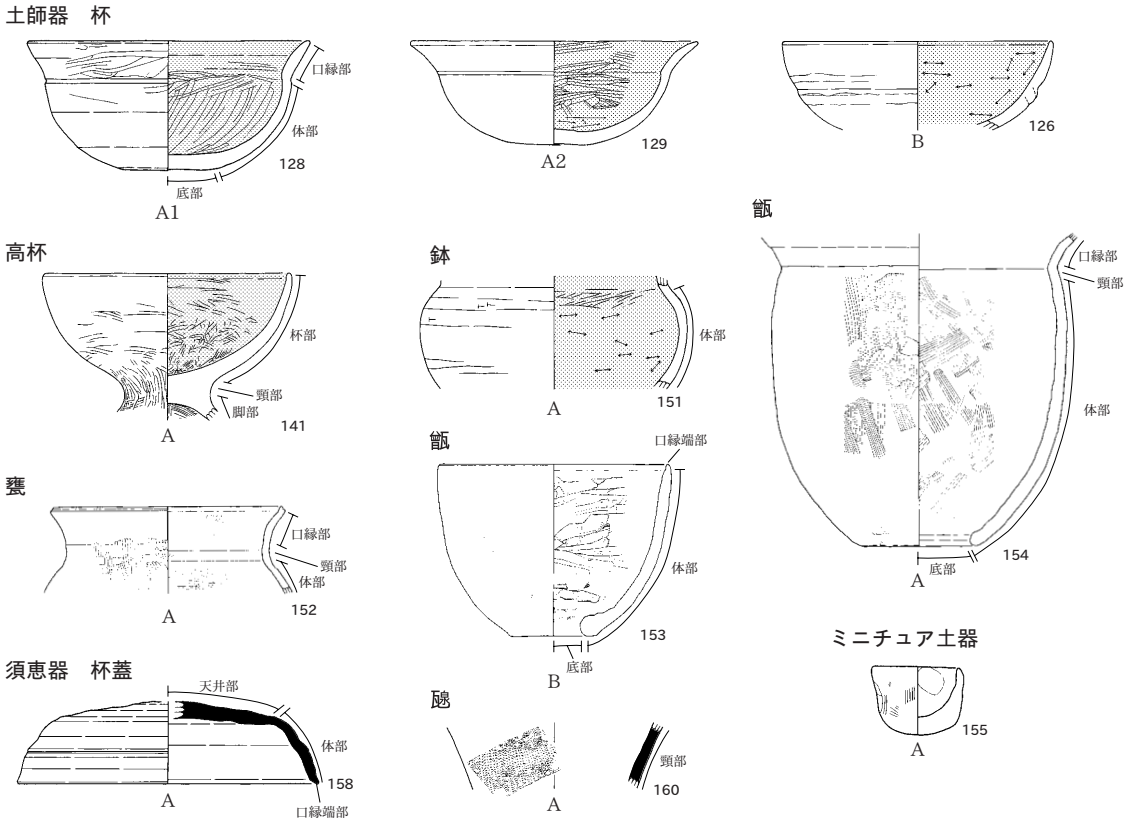
壺（99～110）　99は小型の壺の頸部から口縁部である。口縁部は長く細い。口縁部上段に8条、下段に6条の擬凹線文とキザミ目が施される。102は小型の壺でC2類である。頸部は「く」の字で口縁は垂直につままれる。体部は丸みを持つ。104は壺D1類で、口縁部に擬凹線が8条施され、月影式で5期頃のもと見られる。106は壺E1類で口縁端部が外反し面が作られる。口縁部に刺突が巡る。107は壺E2類で4～5期の東海系とみられる。外面は赤彩され、櫛状工具による直線文と波状文が描かれる。

甕（111～123）　112は甕A2類で、4期以降に見られるものである。

2）古墳時代後期の土器

古墳時代後期の土器は土師器と須恵器がある。土師器は杯、高杯、壺、甕、甑、ミニチュア土器が出土している。須恵器は杯蓋2点（TK10、TK15）と鼈1点（TK10）のみで、杯身は出土していない。須恵器の年代から、時期は6世紀前半～中葉頃と見られる。

図版は、器種ごとに遺構、包含層出土の順に配置した。個別の説明は器種毎に行なう。器種分類は以下のようである（第15図）。



第15図　古墳時代後期土器分類（土師器・須恵器）

a　土師器の分類

杯

A類：半球形の底部から体部に、体部中位から上位で口縁部がくびれて外反するもの。

1：口縁部が大きく外反し、身が深いもの。

2：長い口縁部が大きく外反し、身が浅いもの。

B類：口縁部が内弯して立ち上がるもの。椀型になる。

高　杯

A類：杯部は内弯して立ち上がるものと、内弯する体部に外反気味に伸びる口縁部がつくと推測できるものもあるようだが、全体の器形がわかるものがなく、口縁部の形態等での細分は行っていない。脚部は高さ3cm前後の比較的短いものが多く、裾に弱い段を持つものもある。脚部のみの細分は行なっていない。杯内面は黒色処理され、丁寧に磨かれるものが多い。

鉢

A類：全体の器形がわかるものは無く、頸部にくびれを持つ。内面は黒色処理され、丁寧に磨かれるものが多い。

甕　全体の器形がわかるものはなく出土数も少ない。図化できたものは1点のみである。底部がないため不明であるが、甑の可能性もある。

A類：頸部はゆるく「く」の字で、口縁部はわずかに外反する。口縁端部は上にわずかにつままれる。

甑

A類：甕型の甑で底部全体が孔となるものである。頸部は「く」の字となり、口縁部は外反する。

B類：底部全体が孔となるもので、体部は内弯気味に立ち上がり、口縁部は屈曲せず直線的に伸びる。

ミニチュア土器

手づくねで、鉢を模した器形のものが全体で3点出土している。法量等での細分は行っていない。祭祀に使用したものといわれる。出土層位から古墳時代後期のものと考えられる。

b　須恵器の分類

杯　蓋

A類：天井部と体部の境には、稜が残らないものとわずかに残るものがある。

𤭯

A類：𤭯の頸部破片である。全体の器形は不明である。

c　土 器 各 説

杯（124～134）

124～131はSD24の2・5層出土の杯である。いずれも内面を黒色処理され、丁寧にミガキがかけられている。124・125・127・129・130は杯A2類で身が浅いもの、128が杯A1類の身が深いタイプのもので、体部と口縁部の境は強くナデられる。また、身が深い分、内面体部のミガキは上下方向である。ほかの身の浅いものは横方向のミガキである。

高杯（135～149）

135はSD21の1・2層出土の高杯である。裾部にわずかに段が残る。内外面はハケメが施される。

136～147までは自然流路SD24・2・3・5層出土の高杯である。136は内湾しながら立ち上がる杯部を持つタイプである。138は杯部にわずかに垂直に面をもつ部分があり、外反する可能性がある。141は杯部が直線的に開き、口縁部はわずかに垂直に面をもつ部分があり、外反する可能性がある。杯内面は黒色処理されない。142・143・145は脚で短く「ハ」の字に開き、端部が長く外反する。143は裾にわずかに段をもつ。144も脚で「ハ」の字に開くが端部は短く外反する。147は口縁部がわずかに外反するようである。149は杯部の黒色処理がわずかに残る。

鉢（150・151）

150は鉢の底部から体部である。外面にケズリと指頭圧痕が残る。内面は黒色処理される。151は鉢の体部から頸部が残る。外面頸部にケズリが見られる。内面は黒色処理される。

甕（152）

152は甕A類としたが甑の可能性もある。頸部は緩く「く」の字で口縁部はわずかに外反し、端部は上にわずかにつままれる。体部外面は縦方向、内面は横方向のハケメである。

甑（153・154）

153はB類で底部全体が孔になるものである。孔部分は玉縁状に肥厚する。体部は内湾しながら立ち上がり、口縁部は体部と境がなく端部のみわずかに尖る。体部外面はわずかにハケメが残る程度だが、内面はヘラ状工具でケズリ、ハケメが横方向に施される。154はA類の甕型で底部全体が孔になるもので

ある。孔の部分は体部の厚みとほぼ同じである。体部外面は縦方向、内面は斜方向のハケメが施される。

ミニチュア土器（155～157）

155はSD24、５層出土である。外面はハケメがわずかに残る。内面はミガキに近いような丁寧なナデを施す。底部は丸底状である。156は15A18、Ⅱ層出土である。輪積み痕が明瞭に残る。ほかの２点に比べ粗雑なつくりである。157の胎土は精良で作りも丁寧である。口径は3.6cm、器高1.4cmと最小である。外面にハケメが施され、内面に指頭圧痕が残る。

杯蓋（158・159）

158・159は須恵器の杯蓋である。158は体部のかえりが不明瞭でTK10期頃のものとみられる。159はかえりが158より明確に残りTK15期頃のものと見られる。

𤭯（160）

160は𤭯の頸部で胎土は精良である。波状の櫛描文が施される。TK10期頃のものとみられる。

C　古代の土器（図版19～25・72～77、第２表、第16・17図）

1）概　　要

古代の土器は、ほとんどが須恵器で土師器は少ない。灰釉・緑釉陶器等は出土していない。土器の中には墨で文字、記号などを記した墨書土器や、ヘラなどで焼成前の土器に文字を刻んだ刻書土器がある。また、本遺跡では陶製の硯は出土していないが、食膳具を硯または墨溜め（パレット）に転用したものが14点出土している。器種の内訳は無台杯４点、有台杯６点、杯蓋４点である。無台杯・蓋は内面を使用、有台杯は高台内と内面を使用するものがある。有台杯は高台を使用する場合、そのまま倒置したのでは使いにくいのか、体部を打ち欠き高さを低くするため、加工したものが見られる。これら墨書土器、刻書土器、転用硯については全点図化するよう努めたが遺漏があることは否めない。墨書土器、刻書土器については、項を改めて記述した。また、コップ形須恵器といわれるものがあり、杯ではないかといわれる。須恵器の杯の一部に樹脂状塗料を塗布しているものがあるが、皮膜が薄く成分分析は困難であった。土師器には内外面を黒色処理し、漆器を意識している［水澤2005］とされるものが出土している。

時期は春日編年Ⅳ～Ⅵ期［春日1999］（8世紀後半～9世紀後半）を主体とし、前後の時期のものも少量含む。時代は奈良・平安時代である。

2）分　　類（第２表、第16・17図）

須恵器は無台杯、有台杯、杯蓋、鉢、くびれ鉢、短頸壺、壺蓋、把手付壺、横瓶、壺・瓶類、甕、狭口甕がある。土師器には無台椀、有台椀、椀蓋、高杯、壺・瓶類、小甕、長甕、鍋がある。これらの器種をさらに口縁部等の形状により分類し、それをさらに口径により細分した。主要器種の分類基準は以下のようにした。また、須恵器の産地については胎土の特徴でＡ～Ｃ群に分けた。

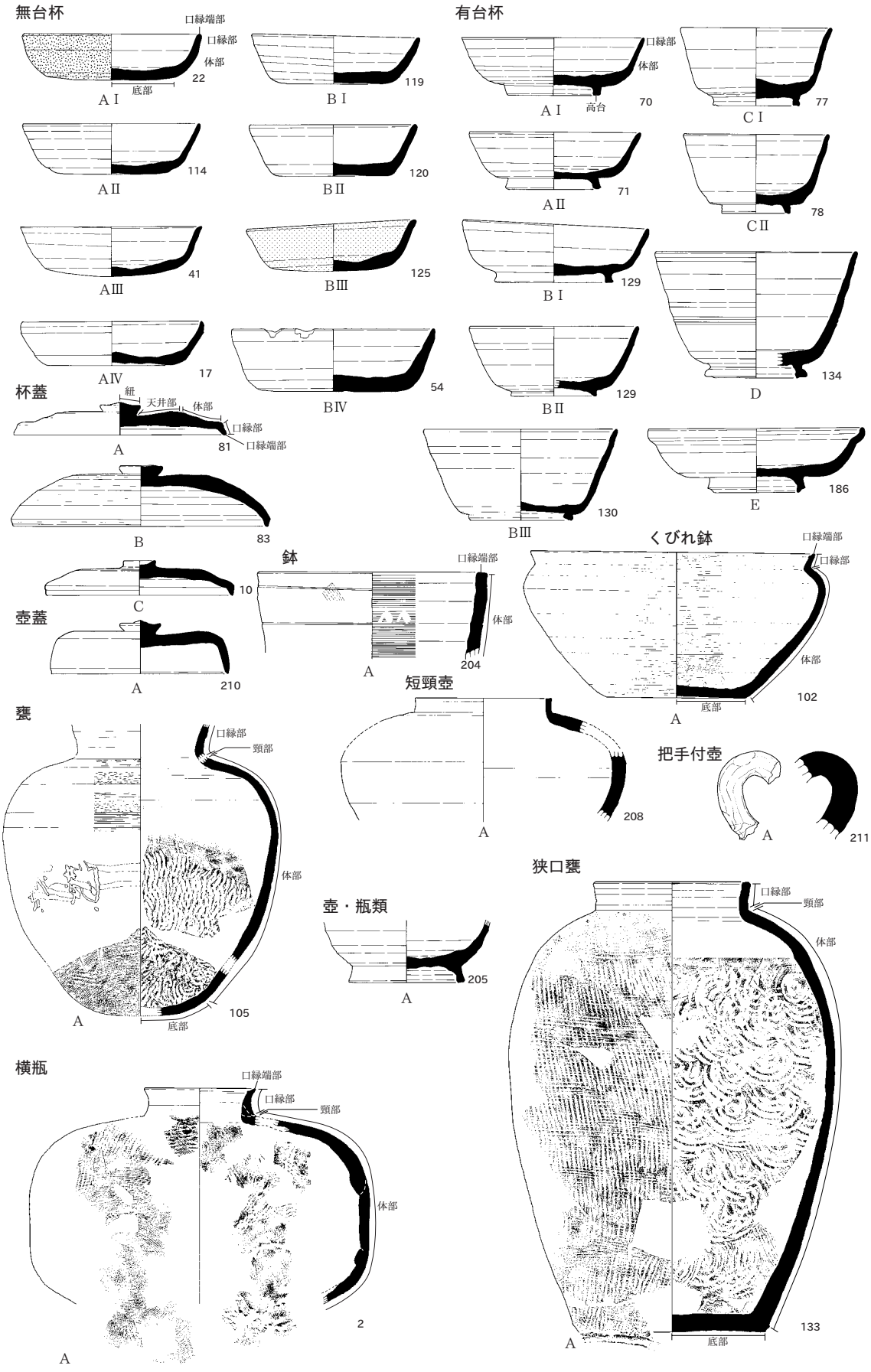
Ａ群：胎土粗く、石英・長石・金雲母を多く含む。阿賀野市（旧笹神村）真木山窯跡群を中心とする阿賀北地方の須恵器。荒川町元山窯跡群、胎内市（旧黒川村）松山窯跡群、新発田市（旧加治川村）下中山・貝屋窯跡群、同市ホーロク沢窯跡群で生産されたものも含む。

Ｂ群：胎土精良。長石の白色小粒子を多く含み、器面に黒色の小さな吹き出し斑点が見られるもの。器種により胎土が異なり、無台杯と小型有台杯が特に精良。その他はやや砂っぽくざらつく。佐渡市小泊窯跡群で生産されたものである。

C群：A・B以外を一括。胎土は精良であるが、長石・石英の粒子を含むものが多く器面は滑らかである。新潟市（旧新津市）の七本松窯跡、五泉市山崎窯跡などの新津丘陵窯跡群を中心に出雲崎町・長岡市（旧和島村・旧寺泊町）にかけての西古志窯跡群、頸城産も一部含まれる。

分類				解説
須恵器	食膳具	無台杯 a（口径10.0㎝～12.0㎝） b（口径12.1㎝～13.0㎝） c（口径13.1㎝～14.0㎝）	AⅠ	径高指数29以下で、体部から口縁まで内弯気味立ち上がる。
			AⅡ	径高指数29以下で、体部から口縁まで直線的に立ち上がる。
			AⅢ	径高指数29以下で、体部は直線的に立ち上がり、口縁部はやや外反する。
			AⅣ	径高指数29以下で、体部は直線的に立ち上がり、口縁部はやや直立する。
			BⅠ	径高指数30以上で、体部から口縁まで内弯気味立ち上がる。
			BⅡ	径高指数30以上で、体部から口縁まで直線的に立ち上がる。
			BⅢ	径高指数30以上で、体部は直線的に立ち上がり、口縁部はやや外反する。
			BⅣ	径高指数30以上で、体部は直線的に立ち上がり、口縁部はやや直立する。
		有台杯 a（口径10.0㎝～11.0㎝） b（口径11.1㎝～13.0㎝） c（口径13.1㎝～15.0㎝）	AⅠ	径高指数35未満で、高台は垂下する。
			AⅡ	径高指数35未満で、高台は外反する。
			AⅢ	径高指数35未満で、高台は内傾する。
			BⅠ	径高指数35以上、50未満で、高台は垂下する。
			BⅡ	径高指数35以上、50未満で、高台は外反する。
			BⅢ	径高指数35以上、50未満で、高台は内傾する。
			CⅠ	径高指数50以上で、高台は垂下する。
			CⅡ	径高指数50以上で、高台は外反する。
			D	体部に1～数条の沈線が巡る。
			E	折縁杯
		杯蓋 a（径13.5㎝未満） b（径13.5㎝以上）	A	擬宝珠状の紐を持つ。
			B	ボタン状の鈕を持つ。
			C	リング状の紐を持つ。
	調理具	鉢	A	体部から口縁まで筒状である。底部形態不明。
		くびれ鉢	A	鉢類の中で頸部から口縁が大きく「く」の字状に外反する。
	貯蔵具	短頸壺	A	短頸で肩部が強く横に張り出す。
		壺蓋	A	擬宝珠状の紐を持つ。
		把手付壺	A	把手が付く壺と見られる。把手のみで全体の器形は不明である。
		横瓶	A	俵状の体部に比較的直立気味の口縁部が付く。
		壺・瓶類	A	全体の器形がわかるものは無い。
		甕	A	頸部から口縁部は「く」の字状で、底部は丸く成形されている。
		狭口甕	A	直立した短頸の頸部から口縁部を持ち、体部は長胴で底部は平底である。
土師器	食膳具	無台椀 a（口径14.0㎝未満） b（口径14.0～16.0㎝） c（口径16.0㎝以上）	A	体部が直立気味に立ち上がる。底部ヘラ切り。
			B	体部は丸みをもって立ち上がる。底部回転糸切り。
			C	内面黒色処理される。体部は丸みをもって立ち上がる。
		有台椀	A	全体の器形は不明である。内外面黒色処理される。
		椀蓋	A	有台椀につく蓋と見られる。内外面黒色処理される。擬宝珠状の鈕がつくようである。
		高杯	A	高杯の脚部のみである。内外面黒色処理される。
	貯蔵具	壺・瓶類	A	全体の器形は不明であるが、高台が付き体部は垂直に立ち上がる。 内外面黒色処理される。
	煮炊具	小甕 a（口径14.0㎝以下） b（口径16.0～18.0㎝） c（口径18.1～20.0㎝未満）	AⅠ	頸部は「く」の字で、口縁端部は上部につままれる。
			AⅡ	頸部は「く」の字で、口縁端部は丸くおさめる。
			BⅠ	非ロクロ成形。口縁部は強く外反する。体部は内外面ハケメ調整される。
			BⅡ	非ロクロ成形。口縁部はわずかに外反する。体部は内外面ハケメ調整される。
		長甕 （口径20.0㎝以上）	AⅠ	頸部は「く」の字で、口縁端部は上部につままれる。
			AⅡ	頸部は「く」の字で、口縁端部は丸くおさめる。
			BⅠ	非ロクロ成形。口縁部は強く外反する。体部は内外面ハケメ調整される。
		鍋	A	頸部は緩く「く」の字で、底部は丸底。

第2表　古代土器分類



第16図　古代土器分類1（須恵器）

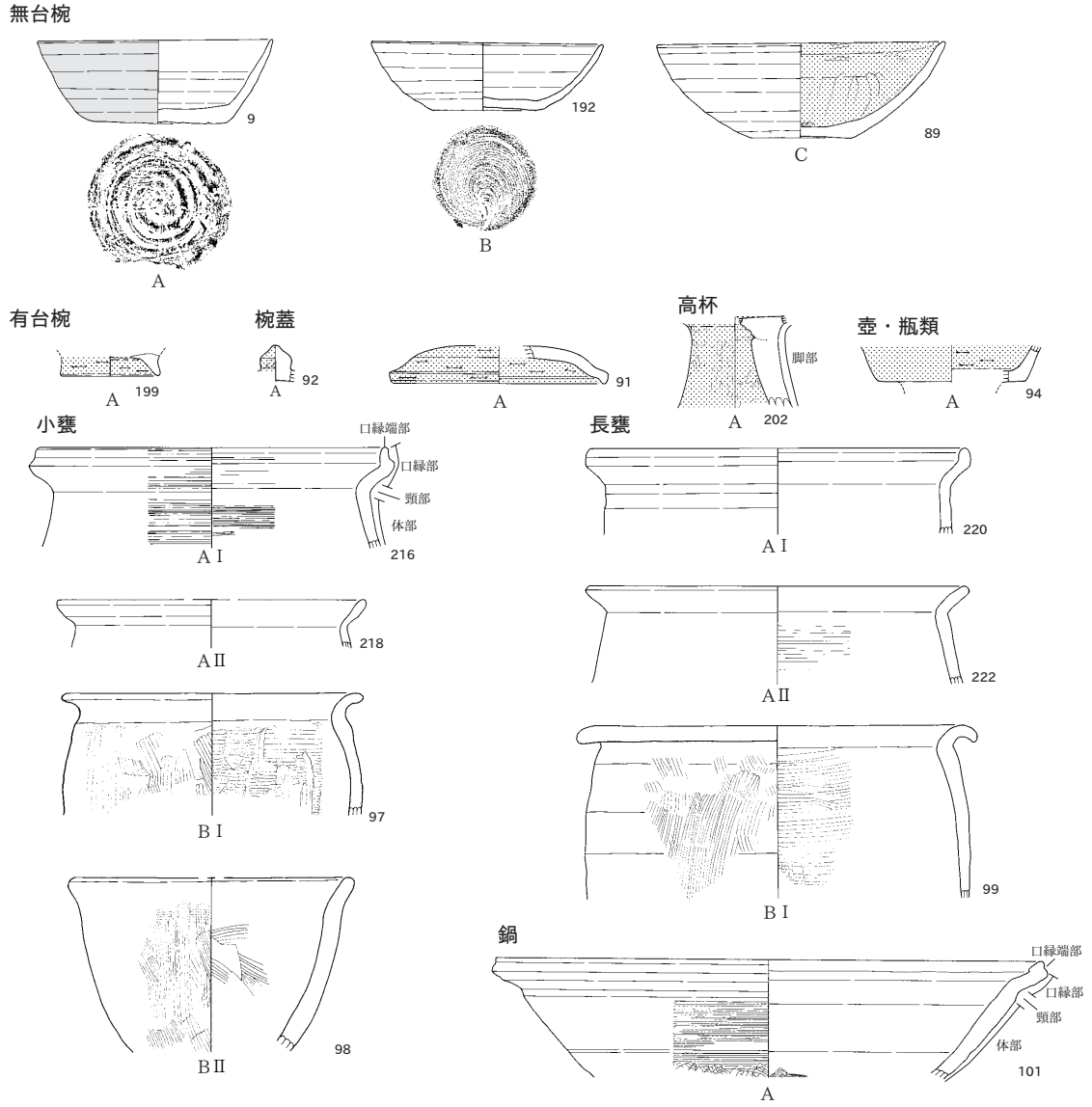
須 恵 器

無台杯　食膳具の主体をなす。径高指数（器高／口径×100）29以下の浅いもの（A類）と30以上の深いもの（B類）と体部の立ち上がりの形状で分類し、さらに口径で細分した。底部切り離しは、ヘラ切りがほとんどである。

有台杯　径高指数35未満の浅いもの（A類）と35以上50未満の深いもの（B類）、50以上の極深いもの（C類）と高台の形で分類し、さらに口径により細分した。ほかに体部に数条の沈線が入る金属器の模倣と見られるものがある（D類）。また、阿賀野川より北に主生産窯がある特殊な折縁杯（E類）が1点出土している。

杯　蓋　有台杯に付く蓋である。全体の器形がわかるものは少なく、分類は鈕の形状と径から行った。天井部はケズられるものが多い。

鉢　底部の形は不明であるが、体部から口縁まで筒状の鉢が1点出土している。



第17図　古代土器分類2（土師器）

くびれ鉢　頸部が大きく「く」の字に屈曲している。底部は平底である。1点のみの出土である。

壺・瓶類　全体の器形がわかるものはなく、底部資料のみで、高台付きがほとんどである。

横　瓶　俵形の体部に直立ぎみの口縁がつくものが多い。法量での細分は行っていない。

短頸壺　短い口縁が付き、肩は横に強く張る。全体の器形がわかるものはない。

壺　蓋　短頸壺につく蓋で、杯蓋に比べ高さがある。

甕　全体の器形がわかる資料はなく、細分は行なっていない。

狭口甕　平底で器形は壺であるが、外面を叩き、内面は当具を使用し甕の製作技法を使用しているので甕とした。

土　師　器

土師器は基本的に在地のものと考えられるが、長甕に佐渡甕とみられるものが含まれるが、図化していない。また、東北北部の影響を受けた長甕がある。分類は以下のようにした。

無台椀　須恵器の無台杯と区別するため、便宜上「椀」とする。須恵器の無台杯と同形でヘラ切りのもの（A類）と、回転糸切りのもの（B類）がある。内面を黒色処理し、ミガキを施されたものがある（C類）。底部は丁寧に調整されている。全体に出土数は少なく、口径により細分している。

有台椀　椀の高台部分のみで全体の器形は不明である。内外面黒色処理される。

椀　蓋　椀に付く蓋で擬宝珠の鈕がつくようである。内外面黒色処理される。

高　杯　脚部のみで全体の器形は不明である。内外面黒色処理される。

小　甕　煮炊具で口径が20cm未満のものを小甕とした。ロクロ成形のものをA類、非ロクロ成形のものをB類とした。口縁端部の形態で分類し、口径で細分した。

長　甕　煮炊具で口径が20cm以上のものを長甕とした。ロクロ成形のものをA類、非ロクロ成形のものをB類とした。口縁端部の形態で分類した。

鍋　煮炊具で頸部はゆるく「く」の字で底部は丸底である。

3）各　　説

遺構出土土器（1～141）

SB1（1）　SB1－SK7出土の甕の体部片である。8のSD3出土の甕と同一個体である。外面は平行線文タタキ、内面は同心円文当て具痕が残る。

SB5（2）　2はSB5－SK4出土の横瓶である。SD24・24' 出土の破片と接合する。口径は11.8cm、体部幅は36.2cmと中型である。

SE1（3）　SE1出土の杯蓋でSD24出土の破片と接合する。鈕は欠損し、天井部はケズられる。口径は17.3cmと大きい。

SD1（4～7）　4・5は胎土A群の無台杯である。6・7は土師器無台椀である。

SD3（8）　甕の口縁部である。1のSB1－SK7出土の甕と同一個体である。焼成不良で赤灰色である。

SD3・4（9）　9は無台椀である。底部ヘラ切りで外面は赤彩される。赤彩されるものはこの1点のみである。

SD20（12～18）　SD20からは胎土B群の小泊産の無台杯が多く出土している。14はⅥ期とみられ9世紀後半～10世紀初頭頃のものである。18の有台杯は胎土A群である。

SD24（19～109）　SD24出土土器はSD24' 出土土器と接合したものが多く、これについてはSD24として報告した。また、SD24の２層と５層の土器が接合するものも多い。出土地点、接合関係については観察表を参照されたい。

19・24・32は体部に樹脂状塗料が塗布されている。19は胎土Ｃ群、24・32はＡ群である。土器にこのような樹脂状塗料を塗布する例は、山形県米沢市古志田東遺跡［手塚2001］で多く見られる。本遺跡でも分析を行なおうとしたが、被膜が極端に薄く分析は困難であった。このため塗料の特定には至っていない。県内では胎内市船戸桜田遺跡や船戸川崎遺跡などで出土している。27は約1cmおきに口縁部を打欠いている。90は内外面黒色処理の椀である。内外面ともミガキを丁寧に行っている。94も内外黒色処理の土師器である。器種については底部にわずかに高台となるような反りが残存し、体部が直線的に立ち上がることから壺・瓶類としたが検討の余地がある。

97・99は非ロクロの小甕と長甕で、口縁は短く大きく外反する。頸部の器壁が厚い。内面は横方向のハケメ、外面は縦方向のハケメである。８世紀中葉～後半頃のものか。98も非ロクロの小甕で口縁部はわずかに外反する。内面横方向、外面縦方向のハケメを施す。

100は非ロクロ土師器長甕の底部である。東北北部（以北）の北方系の影響を受けた土器で底部が外に張り出すものである。体部内外面にハケメ、底部外面に砂痕が残る。県内では新潟市松影Ａ遺跡、新発田市馬見坂遺跡、聖籠町山三賀Ⅱ遺跡、胎内市西川内北遺跡、荒川町坂町宮ノ腰Ｄ遺跡、神林村砂山Ⅵ遺跡にのみ出土例がある［野水ほか2005］。これら東北北部の北方系土器は阿賀野川以北にのみ確認できる。８世紀代のものか。

101は鍋で底部外面に平行線文タタキが残る。鍋はこの１個体のみである。109は横瓶で11A21P1と註記される破片が出ているが、遺構が平面図で確認できない。口径11.5cm、体部幅42.0cmと大型である。

SD24'（110～135）　117は内外面に樹脂状塗料が塗布され、底部外面には「方」の墨書もされる。胎土Ａ群で８世紀後半～９世紀初頭頃のものである。133は狭口甕でSD52出土の破片と接合している。平底で直立した短い口縁がつく。体部外面は平行線文タタキ、後カキメを施す。内面は同心円文当て具痕が残る。

SD32（136）　136は有台杯で体部に２条の沈線が巡る。

包含層ほか出土（142～222）

179・187・204はコップ形須恵器［井上1994］と言われるもので、古代の枡ではないかといわれるものである。３点ともSB7付近の包含層である程度まとまって出土している。全体の器形がわかる179の容積は約200mlである。胎土はＡ群、精良で体部～口縁部はやや開き、口縁端部は丸くおさめる。五頭山麓窯跡群の新発田市馬上窯跡（９世紀前葉）でコップ形須恵器が生産されており［笹沢2004］、これも馬上窯跡産の可能性がある。187は体部から底部までで円筒状に近い器形になる。口縁部を平坦につくる。胎土はやや粗く造りは丁寧でない。体部に沈線が入る。底径は5.5cmである。204は口縁部から体部までで円筒状の器形になり、分類では鉢とした。187と胎土と造りが極めて類似する。口径は15.6cmである。コップ形須恵器は県内では上越市今池遺跡で７点、同市下新町遺跡で１点出土している。また、同市滝寺・大貫古窯跡で一定量蓋を伴って出土している。今池遺跡で出土しているものは、滝寺・大貫古窯跡産の可能性もある。長岡市八幡林官衙遺跡からも１点出土している。本遺跡周辺では胎内市船戸川崎遺跡４次で１点出土している。滝寺・大貫古窯跡では蓋付きで出土しているため、枡説にもやや疑問が残るが、富山県惣領浦之前遺跡では、漆を計量したと見られるものが１点出土しており［朝田2004］、

具体的な対象物が判明しているものもある。井上の枡説によるとこのコップ形須恵器の出土する遺跡は半数近くが、官衙や寺院、官衙関連遺跡のほか集落遺跡でも交通網が整備され、人と物資が集中して交易が盛んなところであるという。枡を含めた度量衡と官衙の関係は非常に密接で、官衙関連遺跡とされる船戸桜田遺跡４次からは分銅型土製品が出土している。同市草野遺跡では「猪油二升」と書かれた木簡も出土している。加茂市馬越遺跡［伊藤2005］からも粘板岩製分銅が出土している。

186は折縁杯である。口径は14.8cmと径高指数は30である。内面に自然釉が付着することから杯身である。高台は端部が内傾する。

199～203は内外面黒色処理した土師器である。内外面を丁寧にミガキをかけている。199は有台椀、200・201は椀蓋、202・203は高杯の脚である。このように内外面黒色処理された土師器は、官衙的遺物とされ、周辺の遺跡では、船戸川崎４次で合子、中倉６次で蓋・高杯、蔵ノ坪遺跡から短頸壺、船戸川崎４次・船戸桜田２次・４次で端反りの総高台椀などが出土している。

207は瓶類で頸城西側の須恵器窯跡のものと見られる。

墨書土器

概　要　本遺跡からは55点の墨書土器が出土している。墨書土器の内訳は「方」７点、「王」６点、「凡」５点、「丈マ人万」、「道嶋」「田江」「□（福ヵ）□□（料ヵ）」「十」「王」「山」「□（足ヵ）」が各１点、不明29点である。人名等複数の文字が書かれる「丈マ人万」、「道嶋」「田江」「□（福ヵ）□□（料ヵ）」は８世紀後半～９世紀前半が生産のピークである胎土Ａ群の阿賀北産のものである。一方単文字の「王」「凡」などは９世紀代で、胎土Ｂ群の小泊産の須恵器に書かれるものがほとんどである。「方」は胎土Ａ・Ｂ群共にあり、全時期を通して書かれたようだ。このように時期により書かれる文字に変化がある。書かれる須恵器の産地が変化するのは、時期により各地域の窯跡の須恵器生産量、および流通量が変化するためであろう。以下、県内の墨書の出土例については「新潟県内出土古代文字資料集成」［小林・相沢2004］に依った。

人　名　29は胎土Ａ群で「丈マ人万」という人名が書かれる。８世紀後半のものである。丈マ（はせつかべ）（部）という氏族が集落内に存在したことが知られる。周辺の遺跡では木簡や墨書土器から「石マ」（屋敷２次）「神人部」（中倉３次）「守部」「土師船守」（船戸川崎４次）「麻績マ」（船戸桜田２次）「物マ」（船戸桜田４次）「三宅」等の氏族名が知られていたが、「丈マ」は阿賀北では初見か。加茂市馬越遺跡で「丈部」と書かれた木簡が出土している。

48も胎土Ａ群で「道嶋」と書かれる。胎内市下町・坊城Ｃ地点から「若嶋」の墨書土器が出土している。同市中倉遺跡からは「子嶋」と書かれた木簡が出土している。ほかに一之口東遺跡から「嶋人」、上越市寺町遺跡から「嶋継」、和島村八幡林遺跡から「足嶋」と書かれたものがあり、110の「□（足ヵ）」の墨書土器も人名の可能性がある。胎土Ａ群で９世紀前半～中頃のものである。

59の「田江」とした墨書土器は、船戸川崎遺跡４次で「田次」（報告書では№134「男ヵ」とされているもの）の墨書土器が出土しており、「次」の可能性もある。「江」と「次」の文字は極めて類似する字体がある。胎土Ａ群である。

「凡」は６点（57・58・121・160～162）出土し、すべて胎土Ｂ群で９世紀代である。上越市子安遺跡で９世紀後半のものが１点、同市細田遺跡で８世紀後半～９世紀後半のものが８点出土している。「凡」は「凡直（おうしのあたい）」などのウジ名を示す可能性が指摘されている［高橋学2003］。「直」は多く

は大化以前の国造に賜った姓のひとつである。

方　「方」の墨書は8点（36・37・116・117・139・142・164・194）出土し最も多い。36・37・116は胎土Ａ群で9世紀前半～中頃、117もＡ群で8世紀後半～9世紀初頭、139・164もＡ群、142のみＢ群である。

王　「王」、「王」と書かれた墨書土器は7点で2番目に多い。7点の内「王」は1点（52）「王」は6点（53・55・56・84・158・159）である。「王」は「主」と書かれた可能性もあるが、多くは「王」を書いたものと考えられる。「王」の文字も全国的に見られる文字であるが、県内では阿賀北地方、特に紫雲寺潟（塩津潟）周辺に遺跡が集中する。最も多数出土しているのは胎内市中倉遺跡で11点（墨書7、刻書4）、荒川町鴨侍遺跡で5点、新発田市蔵ノ坪遺跡で4点、胎内市松山窯跡で刻書4点が出土している。本遺跡は中倉遺跡に次ぐ出土量である。中倉遺跡では川跡からまとまって出土した「王」の墨書土器から儀礼の復元を試みている。中倉では「王」の字は出土していない。本遺跡では出土状況の詳細がわからず、検討できていない。7点中5点がSD24からの出土である。層位は1、2層である。具体的な使用法は不明だが、この地域共通の文字の使用が想定される。53は9世紀後半、56・84・158・159は胎土Ｂ群で9世紀代のものである。

福　82は杯蓋内面に「□（福ヵ）□□（料ヵ）」と書かれている。胎土Ａ群である。「福」の文字は全国的に出土する墨書文字で、招福を祈り一文字あるいはほかの文字と組み合わせて書かれる場合が多い。また、船戸川崎遺跡4次で「此福食也」と書かれた木簡が出土しており関連が注目される。釈文では「福食」について『大漢和辞典』の解説「道家で供養の食物をいう。また、俗に通常の食物をいう。」を引用している。道家とは中国で創始された、道教の道士のことである。本資料も道教に関わる墨書の可能性もある。

刻書土器

105は新津丘陵窯跡群産の甕の体部に、横位（左→右）に焼成前に刻書されている。時期は8世紀後半から9世紀中頃と見られる。甕は叩いて丸底に成形後、体部から底全体にカキメが施されていることから、ロクロ上に倒位に置かれ、最後に文字を体部のやや下半（書くときにはやや上半となる）に書いたものとみられる。ヘラ状工具の幅の狭い部分と、やや広い部分を使って書いている。残念ながら上の文字の右側が欠け、2文字かそれ以上あるのか不明であるが、下の文字は「悲」と書かれている。上の文字は扁は「忄」に旁の上は「灬」、下に「幺」のように書かれる。最も近い文字としては「滋」であろうか。「滋悲」では意味が通らず、「慈悲」の書き間違いの可能性もある。[1)]

1）「慈悲」とすれば仏教用語となる。仏教用語を土器に書く例は、秋田県払田柵跡で9世紀第Ⅰ四半期頃高橋学氏御教示の土師器杯底部外面に、「懺悔」と書いた墨書土器があり、「懺悔」という仏教儀礼が行われていたことが知られる。承和十三年（846）に諸国に仏名懺悔を行なわせよとの太政官の布告があったが、実際はこれより前に払田柵にまで懺悔の儀礼が伝えられていたのである［水野1974］。「仏」「佛」「寺」「法」などはしばしば見られる文字であり、僧侶名、寺名を書く例も見られる。これらの語は寺院、官衙はもちろん集落からも出土するものである。周辺の遺跡では蔵ノ坪遺跡で9世紀中～後半の無台杯に「寺」、発久遺跡で9世紀代の土師器内面黒色土器に「寺」、新潟市上木戸遺跡からも9世紀後半～10世紀の有台杯に「寺」と書かれた墨書土器が出土している。同市大渕遺跡では「寺」「隆寺」と書かれており具体的な寺名が伺える。また、仏具の浄瓶が同市的場遺跡で、鉄鉢形土師器が同市釈迦堂遺跡でまとまって出土している。新発田市坂ノ沢Ｃ遺跡でも須恵器鉄鉢がまとまって出土している。官衙関連遺跡に伴う寺院または、いわゆる「集落内寺院」の存在が遺物で明らかになりつつあるが、遺構に伴うものは明確でない。長文の刻書土器として新潟市寺道上遺跡から9世紀後半～末の短頸壺の体部に横位（左→右）で「都保一口」と書いた例がある。
本遺跡の刻書土器は文字内容から、一般的に言われるような工人の製品識別のための記号ではなく、甕の発注者が依頼して工人に書かせたものと考えられる。ただし、「慈悲」の書き間違いであった場合、このような製品を出荷するか疑問も残る。工人の習書であろうか。

D　中世青磁（223）（図版25・77）

１点のみ11B7グリッドⅡｃ層から出土している。椀の底部で鎬蓮弁文がわずかに確認できる。畳付は無釉である。

E　石　製　品（224～227）（図版26・78）

砥石が４点出土している。224～226がⅤ層出土であることから古墳時代前期、227はⅡｃ層出土であることから古代の砥石の可能性が高い。

F　土　製　品（228～235）（図版26・78）

不明土製品（228）　SD20の１層出土の半円形の土製品で、両端面は丁寧にけずられている。古代のカマドの心材か。

フイゴの羽口（229）　SD24' の２層の出土で古代のものと考えられる。

円柱状土製品（230・231）　カマドの支柱と見られるが、特に被熱による赤変等の変化は見られない。

細型土錘（233～235）　233・234はSD24からの出土である。すべてⅡｃ層の出土で古代の土錘とみられる。木製の浮子（157）も出土しており、自然流路を利用した内水面の漁労活動が行なわれていたと考えられる。

G　木　製　品（1～183）（図版27～33・78～83、第３表）

概　要　野中土手付遺跡からは自然流路SD24、SD24' 、SD20を中心に大量の木製品が出土し、平箱に換算すると98箱（1131点）と土器を上回る量の出土である。木製品の器種構成は第３表のとおりである。種類・器種名などは『木器集成図録』近畿原始編・近畿古代編［奈良国立文化財研究所1985・1993］を参考にした。数量は破片数を集計しており個体数ではない。また、未成品、推定されるものも含んでいる。箸状木製品は食膳具とすべきものもあるが、今回は祭祀具とした。建築材等とした各種材が820点と７割以上で、ほとんどが用途および部位は不明である。農具や漁労具、紡織具など生業に関わるものが出土している。

木製品の時期であるが、SK102から出土した角材、木針、炭化材の３点（未報告）が古墳時代前期と考えられる。遺物包含層であるⅡc、Ⅲ層出土分は概ね古墳時代後期～古代の木製品と考えられる。

SD24とSD24' 出土遺物は、取上げ時および保存処理段階で混同しており、荷札に遺構名とグリッドが併記されている場合は、グリッド表示を優先して遺構名を確定している。グリッド表示の無いものは、尚混同している可能性がある。このため、遺構別の器種構成表は作成していないが、SD24・24' で716点、SD20で59点とこの３条の自然流路および溝状遺構で全体の７割近くを占める。SD24からは古墳時代前期・後期～古代の土器が各層から混在して出土しており、木製品も同様で時期による峻別は困難である。

木簡および木簡の可能性のある木片が14点（報告は12点）出土しているが、切断された断簡が多い。木簡については項を別に報告する。以下、遺構ごとに報告した後、包含層出土木製品について報告する。

遺物各説

SB1（1～4）　大型の長方形の柱掘方をもつ掘立柱建物の柱根である。いずれも丸木を使用している。1はSK6からの出土で平底に加工しており、径も21.9cmとかなり太い。しかし、2・3は尖底に加工しており、径も9cm前後と1の1／3程度と細い。

SB3（5・6）　5はSA1－5の杭で樹皮が残る。径は9.5cm、端部は尖る。6はSA1－6の杭で径は13cmとやや太く、尖底である。

SB4（7～9）　7はSA1－1の平底の柱根である。7・8は径15cm程度の丸木を使用している。

SA2（10～15）　SB6・7と西側との区画の為の杭列（9本、6.2m検出）と考えられる。10～14はクリの分割材や半割材を使用している。15はコナラ属であった。SA3と比較すると柱としても良いようなやや幅広の固い材を使用している。

SA3（16～21）　SA3はSD24' の護岸のように打設された杭列（7本、2.4m検出）である。すべて丸木を使用し、径は3cm前後の細いものがほとんどである。16・17は樹皮が残り、16はサクラ属、17はハンノキ属、18はアカマツなど多種を使用している。

SE1（24～26）　SE1では最上段に曲物側板、中・下段に刳物を重ねて井戸側と水溜め（写真図版62参照）としていたが、上2個は状態が悪く最下段の水溜めのみ図化した。26は釣瓶の底をくりぬいて水溜めに再利用したもので、両側面に楕円形と長方形の孔が開けられる。楕円形の孔（2.5×1.3cm）の下には楕円形（4.5×2.3cm）の凹みがあり、長方形の孔（2.3×1.8cm）の下には長方形（2.5×3.5×0.3cm）の突起が削りだされている。上端の一部には注ぎ口が低く削りだされ、また炭化した部分もある。

SD20（28～44）　32は弓とみられる。一端に両側面から削り込んでホゾ状の弭を作り出している。中央に再加工とみられる切り込みがあり、それ以下は裂けている。素材はカヤである。33は横槌で上端は欠損しているが現状で長さは31.8cmである。芯持ちの材を使用している。使用痕が残っている。39は盤の一部とみられ、ケヤキ材を使用している。

種類	器種	破片数	比率
木簡	木簡	14	1.2
祭祀具	箸状木製品	25	2.2
	刀子形	1	0.1
	斎串	6	0.5
祭祀具　計		32	2.8
食膳具	皿	1	0.1
	盤	4	0.4
食膳具　計		5	0.5
容器	曲物	1	0.1
	曲物側板	15	1.3
	曲物底板	49	4.3
	円形板	1	0.1
	挽物	1	0.1
	結物底板	1	0.1
	刳物	2	0.2
	指物	1	0.1
容器　計		71	6.3
紡織具	糸巻	1	0.1
建築材等	柱根	8	0.7
	板材	184	16.2
	材	249	22.0
	角材	54	4.8
	部材	85	7.5
	割材	75	6.6
	分割材	1	0.1
	方形材	17	1.5
	炭化材	17	1.5
	枝材	1	0.1
	杭	129	11.4
建築材等　計		820	72.4
工具	刀子柄	1	0.1
	楔	2	0.2
	木針	1	0.1
工具　計		4	0.4
発火具	火鑽臼	4	0.4
	火鑽棒	1	0.1
発火具　計		5	0.5
農具	横槌	2	0.2
	木錘	2	0.2
農具　計		4	0.4
漁撈具	浮子	1	0.1
武器	弓	2	0.2
	木鏃	1	0.1
武器　計		3	0.3
その他	棒状木製品	69	6.1
	柄	28	2.4
	燃えさし	35	3.1
	木片	3	0.3
	削り屑・切り屑	6	0.5
	用途不明品	30	2.6
その他　計		171	15.0
合　計		1131	100.0

第3表　木製品器種構成

SD21（45）　45は円形板の中ほどに2か所孔が開けられている。全体が残っていないので詳細は不明だが蓋であろうか。両面に刃物痕が多数あり俎板などに再利用された可能性がある。

SD24（46～101）　51・52・62・63は斎串でスギの細板の上下端を一方向から斜位に切り取ったものである。このような斎串は6世紀後半に出現する古いもので、本遺跡ではこの形の斎串が多い。長さ

は16.8～20.0cmである。61は刀子形とみられる。刀身と柄との間に段をつけ明瞭に区別している。切先部分は少し薄く仕上げている。柄の下端も鋭角に切り落としている。62は斎串としたが、上部に厚さ調整をするためと思われる切り込みが3cmほど入ることから、刀子形の未成品の可能性もある。63は上下端が欠損し全体が不明だが、斜位に切り落としていると見られる。61の刀子形と62・63の斎串は出土地点・層位が同一であることから、同時に使用された可能性がある。79は糸巻きの横木である。中央に軸棒を入れる2.7cmの孔が開けられている。同様の横木2枚を十字形に相欠きでかみ合わせ、4本の枠木を固定したと考えられる。80は木鏃である。矢尻と矢柄を一木で作り出したものである。身の断面が円形で幅が2.2cmと太く、栓状鏃といわれる形態である。集計時には武器としたが、祭祀具の可能性もある。古墳時代の可能性が高い。81は木錘で丸木を使用し、中央をかなり細く削り、縄掛けの抉りを作り出している。長さ18.0cmである。82は横槌で、長さ41.0cmで身の一部が欠損している。使用痕が残る。

SD24'（102～137）　116・117は斎串で上端は圭頭で上部両側面に3か所に切れ込みを入れている。下端は剣先状に尖らせる。8・9世紀に展開する形状で、本遺跡は古代の土器の時期が8世紀後半～9世紀後半であることから、これらの斎串も同時期と見られる。116・117は法量もほぼ同一である。

包含層出土ほか（139～183）　139～164はⅡc、Ⅲ層出土で古代のものと見られる。140は一体成形で4本脚の盤の一部である。側面には縁がつく。脚の高さは2.0cmである。157は浮子と見られ、上部に両側面から抉りが入れられる。

162は弓の断片で一方の弭が残る。両側面から削り込んで、ホゾ状の弭を作り出している。32の弓と同じくカヤの丸木を使用している。

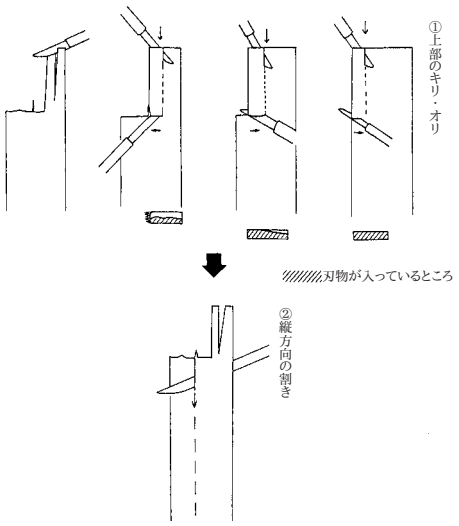
165は斎串で上端を圭頭状にして上部左右それぞれ1か所抉りが入れられている。下端は折断しており不明である。この斎串も116・117の斎串と同時期と見られる。

H　木　　簡（図版28・30～33・79～83）

木簡は調査時に2点確認されていたが、経年変化で墨痕はかなり薄くなり、新たな釈読は困難である。『木簡研究』第22号［戸根2000］で報告した釈文の変更は行なわず、新たな所見を提示するにとどめる。整理段階で新たに10点の木簡が確認された。木簡の一部は廃棄に際し、刃物によって切断されている。第18図は長野県屋代遺跡群［水沢ほか1996］から出土した郡符木簡の廃棄工程図であるが、本遺跡でも縦方向と横・斜方向の切断などの廃棄工程をとるものが認められる。時代は土器の年代観から8世紀後半～9世紀後半までのものと考えられる。

SD16（27）　27はSD16の1層からの出土である。上・下端は刃物による斜行の切断である。幅は4.5cmで厚さは均等でない。縦に三分割して出土している。縦に2か所切れ目を入れ、右側は水平方向にも切れ目を入れて折っており、上部は欠損している。中央の上部欠損も文字などが削られている可能性が高い。墨痕は確認できないが、本来は文字が書かれ、使用後に刀子などで切り込みを入れ分割し廃棄したものと考えられる。

SD24・24'（84・106・107・115・133・134）　84はSD24トレンチ出土である。上端を圭頭に加工しており、下部は縦、横の切断と見られるが腐蝕もあり明確でない。文字は確認できない。106は上下左右とも刃物による切断と見られる。複数行書きだった可能性が高い。上端は左下がりの斜位、下部はほぼ水平、右は縦方向と水平にL字状に刃物が入れられている。『木簡研究』の釈文では　□〔七ヵ〕



第18図　郡符木簡の廃棄工程
（『長野県屋代遺跡群出土木簡』から転載）

旧川　と報告されている。「七ヵ」とされた文字は「廿」の可能性もあったが、３画目が保存処理後に濃くなり「廿」の可能性がより高くなった。「川」の右に「八日」と読めそうな墨痕が認められる。川の名称であろうか。詳細は不明である。

107は上端が複数稜形でややまるみをもち下部は細くなる。裏面から左下がりの斜位に、浅く刃物を入れ、その後折ったか自然に折れたのであろう。表は鋭利な断面でない。「（符籙）子子急□と書かれる。「急」は「急々如律令」の文言の一部と考えられ、符籙も見られることから呪符と考えられる。本遺跡からは中世の遺物は、青磁碗が１点のみ出土しているが、SD24’とは距離も離れている。共伴する遺物が古代の土器であることから、木簡は古代のものと考えられる。『木簡研究』では中世の呪符木簡とし、周辺の中世遺跡との関連を想定しているが、「急々如律令」の呪符木簡は７世紀末から見られることから、古代の呪符として問題ないと考える。

115は荷札木簡でSD24' の２層からの出土で斎串が共伴している。上端は両側から抉りが入れられ、下端は水平である。文字は確認できないが、刃物で大きく「×」の記号が刻まれている。

133は封緘木簡の下部で本来羽子板の柄状だったものが、上端がほぼ水平に、右端がL字状に刃物で切断されている。文字は確認できない。県内では長岡市（旧和島村）八幡林遺跡で８世紀～９世紀のものが25点、同市下ノ西遺跡で１点、胎内市船戸川崎遺跡２次で９世紀後半のものが２点出土している。

134は上部が欠損している。下部は細く剣先状に削られ、先端は折れて欠損している。右側が縦に切り込みが入れられている。裏面左側は右下がりの斜位に、深さ0.3cm、長さ1.7cmと2.5cmの切り込みが２本入れられている。文字は確認できない。

包含層出土（139・146・147・148・178）　139は6B7のⅡc層からの出土である。上部は腐蝕しているようである。下端は剣先状に細く尖らせている。文字は確認できない。146は1B3のⅢ層出土で奈良・平安時代の集落より約100m離れて出土している。上部に直径0.4cmの孔が開き、下端は切断、右側は孔が右寄りにあることと文字の位置から、欠損あるいは切断していると考えたが、側面の状態が左側

No.	報告No.	出土地点	層位	型式	釈　文	法量（mm）	樹種	木取	備　　考
1	27	SD16　14B3	1	081		(103)×(45)×5	スギ	柾目	上下左右切断。墨痕なし
2	84	SD24T		081		(99)×22×4	―	―	上端圭頭一部欠損。下部欠損。墨痕なし
3	106	SD24’	1	081	□〔七ヵ〕旧川	(71)×(18)×4	スギ	板目	『木簡研究』第22号（1）上下左右切断。
4	107	SD24’	1	051	「(符籙）子子急□	(217)×27×9	スギ	板目	『木簡研究』第22号（2）呪符木簡。下端欠損。
5	115	SD24’12B5	2	032		136×31×6.5	スギ	板目	記号か「×」刻む。斎串共伴東西ベルト出土
6	133	SD24’12B5		049		(89)×(36)×5	スギ	柾目	封緘木簡の下部。上部切断。墨痕なし
7	134	SD24’12B5		059		(150)×31×8	スギ	板目	上部切断。裏面斜行刃物痕２本。下部尖る一部欠損。墨痕なし
8	139	6B7	Ⅱc	059		127×22×5	スギ	―	上端一部欠損。下部尖る。
9	146	1B3	Ⅲ	081	○□□□□□×	(10.2)×(21)×3	―	柾目	下部切断、右側欠損、上部孔有り
10	147	10B7	Ⅲ	081		(60)×24×4	―	―	上下部切断。墨痕なし
11	148	13A22	Ⅲ	033		125×24×6	―	―	上端抉り両側面から入る。荷札木簡。墨痕なし
12	178	13T		081		(68)×(11)×3	―	―	上下右側切断。墨痕なし

第4表　木簡一覧

面と変わらず原形を留めている可能性もある。５文字程度確認できるが、読みは不明である。147は10B7のⅢ層出土である。上下端は切断されている。文字は確認できない。148は13A22のⅢ層出土の荷札木簡で上部に両側から抉りが入れられている。下端はわずかに両側面を削り細くしている。自然乾燥したため、変形、変色が顕著である。文字は確認できない。178は13トレンチ出土で上下とも斜行に切断されている。縦方向にも切断されているようだ。文字は確認できない。

５　ま　と　め

A　古墳時代の集落構成

今回の調査範囲では６～８グリッドで、方形の竪穴住居１軒と付属の土器廃棄土坑数基のみの検出であったが、集落はさらに南北に広がっていると考えられる。また、SD24の２～５層からは古墳時代前期～後期の土器が出土していることから、生活空間は６～14グリッドまで広がっていたと考えられる。明確な古墳時代後期の遺構は検出されていないが、一定量の土器が出土していることから、前期の集落が廃絶後、間を置き後期の集落が周辺に形成されたものと考えられる。この様相は紫雲寺潟（塩津潟）周辺では、胎内市城の山古墳を中心に古墳時代前期の遺跡が多く存在し、中期に一旦減少し、後期に再び増加する傾向と一致する。

B古墳時代の土器器種構成（第５～10表）

古墳前期の土器の器種構成は、第５表の通りである。口縁部残存率／16によって集計した。高杯が18.6％（243／16個体）、器台7.7％（100／16個体）、鉢8.4％（110／16個体）、小型壺4.9％（64／16個体）、蓋4.4％（58／16個体）、壺15.7％（205／16個体）、甕37.6％（492／16個体）という結果であった。調査範囲は狭かったが、良好なまとまった資料が得られた。主要遺構の集計結果は第６～９表の通りである。

これを阿賀野川北地域での６～９期の中核的集落とされる西川内南遺跡の計測結果（口縁部残存率／36）と比較する。西川内南遺跡の器種構成は高杯3.0％、器台16.0％、小型壺・鉢39.0％、壺6.0％、甕36.0％となっている。甕以外の器種の比率にかなり差が出ている。壺の比率は本遺跡（５・６期）が2.6倍、高杯が6.2倍、器台は約１／２、小型壺・鉢が約１／３である。高杯の割合が極端に違う。これが集落の広範囲を調査した場合と狭い範囲を調査した場合との差なのか、遺跡の性格の差なのかは、今後の周辺の資料の蓄積を待ってから再検討が必要であろう。時期幅の違いも表れている可能性がある。

古墳時代後期の土器器種構成は第10表の通りである。ほとんどがSD24からの出土である。土師器杯が86.2％を占める。集落の本体でないため、器種に偏りがあるものと考えられる。

器　種	口縁部 残存率/16	比率 （残存率）
高　　杯	243	18.6
器　　台	100	7.7
高杯か器台	3	0.2
鉢	110	8.4
小　型　壺	64	4.9
蓋	58	4.4
壺	205	15.7
甕	492	37.6
壺　か　甕	32	2.5
合　計	1307	100.0

第５表　古墳前期土器器種構成

器　種	口縁部 残存率/16	比率 （残存率）
高　　杯	68	28.5
器　　台	35	14.6
鉢	15	6.3
小　型　壺	14	5.9
壺	17	7.1
甕	88	36.8
壺　か　甕	2	0.8
合　計	239	100.0

第６表　SI101 土器器種構成

C　古代の集落構成

古代（奈良・平安時代）の集落は、３本の自然流路を挟んで形成された。

器　種	口縁部 残存率/16	比率 （残存率）
高　　杯	5	7.4
器　　台	1	1.5
鉢	19	27.9
小 型 壺	3	4.4
壺	13	19.1
甕	25	36.8
壺 か 甕	2	2.9
合　計	68	100.0

第７表　SD101 土器器種構成

器　種	口縁部 残存率/16	比率％ （残存率）
高　　杯	15	24.2
器　　台	1	1.6
鉢	5	8.1
蓋	9	14.5
壺	14	22.6
甕	18	29.0
合　計	62	100.0

第８表　SX101 土器器種構成

器　種	口縁部 残存率/16	比率 （残存率）
高　　杯	3	5.5
器　　台	7	12.7
鉢	9	16.4
壺	6	10.9
甕	30	54.5
合　計	55	100.0

第９表　SK102 土器器種構成

種　類	器種	口縁部 残存率/16	比率 （残存率）
土 師 器	高杯	14	4.1
	杯	294	86.2
	鉢	12	3.5
	甕	14	4.1
	甑	3	0.9
須 恵 器	杯蓋	4	1.2
合　計		341	100.0

第10表　古墳後期土器器種構成

時期は春日編年［春日1999］のⅣ～Ⅵ期（8世紀後半～9世紀後半）に相当する。

自然流路の東側14・15グリッドでSB1～SB5が検出された。長方形の大型柱穴で構成される掘立柱建物と、円形の小型柱穴で構成される掘立柱建物とに分れる。それぞれ切り合いが無いため新旧は不明である。建物の方向から4グループが想定される。SB5（N－5°－E）は全体の規模は不明だが、大型柱穴と雨落ち溝を持つことから、集落の中心的な建物の可能性がある。同じく大型柱穴で構成されるSB1（N－21°－W）と方位は異なる。小型柱穴で構成されるSB2－1（N－43°－W）、SB2－2（N－43°－W）は、建て替えと見られるが、切り合いが無く新旧は不明である。SB3（N－33°－W）、SB4（N－29°－W）は方向軸がほぼそろっているため同時期に存在した可能性が高い。SD1・3からは胎土A群の土器が出土している。SB1－SK7出土土器は胎土AまたはC群であることから、8世紀後半～9世紀中葉頃のものである。包含層出土の食膳具の割合は須恵器が72.4％、土師器が27.6％であった。このことから14・15グリッドの遺構の時期は概ね、8世紀後半～9世紀中葉の範囲で、掘立柱建物が古く、溝状遺構が新しいという関係にある。

11・12グリッドで検出されたSB6（N－24°－W）、SB7（N－17°－W）は畑？（溝状遺構）であったところに掘立柱建物を建てている。柱穴の切り合いが無いことから、建て替えは行なわれていない。11・12グリッドからは胎土A～C群の土器が出土しているが、主体はA群である。また、SD32から胎土A群、SB7が切るSD43・51・52からも胎土A群の土器が出土している。食膳具に占める須恵器の割合は65.5％、土師器は34.5％となっている。SB1～5がある14・15グリッドと比べ、土師器の割合が高いことから若干新しいと推測される。このことからSB6・7は9世紀中頃～後半の住居と推定される。

SD20出土土器は、ほとんどが胎土B群の小泊窯跡群産であることから、SD24より新しく切り合い関係と一致する。SD20は9世紀中葉～後半の自然流路である。

以上のことから遺構の変遷は、SB1～5（8世紀後半～9世紀中葉）→畑？（溝状遺構）（8世紀後半～9世紀中葉）→SB6・7、SD20（9世紀中葉～後葉）という流れが想定される。

D　古代の土器器種構成（第11・12表）

古代の土器の器種構成比率は、第11表のようである。また、図化した須恵器食膳具について、胎土別の出土数を集計した（第12表）。報告分のみであるが、全体の傾向は把握できるものと考える。無台杯は阿賀北地域の窯跡A群と佐渡小泊窯跡のB群がほぼ同数である。有台杯ではA群がB群の3倍となって

いる。

器種構成は、食膳具が全体の77.1％（口縁部残存率／16）と突出して多い。貯蔵具は2.3％、煮炊具は19.9％である。食膳具では須恵器無台杯が45.7％と半数を占め、土師器無台椀は16％であった。土師器の内面および内外面を黒色処理した椀類も6.7％であった。

これを遺跡の時期が重なる胎内市蔵ノ坪遺跡（春日編年Ⅳ～Ⅵ期８世紀後半～９世紀後半）と比較する。蔵ノ坪遺跡は内水面交通の「津」とされる官衙関連遺跡で、食膳具の割合が84.4％（口縁部残存率／16）と極めて多い。貯蔵具は3.1％、煮炊具は12.2％である。蔵ノ坪遺跡の方が食膳具の割合が若干多く、その分煮炊具が少ない。土師器無台椀が49.2％、須恵器無台杯が27.3％、土師器の黒色処理された無台椀が3.7％である。食膳具全体としての割合は本遺跡と近い値だが、器種毎の比率にはかなり差がある。

また、磐船郡の郡司層の居宅跡とされる荒川町鴨侍遺跡（9世紀前半～後半）［吉井2002］と比較する。全体の器種構成（口縁部残存率／36）は食膳具86.5％、貯蔵具4.8％、煮炊具8.7％である。食膳具では須恵器が75.7％、土師器が10.8％である。全体では蔵ノ坪遺跡や本遺跡と近い値が出ているが、食膳具に占める須恵器、土師器の比率は遺跡の時期が短いので差が出ている。

種類	器　種	口縁部 残存率/16	比率 （残存率）
須恵器	無　台　杯	1,996	45.7
	有　台　杯	176	4.0
	折　縁　杯	4	0.1
	杯　　蓋	168	3.9
土師器	無台椀	700	16.0
	無台椀（内面黒色処理）	265	6.1
	有台椀（内面黒色処理）	28	0.6
	椀　蓋（内外面黒色処理）	32	0.7
食膳具　計		3,369	77.1
須恵器	鉢	25	0.6
	くびれ鉢	5	0.1
調理具　計		30	0.7
須恵器	壺　　蓋	9	0.2
	壺・瓶類・横瓶	20	0.5
	甕	33	0.8
	壺・瓶類か甕	15	0.3
土師器	壺・瓶類(内外面黒色処理)	23	0.5
貯蔵具　計		100	2.3
土師器	小　　甕	559	12.8
	長　　甕	274	6.3
	鍋	13	0.3
	長甕か鍋	23	0.5
煮炊具　計		869	19.9
合　　計		4,368	100.0

第11表　古代土器器種構成

器種	A群（比率）	B群（比率）	C群（比率）
無台杯	50（39.1）	49（38.3）	5（3.9）
有台杯	15（11.7）	5　（3.9）	4（3.1）
合　計	65（50.8）	54（42.2）	9（7.0）

第12表　須恵器食膳具胎土別出土数

次に蒲原郡内の集落遺跡と比較する。9世紀代の集落である新潟市釈迦堂遺跡［江口2000］では、食膳具（口縁部残存率／16）66.7%、貯蔵具3.2％、煮炊具29.1％であった。食膳具では須恵器無台杯が46.1％、土師器無台椀6.3％である。また、生産跡とされる同市（旧新津市）沖ノ羽遺跡（C地区）［春日2003］の下層の土器（春日編年Ⅴ～Ⅵ期、9世紀前半～10世紀初頭）では食膳具（口縁部残存率／36）が67.2％、貯蔵具2.3％、煮炊具が30.4％であった。食膳具では須恵器無台杯29.4％、土師器無台椀24.7％、土師器の黒色処理された無台椀2.2％である。沖ノ羽遺跡のある新津丘陵周辺の遺跡は、Ⅵ1期頃まで土師器の食膳具の割合が高い傾向が見られることから地域差が現れている。本遺跡とこれら２遺跡とは煮炊具の割合等、器種構成にかなり差がみられる。

今回の調査範囲は、集落の中心部と考えられるが部分的な範囲に留まった為、第11表の数値が遺跡全体の様子を表すとは限らないが、ある程度の傾向は掴めると考えられる。蔵ノ坪遺跡と器種構成が近いことは、遺跡の同時性、近距離であることを含め強い関連性が伺える。また、官衙関連遺跡とされる鴨侍遺跡とも器種構成は近く、遺跡の性格を検討する上で参考となろう。蒲原郡内の２遺跡とはかなり差が見られ、地域差と性格の差が出ている可能性がある。

E　古代集落の性格

本遺跡の特徴は、木簡が12点（報告分）出土したことである。特に断簡で文字は確認できなかったが、封緘木簡が出土しており、注目される。現在まで封緘木簡が出土した遺跡は、県内では長岡市（旧和島村）八幡林遺跡で８世紀～９世紀の封緘木簡が25点、同市（旧和島村）下ノ西遺跡で１点、胎内市船戸川崎遺跡２次で９世紀後半の封緘木簡が２点出土しているのみである。紫雲寺潟（塩津潟）の北岸の遺跡からは、近年30点以上の木簡が出土しているが、南岸では本遺跡が初例となる。「和名抄」の越後国北部の郡名が、蒲原・磐船・沼垂郡の順に記載されていることは、交通路および行政ルートと越後平野の地形に深く係わるとされる。北陸道の延長の陸路が山際を通り、蒲原郡から北上して磐船郡に行き、磐船郡から沼垂郡へ内水面交通を利用して南下するルートが想定されている［平川2005］。今後、周辺での資料の蓄積を待って、検証されなければならないが、本遺跡は磐船郡から沼垂郡へと南下する、行政ルート上の重要な遺跡であった可能性がある。SD24' から□〔七ヵ〕旧川と書かれた木簡が出土しており、川＝内水面交通との関係を推測させる。また、斎串が一定量出土したことから、律令的祭祀が行われていたことが確認された。さらに枡とされるコップ形須恵器が出土するなど、官衙的な要素を含む集落遺跡である。

また、旧加治川村で今回の調査範囲の南側を、平成14・15年に県営ほ場整備に関連して、発掘調査を行なっている。結果は、新潟県埋蔵文化財包蔵地カードによると、古代の木簡や「越雄」「奉人」などと書かれた墨書土器が出土しており、官衙的な様相を持つ遺跡の可能性が指摘されている。今後、これらの調査結果と合わせて再検討が必要であろう。

第Ⅳ章　砂山中道下遺跡

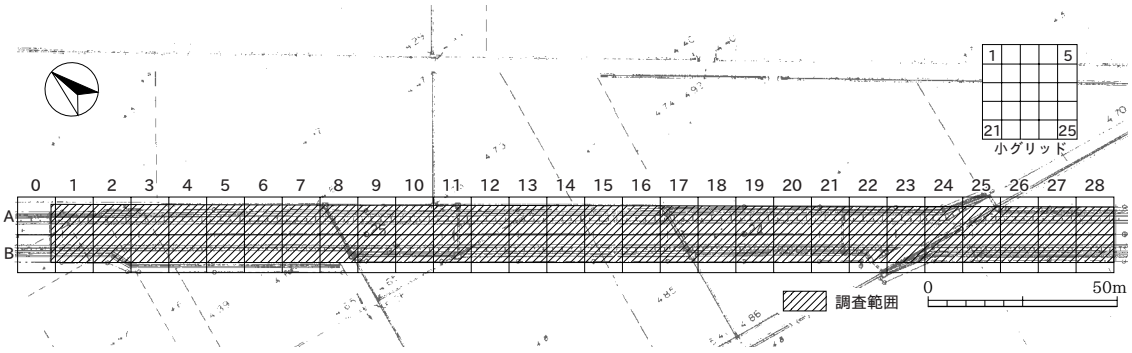
1　調査の概要

A　遺跡の立地と微地形

新潟平野の北部を流れる加治川と胎内川に挟まれた低地には、近世まで紫雲寺潟（塩津潟）が存在していた。この紫雲寺潟（塩津潟）は9世紀以降に地盤変動で形成されたとされる［高濱・占部2004］。遺跡は紫雲寺潟（塩津潟）の南側の端に位置し、潟に流れ込むと考えられる小河川に挟まれた自然堤防上の微高地に立地している。現況は水田で、遺跡周辺はこれまで紫雲寺潟（塩津潟）の水域に入っていたと見られていたが、本遺跡が発見されたことにより、14世紀段階では集落を営むことができる状態であったことが判明した。遺跡は現在の俵橋、湖南、相馬集落のほぼ中間地点に位置する。

B　グリッドの設定（第19図）

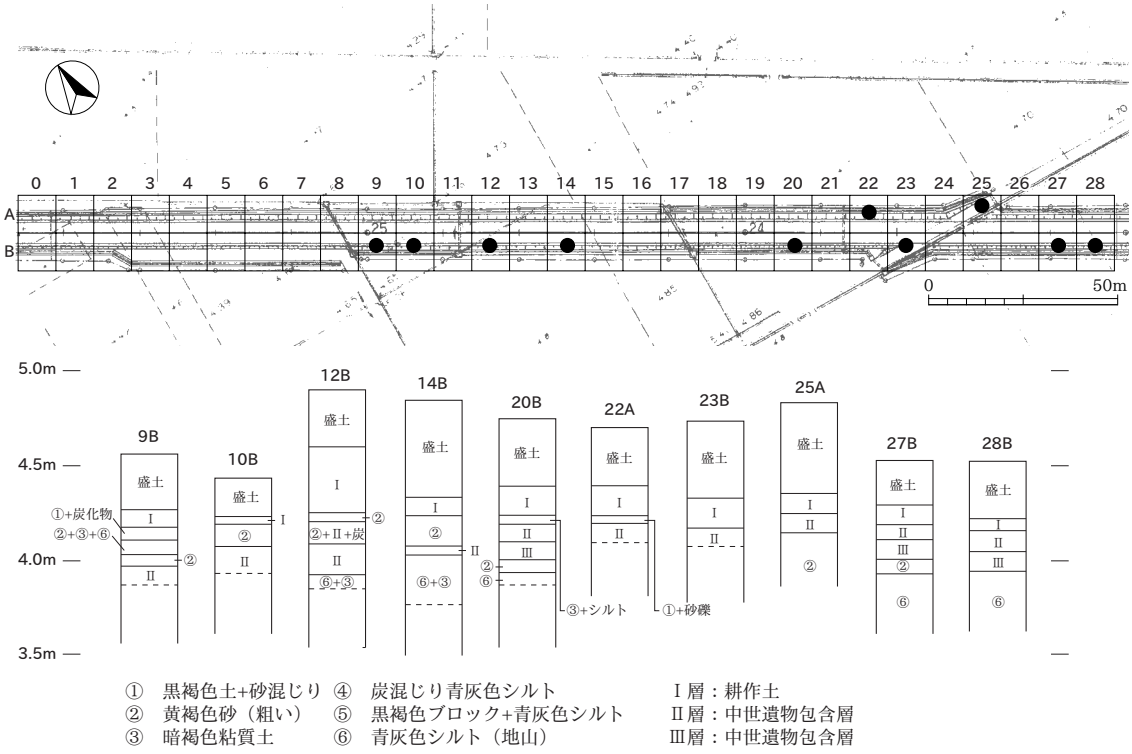
グリッドは調査範囲の幅が狭く細長いため、工事用道路法線の中心を通るように設定した。STA.24（x : 223,517.976 y : 75,512.628）± 00 とSTA.25 ± 00 とを結んだ直線を基準線とし、大グリッドは10m四方を単位とし、小グリッドは大グリッドを2m四方に25等分したものである。グリッド杭の呼称は西から東へを算用数字、北から南へをアルファベットの大文字を使用し、両者の組み合わせで「1A」などとした。大グリッドの呼称は各北杭の呼称を用いた。小グリッドは各大グリッドの北隅を基点に1～25までの番号を付し、「1A20」などと表した。またグリッドの南北は国家座標から約35°東に傾く。



第19図　砂山中道下遺跡　グリッド設定図

2　基 本 層 序（第20図）

調査区は280mと細長く、障害物も多いため連続した土層観察が不可能であった。その中で基本土層①～⑥を抽出し、①～⑥を組み合わせて全体の層位を把握しようと努めた。①～⑥の数字は層順を表していない。Ⅰ層が旧水田の耕作土で上部には工事用道路の盛土が積まれていた。9・10グリッドで検出された土坑群や自然流路脇の（同軸方向）溝の一部は、覆土がⅠ層であることから近世から現代の遺構と考えられる。15世紀以降、この地は無人化するが、現在の水田耕作土（Ⅰ層）と中世遺物包含層（Ⅱ層）の



第20図　砂山中道下遺跡　基本層序

間の層の性質から、何回かの小規模洪水に見舞われたと推測される。小礫、黄褐色砂を主体とした土壌が堆積している。

Ⅱ、Ⅲ層が中世の遺物包含層である。遺構が検出された22～25グリッドのⅡ層は基本土層③が主体で、標高が最も高く安定していたと考えられる。遺跡の成立は14世紀と考えられるが、遺跡内の自然流路も幅が狭く、陸化安定の状況であったと考える。26グリッドまで単層（Ⅱ層）であった中世遺物包含層は27・28グリッドで2層（Ⅱ・Ⅲ層）に分かれ、標高を低くし、層厚も厚くなる。

基本土層⑥は地山で、状況から広範囲の河川堆積物の流入が推測される。堆積層はシルト、砂、未分解植物腐植体の互層であるが、層の褶曲や部分的な堆積物の存在など、大量の土砂が比較的短時間に流入した様子を示し、褶曲は自然流路内に堆積した土壌と考えられる。

Ⅰ層：水田耕作土　①を主体とする。

Ⅱ層：中世遺物包含層　③を主体に23グリッドでは砂礫、25グリッドでは細砂、28グリッドでは炭化物を含む

Ⅲ層：中世遺物包含層　③を主体に27グリッドでは⑥を含む。

①：黒褐色土+砂混じり

②：黄褐色砂

③：暗褐色粘質土

④：炭混じり青灰色シルト

⑤：黒褐色ブロック+青灰色シルト

⑥：青灰色シルト（地山）　シルト、青灰細砂、未分解の植物腐植体（ガツボ）の互層　12・14グリッドでは③を含む。

3　遺　　構（図版34～43・84～93、第13表、第21・22図）

A　概　　要

調査区は幅9.0m、長さ280.0mと細長いため、遺跡の全容を把握することは困難である。遺構は調査区中央を南北に流れる幅36.4mの自然流路SX30に隔てられ、大きく東側と西側に検出された。自然流路に挟まれた自然堤防上の微高地に掘立柱建物８棟、井戸５基、土坑８基、不明遺構８基、溝状遺構15条、火葬跡１基、ピット160数基、自然流路４条が検出された。出土遺物から14世紀を中心とする集落の一部と考えられる。

東側では掘立柱建物２棟と溝状遺構８条、土坑４基が検出されている。西側では掘立柱建物６棟に付属する井戸５基、土坑４基、溝状遺構７条が検出されている。中央の自然流路SX30西岸には焼骨・炭化物と共に漆器皿が出土したSK27が検出された。このSK27を中心に炭化した藁や焼骨が集中して出土し、近接する自然流路SX30からは呪符や卒塔婆が出土した。また、護岸のためと見られる杭列が３列検出されている。

ほかに８～10ABグリッドでは、近世～現代と見られる土坑群が、南北方向に６列23基検出された。

B　記述の方法

遺構名の表記　遺構名は第13表のように、略称と遺構番号の組み合わせで付した。略称は遺構の種類を表す。遺構番号は種類に関係なく、すべて通し番号を付している。

基本土層　遺構覆土（埋土）については、基本土層①～⑥を基本にそれぞれの色調の違いや含有物を記載した。

井戸について　井戸の名称・分類は『中世北陸の井戸』［北陸中世考古学研究会編2001］に沿って行った（第20・21図）。

遺構の種類	略称
掘立柱建物	SB
杭　　列	SA
井　　戸	SE
土　　坑	SK
溝状遺構	SD
ピット・柱穴	P
不明遺構＊	SX

遺構名の表記例
SK　10
遺構番号
遺構略称
＊いずれにも当てはまらないもの

第13表　遺構の略称

その他、各遺構の使用語句、分類、計測の方法などは野中土手付遺跡と同一とし、ここでは割愛した。（13頁参照。）

C　遺 構 各 説

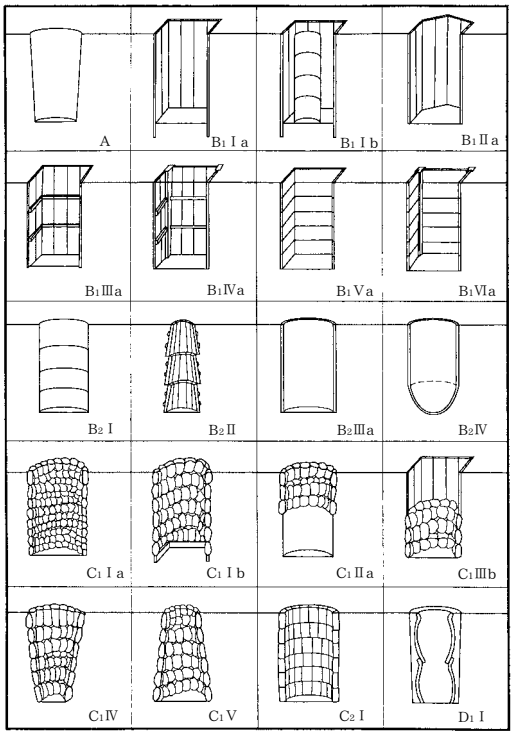
SB1（図版37・84）

24AB、25ABグリッドに位置する。規模は桁行9.6m、梁行3.9mである。主軸はN－79°－Wで、柱間は桁行2.2～2.6mで１間×４間である。ややずれるが、P153を加えると中央に間仕切りを持つ建物になる。柱掘形は径29～60cmの円形が多く、断面形はU字状である。深さは10～30cmで均一ではない。柱穴の埋土は基本土層③を主体に、基本土層②が含まれる。柱穴から遺物は出土していない。P157で柱痕が検出されている。SK24が付属の土坑と考えられる。

SB2（図版37・85）

22ABグリッドに位置する。規模は南北4.7m、東西4.7mの方形である。柱間は南北2.4m、東西2.2～2.4mで２間×２間である。南辺西隅の柱穴は検出できていない。柱掘形は30～50cmの円形が多く、P162のみ方形である。断面はU字状である。柱穴の深さは14～36cmと差があり均一ではない。柱穴

第21図　井戸側系図（『中世北陸の井戸』から転載）



第22図　井戸分類図（『中世北陸の井戸』から転載）

の埋土は基本土層①と③で構成されている。柱穴から遺物は出土していない。なお、溝状遺構が建物を囲むように西にSD81、南にSD79、東にSD138、北にSD204が検出された。

SB3（図版38・85）

15AB、16Bグリッドに位置する。規模は桁行5.5m、梁行4.0mである。主軸はN－82°－Wである。柱間は桁行1.8～1.9m、梁行2.0mの2間×3間である。北辺の柱穴は主軸をややはずれるがP141か。北辺の中央および東隅の柱穴は検出できていない。柱堀形は20～46cmの楕円形または円形で、深さは20～56cmである。P92から礫2点、漆器椀2点、P96から直径10cmの柱根が1点出土している。P193では柱根1点と箸状木製品1点が出土している。SE17が付属の井戸と考えられる。

SB4（図版38）

15Bグリッドに位置する。規模は東西（5.1m）、南北（1.7m）で建物全体は調査区外に伸びる。柱間は東西2.6m、南北1.7mである。柱掘形は24～48cmの円形または楕円形である。埋土は基本土層⑤を主体に⑥を含む。P10から礫、P89から柱痕が検出され、箸状木製品が出土している。SE200が付属の井戸と考えられる。

SB5（図版38）

15Bグリッドに位置する。規模は桁行（4.8m）、梁行（3.3m）で建物全体は調査区外に伸びる。主軸はN－70°－Eである。柱間は桁行2.3～2.4m、梁行1.5～1.8mで間仕切りを持つ建物である。柱掘形は20～46cmの円形で、深さは12～44cmである。埋土は基本土層⑤が主体である。P173から中世土師器片1点が出土している。P114で柱痕を検出している。SE129が付属の井戸と考えられる。

SB6（図版38・85）

14・15Bグリッドに位置する。規模は南北（4.0m）、東西（3.6m）で建物全体は検出されていない。柱間は南北1.8～2.0m、東西1.8mである。

柱掘形は16～38cmの円形または楕円形で、深さは22～30cmである。埋土は基本土層⑤を基本とする。P197では、直径8.6cmの柱根が出土している。SE171が付属の井戸と考えられる。

SB7（図版38・85）

14・15Bグリッドに位置する。規模は桁行（5.8m）、梁行は柱穴がSE17付近にあったと思われるが、破壊され不明である。東西柱間は1.7～2.3mとばらつきがある。柱掘形は26～56cmの楕円形である。P126、P201から柱根、P117上層から箸状木製品6点、礎板4点、材1点、棒状木製品1点等が出土している。

SB8（図版38・85・86）

12AB、13Bグリッドに位置する。規模は桁行（7.2m）、梁行4.1mである。主軸はN－85°－Eである。柱間は桁行2.3～2.4m、梁行2.0mで2間×3間以上と推定される。北辺桁行のP180、182からは柱根が、P169の底部付近からは半月形の礎板、P185からは板材が出土している。南辺桁行隅のP175は柱軸より外側に位置する。また、南西隅の柱穴は調査区外に伸びる可能性がある。柱掘形は径30～40cmの円形が多く、断面はU字状である。柱穴の深さは、15～33cmである。柱穴の埋土は、基本土層①・③を主体とする。

その他の北辺桁行・南辺桁行を構成する柱穴の脇に、いくつかの柱穴が存在している。その位置から建物の建替えが想定されるが詳細は不明である。P178・179・183からは柱根が出土しており、P188からは柱痕を検出している。柱掘形は径24～44cmの円形が多く、断面はU字状である。柱穴の深さは、8～20cmと均一ではない。柱穴の埋土は、SB8同様、基本土層③を主体とする。柱根以外の遺物は出土していない。

SE17（図版39・86）

15B6・7・11・12グリッドに位置する井戸で、井戸側の板材が倒壊した状態で検出された。木側板組縦板組横桟留（B_1Ⅲa）の井戸である。検出層位は基本土層⑥上面である。長軸1.42m、短軸1.25mのやや歪んだ方形である。断面形は底面が平らで、ほぼ垂直に立ち上がる。深さは約95cmである。井戸側と思われる板材の破片は、主に5層を中心に散在して出土している。6層から出土した長い板材は、外側から内側に向かって倒れている。また、板材の破片は、主に北西側に集中している。底面には横桟が二段に重なって出土している。角材の仕口は目違いのホゾで、両端をそれぞれ組んで方形にしている。横桟を組み立てると約77×81cmである。上部横桟の東側角からは、扇が閉じて要を上にした状態で出土している。

上段の横桟は、設置時には井戸側の上部を支えていたものが、廃棄時に落ちたものと思われる。横桟の長さの割に出土した板材の量が少ないことから、大半は抜かれたものと思われる。覆土はレンズ状堆積となっており、7層に分層される。1～5層は主に基本土層⑤が中心で、4・5層は植物遺体が多量に入る。6層は基本土層③が中心で、黒褐色土と明褐灰色土がブロック状に混ざり、埋土と思われる。7層はシルトに炭化物がまばらに入り、掘方の埋土と思われる。土層と出土状況から推測すると、井戸として使用された後廃棄され、井戸側の板材は掘形と井戸側の間の埋土を再び掘り起こし、必要な板材のみを抜き取っている。土圧と井戸側がなくなったため横桟は下に落ち、その際に残った埋土の土が7層であって、掘った埋土を井戸側内に投げ込んだものが6層であると思われる。SB3に付属する井戸と考えられる。

遺物は中世土師器、珠洲擂鉢、甕類片、細型土錘、各種材133点、箸状木製品17点、棒状木製品3点、扇2点、漆器椀1点、織機？1点、鍬1点、礫16点、炭化米などが出土している。

SE29（図版39・86）

17A21・22、17B1・2グリッドに位置する素掘り（A）の井戸である。基本土層⑥上面で検出されたが、SD28と切り合い、SD28より新しい。長軸1.56m、短軸1.22mの不整惰円形である。深さは64cm、断面は小さな丸底から急激に立ち上がり、テラス状の段を作り大きく開口する。また南側が一段深くなっている。覆土は9層に分層され、基本土層③を主体とする。2層は黒褐色土で炭化物を多量に含む。8層は2～3mm程の礫層が入る。9層から珠洲の甕類の破片が出土している。ほかに箸状木製品1点、杓子未成品1点、焼石1点が出土している。

SE129（図版39・87）

15A24・25、15B4・5に位置する井戸で、円形に立てられた板材と四重に据えられた曲物側板が出土している。木側板組縦板組無支持縦板＋曲物（B1ⅠⅠb）の構成である。検出層位は基本土層⑥上面であるが、上部は耕作土による削平を受けている。プランは曲物内部が黒褐色で、掘形部分が黄褐色の粗砂で目玉状に検出された。長軸1.40m、短軸1.32mの円形である。断面形はU字状で、深さは約90cmであるが、ほかの井戸と同様に砂層からの湧水と、排水ポンプによる水の吸い上げで、正確な深さは不明である。井戸側は縦長（長さ（22.0）cm×幅13.5cm×厚さ1.5cm）の板材15枚を径約70cmの円形に、南側を35cm空けて立てられている。また部分的に二重に立てられている場所もあるが、板と板のあいだは2～3cmの間隔を空けて立てられている。1段目の曲物は径54cm、高さ24cmで標高3.84mに据えられている。2段目の曲物は径42cm、高さ22cmで標高3.7mに据えられている。3段目の曲物は径33cm、高さ19cmで標高3.56mに据えられている。4段目の曲物は径17cm、高さ12cmで中心より北側にやや傾いて標高3.56mに据えられた水溜めである。覆土は9層に分層され、1～5・7層は廃棄時の埋土で6・9層は掘形の埋土である。1～5層まで炭化物がまばらに入る。また8層については曲物外部が掘形の埋土で、曲物内部は設置後に下からの水の吸い上げなどにより、堆積したものと思われるが、調査時には両者を分けることはできなかった。8層は4段目の曲物と3段目の曲物の口まで堆積している。基本土層⑥に③がブロック状に混ざるが、掘形の埋土の土層を観察するために設定した、長軸のベルトが粗砂のため崩れてしまい記録はできなかった。土層の観察から水の出る砂層まで掘り、3段目の曲物を据えて、外側には粘性のある基本土層③で崩れやすい底部を補強したと考えられる。その後1・2段目の曲物を据えて曲物と曲物との間と、掘形と曲物との間に板材を立て、きれいな黄褐色の粗砂である6層で埋めたと思われる。廃棄後に堆積したと思われる1～5・7層は褐灰色土や黒褐色土で基本土層④を主体とし、7層以外で砂礫がまばらに入る。また7層と8層の境に薄く植物遺体層が入る。7層は黒色の植物遺体層で、下面から連歯下駄などの木製品が出土している。SB5に付属する井戸と考えられる。

遺物は各種材24点、漆器椀1点、曲物1点、曲物側板1点、連歯下駄1点、礫2点、炭化米が出土している。

SE171（図版39・87）

15B2・3・7・8に位置する井戸で、方形に立てられた板材（井戸側）と曲物の構成である。長軸1.3m、短軸1.06mの歪んだ隅円方形である。断面形はU字状の円筒形で、南西側にテラスを作る。深さは掘形が約1.2mである。井戸側は一辺が約65cmの方形で、掘形の中心よりやや北東側にずれて設置してある。井戸側部材は縦長の板材36枚で方形に囲い、内側に横桟を上下二段に組んで、板材が倒れないように支持している。木側板組縦板組横桟留縦板＋曲物（B1ⅢⅢb）である。検出時には、南側と西側の井戸側は土圧によって内側にたわんでいて、特に南側の横桟は中央から折れていた。また、下段の横桟は西

側の１本のみ出土している。板材は長い板を内側に立て周りを土で埋めた後で、再度その外側に短い板材を二重、三重に立てている。特に北面と南面は重点的に板材が立てられ、場所によっては四重になっている部分もある。また、北東と南東の井戸側の角部分は、外側に板材を縦に折って角を覆うように立てられている。横桟は角材で、仕口は目違いのホゾで両端をそれぞれ組んである。横桟の枠自体は約59×59cmである。井戸側内の底面には円形の曲物が水溜めとして設置されていた。曲物は径57cm、高さ50cmである。覆土は９層に分層され、井戸側内の１～４層は廃棄時の埋土で、黒褐色土を主体とし基本土層の④と⑤が中心である。また４層は黒褐色の植物遺体層である。井戸側外の1’から5’は掘形の埋土で、灰黄褐色土を主体とし、基本土層②である砂礫が入る。また断面図作成地点の東側の掘形は記録を取らなかったため不明であるが、概ね西側と同じであると思われる。５層は底部に約40cm堆積しており、曲物を約８割埋めている。曲物外部は掘方の埋土で、曲物内部は設置後に下からの水の吹き上げなどにより堆積したものと思われるが、調査時は両者を分けることはできなかった。基本土層⑥に③がブロック状に入っている。SB6に付属の井戸と考えられる。

遺物は中世土師器１点、各種材69点、箸状木製品13点、曲物１点、曲物側板２点、樺皮１点、折敷１点、礫１点、炭化米、トチノキの実、ウリ科の種子、細骨などが出土している。

SE200（図版39・87）

16B6グリッドに位置する素掘り（A）の井戸で、検出層位は基本土層⑥上面である。長軸92cm、短軸68cmの楕円形で、深さは67cm、断面形はU字状で丸底の底部から壁面が急激に立ち上がる。覆土は褐灰色土を主体とし、１層の中間と１層と２層の間に薄く炭化物層が入り、２層と３層の間には薄く植物遺体層が入る。また４層は基本土層②の粗砂が堆積している。SB4に付属の井戸と考えられる。遺物は中世陶器１点、箸状木製品３点、材１点、炭化米、ウリ科の種子、細骨などが出土している。

SK22（図版40・88）

16A23・24グリッドで、SD28の北側に位置する。検出層位は基本土層⑥上面である。長軸76cm、短軸46cmの楕円形で深さは34cmである。覆土は３層に分層される。１層より約25cmの礫が１点出土している。

SK24（図版40・88）

25B1・2・6・7グリッドに位置する。長軸2.16m、短軸1.9mの円形で、深さは31cmである。断面形は、ほぼ平坦な底面から西側は緩やかに立ち上がる。東側は撹乱しているため立ち上がりは判然としない。覆土は基本土層③を主体に６層に分層され、炭化物や植物遺体を含む。遺物は各種材11点、箸状木製品６点、曲物側板２点、トチノキの実、モモの種子などが出土している。

SK27と火葬跡（図版40・88・89）

SK27は17A16グリッドに位置する。SD28の東側、自然流路SX30の西側の岸辺でわずかに傾斜するがほぼ平坦面で検出された。基本土層⑥上面で炭化物が帯状に検出され、またその周囲に炭化物と骨片がまばらに検出された。上端は直径54cmのほぼ円形で、断面形は皿状で深さは13cmと浅い。覆土は３層に分層され、１層は基本土層③が主体で炭化物と骨片が少量入る。２層は炭化物が主体で基本土層④がブロック状に入り、骨片を多く含む。漆器皿が２層の底面から正位で出土している。またSK27の底面から３層の黒褐色炭化物層が長軸約2.0m、短軸約1.36mの不整形で薄く広がる。特に17A16・21グリッドに炭化した藁と骨片が長軸70cm（南北）、短軸40cmの範囲で入り交じって集中している。炭化した藁は厚く堆積している。骨片は歯と手の指の末節骨が複数あることがわかり、人骨と判明した。焼土と思わ

れるものも検出されたことから、この場所を火葬跡（荼毘所）とした。火葬跡はSK27より古いが時期差はないと思われる。ほかに東側から杭が１点（273）出土している。火葬跡の一部は現地から剥ぎ取り、保存している。

SK31（図版40・89）

21ABグリッドに位置する土坑で、長軸3.8m、短軸2.65mの南北に長い楕円形である。東側にあるSK32と南側にあるSD81と切り合い関係にあり、SK32より古くSD81より新しい。なお西側にP203が切り合っている。深さは61cmである。断面は平坦な底部から南壁は外反気味に緩やかに立ち上がり、北壁は南壁より傾斜が急な立ち上がりを見せ、また東西の壁面については平面からみると、西壁は急激に立ち上がり東壁は緩やかに立ち上がる。覆土は基本土層③を主体に、炭化物、砂礫、未分解植物遺体が混入している。遺物の出土状況を見ると、各層から出土しているが特に２層から木製品が多く出土している。遺物は箸状木製品108点、棒状木製品４点、各種材90点、杓子３点、挽物椀１点、柄２点、曲物側板11点、曲物底板２点、樺皮２点、漆器皿１点、漆器椀４点、形代１点、織機１点、板草履１点、紡錘車１点、円形板３点、楔２点、木簡１点、中世土師器、青磁１などが出土している。ほかに炭化米、クルミ、種子類、細骨、礫などが出土している。ウリ科の種子は各層から出土しているが、特に７層から大量に出土している。

SK32（図版41・89・90）

21Aグリッドに位置する。長軸4.0m、短軸1.86mの東西に長い楕円形の土坑である。東側のSD204と西側のSK31を切り新しい。深さは41cmで断面は皿状である。覆土は基本土層③を主体に７層に分層され、上層はシルト分が強くしまり砂混じりである。黒褐色土、籾殻堆積層、未分解質植物遺体が含まれている下層は褐色に青灰色シルトの混合である。遺物の出土状況を見ると、各層から出土しているが、特に２～４層から多く出土している。遺物は各種材73点、箸状木製品39点、棒状木製品13点、曲物側板３点、木錘１点、漆器椀２点、漆器皿１点などが出土している。５層から大量のウリ科の種子が出土している。

SD204（図版41・93）

21Aグリッドに位置し、暗渠により切断されている。検出状況から、東西方向に掘削されると推定される。断面からSK32に切られSK32より古い。覆土は基本土層③を主体にしており、炭化物が混入している。西のSD81、南のSD79、東のSD138と共にSB2の四方を取り囲む溝である。遺物はフイゴの羽口、板材１点が出土している。

SX172（図版41・90）

15AグリッドでSD59の西側、SE129の北側に位置する。検出層位は基本土層⑥上面である。長径4.38m、短径3.72mの楕円形で、深さ60cmである。断面形は底面が平らで、ややテラス状になりながら、緩やかに立ち上がる。覆土は５層に分層され、基本的に褐灰色土で基本土層③中心である。西側のみ基本土層②に③が少量混ざる３層があり、北東側以外で炭化物をまばらに含み１～2mmの礫を多く含む４層が入る。遺物は各種材66点、箸状木製品39点、棒状木製品９点、曲物側板４点、楔１点、杓子１点などが出土している。

SX175（図版40・90・91）

15B5・10、16B1・６グリッドに位置する土坑である。北側にはSE129、東側にはSD59、西側にはピット群があり、P83・88・89・127・128・130・135・208・209がSX175を切っている。

P85・92との切り合いは不明確である。検出層位は基本土層⑥上面であるが上部は耕作土により削平されている。プランは周囲と中央が黒色で、その中が明青灰色の目玉状に検出された。長軸3.0m、短軸2.72mの歪んだ円形である。深さ50cm、断面形は底部が平らの皿状である。覆土は5層に分けられ、3層と4層は植物遺体が主体の層で、この2つの層から多量の木製品が出土した。2層は砂質の明青灰色土で人為的に埋められたものと思われる。

遺物は中世土師器3点、各種材119点、箸状木製品118点、曲物側板10点、連歯下駄1点、炭化米、ウリ科・モモの種子、各種種実、細骨などが出土している。

SX250・SX257・SX258（図版42）

15ABグリッドに位置する不明遺構である。北にSX172、南にSX175が3つの遺構を挟むようにあり、3つの遺構を切っている。またSX258の中心にSE129があり、SX258を切っている。検出層位は基本土層⑥層上面である。3つの切り合いはSX250、SX258がSX257を切っている。平面形及び長軸はSX172、SX175に切られていて不明であるが、残っている形から3つはすべて不整形で、長軸は概ね南北であると思われる。幅はSX250が1.80m、SX258は2.44mである。またSX257は東側をSX258に切られ幅1.74mである。覆土はSX250が5層、SX257は4層、SX258は4層に分層される。すべての層は基本土層③が主体で、SX250、SX257では部分的に③に⑥が混ざる。3つの遺構はほぼ同時期であると思われる。また、SX172とSX175の間でSE129の周辺に位置することから、この周辺を粘質土の基本土層④で整地したのではないかと考えられる。

遺物はSX250から板材3点、箸状木製品1点、漆器皿1点、棒状木製品1点が出土している。SX257から板材1点、SX258から各種材4点、箸状木製品1点、棒状木製品1点が出土している。

SX30（図版42・91）

17AB～20ABグリッドに位置する幅36.4mの自然流路である。基本土層⑥上面で検出された。17Bグリッドでは当初炭化物と礫の混合部が不整形で広がっており、トレンチを入れたところ土層がすべて17ABグリッドから南東側に傾斜していた為、自然流路（河川跡）と判断した。流路の西側の立ち上がりをSD28、東側の立ち上がりをSD82に切られている。また西側にはSK27とSE29が流路を切り、流路の斜面にはSK206がある。17AB～18ABグリッドにかけての約3mは、調査区を横切る用水用の暗渠の為調査できなかった。覆土は12層に分層され、9層の植物遺体層は木製品や木片が多数出土した。西側の斜面は緩く立ち上がり、南側が深くなっている。18ABグリッドから南東は洪水堆積物により何度も切られている。

遺物は中世土師器2点、珠洲6点、各種材47点、箸状木製品25点、木簡11点、棒状木製品8点、曲物側板4点、漆器椀3点、刀子形1点、漆器皿1点、板草履1点、栓1点、脚1点などが出土している。

SD23（図版43）

16ABグリッドに位置する溝で、掘り下げると杭列が検出された。検出層位は基本土層⑥上面である。幅約64cmで、北側は16A16から16B3グリッドで不明瞭となり、南側は調査区外へ伸びる。断面形は北側が皿状で南側は底面が平らで壁面は急激に立ち上がる。底面はほぼ平らである。覆土は基本土層④を主体とし、北側で1層、南側で4層に分層され、南側の3・4層で1mm程の砂を含む。杭が3点出土している。

SD79（図版42・93）

22Bグリッドに位置し、東西方向に掘削された溝である。西側には排水用暗渠が、東側には調査区を

横断する排水溝があるため、溝の一部しか検出できていない。幅1.25m、深さ29cmで比較的浅い溝である。断面形は平坦な底面から壁面は緩やかに立ち上がる。覆土は基本土層③を主体に2層に分層し、黄褐色砂が含まれている。遺物は木片と陶器各1点づつ出土している。

SD59（図版43・92）

15・16A・16Bグリッドに位置する流路で、南北に主軸をとり調査区を横断する。検出層位は基本土層⑥上面である。東側にはSD23があり、P205に切られる。また両岸に杭列がある。最大幅2.64m、最小幅1.16mと南から北へ進むにつれて細くなる。流路の流れる方向は調査上の記録ミスにより標高は定かではないが、遺跡が紫雲寺潟（塩津潟）の南側にあることから、南側から北側へ流れていたと思われる。断面形は皿状であるが東壁は緩やかに立ち上がり、西壁は急激に立ち上がる。北側の深さは45cmである。覆土は南側が5層で北側が4層に分層され、また1・2層は1～2mmの礫を含む。

遺物は木製品が中心で、概して15A20グリッドから南側で遺物の量が多くなる。中世土師器5点、珠洲1点、各種材156点、箸状木製品56点、漆器椀4点、曲物側板4点、杓子4点、柄3点、木簡1点、漆器皿1点、曲物底板1点、指物1点、桶側板1点、円形板1点、棒状木製品2、クルミ2点、礫7点などが出土している。

SA1～3（図版43）

16ABグリッドに位置し、南北に3列平行して検出された杭列である。数本が基本土層⑥上面で、ほとんどは⑥層中で検出された。中央と西側の杭列は現代のものと思われる撹乱によって切られている。

東側のSA1は16A17～16B9グリッドまでで検出本数は14本、SD23の下層で検出されたことからSD23の護岸のための杭の可能性がある。この杭列はおおまかに二本一組で西側に傾斜して打たれている。組の間隔は16～46cmで平均34cmと不規則である。

中央のSA2は16A16グリッドから調査区外へ延び検出本数は20本である。16B2グリッドから北側は平均36cm間隔で打たれ、北側の4本は西側に傾斜し、それ以外は概ね東側に傾斜して打たれている。SD59の東側の縁に沿うように打たれ、南側に行くにつれてSD59の内側に入ってくる。これは北側の遺構精査時にやや下げすぎたので杭列がSD59の上端から外側に出た可能性がある。

西側のSA3は不規則であるが16B1グリッドまでで検出本数は9本で、SD59の西側の縁に沿って打たれている。このSA2・3はSD59の護岸を目的に作られた可能性がある。

SD81（図版42）

21Bグリッドに位置し、南北に掘削された溝で、北側のSK31に平面的に直結する。よって、両遺構は平面的には同時期の可能性があるが、覆土面での切り合いではSK31に切られ旧い。このSD81内にはSD81より旧いP167が存在している。溝の幅は55cm、深さは14cmと浅い。覆土は基本土層③を主体に2層に分層される。SB2の西を囲む溝である。

SD82（図版43・93）

20AB、21ABグリッドに位置し、長さは（8.5m）、幅2.9m、深さは60cmである。北側の断面形はほぼ平坦な底面から緩やかに立ち上がる。覆土は基本土層③暗褐色粘質土を主体に3層に分層し、下層では基本土層⑥の荒砂の含有が多い。南側は北側に比べ深く、幅も広がっている。基本土層③を主体に5層に分層される。遺物は中世土師器2点、珠洲1点、各種材21点、箸状木製品10点、円形板1点、漆器椀2点などが出土している。

SD143（図版43・93）

23ABグリッドに位置し、南北方向に掘削された溝である。調査範囲が狭い為判然としないが、長さは（6.55m）、幅は50cmである。東壁は西壁よりやや傾斜が緩く立ち上がる。覆土は単層で、基本土層③にシルトブロックが含まれる。遺物はフイゴの羽口、箸状木製品１点などが出土している。

SD144（図版43・93）

23AB・24Bグリッドに位置し、SD143と並行して南北方向に掘削された溝である。長さは（5.84m）、幅は1.15m、深さは25cmである。断面形は球状の底部から東壁は緩やかに立ち上がり、西壁は東壁より傾斜が急に立ち上がる。覆土は基本土層③にシルトブロックが含まれる。遺物は出土していない。

4　遺　　物

A　概　　要

砂山中道下遺跡では遺物は土器、土製品、石製品、金属製品、木製品が出土している。その大半は木製品で、浅箱で115箱（1816点）、その他が５箱となっている。

B　土　　器（図版44・45・94）

土器は古代の須恵器、中世の舶載青磁、中世土師器、珠洲焼、近世陶磁器が出土している。

須恵器（1・2）

須恵器は数点の出土である。１は杯蓋の鈕である。２はSX172出土で甕類の体部破片である。外面に平行線文タタキ、内面に同心円文当て具痕が施されている。出土量が限られているため断定は困難であるが、概ね９世紀代のものと考えられる。

舶載青磁（3～7）

舶載青磁は全体の器形がわかるものはなく、細片のため器形の傾きは正確性に欠ける嫌いがある。鎬連弁文がわずかに確認できる碗の破片が５点ほど出土している。そのうち３がSK31出土で13世紀中葉～後半で若干ほかの青磁より古い可能性がある。４～７は包含層出土の青磁で13世紀後半のものである。

中世土師器（8～16）

中世土師器は出土量が少なく、全体の器形がわかるものは少ない。灯明皿に転用されるものが多い。16のみ手づくねで、ほかはロクロ土師器である。分類は手づくね土師器をＡ類、ロクロ土師器をＢ類とした。Ｂ類のロクロ土師器には底部切り離しを糸切りとするものと、ヘラ切りとするものが有り、糸切りをⅠ、ヘラ切りをⅡと細分した。時期は手づくね土師器が残ることと、ロクロ土師器が多いことからⅢ～Ⅳ期（13～15世紀）［品田1999］と見られる。

８はSB5－P173出土でＢ類である。９はSX30出土である。底部ヘラ切りでＢⅡ類である。胎土は精良でやや白っぽい。10・11はSX175出土でＢⅠ類である。10は見込みに油煙状のものが付着している。12はSD59出土でＢ類である。内面が赤変し、タール状のものが付着している。胎土に海綿骨針が含まれる。13はＢⅠ類で底部および体部の厚さは同じで、体部は短く立ち上がる。12ないし13世紀代か。15は体部の立ち上がりが強くナデられ段がつき、体部全体は丸みを持って立ち上がり、口縁はわずかに内傾する。

16はＡ類の手づくね土師器で、底部は薄く体部は短く立ち上がり、口縁端部の断面は三角形をなす。

珠洲焼（17～31）

珠洲焼は能登半島で焼かれた須恵器の系譜を引く陶器である。器種では擂鉢、捏鉢、壺、甕が出土している。全体の器形がわかるものはないが、擂鉢の口縁端部が方頭となるものがほとんどで、吉岡編年［吉岡1994］の珠洲Ⅳ期（13世紀末～14世紀後半）が主体を占める。27の擂鉢は口縁端部が水平に作られ、卸目が細いことからⅢ期（13世紀中～13世紀後半）頃のものと見られる。25は壺の肩部の破片であるが、破損後内面で赤色顔料等を磨り潰すなどしたのか、摩耗が顕著でわずかに赤色顔料等が残る。

近世陶磁器（32～37）

近世陶磁器は肥前系陶磁器が主体である。二重網目文や、弧状二重斜格子文などが見られ、18世紀後半～幕末までのものである。陶器の一部は会津産または、会津の影響を受けた在地の窯の可能性のあるものを含む。

C　土　製　品（図版45・94）

フイゴの羽口（38・39）　38はSD143から、39はSD204から出土していることから、中世のものと見られる。丁寧にヘラでナデ整形している。

土錘（40～43）　土錘には太型の40と細型の41～43がある。いずれも手づくねで、丁寧に整形しており、胎土も精良である。41はSE17から、42はSD59の中世の遺構から、40、43は中世遺物包含層から出土していることから、中世のものと考えられる。太型の40は重さ31.5g、細型は2.1～4.3gである。

D　石　製　品（図版45・94）

砥石等（44～51）　44はSK31から出土している。粘板岩製の薄い長方形の板状のものである。用途は不明である。45～51は砥石である。凝灰岩製のものが多く、中世のものと見られる。

E　金 属 製 品（図版45・94）

金属製品には煙管、脚、銭貨、火縄銃の弾がある。ほかに鉄鍋の脚と見られるものや不明鉄製品が2点出土しているが、図化していない。

煙管（52）　52は真鍮製の煙管で中茎は残存するが、柄の部分は残っていない。

脚（53）　53はSX30出土の容器の脚と見られ、素材は緑青が付いていることから銅か銅化合物とみられるが、成分分析は行っていない。

銭貨（54～58）　銭貨には中世の中国・北宋からの輸入銭貨と近世の国産銭貨がある。54は「元豊通寶」で初鋳が1078年、55は「熙寧元寶」1068年初鋳、56は2枚が溶着しており、56Aは1枚目の表面が見えているもので「嘉祐通寶」で1056年初鋳。56Bは2枚目で、裏面しか見えていなので銭種は不明である。57は「皇宋通寶」で初鋳が1038年のものである。58は江戸時代の「寛永通寶」1697～1747年、1767～1781年鋳造のいわゆる「新寛永」である。

火縄銃の弾（59～61）　59～61は写真のみの掲載である。火縄銃の弾で素材は鉛と見られる。直径12.4～12.9cmでつぶれなどは見られない。重さ11.0～11.8gである。

F　木　製　品（図版46～55・95～102、第14～22表）

木製品は1816点出土している。遺跡全体の器種別の出土比率は第14表のとおりである。種類・器種名などについては『木器集成図録』［奈良国立文化財研究所1985・1993］を参考とした。建築材等としたものは井戸枠や側板など建築材以外の物も含むが、集計時には建築材等にまとめた。この建築材等が最も多く1029点である。箸状木製品は食膳具とすべきものもあると考えられるが、椀・皿類の数量に対しかなり多く出土していることから、斎串などの用途として使用された割合が多いと考え、今回は祭祀具にまとめた。このため祭祀具は建築材に次ぐ476点となった。個別の詳細については観察表を参照願いたい。器種については未成品、推定品も含み、数量は個体数ではなく破片数である。

漆器の時期は春日編年［春日2001］のⅢ（12世紀後半～13世紀前半）～Ⅳ期（13世紀後半～14世紀前半）と考えられ、珠洲の年代観より古い様相を示す。総黒漆塗りがほとんどだが、7B7グリッドから内外赤漆・高台内黒漆塗りの低い輪高台が付く無文の椀が出土している。状態が悪く図化できていないが、ほかより新しいⅤ期（14世紀後半～15世紀前半）とみられる。

木簡が出土しているが、木製品とは項を別にして述べた。

SB3－P193（1）　1は柱根で平底に加工する。幅は14.9cmでクリ材である。

SB3－P96（2）　2は柱根で尖底に加工する。節が瘤状に残る。

SB6－P197（3）　3は柱根で平底に加工する。幅は10.5cmのクリ材である。

SB7－P116（4）　4は箸状木製品で一部欠損している。本遺跡では箸状木製品が、大量に出土しているため全てを樹種同定できなかったが、分析を行なった15点中14点（1点は断定できず）がスギであった。4もスギであろう。

SB7－P126（5）　5は柱根で平底に加工する。ブナ属である。ブナは軟質な樹木のため風化が顕著である。

SB7－P201（6）　6はクリ材の柱根で風化が著しいが、53cmほど残る。

SB8－P169（7）　7は礎板である。長さ16.1cm幅13.8cmの厚みの均一でない板材を使用している。

SB8－P180（8）　8は柱根で尖底に加工する。ケヤキ材である。

SB8－P182（9）　9は柱根で平底とみられるが、一部欠損している。

SE17（10～34）　SE17出土木製品の器種構成は第15表のとお

種類	器種	破片数	比率
木簡	木簡	18	1.1
祭祀具	箸状木製品	474	26.1
	刀子形	1	0.1
	形代	1	0.1
祭祀具　計		476	26.2
食膳具	漆器椀	26	1.4
	漆器皿	7	0.4
	挽物椀	1	0.1
	折敷	1	0.1
	杓子	9	0.5
食膳具　計		44	2.4
容器	曲物	5	0.3
	曲物側板	50	2.8
	曲物底板	6	0.3
	樺皮	4	0.2
	指物	2	0.1
	桶側板	2	0.1
	円形板	5	0.3
	栓	1	0.1
容器　計		75	4.1
服飾具	扇	2	0.1
	連歯下駄	2	0.1
	下駄の歯	1	0.1
	板草履	3	0.2
服飾具　計		8	0.4
紡織具	紡錘車	1	0.1
	織機	2	0.1
紡織具　計		3	0.2
建築材等	柱根	23	1.3
	礎板	7	0.4
	板材	356	19.6
	材	468	25.8
	角材	13	0.7
	竹材	9	0.5
	部材	58	3.2
	割材	11	0.6
	方形材	3	0.2
	炭化材	2	0.1
	杭	79	4.4
建築材等　計		1029	56.7
工具	楔	4	0.2
農具	鍬	1	0.1
	木錘	1	0.1
農具　計		2	0.1
その他	柄	5	0.3
	棒状木製品	64	3.5
	燃えさし	32	1.8
	削り屑・切り屑	37	2.0
	用途不明	19	1.1
その他　計		157	8.6
合　計		1816	100.0

第14表　木製品器種構成

りである。板材・材・部材の多くは井戸側横桟と側板である。10～13は箸状木製品で10・11は4層、12・13は5層からの出土である。14～18は井戸側の側板の一部である。20は鍬先で、中央に柄の入る孔が台形に開けられている。柄は出土していない。刃先は風化している。21は扇で橋（扇の骨）が3本残っていたが、要の軸棒の厚みと橋の厚みから、橋が7本の扇と推定される。樹種同定の結果ヒノキ科であったことから、檜扇の可能性がある。橋の枚数は位で規定され、六位以下は12枚という規定があったようだが、本品は該当しない。26は上端両側面から抉りが入り、摩耗していることから縄、紐などが巻かれていたようである。織機（地機）の部品（チキリあるいはチマキ）の可能性もあるが、やや細い。織機の判別は出土例が少なく判断は難しい。27～34は方形の井戸側の横桟で27～30が上部4本で31～34が下部の4本である。仕口は目違いホゾに加工している。

SE129（35～40）　35はケヤキの連歯下駄で38の水溜めの曲物の中から出土した。36～39は曲物の側板で4個入れ子状に設置し、井戸の水溜めに再利用されたものである。36が最も外側で底板を留めた木釘孔が残る。底板が付く下部のみを再利用したようだ。37が2番目、38が3番目、39が最も内側である。40は井戸側で、このような長方形の板15枚を円形に立てて直径70cmほどの井戸側としていた。

SE171（41～63）　SE171出土木製品の器種構成は第16表のとおりである。48は折敷の一部とみられ、右側縁に2か所穿孔される。49～54は井戸側の横桟で仕口は目違いホゾに加工されている。55～60は井戸側の縦板である。57は右側面に9か所抉りがあり、木釘が残る。63は直径60.6cmの曲物側板で、下部にもう一重箍がはめられる。緩み解消のため61の板材を挟んでいた。井戸の水溜めに再利用されている。

SK27（68・69）　68は漆器の平底の小皿である。直径9.0cmで、内外面黒漆塗りで無文である。火葬跡に掘られたSK27の中央から正位で出土した。底部は薄く体部はやや厚く、カンナ目が残る。現状で焼けた跡は確認できないが、1個体分残存しておらず副葬品かどうかは疑問が残る。69は杭で尖った部分の1面が炭化している。火葬時の燃え残りか。

SK31（71～107）　SK31出土木製品の器種構成は第17表のとおりである。箸状木製品が108本と多量に出土している。73の箸状木製品は断面が三角形である。77・78は杓子か。79の総黒色漆椀は高台内面が薄く削られ細い輪高台である。80は両

種類	器種	破片数	比率
祭祀具	箸状木製品	17	10.6
食膳具	漆器椀	1	0.6
服飾具	扇	2	1.3
紡織具	織機	1	0.6
建築材等	板材	58	36.3
	材	62	38.8
	部材	12	7.5
	割材	1	0.6
農具	鍬	1	0.6
生活用具	棒状木製品	3	1.9
	燃えさし	1	0.6
その他	用途不明	1	0.6
合計		160	100.0

第15表　SE17木製品器種構成

種類	器種	破片数	比率
祭祀具	箸状木製品	13	14.8
食膳具	折敷	1	1.1
容器	曲物	1	1.1
	曲物側板	2	2.3
	樺皮	1	1.1
建築材等	板材	49	55.7
	材	13	14.8
	角材	1	1.1
	部材	6	6.9
その他	用途不明	1	0.4
合計		88	100.0

第16表　SE171木製品器種構成

種類	器種	破片数	比率
木簡	木簡	1	0.4
祭祀具	箸状木製品	108	43.0
	形代	1	0.4
食膳具	漆器椀	4	1.6
	漆器皿	1	0.4
	挽物椀	1	0.4
	杓子	3	1.2
容器	曲物側板	11	4.4
	曲物底板	2	0.8
	円形板	3	1.2
	樺皮	2	0.8
服飾具	板草履	2	0.8
紡織具	紡錘車	1	0.4
	織機	1	0.4
建築材等	板材	23	9.1
	材	45	17.9
	角材	1	0.4
	部材	17	6.8
	割材	2	0.8
	杭	2	0.8
工具	楔	2	0.8
その他	柄	2	0.8
	棒状木製品	4	1.6
	燃えさし	4	1.6
	削り屑・切り屑	4	1.6
	用途不明	4	1.6
合計		251	100.0

第17表　SK31木製品器種構成

側面に抉りが入れられる。SE17で出土した26と形態が類似する。織機の一部とも考えられるが、全体が残らず不明である。90は中央に穿孔された直径4.8cmの円形の板である。断面形は台形状である。紡錘車の可能性がある。92・93は板草履の一部で対になると見られる。95は板材であるが厚みは均一でなく加工も丁寧でないが、刀子形などの一部か。97は用途不明としたが下端を薄く仕上げており篦の可能性もある。101は中央に穿孔した板に、棒状の材を差し込んだものである。観察表の法量は穿孔した板のものである。用途は不明である。

SK32（108～122）　SK32出土木製品の器種構成は第18表のとおりである。箸状木製品が39本出土している。板材・材が59点出土している。115は木錘である。丸木の中央部を浅く削り縄掛け部を作り出している。120・121は総黒色の漆椀・皿で、高台内面が薄く削られる低く細い輪高台である。

SX172（123～140）　SX172出土木製品の器種構成は第19表のとおりである。箸状木製品が39本出土している。建築材などが66点出土している。用途が不明であるが2層から棒状木製品が3本まとまって出土している。127の曲物底板は刃物傷が多数あることから、俎板などに転用された可能性がある。

SX175（141～163）　SX175出土木製品の器種構成は第20表のとおりである。多量の箸状木製品が出土している。柾目材、板目材両方利用されている。161は連歯の下駄である。後方の歯は欠損している。SE129出土の下駄（35）と比べ全体に細身で歯が太い。材は35と同じくケヤキである。

SX30（166～195）　SX30は幅36.4mを越す自然流路で17グリッドの西岸、20グリッドの東岸で多くの木製品が出土している。出土木製品の器種構成は第21表のとおりである。170は総黒色漆器椀で高台部分は欠損している。173も総黒色漆器椀で底部中央に直径3～6mmの孔4か所、6mmの方形の孔が1か所が二次的に開けられ再利用されているが、用途は不明である。188は総黒漆塗りの平底の小皿である。194は刀子形で抜身の状態を表現している。下部は欠損している。

SD59（200～209）　SD59出土木製品の器種構成は第22表のとおりである。202は平高台で体部にカンナ目が明瞭に残る。203は総黒色の漆椀で、高台内面が薄く削られ低い輪高台である。高台に沿うように5か所直径5～7mmの穴が開けられ再利用されている。

SD82（210～216）　214は総黒色の漆椀で、高台内面が薄く

種類	器種	破片数	比率
祭祀具	箸状木製品	39	26.0
食膳具	漆器椀	2	1.3
	漆器皿	1	0.7
容器	曲物側板	3	2.0
建築材等	板材	16	10.7
	材	43	28.7
	角材	2	1.3
	部材	4	2.6
	割材	8	5.3
農具	木錘	1	0.7
その他	棒状木製品	13	8.7
	燃えさし	5	3.3
	削り屑・切り屑	12	8.0
	用途不明	1	0.7
合計		150	100.0

第18表　SK32木製品器種構成

種類	器種	数量	比率
祭祀具	箸状木製品	39	28.5
食膳具	杓子	1	0.7
容器	曲物側板	4	2.9
	曲物底板	1	0.7
建築材等	板材	14	10.2
	材	35	25.5
	竹材	2	1.5
	部材	3	2.2
	杭	12	8.8
工具	楔	1	0.7
その他	棒状木製品	9	6.5
	燃えさし	2	1.5
	削り屑・切り屑	12	8.8
	用途不明	2	1.5
合計		137	100.0

第19表　SX172木製品器種構成

種類	器種	数量	比率
祭祀具	箸状木製品	118	45.0
容器	曲物側板	10	3.8
	樺皮	1	0.4
服飾具	連歯下駄	1	0.4
	下駄歯	1	0.4
建築材等	板材	48	18.3
	材	57	21.8
	角材	1	0.4
	竹材	2	0.8
	部材	6	2.3
	杭	5	1.9
工具	楔	1	0.4
その他	棒状木製品	3	1.1
	燃えさし	3	1.1
	削り屑・切り屑	1	0.4
	用途不明	4	1.5
合計		262	100.0

第20表　SX175木製品器種構成

種類	器　種	破片数	比率
木　簡	木　　簡	11	9.6
祭祀具	箸状木製品	25	21.9
	刀　子　形	1	0.9
食膳具	漆　器　椀	3	2.6
	漆　器　皿	1	0.9
容　器	曲物側板	4	3.5
	栓	1	0.9
服飾具	板　草　履	1	0.9
建築材等	板　　材	17	14.9
	材	21	18.4
	部　　材	2	1.8
	方　形　材	2	1.8
	杭	5	4.3
その他	棒状木製品	8	7.0
	燃えさし	9	7.9
	削り屑・切り屑	1	0.9
	用途不明	2	1.8
合　計		114	100.0

第21表　SX30木製品器種構成

種類	器　種	破片数	比率
木　簡	木　　簡	1	0.4
祭祀具	箸状木製品	56	23.3
食膳具	漆　器　椀	4	1.7
	漆　器　皿	1	0.4
	杓　　子	4	1.7
容　器	曲物側板	4	1.7
	曲物底板	1	0.4
	指　　物	1	0.4
	桶　側　板	1	0.4
	円　形　板	1	0.4
建築材等	板　　材	46	19.2
	材	84	35.0
	角　　材	4	1.7
	竹　　材	1	0.4
	部　　材	2	0.8
	炭　化　材	2	0.8
	杭	17	7.1
その他	柄	3	1.3
	棒状木製品	2	0.8
	燃えさし	1	0.4
	削り屑・切り屑	3	1.3
	用途不明	1	0.4
合　計		240	100.0

第22表　SD59木製品器種構成

削られ低い輪高台である。

P117（217～224）　箸状木製品がまとまって出土している。地鎮などの祭祀に使用された可能性があるが、完形品はない。礎板は222がスギ、223はクリ、224はクリの丸太を半割にしたものである。

SA1（236～246）　SA1は直径3～7cm前後の比較的細い芯持ちの丸太を使用している。

SA2（247～255）　SA2は247・252の角材や248～251・255の芯持ち丸太、253の半割材や254の分割材など様々な材を使用している。太さは3～6cm前後とSA1同様、比較的細い材を使用している。

包含層他出土（256～275）　260は低い高台を持つ漆器小皿でⅢ期と見られる。261は総黒漆塗りの平高台の椀でⅢ期である。273の杭は、火葬跡の炭化物と骨が散布する地点に、刺さった状態で検出されている。上部が一部炭化している。

G　木　　簡

（図版49・51・52・54・55・97・99・100・102）

（第23表）

本遺跡では一次調査から二次調査までの間で17点（報告分）の木簡が出土している（第23表）。主に卒塔婆と呪符木簡と将棋の駒である。出土土器の年代から14世紀代のものと考えられる。木簡の現状であるが、調査時点でかなり墨痕が薄いものもあったが、かろうじて判読できる状態であった。しかし、調査時から7年経過し、保存処理までの経年変化もあり、墨痕は更に薄くなっているものがほとんどである。したがって、本報告以前に『木簡研究』第21号［石田1999］で報告している以上の釈読は困難であった。以下、釈文などの変更は行なわないが、いくつか新たに指摘できることなどを述べるにとどめる。

SX30（166～168・181・183～187・191・192）　自然流路SX30からは11点の木簡が出土しているが、内訳は卒塔婆2点、呪符2点、墨痕のない木簡7点である。墨痕のない木簡のうち、上端が山形になる圭頭で両側面に2か所の切り込みが入る五輪形をなすものが3点、上端が圭頭で下端がやや細くなるものが3点出土している。この墨痕のない木簡が単独で使用されたのか、ほかの木簡とセットで使用されたのか、または未使用のまま廃棄されたのかは不明である。出土状況を見ると墨痕のない木簡はまとまって出土しており、同時に廃棄されたと推測される。166は2つに折れており、下部は乾燥により変形・収縮している。上端を圭頭状に削り、下端を細くしている。一文字目は金剛界大日如来を意味する種字「𑖨𑖿（バン）」でその下に「南无」までは判読できるが、その下は不明瞭である。木簡研究の報告では〔☆カ〕とされ、五芒星が書かれていた可能性がある。五芒星は陰陽道で

No.	報告№	出土地点	層位	釈　文	長×幅×厚（mm）	型式	木取	樹種	備　考
1	98	SK31	5	「 □ □ □〔天ヵ〕 ］ 南无大日如来□〔忌ヵ〕□ □ □□□ □□□ 」	219×38×4	051	柾目	スギ	『木簡研究』第21号（9） 卒塔婆。裏面一部炭化、下端尖る
2	166	SX30 17A22	不明	「□〔𑖨𑖿（バン）ヵ〕南无 □□□ □□□ □〔☆ヵ〕	（319）×30×3	051	柾目	スギ	『木簡研究』第21号（4）上端圭頭、下端を尖る。卒塔婆
3	167	SX30 20A21	確認面下20cm 基本土層③	□ □（符籙ヵ）急々如□〔律ヵ〕 令　□」	（206）×24×2	051	柾目	スギ	『木簡研究』第21号（2） 呪符木簡。上端一部欠損
4	168	SX30 20A22	確認面下20cm 基本土層③		251×34×2		柾目	スギ	上端圭頭・両側面2か所切り込み下端一部欠損。墨痕？
5	181	SX30 17B8	11	「＜𑖨（バン）南无大日如来」	322×35×4	033	板目	スギ	『木簡研究』第21号（3） 卒塔婆。両側2か所切り込み
6	183	SX30 17A23	12		a）73×37.5×3.7 b）115×38×3.4		柾目	スギ	上端圭頭・両側面2か所切り込み中央欠損、下端欠損だが細くなる。墨痕なし
7	184	SX30 17A24	12		（188.5）×38×5.7		柾目	スギ	上端圭頭・両側面2か所切り込み中央、下端欠損だが細くなる。墨痕なし
8	185	SX30 17A24	12		246×23.5×3.5		柾目	スギ	上端圭頭、下端細くなる。 墨痕なし
9	186	SX30 17B3	12	「（符籙）急々如律令布」	267×35×2	051	柾目	スギ	『木簡研究』第21号（1） 呪符木簡
10	187	SX30 17A24	12		270.5×27×5		柾目	スギ	上端圭頭、下端細くなる。 墨痕なし
11	191	SX30	9～11層？		（92）×（18）×1				上端圭頭、下端欠損。墨痕なし。№192と同一か
12	192	SX30	9～11層？		（122）×16×1.5	059			上部折り取り、下部細くなる。墨痕なし。№191と同一か
13	200	SD59	2		（124）×28×2		板目	スギ	取上げ№71。上端欠損、下端尖る。墨痕なし
14	262	4A6	包含層	・銀将」 ・□〔金ヵ〕　」	（23）×24×8	061			『木簡研究』第21号（8） 将棋の駒「銀将」
15	263	25A 中央		「□ □（符籙ヵ）	（99）×42×2	019	板目	スギ	『木簡研究』第21号（7） 呪符木簡
16	264	一次調査 20T		□天□形□〔星ヵ〕急々如□〔律ヵ〕× □□〔天ヵ〕□□急々如律□〔令ヵ〕	（125）×（50）× （5）	081	柾目	スギ	『木簡研究』第21号（5）（6） 呪符木簡
17	265	不明	不明		（111）×31×6				上端圭頭、下部欠損。 墨痕なし

第23表　木簡一覧

使用される記号である。陰陽道と密教が混合した卒塔婆の形態である。167は上端が圭頭状で一部欠損し、下端を尖らせている。□ □（符籙ヵ）急々如□〔律ヵ〕令　□」と書かれた呪符である。一文字目は明瞭でないが符籙と考えられ、「鬼」らしき文字が見える。「律」も薄れて明瞭ではないが、前後の文意から判断している。また、その下に間をおいて墨痕が見られるが、薄く不明瞭である。「急々如律令」の呪符は藤原京から出土した7世紀末のものが現在最も古く、中世に最も盛行し現在も使用されている。181も卒塔婆で完形品である。上端を圭頭状に削り、上端の両側面から2段の切り込みを入れ五輪形をなし、下端を尖らせている。板の厚みは均一でなく上部ほど薄くなる。表は「＜バン南无大日如来」と書かれている。「来」は五画目の縦線がゆったりと長く引かれている。裏面にも墨痕らしきものもあるが不明瞭である。186は呪符で完形である。上端を平坦に切り、下端を尖らせている。「（符籙）急々如律令布」と書かれている。符籙は小さな「口」が横2列縦3列、計6個書かれ、その右にも縦長の口の中にさらに口を書いている。「日」を書いた可能性もある。さらに「尸」の下に一画目を欠く「鬼」の文字が見える。古代～中世には病気や災いをもたらすのは鬼であると考えられており、鬼を封じ、その力を抑止する意味があるといわれる。

SK27および火葬跡と木簡の関連　SX30から出土したこれらの卒塔婆、呪符と北側にある火葬跡とその中に掘られた小土坑SK27との関連を検討する。木簡を含む木製品は17グリッドと20グリッドに集中するが、木簡以外の木製品は9層のガツボ層から出土している。木簡は11点中6点が17グリッドの11・12層の河床に近い層に集中し、ほか2点は対岸に近い20グリッドの比較的上層からである。166の卒塔婆がSK27の南約4mと最も近くで出土している。166からさらに4mほど南のところで186の呪符、さらに2mほど西南で183の卒塔婆が出土している。186の東2mほどの位置で183～185・187

の墨痕のない木簡が出土しているが、重なり合うような出土状況ではない。166の出土層位は不明で181は11層から、183～187は12層からの出土である。11・12層はシルト層である。出土状況から元位置から大きく動いてはいないように思われるが、SK27および火葬跡と直接関係があるとは言いがたい。卒塔婆と呪符が近くで出土しているが、葬送儀礼には呪符が使用されることから、一緒に使用されたものであろう。20グリッドで出土している2点の木簡は、SX30の18グリッドから南東が、洪水堆積で何度も切られる状態であったことから、元位置を保っていない可能性が高い。ほかの木簡と本来一緒であった可能性もある。SX30では木簡のほかに194の刀子形が出土しており、周辺で祭祀が行われていたのは間違いないであろう。

SK31（98）　98は完形の卒塔婆で上端は平坦に切り、下端を尖らせる。また、裏面の下部の一部が炭化している。全体に墨痕が薄く、「南无大日如来」の上に墨痕、両脇と下にも文字が見られるが不明瞭である。「日」の右は［天ヵ］とされる。三行書かれていたとすると左右の文字は全体が残っていないようである。したがって、大きな板から「南无大日如来」の文字の部分のみを切り取り、卒塔婆として再利用した可能性もある。

SD59（200）　200の上端は欠損しているが、下端は削られ尖る。厚さは2.0mmと極めて薄い。墨痕があるようだが不明瞭である。形態から荷札・付け札の可能性が高い。

包含層出土（262～265）　262は将棋の駒で本来は遊戯具とすべきであろう。銀将と見られ裏面には黒漆で「□（金ヵ）」と書かれる。263は下部を欠損する。墨痕が不明瞭であるが、残存する墨痕から符籙とみられる。264は一次調査で出土した木簡で、保存処理後接合した。二行書きで一行目に□天□形□〔星ヵ〕急々如□〔律ヵ〕×、二行目に□□〔天ヵ〕□□急々如律□〔令ヵ〕とある。一行目の天□形星は天形星（木星、疫神を追い払う）と同一であれば、疫病の守り札であろうか。265は出土地点不明である。上端を圭頭に加工している。下部は欠損している。

H　SK27出土人骨（第23図、第24表）

SK27から採取した人骨は笹川一郎氏（日本歯科大学新潟歯学部解剖学教室）に鑑定を依頼し、第24表（部位・名称などまで判明したもの）の結果を得た。ほかに頭蓋片（頭蓋冠）などがある。人骨は焼骨であったため歯冠のエナメル質は存在せず、歯冠象牙質のみ認められる。象牙質の咬合両面は平坦なので、焼か

第23図　SK27出土人骨

No.	部位	名　称　ほか
1	手根骨	左舟状骨
2		有鉤骨の有鉤骨鉤の部分（左右不明）
3		小菱形骨（左右不明）
4	指　骨	足の親指の末節骨（左か）
5		手の末節骨（2、3、4指のいずれか、左右不明）
6	歯	左上顎第一小臼歯（推定）
7		左下顎大臼歯歯冠（第一か第二大臼歯）

第24表　SK27出土人骨

れたときの変性の可能性もあるが、象牙質まで咬耗が進んでいた可能性もある。焼骨は縮小・変形し量もわずかなことから、性別・年齢の判断は困難であったが、歯の状態から成人と考えられる。歯冠象牙質の形が咬耗であるなら、かなり年配ではあるが無歯顎になるほどの老人ではないという結果であった。

5　ま　と　め

A　集 落 構 成

砂山中道下遺跡は調査範囲が狭く遺跡全体の把握は困難だが、集落構成を確認する。集落の範囲は東西140mでさらに南北に広がっていると見られるが、今回検出された遺構は集落の中心部分と考えられる。13世紀末に本格的に自然堤防上の微高地に進出し、14世紀代まで存続していたと考えられる。

1）掘立柱建物について

集落の構成を最も規制しているのは南北に流れる自然流路SX30である。これを境に東西に建物が並ぶ。また、溝状遺構のほとんどが南北にあわせて掘削されている。この溝状遺構に直行するように、主軸を東西にあわせた掘立柱建物が8棟中4棟（SB1、SB3、SB5、SB8）ある。SB4は全体を検出できていないが、建物の柱間は一般に桁行きが梁行より長いということを考え合わせると、SB4も東西棟に入り5棟になる。このことから集落は、南北溝と東西棟建物で構成されていたことがわかる。また、15・16グリッドの掘立柱建物群は、何度も建て替えが行なわれていることから、集落の中心であった可能性が高い。

2）周溝建物について

SB2は8棟の建物中でも特異な建物で、長方形の建物がほとんどを占める中で2間×2間（22.1m^2）の方形建物で、四方を溝状遺構SD79・81・138・204（南北8.5m×東西13.5m）で囲まれる。このように集落の中で、溝で囲まれる掘立柱建物（周溝建物）は、特殊な性格を持った建物と考えられる。集落の仏堂などが考えられるが、仏具などは出土しておらず詳細は不明である。

県内に同様な周溝を持つ中世の建物が検出されている。仏堂とされているものに柏崎市田塚山遺跡群B地区第225号建物、胎内市下町・坊城遺跡B地点第33号建物がある。明確に仏堂とは判明していない建物では、胎内市下町・坊城遺跡B地点第36号建物、同市江上館第6号建物、新発田市宝積寺館建物1・2・5、同市住吉遺跡、見附市片桐遺跡、上越市保坂遺跡2区に類例がある［水澤2001b］。

3）SK31・32について

周溝建物SB2と溝が掘削された後に土坑SK31が掘削され、その後SK32が掘られている。SK31は卒塔婆（98）が出土していることから墓の可能性もあるが、ほかの木製品も多数出土しており断定は困難である。また、SK31・32から箸状木製品やウリ等の種子が、多数出土（特にSK31は長軸の中央に細長く分布）したことから、トイレ遺構の可能性もあると考え、SK32の4層の土壌について花粉分析と寄生虫卵分析を行なった。しかし、寄生虫卵は全く検出されなかった（第Ⅴ章2参照）。4層のみの限られた分析であったためかは不明であるが、トイレ遺構である可能性はほとんど無いという結果であった。全ての層の分析を行なっていれば、違う結果が得られた可能性もあったが、サンプリングは4層のみであった。また、同層から栽培植物のイネ、アワ、ヒエ、オオムギ、コムギ、ムギ類、マメ類、エゴマ、メロン類などが検

出され、14世紀代の農作物の種類が判明した。また、当時の衣類の主体であったアサも確認された。

SK31・32の性格については、周辺での今後の資料の蓄積を待って、再検討が必要であろう。

B　中世火葬について

越後の中世墳墓は、墳丘を持ち骨臓器を伴う火葬墓が、吉川町河沢塚［室岡1990］、小千谷市岡林古墓がある。墳丘を持たないものでは、柏崎市千古塚［品田1990］では方形基壇墓、新発田市宝積寺館跡［田中ほか1990］では火葬墓、長岡市三貫梨遺跡［小林ほか1986］では土葬墓と火葬墓、火葬跡が検出されている。新発田市宝積寺では女性とみられる火葬骨が出土している。また、近年、新潟市浦廻遺跡［本間2003］では河川または沼沢湿地と見られるところから、人骨や獣骨、108点に及ぶ卒塔婆や、呪符、柿経が出土している。墳墓ではないが、中世の葬送の様子を知る貴重な資料となっている。

次に本遺跡で検出された火葬跡と火葬跡上に掘られた土坑SK27について検討する。火葬跡は複数の建物が密集する集落の中心から、わずかに12mしか離れていないが、間にSD59とSD23の護岸が施された堀があり、建物群とは区画された場所である。自然流路SX30の西岸である。火葬跡はSX30に向いわずかに傾斜するがほぼ平坦面に焼土があり、その上に薄く南北2.0m、東西1.36mの範囲で不整形に藁灰が広がる。特に土坑や、通風のための溝を掘削している様子は見られない。灰の広がる方向から北枕とみられるが、伸展葬か屈葬かは不明である。12世紀代に浄土信仰を受容したことにより、側臥屈葬＝北枕西向合掌の土葬墓が出現し、三貫梨遺跡でも確認されている。火葬時の姿勢についても同様と考えられるが、検出状況からは確認できない。

SK27の近くで藁灰と骨片が厚く集中しているのは、火葬後骨を集め骨蔵器に収納したためであろう。その骨蔵器は上記の例に習えば墳丘を持つ、持たないは別として墳墓に埋葬されたものと考えられる。この場合、骨蔵器を納めたものを墓とすれば、SK27を墓とするのには問題があろう。SK27からは骨片・灰とともに漆器皿が正位の状態で出土している。漆器皿は葬送儀礼等に使用後、埋納した可能性もある。中世墓は寺院と隣接関係にあることが多いが、周溝を持つ建物SB2が集落の寺院に当る場合、隣接して墓域があった可能性もある。または、霊場への納骨という場合も考えられる。呪符や卒塔婆などの木簡もSX30を中心に出土しているが、火葬跡やSK27との関係は、出土状況からは見出せなかった。

中世の阿賀北地域には、いくつかの葬送地や霊場が知られる。岩船郡神林村小岩内の背後にある嶽薬師は、12世紀中葉から「菟牟礼山」と称され、その裾野に広がる荒川の氾濫原は「とりべの」と呼ばれる葬送地であった可能性がある。白河荘の蓮台野も中世の霊場であった。鎌倉時代の奥山荘と荒河保の境界地には入出野があり、付近の村上山（韋駄天山）には墓地があった［高橋1999］。奥山荘と加地荘との境にも墓地や霊場などの葬送地があった可能性が考えられる。

第Ⅴ章　自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

1　はじめに

本報告では、野中土手付遺跡・砂山中道下遺跡の発掘調査成果から課題とされた、1）木製品の樹種同定、2）種実遺体による植生及び古環境の推定、3）トイレ遺構と考えられる土坑の調査、の3点について自然科学的分析手法を用いて検討する。

2　木製品の樹種同定

A　試　　料

試料は、古墳時代前期及び平安時代の野中土手付遺跡から出土した木製品160点、14世紀を主体とする砂山中道下遺跡から出土した木製品185点の合計345点であり、いずれの試料も切片の状態にある。試料の詳細は、結果とともに表に示す。

B　分析方法

切片を容器からシャーレに移し、水を加えて乾燥しないようにする。双眼実体顕微鏡を用い、透過光で観察しながら木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の切片を拾い出す。拾い出した切片は、スライドガラスに載せて、ガム・クロラール（抱水クロラール，アラビアゴム粉末，グリセリン，蒸留水の混合液）で封入し、プレパラートを作製する。作製したプレパラートは、生物顕微鏡で木材組織を観察し、その特徴から種類を同定する。

C　結　　果

結果を第25，26表に示す。試料は、針葉樹8種類（アカマツ・マツ属複維管束亜属・マツ属単維管束亜属・モミ属・スギ・ヒノキ科・イヌガヤ・カヤ）、広葉樹21種類（ヤナギ属・ハンノキ属ハンノキ亜属・ハンノキ属・ブナ属・コナラ属コナラ亜属クヌギ節・コナラ属コナラ亜属コナラ節・クリ・ケヤキ・ニレ属・ヤマグワ・モクレン属・サクラ属・アカメガシワ・キハダ・サンショウ属・ウルシ・カエデ属・ハリギリ・コシアブラ・エゴノキ属・トネリコ属）とイネ科タケ亜科に同定された。なお、切片中には、3断面（木口・柾目・板目）が揃っていないものや切片が斜めであり観察が困難なもの、保存状態が悪いものがあり、これらの中には種類の同定に至らず針葉樹、広葉樹と表記したものがある（9点）。以下に、各種類の解剖学的特徴等を記す。

アカマツ（*Pinus* subgen. *Diploxylon*）　　マツ科

軸方向組織は仮道管と垂直樹脂道で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は急～やや緩やかで、晩材部の幅は広い。垂直樹脂道は晩材部に認められる。放射組織は仮道管、柔細胞、水平樹脂道、エピセリウム細胞で構成される。分野壁孔は窓状となる。放射仮道管内壁には顕著な鋸歯状の突起が認められる。放射組織は単列、1-15細胞高。

第25表　樹種同定結果（野中土手付遺跡）（1）

遺物№	報告№	地　　点	層位	遺物種類	木取り	樹　　種	備　　考
3	2	SB1-SK7		柱根	丸木	クリ近似種	年輪なし・組織収縮
1	3	SB1-SK8か		柱根	丸木	モクレン属近似種	保存悪
2	4	SB1-SK9か		柱根	丸木	アカメガシワ	
37	7	SB4-SA1-1		杭	丸木	ブナ属	
1108	8	SB4-SA1-2		杭	丸木	クリ？	年輪なし
39	9	SB4-SA1-4		杭	丸木	エゴノキ属	
44	10	SA2-3		杭	芯外し分割材	クリ	
45	11	SA2-4		杭	芯外し分割材	クリ	
47	12	SA2-6		杭	丸木	クリ	
48	13	SA2-7		杭	半割材	クリ近似種	木口面斜め
49	14	SA2-8		杭	芯外し分割材	クリ	
50	15	SA2-9		杭	丸木	コナラ属コナラ亜属コナラ節	
51	16	SA3-1		杭	丸木	サクラ属	
52	17	SA3-2		杭	丸木	ハンノキ属	節部分
53	18	SA3-4		杭	丸木	アカマツ	
54	19	SA3-5		杭	丸木	マツ属複維管束亜属	
55	20	SA3-6		杭	丸木	サクラ属	
56	21	SA3-7		杭	丸木	マツ属複維管束亜属	
22	22	11B4P4		柱根	丸木	コシアブラ	
20	23	14B7P1	1	杭	板目	スギ	
35	24	SE1	2	箸状木製品		スギ	
33	25	SE1		曲物側板	柾目	スギ近似種	分野壁孔観察できない
98	27	SD16 14B3	1	木簡	柾目	スギ	
117	28	SD20	1	箸状木製品		スギ	
116	29	SD20	1	曲物底板	柾目	スギ	
112	32	SD20	1	弓か	丸木	カヤ	
102	33	SD20	1	横槌	芯持材	ヤナギ属近似種	板目が小さい
118	34	SD20	1	板材	板目	スギ	
119	35	SD20	1	板材	板目	スギ	
115	36	SD20	1	板材	板目	マツ属複維管束亜属	
113	37	SD20	1	分割材	芯外し分割材	クリ	
114	38	SD20	1	方形材	板目	クリ近似種	年輪なし
143	39	SD20	4	盤	横木・柾目	ケヤキ	
140	40	SD20	4	曲物底板	柾目	スギ	
142	41	SD20	4	方形材	板目	スギ	
141	42	SD20	4	方形材	板目	スギ	
157	43	SD20		板材	柾目	スギ	
150	44	SD20北T		方形材	柾目	スギ	
158	45	SD21	1	円形版		スギ	
249	46	SD24 13A18	Ⅱc	棒状木製品		スギ	
254	47	SD24 13A19	Ⅱc	曲物底板	板目	スギ	
545	49	SD24 13B4	2	柄か		アカマツ	
633	50	SD24 13B6	2	柄か		スギ	
306	51	SD24 14A16	2	斎串	板目	スギ	
239	52	SD24 13A16	4	斎串	板目	スギ	
240	53	SD24 13A16	4	棒状木製品		スギまたはヒノキ科	年輪なし
238	54	SD24 13A16	4	柄		スギ	
231	55	SD24 13A16	4	用途不明品	柾目	スギ	
230	56	SD24 13A16	4	板材	板目	モクレン属	
237	57	SD24 13A16	4	加工材	丸木	カエデ属	
327	58	SD24 14A21	5	棒状木製品	板目	スギ	
326	59	SD24 14A21	5	板材	柾目	スギ	
328	60	SD24 14A21	5	用途不明品	板目	スギ	
319	61	SD24 14A16	青灰上	刀子形	板目	スギ	
320	62	SD24 14A16	青灰上	斎串	板目	スギ	
318	63	SD24 14A16	青灰上	斎串か	板目	スギ	
317	64	SD24 14A16	青灰上	曲物側板	板目	ヒノキ科	分野壁孔観察できない
519	65	SD24 13B2	青灰上	用途不明品	柾目	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	
265	66	SD24 13A19	川砂上	楔か？	柾目	クリ	
601	67	SD24 13B5	川砂上	火鑽臼	柾目	スギ	
552	68	SD24 13B4	川砂上	柄か		スギ	
290	69	SD24 13A25	川砂上	棒状木製品	丸木	イヌガヤ	
298	70	SD24 13A25	川砂上	加工材	板目	スギ	
553	71	SD24 13B4	川砂上	加工材	芯外し分割材	コナラ属コナラ亜属コナラ節	
698	73	SD24 13B8		柄か		スギ	
661	74	SD24 13B7		棒状木製品		スギ	
262	75	SD24 13A19		棒状木製品		スギ	
681	76	SD24 13B7		棒状木製品		スギ	
269	78	SD24 13A20		曲物底板	柾目	スギ	
797	79	SD24		糸巻	柾目	スギ	
798	80	SD24		木鏃	芯持材	針葉樹	保存悪
510	81	SD24 13B1		木錘	丸木	トネリコ属	
718	82	SD24 13B9		横槌	芯外し分割材	コナラ属コナラ亜属コナラ節	
288	83	SD24 13A25		板材	板目	スギ	
76	88	SD24 13B4		杭	柾目	ヒノキ科	分野壁孔観察できない
94	89	SD24		杭	丸木	ヤナギ属近似種	年輪なし
66	90	SD24		杭	丸木	ハンノキ属ハンノキ亜属	
96	91	SD24 13B7		杭	丸木	ヤナギ属近似種	年輪なし
742	94	SD24T		箸状木製品		スギ	
743	95	SD24T		箸状木製品		スギ	
747	96	SD24T		棒状木製品		スギ	
751	97	SD24T		棒状木製品	丸木	マツ属複維管束亜属	

第25表　樹種同定結果（野中土手付遺跡）（2）

遺物№	報告№	地　　点	層位	遺物種類	木取り	樹　　種	備　　考
735	98	SD24東西T		部材	柾目	スギ	
750	99	SD24T		杭	柾目	クリ近似種	年輪なし
749	100	SD24T		板材	板目	スギ	
745	101	SD24T		板材	板目	スギ	
434	102	SD24’　12B9	最上	箸状木製品		スギ	
228	103	SD24’　12A25	Ⅱc	火鑽臼	板目	スギ	
209	104	SD24’　12A24	1	曲物側板	柾目	スギ	
210	105	SD24’　12A24	1	曲物底板	柾目	スギ	
733	106	SD24’	1	木簡	板目	スギ	
734	107	SD24’	1	木簡	板目	スギ	
370	108	SD24’　12B5	2	箸状木製品		スギ	
371	109	SD24’　12B5	2	箸状木製品		スギ	
455	110	SD24’　12B10	2	箸状木製品		スギ	
415	111	SD24’　12B9	2	柄か		スギ	
454	112	SD24’　12B10	2	刀子柄	柾目	スギ	
452	113	SD24’　12B10	2	棒状木製品		スギ	
817･818	114	SD24’　12B4	2	棒状木製品		スギ	
357	115	SD24’　12B5	2	木簡	板目	スギ	
368	116	SD24’　12B5	2	斎串	板目	スギ	木口なし
367	117	SD24’　12B5	2	斎串	柾目	スギ	木口なし
833	118	SD24’　12B5	2	板材	板目	スギ	
835	119	SD24’　12B9	2	板材	板目	スギ	
813	120	SD24’　12B4	2	曲物底板	板目	スギ	
359･360	121	SD24’　12B5	2	曲物底板	柾目	スギ	
358･404	122	SD24’　12B5	2	曲物底板	柾目	スギ	
417	123	SD24’　12B9	2	部材	板目	スギ	
453	124	SD24’　12B10	2	部材	柾目	スギ	
386	125	SD24’　12B5	2	加工材	板目	スギ	
834	126	SD24’　12B5	2	杭	丸木	マツ属複維管束亜属	
831	127	SD24’　12B4	3	曲物底板	柾目	スギ	
832	128	SD24’　12B4	3	曲物底板	柾目	スギ	
215	129	SD24’　12A24	最下	箸状木製品	柾目	スギ	
804	130	SD24’　12A19		箸状木製品		スギ	
229	131	SD24’　12A25		板材	柾目	スギ	
344	132	SD24’　12B4		板材	板目	スギ	
407	133	SD24’　12B5		木簡	柾目	スギ	
405	134	SD24’　12B5		木簡	板目	スギ	
220	135	SD24’　12A24		曲物底板	板目	スギ	
180	136	SD24’　12A19		有台盤		ケヤキ近似種	結晶細胞観察できない
337	137	SD24’　12B4		用途不明品	板目	コナラ属コナラ亜属コナラ節	
845	138	SD36 12A21		杭	丸木	クリ近似種	年輪なし
936	139	6B7	Ⅱc	木簡		スギ	
940	140	8B2	Ⅱc	脚付盤		モクレン属	
972	141	11B2	Ⅱc	曲物底板	柾目	スギ	
896	142	12A20	Ⅱc	棒状木製品		スギ	
884	143	12A19	Ⅱc	棒状木製品		スギ	
895	144	12A20	Ⅱc	板材	柾目	スギ	
908	145	12A25	Ⅱc	火鑽臼	板目	スギ	
988	149	11B6	Ⅲ	盤か？	柾目	ケヤキ	
949	150	10B4	Ⅲ	棒状木製品		スギ	
984	152	11B6	Ⅲ	曲物底板	板目	スギ	
876	153	11A	Ⅲ	曲物底板	板目	スギまたはヒノキ科	収縮激しい
985･986	154	11B6	Ⅲ	曲物底板	柾目	スギ	
1021	155	12B9	Ⅲ	曲物底板	板目	スギ	
1013	156	12B5	Ⅲ	曲物底板か	板目	スギ	
948	157	10B1	Ⅲ	浮子か		スギ	
857	158	10A25	Ⅲ	板材	板目	スギ	
1023	160	12B9	Ⅲ	部材	板目	スギ	
1019	162	12B9	Ⅲ	弓か	丸木	カヤ	
870	163	11A10	Ⅲ	杭か	柾目	スギ	
856	164	10A25	Ⅲ	杭	丸木	ヤマグワ	
1033	165	14B2		斎串	板目	針葉樹	年輪なし・保存悪
68	166	14A23		杭	半割材	トネリコ属	
72	167	14A24		杭	丸木	カエデ属	
73	168	14A23		杭	芯持分割材	トネリコ属	
64	169	14B5		杭	芯外し分割材	トネリコ属	
69	170	14A25		杭	丸木	アカメガシワ	
67	171	14A23		杭	丸木	ニレ属	
65	172	14B10		杭	丸木	クリ	年輪なし
62	174	14B5		杭	丸木	クリ	
57･59	175			杭	丸木	モクレン属	
1042	176	土柱2s		箸状木製品	柾目	スギ	
1038	177	土柱2s	砂層	曲物底板	柾目	スギ	
1059	179	T13		用途不明品	柾目	スギ	
1058	180	T13		板材	柾目	スギ	
1077	181	暗渠		曲物底板	柾目	スギ	
1073	182	暗渠		板材	柾目	スギ	
1098	183	表土		板材	板目	スギ	

第26表　樹種同定結果（砂山中道下遺跡）（1）

遺物No.	報告No.	地　　点	層位	遺物種類	木取り	樹　　種	備　　考
1023	1	SB3-P193		柱根	芯持丸太	クリ	
988	2	SB3-P96		柱根	芯持丸太	カエデ属	
1028	3	SB6-P197		柱根	芯持丸太	クリ	
1012	5	SB7-P126		柱根	芯持丸太	ブナ属	
1033	6	P201		柱根	芯持丸太	クリ	
1016	7	SB8-P169		礎板	板目	コナラ属コナラ亜属コナラ節	
1019	8	SB8-P180		柱根	芯外・分割材	ケヤキ	
1020	9	SB8-P182		柱根	芯外・分割材	コナラ属コナラ亜属コナラ節	
444	10	SE17	4	箸状木製品	棒材	スギ	
505	14	SE17	5	板材・井戸側縦板	板目	スギ	
521	15	SE17	5	板材・井戸側縦板	柾目	スギ	
1793	16	SE17		板材・井戸側縦板	板目	スギ	
539	20	SE17	6	鍬	柾目	コナラ属コナラ亜属コナラ節	
559	21	SE17	6	扇	柾目	ヒノキ科	分野壁孔観察不可
537	22	SE17	6	板材・井戸側縦板	板目	スギ	
544	23	SE17	6	板材・井戸側縦板	板目	スギ	
534	24	SE17	6	板材・井戸側縦板	板目	スギ	
561	26	SE17	6-砂層	織機？	板目	スギ	
1803	29	SE17	井戸底	部材・井戸側横桟	角材・板目	スギ	
1797	30	SE7	井戸底	部材・井戸側横桟	角材・板目	スギ	
1800	32	SE17	井戸底	部材・井戸側横桟	角材・柾目	スギ	
1801	33	SE17	井戸底	部材・井戸側横桟	角材・板目	スギ	
591	35	SE129	8	連歯下駄	板目	ケヤキ	
1805	36	SE129		曲物・井戸側		スギ	
1806	37	SE129		曲物・井戸側	内：柾目，外：板目	スギ	
1807	38	SE129		曲物・井戸側	内：板目，外：上下柾目	スギ	
592	39	SE129	8	曲物・井戸水溜	柾目	スギ	
615･617	44	SE171	4	箸状木製品	棒材・柾目	スギ	
622	45	SE171	4層底部一括	部材	柾目	スギ	
663	48	SE171		折敷	柾目	スギ	
570	49	SE171		部材・井戸側横桟	角材・柾目	スギ	
625	50	SE171		部材・井戸側横桟	角材・柾目	スギ	
1824	53	SE171		部材・井戸側横桟	角材・板目	スギ	
670	55	SE171		板材・井戸側縦板	板目	スギ	
634	56	SE171		板材・井戸側縦板	板目	スギ	
1811	57	SE171		板材・井戸側縦板	柾目	スギ	
1817	58	SE171		板材・井戸側縦板	板目	スギ	
1815	60	SE171		板材・井戸側縦板	柾目	スギ	
651	61	SE171		板材	柾目	スギ	
1831	63	SE171		曲物・井戸水溜	内：板目，外：3段柾目	スギ	
673	64	SE200	3	箸状木製品	棒材・板目	スギ	
3	66	SK24	3	杭	角材・板目	スギ	
14	67	SK24	6	箸状木製品	棒材・柾目	スギ	
24	68	SK27		漆塗皿	横木・柾目	ケヤキ	
23	69	SK27		杭か	角材・板目	スギ	
25	70	SK29	3	箸状木製品	棒材・板目	スギ	
29	71	SK31	1	箸状木製品	棒材・板目	スギ	
52	76	SK31	3	箸状木製品	棒材	広葉樹	
65	77	SK31	3	杓子形木製品	板目	スギ	
60	78	SK31	3	杓子形木製品	柾目	スギ	
123	79	SK31	3	漆塗椀	横木・柾目	ケヤキ	
122	80	SK31	3	織機？	板目	コナラ属コナラ亜属コナラ節	
107	81	SK31	3	部材	板目	スギ	
1791	82	SK31	3層?	部材か	棒材・板目	マツ属単維管束亜属	
184	90	SK31	4	紡錘車？	柾目	スギ	
130	91	SK31	4層1	楔か	柾目	スギ	
197	92	SK31	4	板草履	板目	スギ	
196	93	SK31	4	板草履	板目	スギ	
148	94	SK31	4	曲物側板	柾目	スギ	
178	95	SK31	4	板材	柾目	スギ	
198	96	SK31	4	部材	柾目	スギ	
183	97	SK31	4	用途不明品	板目	スギ	
237	98	SK31	5	木簡	柾目	スギ	
226	101	SK31	5	部材	棒材	スギ	
257	105	SK31	7	円形板	柾目	スギ	
268	106	SK31		曲物底板	柾目	スギ	
267	107	SK31		板材	柾目	スギ	
278	109	SK32	1	棒状木製品	棒材・板目	スギ	
299	113	SK32	3	箸状木製品	棒材・板目	スギ	
351	114	SK32	5	箸状木製品	棒材・板目	スギ	
372	115	SK32	5	木錘	芯持丸太	クリ	
353	116	SK32	5	板材	板目	スギ	
371	117	SK32	5	板材	板目	スギ	
367	118	SK32	5	板材	柾目	スギ	
389	119	SK32	6	棒状木製品	棒材	スギまたはヒノキ科	
421	120	SK32	Ⅲ	漆塗椀	横木・柾目	ケヤキ	
422	121	SK32	Ⅲ	漆塗皿	横木・柾目	ケヤキ	切片が小さい
425	122	SK32		棒状木製品	棒材・柾目	スギ	
1189	123	SX172	1	杭か	板目	クリ	木口なし
1222	124	SX172	2	棒状木製品	板目	スギ	
1209	125	SX172	2	棒状木製品	棒材・柾目	スギまたはヒノキ科	
1230	126	SX172	2	棒状木製品	棒材・板目	スギ	

第26表　樹種同定結果（砂山中道下遺跡）（2）

遺物№	報告№	地　　点	層位	遺物種類	木取り	樹　　種	備　　考
1251	127	SX172	2	曲物底板	柾目	スギ	年輪なし
1266	129	SX172	4	杓子形木製品	柾目	スギ	
1277	131	SX172	5	板材	柾目	スギ	
1293	132	SX172	5	板材	柾目	スギ	
1296	133	SX172	5	杭	芯持丸太	広葉樹（環孔材）	
1299	134	SX172		箸状木製品	横材・板目	スギ	
1309	136	SX172		杭か	分割材・板目	コナラ属コナラ亜属コナラ節	木口切片不可
1308	137	SX172		杭か	分割材・板目	コナラ属コナラ亜属コナラ節	
1305	138	SX172		杭	芯持丸太	サクラ属	
1495	142	SX175	3	箸状木製品	棒材	スギ	
1351	153	SX175	3	板材	柾目	スギ	
1471	154	SX175	3	板材	柾目	スギ	
1500	155	SX175	3	板材	柾目	スギ	
1492	156	SX175	3	板材	柾目	スギ	
1550	160	SX175	4	杭	芯持丸太	キハダ	
1562	161	SX175	5	連歯下駄	板目	ケヤキ	
1558	162	SX175	5	板材	柾目	スギ	
1574	163	SX175	7?	杭	芯持丸太	カエデ属	
1578	165	SX250	4	板材	柾目	スギ	
1066	166	SX30 17A22	基本③	木簡	柾目	スギ	
1073	167	SX30 20A21	基本③	木簡	柾目	スギ	
1078	168	SX30 20A22	基本③	木簡	柾目	スギ	
1074	170	SX30 20A21	基本③	漆塗椀	横木・柾目	モクレン属	
1096	171	SX30 20B10	基本③	板草履	板目	スギ	
1079	172	SX30 20A22	基本③	板材	板目	スギ	道管配列観察不可
1105	173	SX30 17B8	7	漆塗椀	横木・柾目	ケヤキ	
1114	174	SX30 17B8	9	箸状木製品	棒材・柾目	スギ	
1111	177	SX30 17B4	9	栓	棒材・柾目	スギ	
1126	178	SX30 17B9	10	棒状木製品	棒材・柾目	スギ	
1130	179	SX30 17B13	10	板材	柾目	スギ	
1125	180	SX30 17B9	10	板材	柾目	スギ	
1138	181	SX30 17B8	11	木簡	板目	スギ	
1134	182	SX30 17B4	11	杭	芯持丸太	ハンノキ属	
1142	183	SX30 17A23	12	木簡	柾目	スギ	
1145	184	SX30 17A24	12	木簡	柾目	スギ	
1143	185	SX30 17A24	12	木簡	柾目	スギ	
1147	186	SX30 17B3	12	木簡	柾目	スギ	
1144	187	SX30 17A24	12	木簡	柾目	スギ	
1148	188	SX30 17B11	12	漆塗皿	横木・柾目	ハリギリ	
1151	189	SX30 17A23	13	棒状木製品	棒材・柾目	スギ	
1152	190	SX30 17A23	13	用途不明品	柾目	スギ	小道管内壁のらせん肥厚不明
1170	193	SX30 17B3		棒状木製品	棒材	スギ	
1161	194	SX30 T		刀子形か	柾目	スギ	
677	196	SD23		杭	分割材・板目	クリ	
680	197	SD28	3	箸状木製品	棒材・柾目	スギ	
684	198	SD28	3	用途不明品	板目	スギ	
690	199	SD28		棒状木製品	板目	スギ	
703	200	SD59	2	木簡	板目	スギ	
758	201	SD59	3	漆塗皿	横木・柾目	ケヤキ	
759	202	SD59	3	漆塗椀	横木・柾目	ケヤキ	
760	203	SD59	3	漆塗椀	横木・柾目	ケヤキ	
761	204	SD59	3	漆塗椀	横木・柾目	ケヤキ	
777	205	SD59	3	円形板	柾目	スギ	
884	206	SD59	4	箸状木製品	棒材	スギ	
897	207	SD59	5	用途不明品	柾目	スギ	
781･784	209	SD59		棒状木製品	棒材・柾目	スギ	
942	211	SD82	1	用途不明品	柾目	スギ	
964	214	SD82	2	漆塗椀	横木・柾目	ケヤキ	
956	215	SD82	2	板材	柾目	スギ	
977	216	SD82	3	箸状木製品	棒材・柾目	スギ	
1008	221	P117		棒状木製品	棒材・板目	スギ	
1006	222	P117		礎板	柾目	スギ	
998	223	P117		礎板		クリ	
1004	224	P117		礎板	半割材	クリ	
1010	225	P119		柱根	芯持丸太	キハダ	
1015	226	P139		柱根	芯持材	ブナ属	
1017	227	P178		柱根	芯外・分割材	クリ近似種	
1018	228	P179		柱根	芯外・分割材	クリ	
1021	229	P183		柱根	芯持丸太	コナラ属コナラ亜属コナラ節	切片が小さい
1025	230	P194		柱根	芯持丸太	エゴノキ属	
1026	231	P195		柱根		クリ	
1027	232	P196		柱根	芯持丸太	広葉樹（散孔材）	
1031	233	P198		棒状木製品	棒材	スギ	
1029	234	P198		板材	柾目	スギ	
1034	235	P264		柱根	芯持丸太	ハンノキ属ハンノキ亜属	
1035	238	SA1-杭4		杭	芯持丸太	広葉樹（散孔材）	
1036	242	SA1-杭5		杭	芯持丸太	ヤナギ属近似種	
1042	244	SA1-杭11		杭	芯持丸太	ヤナギ属	
1041	245	SA1-杭10		杭	芯持丸太	広葉樹（散孔材）	木口で道管配列観察不可
1039	246	SA1-杭8		杭	芯持丸太	カエデ属	
898	247	SA2-杭191	5	杭	角材・板目	スギ	
934	248	SA2-杭255		杭	芯持丸太	サンショウ属	

第26表　樹種同定結果（砂山中道下遺跡）（3）

遺物№	報告№	地　　点	層位	遺物種類	木取り	樹　　種	備　　考
937	249	SA2-杭259		杭	芯持丸太	カエデ属	
911	250	SA2-杭250	5	杭	芯持丸太	カエデ属	
908	251	SA2-杭201	5	杭	芯持丸太	コナラ属コナラ亜属コナラ節	
905	252	SA2-杭198	5	杭	角材・板目	クリ近似種	
933	253	SA2-杭254		杭	半割材	広葉樹（散孔材）	晩材部の道管配列観察不可
909	254	SA2-杭202	5	杭	分割材・板目	クリ	年輪なし
906	255	SA2-杭199	5	杭	芯持丸太	広葉樹（散孔材）	
1605	257	6A2		棒状木製品	板目	イネ科タケ亜科	
1662	258	15A22		棒状木製品	角材・柾目	スギ	木口小さい
1737	259	不明		棒状木製品	棒材・板目	スギ	横断面なし
1708	260	15B1	3	漆塗皿	横木・柾目	ケヤキ	
1060	261	東側沢		漆塗椀	横木・柾目	ケヤキ	
1679	263	25A中央	包含層	木簡	板目	スギ	
1728	264	一次調査20T		木簡	柾目	スギ	
1692	266	5B4		曲物底板か	柾目	モミ属	
1658	267	15A22	包含層	板材	柾目	スギ	
1647	269	14A-15B	Ⅴ	柱根	芯持丸太	クリ	
1608	270	6A20		柱根	芯持丸太	ウルシ	
1599	272	5A16		杭か	角材・いため	ブナ属	
1675	273	17A17		杭	角材・柾目	スギ	
1694	未報告	7B7		漆塗椀		ブナ属	

マツ属複維管束亜属（*Pinus* subgen. *Diploxylon*）　　マツ科

上記アカマツとほぼ同様の組織が観察できるが、放射仮道管内壁の保存状態が悪く、鋸歯の存在が僅かに確認できる程度であるため、クロマツかアカマツかの区別ができず、複維管束亜属とした。

マツ属単維管束亜属（*Pinus* subgen.*Haploxylon*）　　マツ科

軸方向組織は仮道管と垂直樹脂道で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は急～やや緩やかで、晩材部の幅は広い。垂直樹脂道は晩材部に認められる。放射組織は仮道管、柔細胞、水平樹脂道、エピセリウム細胞で構成される。分野壁孔は窓状となる。放射仮道管内壁は平滑で、鋸歯状の突起は認められない。放射組織は単列、1-15細胞高。

モミ属（*Abies*）　　マツ科

軸方向組織は仮道管のみで構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は比較的緩やかで、晩材部の幅は狭い。放射組織は柔細胞のみで構成される。柔細胞壁は粗く、じゅず状末端壁が認められる。分野壁孔はスギ型で1分野に1-4個。放射組織は単列、1-20細胞高。

スギ（*Cryptomeria japonica*（L. f.）D. Don）　　スギ科スギ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は比較的広い。樹脂細胞はほぼ晩材部に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はスギ型で、1分野に2-4個。放射組織は単列、1-15細胞高。

ヒノキ科（Cupressaceae）

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部付近に認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔は保存が悪く観察できない。放射組織は単列、1-15細胞高。

スギまたはヒノキ科（*Cryptomeria japonica*（L. f.）D. Don and/or Cupressaceae）

野中土手付遺跡（№53，153）、砂山中道下遺跡（№119，125）。軸方向組織が仮道管と樹脂細胞で構成され、樹脂細胞が晩材部付近にのみ認められることから上記スギまたはヒノキ科である。しかし、野中土手付遺跡の№153を除く3点は、切片中に年輪界や晩材部の多くが含まれていないため、晩材部の広さは不明である。また、№153は収縮が激しく分野壁孔や晩材部の広さ等がほとんど観察できない。これらの状況からスギかヒノキ科かを区別することができない。

イヌガヤ（*Cephalotaxus harringtonia*（Knight）K. Koch f.）　　イヌガヤ科イヌガヤ属

軸方向組織は仮道管と樹脂細胞で構成される。仮道管の早材部から晩材部への移行は緩やか。仮道管内壁にはらせん肥厚が認められる。樹脂細胞は早材部および晩材部に散在する。放射組織は柔細胞のみで構成され、分野壁孔はヒノキ型で１分野に1-2個。放射組織は単列、1-10細胞高。

イヌガヤには、基本種であるイヌガヤのほかに変種であるハイイヌガヤがある。本地域の現植生では、ハイイヌガヤは分布しているが、イヌガヤは分布していないことから、今回のイヌガヤも変種であるハイイヌガヤの可能性がある。ただし、木材組織からの分類は困難であり、変種のハイイヌガヤを含む広義の意味でイヌガヤとする。

カヤ（*Torreya nucifera* Sieb. et Zucc.）　　イチイ科カヤ属

軸方向組織は仮道管のみで構成され、樹脂道および樹脂細胞は認められない。仮道管の早材部から晩材部への移行はやや急で、晩材部の幅は狭い。仮道管内壁には２本が対をなしたらせん肥厚が認められる。放射組織は柔細胞のみで構成される。分野壁孔はトウヒ型～ヒノキ型で、１分野に1-4個。放射組織は単列、1-10細胞高。

カヤには、基本種であるカヤのほかに変種のチャボガヤがある。本地域には、現在チャボガヤのみ分布し、カヤは分布していないこのことから、今回のカヤもチャボガヤの可能性がある。ただし、木材組織から分類は困難であり、変種のチャボガヤを含む広義の意味でカヤとする。

ヤナギ属（*Salix*）　　ヤナギ科

散孔材で、道管は単独または2-3個が複合して散在し、年輪界に向かって径を漸減させる。道管の分布密度は比較的高い。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、単列、1-15細胞高。

野中土手付遺跡の３点（№89，91，33）は、いずれの切片も年輪界と晩材部の多くを欠くため、道管配列などの観察が不十分であるため近似種としている。

ハンノキ属ハンノキ亜属（*Alnus* subgen. *Alnus*）　　カバノキ科

散孔材で、管孔は単独または2-4個が放射方向に複合して散在する。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列状に配列する。放射組織は同性、単列、1-30細胞高のものと集合放射組織とがある。

ハンノキ属（*Alnus*）　　カバノキ科

試料は、野中土手付遺跡の№17と砂山中道下遺跡の№182の２点である。上記ハンノキ亜属とほぼ同様の組織を有するが、集合放射組織が認められない。また、野中土手付遺跡の№17は、節部分であり、全体的に組織が歪んでいる。砂山中道下遺跡の№182は切片が小さく、観察範囲が狭い。

集合放射組織を有さない特徴は、ハンノキ属でもヤシャブシ亜属によくみられる特徴であるが、野中土手付遺跡の№17は節部分であり正常な木材組織とは異なる。また、砂山中道下遺跡の№182は観察範囲が狭い。これらの状況から、ハンノキ亜属かヤシャブシ亜属かの区別ができないためハンノキ属としている。

ブナ属（*Fagus*）　　ブナ科

散孔材で、管孔は単独または放射方向に2-3個が複合して散在し、年輪界付近で径を減ずる。道管の分布密度は高い。道管は単穿孔および階段穿孔を有し、壁孔は対列状～階段状に配列する。放射組織は同性～異性、単列、数細胞高のものから複合放射組織までである。

コナラ属コナラ亜属クヌギ節（*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Cerris*）　　ブナ科

環孔材で、孔圏部は1-2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら単独で放射方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20細胞高のものと複合放射組織とがある。

コナラ属コナラ亜属コナラ節（*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Prinus*）　ブナ科

環孔材で、孔圏部は1-2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-20細胞高のものと複合放射組織とがある。

クリ（*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.）　ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は3-5列、孔圏外で急激～やや緩やかに管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1-15細胞高。

野中土手付遺跡の№2，38，99，138、砂山中道下遺跡の№255は切片中に年輪界と早材部の一部が含まれていない。野中土手付遺跡の遺物№2は、全体的に収縮しており、組織の観察が不十分である。砂山中道下遺跡の№227は、切片が小さいため観察範囲が狭い。野中土手付遺跡の№13は木口面の切片が斜めであり、ほとんど柾目に近い状況であった。これらの試料については、クリと断定することができなかったことから近似種としている。

ケヤキ（*Zelkova serrata*（Thunb.）Makino）　ニレ科ケヤキ属

環孔材で、孔圏部は1-2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減、塊状に複合し接線・斜方向の紋様をなす。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-6細胞幅、1-50細胞高。放射組織の上下縁辺部を中心に結晶細胞が認められる。

ニレ属（*Ulmus*）　ニレ科

環孔材で、孔圏部は1-2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減、塊状に複合し接線・斜方向の紋様をなす。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、1-6細胞幅、1-40細胞高。

ヤマグワ（*Morus australis* Poiret）　クワ科クワ属

環孔材で、孔圏部は3-5列、晩材部への移行は緩やかで、晩材部へ向かって管径を漸減させ、のち塊状に複合して接線・斜方向に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-6細胞幅、1-50細胞高で、しばしば結晶を含む。

モクレン属（*Magnolia*）　モクレン科

散孔材で、管壁厚は中庸～薄く、横断面では角張った楕円形～多角形、単独および2-4個が放射方向に複合して散在する。道管の分布密度は比較的高い。道管は単穿孔を有し、壁孔は階段状～対列状に配列する。放射組織は異性、1-2細胞幅、1-40細胞高。

野中土手付遺跡の№3は、道管配列の特徴などからモクレン属と考えられるが、保存状態が悪く道管の穿孔や壁孔等が観察できなかったため近似種としている。

サクラ属（*Prunus*）　バラ科

散孔材で、管壁厚は中庸、横断面では角張った楕円形、単独または2-8個が複合、晩材部へ向かって管径を漸減させながら散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性、1-3細胞幅、1-30細胞高。

アカメガシワ（*Mallotus japonicus*（Thunb.）Mueller-Arg.）　トウダイグサ科アカメガシワ属

環孔材で、孔圏部は3-5列、孔圏外への移行は緩やかで、小道管は漸減しながら単独または2-5個が放射方向に複合して配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、単列、1-30細胞高。

キハダ（*Phellodendron amurense* Ruprecht）　　ミカン科キハダ属

環孔材で、孔圏部は3-5列、孔圏外でやや急激に管径を減じたのち漸減、塊状に複合し接線・斜方向の紋様をなす。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、1-4細胞幅、1-30細胞高。

サンショウ属（Zanthoxylum）　　ミカン科

散孔材で、道管はほぼ単独で散在する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1-3細胞幅、1-30細胞高。

ウルシ（*Rhus verniciflua* Stockes）　　ウルシ科ウルシ属

環孔材で、孔圏部は3-4列、孔圏外への移行は緩やかで、小道管は年輪界に向かって漸減しながら単独または2-4個が放射方向に複合して配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1-3細胞幅、1-20細胞高。

カエデ属（*Acer*）　　カエデ科

散孔材で、管壁は薄く、横断面では角張った楕円形、単独および2-3個が複合して散在し、晩材部へ向かって管径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は対列～交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、1-3細胞幅、1-30細胞高。木繊維が木口面において不規則な紋様をなす。

ハリギリ（*kalopanax pictus*（Thunb.）Nakai）　　ウコギ科ハリギリ属

環孔材で、孔圏部は1-2列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減、塊状に複合し接線・斜方向の紋様をなす。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状または対列状に配列する。小道管内壁にらせん肥厚は認められない。放射組織は異性～同性、1-5細胞幅、1-30細胞高。

コシアブラ（*Acanthopanax sciadophylloides* Fr. et Sav.）　　ウコギ科

環孔材で、孔圏部はやや疎な1列。孔圏外道管は、外側に向かって管径を減じた後、放射方向に2-4個が複合して紋様状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性～同性、1-3細胞幅、1-30細胞高。

エゴノキ属（*Styrax*）　　エゴノキ科

散孔材で、横断面では楕円形、単独または2-4個が複合して、年輪界に向かって径を漸減させながら散在する。道管は階段穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、1-3細胞幅、1-20細胞高。

トネリコ属（*Fraxinus*）　　モクセイ科

環孔材で、孔圏部は1-3列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減する。道管壁は厚く、横断面では円形～楕円形、単独または2個が放射方向に複合し、複合部はさらに厚くなる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、1-3細胞幅、1-40細胞高。

イネ科タケ亜科（Gramineae subfam. Bambusoideae）

試料は、砂山中道下遺跡の№257の1点のみ。切片は縦断面のみで横断面が無いため、組織配列等は観察できない。観察した範囲では放射組織を持たない。繊維細胞と基本組織とが交互に配列している様子が見られる。基本組織は短冊形で、軸方向に連なる様子がみられる。

D 考　　察

野中土手付遺跡から出土した木製品からは、計23種類の樹種が確認された。木製品160点のうちスギが98点を占め、次いでクリが14点と多く、このほかの樹種は1～5点といった傾向を示した（第27表）。本分析結果からは、スギ材が様々な用途に利用されていたことが推定される。ただし、横槌や盤、柱根、杭等では針葉樹材の利用は少なく、広葉樹材の利用が多い傾向にある。また、杭は、クリやスギが利用されるが、全体で18種類の樹種が確認されており、上記した傾向と異なることが指摘される。

一方、砂山中道下遺跡から出土した木製品からは、計20種類の樹種が確認された。木製品185点のうちスギが114点を占め、次いでケヤキ（15点）、クリ（14点）、コナラ節（8点）が多い（第28表）。本分析結果では、野中土手付下遺跡と同様にスギが様々な木製品に利用され、とくに板状の加工を施す製品に特に多い傾向が認められた。ただし、漆器類や柱根、礎板、杭ではスギはほとんど認められず、広葉樹材の利用が多く、とくに漆器類（15試料）ではケヤキが大部分（12点）を占めており、ケヤキの選択的な利用が示唆される。また、柱根からは9種類の広葉樹からなり、とくにクリが多いといった特徴を示した。

これらの2遺跡から出土した木製品のうち、柱根や杭、曲物等の共通する器種における種類構成に着目すると、いずれの遺跡でもスギは曲物等の板状を呈する製品を中心に様々な用途に利用される傾向が窺われる。一方、柱根は、両遺跡ともスギの利用は認められず、広葉樹が利用されている。広葉樹の組成をみると、野中土手付遺跡は4種類、砂山中道下遺跡は9種類からなり、このうち共通する樹種はクリのみであった。杭は、両遺跡に共通する特徴として、スギの利用が少ない、多くの種類の広葉樹材が利用される、共通して利用される木材（スギ、ヤナギ属、ハンノキ属、ブナ属、コナラ節、クリ、サクラ属、カエデ属）が比較的多い、といった特徴が指摘される。また、杭に利用される木材の材質をみると、クリやアカマツ等が強

遺物種類＼樹種	アカマツ	複維管束亜属	スギ	ヒノキ科	スギまたはヒノキ科	カヤ	イヌガヤ	針葉樹	ヤナギ属	ハンノキ亜属	ハンノキ属	ブナ属	クヌギ節	コナラ節	クリ	ケヤキ	ニレ属	ヤマグワ	モクレン属	サクラ属	アカメガシワ	カエデ属	コシアブラ	エゴノキ属	トネリコ属	合計
横槌									1					1												2
浮子か			1																							1
木錘																									1	1
箸状木製品			11																							11
曲物側板			2	1																						3
曲物底板			18		1																					19
有台盤																1										1
脚付盤																			1							1
盤																2										2
糸巻			1																							1
木簡			7																							7
斎串			6					1																		7
刀子形			1																							1
火鑽臼			3																							3
刀子柄			1																							1
柄	1		5																							6
木鏃								1																		1
弓か						2																				2
板材		1	16																1							18
円形版			1																							1
楔か															1											1
柱根															1				1		1		1			4
杭	1	3	2	1					2	1	1	1		1	10		1	1	1	2	1	1		1	3	34
部材			4																							4
棒状木製品		1	11		1		1																			14
方形材			3												1											4
分割材															1											1
加工材			2											1								1				4
用途不明品			3										1	1												5
合計	2	5	98	2	2	2	1	2	3	1	1	1	1	4	14	3	1	1	4	2	2	2	1	1	4	160

第27表　器種別種類構成（野中土手付遺跡）

樹種 / 遺物種類	単維管束亜属	モミ属	スギ	ヒノキ科	スギまたはヒノキ科	ヤナギ属	ハンノキ亜属	ハンノキ属	ブナ属	コナラ節	クリ	ケヤキ	モクレン属	サクラ属	キハダ	サンショウ属	ウルシ	カエデ属	ハリギリ	エゴノキ属	環孔材	散孔材	広葉樹	タケ亜科	合計
鍬										1															1
織機？			1							1															2
紡錘車？			1																						1
連歯下駄												2													2
板草履			3																						3
扇				1																					1
折敷			1																						1
木錘											1														1
漆塗皿												4							1						5
漆塗椀									1			8	1												10
曲物側板			1																						1
曲物底板		1	2																						3
栓			1																						1
箸状木製品			14																				1		15
杓子形木製品			3																						3
木箘			13																						13
刀子形			1																						1
井戸側･水溜･曲物			5																						5
井戸側・縦板			11																						11
井戸側・横桟			7																						7
楔か			1																						1
柱根							1		2	2	7	1			1		1	1		1		1			18
礎板			1							1	2														4
杭			4			2		1	1	3	4			1	1	1		4			1	4			27
板材			20																						20
円形板			2																						2
部材	1		4																						5
棒状木製品			13		2																			1	16
用途不明品			5																						5
合計	1	1	114	1	2	2	1	1	4	8	14	15	1	1	2	1	1	5	1	1	1	5	1	1	185

第28表　器種別種類構成（砂山中道下遺跡）

度や耐水性が高い木材や、強度や保存性が低いとされるヤナギ属が混在することから、特定の樹種や材質等に偏重しない点も特徴として指摘される。

ところで、本遺跡周辺の青田遺跡、蔵ノ坪遺跡、西川内南遺跡、西川内北遺跡では、木製品を対象とした分析調査が行われている［パリノ・サーヴェイ株式会社2002，2005a，2005b、鈴木ほか2004］。青田遺跡では、古代の木製品とされる曲物や箸にはスギ、容器にはケヤキが認められている。蔵ノ坪遺跡では、奈良・平安時代の木製品等を対象とした分析調査では、全体的にスギの利用が多い傾向が認められたが、柱根はクリ、皿・椀はケヤキの利用が認められており、杭材ではクリを中心として多数の樹種が利用されたことが明らかとされている。また、西川内北・西川内南遺跡における古代とされる掘立柱建物跡の柱材の分析調査では、西川内北遺跡ではサクラ属やトネリコ属、カエデ属等、西川内南遺跡ではスギ、トネリコ属、コナラ節、クリ等の利用が認められた。これらの調査成果と今回の２遺跡を比較すると、曲物等の板状の木製品にスギが多い傾向は、共通する傾向と言える。一方、柱材は、遺跡毎に種類構成が異なることが指摘される。

3　花粉分析・寄生虫卵分析・種実遺体同定

A　試　　料

1）花粉分析・寄生虫卵分析

試料は、砂山中道下遺跡のSK32 4層から採取された土壌１点である。

2）種実遺体同定

試料は、砂山中道下遺跡の井戸跡（SE17，129，171，200）や土坑等（SK12，32，SX175）の各土層よ

り洗浄・選別された種実遺体と、上記したSK32 4層から採取された土壌1点である。これらの試料について、種実遺体同定及び種実遺体等の抽出及び同定を行う。

B 分析方法

1）花粉分析・寄生虫卵分析

試料10ccを正確に秤り取り、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液（臭化亜鉛，比重2.3）よる有機物の分離の順に物理・化学的処理を施し、寄生虫卵および花粉・胞子を分離・濃集する。処理後の残渣を定容してから一部をとり、グリセリンで封入してプレパラートを作成し、400倍の光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査して出現する全ての寄生虫卵と花粉・胞子化石について同定・計数する。

結果は、寄生虫卵については1cc当たりに含まれる寄生虫卵の一覧表として、花粉・胞子化石については同定及び計数結果の一覧表として表示する。また、主要花粉化石群集の散布図としても表示する。図中の花粉・胞子化石は、総数より不明花粉を除いた数を基数として百分率で算出した相対頻度を示す。なお、図表中で複数の種類をハイフォンで結んだものは種類間の区別が困難なものを示す。

2）種実遺体同定

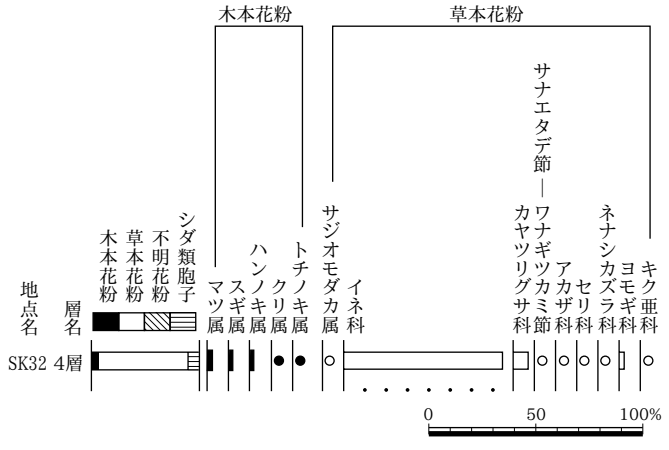
土壌試料は、水に一晩浸した後0.5mm目の篩を通して水洗し、残渣を粒径別にシャーレに集め、双眼実体顕微鏡下で観察し、同定可能な種実を抽出する。種実遺体の形態的特徴を所有の現生標本および原色日本植物種子写真図鑑［石川1994］、日本植物種子図鑑［中山ほか2000］等と比較し、種類を同定し個数を求め、表示する。

表中で複数の種類をハイフォンで結んだものは種類間の区別が困難なものを示す。分析後の種実遺体等は、種類毎に容器に入れて保管する。土壌試料中から検出された種実遺体は70％程度のエタノール溶液による液浸保存処理を施す。

C 結　　果

1）花粉分析・寄生虫卵分析

結果を第29表、第24図に示す。花粉化石の保存状況は悪く、花粉外膜が破損・溶解しているものも多く認められる。群集組成では草



第24図　花粉化石群集

出現率は、いずれも総数より不明花粉を除く数を基数として百分率で算出した。
なお、●○は1％未満を示す。

種　類	SK32 試料番号 4層
木本花粉	
マツ属	8
スギ属	5
ハンノキ属	5
クリ属	2
トチノキ属	1
草本花粉	
サジオモダカ属	1
イネ科	296
カヤツリグサ科	26
サナエタデ節－ウナギツカミ節	2
アカザ科	3
セリ科	1
ネナシカズラ属	1
ヨモギ属	9
キク亜科	1
不明花粉	5
シダ類胞子	
シダ類胞子	35
合　計	
木本花粉	21
草本花粉	340
不明花粉	5
シダ類胞子	35
総計（不明を除く）	396
寄生虫卵	
寄生虫卵［個/cc］	0

第29表　花粉分析・寄生虫卵分析結果

本花粉が優占する。木本花粉の産出は極めて少なくマツ属、スギ属、ハンノキ属、クリ属、トチノキ属が、1-8個体程度検出されるのみである。草本花粉では、イネ科が優占し、カヤツリグサ科、ヨモギ属などを伴う。また、サジオモダカ属、サナエタデ節－ウナギツカミ節、アカザ科、セリ科、ネナシカズラ属、キク亜科が検出される。

寄生虫卵については、1個体も検出されない。

2）種実遺体同定

出土種実遺体分類群一覧を第30表に、結果を第31表に示す。洗浄・選別済の種実遺体及びSK32 4層土壌試料からは、木本8分類群29個、草本19分類群357個、計386個の種実が検出された。栽培植物のイネ、アワ－ヒエ、オオムギ、コムギ、ムギ類、アサ、マメ類、エゴマ、メロン類が計328個確認され、全体の約85%を占める。このほかに、木の芽、木材、炭化材、木材組織が認められない種類、部位共に不明の炭化物や植物片、蘚苔類、昆虫、礫、土塊などが確認された。

なお、検出された種実の遺存状態は、栽培植物のイネの胚乳と一部の穎、アワ－ヒエ、オオムギ、コムギなどのムギ類、マメ類には炭化しているものが認められた。これ以外の種実遺体の保存状態は、いずれも比較的良好である。以下に、同定された種実の形態的特徴などを、木本、草本の順に記す。

＜木　本＞

コブシ（*Magnolia kobus* DC.）　　モクレン科モクレン属

種子が検出された。灰褐色、腎臓形でやや偏平。長さ7～9mm、幅9～10mm、厚さ5mm程度。背面は凸状に膨らみ、腹面正中線上は幅広い縦溝と下端に臍がある。種皮は薄く硬く、表面はやや平滑。

マツブサ（*Schisandra repanda*（Sieb. et Zucc.）Radlk.）　　マツブサ科マツブサ属

種子が検出された。灰褐色、腎臓形でやや偏平。径5mm、厚さ2.5mm程度。腹面基部に臍があり、臍周辺は凹む。表面は疣状突起が臍を中心として同心円状に密に配列する。

クスノキ科（Lauraceae）

種子が検出された。灰褐色、球体。径5mm程度。基部にはやや突出する臍からはじまる低い稜があり、側面の途中で終わる。種皮は硬く表面はやや平滑～粗面、断面は柵状。球状を呈する点や径の大きさから、クスノキ属クスノキかクロモジ属に由来すると思われる。

アカメガシワ（*Mallotus japonicus*（Thunb.）Mueller- Arg.）　　トウダイグサ科アカメガシワ属

種子が検出された。灰～黒褐色、歪な球体で径4mm程度。基部にはY字形の稜があり、稜に沿って3裂した個体がみられる。種皮は硬く、表面に瘤状突起を密布しゴツゴツしている。種皮断面には内側に湾曲する柵状構造がみられる。

ブドウ属（*Vitis*）　　ブドウ科

種子が検出された。灰～黒褐色、広倒卵体、側面観は半広倒卵形。基部の臍の方に向かって細くなり、嘴状に尖る。径4～5.5mm程度。背面にさじ状の凹みがある。腹面には中央に縦筋が走り、その両脇には楕円形の深く窪んだ孔が存在する。種皮は薄く硬く、断面は柵状。

ノブドウ（*Ampelopsis brevipedunculata*（Maxim.）Trautv.）　　ブドウ科ノブドウ属

種子が検出された。灰～黒褐色、広倒卵体、側面観は半広倒卵形。基部の臍の方に向かって細くなり、嘴状に尖る。径4.2mm程度。背面にはU字状に開いたさじ状の模様がある。腹面には中央に縦筋が走り、その両脇には楕円形の深く窪んだ孔が存在する。種皮は薄く硬く、断面は柵状。なお、ブドウ属と区別する根拠の背面が欠損した破損個体を、ブドウ科（Vitaceae）とした。

ガマズミ属（*Viburnum*）　　スイカズラ科

核が検出された。灰褐色、広卵形、偏平で頂部がやや尖る。径４～5mm、厚さ1mm程度。背面に２個と腹面に３個の浅い縦溝がある。表面には微細な網目模様がある。

＜草　本＞

ヘラオモダカ（*Alisma canaliculatum* A. Br. et Bouche）　　オモダカ科サジオモダカ属

果実が検出された。淡褐色、楕円形で偏平、基部は切形。長さ2mm、幅1.5mm程度。背部に深い縦溝が１本走る。果皮はスポンジ状で柔らかく、中の種子が透けてみえる。種子は茶褐色、倒Ｕ字状に曲がった円柱状で偏平。径1mm程度。種皮は膜状で薄くやや透き通り柔らかい。表面には微細な網目があり縦筋が目立つ。

オモダカ科（Alismataceae）

種子が検出された。茶褐色、倒Ｕ字状に曲がった円柱状で偏平。径1mm程度。種皮は膜状で薄くやや透き通り柔らかい。表面には微細な網目があり縦筋が目立つ。上述のヘラオモダカ等の果皮が欠損し、種子のみが残存したものと思われる。

イネ（*Oryza sativa* L.）　　イネ科イネ属

胚乳と穎（果）が検出された。長楕円形でやや偏平。長さ4.5～6.5mm、幅２～3mm、厚さ1.5mm程度。胚乳は炭化しており黒色を呈す。一端に胚が脱落した凹部があり、表面はやや平滑で、２～３本の縦溝がみられる。表面に穎の破片が付着している個体がみられた。穎は淡～茶褐色、炭化個体は黒色。基部に円柱状の特徴的な果実序柄がある。穎は薄く、表面には顆粒状突起が規則的に縦列する。

アワ－ヒエ（*Setaria itarica*（L.）P.Beauv.- *Echinochloa utilis* Ohwi et Yabuno）　　イネ科

果実が検出された。炭化しており黒色を呈す。広楕円体。径1.5～2.5mm程度。背面は丸みがあり、腹面は平ら。果皮表面に顆粒状網目模様が配列するアワと思われる個体（SE200 3層）や、径がアワより大きく果皮表面がやや平滑で、微細な網目模様が縦列するヒエと思われる個体（SK31 1層）が確認された。

アワ、ヒエの区別は、走査型電子顕微鏡下による内外穎の観察により可能である［松谷1980，2000など］。本遺跡で検出された個体も、遺存状態が良好なものに限り、走査型電子顕微鏡下の観察で種類が特定される可能性がある。なお、より径が大きな炭化果実をイネ科（Gramineae）としたが、アワ－ヒエの可能性がある。

オオムギ（*Hordeum* valgale L.）　　イネ科オオムギ属

胚乳が検出された。炭化しており黒色を呈す。紡錘状長楕円体で頂部や基部がやや尖る。長さ5.5mm、径３～3.5mm程度。腹面は正中線上にやや太く深い縦溝があり、背面は基部正中線上に胚の痕跡があり丸く窪む。表面はやや平滑。

コムギ（*Triticum aestivum* L.）　　イネ科コムギ属

胚乳が検出された。炭化しており黒色を呈す。楕円体でオオムギよりも小型で丸みを帯びている。長さ3.5～4mm、径2.5～3mm程度。腹面は正中線上にやや太く深い縦溝があり、背面は基部正中線上に胚の痕跡があり丸く窪む。表面はやや平滑。なお、頂部を欠損するなど遺存状態が悪く、オオムギとの判別が難しい個体を、ムギ類とした。

カヤツリグサ科（Cyperaceae）

果実が検出された。黒褐色、三稜状倒卵体。長さ4mm、径2mm程度。頂部の柱頭部分はやや伸び、断面は三角形。基部は切形で基部から伸びる逆刺のある髭状の腕が残る個体もみられる。果皮はやや厚く、

科　名		属　名	分類群*	学　名	学名
木本	モクレン科	モクレン属	コブシ	*Magnolia kobus* DC.	種子
	マツブサ科	マツブサ属	マツブサ	*Schisandra repanda*（Sieb. et Zucc.） Radlk.	種子
	クスノキ科		クスノキ科	Lauraceae	種子
	トウダイグサ科	アカメガシワ属	アカメガシワ	*Mallotus japonicus*（Thunb.） Mueller- Arg.	種子
	ブドウ科	ブドウ属	△ブドウ属	*Vitis*	種子
		ノブドウ属	ノブドウ	*Ampelopsis brevipedunculata*（Maxim.） Trautv.	種子
			ブドウ科	Vitaceae	種子
	スイカズラ科	ガマズミ属	ガマズミ属	*Viburnum*	核
草本	オモダカ科	サジオモダカ属	ヘラオモダカ	*Alisma canaliculatum* A. Br. et Bouche	果実
			オモダカ科	Alismataceae	種子
	イネ科	イネ属	●イネ	*Oryza sativa* L.	胚乳 穎
		エノコログサ属－ヒエ属	●アワ－ヒエ	*Setaria itarica*（L.） P.Beauv.- *Echinochloa utilis* Ohwi et Yabuno	果実
		オオムギ属	●オオムギ	*Hordeum valgale* L.	胚乳
		コムギ属	●コムギ	*Triticum aestivum* L.	胚乳
		オオムギ属－コムギ属	●ムギ類	*Hordeum valgale* L.－*Triticum aestivum* L.	胚乳
			○イネ科	Gramineae	果実
	カヤツリグサ科		カヤツリグサ科	Cyperaceae	果実
	クワ科	カラハナソウ属	カナムグラ	*Humulus japonicus* Sieb. et Zucc.	種子
		アサ属	●アサ	*Cannabis sativa* L.	種子
	タデ科	ギシギシ属	ギシギシ属	*Rumex*	果実
	マメ科		●マメ類	Leguminosae	種子
	シソ科	イヌコウジュ属	イヌコウジュ属	*Mosla*	果実
		シソ属	●エゴマ	*Perilla frutescens*（L.） Britt. var. *japonica* Hara	果実
	ナス科		○ナス科	Solanaceae	種子
	ウリ科	キカラスウリ属	キカラスウリ	*Trichosanthes Kirilowii* Maxim. var. *japonica*（Miq.） Kitam.	種子
		スズメウリ属	スズメウリ	*Melothria japonica*（Thunb.） Maxim.	種子
		キュウリ属	●メロン類	*Cucumis melo* L.	種子

*●は確実な栽培植物を、○は栽培植物の可能性がある分類群を示す。△は種実が食用可能な分類群を示す。

第30表　出土種実遺体分類群一覧

遺構・層位	分類群 / 部位状態	木本 コブシ 種子	木本 マツブサ 種子	木本 クスノキ科 種子	木本 アカメガシワ 種子	木本 ブドウ属 種子	木本 ノブドウ 種子	木本 ブドウ科 種子	木本 ガマズミ属 核	草本 ヘラオモダカ 果実	草本 オモダカ科 種子	草本 イネ 胚乳 炭化	草本 イネ 穎 炭化	草本 アワ－ヒエ 果実 炭化	草本 オオムギ 胚乳 炭化	草本 コムギ 胚乳 炭化	草本 ムギ類 胚乳 炭化	草本 イネ科 果実 炭化	草本 カヤツリグサ科 果実	草本 カナムグラ 種子	草本 アサ 種子	草本 ギシギシ属 果実	草本 マメ類 種子 炭化	草本 イヌコウジュ属 果実	草本 エゴマ 果実	草本 ナス科 種子	草本 キカラスウリ 種子	草本 スズメウリ 種子	草本 メロン類 種子	木の芽	木材	炭化材	不明炭化物	不明植物片	蘚苔類	昆虫	礫	土の塊	備　考
SE17	1層	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	2層	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	マクワ・シロウリ型
	3層	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	4層	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	5層	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	6層	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
SE129	2層	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	3層	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	4層	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	5層	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	イネ１個穎付着
	7層	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	
SE171	1層	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	1	2	1	-	1	-	1	-	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	モモルディカメロン型
	2層	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	1	-	-	-	-	1	-	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	
	3層	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	モモルディカメロン型
	4層	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	8	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	2	-	-	イネ１個穎付着
	5層	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
SE200	1層	-	-	-	1	2	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	
	2層	-	-	1	-	3	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	
	3層	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	3	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	イネ，アワ－ヒエ１個穎付着
	4層	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	モモルディカメロン型含む
SK31	1層	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	1	1	-	-	-	1	1	-	-	1	-	-	-	-	3	-	-	-	-	
	2層	-	-	-	1	-	1	1	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	1	-	2	1	-	2	-	2	-	1	-	-	モモルディカメロン型含む
	3層	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	4層	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	1	-	-	-	-	マクワ・シロウリ型
	5層	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	2	-	1	-	-	-	1	-	-	-	1	3	-	-	-	-	イネ１個穎付着
	6層	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	マクワ・シロウリ型
	7層	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	1	-	-	-	モモルディカメロン型含む
	9層	-	1	-	-	1	-	-	2	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	1	-	-	-	モモルディカメロン型含む
SK32	1層	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
	4層	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	1	2	86	67	36	5	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	+	+	+	-	+	+	-	-	土壌試料
	5層	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	1	1	1	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	イネ１個穎付着
	6層	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	7層	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	モモルディカメロン型含む
SX175	3層	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	
	5層	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	
	6層	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

第31表　種実同定および微細植物片分析結果

表面には微細な網目模様がある。

カナムグラ（*Humulus japonicus* Sieb. et Zucc.）　　クワ科カラハナソウ属

種子が検出された。灰褐色、側面観は円形、上面観は両凸レンズ形。径4mm、厚さ1mm程度。頂部はやや尖り、縦方向に一周する稜がある。基部には淡黄褐色、径1mm程度のハート形の臍点がある。種皮表面は粗面。

アサ（*Cannabis sativa* L.）　　クワ科アサ属

種子が検出された。灰褐色、三角状広倒卵体でやや偏平。長さ4mm、幅3mm、厚さ2.5mm程度。縦方向に一周する稜がある。基部には淡褐色、径1mm程度の楕円形の臍点がある。種皮表面には葉脈状網目模様がある。

ギシギシ属（*Rumex*）　　タデ科

果実と果実を取り巻く内花被片が検出された。暗褐色、三稜状広卵体。径3.5mm程度。花被は粗い網目模様をなし、縁には歯牙がある。中肋は瘤状に膨れる。

マメ類（Leguminosae）　　マメ科

種子が検出された。炭化しており黒色を呈す。長楕円体で長さ4.5～6mm、径3～4mm程度。状態が比較的良好な個体の一部には、子葉の合わせ目上にササゲ属（*Vigna*）の特徴とされる長楕円形で縁が隆起する細長い臍が確認された。種皮表面はやや平滑で光沢があるが、焼け膨れ、表面が崩れている。

ササゲ属には、栽培種のダイズ、アズキ、リョクトウなどが含まれる。遺跡出土の炭化マメ類は、子葉内面の幼痕や初生葉の形態から、ササゲ、アズキ、リョクトウなどを判別する試みが行われている［吉崎1992］が、野生種との雑種も多いため、形態のみから特定の種類に比定することは困難であるとする意見もある［南木1991，南木・中川2000など］。そのため、今回検出されたマメ類は、形態のみによる種類の特定は控えている。

イヌコウジュ属（*Mosla*）　　シソ科

果実が検出された。灰褐色、倒広卵体。径1.5mm程度。基部には臍点があり、舌状にわずかに突出する。果皮はやや厚く硬く、表面は浅く大きく不規則な網目模様がある。

エゴマ（*Perilla frutescens*（L.）Britt. var. *japonica* Hara）　　シソ科シソ属

果実が検出された。茶褐色、倒広卵体。径2.5mm程度。基部には大きな臍点があり、舌状にわずかに突出する。果皮はやや厚く硬く、表面は浅く大きく不規則な網目模様がある。

ナス科（Solanaceae）

種子が検出された。灰褐色、歪な腎臓形で偏平。径3.5mm程度と大型で、栽培植物に由来する可能性が高い。基部はやや窪み、臍がある。種皮は薄く柔らかく、表面は微細な星型状網目模様が臍を中心として同心円状に発達する。

キカラスウリ（*Trichosanthes Kirilowii* Maxim. var. *japonica*（Miq.）Kitam.）　　ウリ科カラスウリ属

種子が検出された。淡灰褐色、非対称な倒卵形でやや偏平。長さ11mm、幅7mm、厚さ1.5mm程度。基部に倒「ハ」の字状の臍と円形の発芽孔がある。縁を浅い帯状の溝が一周する。種皮表面は粗面。

スズメウリ（*Melothria japonica*（Thunb.）Maxim.）　　ウリ科スズメウリ属

種子が検出された。淡灰褐色、倒卵形で偏平。長さ5～6mm、幅3～4mm、厚さ0.5mm程度。縁は肥厚せず、両面中央には倒卵形の浅い凹みがある。表面には微細な網目模様がありざらつく。

メロン類（*Cucumis melo* L.）　　ウリ科キュウリ属

種子が検出された。淡灰褐色、狭倒皮針形で偏平。長さ６～9mm、幅３～4mm程度と、藤下［1984］の基準によるマクワ・シロウリ型の中粒種子（長さ6.1～8.0mm）に該当する個体と、大粒のモモルディカメロン型（長さ8.1mm以上）が確認され、複数の品種が含まれている可能性がある。種子の基部には倒「ハ」の字形の凹みがある。種皮表面は比較的平滑で、縦長の細胞が密に配列する。

D 考　　察

1）古　植　生

SK32 ４層における花粉化石は、全体的に保存状態が悪く、産出量も良好とはいえない。一般的に花粉やシダ類胞子の堆積した場所が、常に酸化状態にあるような場合、花粉は酸化や土壌微生物によって分解・消失するとされている［中村1967，徳永・山内1971］。また、検出された花粉をみると、比較的分解に強い花粉や、分解が進行しても同定可能な花粉が検出されている。このことから、今回認められた花粉化石群集は、堆積後の経年変化により分解に強い花粉が選択的に残存したと考えられ、当時の植生を正確に反映していない可能性がある。以下、上記した点を考慮し、考察を行う。

広域の植生を反映する木本類の花粉化石では、マツ属、スギ属、ハンノキ属、クリ属、トチノキ属がわずかに認められたが、当結果から周辺植生の検討は難しい。ただし、少なくとも、周辺域にこれらの種類が生育していたことは明らかである。近接する青田遺跡で行われた花粉分析結果によれば、縄文時代晩期以降はハンノキ属・トネリコ属湿地林が主体であり、スギ属とクリ属・トチノキ属が増減を繰り返し、弥生時代以降は湿地林の衰退とスギ林の拡大、平安時代以降にはクリやトチノキ林が拡大した［吉川2004］と推測されている。直接的な比較は困難であるが、得られた花粉化石は青田遺跡の結果と調和的であることから、同様の植生を呈していた可能性がある。また、種実遺体では、落葉高木のコブシ、常緑または落葉の高木または低木のクスノキ科、ガマズミ属、落葉小高木のアカメガシワ、落葉籐本のマツブサ、ブドウ属、ノブドウ、ブドウ科などが確認された。これらの木本類は、河畔や林縁部などの比較的明るい林地を好む樹木が多いことから、河川沿いの低地や人里と林地の境界付近に生育していた可能性がある。

草本類の花粉化石では、イネ科が優占し、カヤツリグサ科、ヨモギ属等を伴うといった特徴を示した。これらは開けた明るい場所を好む種を含む分類群である。サナエタデ節－ウナギツカミ節、アカザ科、キク亜科等も同様な種を含むことから、遺跡内や周辺の草地等に生育していたものに由来すると考えられる。種実遺体では、水生植物のヘラオモダカ、オモダカ科、湿生～中生植物のカヤツリグサ科、つる性草本のカナムグラ、キカラスウリ、スズメウリなどが検出され、花粉分析結果と調和する。これらの草本類は、明るく開けた場所に生育する人里植物に属する分類群であることから、森林内や林縁部、明るく開けた場所などに形成されていた草本群落に由来すると考えられる。なお、花粉分析では、経年変化等の分解の影響を受けていると考えられるが、多くの草本類が産出することから周辺域に草地が多かったことが推測される。

ところで、種実遺体同定によって得られた分類群の中には、イネ、アワ－ヒエ、オオムギ、コムギ、ムギ類、アサ、マメ類、エゴマ、メロン類などの栽培植物が全体の約85%を占めた。このうち、穀類のイネやアワ－ヒエ、オオムギ、コムギなどのムギ類、マメ類は、胚乳や種子が食用されるが、いずれも炭化していることから火を受けたことが推定される。アサは種子が食用や油料に、繊維が衣料や縄用に利用される。エゴマは果実が食用や油料に、メロン類は果実が食用に利用される。これらの栽培植物の可食部である種実は、井戸跡や土坑等から出土していることから、当該期の遺跡内における利用が推測される。な

お、過去の発掘調査や分析調査では、井戸跡は廃絶後に転用される事例や、鎮井のために様々な遺物が埋納されるといった事例［久世2002］がある。また、中世の井戸跡や土坑から検出される種実遺体には、多くの栽培植物が確認されるといった傾向［パリノ・サーヴェイ株式会社1995a，1995b；金原1994；橋本1993など］も認められている。新潟県内においても、下前川原遺跡（旧豊栄市）の中世とされる井戸跡からは、栽培植物のウメ、スモモ、モモ、イネ、オオムギ、アサ、マメ類、メロン類、ヒョウタン類、ベニバナ等の多量の種実遺体が検出されている［パリノ・サーヴェイ2004］。

このほかに検出された種類のうち、ブドウ属は果実が食用可能な種類である。イネ科とナス科には野生品の採取、在来種の栽培、渡来種の栽培等の利用形態も考えられ［青葉1991］、上述した栽培植物と共に利用されていた可能性がある。

2）SK32の自然科学的調査

砂山中道下遺跡から検出されたSK32は、掘立柱建物跡に伴う土坑であることから、その機能・用途としてトイレ遺構の可能性が指摘されている。当遺構は、平面形態は長楕円形、断面形態は舟形を呈し、長軸4m以上、短軸は約1.4mを測る。試料は、当遺構の炭化層とされる黒色化した有機物を含む土層から採取されている。

トイレとされる遺構を対象としたこれまでの分析調査成果では、鴻臚館跡（福岡県）や大宮坊跡（石川県）では1cm^{3}あたり1万～数万個の寄生虫卵が検出されている［金原・金原1994a，金原ほか1995］。なお、寄生虫は、それに感染した中間宿主、あるいは寄生虫卵に汚染されたものなどを摂取することで、終宿主（ヒト）に感染する。寄生虫卵は普通の土壌中にも含まれるが、糞便等を含む堆積物ではこれらが多産する［例えば金原・金原1992，1993；金原ほか1995など］とされている。このほかにも、食物残渣が多く検出される傾向が指摘されており、種ごと食べるメロン類やナス属などの種実遺体が検出された報告例がある［金原・金原1994b］。

本分析結果では、SK32からは寄生虫卵が全く産出せず、花粉分析結果においても、花ごと食べる種類（たとえばアブラナ科、キク亜科など）の多産は認められない。また、検出された種実遺体227個のうち食物残渣の可能性がある分類群として、ブドウ属、イネ、アワ－ヒエ、イネ科、アサ、マメ類、ナス科、メロン類（計218個）が挙げられるが、イネの可食部ではない穎が多量に含まれることや、イネ、アワ－ヒエの胚乳、マメ類の種子等も炭化・残存する状況が認められており、上述した既存のトイレ遺構の調査成果や後述する調査成果と異なる状況が指摘される。

ところで、紀尾井町遺跡（東京都）では、トイレ遺構と考えられる遺構を対象として、1）寄生虫卵分析（寄生虫卵の有無、多産）、2）微細物分析（可食植物の種実遺体、骨、昆虫遺骸等の産出）、3）土壌理化学性（リン酸等の多寡、未分解物質の有無）、5）脂肪酸分析（コプロスタノール等の多産）、6）花粉分析（花ごと食べる種類の多産）、7）珪藻分析（海産物付着種等の多産）、といった点に着目し、これらの分析手法を複数組合せて分析調査が行われている［パリノ・サーヴェイ株式会社1988；田中2001］。その結果、寄生虫卵は多くみとめられた試料では約5,000個/g検出され、種実遺体ではウリ、ゴマ、ナス科、ブドウ属、キイチゴ属、サンショウなどの可食植物が検出されている。また、海水藻場指標種群の*Cocconeis scutellum*がその他の海水生珪藻と共に多産することや、土壌理化学成分の特徴として、窒素とリン酸の割合が高いといった特徴が認められ、これらの結果の総合的検討からトイレ遺構の可能性が示唆されている［田中2001］。本分析結果からは、SK32がトイレ遺構であることを積極的に支持する特徴は得られなかったが、今後も、上記したような分析項目を組合せた検証や明らかにトイレとされる遺構の分析調査事例を蓄積し、

これらの特徴から評価検討することが重要と考えられる。

引用文献

青葉　高　1991 『野菜の日本史』八坂書房　317p.

藤下典之　1984 「出土遺体よりみたウリ科植物の種類と変遷とその利用法」『古文化財の自然科学的研究』古文化財編集委員会編　同朋舎　638-654p.

橋本真紀夫　1993 「植物化石からみた植生変遷」『特別展　下町・中世再発見』葛飾区郷土と天文の博物館　126-129p.

石川茂雄　1994 『原色日本植物種子写真図鑑』石川茂雄図鑑刊行委員会　328p.

金原正明　1994 「植物遺体分析による農耕の復元について」『日本文化財科学会　第11会大会　研究発表要旨集』51-52p.

金原正明・金原正子　1992 『花粉分析および寄生虫.藤原京跡の便所遺構－右京七条一坊西北坪－』奈良国立文化財研究所　12-15p.

金原正明・金原正子　1993 「史跡松江城二ノ丸番所跡SK-04内堆積土の分析」『史跡松江城発掘調査報告書』松江市教委区委員会　51-56p.

金原正明・金原正子　1994a 「鴻臚館跡の土坑（便所遺構）における寄生虫卵・花粉・種実の同定分析」『福岡市埋蔵文化財調査報告書　第372集　鴻臚館跡4』福岡市教育委員会　25-38p.

金原正明・金原正子　1994b 「堆積物中の情報の可視化」『可視化情報』14　9-14p.

金原正明・金原正子・中村亮仁　1995 「大宮坊跡（厠跡）における自然科学的分析」『史跡石動山環境整備事業報告Ⅱ』石川県鹿島町教育委員会　51-70p.

久世康博　2002 「「井戸」検出に伴う「土坑」の検討」『財団法人京都市埋蔵文化財研究所研究紀要8』財団法人京都市埋蔵文化財研究所　155-167p.

松谷暁子　1980 「十勝太若月遺跡出土炭化物の識別について」『浦幌町郷土博物館報告』第16号　203-211p.

松谷暁子　2000 「植物遺残の識別と保存について」『Ouroboros　東京大学総合研究博物館ニュース』Volume5　Number1　8-10p.

南木睦彦　1991 「栽培植物」『古墳時代の研究4　生産と流通Ⅰ』石野博信・岩崎卓也・河上邦彦・白石太一郎編　雄山閣　165-174p.

南木睦彦・中川治美　2000 「大型植物遺体」『琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書3-2　粟津湖底遺跡自然流路（粟津湖底遺跡Ⅲ）』滋賀県教育委員会・財団法人滋賀県文化財保護協会　49-112p.

中村　純　1967 『花粉分析』古今書院　232p.

中山至大・井之口希秀・南谷忠志　2000 『日本植物種子図鑑』東北大学出版会　642p.

パリノ・サーヴェイ株式会社　1995a 「草戸千軒町遺跡第36次調査出土の植物種実同定報告」『草戸千軒町遺跡発掘調査報告Ⅲ　南部地域北半部の調査』広島県草戸千軒町遺跡調査研究所編　253-278p.

パリノ・サーヴェイ株式会社　1995b 「草戸千軒町遺跡第37次～45次・第48次調査出土の植物種実同定報告」『草戸千軒町遺跡発掘調査報告Ⅳ　南部地域南半部の調査』広島県草戸千軒町遺跡調査研究所編　201-228p.

パリノ・サーヴェイ株式会社　1988 「第1節　土壌の自然科学分析」『東京都千代田区紀尾井町遺跡調査報告書』千代田区紀尾井町遺跡調査会　469-523p.

パリノ・サーヴェイ株式会社　2002 「第Ⅵ章自然科学分析　蔵ノ坪遺跡から出土した木材の樹種」『一般国道7号中条黒川バイパス関係発掘調査報告書　蔵ノ坪遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第115集　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団　45-59p.

パリノ・サーヴェイ株式会社　2004 「井戸出土種実遺体の自然科学分析」『下前川原遺跡　新潟県豊栄市下前川原遺跡発掘調査報告書」豊栄市教育委員会・豊栄市博物館　53-60p.

パリノ・サーヴェイ株式会社　2005a 「第Ⅲ章4　自然科学分析」『日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書X

西川内北遺跡・西川内南遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第146集　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団　20-38p.

パリノ・サーヴェイ株式会社　2005b　「第Ⅳ章４　自然科学分析」『日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書Ⅹ　西川内北遺跡・西川内南遺跡』新潟県埋蔵文化財調査報告書第146集　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団　80-110p.

鈴木三男・小川とみ・能城修一　2004　「第Ⅱ章３　青田遺跡出土木材の樹種」『日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書Ⅴ　青田遺跡　関連諸科学・写真図版編』新潟県埋蔵文化財調査報告書第133集　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団　53-70p.

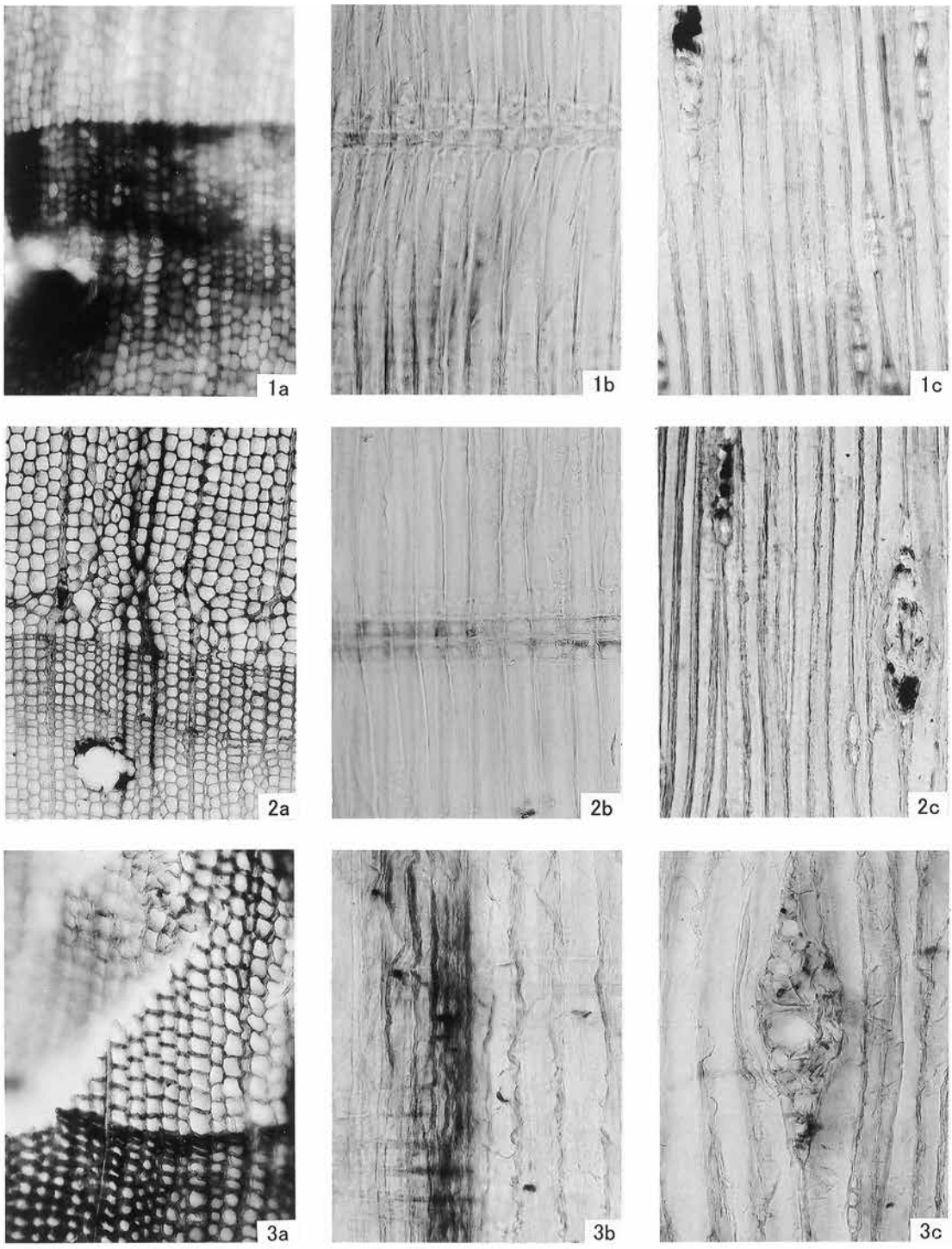
田中義文　2001　「遺構解析における情報の定量化と統計処理ー微細遺物分析の試みー」パリノ・サーヴェイ株式会社『PALYNO4』72-78p.

徳永重元・山内輝子　1971　「花粉・胞子」『化石の研究法』共立出版株式会社　50-73p.

矢野　梓　2002　「遺跡から出土した小型豆のDNA分析」『DNA考古学Newsletter3』

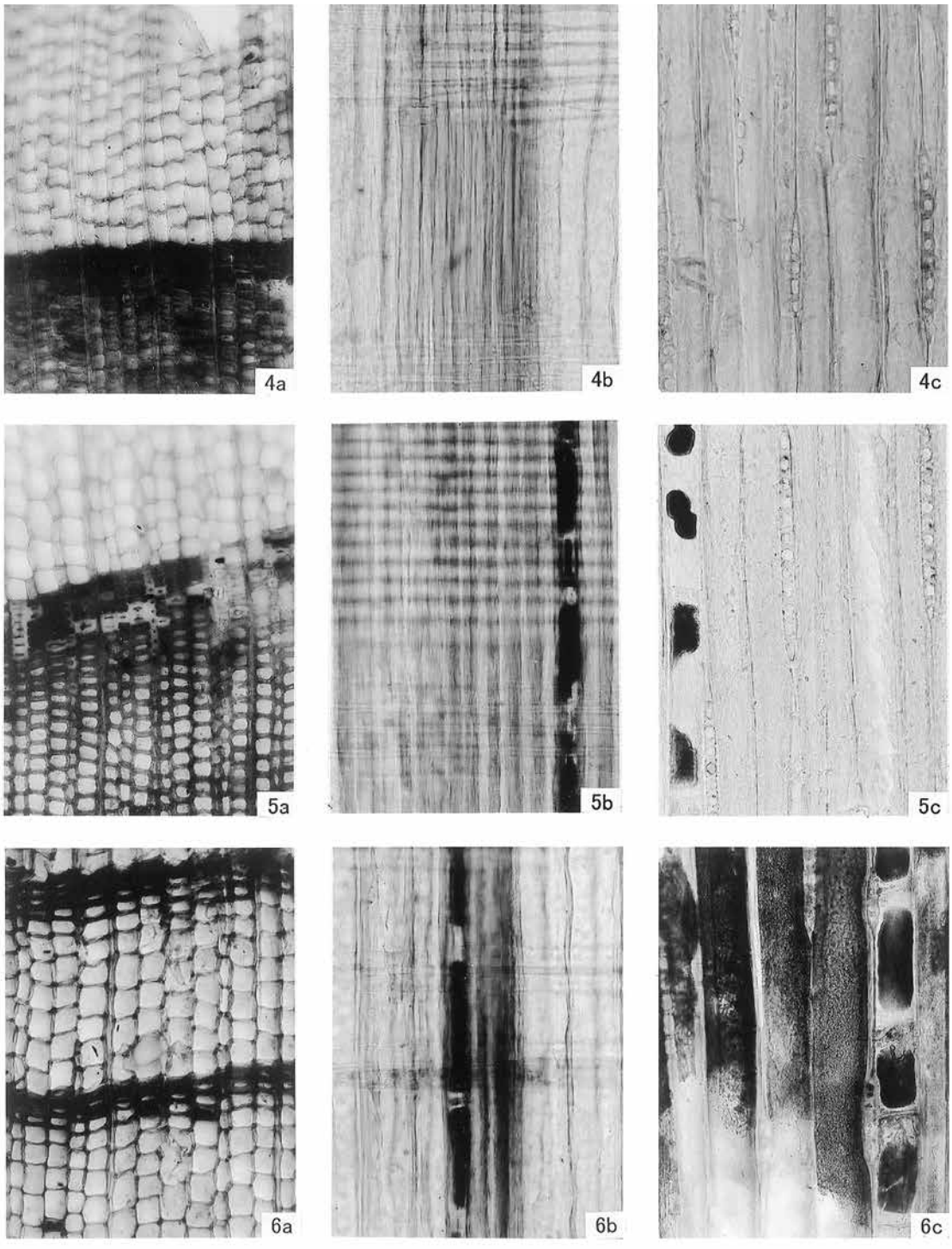
吉川昌伸　2004　「青田遺跡における縄文時代晩期以降の花粉化石群」『日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書Ⅴ　青田遺跡　関連諸科学・写真図版編』新潟県埋蔵文化財調査報告書第133集　新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団　35-42p.

吉崎昌一　1992　「古代雑穀の検出」『月刊考古学ジャーナル』№355　2-14p.



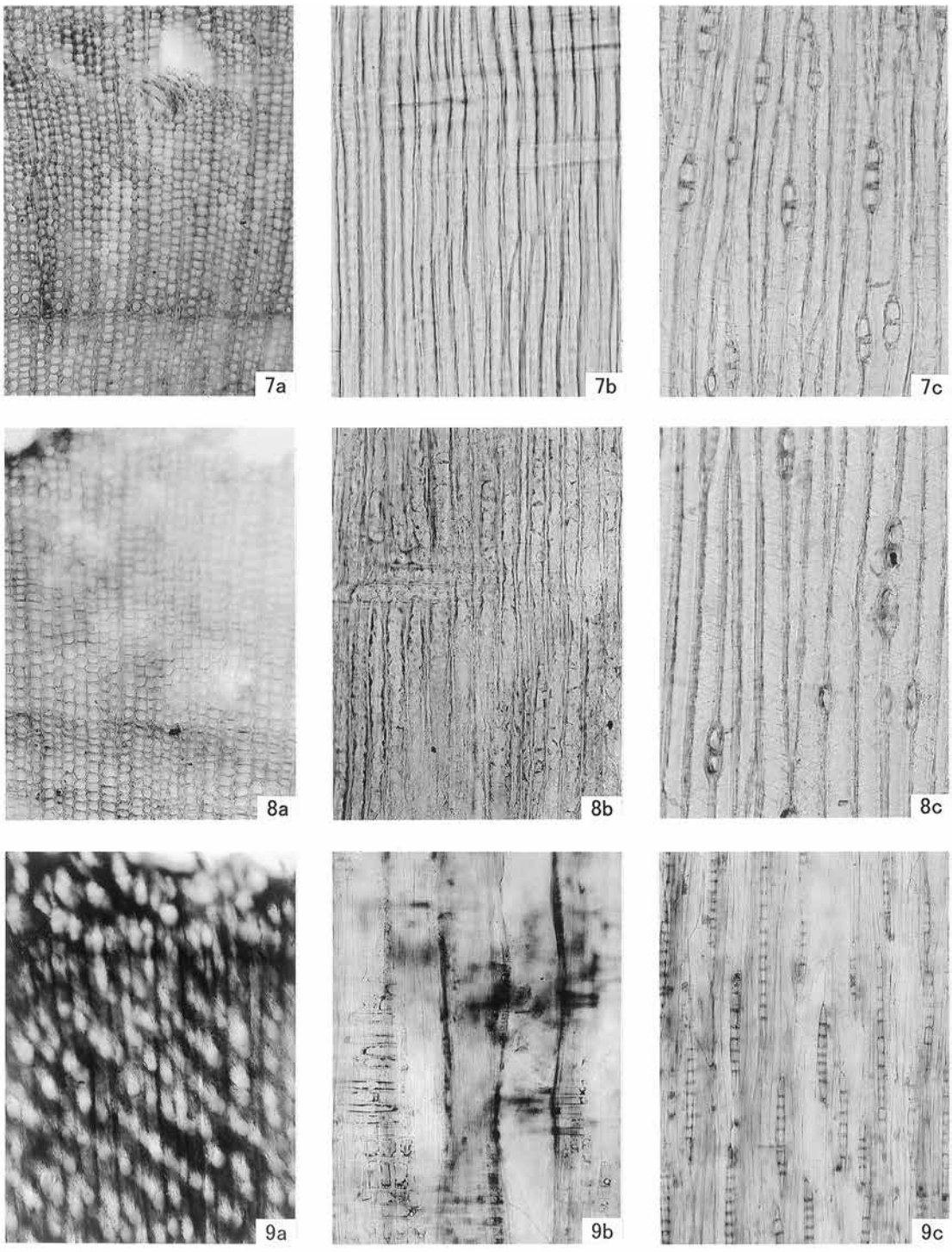
1　アカマツ（野中土手付遺跡；№18）
2　マツ属複維管束亜属（野中土手付遺跡；№21）
3　マツ属単維管束亜属（砂山中道下遺跡；№82）
　ａ：木口，ｂ：柾目，ｃ：板目

第25図　木材（1）



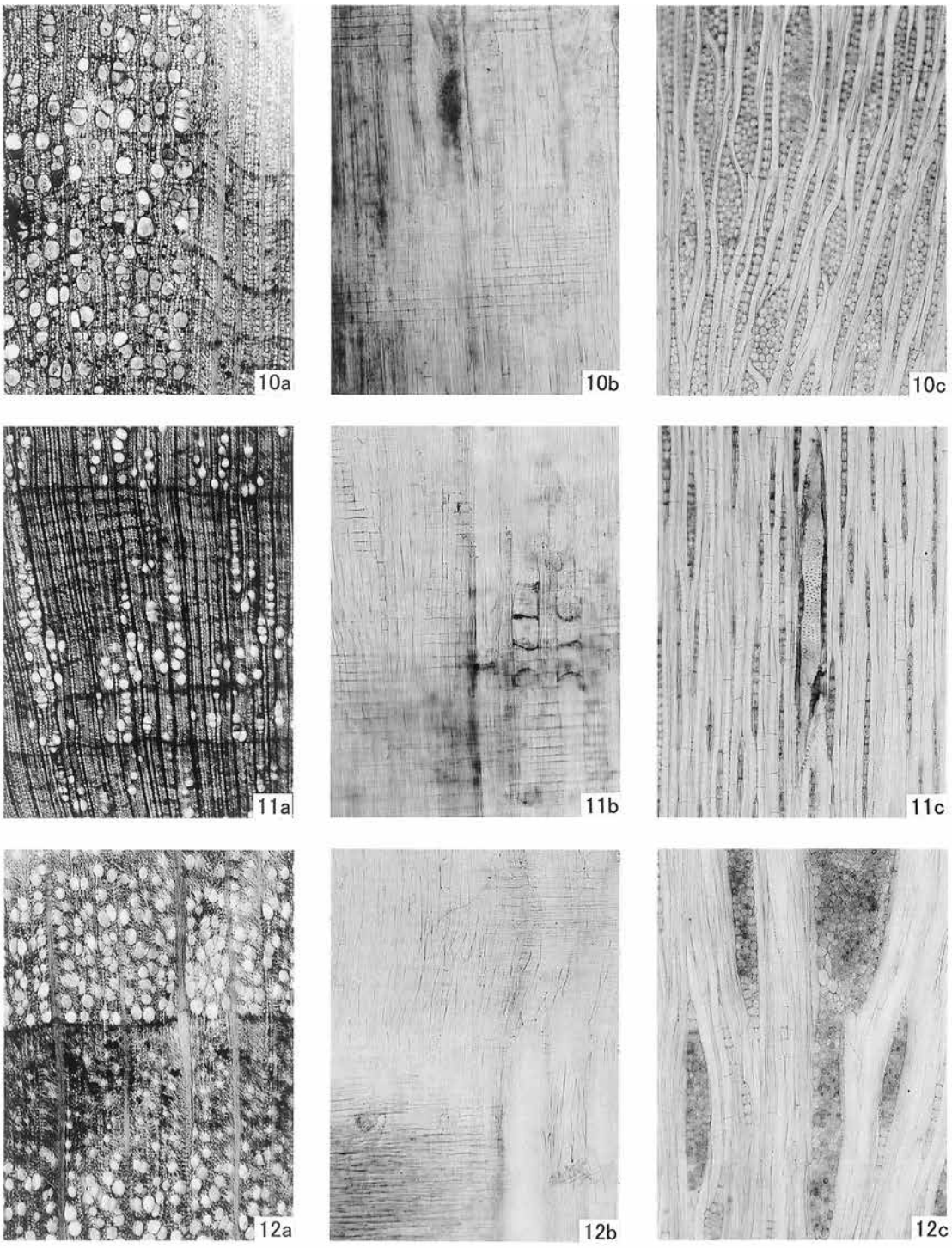
4　モミ属（砂山中道下遺跡；№266）
5　スギ（野中土手付遺跡；№35）
6　ヒノキ科（野中土手付遺跡；№88）
　ａ：木口，ｂ：柾目，ｃ：板目

第26図　木材（2）



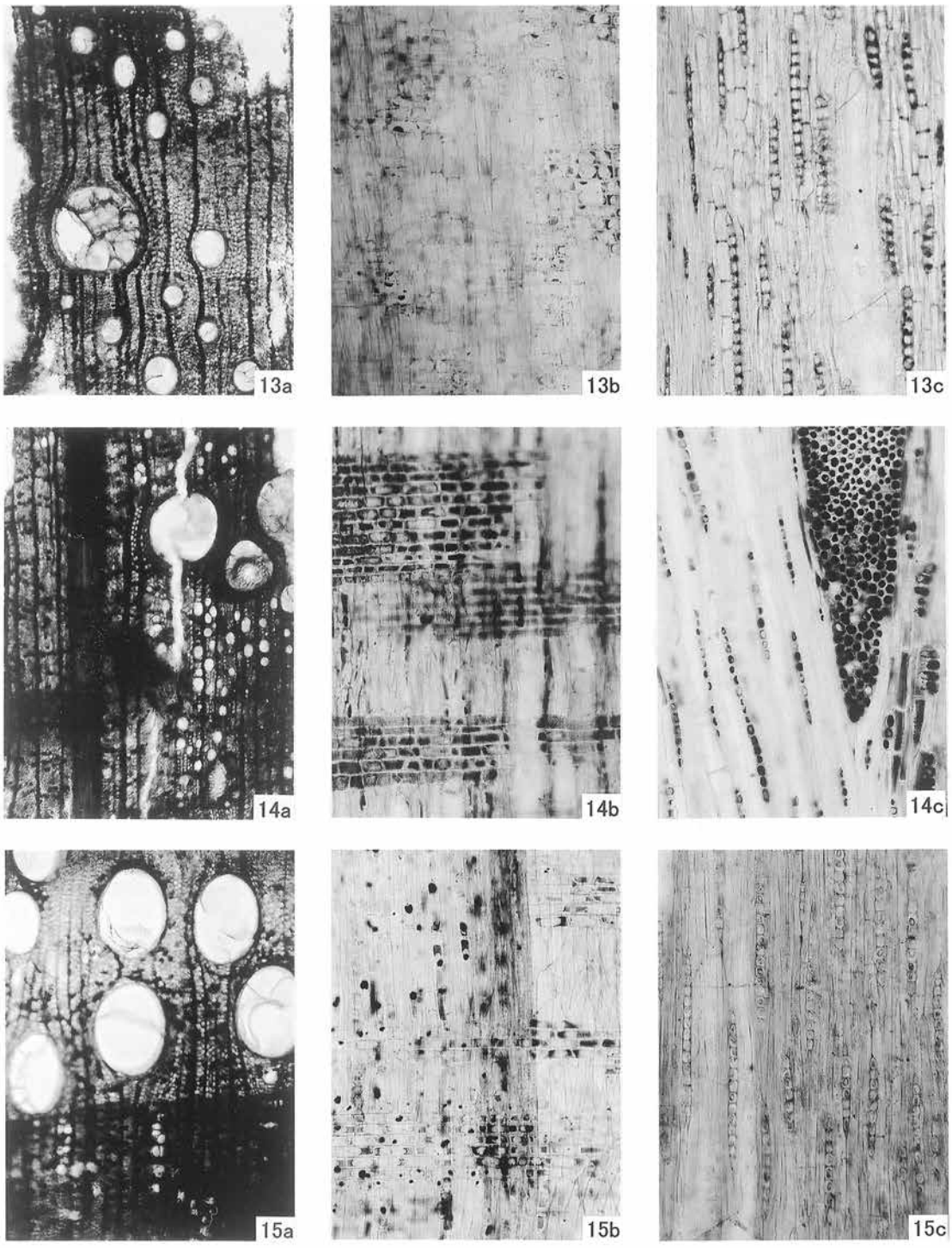
7　イヌガヤ（野中土手付遺跡；No.69）
8　カヤ（野中土手付遺跡；No.32）
9　ヤナギ属（砂山中道下遺跡；No.242）
　a：木口，b：柾目，c：板目

第27図　木材（3）



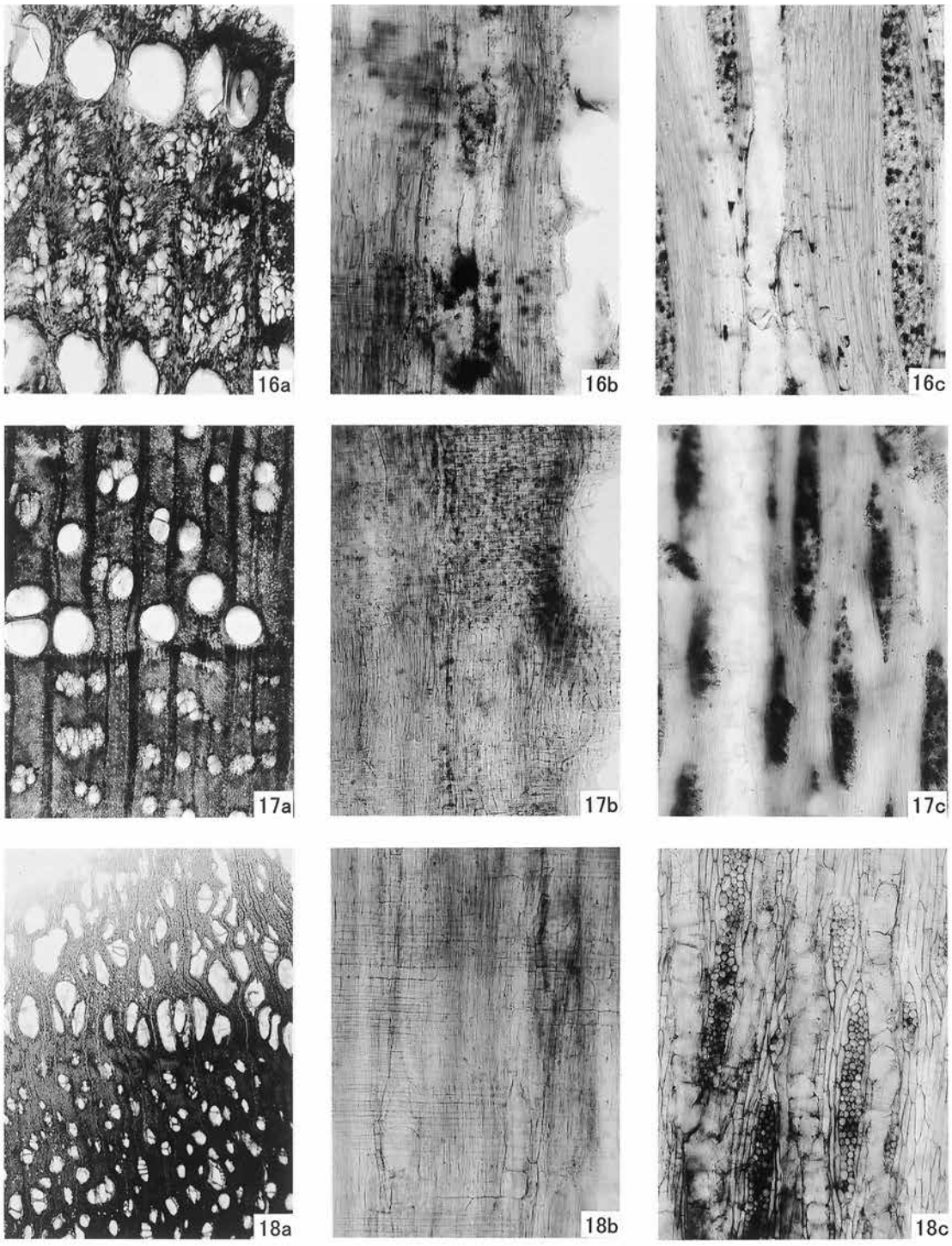
10　ハンノキ属ハンノキ亜属（砂山中道下遺跡；№235）
11　ハンノキ属（砂山中道下遺跡；№182）
12　ブナ属（砂山中道下遺跡；№226）
a：木口，b：柾目，c：板目

第28図　木材（4）



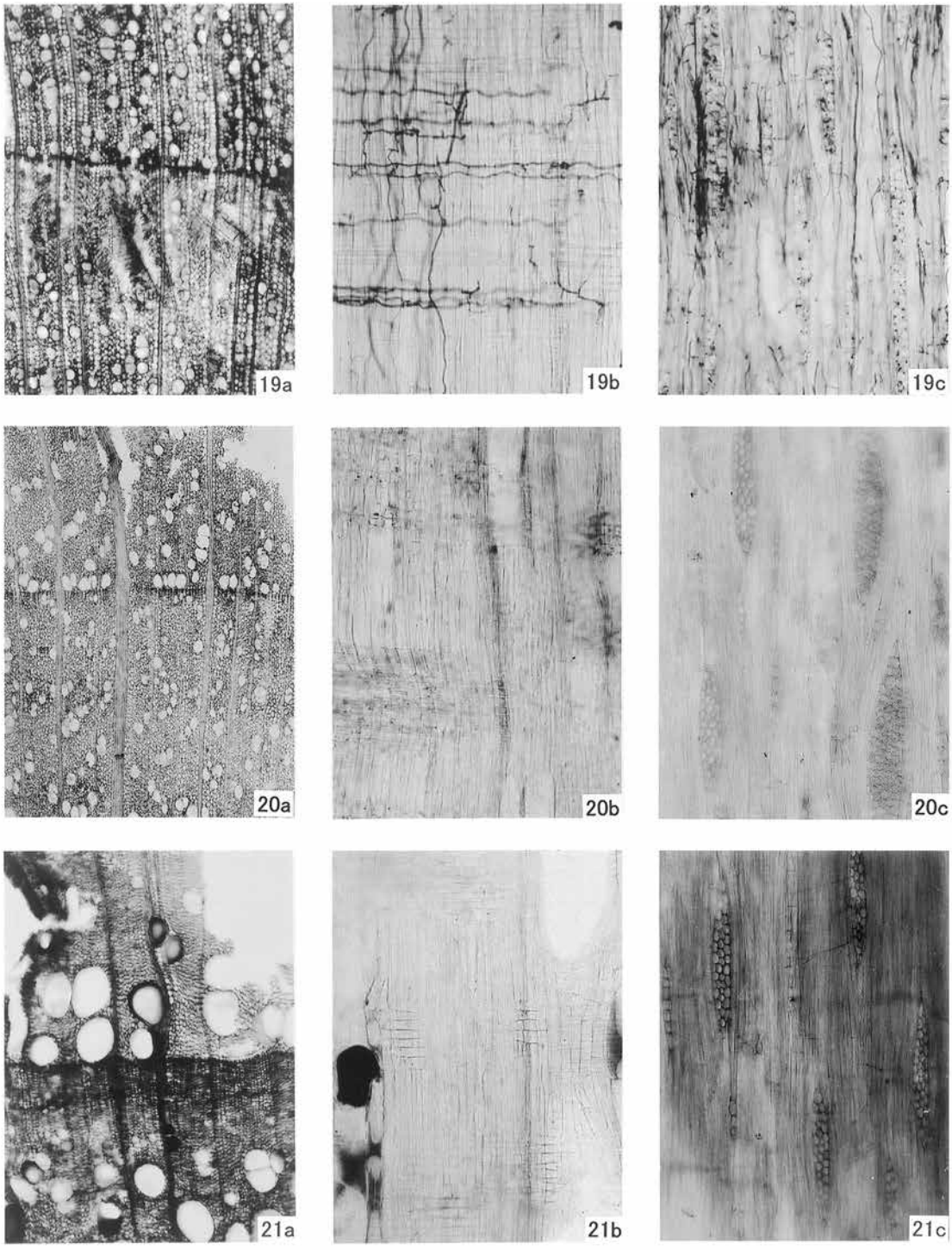
13　コナラ属コナラ亜属クヌギ節（野中土手付遺跡；№65）
14　コナラ属コナラ亜属コナラ節（砂山中道下遺跡；№80）
15　クリ（砂山中道下遺跡；№196）
　a：木口，b：柾目，c：板目

第29図　木材（5）



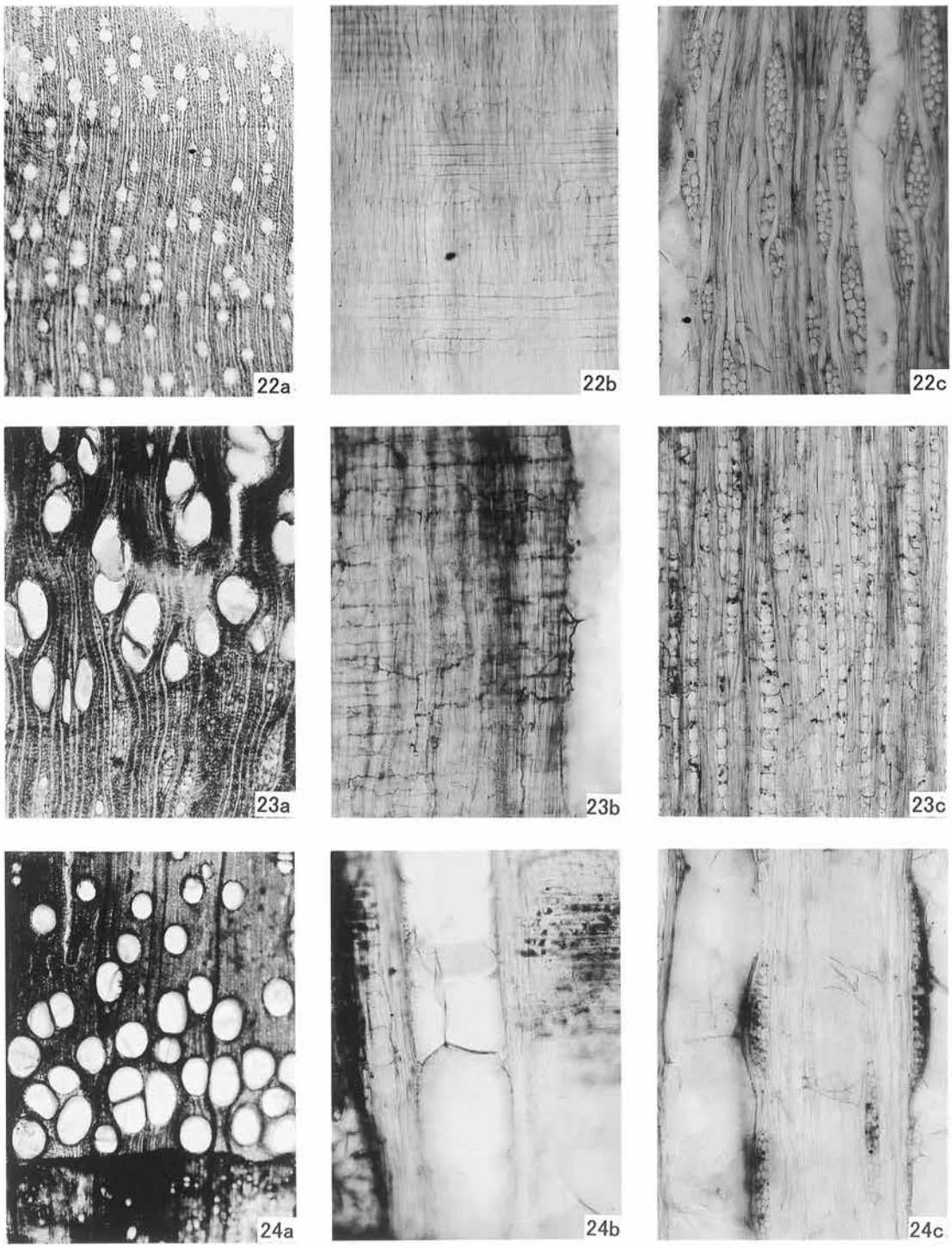
16　ケヤキ（野中土手付遺跡；№39）
17　ニレ属（野中土手付遺跡；№171）
18　ヤマグワ（野中土手付遺跡；№164）
　a：木口，b：柾目，c：板目

第30図　木材（6）



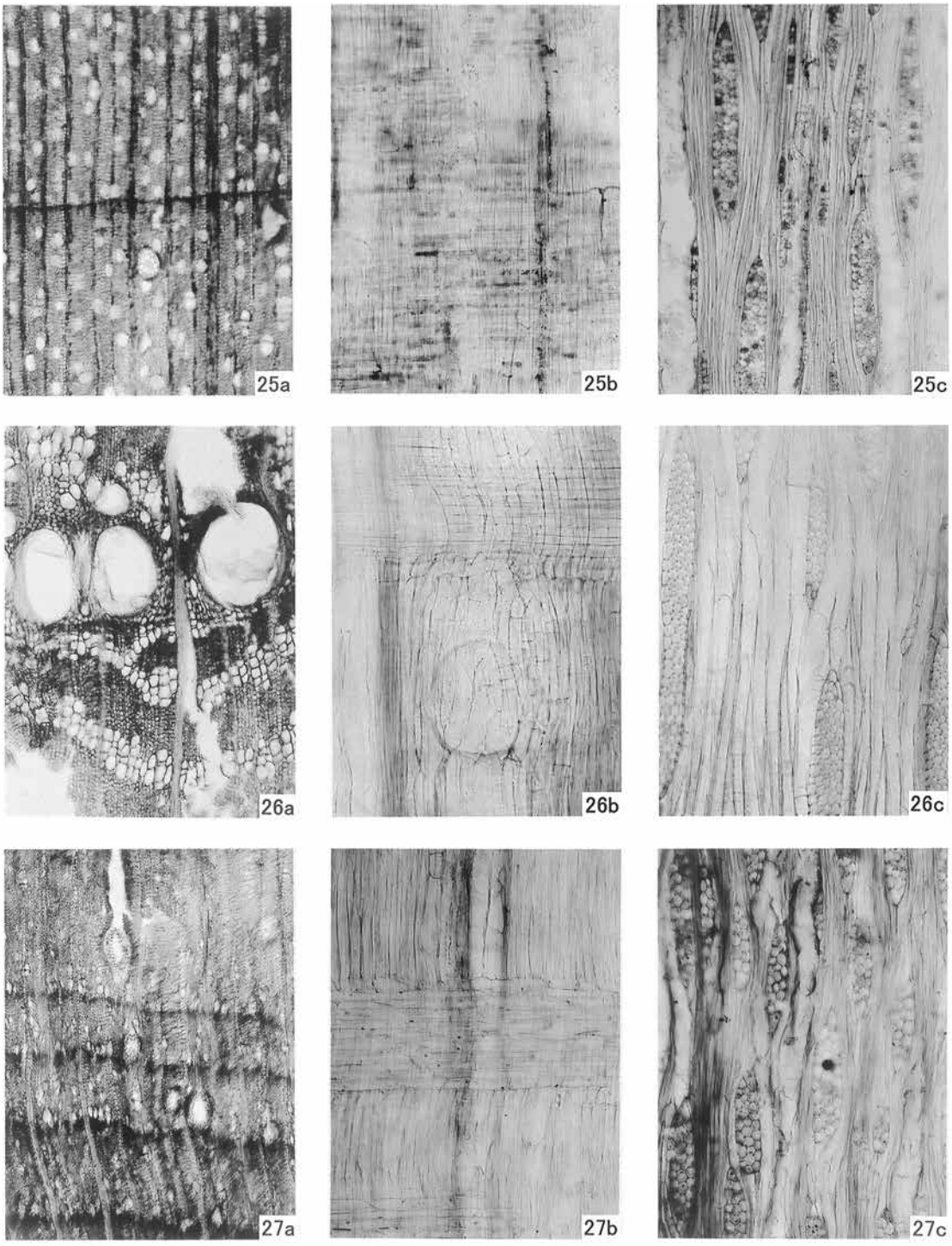
19　モクレン属（野中土手付遺跡；No.175）
20　サクラ属（野中土手付遺跡；No.20）
21　キハダ（砂山中道下遺跡；No.1010）
　　a：木口，b：柾目，c：板目

第31図　木材（7）



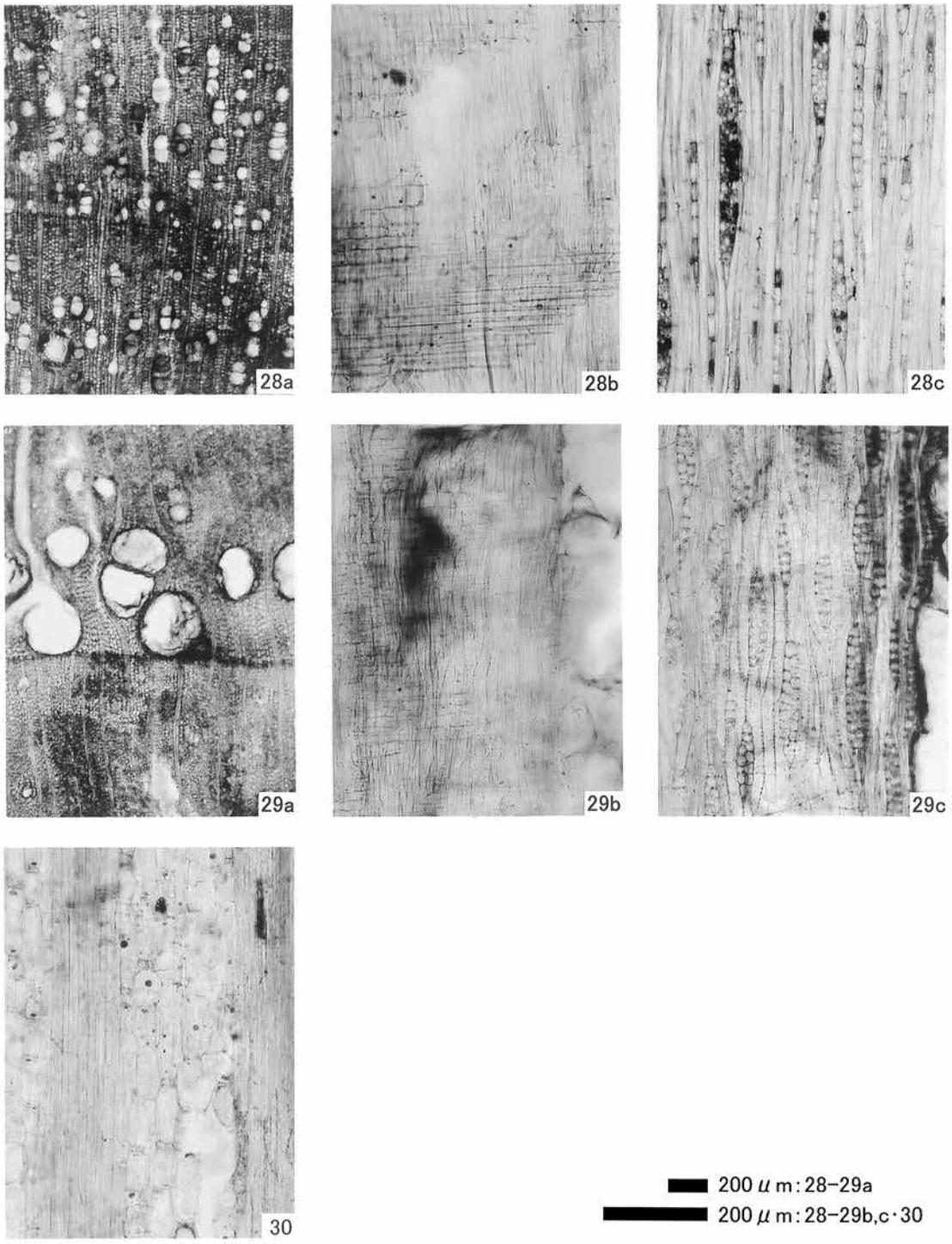
22　サンショウ属（砂山中道下遺跡；No.248）
23　アカメガシワ（野中土手付遺跡；No.4）
24　ウルシ（砂山中道下遺跡；No.270）
　a：木口，b：柾目，c：板目

第32図　木材（8）



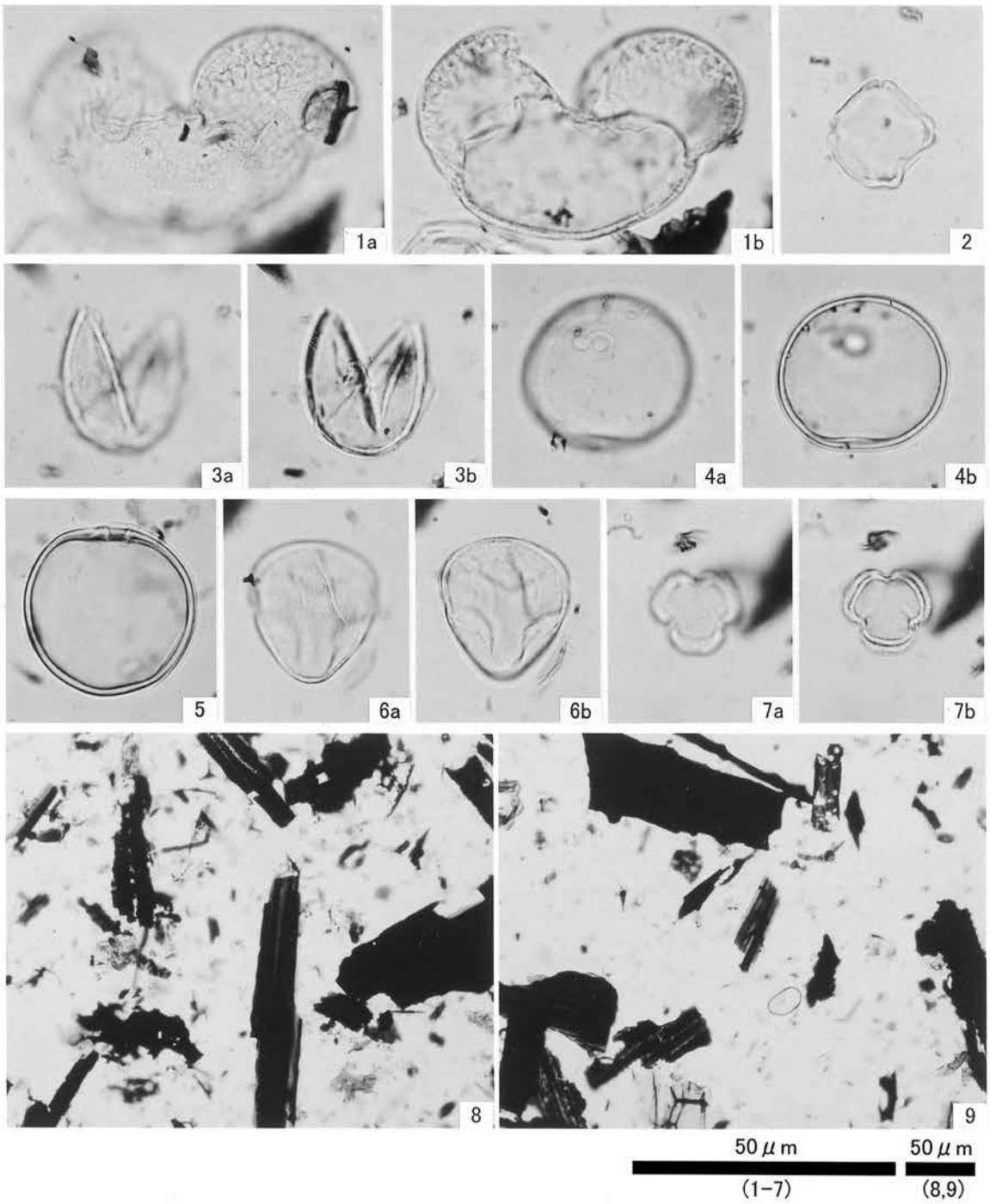
25　カエデ属（野中土手付遺跡；No.167）
26　ハリギリ（砂山中道下遺跡；No.188）
27　コシアブラ（野中土手付遺跡；No.22）
　a：木口，b：柾目，c：板目

第33図　木材（9）



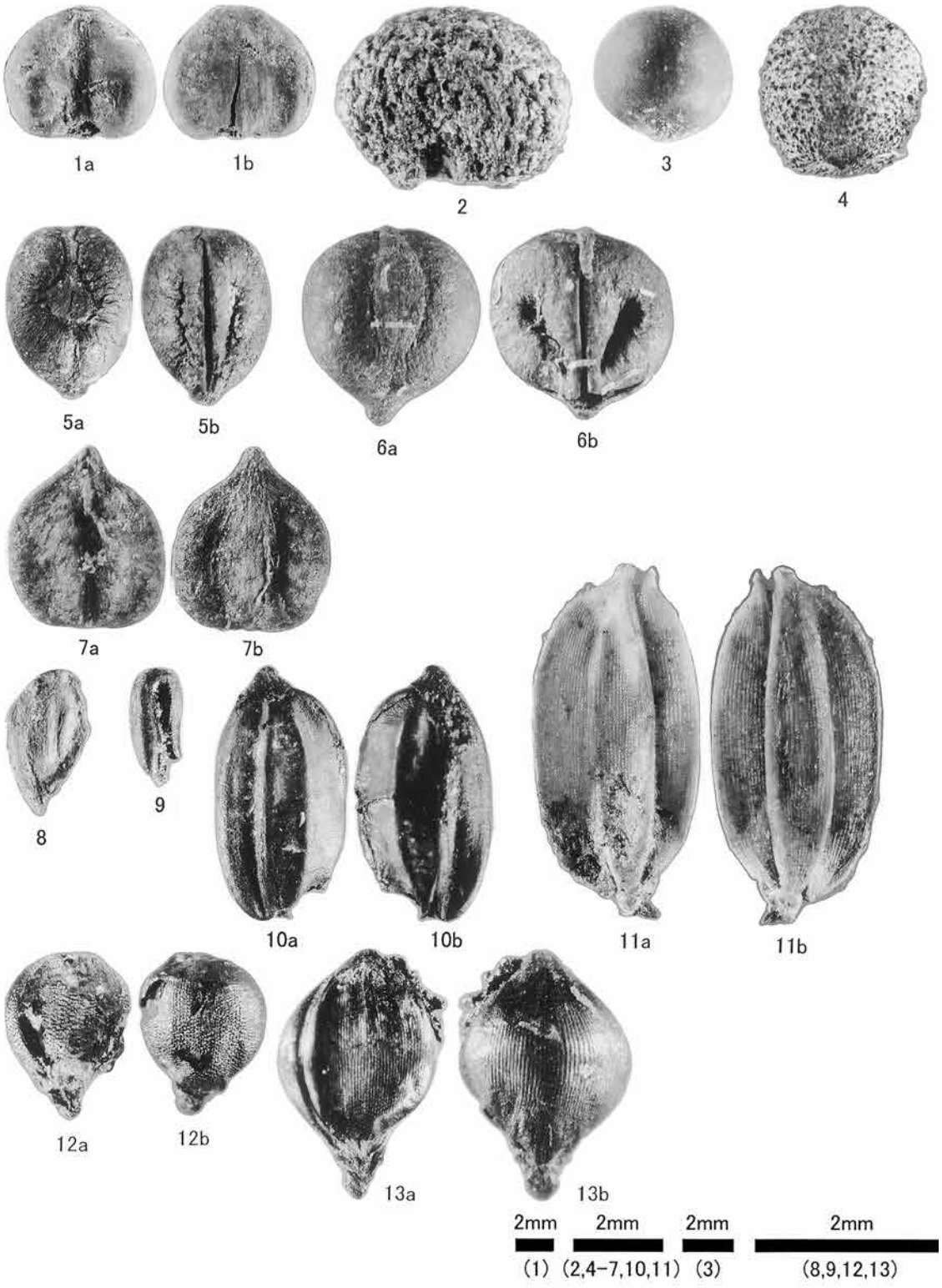
28　エゴノキ属（野中土手付遺跡；№9）　a：木口，b：柾目，c：板目
29　トネリコ属（野中土手付遺跡；№166）a：木口，b：柾目，c：板目
30　イネ科タケ亜科（砂山中道下遺跡；№257）縦断面

第34図　木材（10）



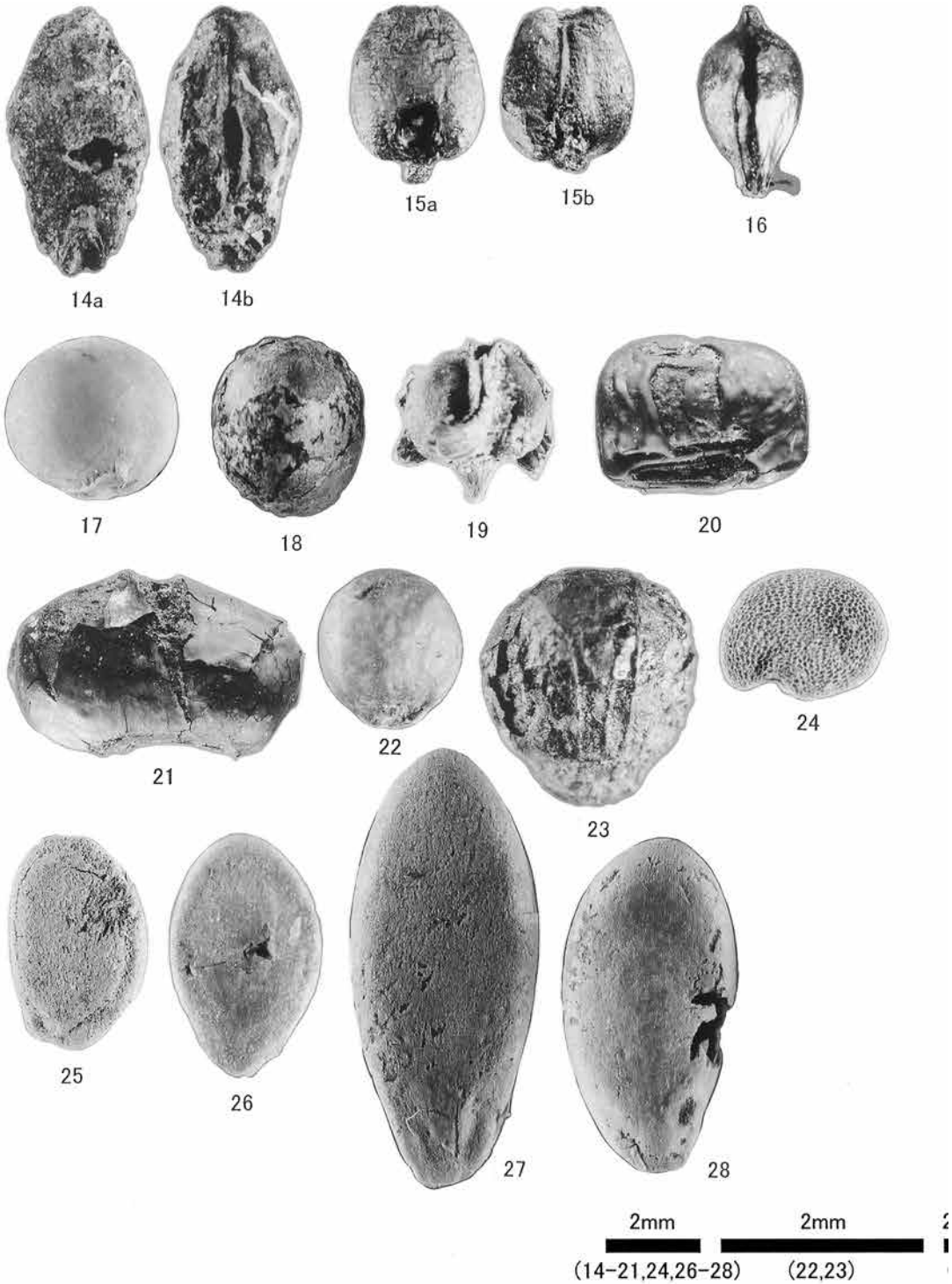
1　マツ属(SK32;4層)
2　ハンノキ属(SK32;4層)
3　スギ属(SK32;4層)
4　イネ科(SK32;4層)
5　イネ科(SK32;4層)
6　カヤツリグサ科(SK32;4層)
7　ヨモギ属(SK32;4層)
8　プレパラート内の状況(SK32;4層)
9　プレパラート内の状況(SK32;4層)

第35図　砂山中道下遺跡の花粉化石



1　コブシ 種子(SE17;2層)
2　マツブサ 種子(SK31;9層)
3　クスノキ科 種子(SE200;2層)
4　アカメガシワ 種子(SE17;4層)
5　ブドウ属 種子(SE200;2層)
6　ノブドウ 種子(SK31;2層)
7　ガマズミ属 核(SK31;9層)
8　ヘラオモダカ 果実(SK32;4層)
9　オモダカ科 種子(SK32;4層)
10　イネ 胚乳(SK32;4層)
11　イネ 穎(SK32;4層)
12　アワ？果実(SE200;3層)
13　ヒエ？果実(SK31;1層)

第36図　砂山中道下遺跡の種実遺体（1）



14　オオムギ 胚乳(SE171;1層)
15　コムギ 胚乳(SE171;4層)
16　カヤツリグサ科 果実(SK31;1層)
17　カナムグラ 種子(SK31;9層)
18　アサ 種子(SX175;5層)
19　ギシギシ属 果実(SE200;2層)
20　マメ類 種子(SK31;5層)
21　マメ類 種子(SK31;5層)
22　イヌコウジュ属 果実(SE17;6層)
23　エゴマ 果実(SE171;1層)
24　ナス科 種子(SK31;1層)
25　キカラスウリ 種子(SK31;2層)
26　スズメウリ 種子(SX175;3層)
27　メロン類(モモルディカメロン型) 種子(SE200;4層)
28　メロン類(マクワ・シロウリ型) 種子(SE200;4層)

第37図　砂山中道下遺跡の種実遺体（2）

要　　約

野中土手付遺跡

1　野中土手付遺跡は新潟平野の北東部、新潟県新発田市野中土手付ほかに所在し、沖積地の自然堤防上の微高地に立地する。標高は5.5mで現況は水田である。

2　調査は日本海東北自動車道湖南工事用道路建設に伴い、平成10年度に実施した。調査面積は3,020m^{2}である。

3　調査の結果、古墳時代前期の竪穴住居1軒と付属の土坑3基、古墳時代後期から古代（奈良・平安時代）の溝状遺構2条、古代の掘立柱建物7棟と井戸1基、杭列3、溝状遺構40条、自然流路3条が検出されている。古墳時代～古代まで流れていた自然流路から古墳時代前期・後期の土器、古代の土器・木製品が大量に出土している。古代の掘立柱建物には大型の長方形の柱掘形を持つものと、細い円形の柱掘形をもつ二グループがある。北側の遺構群の北に杭列があり、土地利用の境界の可能性がある。

4　古代の呪符木簡や封緘木簡の断簡などの木簡が12点出土している。また、墨書土器があり、「王」「丈マ人万」「道嶋」「十」「凡」「方」などがある。刻書土器では甕の体部に「□悲」と書かれたものが1点出土している。

砂山中道下遺跡

1　砂山中道下遺跡は新発田市湖南字砂山道下ほかに所在し、紫雲寺潟に流れ込む自然流路に挟まれた自然堤防上の微高地に立地する。標高は4.5mで現況は水田である。調査原因、調査年度は野中土手付遺跡と同じである。調査面積は2,590m^{2}である。

2　調査の結果、中世（鎌倉～室町）の集落跡で、掘立柱建物8棟、土坑5基、井戸5基、溝状遺構16条、杭列3列、火葬跡1基、土坑墓？1基が検出されている。

3　火葬跡に残っていた人骨は、成人の中年（性別不詳）のものである。

4　火葬跡に近接した自然流路や土坑からは、呪符木簡や卒塔婆など木簡が16点出土している。将棋の駒「銀将」が1点出土している。

5　遺物は大半が自然流路から出土した木製品で、漆器皿・椀、曲物、下駄、鍬、扇、大量の箸状木製品が出土している。土器は須恵器、舶載青磁、珠洲焼、中世土師器、肥前陶磁器などで、ほかに砥石、煙管、銭貨などが少量出土している。

引用文献

朝田　要　2004　「惣領浦之前遺跡出土の漆関連遺物について－コップ形須恵器を中心に－」『紀要第７号富山考古学研究』　財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所

飯坂盛泰ほか 2002　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第115集　蔵ノ坪遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

石田守之　1999　［砂山中道下遺跡］『木簡研究』第21号　奈良国立文化財研究所

伊藤秀和　2005　『加茂市文化財調査報告（14）　馬越遺跡』加茂市教育委員会

井上尚明　1994　「コップ形須恵器の考察－奈良時代の計量器について－」『考古学雑誌』第79巻第４号　日本考古学会

江口友子ほか 2000　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第100集　釈迦堂遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

春日真実　1999　「第４章古代第２節土器編年と地域性」『新潟県の考古学』新潟県考古学会編　高志書院

春日真実　2001　「柏崎市鶴巻田遺跡出土漆器の編年的位置」『新潟考古学談話会会報』第23号　新潟考古学談話会

春日真実　2003　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第123集　沖ノ羽遺跡Ⅲ（Ｃ地区）』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

轡田克史　2004　「古代第三章第四節　郡郷、人々の生活と不安」『笹神村史通史編』笹神村

小島幸雄　1991　『中島廻り遺跡発掘調査報告書』上越市教育委員会

小林昌二　2004　「古代第一章第二節最北の国造～高志深江国造」『笹神村史通史編』笹神村

小林昌二・相澤　央　2004　『新潟県内出土古代文字資料集成』新潟大学「大域的文化システムの再構築に関する資料学的研究」プロジェクト

小林義廣・駒形敏朗　1986　『三貫梨遺跡－第１次発掘調査－』長岡市教育委員会

後藤　孝　2003　「福田遺跡」『新潟県埋蔵文化財調査事業団年報　平成14年度』財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

坂井陽一　1991　「第Ⅰ章　地形」『新潟市史　資料編12自然』新潟市

笹沢正史　2004　「第Ⅳ章各論１須恵器生産の概要」『越後阿賀北地域の古代土器様相』新潟古代土器研究会

品田高志　1990　『柏崎市埋蔵文化財調査報告書第11　千古塚』柏崎市教育委員会

品田高志　1999　「第５章第３節第１項中世土師器」『新潟県の考古学』新潟県考古学会

高橋一樹　1999　「第４章１節中世成立期の岩船郡地域」『村上市史通史編１原始・古代・中世』村上市

高橋　学　2003　「城柵官衙と墨書土器」『古代官衙・集落と墨書土器』独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所

高濱信行・卜部厚志　2004　「第Ⅰ章１青田遺跡の立地と紫雲寺地域の沖積低地の発達過程」『新潟県埋蔵文化財調査報告書第133集　青田遺跡第二分冊』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

田中耕作・鶴巻康志　1990　『新発田市埋蔵文化財調査報告第13　三光館跡・宝積寺館跡』新発田市教育委員会

手塚　孝ほか 2001　「米沢市埋蔵文化財調査報告書第73集　古志田東遺跡発掘調査報告書」米沢市教育委員会

寺崎裕助ほか 2004　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第135集　反貫目遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団

東国歴史考古学研究所　1995　『シンポジウム　中世の火葬－その展開と地域性－資料集』東国歴史考古学研究所

戸根与八郎　2000　「野中土手付遺跡」『木簡研究』第22号　奈良国立文化財研究所

中条町教育委員会　2005　「城の山古墳現地説明会資料」

奈良国立文化財研究所　1985　『木器修正図録　近畿原始編』奈良国立文化財研究所

奈良国立文化財研究所　1993　『木器修正図録　近畿古代編』奈良国立文化財研究所

日本考古学協会新潟大会実行委員会　1993　『日本考古学協会1993年度新潟大会シンポジウム２東日本における古墳出現過程の再検討』日本考古学協会新潟大会実行委員会
野水晃子ほか 2005　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第146集　西川内北遺跡・西川内南遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
平川　南　　2005　「古代越後国の磐船郡と沼垂郡」『古代の越後と佐渡』小林昌二編　高志書院
北陸中世考古学研究会編　2001　『中世北陸の井戸』第14回北陸中世考古学研究会資料集
本間克成ほか 2003　『新潟県埋蔵文化財調査報告書第126集　浦廻遺跡』新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団
水澤幸一　　1996　『中条町埋蔵文化財調査報告第10集　江上館Ⅳ』中条町教育委員会
水澤幸一　　1998　『中条町埋蔵文化財調査報告第15集　兵衛遺跡・四ツ持遺跡』中条町教育委員会
水澤幸一　　1999　『中条町埋蔵文化財調査報告第16集　中倉遺跡３次』中条町教育委員会
水澤幸一　　2001　『中条町埋蔵文化財調査報告第21集下町・坊城遺跡Ⅴ』中条町教育委員会
水澤幸一　　2001b　「越後の特異な建物群」『掘立と竪穴　中世遺構論の課題』東北中世考古学叢書２　東北中世考古学会編　高志書院
水澤幸一　　2002　『中条町埋蔵文化財調査報告第24集　船戸川崎遺跡』中条町教育委員会
水澤幸一　　2004　『中条町埋蔵文化財調査報告第30集　草野遺跡２次』中条町教育委員会
水澤幸一　　2005　「潟街道の遺跡群」『古代の越後と佐渡』小林昌二編　高志書院
水澤幸一・吉村光彦　2001　『中条町埋蔵文化財調査報告第22集　船戸桜田遺跡２次』中条町教育委員会
水澤幸一・吉村光彦　2004　『中条町埋蔵文化財調査報告第31集　屋敷遺跡２次』中条町教育委員会
水沢教子ほか 1996　「第四章第二節木簡の転用・廃棄方法」『長野県屋代遺跡群出土木簡』（財）長野県埋蔵文化財センター発掘調査報告書21日本道路公団東京第二建設局　長野県教育委員会　（財）長野県埋蔵文化財センター
水野正好　　1974　「祭礼と儀礼」『都とむらの暮らし』古代史発掘10　講談社
室岡　博　　1980　『新潟県中頚城郡吉川町　河沢塚発掘調査報告書』吉川町教育委員会
吉井雅勇　　2002　『荒川町埋蔵文化財調査報告第８集　鴨侍遺跡』荒川町教育委員会
吉岡康暢　　1994　『中世須恵器の研究』吉川弘文館
吉村光彦　　2002　『中条町埋蔵文化財調査報告第23集　大塚遺跡２次』中条町教育委員会

野中土手付遺跡　古墳時代土器観察表（1）

報告No.	出土地点	層位	種類	器種	分類	法量（cm） 口径	現器高	底径	残存率／16	器高／口径	焼成 良・並・不良	胎土	色調	調整	備考
1	SI101-№3		古式土師器	高杯	杯部A 脚部B	13.60	10.60	16.35	15/16	78	並	石英	内：10R5/8 外：2.5YR8/2	内外：ハケメ、脚内：ハケメ、内：ミガキ、赤彩	
2	SI101-№59・74・91、SD101-№54、7A4、8B4	V	古式土師器	高杯	杯部B2	16.70	4.30		6/16	26	良	石英	内：10YR7/2 外：10R4/8	内外：ミガキ、外：ハケメ、赤彩	
3	SI101-№285、SK102-№5・77、7B7・11、8A21、8B3・4、暗渠T	砂、V	古式土師器	高杯	杯部B2	17.50	5.90		3/16	34	並	長石	内：10R5/8 外：10R5/8	内外：ミガキ、赤彩	
4	SI101-№167・262・267・277・278・279、7A4、8A21・22、8B4	II、V	古式土師器	高杯	杯部C1	18.00	6.35		2/16	35	良		内：2.5Y8/3 外：10R5/8	内：ハケメ、内外：ミガキ、外：赤彩	
5	SI101-№147、8A16・21、8B7、2区	V	古式土師器	高杯	杯部C2	15.50	5.20		8/16	34	良	金雲母、石英	内：7.5R4/6 外：7.5R4/8	内外：ミガキ、赤彩	
6	SI101-№88・289・299、SD101-№69、7A4・19	V	古式土師器	高杯	杯部C2	11.90	6.70		5/16	56	良	長石、チャート、石英	内：10R6/8 外：10R5/8	内外：ミガキ、赤彩、 外：擬凹線（3条）、杯部有段	
7	SI101-№86・89・92・93・96・180・187・192・195・198・208・214、SD101-№109・161、7A4・19・24、8B4	V	古式土師器	高杯	杯部C2	22.40	6.40		8/16	29	良		内：10YR5/8 外：10TR4/8	内外：ミガキ、赤彩、 外：ヘラ状工具によるキザミ目	
8	SI101、SD101-№60・65・66・132、8A22、2区	V	古式土師器	高杯	杯部C		4.40				良	金雲母、石英	内：2.5Y8/3 外：10R5/8	内：ヘラナデ、内外：ミガキ、 外：擬凹線（3条）、赤彩	
9	SI101-№179		古式土師器	高杯	脚部B		6.80	12.70			良	長石、石英	内：10YR8/1 外：10YR7/2	内：ヘラケズリ？、外：ミガキ	透かし孔3個
10	SI101、8B7・9	V	古式土師器	高杯？	脚部B		4.30	16.00			良	長石、海綿骨針	内：10YR7/4 外：2.5YR5/8	内外：ハケメ、 外：擬凹線（3条）、ミガキ、赤彩	
11	SI101-№85		古式土師器	器台			6.00				並		内：10YR8/2 外：10YR8/3	脚内：ナデ、外：ハケ、内外：ミガキ	
12	SI101-№138・139、SD101-№30、8A16・21	V	古式土師器	器台	受部A 脚部A	16.90	11.85	12.20	5/16	70	良	長石	内：10YR7/2 外：10YR6/3 脚内：5Y3/1	脚内：ハケメ、内外：ミガキ	透かし孔4個以上
13	SI101-№244・285・291・300、SK102-№1・2、7B7	V	古式土師器	器台	受部B	16.80	5.10		13/16	30	良	チャート、長石	内：10YR7/3 外：10YR7/3	内外：ミガキ	
14	SI101-№193・226、SX101-№85		古式土師器	器台	受部B		2.45				良	金雲母	内：10YR8/1 外：10YR7/2	外：ケズリ	
15	SI101-№332		古式土師器	器台	受部C	9.10	4.90		15/16	54		石英、長石	内：7.5YR7/6 外：10YR8/3	外：ミガキ、丁寧なナデ？	外：スス？
16	SI101-№169、7A4・25、8A16	V	古式土師器	器台	脚部A		6.20	10.20			並	石英	内：10YR6/3 外：10R5/8	内外：ハケメ、脚内:ハケメ、外：ミガキ、赤彩	透かし孔3単位か、2個のみ残る
17	SI101-№161、8A22	V	古式土師器	器台	脚部B		4.35	12.00			並	石英	内：10YR8/2 外：5YR7/4	脚内：ハケメ、外：ミガキ	透かし孔有り。薄く軽い
18	SI101-№43・107		古式土師器	器台	脚部B		6.35	16.90			良	精良、石英	内：10YR8/3 外：10YR8/3	内：ハケメ、外：ミガキ	透かし孔3個、径1.2cm位。丁寧な作り
19	SI101-№240・242・245、3B8	V	古式土師器	器台			5.90				並	精良、海綿骨針	内：10YR7/3 外：10YR7/2	外：ミガキ	三角透かし孔2個以上
20	SI101-№173		古式土師器	蓋			4.10	鈕径：4.20			良		内：10R6/8 外：10R6/8	内外：ハケメ、ミガキ、赤彩	中実の鈕
21	SI101－№59		古式土師器	蓋			3.50	鈕径：2.50			並	金雲母、石英	内：2.5Y7/2 外：10YR7/1	内外：ハケメ、内：ケズリ、外：面取り？	中実の鈕
22	SI101-№331・333、8B1	V	古式土師器	鉢	B	19.00	10.20		3/16	54	並	長石、石英	内：10YR4/1 外：10YR4/1	内外：ハケメ	破損後被熱して黒変か。

野中土手付遺跡　古墳時代土器観察表（2）

報告No.	出土地点	層位	種類	器種	分類	法量（cm）			残存率／16	器高／口径	焼成	胎土	色調	調整	備考
						口径	現器高	底径			良・並・不良				
23	SI101-№210・223		古式土師器	鉢	D	10.50	6.10		4/16	58	良	石英	内：7.5YR2/1 外：7.5YR1.7/1	内：ナデ、外：ハケメ、ケズリ	黒変か
24	SI101-№17、8B4	V	古式土師器	壺	A		3.00				並	長石、石英	内：2.5Y7/2 外：10R5/8	外：胴部突帯擬凹線（4条）、赤彩	体部径16.0㎝。胎土やや粗い
25	SI101-№44、8A1、8B1・3	V	古式土師器	壺	C1	7.50	5.80	1.10	14/16	77	良	長石、石英	内：10R5/6 外：10R5/6	内外：ミガキ、赤彩	
26	SI101-№1・5、8B6	V	古式土師器	壺			10.05				並	長石、石英	内：7.5YR1.7/1 外：7.5YR6/4	内：指頭圧痕、外：ハケメ、丁寧なナデ	内：ススク、全体黒変
27	SI101-№11～13、7B10	V	古式土師器	壺			12.90				並	石英、長石	内：2.5Y8/3 外：7.5YR8/3	内：ヘラ？で撫でた線条痕、外：ハケメ	外：底ススク
28	SI101-№45・49		古式土師器	壺			7.90	6.30			並	石英、長石	内：2.5Y7/3 外：2.5Y7/3	内外：ハケメ	
29	SI101-№257、SD101-№55～57・61・65・137、SX101-№14・58、8A25、8B4・23	V	古式土師器	壺	E2	14.10	27.20	5.60	8/16	193	並	金雲母、石英、長石	内：10YR7/3 外：10YR7/3	内外：ハケメ、外底：ケズリ	
30	SI101-№90・209・213・215・246、SK102-№22～28・30・32・58、SD101、7A19・25、7B1	V	古式土師器	甕	A2	18.40	23.00		11/16	125	並	金雲母、精良、石英	内：10YR8/3 外：2.5Y8/2	内外：ハケメ、内：指頭圧痕	内：オコゲ、外：ススク
31	SI101-№24・25・27～30・32・46		古式土師器	甕	A2	14.40	14.40	1.70	13/16	100	並	石英	内：2.5Y8/2 外：10YR7/2	内：丁寧なナデ、外：ハケメ	外：ススク
32	SI101-№241・243		古式土師器	甕	A2	15.35	10.20		6/16	66	並	長石、石英	内：10YR8/1 外：10YR5/2	内：ケズリ、外：ハケメ、ヘラナデ	外：ススク
33	SI101-№301		古式土師器	甕	A2	16.00	7.50		4/16	47	並	金雲母、石英	内：10YR4/2 外：10YR5/3	内外：ハケメ	内：炭化物、外：ススク
34	SI101-№329		古式土師器	甕	A3	20.60	4.30		3/16	21	並	金雲母、長石	内：10YR8/2 外：10YR8/2	内外：ハケメ	
35	SI101、8A6・21、8B1	V	古式土師器	甕	B	15.20	19.00		6/16	125	並	金雲母	内：10YR6/2 外：10YR7/2	尖底、内：ケズリ、ナデ、 外：ハケメ、体部上端にキザミ目	
36	SI101-№76～78・111		古式土師器	甕			10.80				並	金雲母	内：10YR8/2 外：10YR7/2	内外：ハケメ、内：指頭圧痕、外：ケズリ	内：炭化物、外：ススク
37	SD101-№121、2区	V	古式土師器	高杯	杯部C2	16.80	5.80		2/16	35	良	長石、金雲母	内：10R5/6 外：10R5/8	外：強いヘラナデ、内外：ミガキ、赤彩	
38	SD101-№108		古式土師器	高杯	脚部B		6.60	11.15			良	精良、金雲母	内：10YR1.7/1 外：10YR7/3	外：ミガキ	2個1組の透かし孔が3単位
39	SD101-№127		古式土師器	器台			4.40				並	海綿骨針	脚内：10YR8/1 外：10R6/8	外：ハケメ、ミガキ、赤彩	摩耗顕著。赤彩剥落
40	SD101-№65・124		古式土師器	鉢	A2	9.40	5.40		2/16	57	良	石英、金雲母	内：7.5YR7/4 外：5YR7/6	内外：ハケメ、内：ナデ	
41	SD101-№99・103、SX101-№84、8B4	V	古式土師器	鉢	A2	12.90	7.30	2.30	4/16	57	不良	長石、石英	内：10YR8/.3 外：7.5YR8/3	内外：ヘラナデ、外：ハケメ	
42	SD101-№90、5B9、8B3～5	Ⅱc、V	古式土師器	鉢	A2	14.00	9.80	3.00	3/16	70	並	石英	内：7.5YR8/4 外：7.5YR8/3	内：ヘラナデ、外：ハケメ	
43	SD101-№107		古式土師器	壺	D1	14.00	6.20		1/16	44	並	長石	内：10YR6/3 外：10YR7/3	内外：ヘラナデ、外：ハケメ	
44	SD101-№22		古式土師器	壺	D2	10.00	5.30		4/16	53	良	長石、石英	内：7.5YR7/4 外：7.5YR7/4	内：ヘラナデ、外：ハケメ	
45	SD101-№26・28		古式土師器	壺			3.85				並	金雲母	内：7.5YR7/4 外：7.5YR7/4	内外：ハケメ	外：ススク

野中土手付遺跡　古墳時代土器観察表（3）

報告No.	出土地点	層位	種類	器種	分類	法量（cm）			残存率／16	器高／口径	焼成	胎土	色調	調整	備考
						口径	現器高	底径			良・並・不良				
46	SD101-№130・143・146、7A10、7B10、8B6	V	古式土師器	壺	A		9.55				良		内：5Y4/1 外：5YR6/6	内：体底部ハケメ（細）、 外：ハケメ（粗）、ミガキ、胴部突帯（幅2.0cm）	外：底中心ススト？
47	SD101-№98一括		古式土師器	壺	F		26.15				良	金雲母、石英	内：7.5YR8/4、N6/ 外：7.5YR8/3～8/5	内：ハケメ、外：ナデ、ケズリ？	
48	SD101-№96・98一括、SX101-№57、8B5、9B1	砂、V	古式土師器	壺			7.10	2.80			良	金雲母、長石	内：2.5Y6/2 外：10R5/8	内：ハケメ、外体：ミガキ（幅広い）、 外底：ミガキ（幅狭い）、外：赤彩	
49	SD101、8B4、9A13	V	古式土師器	甕	A1	15.20	7.00		2/16	46	不良	金雲母、長石、石英	内：2.5Y8/3 外：2.5Y8/2	内外：ハケメ、内：ナデ、外：指頭圧痕	外：ススト
50	SD101-№95、8B4	V	古式土師器	甕	A1	14.00	9.30		3/16	66	並	金雲母、長石、石英	内：7.5YR5/3 外：10YR7/3	内外：ハケメ、ナデ	外：ススト
51	SD101-№45・50・51・62～65、8B23	V	古式土師器	甕	A2	18.40	21.90	1.00	16/16	119	並	長石、石英、金雲母	内：5YR7/6 外：5YR7/6	内外：ケズリ、ハケメ、指頭圧痕	内：オコゲ、外：ススト
52	SD102-№7・8	1	古式土師器	器台	受部B	14.40	4.550		1/16	32	良	金雲母、長石、石英、海綿骨針	内：5YR6/4 外：2.5YR7/6		
53	SX101-№57		古式土師器	器台			4.90				並	長石	外：10YR7/3	内外：ハケメ、内：ヘラナデ、外：ミガキ	透かし孔4個
54	SX101-№94		古式土師器	蓋	B2	8.50	3.25	鈕径：2.70	9/16	38	並	長石	内：7.5YR4/1 外：2.5YR2/1	内外：ミガキ、内：指頭圧痕	中実の鈕
55	SX101-№103		古式土師器	蓋			1.90	鈕径：3.00			並	長石、金雲母	内：5YR7/4 外：10R6/8	外：赤彩	リング状の鈕
56	SX101-№86		古式土師器	蓋			3.00	鈕径：3.90			並		内：10YR8/2 外：2.5YR7/6	外：ミガキ、赤彩	中実の鈕
57	SX101-№16		古式土師器	壺	C1	(10.80)	(6.30)		2/16	58	並	金雲母、石英	内：7.5YR7/4 外：2.5Y8/3	外：ハケメ、内外：ミガキ	外：アバタ状
58	SX101-№65		古式土師器	壺	D1	(16.00)	(4.40)		1/16	28	並	金雲母、長石、石英	内：2.5Y6/2 外：10YR7/2	内：カキメ、外体部：刺突	
59	SX101-№9・15・57・83・92・93・102・150		古式土師器	壺			23.55	3.90			良	石英、長石	内：10YR7/3 外：2.5Y8/4	内体部上：指頭圧痕、内体部中～下：ハケメ、 外：ハケメ、外体部下：ケズリ	外：焼成時の黒変、被熱、オキ痕
60	SX101-№6		古式土師器	壺			8.60				並	金雲母、長石	内：5Y4/1 外：10YR7/2	内外：ハケメ、内：輪積痕顕著	内：黒変
61	SX101-№64、8B4	V	古式土師器	壺	E2	11.90	17.20		8/16	145	良	石英、長石、金雲母	内：7.5YR8/3 外：5YR7/6	内外：ハケメ、内：指頭圧痕	外：ススト？
62	SX101-№19		古式土師器	甕	A2	15.00	5.90		3/16	39	並	金雲母、石英、長石	内：10YR4/1 外：10YR6/2	内：ナデ、外：ハケメ	外：ススト
63	SX101-№15・69		古式土師器	甕	A2	(28.00)	(8.95)		1/16	32	不良	金雲母、長石、石英	内：10YR7/3 外：10YR7/3	内外：ハケメ、ナデ	
64	SX101-№3・7・24・29・30・32・37・48・65		古式土師器	甕	A3	14.40	10.10		7/16	70	並	長石、石英	内：10YR8/4 外：10YR7/4	内：ハケメ、ケズリ	外：ススト
65	SK102-№48、7A19・25	2、V	古式土師器	高杯	杯部C1	16.40	6.90		3/16	42	良	精良	内：10YR7/3 外：10YR8/2	内外：ミガキ	
66	SK102-№40		古式土師器	鉢	C	13.40	6.50	5.00	7/16	49	良	金雲母、長石	内：10YR4/1 外：10YR5/1	外：ハケメ、底外：横ハケメ→斜ハケメ	
67	SK102-№3・8・9・12、7B7	V	古式土師器	壺			3.40	2.90			良	長石、精良	内：2.5Y7/2 外：10YR6/3	内：ハケメ、外：ミガキ	
68	SK102-№11・13、7B1	V	古式土師器	壺			7.20	6.50			並	石英、長石	内：7.5Y4/1 外：7.5YR8/4	内外：ハケメ、外：ケズリ	内：黒変、外：ススト
69	SK102-№4・18、7B2	V	古式土師器	甕			-	3.00			並	金雲母、長石	内：10YR6/3 外：10YR5/2	内外：ハケメ	

野中土手付遺跡　古墳時代土器観察表（4）

報告№	出土地点	層位	種類	器種	分類	法量（cm）			残存率／16	器高／口径	焼成	胎土	色調	調整	備考
						口径	現器高	底径			良・並・不良				
70	SK103	1	古式土師器	甕	A2	18.00	9.40		4/16	52	良	金雲母、石英、長石	内：10YR7/3 外：10YR7/3	内：ハケメ、ナデ、 外：横ハケメ、縦ハケメ、斜ハケメ	
71	8B-P101-№1～3、8A1?、8B1	1、V	古式土師器	甕	A2	18.00	11.30		5/16	63	並	金雲母、長石、石英	内：10YR7/2 外：10YR8/2	内外：ハケメ	
72	SD24、13B3	5	古式土師器	甕	A3	16.90	11.70		2/16	69	並	金雲母	内：2.5Y7/2 外：2.5Y8/2	内外：ハケメ	
73	7B4	V	古式土師器	高杯	杯部A		6.55				良	金雲母	内：7.5YR7/4 外：7.5YR8/4 脚内：10YR8/3	脚内：ハケメ、内外：ミガキ、外：ヘラナデ？	
74	6B10	V	古式土師器	高杯	杯部B1 脚部B	21.85	14.60	12.10	15/16	67	良	金雲母	内：10YR8/2 外：10YR8/2	内外：ミガキ	内外：口縁から3～4cm幅でススス
75	3A17	V	古式土師器	高杯	杯部B1	19.80	6.45		15/16	33	並	長石、石英、金雲母	内：10YR7/3 外：10YR7/3	外：ハケメ、内外：ミガキ	
76	9A23、9B3・5・8・10	V	古式土師器	高杯	杯部B2	18.00	4.40		2/16	24	良	チャート、長石、石英	内：10R5/6 外：10R6/8	口縁：面取り、内外：ハケメ、赤彩	
77	9A17・22	V	古式土師器	高杯	杯部B		2.90				良	石英、長石	内：7.5R4/8 外：7.5R4/8	内外：ミガキ、赤彩	
78	不明		古式土師器	高杯	杯部C1	18.70	5.60		3/16	30	並	長石	内：2.5YR6/8 外：10R5/8	内外：ミガキ、赤彩	
79	6B4	V	古式土師器	高杯	杯部C		4.50				良		内：5YR2/1 外：5YR4/1	内外：ミガキ、赤彩、外：擬凹線（3条）、有段	黒変
80	7A16、暗渠2区	V	古式土師器	高杯	杯部C		5.00				良		内：10YR7/3 外：10YR7/3	内外：ミガキ	
81	8A20・24	砂、V	古式土師器	高杯	脚部A		8.20	12.20			良	石英	脚内：7.5YR8/4 外：7.5R4/8	内：ハケメ、外：ミガキ、赤彩	
82	8A24	砂	古式土師器	高杯	脚部B		6.50				並	長石、石英	外：5YR7/4	脚内：ナデ、外：ハケメ、ミガキ	
83	不明		古式土師器	高杯	脚部C		5.30				並	長石、石英	内：5YR6/2 外：5YR7/6	脚内：ハケメ、外：ケズリ、ミガキ、内外：赤彩	杯部内面黒変
84	8A22	V	古式土師器	高杯			4.20				良	金雲母・長石	脚内：10YR7/3 外：2.5YR5/8	脚内：ハケメ、外：ミガキ、赤彩	
85	3B7、4B3・8	V	古式土師器	器台	受部B	22.00	4.70		6/16	21	良	金雲母	内：10R5/8 外：10R5/8	内外：ミガキ、赤彩、口唇：キザミ目（2段）、 外：擬凹線（3条）、キザミ目	
86	3B2、5A25、5B9	V	古式土師器	器台	受部D	9.35	2.80		10/16	30	良	金雲母、石英	内：10R5/6 外：10R5/8	内外：ミガキ、赤彩	
87	7A16・21	V	古式土師器	器台		9.60	2.60		6/16	27	良	精良	内：10R4/8 外：10R4/8	内外：ミガキ、赤彩	
88	2B4	V	古式土師器	器台	脚部A		7.00	11.30			良	精良	外：10YR7/3	内：ヘラナデ、外：ミガキ	
89	8A23	V	古式土師器	器台			4.90				不良	長石	脚内：10YR8/3 外：7.5YR8/4	内：ハケメ、ナデ、外：ミガキ	
90	不明		古式土師器	器台			4.30				並	長石、石英	脚内：5YR8/4 外：5YR8/4	内外：ハケメ、外：ミガキ	透かし孔3単位
91	不明		古式土師器	器台			5.00				不良	長石、石英	脚内：5YR8/4 外：10R4/8	脚内：ナデ、外：ハケメ、ミガキ、赤彩	透かし孔3単位
92	5B9	V	古式土師器	蓋	A		3.40				良	海綿骨針、精良	内：10YR7/2 外：10R5/8	天井：ミガキ、赤彩、内：ナデ、 外：かえり部指頭圧痕	かえり有り
93	3A17	V	古式土師器	蓋	B1	10.60	5.05	鈕径：2.75	7/16	48	良		内：10R6/8 外：10R6/6	内外：ハケメ、ミガキ、赤彩	かえり無し。笠形の体部。 中実の鈕
94	7B10	V	古式土師器	蓋	B2	9.10	3.00	鈕径：2.30	4/16	33	並	長石、石英、金雲母	内：5Y4/1 外：2.5Y7/1	内外：ハケメ	中実の鈕

野中土手付遺跡　古墳時代土器観察表（5）

報告No.	出土地点	層位	種類	器種	分類	法量（cm）			残存率／16	器高／口径	焼成	胎土	色調	調　整	備　考
						口径	現器高	底径			良・並・不良				
95	3A16	V	古式土師器	蓋			2.70	鈕径：3.70			並	長石	内：5YR8/4 外：10R5/8 （一部4/8）	外：ミガキ、赤彩	中実の鈕
96	5A23	V	古式土師器	蓋			3.10	鈕径：3.30			並	石英、長石、砂	内：5YR8/4 外：5YR8/4	内外：ハケメ、外：ケズリ、ハケナデ	リング状の鈕
97	6B10	V	古式土師器	鉢	A1	13.80	7.80		6/16	57	良	精良、石英、長石	内：5YR7/6 外：7.5YR8/6	内外：ミガキ	内：炭化物、外：ススト
98	6B4	V	古式土師器	鉢	B	14.00	6.10		2/16	44	良	長石	内：10YR6/3 外：10YR6/3	外：ヘラナデ	
99	3A21	V	古式土師器	壺	A	8.10	12.10		14/16	149	良	長石、石英	内：10YR7/3 外：10R5/8	内外：ミガキ、外：擬凹線（8条、6条）、キザミ目、赤彩、口頸部有段	
100	不明		古式土師器	壺	A		3.90				並	石英	内：2.5Y6/1 外：10R5/8 （一部6/6）	内：ミガキ、外：キザミ目（上下2段）、擬凹線（5条）、赤彩	体部径16.0㎝
101	2B4、4A17、暗渠2区	V	古式土師器	壺	B	18.00	10.70		1/16	59	良	金雲母、石英	内：10YR7/2 外：2.5YR6/6	内外：ハケメ、 外：ミガキ、擬凹線（3条）、赤彩	
102	7A15	V	古式土師器	壺	C2	9.00	5.80		4/16	64	並	石英、金雲母	内：10YR8/2 外：10YR8/2	外：ヘラナデ	
103	2区		古式土師器	壺	D1	16.80	4.30		2/16	26	並	長石	内：10YR7/3 外：10YR7/4	内：ハケメ、口唇端部：キザミ目	
104	5B9	V	古式土師器	壺	D1	16.30	5.50		3/16	34	並	長石	内：7.5YR7/4 外：7.5YR7/4	内：ハケメ、外：有段口縁擬凹線（8条）	外：ススト
105	不明		古式土師器	壺	E1	14.00	4.80		3/16	34	並	金雲母、石英、長石	内：7.5YR8/4 外：7.5YR8/3	内：ハケメ	内：オコゲ、外：ススト、被熱による器面のはじけ
106	7B6	V	古式土師器	壺	E1	14.40	6.20		5/16	43	良	長石、石英、海綿骨針	内：10YR7/2 外：10YR7/2	内外：ハケメ、外頸部：刺突	
107	6B2	V	古式土師器	壺	E2	10.30	5.80		2/16	56	並	長石、石英、金雲母	内：2.5Y7/2 外：10R6/8	内：ハケメ、指頭圧痕、外：櫛描文、櫛状工具による直線文・波状文、赤彩	
108	6B1	V	古式土師器	壺	G	9.60	5.50		7/16	57	並	長石	内：10YR8/2 外：10YR8/3	内：指頭圧痕、外：ハケメ	
109	暗渠2区		古式土師器	壺			13.70				良	長石、石英	内：10YR7/3 外：10YR7/3	内：ハケメ、指頭圧痕、粘土紐明瞭。外：ハケメ	内：炭化物、外：ススト
110	7B5	V	古式土師器	壺			6.30	2.20			並	海綿骨針、石英、長石	内：N4/ 外：10YR7/3	内外：ハケメ、内：ヘラナデ、外：ミガキ	
111	7B8・9	V	古式土師器	甕			16.60	7.40			並	長石	内：2.5Y7/1 外：2.5Y8/3	内外：ハケメ	内：炭化物、外：ススト
112	4A8、5B8・9	V	古式土師器	甕	A2	15.30	6.75		8/16	44	良	長石、石英	内：7.5YR7/4 外：5YR7/6	内外：ハケメ	
113	9A22	V	古式土師器	甕	A2	15.30	5.90		4/16	39	並	金雲母、石英、長石	内：10YR7/3 外：10YR7/3	内外：うすいハケメ	
114	7A2	V	古式土師器	甕	A2	21.00	5.40		2/16	26	並		内：10YR7/3 外：7.5YR8/4	内外：ハケメ、ナデ	
115	9A13、9B9	V	古式土師器	甕	A2	19.00	16.60		4/16	87	並	金雲母、石英	内：10YR7/2 外：10YR6/2	内外：ハケメ、内：指頭圧痕	体部径：21.4㎝、 外：体部全体ススト
116	6B12	V	古式土師器	甕	A2	16.20	6.70		5/16	41	並	長石、石英	内：2.5Y8/2 外：.5Y8/2+2/1	内：横ハケメ、外：縦ハケメ、斜ハケメ	
117	6B3・8	V	古式土師器	甕	A2	18.90	18.10		4/16	96	並		内：10YR8/2 外：10YR8/2	内外：ハケメ、内：ケズリ	外：ススト
118	7B1・11	V	古式土師器	甕	A2	23.00	16.80		4/16	73	並	金雲母、長石	内：10YR6/2 外：10YR6/2	内外：ハケメ、内：ケズリ	外：ススト、内：アバタ状の器面

野中土手付遺跡　古墳時代土器観察表（6）

報告No.	出土地点	層位	種類	器種	分類	法量（cm）			残存率／16	器高／口径	焼成	胎土	色調	調整	備考
						口径	現器高	底径			良・並・不良				
119	7A15・16	Ⅴ	古式土師器	甕	A2	17.00	9.60		3/16	56	並	金雲母、長石	内：10YR7/2 外：10YR7/2	内外：ハケメ、内：指頭圧痕	内：炭化物、外：スス
120	9B7	Ⅱc	古式土師器	甕	A3	10.50	9.00		2/16	86	並	金雲母	内：10YR6/2 外：5YR7/4	内：丁寧なナデ、外：ハケメ	
121	8B2	Ⅲ、Ⅴ	古式土師器	甕	A3	23.10	24.90		6/16	108	並	長石、石英	内：2.5Y7/2 外：10YR7/2	内外：ハケメ	内：炭化物、外：スス
122	7A2	Ⅴ	古式土師器	甕			14.60				並	石英	内：10YR8/3 外：10YR8/3	内外：ハケメ	
123	5A24一括	Ⅴ	古式土師器	甕又は鉢			7.90	3.50			並	金雲母、長石、石英	内：2.5Y8/3 外：2.5Y8/3	内外：ハケメ、外：底面までハケメ	外：被熱で黒変
124	SD24、13A18、13B3	2	土師器	杯	A2	15.80	6.20		3/16	39	良	精良	内：2.5Y2/1 外：2.5Y7/3	内外：ミガキ、内：黒色処理	後期
125	SD24、13B6・7、土柱2S	2	土師器	杯	A2	16.70	6.00		1/16	36	並	石英、長石	内：10YR1.7/1 外：10YR8/3	内：ミガキ、黒色処理、外：ケズリ	後期
126	SD24、13B2	2	土師器	杯	B	14.20	4.60		1/16	32	並		内：7.5YR1.7/1 外：7.5YR7/3	内：ミガキ、黒色処理	後期、外面アバタ状
127	SD24、13A24、13B2	2、5	土師器	杯	A2	16.00	4.75		3/16	30	良	精良	内：10YR1.7/1 外：10YR6/3	内：ミガキ、黒色処理、外：ヘラケズリ	後期
128	SD24、13B4・9	5	土師器	杯	A1	14.80	6.80	5.50	1/16	46	良	金雲母、石英	内：10YR1.7/1 外：10YR7/2	内：ミガキ、黒色処理、外：ミガキ（炭素が吸着した口縁部周辺のみ）、強いナデ	後期
129	SD24、13B3・8	5	土師器	杯	A2	15.15	5.50	5.30	9/16	36	不良		内：10YR1.7/1 外：10YR8/3	内・ミガキ、黒色処理	後期
130	SD24、13B3	5	土師器	杯	A2	17.30	5.00		2/16	29	良	金雲母	内：10YR1.7/1 外：10YR6/4	内：ミガキ、黒色処理、外：ケズリ	後期
131	SD24、13B3、T		土師器	杯	A		6.00				並		内：10YR1.7/1 外：10YR7/2	内：ミガキ、黒色処理	後期
132	14B4	Ⅲ	土師器	杯	A2	16.35	4.40		3/16	27	良		内：10YR1.7/1 外：10YR7/2	内外：ミガキ	後期
133	14B10	Ⅲ	土師器	杯	A2	15.20	5.60		4/16	37	良	石英、赤色粒子	内：2.5Y3/1 外：2.5Y6/2	内：ミガキ、黒色処理（劣化）、 外：頸部に沈線2条	後期
134	不明		土師器	杯	A2	14.20	4.00		3/16	28	並	金雲母	内：7.5YR1.7/1 外：7.5YR7/3	内：ハケメ、ミガキ、黒色処理	後期
135	SD21、13A16	1、2	土師器	高杯			3.50	14.00			不良	長石	内：7.5YR8/3 外：7.5YR8/3	内外：ハケメ、ナデ	後期
136	SD24、13A23	2	土師器	高杯			3.25				並		内：5YR6/4 外：7.5YR6/4	外：ミガキ	後期
137	SD24、13A23	2	土師器	高杯			4.35				並	金雲母、石英	内：7.5YR1.7/1 外：7.5YR7/4	脚内：ハケメ、内外：ミガキ、内：黒色処理	後期
138	SD24、13B2	2	土師器	高杯	A	17.60	4.65		2/16	26	並	金雲母	内：10YR2/1 外：10YR8/2	内：ミガキ、黒色処理、外：ケズリ	後期
139	SD24、13B2	2	土師器	高杯			5.15				良	精良	内：10YR1.7/1 外：10YR8/3	脚内：ハケメ、外：ミガキ、内：黒色処理	後期
140	SD24、13B2・3	2	土師器	高杯			5.30				並	金雲母	内：7.5YR7/3 外：7.5YR7/3	脚内外：ハケメ、外：ミガキ	後期
141	SD24、13B2・7	2	土師器	高杯		12.90	7.70		2/16	60	並	金雲母	内：10YR1.7/1 外：10YR8/2	脚内：ハケメ、内外：ミガキ、内：黒色処理	後期
142	SD24	3	土師器	高杯			5.30	9.50			並	長石、金雲母	内：10YR1.7/1 外：10YR7/2	外：ケズリ、脚内：ハケメ、内外：ミガキ、 内：黒色処理	後期
143	SD24、13A18	5	土師器	高杯			4.90	9.65			並		内：10YR1.7/1 外：10YR7/3	脚内：ハケメ、内外：ミガキ、内：黒色処理	後期

野中土手付遺跡　古墳時代土器観察表（7）

報告No.	出土地点	層位	種類	器種	分類	法量（cm）			残存率／16	器高／口径	焼成	胎土	色調	調整	備考
						口径	現器高	底径			良・並・不良				
144	SD24、13A19	5	土師器	高杯			3.10	10.25			良		外：2.5Y8/3	脚内：ハケメ、外：ミガキ	後期
145	SD24、13B5	5	土師器	高杯			4.30	9.20			並	金雲母	内：10YR8/3 外：10YR8/2	脚内：ケズリ、内外：ハケメ、ミガキ	後期
146	SD24、13B8	5	土師器	高杯			2.70				並		内：10YR2/1 外：10YR7/3	内：ミガキ、黒色処理	後期
147	SD24、13B2・3・8		土師器	高杯			7.45				並	金雲母、 長石、石英	内：10YR1.7/1 外：10YR7/2	外：ケズリ、ハケメ、脚内：ハケメ、 内外：ミガキ、内：黒色処理	後期
148	9B4	Ⅲ	土師器	高杯			6.20				良		内：7.5YR8/4 外：7.5YR1.7/1 脚内：2.5Y5/1	脚内：ハケメ、内外：ミガキ、内：黒色処理	後期
149	8B4	Ⅴ	土師器	高杯			7.40				並		内：10YR1.7/1 外：10YR7/3 脚内：10YR4/1	内：黒色処理、外：ミガキ	後期
150	SD24、13A18	5	土師器	鉢			6.75	4.40			並	石英、長石、 金雲母	内：10YR1.7/1 外：10YR8/2	内：ミガキ、黒色処理、外：ケズリ、指頭圧痕	後期
151	SD24、13A18	5	土師器	鉢			6.00				並	石英、長石、 金雲母	内：10YR1.7/1 外：10YR7/2	内：ミガキ、黒色処理、外：ケズリ	後期
152	SD24、13B4		土師器	甕	A	18.00	6.80		4/16	38	並	石英、 金雲母	内：2.5Y7/3 外：10YR7/3	内外：ハケメ	後期
153	SD24、13B6～8	2	土師器	甑	B	18.00	13.60		2/16	76	並	長石、 金雲母	内：10YR7/3 外：10YR8/2	内外：ハケメ	後期
154	SD24、13B2・3・7	2、5	土師器	甑	A		24.90	8.90			並	石英、長石 多量、粗	内：10YR8/2 外：10YR8/2	内外：ハケメ	後期
155	SD24、13B4	5	土師器	ミニチュア 土器		4.40	3.60	4.20	4/16	82	並	金雲母	内：10YR7/2 外：10YR7/2	内：指頭圧痕、丁寧なナデ、 外：ハケメ、丁寧なナデ（ミガキ？）	後期
156	15A18	Ⅱ	土師器	ミニチュア 土器		6.00	3.80	4.60	2/16	63	並		内：2.5Y8/3 外：2.5Y8/3	内外：指頭圧痕	後期。輪積み痕明瞭
157	15A21	Ⅲ	土師器	ミニチュア 土器		3.60	1.40	2.80	2/16	39	並		内：2.5Y8/2 外：2.5Y8/2	内：指頭圧痕、外：ハケメ	後期
158	6B8～10	Ⅱc	須恵器	杯蓋		15.80	4.30		2/16	27			内：N6/ 外：5PB6/1		後期、TK10
159	11A17	Ⅲ	須恵器	杯蓋		16.30	3.20		2/16	20	良		内：N6/ 外：5PB6/1		後期、TK15
160	12B1	Ⅲ	須恵器	瑞							良	精良	内：自然釉 外：N4/	外：櫛描文	後期、TK10、内：自然釉。 輪積みで破損

野中土手付遺跡　古代土器観察表（1）

報告No.	出土地点	層位	種類	器種	分類	法量（cm）			残存率／16	器高／口径	焼成	胎土	ロクロ回転	調整	備考
						口径	現器高	底径			良・並・不良	A・B・C			
1	SB1-SK7、15A21、15B2	Ⅲ	須恵器	甕							並	AかC		内：同心円文当具痕、 外：カキメ、平行線文当具痕	№8と同一個体、赤灰色
2	SB5-SK4、SD24’、11A25、11B2～5・9、12A24、12B6、14B1、SD24T	Ⅱc、Ⅲ	須恵器	横瓶	A	11.8	23.1	体部幅：36.2	1/16		不良			外：カキメ、平行線文タタキ	
3	SE1、13B10、SD24T	2、Ⅲ	須恵器	杯蓋	b	17.3	2.9		1/16		良	精良	右	外：ケズリ	内：スス？
4	SD1、15B10	1	須恵器	無台杯	AⅢb	13.0	2.7	9.0	5/16	20	不良	A、精良、長石		ヘラ切り	
5	SD1、14A20・25	1、Ⅲ	須恵器	無台杯			2.0	8.5			並	A			底外墨書
6	SD1、15B10	1	土師器	無台椀	Ba	12.9	3.9	5.5	5/16	30	並	精良		回転糸切り	
7	SD1、15B10	1	土師器	無台椀	C		1.4	4.7			良	金雲母		ミガキ、内：黒色処理？、底：回転糸切り	
8	SD3、11B7・9、13A23、13B4・5	Ⅱc、Ⅲ	須恵器	甕		21.2	6.6		2/16		並	AかC			№1と同一個体、赤灰色
9	SD3・4、15B1	1	土師器	無台椀	Aa	12.9	4.7	7.6	2/16	36	並	精良		ヘラ切り、外：赤彩	
10	SD11、14A22・23、14B5、15A18	1、Ⅱc、Ⅲ	須恵器	杯蓋	Ca	12.8	2.4	鈕径：2.1	1/16	19	不良	長石		天井：ケズリ	重ね焼き痕。内：灰色、外：淡褐色
11	SD16、14B10	1	須恵器	無台杯			0.9				並				底外墨書読み不明
12	SD20NT	1、2、4	須恵器	無台杯	AⅠb	12.6	3.0	8.2	4/16	24	並	B、長石	左	ヘラ切り	
13	SD20	1、4	須恵器	無台杯	AⅡb	12.3	3.4	7.3	3/16	28	良	B、精良、 海綿骨針		ヘラ切り	見込み磨耗
14	SD20	1	須恵器	無台杯	AⅡb	12.3	2.9	7.0	14/16	24	並	B		ヘラ切り	内外面摩耗顕著
15	SD20	1、4	須恵器	無台杯	AⅣa	12.0	3.3	8.2	4/16	28	良	B	左	ヘラ切り	底外墨書「＋」又は「×」
16	SD20、14B8	1、Ⅲ	須恵器	無台杯	AⅣb	12.8	3.2	8.2	5/16	25	並	B、長石、石英	左	ヘラ切り	
17	SD20、14A22・23、SD20NT	4、Ⅲ	須恵器	無台杯	AⅣb	12.4	3.0	9.0	6/16	24	良	B、長石		ヘラ切り	
18	SD20、11B2、14A17	1、Ⅱc、Ⅲ	須恵器	有台杯	Dc	15.0	7.2		2/16		良	A、長石		貼付高台、沈線：口縁部1条、体部1条	
19	SD24T		須恵器	無台杯	AⅠa	11.8	3.4	8.6	2/16	29	良	C、長石	右	ヘラ切り	底部外面以外樹脂状塗料塗布
20	SD24、13B2		須恵器	無台杯	AⅠa	(12.0)	3.1		1/16	(26)	良	B			
21	13A23、SD24T	Ⅲ	須恵器	無台杯	AⅠa	11.5	3.2	8.4	6/16	27	並	A、石英	右	ヘラ切り	
22	SD24、13B1		須恵器	無台杯	AⅠb	12.2	3.2	8.9	1/16	26	不良	A	右	ヘラ切り	外体部摩耗。淡灰白色
23	SD24、12A24、12B4・10、SD24T、1区	Ⅱc、Ⅲ	須恵器	無台杯	AⅠb	12.3	2.4	7.0	4/16	19	並	B	左		溶着痕多数
24	SD24、13B6	2	須恵器	無台杯	AⅠb	13.0	3.5	9.7	5/16	27	良	A	右	ヘラ切り	底外面摩耗。底部外面以外樹脂状塗料塗布
25	SD24、11B10、13B1	Ⅲ	須恵器	無台杯	AⅠb	12.4	3.3	8.2	6/16	27	並	A、長石、石英		ヘラ切り	重ね焼き痕
26	SD24、SD24’、12B5、13B3	Ⅱc	須恵器	無台杯	AⅠb	13.0	3.8	8.8	8/16	29	並	A、長石、石英		ヘラ切り	灰白色。
27	SD24、SD24’、11A20、12A24、12B2・7、1区	Ⅱc、Ⅲ	須恵器	無台杯	AⅠb	12.8	3.3	9.6	1/16	26	並	A、長石、石英	右	ヘラ切り	口縁部打ち欠き（約1cmおき）
28	SD24、SD24’、12A19、12B9・10、13B1、暗渠	2、5、Ⅱc	須恵器	無台杯	AⅠc	13.8	3.8	10.4	1/16	27	不良	A、長石、石英	右	ヘラ切り	
29	SD24、SD24’、12B10、13B6・7、土柱2S、SD24T	2、5、Ⅲ	須恵器	無台杯	AⅠc	13.3	3.4	9.0	3/16	25	並	A			底外左墨書「丈マ人万」

野中土手付遺跡　古代土器観察表（2）

報告No.	出土地点	層位	種類	器種	分類	法量（cm）			残存率／16	器高／口径	焼成	胎土	ロクロ回転	調整	備考
						口径	現器高	底径			良・並・不良	A・B・C			
30	SD24、SD24’、12A19・20・24、12B4・5、SD24T	2、Ⅱc	須恵器	無台杯	AⅡb	12.2	3.5	8.8	7/16	29	並	A	右	ヘラ切り	体内タール？
31	SD24、13B6	Ⅱc、Ⅲ	須恵器	無台杯	AⅡb	12.3	3.8	9.5	6/16	31	不良	A、長石やや粗、白っぽい	右	ヘラ切り	
32	SD24、SD24’、12B4・10	3	須恵器	無台杯	AⅡb	12.5	3.4	8.5	2/16	27	並	A	右	ヘラ切り	内面摩耗。内外面樹脂状塗料塗布
33	SD24、SD24’、12A24・25、12B4・5・9、SD24T	2、3、Ⅱc、Ⅲ	須恵器	無台杯	AⅡb	12.4	3.2	7.9	10/16	25	並	A	右		墨痕
34	SD24、SD24’、12B4・5・10	2	須恵器	無台杯	AⅡc	13.4	3.8	10.2	3/16	28	不良	A、石英、長石		ヘラ切り	
35	SD24、SD24’、12A18・22・25、12B4・5、13A	2、5、Ⅱc、Ⅲ	須恵器	無台杯	AⅡc	13.7	3.5	9.6	7/16	26	並	A、長石		ヘラ切り	
36	SD24、12B4・5	2	須恵器	無台杯	AⅢa	11.6	3.2	8.8	10/16	28	不良	A	右	ヘラ切り	底外左墨書「方」
37	SD24、13B3、14A21	Ⅱc、Ⅲ	須恵器	無台杯	AⅢa	11.4	3.3	8.3	6/16	29	並	A、長石、石英	右	ヘラ切り	底外中央墨書「方」
38	SD24、13A22		須恵器	無台杯	AⅢa	11.8	2.9	7.0	3/16	24	並	B		ヘラ切り	
39	SD24、13B7	Ⅱc、Ⅲ	須恵器	無台杯	AⅢb	12.1	3.2	9.6	12/16	26	良	A、精良	右	ヘラ切り	底外中墨書読み不明
40	SD24、13B2・7	Ⅲ	須恵器	無台杯	AⅢb	12.9	3.6	9.0	15/16	28	不良	A、長石	右	ヘラ切り	
41	SD24、13A16、13B4	Ⅱc	須恵器	無台杯	AⅢb	12.5	3.4	9.1	5/16	27	不良	C、精良		ヘラ切り	
42	SD24、13B6	2	須恵器	無台杯	AⅢb	12.6	3.0	8.9	2/16	24	並	A、精良	右	ヘラ切り	外：スス。内外面摩耗。灯明皿に転用？
43	SD24、13B7		須恵器	無台杯	AⅢc	14.0	3.4	10.3	3/16	24	不良	C、長石、石英		ヘラ切り	淡褐色
44	SD24、13B6	Ⅱc	須恵器	無台杯	AⅣa	12.0	3.4	7.1	10/16	28	不良	A、長石、石英、	右	ヘラ切り	淡褐色
45	SD24、SD24’、12B5、13B1、	2	須恵器	無台杯	BⅡa	12.0	3.6	9.6	6/16	30	並	A、長石	右	ヘラ切り	
46	SD24、SD24’、12A18、12B9・10、SD24T	2、5	須恵器	無台杯	BⅡa	11.5	3.5	8.2	2/16	30	並	A、長石、石英	右	ヘラ切り	
47	SD24、SD24’、12A25、12B5・9、13B1、14B7	2、5、Ⅱc、Ⅲ	須恵器	無台杯	BⅡb	12.6	3.8	7.4	12/16	30	並	A、長石、石英、粗		静止糸切り？	
48	SD24、13A24	Ⅱc	須恵器	無台杯	BⅡb	12.4	4.0	8.5	13/16	32	並	A、長石、石英		ヘラ切り	底外左墨書「道嶋」
49	SD24、SD24’、12B5、13A24、13B7、SD24T	2、Ⅱc、Ⅲ	須恵器	無台杯	BⅡb	12.6	3.9	9.8	7/16	31	並	A、長石、石英		ヘラ切り	
50	SD24、SD24’、12B9、13B1	2	須恵器	無台杯	BⅢa	11.8	3.5	8.3	2/16	30	不良	A、長石、石英含、密	右	ヘラ切り	外：スス。淡褐色
51	SD24、SD24’、12A24、13A18、13B1	2、5、Ⅲ	須恵器	無台杯	BⅢc	13.7	4.2	7.8	2/16	30	並	A、粗、長石多			
52	SD24、1区		須恵器	無台杯			2.9		1/16		良	B			体外正位墨書「王」。
53	SD24、SD24’、12B4、13A22	2、Ⅱc	須恵器	無台杯	BⅣa	11.6	3.5	7.0	1/16	30	並	B		ヘラ切り	体外右墨書「王」。見込み摩耗。墨付着。転用硯か
54	SD24T、SD56		須恵器	無台杯	BⅣc	13.9	4.4	10.5	3/16	31	並	A、長石			口縁部打ち欠き
55	SD24、12A24	1	土師器	無台椀			1.4	5.7			並			糸切り	底外中央墨書「王」又は「主」
56	SD24T		須恵器	無台杯			0.8				良	B			底外墨書「王」か。内面摩耗。墨付着。転用硯か
57	SD24、12B10	5	須恵器	無台杯		12.4	2.6		2/16		不良				体外倒位墨書「凡」か
58	SD24、12B5		須恵器	無台杯			1.2	6.1				B		ヘラ切り	底外墨書「凡」か
59	SD24’、12B5	2	須恵器	無台杯			2.0	(8.8)			並	A			底外右墨書「田江」
60	SD24、土柱2S		須恵器	無台杯			0.6	6.3			並	B		ヘラ切り	内面摩耗。墨付着。転用硯か。底外左墨書「山」
61	SD24’、12B5、SD24T	2	須恵器	無台杯			1.1	7.8			並	B		ヘラ切り	底外墨書読み不明
62	SD24T、13A20	Ⅲ	須恵器	無台杯			2.0	7.6			並	B			底外墨書読み不明
63	SD24T		須恵器	無台杯			1.6				不良			ヘラ切り	体外複数墨書。読み不明

野中土手付遺跡　古代土器観察表（3）

報告No.	出土地点	層位	種類	器種	分類	法量（cm）			残存率／16	器高／口径	焼成	胎土	ロクロ回転	調整	備考
						口径	現器高	底径			良・並・不良	A・B・C			
64	SD24T		須恵器	無台杯			0.6				並	B		ヘラ切り	底外中墨書、筆ならし？
65	SD24、12B4		須恵器	無台杯			1.2	8.0			並	B		ヘラ切り	底外中墨書読み不明。見込摩耗
66	SD24、12B5		須恵器	無台杯			1.1	8.0			並	B		ヘラ切り	底外墨書読み不明
67	SD24、13B6	2	須恵器	無台杯			0.7				良	B		ヘラ切り	底外墨書読み不明。
68	SD24、12A25、1区	Ⅱc	須恵器	無台杯			0.7	6.9			良	B		ヘラ切り	内面摩耗顕著。墨痕。体底外墨書読み不明
69	SD24T		須恵器	無台杯			1.1				良	B		ヘラ切り	底外墨書読み不明
70	SD24、SD24’、12A25、12B4・5、13B6・7	2、3、Ⅱc、Ⅲ	須恵器	有台杯	AⅠb	12.6	4.0	6.5	13/16	31	良	A、長石	右	ヘラ切り後ナデ、貼付高台	外：自然釉。焼成時の火ぶくれ有り
71	SD24、SD24’、9B7、11B4・8、12A24、12B5～9、SD24T	2、5、Ⅱc、Ⅲ	須恵器	有台杯	AⅡb	11.8	4.0	6.5	9/16	33	並	A、精良	右	ヘラ切り	
72	SD24、13B2・7	Ⅱc、Ⅲ	須恵器	有台杯	AⅡb	12.4	4.1	7.9	14/16	33	良	長石、精良		ヘラ切り後ナデ、貼付高台	焼成時の火ぶくれ有り
73	SD24、12A19、13B1・2、暗渠	2、Ⅱc	須恵器	有台杯	AⅡb	12.8	4.2	8.3	1/16	33	不良	C、精良、長石、石英		ヘラ切り	淡褐色～灰白色
74	SD24、SD24’、12B5・9・10、13A17・21	2、5、Ⅱc、Ⅲ	須恵器	有台杯	AⅡc	14.0	4.0	9.4	11/16	29	良	A、砂多い	右	ヘラ切り	外：自然釉
75	SD24、SD24’、12A19、12B5・9、13B6、暗渠、土柱2S	2、5、Ⅱc	須恵器	有台杯	AⅡc	14.4	4.4	8	14/16	31					内外面摩耗
76	SD24、SD24’、12A24、12B4・9、1区	2、Ⅱc、Ⅲ	須恵器	有台杯	BⅡb	11.0	4.6	7.0	2/16	42	並	A、長石多、石英	右	ヘラ切り後ナデ	
77	SD24、13A18・23・24、13B3・4、SD24T、暗渠	Ⅲ	須恵器	有台杯	CⅠa	10.3	5.4	6.0	12/16	52	良	C、石英、長石		ヘラ切り、貼付高台	内：自然釉点在
78	SD24、13A22		須恵器	有台杯	CⅡa	10.0	5.4	4.6	2/16	54	不良	A、精良		ヘラ切り	
79	SD24、12B4・9	5、Ⅱc	須恵器	有台杯	Ⅱ		3.0	7.2			良	A、長石	左か	ヘラ切り後ナデ	高台が高く細い。内端接地
80	SD24、12B24		須恵器	有台杯	Ⅲ		2.5	5.7			並	A、長石		ヘラ切り後ナデ、ケズリ	墨溜（墨痕）。体部～口縁：打ち欠き？
81	SD24、SD24’・48、11B9、12A23、13B1・3	2、Ⅱc、Ⅲ	須恵器	杯蓋	Ab	14.6	2.2	鈕径：2.80	2/16	15	良	C、長石			転用硯。墨痕。内面磨耗
82	SD24、SD24’、8B2、12A18・19・23・24・25、12B4、土柱2N、SD24T	3、5、Ⅱc、V	須恵器	杯蓋	A	13.5	2.6	鈕径：2.30	6/16	19	良	A		天井：ケズリ	内墨書「□（福カ）□□（料カ）」
83	SD24、13A19、13B8、14A21、14B2	5、Ⅲ	須恵器	杯蓋	Bb	17.6	4.2	鈕径：2.80	4/16	24	良	C、精良	右	ケズリ	西古志窯跡群産
84	SD24、12B4・5、13B1	2	須恵器	杯蓋	b	14.0	2.0		3/16		並	B、長石			体外墨書「王□（王カ）」。転用硯。墨痕。内面摩耗。外：重ね焼き痕、自然釉
85	SD24、SD24’、12A18・19・23・24、12B5、SD24T	5、Ⅲ	須恵器	杯蓋	a	13.2	2.1		4/16		不良	A、石英、長石		ケズリ	
86	SD24、13B6・7	Ⅲ	土師器	無台椀	Aa	12.3	3.4	8.4	8/16	27	不良			ヘラ切り	内外アバタ状。にぶい黄橙色
87	SD24、13B6		土師器	無台椀	Ba	12.3	3.9	5.4	5/16	32	不良	長石、並		回転糸切り	
88	SD24、12A19、SD24T	Ⅱc	土師器	無台椀	Cb	14.9	5.3	5.7	2/16	36	良	精良		内：ミガキ、黒色処理、外：ミガキ？	
89	SD24T、13B6		土師器	無台椀	Cb	15.7	5.2	5.6	13/16	33	良	精良		内：ミガキ、黒色処理	
90	SD24、13B3	5	土師器	椀	A	17.0	2.4		2/16		良			内外：ミガキ、黒色処理	
91	SD24T、13A23	Ⅲ	土師器	椀蓋	A	11.5	2.0		6/16		良			内外：ミガキ、黒色処理	№92と同一個体か
92	SD24T		土師器	椀蓋	A		2.0				良			内外：ミガキ、黒色処理	宝珠状鈕。№91と同一個体か
93	SD24、12B5	2	須恵器	壺・瓶類	A		2.1	5.4			良	C、精良			転用硯。墨痕
94	SD24T		土師器	壺・瓶類？	A		2.0				良			内外：ミガキ、黒色処理	高台付く
95	SD24、12B4、13B7	Ⅱc、Ⅲ	土師器	小甕	AⅠa	14.0	14.7	8.8	1/16		良	石英、チャート		内：カキメ	

野中土手付遺跡　古代土器観察表（4）

報告No.	出土地点	層位	種類	器種	分類	法量（cm）			残存率／16	器高／口径	焼成	胎土	ロクロ回転	調整	備考
						口径	現器高	底径			良・並・不良	A・B・C			
96	SD24、13B7		土師器	小甕	AIc	19.5	4.7		2/16		良	金雲母・石英		外：カキメ	
97	SD24、13B5		土師器	小甕	BIb	16.0	6.7		3/16		並	金雲母・石英	非ロクロ	内外：ハケメ	内：炭化物、外：スス
98	SD24、13A18	5	土師器	小甕	BIa	(15.0)	9.5		1/16		並	金雲母・石英・長石	非ロクロ	内外：ハケメ、内：ケズリ	外：スス
99	SD24、13A19・25、13B5	5、Ⅱc	土師器	長甕	BI	20.4	9.5		6/16		並	金雲母・長石	非ロクロ	内外：ハケメ	
100	SD24T		土師器	長甕	B		4.5	9.0			並	石英	非ロクロ	内外：ハケメ	東北北部系
101	SD24、12B4・10、土柱2S	5、Ⅱc、Ⅲ	土師器	鍋	A	40.0	8.6		3/16		良			内：カキメ、外：カキメ、ナデ、タタキ、	
102	SD24、11B1、12B10、13B2・7	Ⅱc、Ⅲ	須恵器	鉢	A	29.9	15.6	14.7	5/16	52	不良	長石、石英		内：カキメ、指頭圧痕、外：ケズリ、カキメ	淡褐色
103	SD24、SD24'、11B412A19・25、12B4・5、13A21、13B1・2、土柱2S、SD24T	2、5、Ⅱc	須恵器	短頸壺	A	11.6	8.5		1/16		良	精良		外：カキメ	外：粒状の自然釉
104	SD24、土柱2S		須恵器	壺蓋	A		3.0				良	石英、長石			外：自然釉
105	SD24、SD24'、12A25、12B5・10、13A21・22、13B1、SD24T	2、Ⅱc	須恵器	甕	A		31.0	5.6			良	C		内：ハケメ、同心円文当具痕、外：平行線文タタキ、カキメ	体部刻書「□悲」、体部径29.6㎝
106	SD24、13A18～20・25、14A16・17・21、14B1～3・7	Ⅱc、Ⅲ	須恵器	甕	A	18.7	37.6		1/16		良			内：ケズリ、同心円文当て具痕、外：ケズリ幅8mm（ハケメ）、平行線文タタキ、ケズリ	外：自然釉。肩部に無台杯底部溶着
107	SD24、12A25、12B5・8	Ⅱc、Ⅲ	須恵器	鉢又は甕	A	29.0	4.1		1/16		不良				中型の広口の鉢又は甕か
108	SD24、13A18	Ⅱc	須恵器	甕	A	45.6	3.9		2/16		良	精良		外：櫛描波状文（4条を2段）	
109	11A20P1、SD24、10A25、10B4・6、11A16～19・21～23、11B1～3・7・9、12B4	1、3、Ⅱc、Ⅲ	須恵器	横瓶	A	11.5	20.4	体部幅42.0	14/16		良			内：同心円文当具痕、外：平行線文タタキ	片面閉塞、もう一方不明。自然釉付着
110	SD24'、12A23・24、12B9	2	須恵器	無台杯	AIa	12.0	2.9	6.6	2/16	24	良	A、長石、石英	右	ヘラ切り	底外中墨書「□（足カ）」
111	SD24'、12A18・23	Ⅱc	須恵器	無台杯	AⅡa	11.8	3.4	7.9	1/16	29	並	A	右	ヘラ切り	底外墨痕
112	SD24'、12B5	2	須恵器	無台杯	AⅡa	11.6	2.6	7.2	6/16	22	不良	A、石英		ヘラ切り	
113	SD24'、12A23・25、12B4・5・9、SD24T	2、5	須恵器	無台杯	AⅡa	12.4	3.0	8.2	3/16	24	良	A、長石、石英、粗	右	ヘラ切り	
114	SD24、SD24'、12B10、13B6	2	須恵器	無台杯	AⅡb	12.2	3.5	8.0	3/16	28	不良	A、長石、石英		ヘラ切り	淡褐色
115	SD24'、12B5、13B7	2、Ⅲ	須恵器	無台杯	AⅢa	11.8	3.4	8.3	6/16	28	並	A、長石	右	ヘラ切り	
116	SD24'、11A18、12B8、13B1	Ⅱc、Ⅲ	須恵器	無台杯	AⅢa	11.9	2.8	8.7	1/16	23	並	A、長石	右	ヘラ切り	底外中墨書「方」
117	SD24'、12B4・5	2	須恵器	無台杯	AⅢb	12.3	3.4	8.7	11/16	28	並	A、長石		ヘラ切り	内外面：樹脂状塗料塗布。底外左墨書「方」
118	SD24、13B5		須恵器	無台杯	AⅣc	14.0	4.0	10.8	2/16	28	並	A、長石		ヘラ切り	内外アバタ状
119	SD24'、12B5・9・10	2、5、Ⅱc、Ⅲ	須恵器	無台杯	BIa	11.5	3.5	8.2	8/16	30	不良	A、長石、良	右	ヘラ切り	重ね焼き痕。外：スス。灯明皿？見込摩耗。淡褐色
120	SD24'、13B1、SD24T	2	須恵器	無台杯	BⅡa	11.5	3.5	8.4	2/16	31	良	A、精良、長石、石英少	右	ヘラ切り	
121	SD24、SD24'、12B4、13B6、SD24T	2	須恵器	無台杯			1.1	7.8			並	B		ヘラ切り	底外中墨書読み不明。「凡」か
122	SD24'、12A23		須恵器	無台杯			0.9	(8.0)			並	B		ヘラ切り	底外墨書読み不明
123	SD24'、12B5	2	須恵器	無台杯			1.2	7.0			良	B		ヘラ切り	底外墨書読み不明
124	SD24'、12B5	2	土師器	無台椀	Aa	12.0	3.0	8.6	2/16	25	並	金雲母、石英		底：磨耗	内外アバタ状器面荒れる。外底部以外ススト付着
125	SD24'、12B10		土師器	無台椀	Aa	11.6	3.6	8.0	1/16	31	並	金雲母、良、長石		ヘラ切り後ナデ	内外器面アバタ状、内外面樹脂状塗料塗布
126	SD24'、12A25、13A16、SD24T	Ⅱc	須恵器	有台杯	AIb	12.7	3.1	9.1	5/16	24	並	C		ヘラ切り後ナデ、貼付高台	
127	12B-P1、SD24'、11A17・24、11B4・5、12A19、暗渠	1、Ⅱc、Ⅲ	須恵器	有台杯	AIb	12.5	3.5	5.1	3/16	28	不良	A、長石	右	ヘラ切り、ケズリ	細く華奢な高台

野中土手付遺跡　古代土器観察表（5）

報告No.	出土地点	層位	種類	器種	分類	法量（cm）			残存率／16	器高／口径	焼成	胎土	ロクロ回転	調整	備考
						口径	現器高	底径			良・並・不良	A・B・C			
128	SD24’、11B4・9、12A18・19・20・24	1、Ⅱc、Ⅲ	須恵器	有台杯	ＢⅠb	12.1	4.4	7.3	6/16	36	良	A、長石	右	ヘラ切り後ナデ	外：自然釉
129	SD24、SD24’、SD34、11A17・18・19・20・25、11B4・5、12A21・23、13B6	2、Ⅱc、Ⅲ	須恵器	有台杯	ＢⅠb	12.8	4.3	8.2	11/16	34	良	C、長石	右	ヘラ切り後ナデ、貼付高台	黒斑、ゆがみ大
130	SD24’、12A20、12B4・10、暗渠	2、Ⅱc、Ⅲ	須恵器	有台杯	ＢⅢc	13.4	6.3	7.1	3/16	47	良	B、長石	左	ヘラ切り	高台内墨溜め、墨痕
131	SD24’、12B9	2	須恵器	杯蓋	a	13.0	1.5		2/16		並	長石			転用硯、墨痕
132	SD24’、11A24、11B5、12A23	Ⅲ	須恵器	壺・瓶類	A		2.7	4.9			不良	A、精良	右	ヘラ切り	淡褐色
133	SD24’、SD52、9B7、10B5・10、11A17・22、11B1～4・9・10、12A18～20・23～25、SD24T、暗渠	1、2、Ⅱc、Ⅲ	須恵器	狭口甕	A	12.4	36.4	15.2		294	良	石英		内：カキメ、ハケナデ、同心円文当具痕、外：平行線文タタキ、カキメ	外：肩に自然釉付着
134	SD24’、9B7、11A20・22、11B4・10、12A18・19・23、12B4・6・8・9	Ⅱc、Ⅲ	須恵器	横瓶	A		25.5				良			内：同心円文当具痕、外：平行線文タタキ	片面閉塞、もう一方不明
135	SD24’、12A23		土師器	小甕	AⅡa	12.2	2.8		2/16		並	石英		カキメ	外：ススﾞ、内：炭化物
136	SD32、11A21・25、11B2・5	Ⅱc、Ⅲ	須恵器	有台杯	DⅡc	13.8	8.8	7.0	2/16	64	良	A、石英、長石		外：沈線2条	内：自然釉
137	SD34、11A18・19・20・24・25、11B5・9、12B6	Ⅱc、Ⅲ	須恵器	無台杯	BⅡa	11.3	3.6	8.3	2/16	32	不良	長石		ヘラ切り	重ね焼き痕有り
138	SD43、11A24、11B4・8・9・10	1、Ⅱc、Ⅲ	須恵器	有台杯	BⅡb	11.6	4.8	5.8	2/16	41	並	A、長石		ヘラ切り後ナデ	
139	SD51、11B9		須恵器	無台杯	AⅢa	11.6	2.8	8.3	11/16	24	良	A	右	ヘラ切り	底外上墨書「方」
140	SD51、11B9		須恵器	杯蓋	b	13.5	2.7		15/16		良	長石		ケズリ	鈕欠損
141	SD52、11B4	Ⅱc	須恵器	杯蓋	A	12.6	3.2	鈕径：2.8	5/16	25	良	A？、長石	右	ケズリ	
142	13A19	Ⅱc	須恵器	無台杯	AⅠa	11.8	3.1	8.0	5/16	26	並	B	左		底外左墨書「方」、墨痕
143	10B4	Ⅲ	須恵器	無台杯	AⅠa	12.0	2.9	6.5	2/16	24	良	B		ヘラ切り	溶着痕有り
144	11B3・4	Ⅱc	須恵器	無台杯	AⅠb	12.2	3.1	8.6	8/16	25	不良	C、精良、長石	右	ヘラ切り	淡褐色
145	14B1	Ⅱc	須恵器	無台杯	AⅡa	11.7	3.1	9.0	5/16	26	不良	A、石英、長石	右	ヘラ切り	淡褐色
146	11B9	Ⅲ	須恵器	無台杯	AⅡb	12.4	3.0	8.6	5/16	24	並	B、精良、海綿骨針		ヘラ切り	内外面摩耗
147	13B7、14B7	Ⅲ	須恵器	無台杯	AⅡb	13.0	3.8	10.0	10/16	29	並	A、長石	右	ヘラ切り	
148	14A16	Ⅲ	須恵器	無台杯	AⅡb	12.8	3.4	8.8	6/16	27	並	B、長石		ヘラ切り	
149	13B5、14A18、14B1・2・6	Ⅲ	須恵器	無台杯	AⅡb	12.3	3.1	8.3	4/16	25	良	B、精良	左	ヘラ切り	
150	13B7	Ⅲ	須恵器	無台杯	AⅢb	12.6	3.0	7.5	2/16	23	不良	C？、長石		ヘラ切り	
151	13B6	Ⅲ	須恵器	無台杯	AⅢc	14.0	3.6	9.5		26	不良	A	右	ヘラ切り	ゆがみ大
152	14A17、暗渠1区	Ⅲ	須恵器	無台杯	AⅣa	10.9	2.8	7.2	7/16	25	良	B、長石		ヘラ切り	
153	11A19・25、12B9	Ⅲ	須恵器	無台杯	AⅣb	12.5	3.2	7.2	3/16	25	良	B、長石	左	ヘラ切り	
154	13B5、14A7・21、14B1・2	Ⅱc、Ⅲ	須恵器	無台杯	AⅣb	12.2	3.2	7.8	8/16	26	良	B、海綿骨針	右？	ヘラ切り	重ね焼き痕。溶着痕。
155	14A17・18・19・24、14B3	Ⅲ	須恵器	無台杯	AⅣb	12.1	2.7	6.5	13/16	22	良	B、長石	右？	ヘラ切り	黒斑
156	12B7	Ⅲ	須恵器	無台杯	BⅣa	12.0	3.6	8.0	3/16	30	不良	A、長石		ヘラ切り	淡褐色。内：ススﾞ、灯明皿に転用？外：ススﾞ？墨痕？
157	14A16・21・22	Ⅲ	須恵器	無台杯	BⅡc	14.0	4.7	11.0	6/16	33	不良	A、粗、長石、石英		ヘラ切り	ゆがみ大。内：自然釉。
158	11B9	Ⅲ	須恵器	無台杯			0.8	8.4			並	B		ヘラ切り	底外左墨書「王」

野中土手付遺跡　古代土器観察表（6）

報告No.	出土地点	層位	種類	器種	分類	法量（cm）			残存率／16	器高／口径	焼成	胎土	ロクロ回転	調整	備考
						口径	現器高	底径			良・並・不良	A・B・C			
159	暗渠		須恵器	無台杯			1.0	(6.7)			並	B		ヘラ切り	底外中墨書「王」
160	12A18	Ⅱc	須恵器	無台杯			0.7	8.4			並	B		ヘラ切り	底外上墨書「凡」
161	12A18	Ⅱc	須恵器	無台杯			0.6	7.8			並	B		ヘラ切り	底外下墨書「凡」
162	13B2	Ⅲ	須恵器	無台杯			0.5				並	B		ヘラ切り	底外中墨書「凡」
163	13A19	Ⅱc	須恵器	無台杯			0.6	9.5			並	B			底外墨書読み不明
164	11B10	Ⅲ	須恵器	無台杯			0.9				並	A、長石		ヘラ切り	底外右墨書「方」か
165	13A20	Ⅲ	須恵器	無台杯			0.7	8.4			並	B		ヘラ切り	底外中墨書「□（道カ）
166	2B9、表採	Ⅲ	須恵器	無台杯			0.7	7.6			並	B		ヘラ切り	底外墨書不明
167	12A25	Ⅱc	須恵器	無台杯			1.0	7.1			良	B		ヘラ切り	底外墨書不明
168	12A23	Ⅱc	須恵器	無台杯			0.8	8.0			良	B			底外墨書不明
169	11A22	Ⅱc	須恵器	無台杯			2.0				並	A			体外墨書不明
170	12B9	Ⅲ	須恵器	無台杯											底外墨書読み不明
171	12A25	Ⅱc	須恵器	無台杯			0.3				並	B		ヘラ切り	底内墨書読み不明
172	12B4	Ⅲ	須恵器	無台杯			1.0	(8.0)				B			底外墨書読み不明
173	12B9	Ⅲ	須恵器	無台杯			0.8	7.6			並	B		ヘラ切り	転用硯。内面摩耗。墨痕
174	11B9	Ⅲ	須恵器	無台杯			0.9	7.0			並	B			墨溜（墨痕）
175	11A25	Ⅲ	須恵器	無台杯			1.2				並	B			墨溜（墨痕）
176	14A16	Ⅲ	須恵器	有台杯	AⅠa	10.9	3.7	6.6	1/16	33	良	B、長石		ヘラ切り後ナデ、貼付高台	見込摩耗
177	13A20	Ⅲ	須恵器	有台杯	AⅠb	11.8	3.8	7.0	1/16	32	並	B、長石		ヘラ切り後ナデ、貼付高台、ケズリ	
178	11A19	Ⅲ	須恵器	有台杯	AⅡb	12.3	4.0	6.3	7/16	32	並	A、精良、長石、石英		ヘラ切り、貼付高台	重ね焼き痕
179	11B8、暗渠1区	Ⅱc	須恵器	有台杯	CⅡa	9.6	6.5	5.2	2/16	68	良	A、長石、石英		ケズリ	墨溜（墨痕）、枡？コップ形須恵器
180	13A20	Ⅲ	須恵器	有台杯	Ⅱ		2.2	7.2			不良	B	右	ヘラ切り	淡褐色。調整・成形粗い
181	12B7	Ⅲ	須恵器	有台杯	Ⅲ		3.1	8.4			並	長石、石英		ヘラ切り	
182	12B3、13B6	Ⅲ	須恵器	有台杯	Ⅲ		1.1	6.9			良	B、長石	左	ヘラ切り後ナデ、貼付高台	高台内摩耗。転用硯。墨痕
183	14B2	Ⅲ	須恵器	有台杯	Ⅲ		1.6	7.0			良				見込・高台内墨痕。転用硯。内面摩耗
184	11B2	Ⅱc	須恵器	有台杯	Dc	(13.2)	(3.7)		2/16		良	長石		外：沈線2条	
185	11B9	Ⅲ	須恵器	有台杯	D		(3.7)		1/16		良			外：沈線2条	外：自然釉
186	13A20、暗渠	Ⅲ	須恵器	有台杯	E	14.8	4.4	6.8	4/16	30	並	A		ヘラ切り	折縁杯。内面見込以外に自然釉
187	9B7、12B3	Ⅲ	須恵器	有台杯			6.1	5.5			並			ヘラ切り後ナデ、貼付高台、外：沈線	枡？コップ形須恵器
188	10T	青灰	須恵器	杯蓋	A		2.2	鈕径：3.1			並	B、長石、海綿骨針	右	ケズリ	
189	11A18	Ⅲ	須恵器	杯蓋	a	13.0	2.3		3/16		良	C、精良			転用硯。内外面摩耗顕著。内面灰付着。墨痕
190	13B7	Ⅲ	土師器	無台椀		13.0	3.8	9.4	8/16	29	良	C？		ヘラ切り	
191	3A22	Ⅲ	土師器	無台椀	Ba	12.3	4.8	4.7	9/16	39	並	精良		回転糸切り	
192	14B1	Ⅲ	土師器	無台椀	Ba	12.6	3.8	5.8	6/16	30	並			回転糸切り	
193	13A16	Ⅱc	土師器	無台椀			1.7	5.5			並			回転糸切り	
194	12A19	Ⅱc	土師器	無台椀			0.8				良				底外中央墨書「方」
195	12B9・10、13B1、暗渠	Ⅲ	土師器	無台椀	Cc	24.4	7.3		2/16		良	精良		内：黒色処理	
196	暗渠		土師器	無台椀	C		1.6	6.4			良	精良		ヘラ切り、内：黒色処理	底外墨書読み不明
197	11B9	Ⅲ	土師器	無台椀			1.7	7.9			良			外：ケズリ後ミガキ、沈線2条	底外墨書読み不明
198	暗渠1区		土師器	無台椀			2.3	(8.5)			良	金雲母、長石		外：ケズリ	底外墨書読み不明
199	12B2	Ⅲ	土師器	有台椀			1.1	5.4			良			内外：ミガキ、黒色処理	
200	11B9	Ⅱc	土師器	椀蓋		14.0	1.6		2/16		良			内外：ミガキ、黒色処理	

野中土手付遺跡　古代土器観察表（7）

報告No.	出土地点	層位	種類	器種	分類	法量（cm）			残存率／16	器高／口径	焼成	胎土 A・B・C	ロクロ回転	調整	備考
						口径	現器高	底径			良・並・不良				
201	12A25	Ⅱc	土師器	椀蓋		16.8	1.7		2/16		良			内外：ミガキ、黒色処理、口縁外：沈線1条	
202	10B5、11A21	Ⅱc、Ⅲ	土師器	高杯			5.0				良			内外：ミガキ、黒色処理	
203	2B20	Ⅲ	土師器	高杯			4.0				良			内外：ミガキ、黒色処理	
204	11B8	Ⅱc	須恵器	鉢か		15.6	5.9		2/16		並			内：ハケメ、外：カキメ	枡？コップ形須恵器
205	10B3	Ⅲ	須恵器	壺			4.1	8.0			並	A、長石、石英	右	ヘラ切り後ナデ	
206	11B7・10	Ⅱc、Ⅲ	須恵器	壺	Ⅰ		3.5	8.1			良	A、長石、チャート		ヘラ切り後ナデ、貼付高台	
207	12B4・7、13B1	Ⅱc、Ⅲ	須恵器	瓶			2.0	7.3			並	C、精良		ヘラ切り後ナデ	頸城西産。低い高台、小型の瓶類か？
208	12B1・3・6	Ⅱc、Ⅲ	須恵器	短頸壺		10.8			1/16		良	長石			外：自然釉
209	13A19、14B2	Ⅱc、Ⅲ	須恵器	壺蓋	A		3.5	鈕径：2.4			並	A、石英、長石多、粗	右		
210	11A17	Ⅱc	須恵器	壺蓋	Aa	12.2	3.7	鈕径：2.9	3/16	30	並	A、黒色粒子、石英			外：自然釉
211	10A19	Ⅲ	須恵器	把手付蓋			6.1				良	A、石英			外：自然釉
212	8T	青灰	須恵器	甕		(25.5)	2.9		1/16		良	精良			外：自然釉
213	12A20	Ⅱc	土師器	小甕	AⅠb	(17.7)	2.2		1/16						
214	暗渠1区		土師器	小甕	AⅠb	(16.0)	(5.2)		1/16		並			外：カキメ	
215	11B10	Ⅲ	土師器	小甕	AⅠc	19.4	5.4		3/16		並	雲母、長石			
216	10A19	Ⅲ	土師器	小甕	AⅠc	18.8	5.5		4/16		並	石英、長石			外：ススス
217	11B9	Ⅲ	土師器	小甕	AⅡa	12.1	4.0		2/16		並				外：ススス、内：炭化物
218	11A17	Ⅱc	土師器	小甕	AⅡb	(16.8)	2.6		1/16		並	雲母、チャート			外：ススス、内：炭化物
219	12A18・19・23・24	Ⅱc	土師器	長甕	AⅠ	21.0	14.8		2/16		良				外：ススス
220	12B4	Ⅲ	土師器	長甕	AⅠ	20.5	4.7		3/16		良				
221	12A24	Ⅱc	土師器	長甕	AⅡ	(20.8)	5.2		1/16		並				外：ススス
222	11A17	Ⅱc	土師器	長甕	AⅡ	(20.6)	5.4		2/16		並	長石、石英		内：カキメ	

野中土手付遺跡　中世青磁観察表

報告No.	出土地点	層位	種類	器種	法量			釉・胎土	文様	備考
					口径	現器高	底径			
223	11B7	Ⅱc	舶載青磁	碗		2.3	6.2	5G7／	鎬蓮弁文	畳付無釉

野中土手付遺跡　土製品観察表

報告No.	出土地点	層位	種類	胎土	法量（cm、g）	調整	備考
228	SD20	1	不明	長石、石英、金雲母	重41.9	丁寧なナデ	半円形、カマド材か
229	SD24’	2	フイゴの羽口		重43.8		
230	9B7	Ⅱc	円柱状土製品	長石	径4.4、重128.1	手づくね、ヘラナデ	カマド支柱か
231	9B	Ⅱc、Ⅲ	円柱状土製品	精良	径4.0、重147.6	手づくね、ヘラナデ	カマド支柱か
232	9A22	Ⅲ	不明		厚3.5、重76.8	手づくね	
233	SD24	Ⅱc	細型土錘	精良	長2.9、幅1.5、重4.6	手づくね	
234	SD24	Ⅱc	細型土錘		長3.3、幅1.4、重4.4	手づくね	
235	13A18	Ⅱc	細型土錘		長2.6、幅1.4、重3.9	手づくね	

野中土手付遺跡　石製品観察表

報告No.	出土地点	層位	種類	法量（cm、g）	石材	備考
224	6B11	Ⅴ	砥石	長16.1、幅16.3、厚8.8、重3600.0	砂岩	
225			砥石	長15.8、幅7.7、厚6.0、重770.7	凝灰岩	
226	7A21	Ⅴ	砥石	長9.4、幅3.1、厚2.2、重72.3	頁岩	スス付着
227	12A25	Ⅱc	砥石	長2.5、幅1.8、厚1.2、重7.8	凝灰岩	

野中土手付遺跡　木製品観察表（1）

報告No.	種類	器種	出土地点	層位	長（口径）	幅（底径）	厚（器高）	径	木取り	樹　種	備　考
1	建築材等	柱根	SB1-SK6		55.8	21.9	19.1		丸木		断面方形に近い。端部の加工は2方向から
2	建築材等	柱根	SB1-SK7		36.6	8.9	7.5	8.5	丸木	クリ近似種	風化顕著
3	建築材等	柱根	SB1-SK8か		32.8	8.4	9.4	9.2	丸木	モクレン属近似種	
4	建築材等	柱根	SB1-SK9か		45.1	9.3	7.8	8.5	丸木	アカメガシワ	上下端部欠損
5	建築材等	杭	SB3-SA1-5		76.6	12.2	9.6	9.5	丸木		樹皮残る。加工は端部のみ
6	建築材等	杭	SB3-SA1-6		53.1	13.0	11.7	13	丸木		端部V字型に尖る
7	建築材等	杭	SB4-SA1-1		16.4	14.1	13.7	15	丸木	ブナ属	風化顕著
8	建築材等	杭	SB4-SA1-2		69.0	16.1	14.0	15.5	丸木	クリ?	
9	建築材等	杭	SB4-SA1-4		27.6	12.6	9.0		丸木	エゴノキ属	上下端欠損。樹皮残る
10	建築材等	杭	SA2-3		17.8	13.4	7.7		芯外し分割材	クリ	風化顕著
11	建築材等	杭	SA2-4		33.4	9.2	5.8		芯外し分割材	クリ	風化顕著
12	建築材等	杭	SA2-6		24.8	8.2	6.3	8.0	丸木	クリ	風化顕著
13	建築材等	杭	SA2-7		33.1	14.6	10.5		半割材	クリ近似種	風化顕著
14	建築材等	杭	SA2-8		29.6	9.5	4.5		芯外し分割材	クリ	
15	建築材等	杭	SA2-9		13.9	13.2	13.5		丸木	コナラ属コナラ亜属コナラ節	下端左右側面から切断
16	建築材等	杭	SA3-1		14.7	3.6	3.4	3.4	丸木	サクラ属	樹皮残る。下端のみ加工
17	建築材等	杭	SA3-2		25.7	4.0	3.5	3.4	丸木	ハンノキ属	樹皮残る。下端のみ加工
18	建築材等	杭	SA3-4		35.3	3.6	2.9	2.9	丸木	アカマツ	
19	建築材等	杭	SA3-5		57.5	5.4	4.1	3.5	丸木	マツ属複維管束亜属	
20	建築材等	杭	SA3-6		25.1	3.8	2.3	3.7	丸木	サクラ属	
21	建築材等	杭	SA3-7		24.6	3.5	1.9	1.9	丸木	マツ属複維管束亜属	上下端部欠損
22	建築材等	柱根	11B4P4		27.0	8.8	6.4	8.5	丸木	コシアブラ	風化顕著
23	建築材等	杭	14B7P1	1	49.1	3.1	2.6		板目	スギ	断面方形。上端切断、下端尖り
24	祭祀具	箸状木製品	SE1	2	7.8	0.7	0.6			スギ	上下端欠損
25	容器	曲物側板	SE1		2.5	19.7	0.3		柾目	スギ近似種	ケビキ無し
26	容器	刳物	SE1				23.7	24.2	丸木		3段目。釣瓶の底を抜いて水溜に転用。
27	木簡	木簡	SD16　14B3	1	10.3	4.5	0.5		柾目	スギ	断簡。左端薄くなる
28	祭祀具	箸状木製品	SD20	1	8.8	0.9	0.6			スギ	上下端欠損
29	容器	曲物底板	SD20	1	8.8	4.4	0.6		柾目	スギ	風化顕著
30	容器	曲物底板	SD20	1	12.2	3.1	0.7		板目		刃物傷有り
31	容器	曲物底板	SD20	1	16.1	3.5	0.9		柾目		歪んでおり、実際の厚さは0.5。木釘穴有り
32	武器	弓か	SD20	1	29.8	3.4	3.9	2.4	丸木	カヤ	中央に再加工と見られる切込みあり。それ以下が裂けている
33	農具	横槌	SD20	1	31.8	8.0	7.2	7.8	芯持材	ヤナギ属近似種	使用痕有り
34	建築材等	板材	SD20	1	14.3	3.3	0.9		板目	スギ	
35	建築材等	板材	SD20	1	16.9	5.1	1.0		板目	スギ	下部右側面に加工痕有り
36	建築材等	板材	SD20	1	23.3	5.7	1.0		板目	マツ属複維管束亜属	
37	建築材等	分割材	SD20	1	18.5	8.7	5.2		芯外し分割材	クリ	上部炭化。下端に切断痕
38	建築材等	方形材	SD20	1	44.7	13.8	7.3		板目	クリ近似種	
39	食膳具	盤	SD20	4			残1.1		横木・柾目	ケヤキ	
40	容器	曲物底板	SD20	4	15.5	5.1	0.7	15.5	柾目	スギ	
41	建築材等	方形材	SD20	4	12.2	6.2	4.6		板目	スギ	
42	建築材等	方形材	SD20	4	12.4	4.5	2.8		板目	スギ	上端炭化
43	建築材等	板材	SD20		36.7	7.8	1.6		板目	スギ	上端切断、下端削り
44	建築材等	方形材	SD20北T		17.9	2.9	1.7		柾目	スギ	北トレンチ、上下端カット
45	容器	円形板	SD21	1			0.7	8.8		スギ	穿孔2箇所有り。表裏面とも刃物傷有り。側縁稜有り。側面の加工痕明瞭で、使用ズレや磨耗は見られない
46	その他	棒状木製品	SD24　13A18	Ⅱc	19.3	1.4	1.4			スギ	上下端欠損。柄か

野中土手付遺跡　木製品観察表（2）

報告No.	種類	器種	出土地点	層位	長（口径）	幅（底径）	厚（器高）	径	木取り	樹種	備考
47	容器	曲物底板	SD24　13A19	Ⅱc	14.3	7.1	0.6	17.0	柾目	スギ	風化顕著
48	祭祀具	箸状木製品	SD24	1	6.7	0.6	0.5				一部炭化
49	その他	柄か	SD24　13B4	2	13.1	3.0	2.6			アカマツ	断面円形。東西アゼ中
50	その他	柄か	SD24　13B6	2	16.0	1.6	1.4			スギ	上下端欠損。断面円形柄と思われる。南北アゼ中
51	祭祀具	斎串	SD24　14A16	2	20.0	2.2	0.4		板目	スギ	
52	祭祀具	斎串	SD24　13A16	4	16.8	2.8	0.6		板目	スギ	
53	その他	棒状木製品	SD24　13A16	4	14.7	0.7	0.5			スギまたはヒノキ科	上下端欠損、箸か
54	その他	柄	SD24　13A16	4	17.5	1.4	1.2	1.3		スギ	先端はやや細く削り出し圧痕が見られる。柄杓か
55	その他	用途不明品	SD24　13A16	4	29.2	7.4	3.9		柾目	スギ	中央に柄穴があったか？
56	建築材等	板材	SD24　13A16	4	22.7	4.0	0.7		板目	モクレン属	風化顕著
57	建築材等	材	SD24　13A16	4	17.9	6.7	6.1	6.4	丸木	カエデ属	上下端部切断
58	その他	棒状木製品	SD24　14A21	5	13.0	2.1	0.9		板目	スギ	左右側縁下端に向け削る
59	建築材等	板材	SD24　14A21	5	10.6	5.5	0.7		柾目	スギ	表面削り痕残るが平滑ではない
60	その他	用途不明品	SD24　14A21	5	17.9	2.4	2.8		板目	スギ	鉤状の木製品。両側面と表面は細かい削り。柄、または杷手？部材？
61	祭祀具	刀子形	SD24　14A16	青灰上	18.8	1.1	0.7		板目	スギ	
62	祭祀具	斎串	SD24　14A16	青灰上	17.6	1.6	0.7		板目	スギ	
63	祭祀具	斎串か	SD24　14A16	青灰上	17.7	2.7	0.6		板目	スギ	
64	容器	曲物側板	SD24　14A16	青灰上	4.0	17.1	0.6		板目	ヒノキ科	斜格子状のケビキ有り。木釘穴2箇所有り
65	その他	用途不明品	SD24　13B2	青灰上	22.5	4.7	1.5		柾目	コナラ属コナラ亜属クヌギ節	左側縁下部削りによる稜有り。（鍬に似た削り）
66	工具	楔か？	SD24　13A19	川砂上	19.4	4.5	4.9		柾目	クリ	上端切断、下端は薄く削る。細くなった下端は摩滅
67	発火具	火鑽臼	SD24　13B5	川砂上	28.0	1.4	2.7		柾目	スギ	下端に向け表裏面を薄く削る。
68	その他	柄か	SD24　13B4	川砂上	12.9	1.3	1.1			スギ	上下端部欠損。断面円形
69	その他	棒状木製品	SD24　13A25	川砂上	13.4	2.4	2.4		丸木	イヌガヤ	上端折り取り。全体に細かな削り
70	建築材等	材	SD24　13A25	川砂上	16.8	4.2	3.6		板目	スギ	
71	建築材等	材	SD24　13B4	川砂上	19.0	10.9	7.0		芯外し分割材	コナラ属コナラ亜属コナラ節	全面に加工痕が見られる。
72	建築材等	板材	SD24　13A25	川砂上	8.6	6.9	1.3		柾目		円形板を再加工したものか。裏面刃物傷若干有り
73	その他	柄か	SD24　13B8		23.1	1.6	1.1			スギ	断面円形
74	その他	棒状木製品	SD24　13B7		21.0	1.5	1.5			スギ	断面円形
75	その他	棒状木製品	SD24　13A19		22.3	1.0	1.1			スギ	上下端欠損。柄か
76	その他	棒状木製品	SD24　13B7		31.8	1.8	1.5			スギ	断面円形
77	その他	棒状木製品	SD24　13B4		71.4	3.1	2.9				有頭棒。頭部下に見られる磨耗は緊縛痕か
78	容器	曲物底板	SD24　13A20		17.1	10.1	0.9	17.0	柾目	スギ	木釘穴有り
79	紡織具	糸巻	SD24		14.7	4.6	1.8		柾目	スギ	風化顕著
80	武器	木鏃	SD24		11.3	2.2	2.3		芯持材	針葉樹	
81	農具	木錘	SD24　13B1		18.0	4.4	4.3		丸木	トネリコ属	風化顕著
82	農具	横槌	SD24　13B9		41.0	8.0	5.4		芯外し分割材	コナラ属コナラ亜属コナラ節	使用痕有り
83	建築材等	板材	SD24　13A25	ガツボ上4層	25.4	6.6	0.9		板目	スギ	上下端欠損。
84	木簡	木簡	SD24		99.0	22.0	4.0				
85	発火具	火鑽臼	SD24		27.8	2.7	1.6		柾目		
86	その他	用途不明品	SD24		29.9	2.8	1.6		板目		上部中央に穿孔、下端やや細く削り出す。部材か？
87	その他	用途不明品	SD24		33.0	7.3	2.9				乾燥して歪む。実際の厚さは1.3㎝。上部細く削細く削りだし方形の孔をあける。中央にも2箇所方形の孔有り
88	建築材等	杭	SD24　13B4		19.1	2.1	1.4		柾目	ヒノキ科	杭群。
89	建築材等	杭	SD24		19.1	5.2	4.8	5.2	丸木	ヤナギ属近似種	杭群。風化顕著
90	建築材等	杭	SD24		19.6	7.1	7.1	7.1	丸木	ハンノキ属ハンノキ亜属	杭6。風化顕著。樹皮残る
91	建築材等	杭	SD24　13B7		22.8	5.5	5.0	5.0	丸木	ヤナギ属近似種	風化顕著
92	建築材等	杭	SD24　13B4		57.5	7.4	6.0	6.6	丸木		杭群。樹皮残る

野中土手付遺跡　木製品観察表（3）

報告No.	種類	器種	出土地点	層位	長（口径）	幅（底径）	厚（器高）	径	木取り	樹種	備考
93	建築材等	杭	SD24　13B4		57.5	8.4	5.7	6.1	丸木		杭群。樹皮残る
94	祭祀具	箸状木製品	SD24T		8.7	0.6	0.5			スギ	
95	祭祀具	箸状木製品	SD24T		17.4	0.7	0.6			スギ	上部欠損
96	その他	棒状木製品	SD24T		14.5	1.4	1.0			スギ	上部欠損。柄か
97	その他	棒状木製品	SD24T		17.4	4.4	3.4		丸木	マツ属複維管束亜属	全面に細かな削りあり。柄か
98	建築材等	部材	SD24東西T		29.0	6.2	2.0		柾目	スギ	上端にやや低く削られた枘状の突出有り
99	建築材等	杭	SD24T		32.2	2.8	3.1		柾目	クリ近似種	
100	建築材等	板材	SD24T		14.4	2.5	1.0		板目	スギ	断面半円形
101	建築材等	板材	SD24T		25.1	3.0	1.0		板目	スギ	
102	祭祀具	箸状木製品	SD24’　12B9	最上層	6.6	0.7	0.4			スギ	
103	発火具	火鑽臼	SD24’　12A25	Ⅱc	22.4	3.4	2.5		板目	スギ	断面楕円形。柄などを転用か
104	容器	曲物側板	SD24’　12A24	1	5.1	14.9	0.4		柾目	スギ	部分的にケビキ有り
105	容器	曲物底板	SD24’　12A24	1	11.7	3.3	0.7	14.0	柾目	スギ	木釘穴有り
106	木簡	木簡	SD24’	1	7.1	1.8	0.4		板目	スギ	□〔七ヵ〕旧川『木簡研究』第22号（1）
107	木簡	木簡	SD24’	1	21.7	2.7	0.9		板目	スギ	「（符録）子子急□『木簡研究』第22号（2）
108	祭祀具	箸状木製品	SD24’　12B5	2	8.1	0.5	0.5			スギ	
109	祭祀具	箸状木製品	SD24’　12B5	2	9.7	0.7	0.6			スギ	上下端部欠損
110	祭祀具	箸状木製品	SD24’　12B10	2	11.8	0.6	0.5			スギ	両端欠損
111	その他	柄か	SD24’　12B9	2	17.7	1.5	1.3			スギ	断面円形
112	工具	刀子柄	SD24’　12B10	2	10.1	2.4	1.3		柾目	スギ	下端に目釘有り
113	その他	棒状木製品	SD24’　12B10	2	13.5	3.4	1.5			スギ	断面半円形、意図的に割っているのかは不明。上端折り取り。
114	その他	棒状木製品	SD24’　12B4	2	22.4	1.7	1.1			スギ	上下端欠損。下端に向け細く削る。断面楕円形
115	木簡	木簡	SD24’　12B5	2	13.6	3.1	6.5		板目	スギ	上部左右側縁に抉り。
116	祭祀具	斎串	SD24’　12B5	2	13.0	2.1	0.7		板目	スギ	切り込みは上からのみ
117	祭祀具	斎串	SD24’　12B5	2	13.5	2.0	0.6		柾目	スギ	切り込みは上からのみ
118	建築材等	板材	SD24’　12B5	2	38.5	5.7	1.9		板目	スギ	下部左右側面削り
119	建築材等	板材	SD24’　12B9	2	53.9	8.1	1.1		板目	スギ	上端欠損、下端切断。
120	容器	曲物底板	SD24’　12B4	2	15.2	4.0	0.7	15.3	板目	スギ	東西アゼ中
121	容器	曲物底板	SD24’　12B5	2	17.8	7.4	0.9	18.1	柾目	スギ	木釘穴、刃物傷有り
122	容器	曲物底板	SD24’　12B5	2	17.9	4.2	0.9	18.0	柾目	スギ	木釘穴有り
123	建築材等	部材	SD24’　12B9	2	14.8	3.6	1.3		板目	スギ	上部、中央部に穿孔。左側縁は丸みを帯びる
124	建築材等	部材	SD24’　12B10	2	27.5	3.1	1.1		柾目	スギ	上下端部に削り出した枘部はややつぶれている
125	建築材等	材	SD24’　12B5	2	9.6	4.8	2.8		板目	スギ	
126	建築材等	杭	SD24’　12B5	2	45.7	3.6	3.5	2.9	丸木	マツ属複維管束亜属	
127	容器	曲物底板	SD24’　12B4	3	14.3	3.7	0.8	18.0	柾目	スギ	木釘穴有り
128	容器	曲物底板	SD24’　12B4	3	15.5	4.8	0.9	15.5	柾目	スギ	木釘穴、刃物傷若干有り
129	祭祀具	箸状木製品	SD24’　12A24	最下層	5.6	0.5	0.3		柾目	スギ	
130	祭祀具	箸状木製品	SD24’　12A19		6.7	0.6	0.5			スギ	
131	建築材等	板材	SD24’　12A25		18.1	4.6	0.9		柾目	スギ	
132	建築材等	板材	SD24’　12B4		27.1	3.4	1.7		板目	スギ	
133	木簡	木簡	SD24’　12B5		8.9	3.6	0.5		柾目	スギ	封緘木簡。切断して廃棄。上端折り取り。
134	木簡	木簡	SD24’　12B5		15.0	3.1	0.8		板目	スギ	断簡。下部左右側面削り
135	容器	曲物底板	SD24’　12A24		13.9	4.5	0.9	15.0	板目	スギ	
136	食膳具	有台盤	SD24’　12A19			10.5	残2.6			ケヤキ近似種	高台内面はやや削り込まれている。体部の立ち上がらない小型の盤
137	その他	用途不明品	SD24’　12B4		19.4	6.1	3.8		板目	コナラ属コナラ亜属コナラ節	上端折り取り。下半断面円形に削る。
138	建築材等	杭	SD36　12A21		48.1	10.0	8.4	7.8	丸木	クリ近似種	表裏面から切断。尖底

野中土手付遺跡　木製品観察表（4）

報告No.	種類	器種	出土地点	層位	長（口径）	幅（底径）	厚（器高）	径	木取り	樹種	備考
139	木簡	木簡	6B7	Ⅱc	12.7	2.2	0.5			スギ	下端削り
140	食膳具	脚付盤	8B2	Ⅱc					板目	モクレン属	一体成形の4本脚の盤。側縁に縁を持つ。脚高2.0㎝
141	容器	曲物底板	11B2	Ⅱc	8.4	2.9	0.8		柾目	スギ	木釘穴有り
142	その他	棒状木製品	12A20	Ⅱc	12.6	1.5	1.5			スギ	上下端欠損。断面円形。柄か
143	その他	棒状木製品	12A19	Ⅱc	15.1	1.4	1.2			スギ	断面円形。柄か
144	建築材等	板材	12A20	Ⅱc	24.4	2.7	0.5		柾目	スギ	円形板、曲物底板か
145	発火具	火鑽臼	12A25	Ⅱc	13.2	3.1	2.1		板目	スギ	裏面も使用
146	木簡	木簡	1B3	Ⅲ	10.2	2.1	0.3		柾目		上部に孔有り
147	木簡	木簡	10B7	Ⅲ	60.0	24.0	4.0				
148	木簡	木簡	13A22	Ⅲ	12.5	2.4	0.6				上部左右側面抉り。
149	食膳具	盤か？	11B6	Ⅲ	15.9	9.9	0.6		柾目	ケヤキ	側縁薄くなる
150	その他	棒状木製品	10B4	Ⅲ	14.6	1.1	1.2			スギ	断面円形。柄か
151	その他	棒状木製品	14A18	Ⅲ	17.3	1.4	1.3	1.3			断面円形
152	容器	曲物底板	11B6	Ⅲ	6.4	14.4	0.8	16.0	板目	スギ	
153	容器	曲物底板	11A	Ⅲ	14.3	3.7	0.5	17.5	板目	スギまたはヒノキ科	木釘穴有り。刃物傷若干有り
154	容器	曲物底板	11B6	Ⅲ	16.0	7.5	0.9	17.0	柾目	スギ	木釘穴有り
155	容器	曲物底板	12B9	Ⅲ	17.1	4.5	1.2	17.1	板目	スギ	木釘穴有り
156	容器	曲物底板か	12B5	Ⅲ	21.0	4.9	0.8	29？	板目	スギ	
157	漁撈具	浮子か	10B1	Ⅲ	11.8	1.6	0.8			スギ	上部抉り
158	建築材等	板材	10A25	Ⅲ	29.2	17.4	4.8		板目	スギ	下端に半円形の窪み有り
159	建築材等	板材	11A16	Ⅲ	104.9	12.5	2.7		柾目		
160	建築材等	部材	12B9	Ⅲ	9.2	5.2	0.9		板目	スギ	下端切り欠く
161	建築材等	部材	7B10	Ⅲ	155.0	15.0	6.1		板目		中ほどを一部切り欠く
162	武器	弓か	12B9	Ⅲ	36.5	2.0	4.0	1.2	丸木	カヤ	
163	建築材等	杭か	11A10	Ⅲ	21.6	1.9	1.7		柾目	スギ	下端削り
164	建築材等	杭	10A25	Ⅲ	44.6	6.1	5.0	4.2	丸木	ヤマグワ	上下端欠損
165	祭祀具	斎串	14B2		14.0	1.6	0.4		板目	針葉樹	上部左右から抉り
166	建築材等	杭	14A23		14.4	14.4	6.6		半割材	トネリコ属	杭10。平底
167	建築材等	杭	14A24		17.6	11.4	11.6	11.1	丸木	カエデ属	杭⑧。下端左右側面から切断。尖底
168	建築材等	杭	14A23		18.7	15.7	14.5		芯持分割材	トネリコ属	杭⑪。断面方形の柱。下端左右側面から切断。尖底
169	建築材等	杭	14B5		23.7	13.2	10.8		芯外し分割材	トネリコ属	杭4。平底
170	建築材等	杭	14A25		28.3	10.1	10.0	10.1	丸木	アカメガシワ	杭②。上下端欠損。加工痕は見られない。
171	建築材等	杭	14A23		36.6	12.6	14.1	12.1	丸木	ニレ属	杭9。下端左右端部から切断。尖底
172	建築材等	杭	14B10		39.4	8.6	8.8	7.8	丸木	クリ	杭5
173	建築材等	杭・柱	15A17		46.2	14.7	14.1	14.3	丸木		杭1。下端左右側面から切断。尖底
174	建築材等	杭	14B5		53.7	5.6	5.3	5.4	丸木	クリ	杭3。風化著しい
175	建築材等	杭	－		41.2	10.1	8.9	9.7	丸木	モクレン属	杭1・2。上下端欠損。
176	祭祀具	箸状木製品	土柱2s		7.4	0.5	0.4		板目	スギ	上部欠損
177	容器	曲物底板	土柱2s	砂層上	13.4	3.6	0.8		柾目	スギ	周縁を一段低く切り欠くもの
180	建築材等	板材	13T		25.3	2.6	1.5		柾目	スギ	1区、下端薄く削る
181	容器	曲物底板	暗渠	掘削土	16.7	6.3	0.9	19.0	柾目	スギ	
182	建築材等	板材	暗渠		24.5	5.3	0.8		板目	スギ	2区、下端左右から削り。刃物傷有り
183	建築材等	板材	表土		41.9	15.1	3.4		板目	スギ	表土はぎ。一部炭化

砂山中道下遺跡　土器・陶磁器観察表

報告No.	出土地点	層位	種類	器種	分類	法量（cm）	手　法	施釉・胎土	文　様	時期	備　考
1	15B5	包含層	須恵器	坏蓋			擬宝珠状の鈕。	長石		平安	
2	SX172	2	須恵器	甕			外平行線文タタキ、カキメ　内同心円文当具痕			平安	取上No.29
3	SK31	3	舶載青磁	碗				釉7.5GY7/1、胎N7/	鎬蓮弁文	中世	中国。取上No.76
4	5A		舶載青磁	碗				釉7.5Y6/2、胎N8/	鎬蓮弁文	中世	中国
5	15B10		舶載青磁	碗				釉10Y5/2、胎N7/	鎬蓮弁文	中世	中国
6	16B6		舶載青磁	碗				釉5G7/1、胎N8/	鎬蓮弁文	中世	中国
7	11		舶載青磁	碗		底5.0		釉10G7/1、胎10Y7/1		中世	中国
8	SB5-P173		中世土師器	皿	B	底9.0	ロクロ成形	精良		中世	取上No.1
9	SX30	5	中世土師器	皿	BⅡ	口11.6底8.4高2.7	ロクロ成形、径高指数23、ヘラ切り	精良		中世	古代の系譜
10	SX175	1	中世土師器	皿	BⅠ	底8.6高1.4	ロクロ成形、回転糸切り。	精良		中世	取上No.1・16、灯明皿転用
11	SX175	5	中世土師器	皿	B	底8.0	ロクロ成形			中世	取上No.283
12	SD59	5	中世土師器	皿	B	口8.7底7.4高1.9	ロクロ成形、径高指数21	海綿状骨針、金雲母		中世	取上No.57、灯明皿転用見込赤変
13	16B3		中世土師器	皿	BⅠ	口8.1底6.1高1.3	ロクロ成形、回転糸切り。径高指数16	精良		中世	見込スス付着、灯明皿転用
14	15B9		中世土師器	皿	BⅠ	底8.5	ロクロ成形、回転糸切り。	精良		中世	灯明皿転用
15	21T		中世土師器	皿	B	口12.5	ロクロ成形、体部立上り強いナデ	精良		中世	見込スス付着
16	17A21	包含層	中世土師器	皿	A	口7.8底7.1高1.1	手ずくね、丁寧なナデ。	精良		中世	
17	SE17	5	珠洲	擂鉢		口24.3	口縁端部方頭	海綿状骨針、長石		Ⅳ期	卸目16条
18	SE17	6	珠洲	擂鉢		口28.2	口縁端部方頭			Ⅳ期	取上No.186。卸目17条
19	SE17・17	6～砂	珠洲	鉢		口19.4	口縁端部方頭	精良。海綿状骨針		Ⅳ期	
20	SE29	9	珠洲	甕			外：タタキ				取上No.2。全体にタール付着
21	SE200	2	珠洲	甕		底13.0					取上No.3・4。内磨耗無し
22	SX30		珠洲	擂鉢		底12.4	回転糸切り	海綿状骨針			卸目4条以上
23	SX175、P194、5A22、6A21T	5　表採	珠洲	甕		底10.4	外：タタキ、内：円形押圧				内面自然釉付着
24	SD59	4	珠洲	壺			外：タタキ、内：円形押圧				取上No.9
25	14A11	包含層	珠洲	壺			外：タタキ	精良			赤色顔料などを内面で擂ったか。磨耗顕
26	14A14	包含層	珠洲	甕or壺				海綿状骨針			内面磨耗無し
27	14A20	包含層	珠洲	擂鉢		口30.1	口縁端部わずかに窪む。			Ⅲ期	卸目7条以上、内ゴマ状自然釉付着
28	15B2	包含層	珠洲	擂鉢				焼成不良2.5Y8/1			卸目8条
29	17B2		珠洲	擂鉢		底14.6	回転糸切り				卸目9条以上
30	20T	表採	珠洲	擂鉢			口縁端部方頭			Ⅳ期	卸目6条以上
31			珠洲	擂鉢							卸目7条以上。内タール付着
32	14A25	1	磁器	皿		口径13.0	見込蛇の目釉ハギ。		圏線、二重斜格子	近世	肥前
33	2B5・10	1	磁器	皿		底8.0	蛇の目高台		見込	近世	肥前
34	2B11		磁器	碗		底3.4	畳付のみ無釉。		二重網目文、二重圏線、菊花？	近世	肥前
35	11A19	包含層	陶器	片口				外2.5Y7/6		近世	会津か在地窯
36	9A18	包含層	陶器	瓶		底8.0	見込無釉。外畳付除き白化粧土	灰白釉、胎土		近世	唐津
37	11B3・8	Ⅰ	陶器	鉢？			見込目跡。外ケズリ	見込透明釉10YR7/3、外緑釉5Y6/4		近世	会津か在地窯、貫入有り

砂山中道下遺跡　土製品観察表

報告№	出土地点	層位	種類	胎　土	法量（cm、g）	調整	備考
38	SD143		フイゴの羽口	金雲母、石英、長石、繊維	重199	ヘラナデ	取上№2
39	SD204	3	フイゴの羽口	金雲母、繊維	重295	ヘラナデ	取上№3
40	14A23	包含層	太型土錘		長4.8、幅2.5、重31.5	手づくね	
41	SE17	覆土	細型土錘		長4.1、幅1.1、重4.3	手づくね	
42	SD59	5	細型土錘		長4.0、幅1.2、重4.0	手づくね	取上№189
43	15B10		細型土錘	精良	長3.6、幅0.8、重2.1	手づくね	

砂山中道下遺跡　石製品観察表

報告№	出土地点	層位	種類	法量（cm、g）	石材	備考
44	SK31	包含層	不明	長6.1、幅4.8、厚0.7、重26	粘板岩	
45	SD28	2	砥石	長6.2、幅2.6、厚1.7、重23	凝灰岩	取上№2
46	8A21	V	砥石	長10.0、幅5.1、厚1.7、重112	凝灰岩	
47	17		砥石	長7.0、幅3.6、厚3.5、重113	凝灰岩	
48	SX30　20A20		砥石	長8.5、幅7.4、厚5.3、重395	安山岩	
49	12A24	包含層	砥石	長3.1、幅2.6、厚0.9、重9	凝灰岩	
50	撹乱		砥石	長11.5、幅4.9、厚2.2、重128	砂岩	
51	15		砥石	長13.3、幅8.1、厚6.6、重587	凝灰岩	

砂山中道下遺跡　金属製品観察表

報告№	出土地点	層位	種類	法量（mm、g）	素材	備考
52	4A24	包含層	煙管	長（54）、幅14、重10.0	真鍮	
53	SX30	9	脚	高35、重22.5	銅？	全体に緑青付着
54	12A20		銭貨	長23.8、厚1.4、重1.8		「元豊通寶」北宋。初鋳1078年
55	15B3	包含層	銭貨	径23.9、厚1.2、重2.3		「熙寧元寶」北宋。初鋳1068年
56A	15B3	包含層	銭貨	長23.1幅23.1厚1.2		「嘉祐通寶」2枚融着。上の表面。北宋。初鋳1056年
56B	15B3	包含層	銭貨	長24.0幅23.6.厚1.2		銭種不明。2枚融着。下の裏面
57	15B7		銭貨	長24.3、幅24.3、厚1.0、重1.9		「皇宋通寶」北宋。初鋳1038年
58	分布調査№15		銭貨	長22.9、幅22.7、厚1.0、重1.7		「寛永通宝」江戸時代。新寛永
59	5B14	包含層	弾	径12.4、重11.0	鉛	火縄銃の弾
60	7		弾	径12.9、重11.8	鉛	火縄銃の弾
61	6A22	包含層	弾	径12.6、重11.0	鉛	火縄銃の弾

砂山中道下遺跡　木製品観察表（1）

報告№	種類	器種	出土地点	層位	取上№	長・口径	幅・底径	厚・径・器高	木取り	樹　種	備　考
1	建築材等	柱根	SB3-P193		1	31.20	14.90	13.50	芯持丸太	クリ	平底
2	建築材等	柱根	SB3-P96		1	28.60	13.80	径10.00	芯持丸太	カエデ属	尖底
3	建築材等	柱根	SB6-P197		1	23.50	10.50	径8.60	芯持丸太	クリ	平底
4	祭祀具	箸状木製品	SB7-P116		1	12.80	0.60	0.45	棒材・板目		
5	建築材等	柱根	SB7-P126		1	19.50	12.10	12.30	芯持丸太	ブナ属	平底。風化著しい
6	建築材等	柱根	SB7-P201		1	53.50	13.20	11.60	芯持丸太	クリ	風化著しい
7	建築材等	礎板	SB8-P169			16.10	13.80	6.30	板目	コナラ属コナラ亜属コナラ節	
8	建築材等	柱根	SB8-P180			24.80	14.80	14.60	芯外・分割材	ケヤキ	尖底
9	建築材等	柱根	SB8-P182			43.90	17.90	12.20	芯外・分割材	コナラ属コナラ亜属コナラ節	平底？
10	祭祀具	箸状木製品	SE17	4	59	16.90	0.70	0.30	棒材	スギ	
11	祭祀具	箸状木製品	SE17	4	62	21.40	0.70	0.40	棒材・板目		
12	祭祀具	箸状木製品	SE17	5	150	15.30	0.70	0.40	棒材・柾目		
13	祭祀具	箸状木製品	SE17	5	117	20.60	0.70	0.60	棒材・板目		
14	建築材等	板材・井戸側縦板	SE17	5	101	33.05	4.50	1.40	板目	スギ	下端削り、磨耗
15	建築材等	板材・井戸側縦板	SE17	5	142	46.20	9.45	0.95	柾目	スギ	
16	建築材等	板材・井戸側縦板	SE17	5	32	92.40	21.30	1.80	板目	スギ	
17	建築材等	板材・井戸側縦板	SE17	5		132.00	12.60	1.00	板目		
18	建築材等	板材・井戸側縦板	SE17	5～7	144	86.40	16.40	1.70	板目		
19	祭祀具	箸状木製品	SE17	6	123	14.50	0.70	0.50	棒材		
20	農具	鍬	SE17	6	128	22.70	12.50	2.55	柾目	コナラ属コナラ亜属コナラ節	
21	服飾具	扇	SE17	6	160	33.50	2.50	2.50	柾目	ヒノキ科	計測値は閉じた状態のもの。左右側面に閉じた状態で削った痕有り

砂山中道下遺跡　木製品観察表（2）

報告No.	種類	器種	出土地点	層位	取上No.	長・口径	幅・底径	厚・径・器高	木取り	樹種	備考
22	建築材等	板材・井戸側縦板	SE17	6	124	23.60	7.10	1.15	板目	スギ	
23	建築材等	板材・井戸側縦板	SE17	6	139	39.40	5.90	1.45	板目	スギ	下部削り
24	建築材等	板材・井戸側縦板	SE17	6	120	55.70	14.70	1.20	板目	スギ	下部削り
25	祭祀具	箸状木製品	SE17	6～砂層		17.00	0.60	0.45	棒材・板目		
26	紡織具	織機？	SE17	6～砂層		20.90	2.95	1.50	板目	スギ	上部左右から抉り。抉り部の磨耗は緊縛痕か
27	建築材等	部材・井戸側横桟	SE17	井戸底	上枠	78.80	4.20	4.50	角材・板目		仕口両端凸
28	建築材等	部材・井戸側横桟	SE17	井戸底	上枠2	80.30	6.50	4.20	角材・板目		仕口両端凹
29	建築材等	部材・井戸側横桟	SE17	井戸底	上枠	79.00	4.00	5.00	角材・板目	スギ	仕口両端凸
30	建築材等	部材・井戸側横桟	SE17	井戸底	上枠4	81.90	5.60	3.60	角材・板目	スギ	仕口両端凹
31	建築材等	部材・井戸側横桟	SE17	井戸底	下枠1	83.00	4.10	3.90	角材・板目		仕口両端凸
32	建築材等	部材・井戸側横桟	SE17	井戸底	下枠2	79.50	6.10	4.10	角材・柾目	スギ	仕口両端凹
33	建築材等	部材・井戸側横桟	SE17	井戸底	下枠3	78.90	3.80	4.70	角材・板目	スギ	仕口両端凸
34	建築材等	部材・井戸側横桟	SE17	井戸底	下枠4	80.20	6.50	3.40	角材・柾目		仕口両端凹
35	服飾具	連歯下駄	SE129	8		23.00	12.10	4.50	板目	ケヤキ	
36	容器	曲物・井戸側	SE129		曲物1	径55.50		16.50		スギ	4点入れ子状に設置。最上段。木釘穴有り。内面ケビキ、外面部分的に刃物傷有り。さらに外側を巻く板があるが崩壊したため接合不能
37	容器	曲物・井戸側	SE129		曲物2	径39.90		22.80	内・柾目。外・板目	スギ	4点入れ子状に設置。上から2段目。ケビキは部分的
38	容器	曲物・井戸側	SE129		曲物3	径35.50		19.70	内・板目。外上下柾目	スギ	4点入れ子状に設置。上から3段目。ケビキ有り。内面一部炭化。木釘穴有り
39	容器	曲物・井戸水溜	SE129	8	曲物4	径18.55		12.60	柾目	スギ	4点入れ子状に設置。最下段。ケビキ部分的に有り。側板内面下端に底板のための削り有り
40	建築材等	板材・井戸側	SE129		6	22.00	14.00	16.00			
41	祭祀具	箸状木製品	SE171	4	7・10	19.40	0.60	0.30	棒材・柾目		
42	祭祀具	箸状木製品	SE171	4	仮65-2	20.80	0.70	0.50	棒材・板目		
43	祭祀具	箸状木製品	SE171	4	8	21.80	0.80	0.50	棒材・板目		
44	祭祀具	箸状木製品	SE171	4	仮65-3・65-5	23.30	0.60	0.40	棒材・柾目	スギ	
45	建築材等	部材	SE171	4層底部一括	仮66-2底部一括	18.50	1.60	0.65	柾目	スギ	上部、下部に穿孔有り。一部炭化
46	祭祀具	箸状木製品	SE171		仮57	18.70	0.60	0.55	棒材・板目		
47	祭祀具	箸状木製品	SE171		仮57	18.80	1.00	0.40	棒材・板目		
48	食膳具	折敷	SE171		仮64-1	16.35	4.00	0.55	柾目	スギ	右側縁2か所穿孔有り
49	建築材等	部材・井戸側横桟	SE171		12	32.90	4.40	4.35	角材・柾目	スギ	№50と同一個体。仕口両端凹
50	建築材等	部材・井戸側横桟	SE171		11	37.50	4.45	4.30	角材・柾目	スギ	№49と同一個体。仕口両端凹
51	建築材等	部材・井戸側横桟	SE171		14	62.20	3.90	3.60	角材・柾目		仕口両端凹
52	建築材等	部材・井戸側横桟	SE171		15	65.30	3.20	4.00	角材・板目		仕口両端凸
53	建築材等	部材・井戸側横桟	SE171		45	65.70	4.20	4.50	角材・板目	スギ	仕口両端凸
54	建築材等	部材・井戸側横桟	SE171		16	66.30	3.00	4.50	角材・板目		仕口両端凸
55	建築材等	板材・井戸側縦板	SE171			46.35	11.10	1.25	板目	スギ	下端削り
56	建築材等	板材・井戸側縦板	SE171		33	47.80	21.50	1.70	板目	スギ	
57	建築材等	板材・井戸側縦板	SE171		17	82.00	30.00	2.30	柾目	スギ	右側面に9か所抉り有り。右側縁に木釘残る
58	建築材等	板材・井戸側縦板	SE171		29	83.80	19.30	1.90	板目	スギ	
59	建築材等	板材・井戸側縦板	SE171		54	86.00	17.30	1.30	板目		
60	建築材等	板材・井戸側縦板	SE171		24	91.80	20.40	2.80	柾目	スギ	
61	建築材等	板材	SE171		59	30.10	3.20	0.50	柾目	スギ	曲物側板間の緩み解消のために差し込まれた板材。表裏面に薄くするための削り痕有り
62	建築材等	板材	SE171		25	85.20	18.80	2.00	板目		

砂山中道下遺跡　木製品観察表（3）

報告No.	種類	器種	出土地点	層位	取上No.	長・口径	幅・底径	厚・径・器高	木取り	樹種	備考
63	容器	曲物・井戸水溜	SE171		井戸底曲物	径60.60		50.40	内板目・外3段柾目	スギ	ケビキ有り。側板下端底板接着のための削り有り。緩み解消のために側板間に薄い割り板材を挟んでいる
64	祭祀具	箸状木製品	SE200	3	6	16.50	0.60	0.60	棒材・板目	スギ	
65	祭祀具	箸状木製品	SE200	3	2	20.80	0.50	0.35	棒材・板目		
66	建築材等	杭	SK24	3	2	33.10	2.80	1.00	角材・板目	スギ	上端山形にカット、下端削り
67	祭祀具	箸状木製品	SK24	6	5	17.90	0.75	0.40	棒材・柾目	スギ	
68	食膳具	漆塗皿	SK27			90	7.40	1.05	横木・柾目	ケヤキ	内外面黒漆塗り。体部に大きな削り痕有り
69	建築材等	杭？	SK27			16.80	2.80	2.90	角材・板目	スギ	下端炭化
70	祭祀具	箸状木製品	SK29	3	5	11.75	0.60	0.40	棒材・板目	スギ	
71	祭祀具	箸状木製品	SK31	1	209	20.70	0.70	0.37	棒材・板目	スギ	
72	祭祀具	箸状木製品	SK31	1	209	22.80	0.70	0.57	棒材・板目		
73	祭祀具	箸状木製品	SK31	3層1	60	18.70	0.60	0.40	棒材・板目		断面三角形
74	祭祀具	箸状木製品	SK31	3	37	19.90	0.90	0.50	棒材・板目		
75	祭祀具	箸状木製品	SK31	3	108	21.60	0.70	0.50	棒材・柾目		
76	祭祀具	箸状木製品	SK31	3	16	22.20	0.80	0.70	棒材	広葉樹	
77	食膳具	杓子形木製品	SK31	3	29	8.80	3.25	0.45	板目	スギ	一部炭化
78	食膳具	杓子形木製品	SK31	3	24	12.40	2.60	0.35	柾目	スギ	
79	食膳具	漆塗椀	SK31	3		12.00	7.20	3.50	横木・柾目	ケヤキ	輪高台。内外面黒漆塗り
80	紡織具	織機？	SK31	3	210	19.10	3.20	1.50	板目	コナラ属コナラ亜属コナラ節	上部左右から抉り有頭状に加工。頭部はやや薄く仕上げる
81	建築材等	部材	SK31	3	116	20.30	1.25	0.55	板目	スギ	中央平らに削り穿孔有り
82	建築材等	部材？	SK31	3層1	67	13.40	2.70	2.00	棒材・板目	マツ属単維管束亜属	上端の窪みは人工的な切り欠きか
83	祭祀具	箸状木製品	SK31	4	184	18.50	0.70	0.50	棒材・板目		
84	祭祀具	箸状木製品	SK31	4	北西1/2南西1/2の分布	18.90	1.00	0.60	棒材・柾目		
85	祭祀具	箸状木製品	SK31	4	北西1/2南西1/2の分布	20.60	0.60	0.50	棒材・板目		
86	祭祀具	箸状木製品	SK31	4	北西1/2南西1/2の分布	23.30	0.80	0.40	棒材・柾目		
87	祭祀具	箸状木製品	SK31	4	東西・西半分一括	19.10	0.50	0.40	棒材・板目		
88	祭祀具	箸状木製品	SK31	4	東西・西半分一括	21.30	1.00	0.40	棒材・板目		
89	祭祀具	箸状木製品	SK31	4	東西・西半分一括	22.10	0.80	0.50	棒材・板目		
90	紡織具	紡錘車？	SK31	4	北西1/2南西1/2の分布	径4.80	4.80	0.40	柾目	スギ	中央に穿孔有り。断面台形状
91	工具	楔?	SK31	4層1	58	11.10	2.00	1.00	柾目	スギ	下端削り
92	服飾具	板草履	SK31	4	東西・西半分一括	24.80	4.80	0.30	板目	スギ	№93と対
93	服飾具	板草履	SK31	4	東西・西半分一括	24.80	5.00	0.40	板目	スギ	№92と対
94	容器	曲物側板	SK31	4	115	10.80	24.50	1.90	柾目	スギ	実厚1枚0.3mm程。内側の板下端には底板接着のための削り有り。木釘穴有り。ケビキは部分的
95	建築材等	板材	SK31	4	206	5.20	1.60	0.50	柾目	スギ	
96	建築材等	部材	SK31	4	東西・西半分一括	11.10	1.10	0.80	柾目	スギ	中央付近に穿孔有り。右側面溝を切る
97	その他	用途不明品	SK31	4	北西1/2南西1/2の分布	23.10	1.40	1.00	板目	スギ	下端薄く仕上げる。箆か
98	木簡	木簡	SK31	5		21.90	3.80	0.40	柾目	スギ	『木簡研究』第21号（9）卒塔婆。裏面一部炭化。下端尖る
99	祭祀具	箸状木製品	SK31	5	126	19.70	0.80	0.50	棒材・柾目		
100	祭祀具	箸状木製品	SK31	5	201	20.80	0.80	0.60	棒材		
101	建築材等	部材	SK31	5	168	10.50	1.10	0.70	棒材	スギ	中央に穿孔した材に他の棒材を差し込む
102	祭祀具	箸状木製品	SK31	6	127	21.00	0.70	0.40	棒材・板目		
103	祭祀具	箸状木製品	SK31	6	150	21.80	0.70	0.40	棒材・板目		
104	祭祀具	箸状木製品	SK31	5～6	一括	23.30	0.70	0.65	棒材・柾目		
105	容器	円形板	SK31	7	114	19.70	10.10	0.60	柾目	スギ	径約20㎝。表裏面とも刃物傷有り

砂山中道下遺跡　木製品観察表（4）

報告No.	種類	器種	出土地点	層位	取上No.	長・口径	幅・底径	厚・径・器高	木取り	樹　種	備　考
106	容器	曲物底板	SK31			12.90	2.40	0.70	柾目	スギ	一部炭化。側縁の綴じ穴に樹皮残る
107	建築材等	板材	SK31			11.60	7.90	0.60	柾目	スギ	左、下側縁に2か所ずつ穿孔有り。表裏面ともに刃物傷有り
108	祭祀具	箸状木製品	SK32	1	109	18.60	0.80	0.30	棒材・柾目		
109	その他	棒状木製品	SK32	1	1	23.40	1.30	0.60	棒材・板目	スギ	下端炭化、欠損
110	祭祀具	箸状木製品	SK32	2	27	17.30	0.80	0.70	棒材・柾目		
111	祭祀具	箸状木製品	SK32	3	30	18.40	0.60	0.50	棒材・板目		
112	祭祀具	箸状木製品	SK32	3	11	20.00	0.80	0.50	棒材・柾目		
113	祭祀具	箸状木製品	SK32	3	11	20.80	0.60	0.40	棒材・板目	スギ	
114	祭祀具	箸状木製品	SK32	5	64	21.30	0.90	0.40	棒材・板目	スギ	
115	農具	木錘	SK32	5	92	13.30	4.50	4.20	芯持丸太	クリ	抉りは浅く雑
116	建築材等	板材	SK32	5	65	12.80	2.80	0.30	板目	スギ	上端2次加工か。板草履？
117	建築材等	板材	SK32	5	91	18.90	2.50	1.00	板目	スギ	上端折り取り。側縁削り
118	建築材等	板材	SK32	5	87	19.60	1.30	0.40	柾目	スギ	左側縁中央穿孔有り
119	その他	棒状木製品	SK32	6	13	9.70	1.60	1.50	棒材	スギまたはヒノキ科	上端折り取り、炭化。前面に削り痕有り。下端尖り
120	食膳具	漆塗椀	SK32	Ⅲ		15.80	10.20	5.00	横木・柾目	ケヤキ	輪高台。内外面黒漆塗り
121	食膳具	漆塗Ⅲ	SK32	Ⅲ		−	8.00	1.50	横木・柾目	ケヤキ	輪高台。内外面黒漆塗り
122	その他	棒状木製品	SK32			26.50	1.50	0.70	棒材・柾目	スギ	上下端尖り
123	建築材等	杭?	SX172	1	58	49.10	6.80	3.00	板目	クリ	
124	その他	棒状木製品	SX172	2	53	11.20	1.20	0.80	板目	スギ	下端尖り
125	その他	棒状木製品	SX172	2	19	13.50	1.20	0.78	棒材・柾目	スギまたはヒノキ科	上部削り。全面炭化
126	その他	棒状木製品	SX172	2	79	15.50	2.77	2.60	棒材・板目	スギ	上下端部水平にカット。断面円形。全面に削り
127	容器	曲物底板	SX172	2	121	10.65	3.75	0.80	柾目	スギ	木釘穴有り。刃物傷多数有り
128	祭祀具	箸状木製品	SX172	4		21.30	0.70	0.58	棒材・板目		
129	食膳具	杓子形木製品	SX172	4	15	17.90	3.55	0.55	柾目	スギ	表裏面とも平滑
130	祭祀具	箸状木製品	SX172	5	122	20.30	0.50	0.50			
131	建築材等	板材	SX172	5	1	20.60	6.70	1.25	柾目	スギ	縦横に等間隔に穿孔。刃物で引いた線の交わるところを目安に孔をあける。木釘残る。表面刃物傷多数有り。
132	建築材等	板材	SX172	5	227	27.40	2.80	0.30	柾目	スギ	上、下部と右側縁に少なくとも6か所穿孔有り。刃物傷有り
133	建築材等	杭	SX172	5	246	20.00	4.15	3.50	芯持丸太	広葉樹（環孔材）	
134	祭祀具	箸状木製品	SX172			13.85	0.50	0.30	棒材・板目	スギ	
135	祭祀具	箸状木製品	SX172			20.90	0.70	0.40	棒材・板目		
136	建築材等	杭?	SX172		305	44.80	7.00	4.50	分割材・板目	コナラ属コナラ亜属コナラ節	№137と同一個体？
137	建築材等	杭?	SX172		305	45.20	6.40	4.40	分割材・板目	コナラ属コナラ亜属コナラ節	№136と同一個体？
138	建築材等	杭	SX172		301	71.70	8.20	径6.00	芯持丸太	サクラ属	樹皮残る
139	建築材等	杭	SX172		304	74.10	6.80	5.60	芯持丸太		
140	建築材等	杭	SX172		306	135.40	7.40	8.00	分割材・柾目		
141	祭祀具	箸状木製品?	SX175	3	156	14.20	0.70	0.60	棒材・柾目		
142	祭祀具	箸状木製品	SX175	3	301	18.00	0.70	0.40	棒材	スギ	
143	祭祀具	箸状木製品	SX175	3	62	19.10	0.50	0.50	棒材・柾目		
144	祭祀具	箸状木製品	SX175	3	321	19.20	0.70	0.40	棒材・柾目		
145	祭祀具	箸状木製品	SX175	3	263	19.60	0.60	0.45	棒材・柾目		
146	祭祀具	箸状木製品	SX175	3	204	20.20	0.70	0.70	棒材・板目		
147	祭祀具	箸状木製品	SX175	3	331	20.60	0.60	0.40	棒材・板目		
148	祭祀具	箸状木製品	SX175	3	237	20.95	0.55	0.45	棒材・板目		
149	祭祀具	箸状木製品	SX175	3	74	21.20	0.70	0.50	棒材・板目		

砂山中道下遺跡　木製品観察表（5）

報告№	種類	器種	出土地点	層位	取上№	長・口径	幅・底径	厚・径・器高	木取り	樹　種	備　考
150	祭祀具	箸状木製品	SX175	3	134	21.50	0.90	0.70	棒材		
151	祭祀具	箸状木製品	SX175	3	154	22.70	0.70	0.50	棒材		
152	その他	棒状木製品	SX175	3	266？	29.70	1.50	1.10	板目		上端削り
153	建築材等	板材	SX175	3	75	7.10	3.10	0.40	柾目	スギ	曲物底板か
154	建築材等	板材	SX175	3	260-1	10.80	1.80	0.35	板目	スギ	表裏面に削り
155	建築材等	板材	SX175	3	308	18.50	3.60	0.55	柾目	スギ	側面の削りは粗い
156	建築材等	板材	SX175	3	299	20.00	6.00	0.45	柾目	スギ	
157	祭祀具	箸状木製品	SX175	4	272	20.60	0.55	0.45	棒材・板目		
158	祭祀具	箸状木製品	SX175	4	267-1	20.90	0.77	0.45	棒材・板目		
159	祭祀具	箸状木製品	SX175	4	266	21.65	0.80	0.40	棒材・板目		
160	建築材等	杭	SX175	4	275	30.30	3.55	径3.15	芯持丸太	キハダ	樹皮残る
161	服飾具	連歯下駄	SX175	5	338	20.30	9.50	3.20	板目	ケヤキ	
162	建築材等	板材	SX175	5	278	28.00	3.00	0.55	柾目	スギ	
163	建築材等	杭	SX175	7？	346	43.00	11.20	8.30	芯持丸太	カエデ属	尖底
164	祭祀具	箸状木製品	SX178	3	3	17.00	0.50	0.50	棒材		
165	建築材等	板材	SX250	4	7	16.80	13.30	0.60	柾目	スギ	表裏とも刃物傷多数有り
166	木簡	木簡	SX30 17A22	不明		31.90	3.00	0.30	柾目	スギ	『木簡研究』第21号（4）卒塔婆。上端圭頭。下端尖る。
167	木簡	木簡	SX30 20A21	基本③確認面20㎝下		20.60	2.40	2.00	柾目	スギ	『木簡研究』第21号（2）。呪符木簡。上端一部欠損
168	木簡	木簡	SX30 20A22	基本③確認面20㎝下		25.10	3.40	0.20	柾目	スギ	上端圭頭。両側面2か所切り込み。下端一部欠損。墨痕？
169	祭祀具	箸状木製品	SX30 20A22	基本③確認面20㎝下		22.20	0.70	0.40	柾目		下端炭化
170	食膳具	漆塗椀	SX30 20A21	基本③確認面20㎝下			8.00	残3.30	横木・柾目	モクレン属	高台剥落。内外面黒漆塗り
171	服飾具	板草履	SX30 20B10	基本③		18.50	3.20	0.30	板目	スギ	刃物傷有り
172	建築材等	板材	SX30 20A22	基本③確認面20㎝下		20.90	5.30	1.30	板目	スギ	上端折り取り
173	食膳具	漆塗椀	SX30 17B8	7			7.40	残2.40	横木・柾目	ケヤキ	総高台。内外面黒漆塗り。底部中央に5か所穿孔有り
174	祭祀具	箸状木製品	SX30 17B8	9		19.20	0.60	0.40	棒材・板目	スギ	
175	祭祀具	箸状木製品	SX30 17B8	9		21.10	0.70	0.60	棒材・板目		
176	祭祀具	箸状木製品	SX30 17B8	9		22.00	0.70	0.60	棒材・板目		
177	容器	栓	SX30 17B4	9		7.10	1.50	1.20	棒材・板目	スギ	下端つぶれ
178	その他	棒状木製品	SX30 17B9	10		27.20	1.20	0.60	棒材・柾目	スギ	下端尖る
179	建築材等	板材	SX30 17B13	10		13.80	4.70	0.50	柾目	スギ	左側縁に2か所穿孔有り。表面刃物傷多数有り
180	建築材等	板材	SX30 17B9	10		14.00	5.70	0.20	柾目	スギ	厚みは均一で薄い
181	木簡	木簡	SX30 17B8	11		32.20	3.50	0.40	板目	スギ	『木簡研究』第21号（3）卒塔婆。両側面2か所切り込み
182	建築材等	杭	SX30 17B4	11		46.10	5.00	径3.60	芯持丸太	ハンノキ属	樹皮残る
183	木簡	木簡	SX30 17A23	12		a）7.30 b）11.70	3.75 3.80	0.37 0.34	柾目	スギ	上端圭頭。両側面2か所切り込み。中央欠損。下端欠損だが細くなる。墨痕なし
184	木簡	木簡	SX30 17A24	12		18.85	3.80	0.57	柾目	スギ	上端圭頭。両側面2か所切り込み。下端欠損だが細くなる。墨痕なし
185	木簡	木簡	SX30 17A24	12		24.60	2.35	0.35	柾目	スギ	上端圭頭。下端細くなる。墨痕なし
186	木簡	木簡	SX30 17B3	12		26.70	3.50	0.20	柾目	スギ	『木簡研究』第21号（1）呪符木簡
187	木簡	木簡	SX30 17A24	12		27.05	2.70	0.50	柾目	スギ	上端圭頭。下端細くなる。墨痕なし
188	食膳具	漆塗皿	SX30 17B11	12		8.10	7.50	1.10	横木・柾目	ハリギリ	内外面黒漆塗り。外面一部削り痕残る
189	その他	棒状木製品	SX30 17A23	13		32.60	1.45	0.70	棒材・柾目	スギ	下端尖る
190	その他	用途不明品	SX30 17A23	13		13.30	2.87	3.30	柾目	スギ	
191	木簡	木簡	SX30	9～11？		92.00	1.80	0.10			№192と同一個体か。上端圭頭。下端欠損。墨痕なし
192	木簡	木簡	SX30	9～11？		12.20	1.60	0.15			№191と同一個体か。上部折り取り。下部細くなる。墨痕なし
193	その他	棒状木製品	SX30 17B3			51.90	1.15	1.10	棒材	スギ	下部に圧痕有り

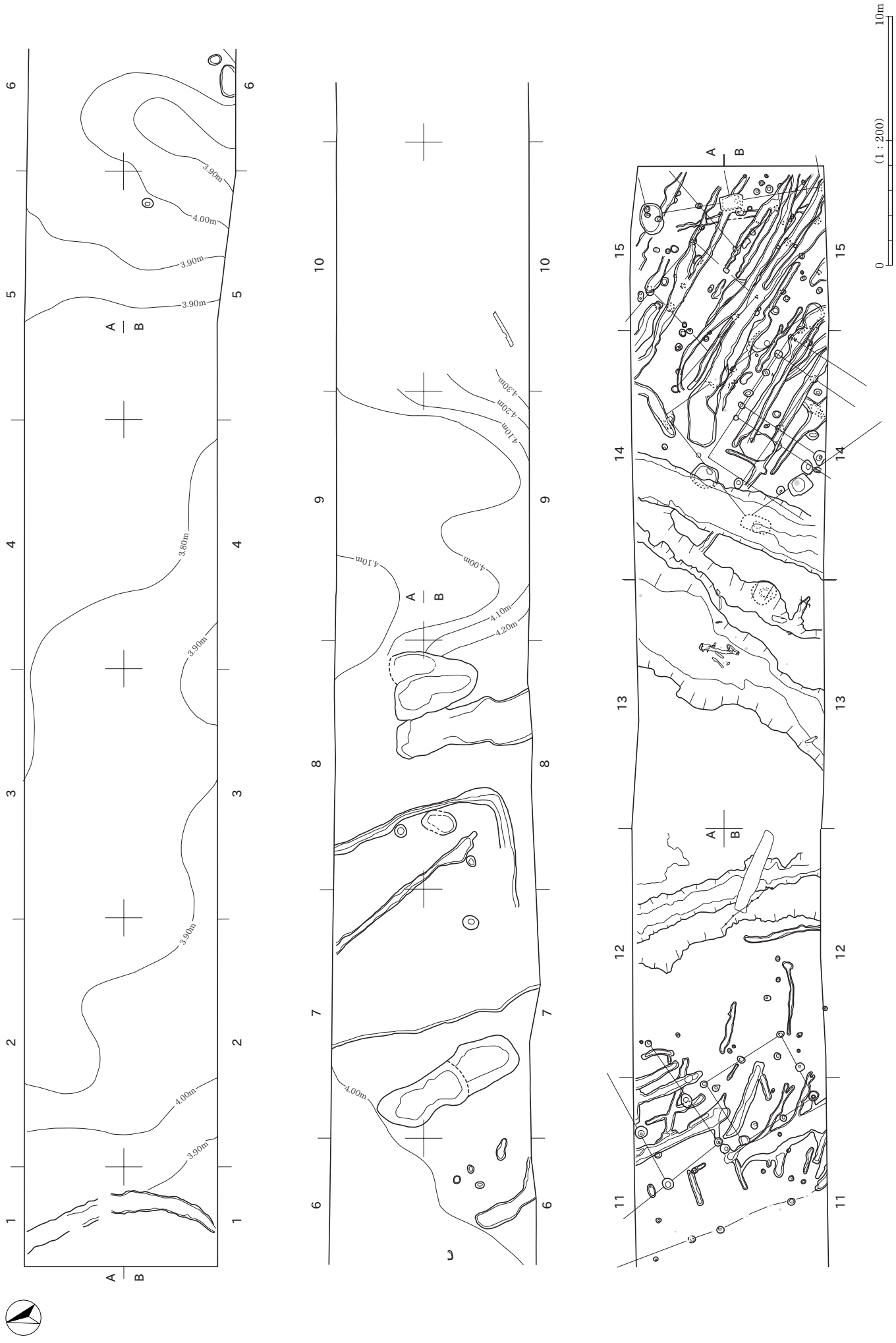
砂山中道下遺跡　木製品観察表（6）

報告№	種類	器種	出土地点	層位	取上№	長・口径	幅・底径	厚・径・器高	木取り	樹　種	備　考
194	祭祀具	刀子形?	SX30 T			9.35	1.45	0.37	柾目	スギ	
195	祭祀具	箸状木製品	SX30 T			20.00	0.60	0.52	棒材・板目		一部炭化
196	建築材等	杭	SD23		杭③	38.30	3.80	4.00	分割材・板目	クリ	
197	祭祀具	箸状木製品	SD28	3	3	9.70	0.80	0.50	棒材・柾目	スギ	
198	その他	用途不明品	SD28	3	10	9.40	1.10	0.35	板目	スギ	下端薄く仕上げる。箆か
199	その他	棒状木製品	SD28			36.00	1.40	0.70	板目	スギ	上下端とも欠損
200	木簡	木簡	SD59	2	71	12.40	2.80	0.20	板目	スギ	墨痕なし
201	食膳具	漆塗皿	SD59	3	2			残2.00	横木・柾目	ケヤキ	総高台に溝を切るもの。内外面黒漆塗り
202	食膳具	漆塗椀	SD59	3	1	12.20	7.60	5.10	横木・柾目	ケヤキ	総高台。内外面黒漆塗り。体部粗い削り痕残る
203	食膳具	漆塗椀	SD59	3	3		8.00	残4.65	横木・柾目	ケヤキ	輪高台。高台に沿う形に少なくとも5か所穿孔有り。内外面黒漆塗り
204	食膳具	漆塗椀	SD59	3	4		7.00	残1.50	横木・柾目	ケヤキ	残存高は底部片のみ。総高台。内外黒漆塗り
205	容器	円形板	SD59	3	26 - 1	径8.30	4.40	0.50	柾目	スギ	側縁磨耗。右側縁中央の窪みは孔があった可能性も考えられるが、ラベルを縛ったためにできたものとも思われる。
206	祭祀具	箸状木製品	SD59	4	175 - 1	19.20	0.80	0.40	棒材	スギ	
207	その他	用途不明品	SD59	5	184 - 1・190	22.70	2.10	0.60	柾目	スギ	表裏面とも刃物傷有り
208	祭祀具	箸状木製品	SD59			21.20	1.05	0.50	棒材・板目		
209	その他	棒状木製品	SD59		34 - 1・35 - 2	a）16.70 b）11.20	1.40 1.20	0.80 0.80	棒材・柾目	スギ	上端、中央欠損
210	祭祀具	箸状木製品	SD82	1	64	12.00	0.60	0.40	棒材・板目		
211	その他	用途不明品	SD82	1	15	6.85	10.80	3.20	柾目	スギ	上端部の面黒漆付着。下端磨耗
212	祭祀具	箸状木製品	SD82	2	21	18.90	0.60	0.50	棒材・柾目		
213	祭祀具	箸状木製品	SD82	2	2	22.90	0.90	0.50	棒材・柾目		
214	食膳具	漆塗椀	SD82	2	36	11.40	7.20	4.95	横木・柾目	ケヤキ	総高台に溝を切るもの。内外面黒漆塗り
215	建築材等	板材	SD82	2	2	7.60	2.95	0.50	柾目	スギ	右上部に穿孔有り。側面は平らでなく削るによる稜を持つ部分有り。
216	祭祀具	箸状木製品	SD82	3	19	21.70	0.80	0.50	棒材・柾目	スギ	
217	祭祀具	箸状木製品	P117		7	9.70	0.80	0.50	棒材・柾目		
218	祭祀具	箸状木製品	P117		7	13.70	0.75	0.50	棒材・柾目		
219	祭祀具	箸状木製品	P117		7	16.90	0.77	0.50	棒材・板目		
220	祭祀具	箸状木製品	P117		10	13.15	0.80	0.60	棒材・板目		
221	その他	棒状木製品	P117		10	19.70	1.00	0.55	棒材・板目	スギ	一部炭化
222	建築材等	礎板	P117		10	16.60	12.80	6.20	柾目	スギ	
223	建築材等	礎板	P117		4	19.00	9.80	5.80	板目	クリ	
224	建築材等	礎板	P117		8	28.80	18.80	8.80	半割材	クリ	
225	建築材等	柱根	P119		1	32.60	12.60	11.90	芯持丸太	キハダ	平底。風化著しい
226	建築材等	柱根	P139		1	35.90	12.90	11.40	芯持材	ブナ属	樹皮残る。平底
227	建築材等	柱根	P178			38.10	16.40	11.20	芯外・分割材	クリ近似種	平底
228	建築材等	柱根	P179			29.30	16.10	14.50	芯外・分割材	クリ	方形。尖底。2か所のみ隅を落とす。
229	建築材等	柱根	P183			16.50	14.30	10.10	芯持丸太	コナラ属コナラ亜属コナラ節	平底
230	建築材等	柱根	P194		1	38.60	15.00	13.50	芯持丸太	エゴノキ属	尖底
231	建築材等	柱根	P195		1	15.70	12.80	10.50		クリ	上下端部欠損
232	建築材等	柱根	P196		1	16.50	10.70	11.70	芯持丸太	広葉樹（散孔材）	尖底
233	その他	棒状木製品	P198			9.05	0.85	0.80	棒材	スギ	下部細く削る
234	建築材等	板材	P198		1	14.90	4.95	0.60	柾目	スギ	
235	建築材等	柱根	P264			27.80	13.30	12.90	芯持丸太	ハンノキ属ハンノキ亜属	
236	建築材等	杭	SA1-杭6			17.10	4.00	3.20	分割材・板目		

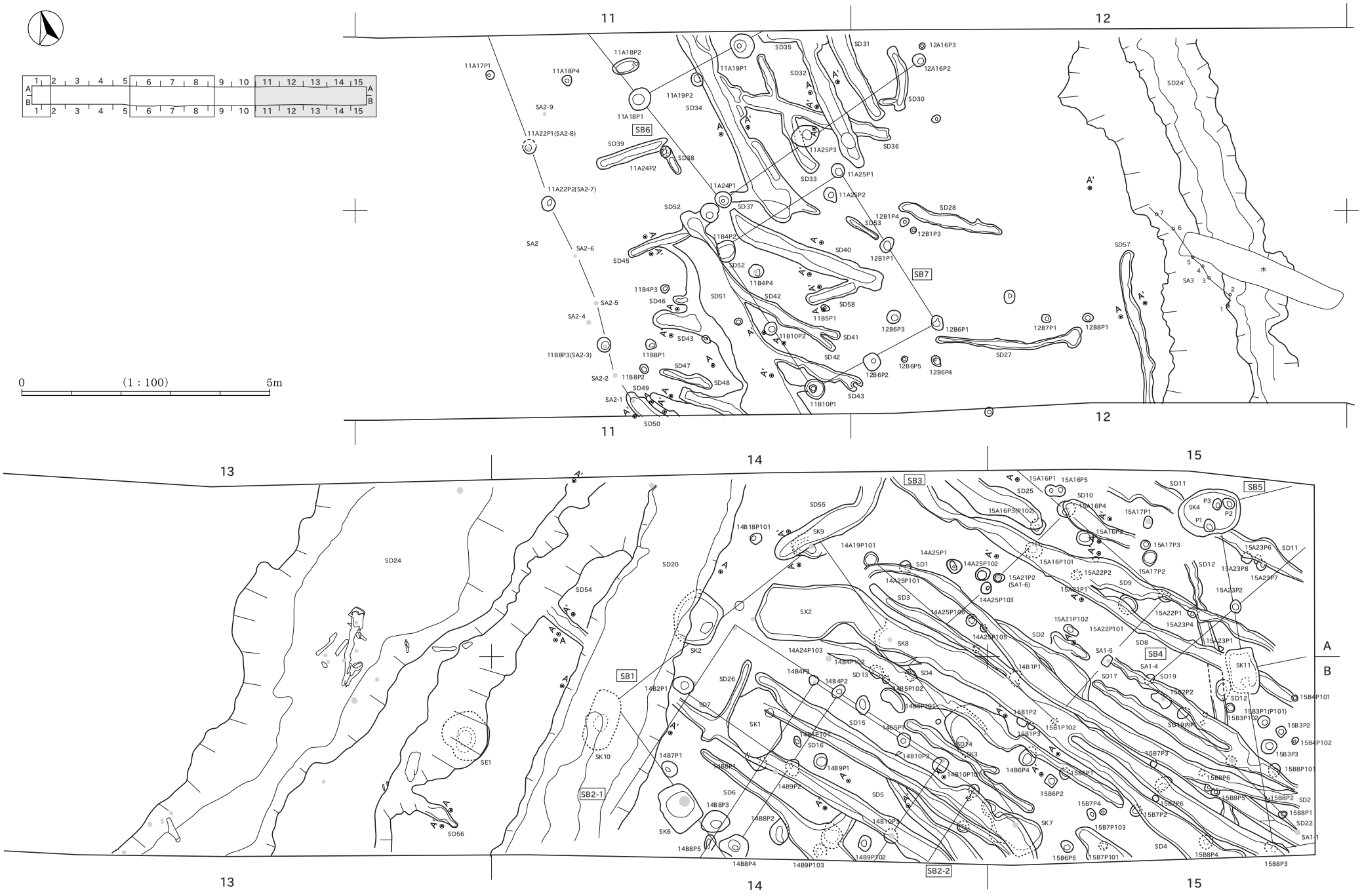
砂山中道下遺跡　木製品観察表（7）

報告No.	種類	器種	出土地点	層位	取上No.	長・口径	幅・底径	厚・径・器高	木取り	樹種	備考
237	建築材等	杭	SA1-杭13			18.65	3.75	径3.75	芯持丸太		
238	建築材等	杭	SA1-杭4			26.50	3.50	径3.00	芯持丸太	広葉樹（散孔材）	樹皮残る
239	建築材等	杭	SA1-杭7			26.50	5.50	径5.00	芯持丸太		樹皮残る
240	建築材等	杭	SA1-杭14			32.40	4.80	径2.70	芯持丸太		
241	建築材等	杭	SA1-杭12			33.70	7.30	径5.60	芯持丸太		
242	建築材等	杭	SA1-杭5			38.50	7.20	7.30	芯持丸太	ヤナギ属近似種	樹皮残る
243	建築材等	杭	SA1-杭9			39.80	7.10	7.00	芯持丸太		
244	建築材等	杭	SA1-杭11			45.30	5.15	径4.70	芯持丸太	ヤナギ属	樹皮残る
245	建築材等	杭	SA1-杭10			46.65	6.30	径5.70	芯持丸太	広葉樹（散孔材）	樹皮残る
246	建築材等	杭	SA1-杭8			55.10	5.70	径4.40	芯持丸太	カエデ属	
247	建築材等	杭	SA2-杭191	5	191	33.00	4.70	3.00	角材・板目	スギ	
248	建築材等	杭	SA2-杭255		255	33.00	7.70	径6.50	芯持丸太	サンショウ属	
249	建築材等	杭	SA2-杭259		259	35.20	8.50	径3.30	芯持丸太	カエデ属	樹皮残る
250	建築材等	杭	SA2-杭250	5	250	42.00	5.60	径4.10	芯持丸太	カエデ属	樹皮残る
251	建築材等	杭	SA2-杭201	5	201	45.90	6.70	径5.10	芯持丸太	コナラ属コナラ亜属コナラ節	樹皮残る
252	建築材等	杭	SA2-杭198	5	198	46.20	4.90	4.90	角材・板目	クリ近似種	
253	建築材等	杭	SA2-杭254		254	46.60	6.60	2.70	半割材	広葉樹（散孔材）	樹皮残る
254	建築材等	杭	SA2-杭202	5	202	48.00	6.00	4.00	分割材・板目	クリ	
255	建築材等	杭	SA2-杭199	5	199	54.10	6.20	径4.20	芯持丸太	広葉樹（散孔材）	
256	祭祀具	箸状木製品	東側沢25・26AB	ガツボ		22.10	0.60	0.50	棒材・板目		東側進入路の東
257	その他	棒状木製品	6A2			13.25	0.60	0.30	板目	イネ科タケ亜科	
258	その他	棒状木製品	15A22			14.50	2.30	2.20	角材・柾目	スギ	上端切り込んで折り取り。やや反る
259	その他	棒状木製品	不明			28.60	1.80	1.60	棒材・板目	スギ	断面円形
260	食膳具	漆塗皿	15B1	3		8.00	6.20	1.85	横木・柾目	ケヤキ	総高台。内外面黒漆塗り
261	食膳具	漆塗椀	東側沢			14.00	6.60	4.60	横木・柾目	ケヤキ	総高台。内外黒漆塗り
262	木簡	木簡	4A6	包含層		2.30	2.40	0.80	柾目		『木簡研究』第21号（8）将棋の駒。表裏面黒漆で文字。「銀将」？
263	木簡	木簡	25A中央	包含層褐灰色粘質土		9.90	4.20	0.20	板目	スギ	『木簡研究』第21号（7）呪符木簡
264	木簡	木簡	一次調査20T			12.50	5.00	0.50	柾目	スギ	『木簡研究』第21号（5）（6）呪符木簡
265	木簡	木簡	不明	不明		11.10	3.10	0.60			上端圭頭。下部欠損。墨痕なし
266	容器	曲物底板?	5B4			径7.20	4.50	0.55	柾目	モミ属	
267	建築材等	板材	15A22	包含層		28.60	5.90	0.50	柾目	スギ	上部中央に穿孔。刃物傷多数有り
268	建築材等	板材	不明			44.50	9.30	0.95	板目		下端削り
269	建築材等	柱根	14A・15B	V		30.45	13.00	13.00	芯持丸太	クリ	尖底。風化著しい
270	建築材等	柱根	6A20			31.75	9.35	9.00	芯持丸太	ウルシ	平底
271	建築材等	柱根	一次調査			56.80	15.30	15.40	芯外・分割材		
272	建築材等	杭?	5A16			19.00	2.80	2.50	角材・板目	ブナ属	下端尖り
273	建築材等	杭	17A17			41.35	5.55	4.25	角材・柾目	スギ	上端炭化。骨片のわきに刺さっていた杭
274	建築材等	杭	15B6			51.00	14.50	11.30	芯持丸太		平底。風化著しい
275	建築材等	杭	17B9			139.60	14.10	径7.40	芯持丸太		

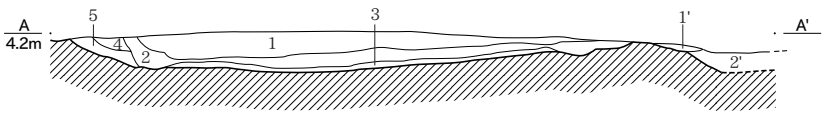
図　　版


10m
(1 : 200)
0
A
B
3.90m
4.00m
3.80m
4.10m
4.20m
4.30m

1
2
SD21
（古墳後期～平安）
A
A'
3.90m
A
B
4.00m
3.90m
1
2
0
（1：100）
5m
5
6
3.90m
5B-P101
4.00m
3.90m
5
6
6
7
8
4.00m
SK102
SD23（古墳後期～平安）
SI101
土坑1
SK101
土坑2
土坑3
SD101
SX101
6B-P102
6B-P101
6B-P103
6B-P104
SX1(古墳後期～平安)
6B-P1（古墳後期～平安）
SK103
SD102
6
7
8

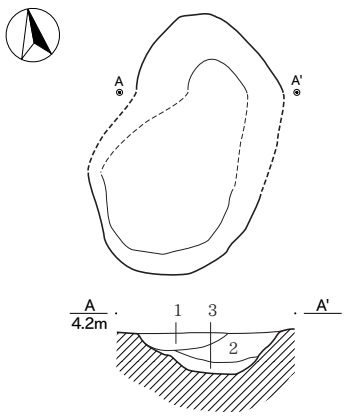

11
12
13
14
15
A
B
0
(1 : 100)
5m
SB1
SB2-1
SB2-2
SB3
SB4
SB5
SB6
SB7
SA1-4
SA1-5
SA2
SA2-1
SA2-2
SA2-3
SA2-4
SA2-5
SA2-6
SA2-7
SA2-8
SA2-9
SA3
SA11
SD1
SD2
SD3
SD4
SD5
SD6
SD7
SD8
SD9
SD10
SD11
SD12
SD13
SD15
SD16
SD17
SD19
SD20
SD24
SD24'
SD25
SD26
SD27
SD28
SD30
SD31
SD32
SD33
SD34
SD35
SD36
SD37
SD38
SD39
SD40
SD41
SD42
SD43
SD45
SD46
SD47
SD48
SD49
SD50
SD51
SD52
SD53
SD54
SD55
SD56
SD57
SD58
SE1
SK1
SK2
SK3
SK4
SK6
SK7
SK8
SK9
SK10
SK11
SX2
11A17P1
11A18P1
11A18P2
11A18P4
11A19P1
11A19P2
11A22P1(SA2-8)
11A22P2(SA2-7)
11A24P1
11A24P2
11A25P1
11A25P2
11A25P3
11B4P2
11B4P3
11B4P4
11B5P1
11B8P1
11B8P2
11B8P3(SA2-3)
11B10P1
11B10P2
12A16P2
12A16P3
12B1P1
12B1P3
12B1P4
12B6P1
12B6P2
12B6P3
12B6P4
12B6P5
12B7P1
12B8P1
14A19P101
14A24P103
14A25P1
14A25P101
14A25P102
14A25P103
14A25P105
14A25P106
14B1P1
14B2P1
14B4P1
14B4P2
14B4P102
14B5P101
14B5P102
14B5P103
14B6P4
14B7P1
14B8P1
14B8P2
14B8P3
14B8P4
14B8P5
14B9P1
14B9P2
14B9P102
14B9P103
14B10P1
14B10P2
14B10P3
14B18P101
15A16P1
15A16P3(R102)
15A16P4
15A16P5
15A16P6
15A16P101
15A17P1
15A17P2
15A17P3
15A21P2 (SA1-6)
15A21P102
15A22P1
15A22P2
15A22P101
15A23P1
15A23P2
15A23P4
15A23P6
15A23P7
15A23P8
15B1P2
15B1P3
15B1P102
15B2P2
15B3P1(P101)
15B3P2
15B3P3
15B4P101
15B4P102
15B6P1
15B6P2
15B6P5
15B7P1
15B7P2
15B7P3
15B7P4
15B7P101
15B7P103
15B8P1
15B8P2
15B8P3
15B8P4
15B8P5
15B8P6
15B8P101
P1
P2
P3

SI101



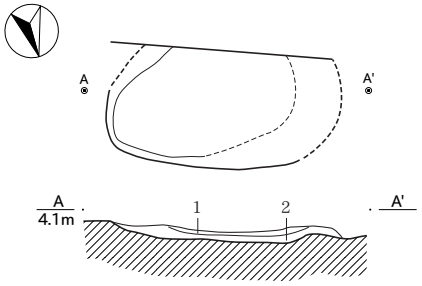
SI101
1　褐色粘土　　しまりなし、粘性強、黄灰色砂含む。
2　褐色粘質土　しまりなし、粘性強、砂粒多く含む。
3　黒褐色粘質土　しまりなし、粘性強、炭化物、土器多く含む。
4　灰色粘土　　しまりなし、粘性強。
5　灰色砂質土　しまりなし、粘性弱。
1'　灰色砂質土　しまりあり、粘性弱。
2'　褐灰色砂質土　しまりなし、粘性弱

SK101



SK101
1　黒褐色粘質土　しまりなし、粘性強。砂、炭化物含む。遺物含む
2　灰色粘質土　　しまりなし、粘性強。砂、炭化物含む。
3　黒色土　　しまりなし、粘性強。砂、炭化物多量に含む。

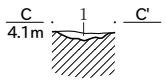
SK103



SK103
1　褐色粘質土　　しまりなし、粘性強。砂混入。
2　黒褐色粘質土　しまりなし、粘性強。砂、炭化物混入。遺物含む。

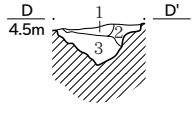
0　SK101・SK103（1：40）　2m

SI101 土坑1



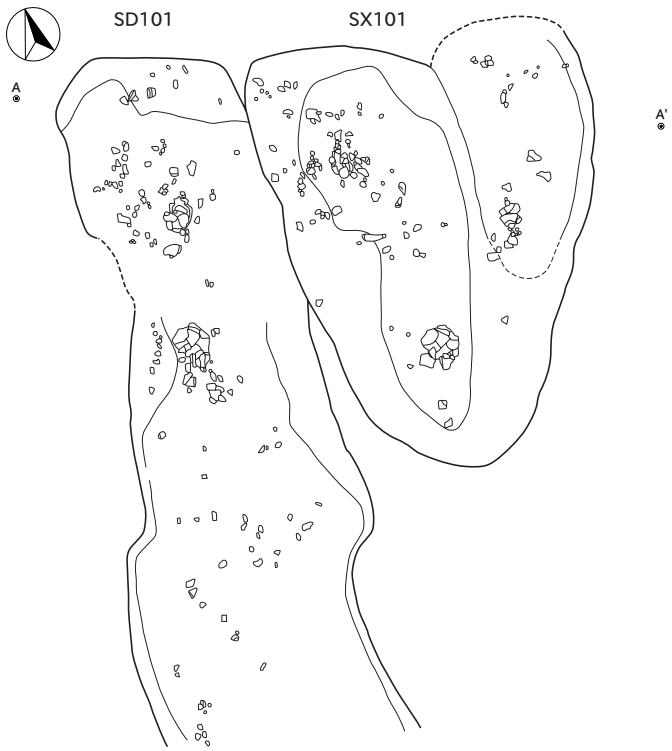
SI101土坑1
1　黒褐色砂質土　しまりなし、粘性弱。

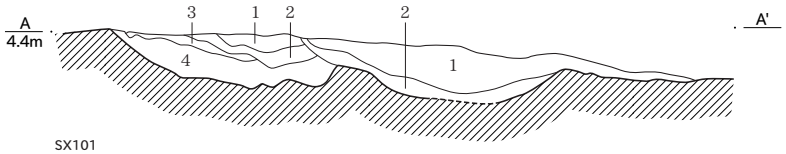
SI101 土坑2



SI101土坑2
1　暗褐色粘土　しまりあり、粘性弱。炭化物、遺物含む。
2　灰色粘土　しまりあり、粘性強。
3　暗褐色粘土　しまりあり、粘性強。炭化物含む。

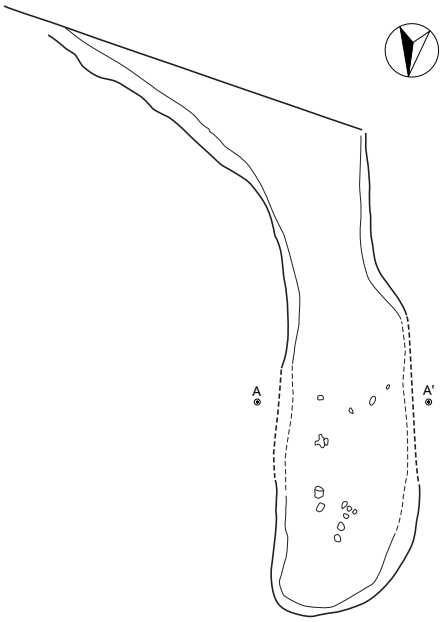
SD101・SX101

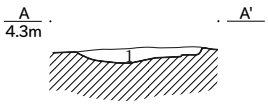




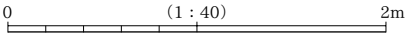
SX101
1　黄白色砂質土 しまりなし、粘性弱
2　灰色粘質土　しまり有り、粘性強
SD101
1　褐色砂質土　しまりなし、粘性弱。粒子粗い。
2　黒褐色砂質土 しまりなし、粘土混入。炭化物、遺物含む。
3　黄白色砂質土 しまり有り、粘性弱。
4　褐色粘質土　しまりなし、粘性弱。炭化物、遺物含む。粗砂混入。

SD102

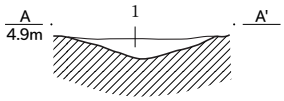




SD102
1 黒褐色粘質土　砂、炭化物、遺物含む、しまり良、粘性強。

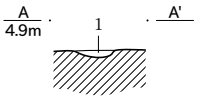


SD21



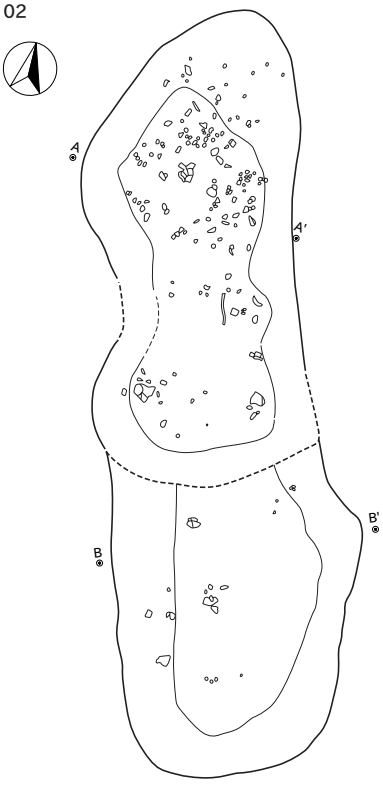
SD21
1 黒褐色土　しまりなし、粘性強。砂礫混入。木器含む。

SD23

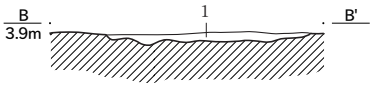


SD23
1 黒色土　しまりややあり。腐植物、遺物含む。

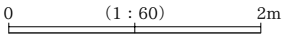
SK102



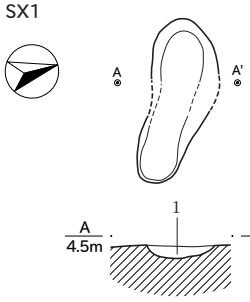
SK102
1　褐色粘土　しまりなし、粘性強。
2　黒褐色粘質土　しまりなし、粘性強。
　砂、炭化物、遺物含む。
3　黒褐色粘質土　しまりなし、粘性強。
　砂、炭化物混入。
4　褐色粘質土　しまりなし、粘性強。
5　黒褐色粘質土　しまりなし、粘性強。
　砂、炭化物、遺物含む。



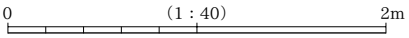
SK102
1　褐色粘土　しまりなし、粘性強。遺物含む。



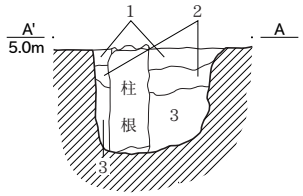
SX1



SX1
1 オリーブ黒色土　しまりなし、粘性強。炭化物含む。

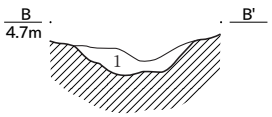


SB1-SK6



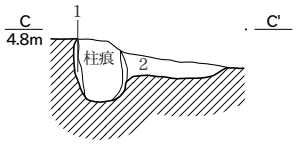
SK6
1　オリーブ黒シルトと灰オリーブ砂質土が斑に混入在。
　粒子は粗く、粘性なし。少量の炭化物を含む。
2　灰オリーブ色砂質土にオリーブ黒色シルトブロックが混入。
　粒子は粗く、やや硬くしまる。粘性弱。φ5mm程度の少量
　の炭化物を含む。
3　2層に基本的に同じ。砂質土の割合が大きい。

SB1-SK10



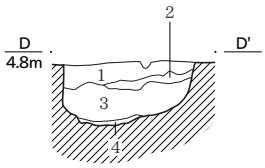
SK10
1　灰オリーブ色砂質土　粒子は粗く、粘性なし。
　褐色粘質土が少量混入。

SB1-SK2



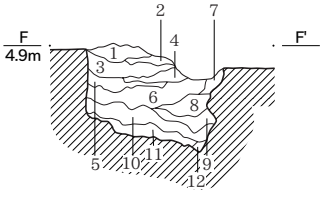
SK2
1　オリーブ黒色シルトに灰オリーブ砂質土が混入。
　粒子はやや粗く、少ししまる。粘性弱。
2　灰オリーブ粘質土に灰オリーブ粘質土ブロックと
　オリーブ黒色シルトブロックが混入。
　粒子は粗く、やや硬くしまる。粘性なし。全体にまだら。

SB1-SK9



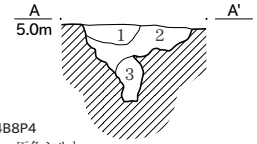
SK9
1　灰オリーブ色シルトにオリーブ黒色粘質土が少量混入。
　粒子は小さく、硬くしまる。粘性弱。
2　オリーブ黒色の粘質土と灰オリーブ色粘質土が斑に混入。
　粒子は緻密で、やや硬くしまる。粘性あり。
3　灰色シルトに灰オリーブ色粘質土がブロック状に混入。
　粒子は小さく、やや柔らかい。粘性あり。
4　オリーブ黒色土　粒子は小さく、しまりなし。粘性あり。
　ガツボが混入。稲わらのようなものが敷き詰めてあった。

SB1-SK3



SK3
1　黄灰砂質土にオリーブ黒色粘質土が混入。
　粒子は小さく、硬くしまる。粘性弱。
2　オリーブ黒色のガツボ層とオリーブ黒粘質土の混層。
3　基本的に1層に同じ。やや灰色味が強い。
4　暗灰黄砂質土とオリーブ黒色のガツボ層の混層。
　粒子は小さく、やや硬くしまる。粘性弱。
5　灰オリーブ色粘土と灰色土が混入在。粒子は小さく、
　硬くしまる。粘性強。
6　灰色シルトと黒褐色ガツボが斑に混入。
　粒子は小さく、やや柔らかい。粘性弱。
7　灰色土　粒子は小さく、やや硬くしまる。粘性強。
　黒褐色土が少量混じる。
8　基本的に5層に同じ。シルトの割合がやや大きい。
9　灰色粘土　粒子は小さく、やや硬くしまる。粘性強。
　ブロック状のかたまりである。
10　6層に同じ。ガツボ層の混じる割合が大きい。やや粘性あり。
11　黒褐色ガツボ層　粒子は粗く、しまりがない。粘性なし。
12　灰色土　粒子は緻密でやや硬くしまる。粘性強。柱痕と思われる。

SB2-1-14B8P4

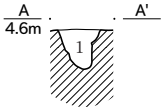


14B8P4
1　灰色シルト
　粒子は小さく、硬くしまる、粘性弱。
2　基本土層①
3　灰色土とオリーブ黒色土が斑に混入。粒子は小さく、
　やや柔らかい。やや粘性あり。

ピット覆土基本土層

基本土層① 黒褐色シルト＋灰色シルトの混層。 斑が小さい。
基本土層② 黒褐色シルト＋灰色シルトの混層。 斑が大きい。
基本土層③ 褐色ガツボ層
基本土層④ 褐色砂質土
基本土層⑤ 暗灰色シルト

SB2-2-14B10P101

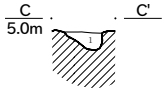


14B10P101
1　基本土層①

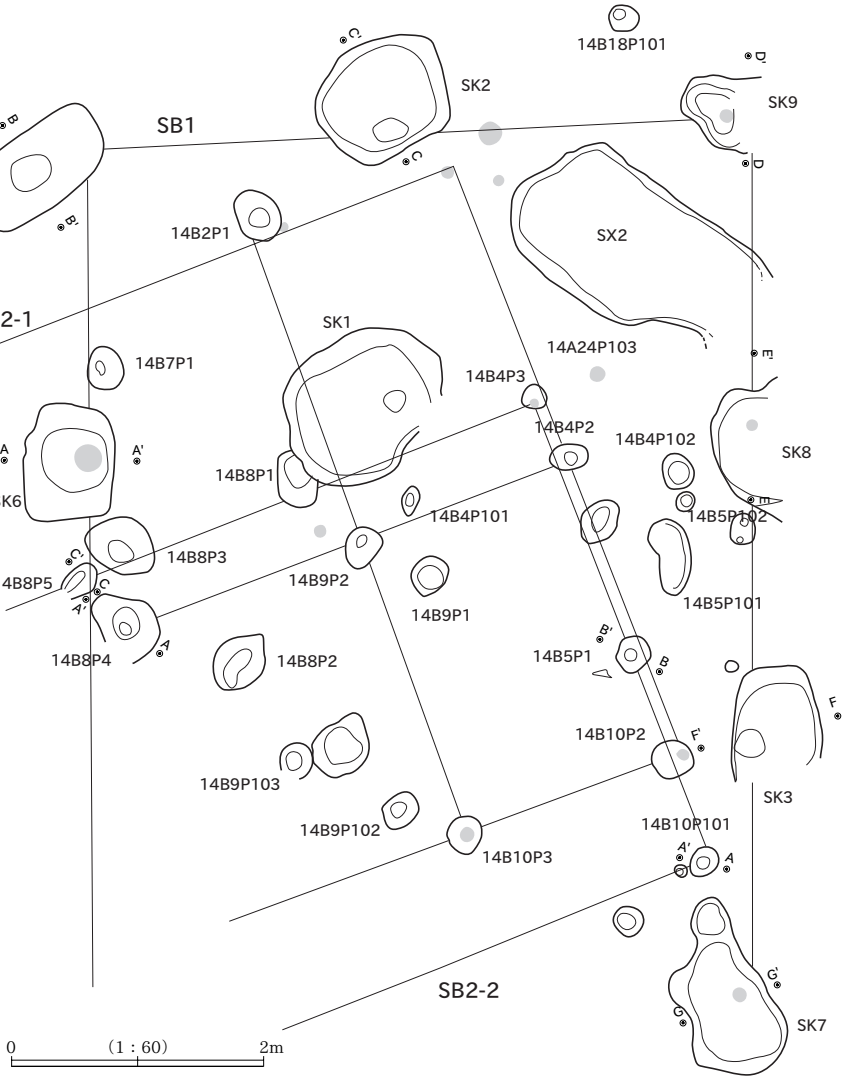
SB2-2-14B5P1

14B5P1
1　基本土層②

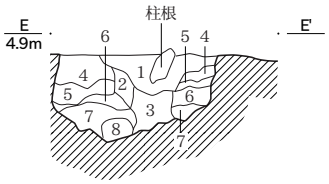
SB2-2-14B8P5



14B8P5
1　基本土層①



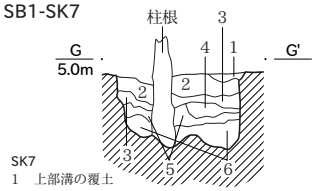
SB1-SK8



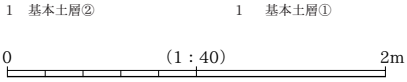
SK8
1　オリーブ黒色シルト　粒子は緻密でやや硬くしまる。
　粘性弱。φ5mm以下の炭化物を含む。
2　灰色砂質シルトにオリーブ黒色土が斑に混入。
　粒子は細かく、硬くしまる。粘性弱。
3　灰色シルトにオリーブ黒色土が斑にブロック状に混入。粒子は
　緻密でやや柔らかい。粘性弱。φ7～8mm以下の炭化物を少量混入。
4　灰オリーブシルトにオリーブ黒色土がブロック状に少量混入。
　粒子は緻密で、非常に硬くしまる。粘性なし。
5　灰色粘土に少量灰オリーブ色シルトが混入。
　粒子は緻密でやや柔らかい。粘性あり。
6　オリーブ黒色土と灰色シルトが混入在。粒子は細かく、
　やや柔らかい。粘性弱。
7　灰色土　粒子は小さく、硬くしまる。粘性なし。
8　オリーブ黒色土　粒子は緻密でやや柔らかい。粘性強い。
　φ10mm以下の炭化物を少量混入。

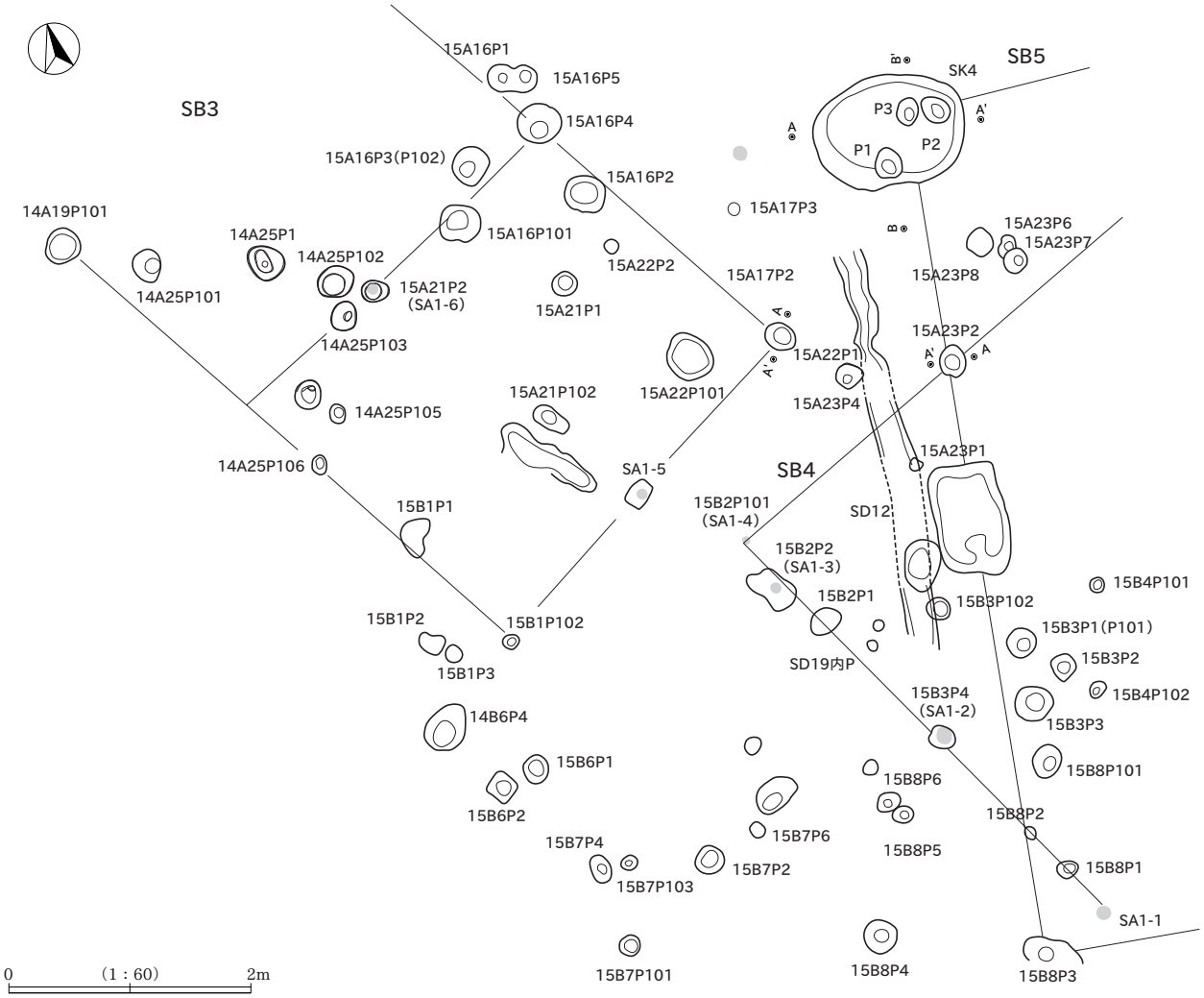
15B6P5

SB1-SK7

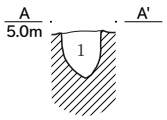


SK7
1　上部溝の覆土
2　灰色シルト
　粒子は小さく、硬くしまる。粘性弱。
　オリーブ黒色土が斑に点在。
3　灰オリーブ色シルト
　粒子は小さく、やや柔らかい。やや粘性あり。
4　灰オリーブ粘土とオリーブ黒色ガツボが斑に混入。
　粒子は小さく、やや柔らかい。粘性弱。
5　灰色砂質シルト
　粘性なし。ガツボが少量混入。
6　オリーブ黒色ガツボ層に灰色シルトが少量混入。



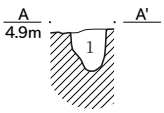


SB3-15A22P1



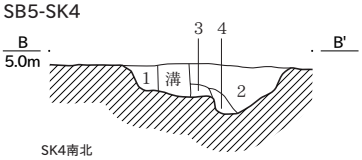
15A22P1
1　基本土層①

SB4-15A23P2



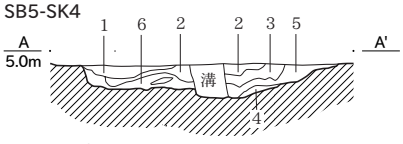
15A23P2
1　基本土層②

SB5-SK4



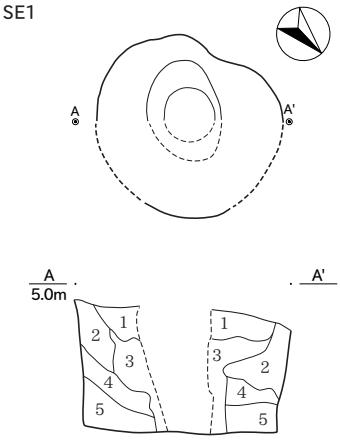
SK4南北
1　東西セクション2層と同じ。
2　基本土層①と同じ。
3　東西セクション4層（ガツボ多）に同じ。
4　黒褐色土
　粒子は小さく、やや硬くしまる。粘性弱
　灰色シルトに混入。

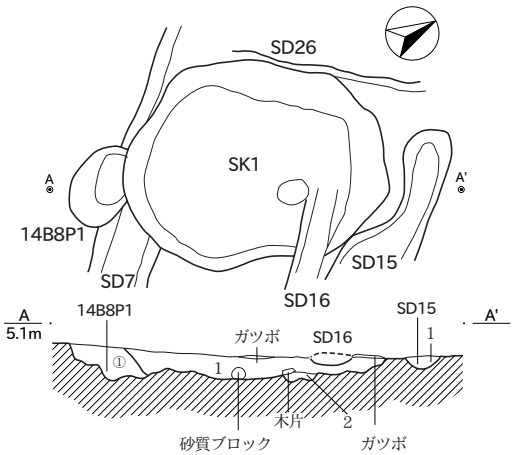
SB5-SK4



SK4東西
1　黒褐色土
　粒子は小さく、硬くしまる。粘性はなし。
　φ2mm以下の炭化物を含む。
2　黒褐色土
　粒子は小さく、やや硬くしまる。粘性弱。
3　暗灰黄色土に黒色土が斑に混入。
　粒子は小さく、硬くしまる。粘性弱。
4　オリーブ黒色ガツボ層 粒子はやや細かく、
　しまりがない。粘性弱。
5　暗灰黄色土
　粒子は小さく、やや硬くしまる。粘性なし。
6　暗灰黄色土
　5層に類似。ややしまりがない。

SE1





SK1
1　灰オリーブ色砂質土
　φ5mm以下の炭化物少量含む。粘性なし、しまり強。
2　黄灰色土
　φ8mm以下の炭化物少量含む。

SD15
1　灰オリーブ色土
　オリーブ褐色砂質土混入。粘性弱、しまり強。

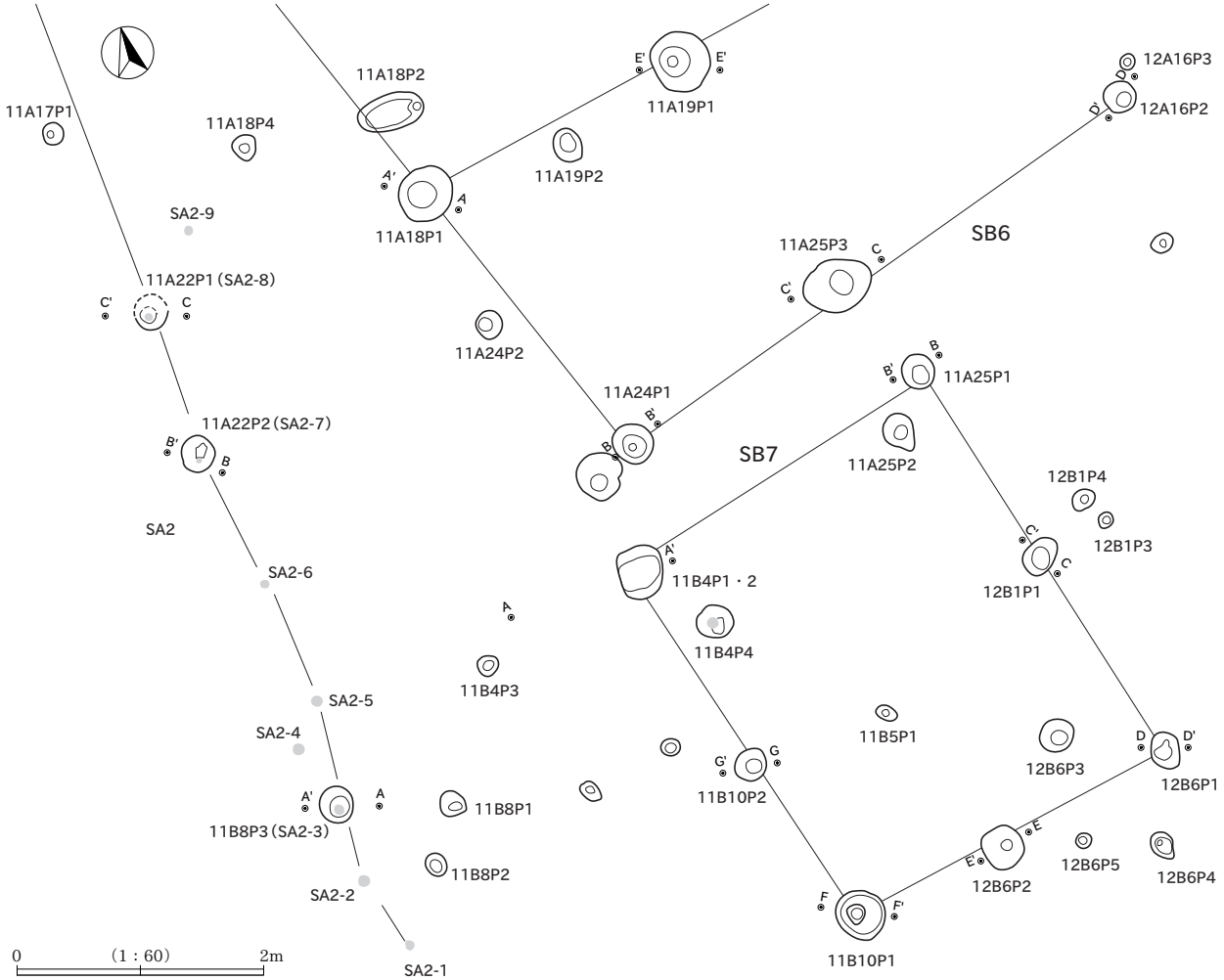
14B8P1
基本土層①　黒褐色土、黄灰色土、灰オリーブ色土斑に混入。
φ10mm以下の炭化物混入。粘性弱、しまり強。

SE1
1　明青灰色シルト　　しまりあり、粘性なし。腐植物とφ2mmの炭化物が点在。
2　明青灰色シルト　　しまりあり、粘性あり。腐植物が点在。
3　緑灰色シルト　　明青灰シルト層を斑に混入。腐植物、φ1～5mmの炭化物が点在。
4　明青灰色砂　　しまりあり、粘性なし。
5　オリーブ灰色砂質土　しまりなし、粘性なし。

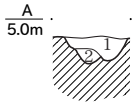
ピット覆土基本土層

基本土層①	黒褐色シルト+灰色シルトの混層。斑が小さい。
基本土層②	黒褐色シルト+灰色シルトの混層。斑が大きい。
基本土層③	褐色ガツボ層
基本土層④	褐色砂質土
基本土層⑤	暗灰色シルト

0　(1：40)　2m

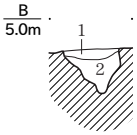


SB6 11A18P1



11A18P1
1　基本土層①
黒褐色主体。炭化物、腐植物含む。粘性良。
2　基本土層②
炭化物、腐植物含む。粘性強

SB6 11A24P1

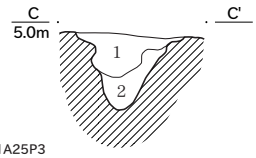


11A24P1
1　基本土層①　腐植物多い。
2　基本土層②　φ1mm～5mmの炭化物、腐植物点在。

ピット覆土基本土層

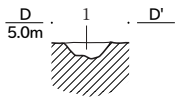
基本土層①	黒褐色シルト＋灰色シルトの混層。班が小さい。
基本土層②	黒褐色シルト＋灰色シルトの混層。班が大きい。
基本土層③	褐色ガツボ層
基本土層④	褐色砂質土
基本土層⑤	暗灰色シルト

SB6 11A25P3



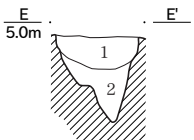
11A25P3
1　オリーブ黒色土
粒子は小さく、硬くしまる。やや粘性あり。
φ3mm以下の炭化物を少量含む。
2　灰オリーブ色土と灰色土が斑に混入。
粒子は小さく、やや柔らかい。粘性強い。
φ1mm以下の炭化物を少量含む。

SB6 12A16P2



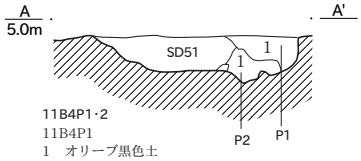
12A16P2
1　基本土層①　砂、炭化物、腐植物混入。

SB6 11A19P1



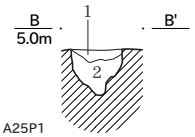
11A19P1
1　基本土層①　しまりややあり、粘性あり。
φ5～20mmの炭化物を多く含む。
2　基本土層②　しまりややあり、粘性あり。
φ10mmほどの炭化物を多く含む。

SB7 11B4P1・2



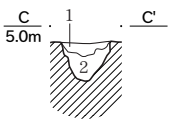
11B4P1・2
11B4P1
1　オリーブ黒色土
粒子は細かく、硬くしまる。
粘性ややあり。φ5mm以下の炭化物少量
11B4P2
1　黒褐色土
粒子は細かく、ややわらかい。
粘性弱。

SB7 11A25P1



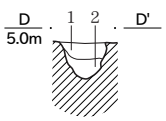
11A25P1
1　基本土層①　しまりあり、粘性あり。
φ5mmの炭化物を多く含む。
2　基本土層②　しまりあり、粘性あり。
φ5mmの炭化物を多く含む。

SB7 12B1P1



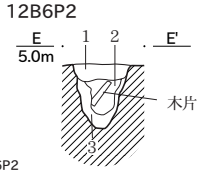
12B1P1
1　基本土層②　しまりあり、粘性あり。
φ1～5mmの炭化物を多く含む。
腐植物多い。
2　基本土層①　しまりあまりなく、粘性あり。
φ1～3mmの炭化物を含む。
腐植物多い。

SB7 12B6P1



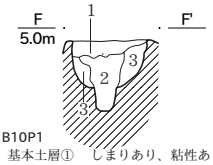
12B6P1
1　基本土層①
しまり強く、粘性あり。
φ2mm～10mmの炭化物を含む。
2　基本土層②
しまりなく、粘性強い。

SB7 12B6P2



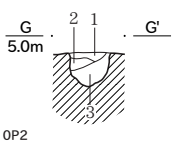
12B6P2
1　基本土層①　しまりあり、粘性あり。
φ2～10mmの炭化物を多く含む。
腐植物多い。
2　基本土層②　しまりあまりなく、粘性あり。
炭化物点在。腐植物多い。
3　基本土層②　しまりあまりなく、粘性あり。
炭化物点在

SB7 11B10P1



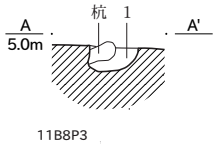
11B10P1
1　基本土層①　しまりあり、粘性あり。
炭、腐植物を含む。
2　基本土層②　しまりあまりなし、粘性強い。
炭化物、腐植物を多量に含む。
3　基本土層②　炭化物をわずかに含む。

SB7 11B10P2



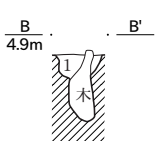
11B10P2
1 基本土層①　しまりあり、粘性あり。
炭化物、腐植物を含む。
2 基本土層②　しまりあまりなく、粘性強い。
炭化物、腐植物を多く含む。
3 基本土層②　わずかに炭化物を含む。

SA2 11B8P3



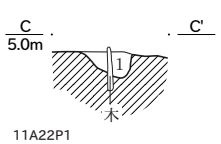
11B8P3
1　基本土層①
しまりあり、粘性あり。
腐植物を含む。

SA2 11A22P2



11A22P2
1　基本土層①
しまりやや弱く、粘性強い。
φ1mmぐらいの炭化物を含む

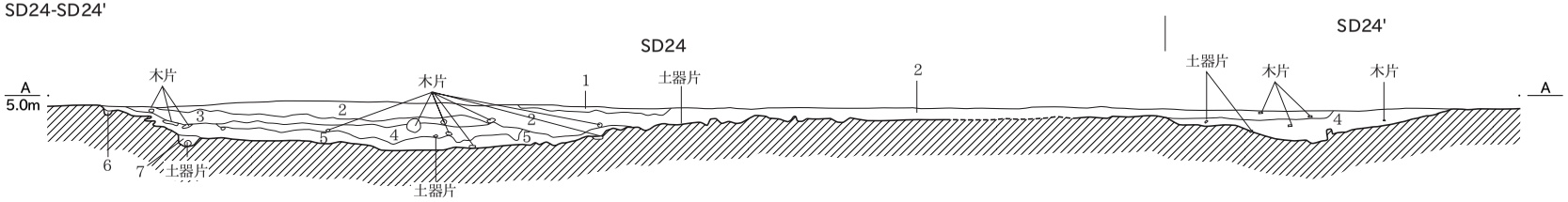
SA2 11A22P1



11A22P1
1　基本土層①　しまりややあり、粘性あり。

0　(1：40)　2m

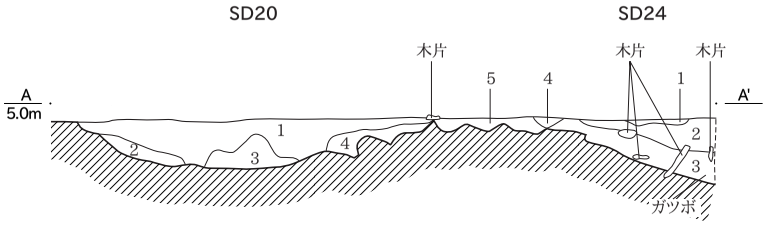
SD24-SD24'



SD24・SD24'

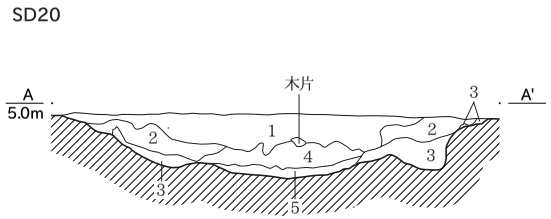
1　黒褐色粘質土　しまりあり、粘性あり。腐植物とφ2～10mmの炭化物を含む。
2　オリーブ黒色砂質シルト。しまりあり、粘性あり。腐植物とφ1～10mmの炭化物を含む。
3　青灰色土に浅黄砂質土が斑に混入。しまりあり、粘質なし。
4　暗灰黄シルトに明緑灰色砂質土が斑に混入。しまりあり、粘性なし。腐植物とφ1～7mmの炭化物を含む。
5　黒褐色シルト　しまりなし、粘性あり。明緑灰色シルト質土点在。腐植物と炭化物を多量に含む。
6　にぶい黄色粘質土と黒褐色粘質土の互層。中心部に黒褐色土が入る。
7　緑灰色粘質土　しまりあり、粘性あり。東側(岸に近い方)に腐植物を含む。

0　（1：80）　4m



SD20（北側）

1　灰オリーブ色砂質シルト。しまりあり、粘性なし。腐植物を含み、φ2～5mmの炭化物を含む。
2　緑灰色砂質土　しまりあり、粘性なし。腐植物を含み、φ1～2mmの炭化物点在。
3　暗褐色粘質シルト。水分を含む。しまりなく柔らかい。粘性あり。φ2～4mmの炭化物点在。
4　明緑灰色砂質土　しまりあり、粘性なし。腐植物を含み、φ1～2mmの炭化物をわずかに含む。
　上部の色がわずかに褐色がかっている。
5　明青灰色砂質土　しまりあり、粘性なし。層の中心部分はしまりがなく柔らかい。

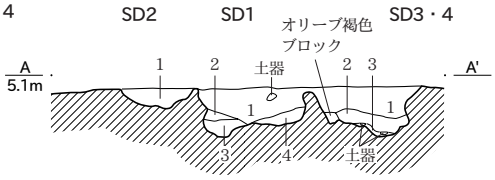


SD20（南側）

1　灰オリーブ砂質シルト　しまりあり、粘性なし。腐植物とφ5mmの炭化物を含む。
2　青灰色砂質土　しまりあり、粘性なし。腐植物を含み、φ5mmの炭化物点在。
3　暗青灰色土　2層に類似するが、ややわらかい。φ5mmの炭化物が点在。
4　暗褐の粘質シルト　しまりなく、柔らかい。粘性あり。φ3～5mmの炭化物を含む。
5　青灰色砂質土　しまりあり、粘性なし。

0　（1：40）　2m

SD1-SD2-SD3・4



溝覆土基本土層

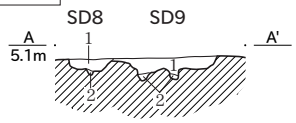
基本土層①	黒褐色シルト+灰色シルトの混層。斑が小さい。
基本土層②	黒褐色シルト+灰色シルトの混層。斑が大きい。

SD1-SD2-SD3・4

SD1
1　オリーブ黒色土　粒子は小さく硬くしまる。粘性なし。
　φ10mm以下の炭化物が少量混じる。灰オリーブ色土が斑に混在。
2　黒褐色土　粒子は小さく硬くしまる。粘性あり。
3　黒褐色土と黄灰色土が斑に混在。粒子は小さく硬くしまる。
　粘性あり。φ3mm以下の少量の炭化物を含む。
4　基本的に3層と同じ。黄灰色土の混じりが多い。

SD2
1　オリーブ黒色土　粒子は小さく硬くしまる。粘性なし。
　φ10mm以下の炭化物が少量混じる。灰オリーブ色土が斑に混在。

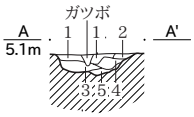
SD3・4
1　オリーブ黒色土　粒子は細かく硬くしまる。粘性弱。
　φ10mm以下の炭化物少量含む。
2　オリーブ黒色土粒子は細かく硬くしまる。粘性強。
　オリーブ褐色土のブロック含む。
3　灰色土　粒子は細かくやや硬くしまる。粘性あり。



SD8
1　オリーブ黒色土　粒子は細かく、やや硬くしまる。粘性弱。
　最大φ8mm程度の炭化物を少量含む。
2　灰オリーブ色土　粒子は細かく、ややしまりがある。やや粘性あり。

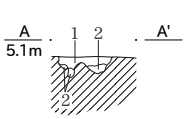
SD9
1　オリーブ黒色土に灰オリーブ色土が少量混在。粒子は細かく、
　しまりなし。粘性弱。φ5mm以下の炭化物を少量含む。
　暗灰黄色砂が下層に混入。
2　灰オリーブ色土　粒子は細かく、ややしまりがある。やや粘性あり。

SD7



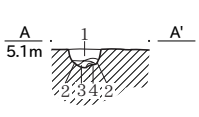
SD7
1　黒褐色土
　φ5mm程度の炭化物含む。粘性弱、しまり強。
2　黒褐色土
　1層より炭化物多い。粘性弱、しまり強。
3　灰色土
　炭化物少量含む。粘性弱、しまり弱。
4　オリーブ黒色土
　φ5mm以下程の炭化物少量含む。粘性、
　しまりややあり。
5　灰オリーブ色シルト
　粘性ややあり、しまり強。

SD10



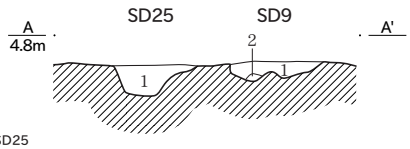
SD10
1　オリーブ黒色土
　粒子は小さく、やや硬くしまる。
　粘性弱。φ5mm以下の炭化物を
　少量含む。
2　灰オリーブ色土
　粒子は小さく、ややしまる。
　粘性強。黒褐色粘質土が混入。
3　灰色シルト質土
　粒子は細かくしまりあり。粘性弱。

SD13



SD13
1　黒褐色土
　粒子は細かく、しまりがある。粘性あり。
　φ3mm以下の少量の炭化物含む。
2　灰オリーブ色砂質土
　粒子はやや細かく、硬くしまる。
　粘性弱。黒褐色土ブロック混入。
3　灰オリーブ色土
　粒子は細かく、やや硬くしまる。
　若干の粘性あり。
　φ1mm以下の少量の炭化物を含む。
4　未註記

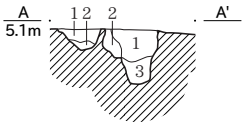
SD25　SD9



SD25
1　黒褐色土　粒子は小さく、硬くしまる。粘性弱。
　φ5mm以下の炭化物を少量含む。

SD9
1　暗灰黄色土　粒子は小さく、硬くしまる。粘性弱。
　φ10mm以下の炭化物を少量含む。
2　灰オリーブ色土　粒子は小さく、硬くしまる。やや
　粘性あり。

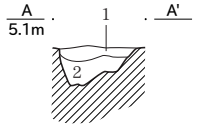
SD15　SD16



SD15
1　オリーブ黒色土 粒子は細かく、硬くしまる。
　粘性弱。φ7mm以下の炭が少量混じる 。
2　灰オリーブ色土 粒子は細かく、
　やや硬くしまる。粘性弱。
　オリーブ黒色土が斑に混在

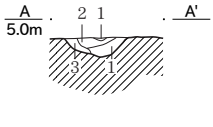
SD16
1　灰色土 粒子は細かく、硬くしまる。
　粘性弱。φ10mm以下の炭化物を含む。
2　灰オリーブ色土に灰色土が斑に混在。
　粒子は細かくややしまりがある。やや粘性あり。
　φ2～3mm以下の少量の炭化物を含む。
3　オリーブ黒色土 粒子は細かくややしまりがある。
　粘性強。暗オリーブ色土ブロックが混入。
　φ10mm以下の炭化物を少量含む。

SD32



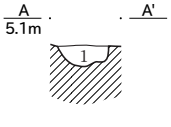
SD32
1　基本土層②
　しまりあり、粘性わずかにあり。
　炭化物を含む。
2　基本土層①
　しまりあり、粘性あり。
　炭化物を含む。

SD34



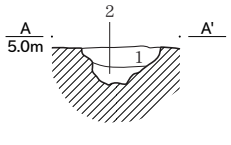
SD34
1　黒色土
　炭化した植物の堆積層(炭層)。
2　オリーブ黒色土
　粒子は細かく、しまりなし、
　粘性なし。ガツボ層とシルトが混在。
3　オリーブ黒色土
　粒子は小さく、硬くしまる。やや粘性あり。
　φ2mm以下の少量の炭化物を含む。

SD36



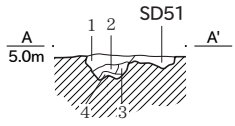
SD36
1　基本土層②　しまりあり、
　粘性わずかにあり。

SD40



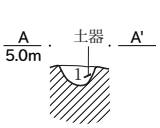
SD40
1　オリーブ黒色シルト　粒子は小さく、
　やや硬くしまる。粘性なし。
　φ5mmの炭化物を含む。
2　黒色土　粒子は小さく、
　硬くしまる。粘性あり。
　φ2～3mm以下の炭化物を少量含む。

SD43



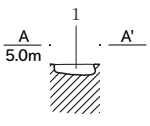
SD43
1　オリーブ黒色土　粒子は小さく、やや硬くしまる。
　やや粘性あり。シルト質。
2　灰色土　粒子は微小で、やや硬くしまる。
　粘質土。地山の崩落か？
3　オリーブ黒色土　粒子は小さく、ややわらかい。
　若干粘性あり。ごく小径の炭化物を少量含む。
4　オリーブ黒色土　粒子は小さく、やや硬くしまる。
　粘性あり、φ10mm以下の少量の炭化物を含む。

SD45



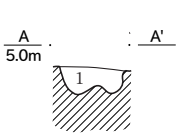
SD451
1　灰色土　粒子は小さく、
　硬くしまる。粘性弱。
　φ3mm以下の炭化物を
　少量含む。

SD49



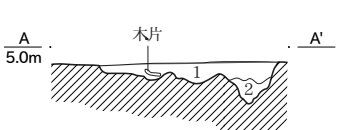
SD49
1　基本土層②しまりあり、
　粘性わずかにあり。
　炭化物と腐植物を含む。

SD50



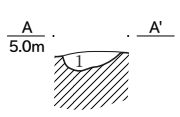
SD50
1　基本土層①
　しまりなく、粘性あり。
　腐植物、炭化物を多く含む。

SD51



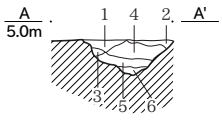
SD51
1　基本土層①
　しまりあり、粘性あり。φ1～2mmの炭化物を多く含む。
2　基本土層②
　しまりなく、粘性強い。炭化物をわずかに含む。

SD54



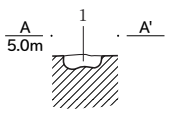
SD54
1　暗灰黄色土とオリーブ灰色土が
　斑に混入するシルトしまりあり、
　粘性あり。φ1～7mmの
　炭化物と腐植物が点在。

SD55



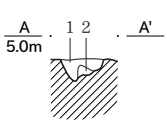
SD55
1　オリーブ黒色土 粒子は細かく、硬くしまる。
　粘性なし。
2　灰オリーブ色土 粒子は小さく、硬くしまる。
　粘性弱。
3　灰オリーブ色土 粒子は小さくやや硬くしまる。
　粘性あり。
4　オリーブ黒色シルトと灰オリーブ粘質土が混じる。
　粒子は小さく、硬くしまる。粘性あり。
　φ8mm以下の少量の炭を含む。
5　暗灰黄色土 粒子は小さく、硬くしまる。
　砂質シルト。やや粘性あり。
6　灰色土 粒子は小さく、やや硬くしまる。粘性強。

SD56



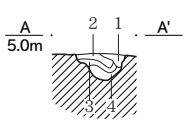
SD56
1　暗灰黄色土とオリーブ灰色土が
　斑に混入。
　φ2～5mmの炭化物と腐植物が
　点在。しまりあり、粘性あり。
　シルト層。

SD57



SD57
1　基本土層①
　しまりあり、粘性あり。
　φ2mmの炭化物を点在。
2　基本土層②
　しまりあり、 粘性あり。

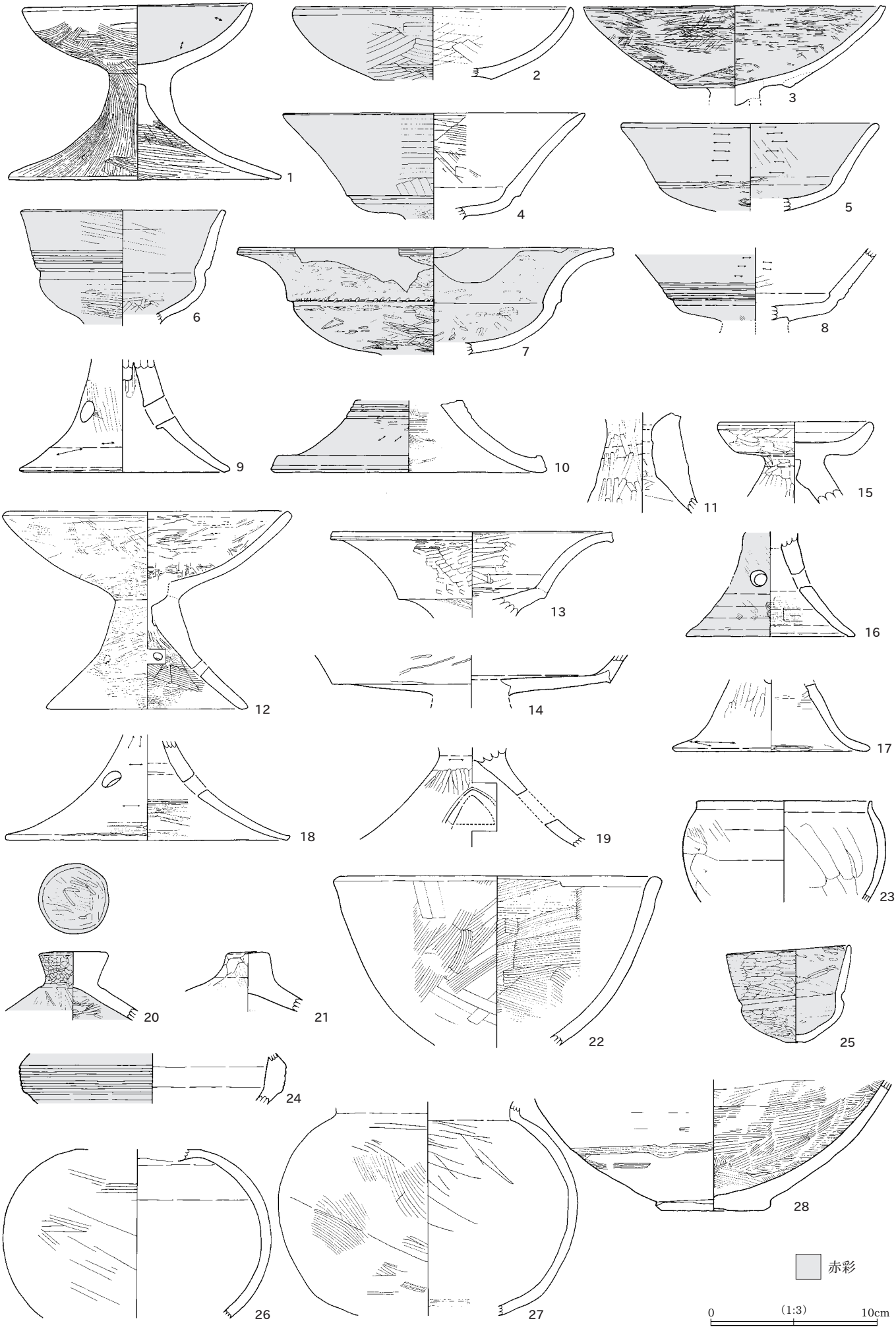
SD58



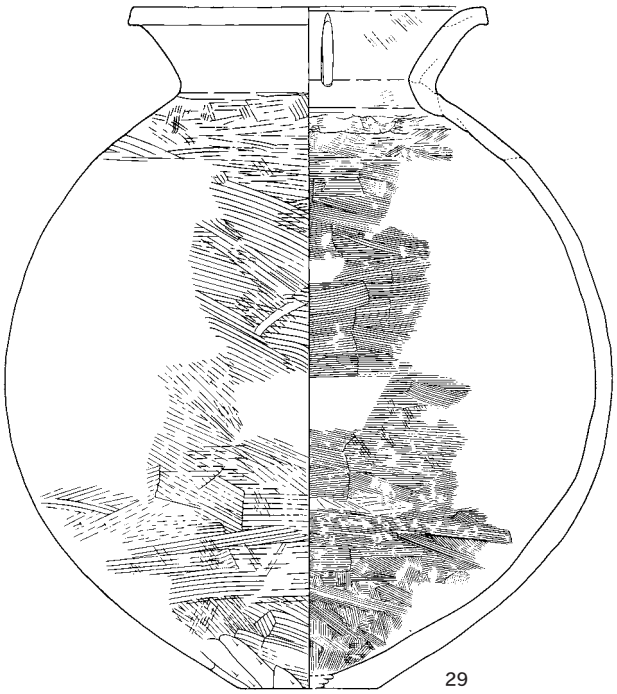
SD58
1　基本土層②　しまりあり、粘性あり。
2　基本土層①　しまりあり、粘性あり。
　φ1～7mmの炭を多く含む。
3　基本土層①　φ4～5mmの炭化物
　が点在。
4　基本土層②　しまりわずかにあり、
　粘性強い。

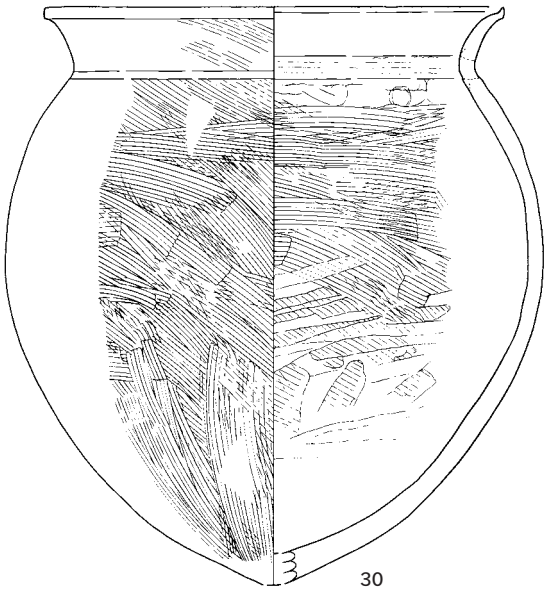
0　（1：40）　2m

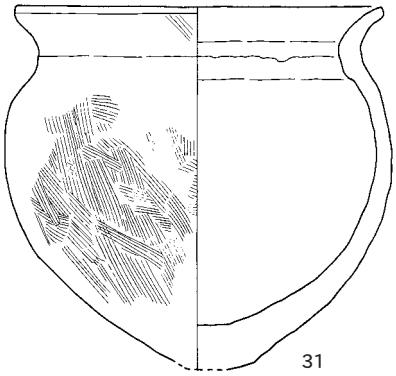
SI101（1～28）

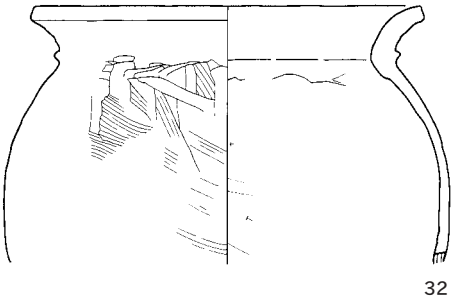

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
15
12
13
16
14
17
18
19
23
20
21
22
25
24
28
26
27
赤彩
0
(1:3)
10cm

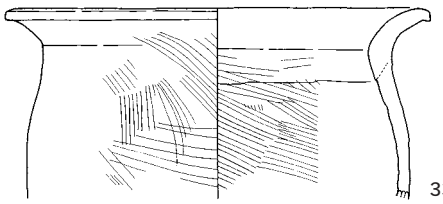
SI101（29～36）

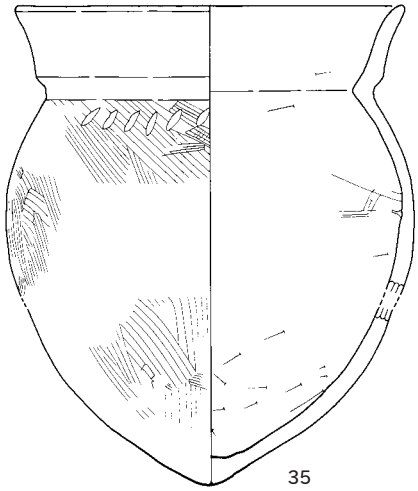

29

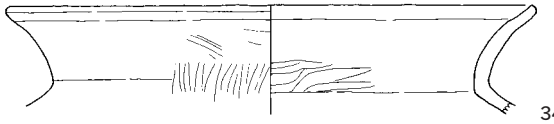

30


31

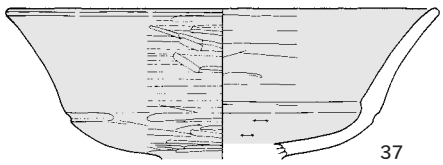

32

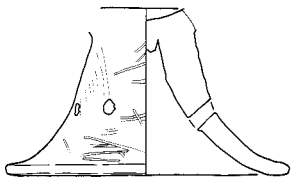

33

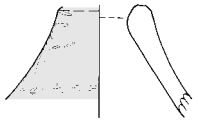

35

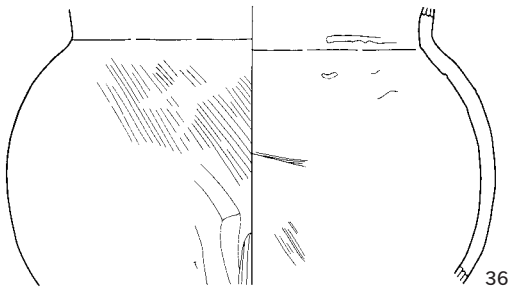

34

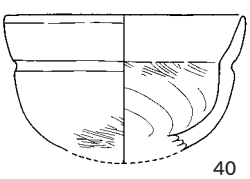
SD101（37～43）

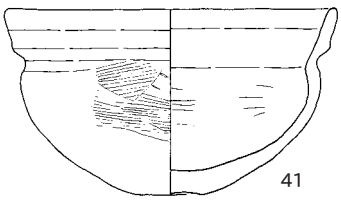

37

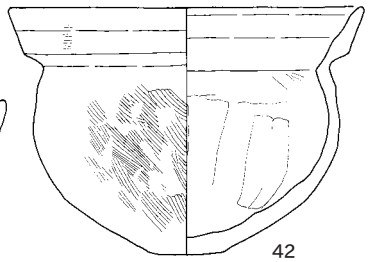

38

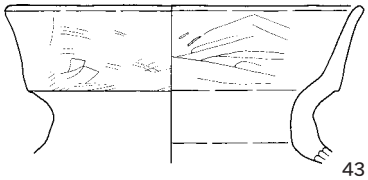

39


36


40


41

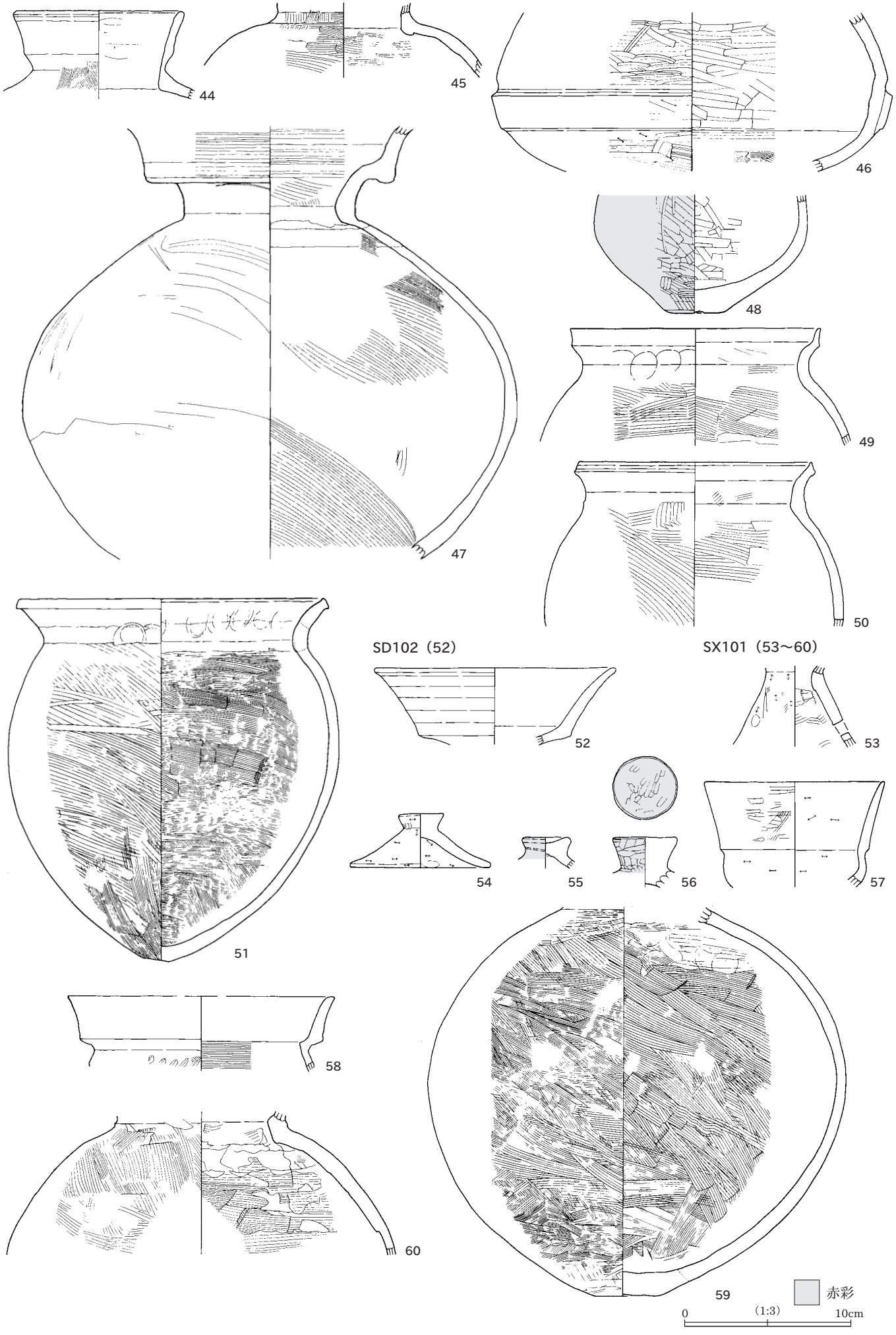

42


43

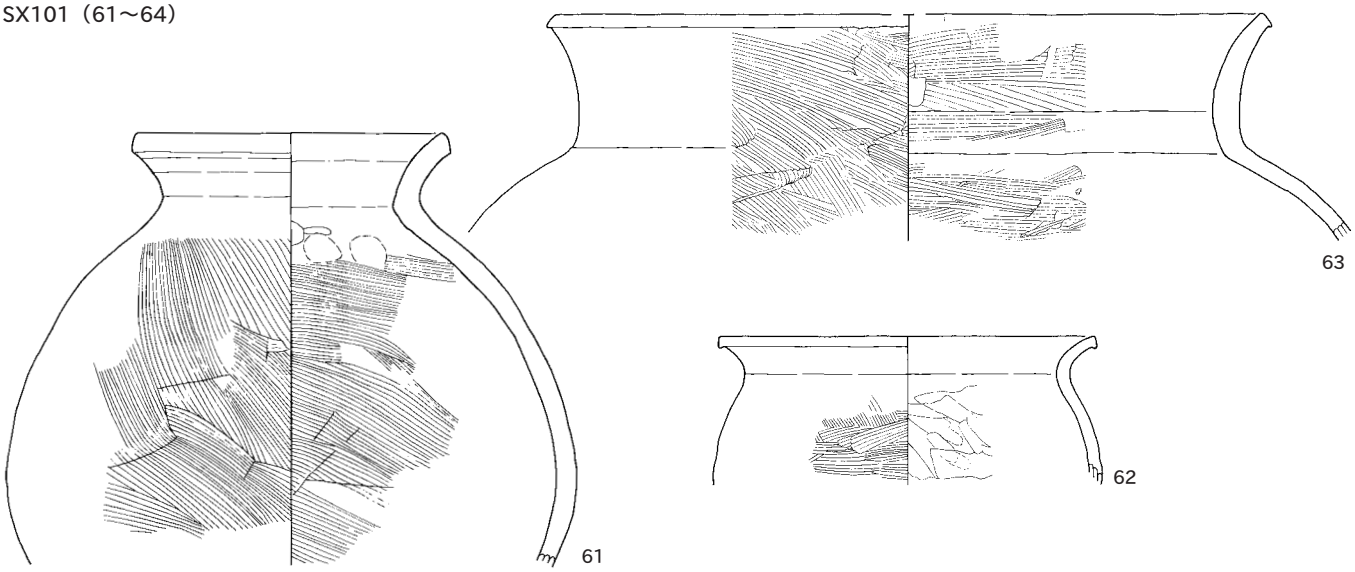
赤彩

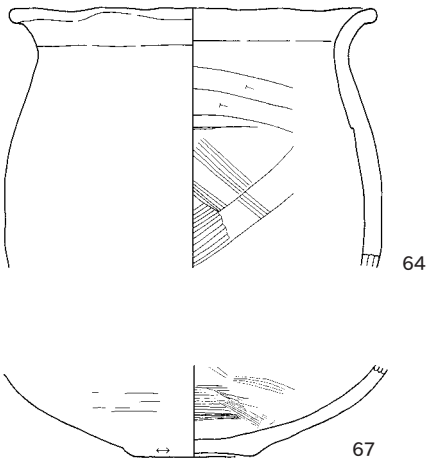
0　(1:3)　10cm

SD101（44～51）

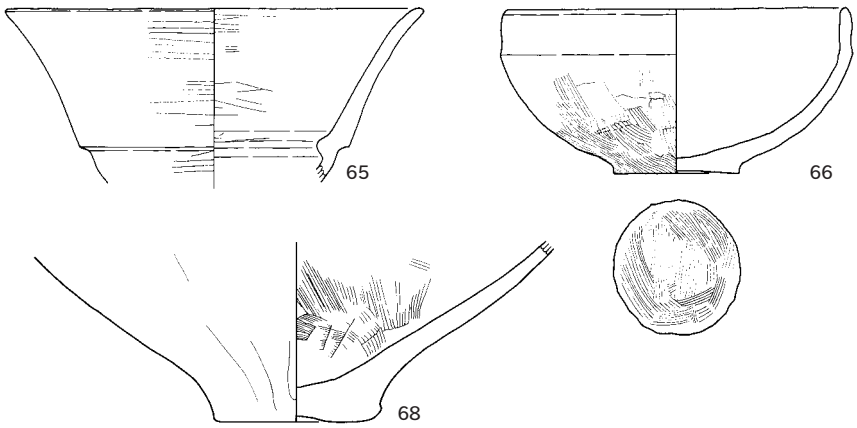

44
45
46
47
48
49
50
51
SD102（52）
52
SX101（53～60）
53
54
55
56
57
58
59
60
赤彩
0
(1:3)
10cm

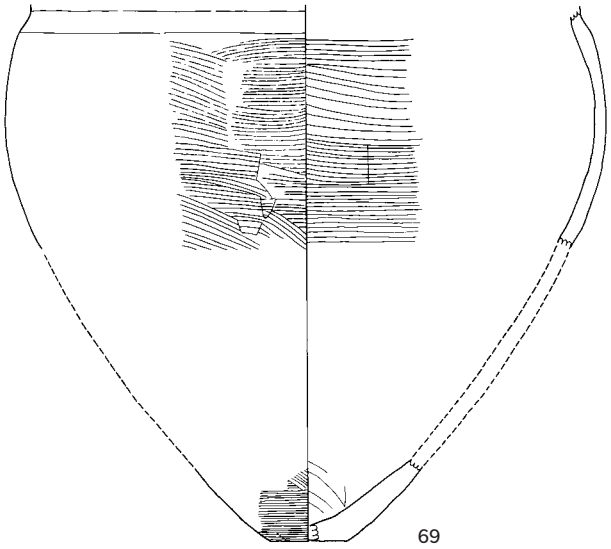
SX101（61～64）



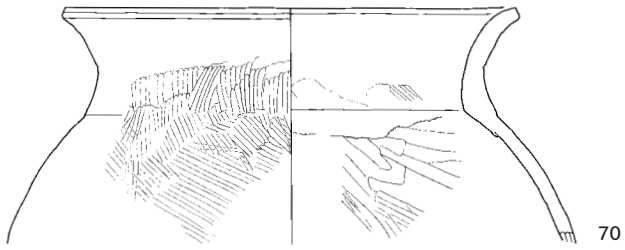


SK102（65～69）

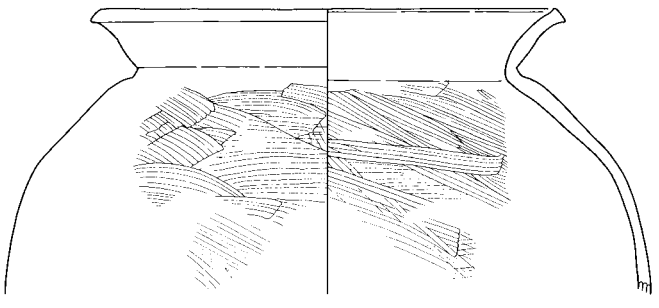




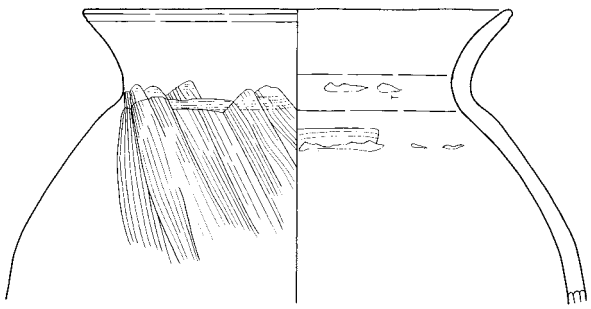
SK103（70）



8B-P101（71）

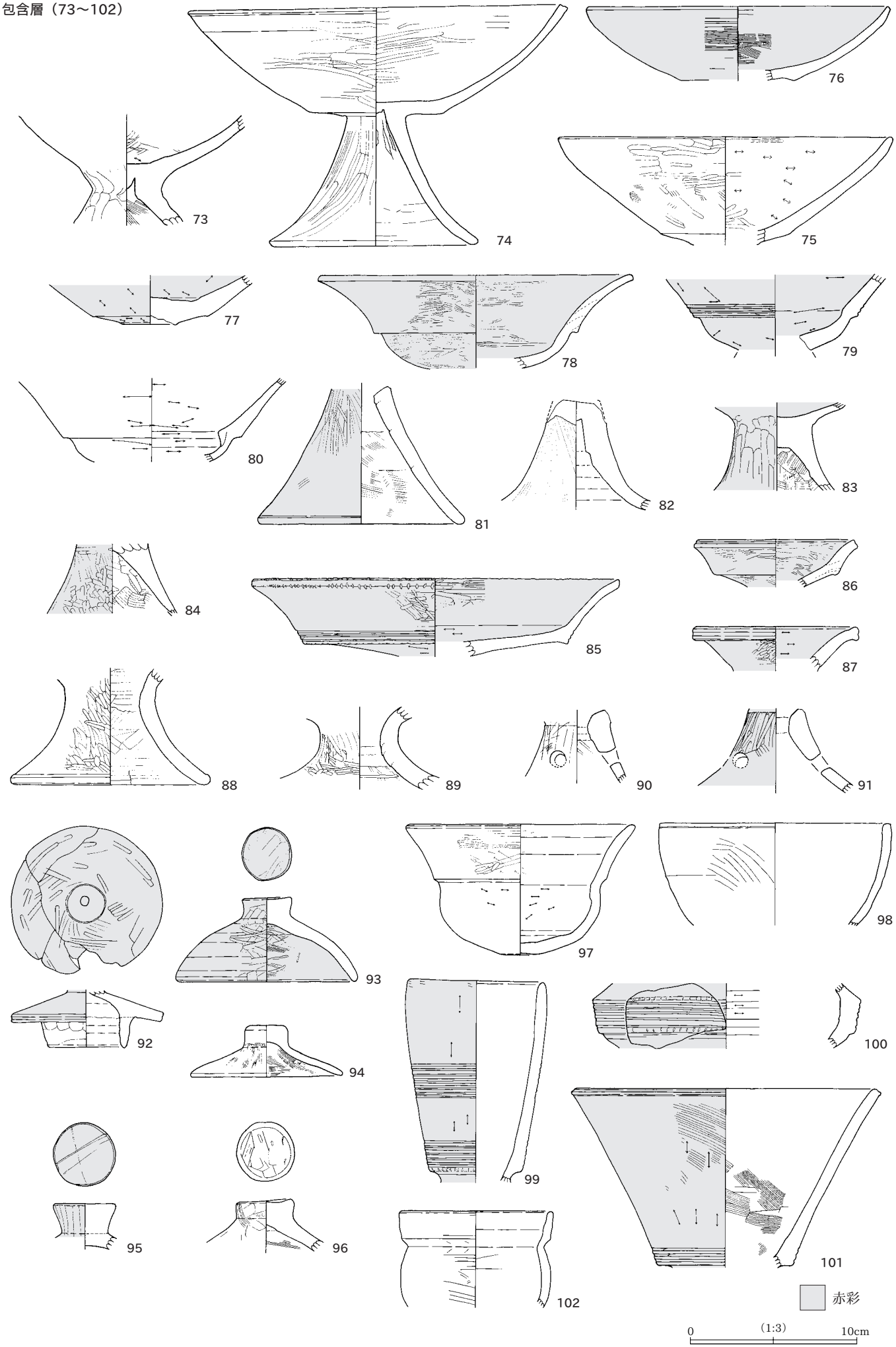


SD24（72）

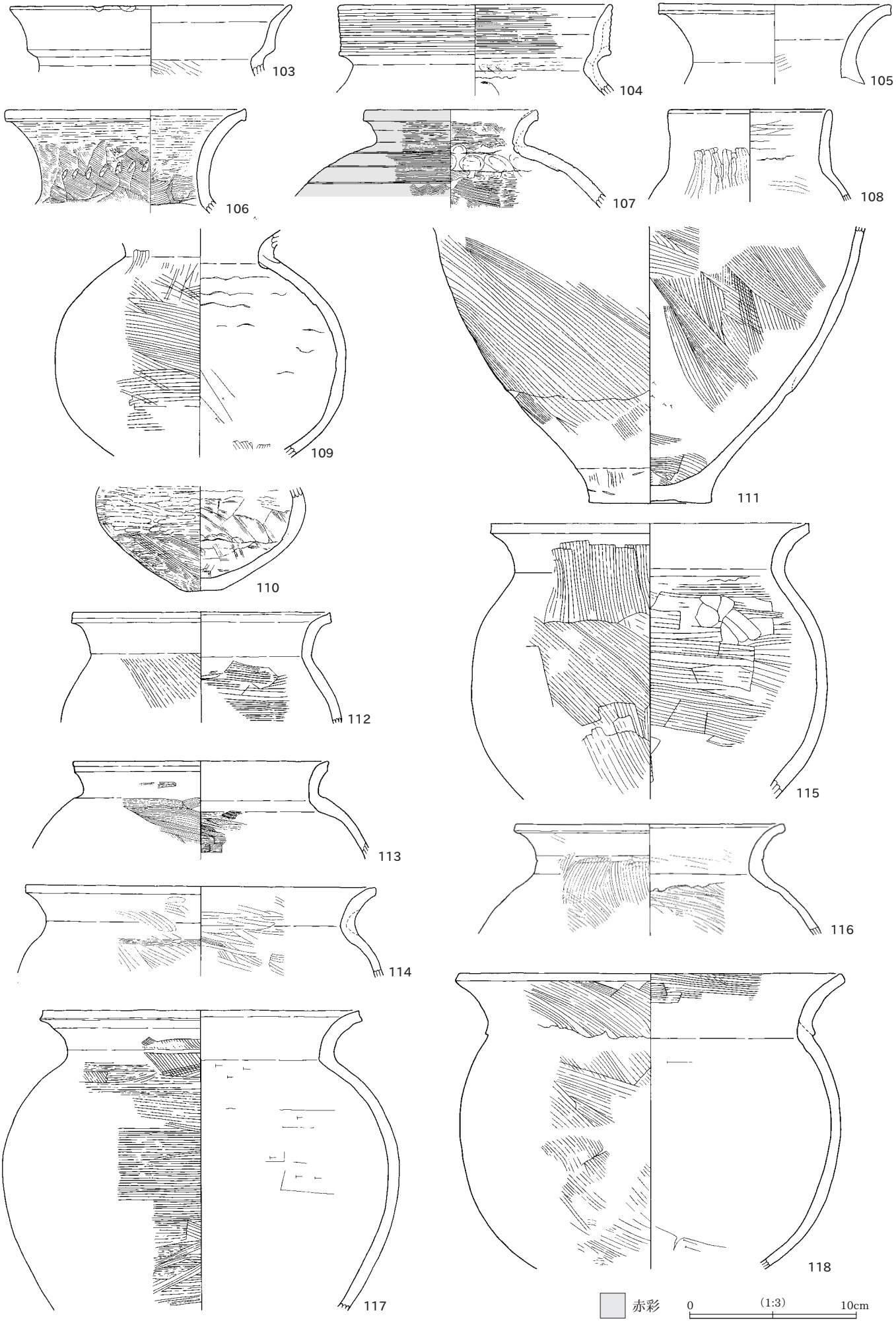


0　(1:3)　10cm

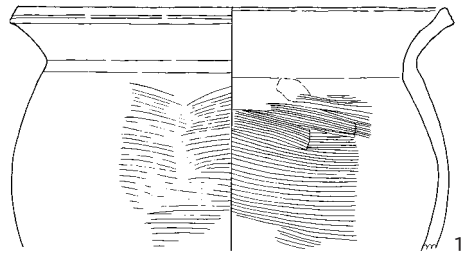
包含層（73～102）

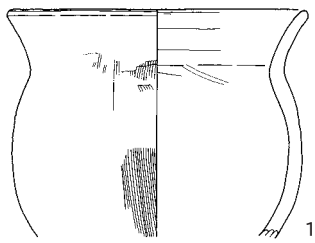

73
74
76
75
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
赤彩
0
(1:3)
10cm

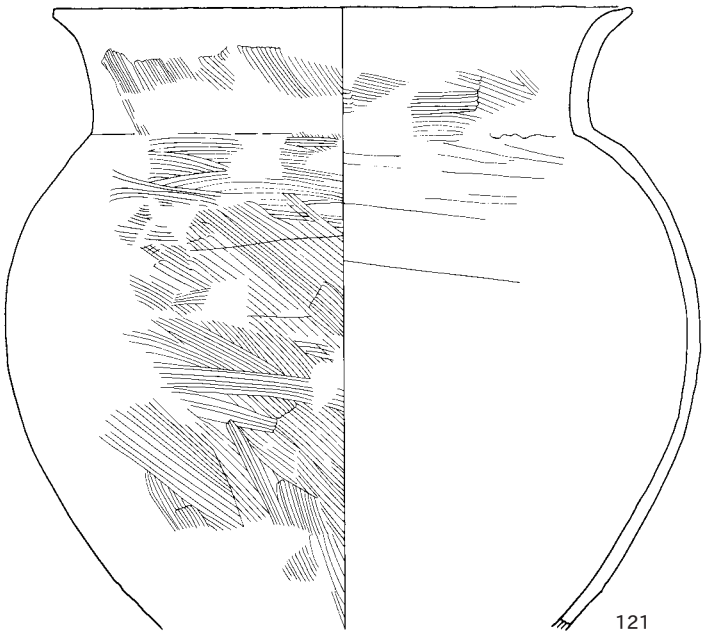
包含層（103～118）

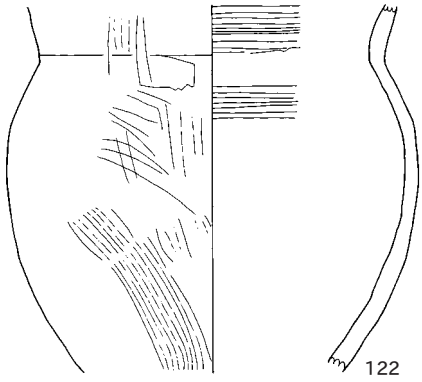

103
104
105
106
107
108
109
110
111
112
113
114
115
116
117
118
赤彩
0
(1:3)
10cm

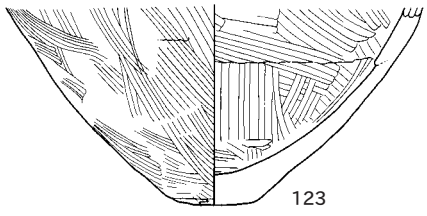
包含層（119～123）


119

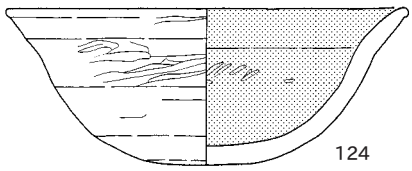

120

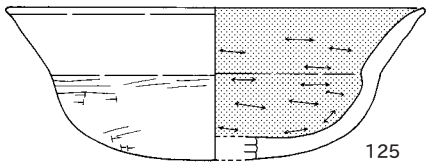

121

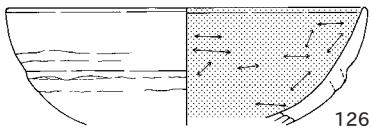

122

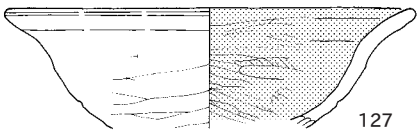

123

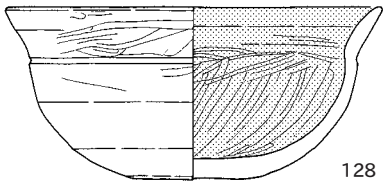
SD24（124～131）

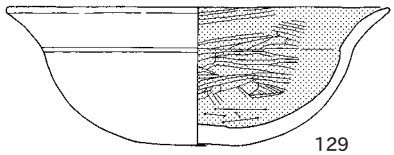

124


125

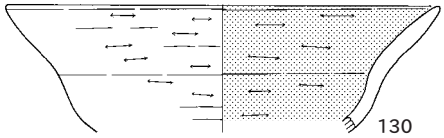

126

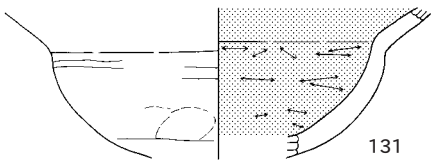

127

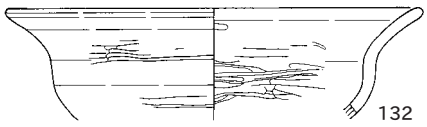

128

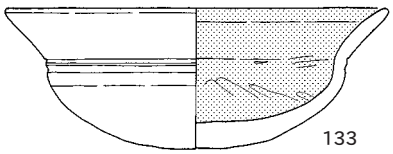

129

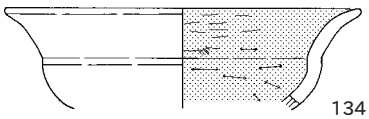
包含層（132～134）


130


131


132

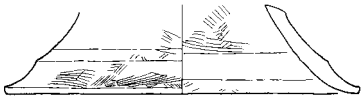

133


134

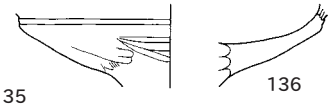
黒色処理

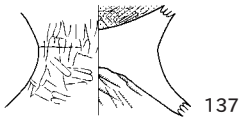
0　(1:3)　10cm

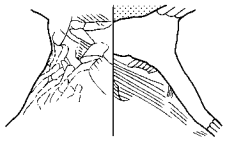
包含層（135）

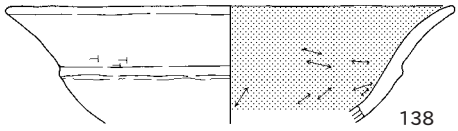

135

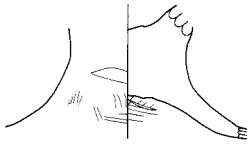
SD24（136～147）

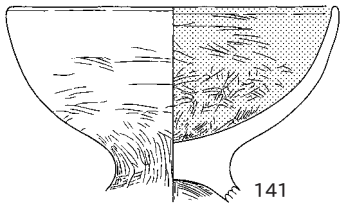

136

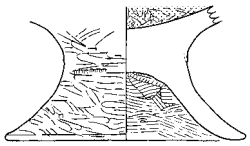

137

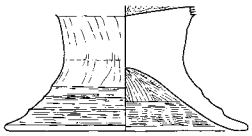

139

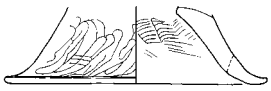

138

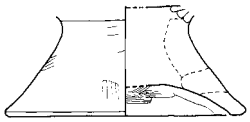

140


141

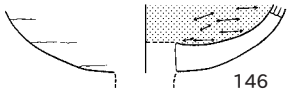

142

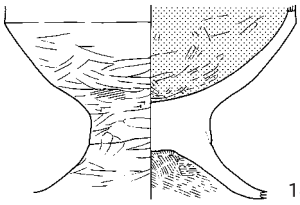

143

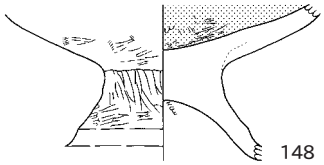

144

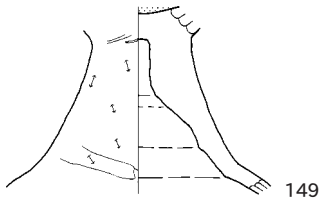

145

包含層（148・149）

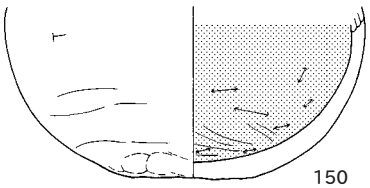

146

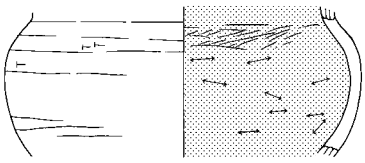

147

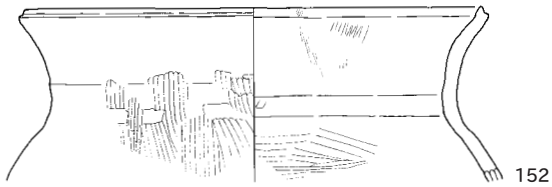

148

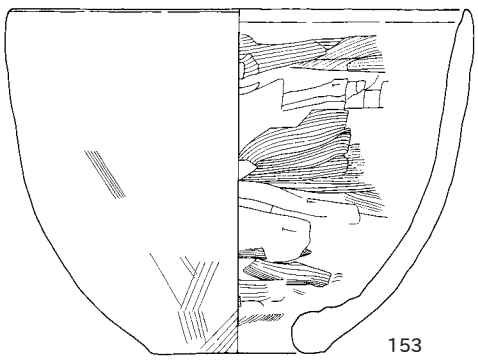

149

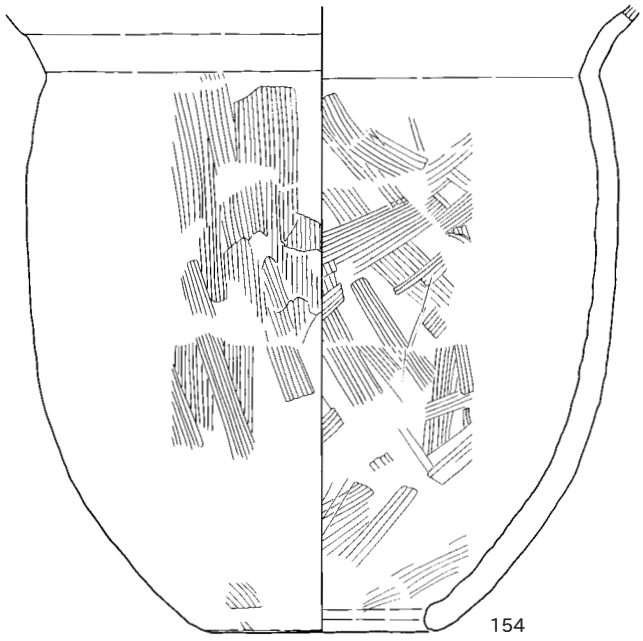
SD24（150～155）


150

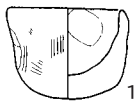

151

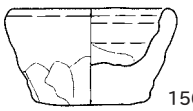

152


153

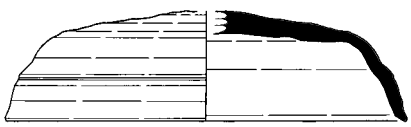

154

包含層（156～160）


155


156

157

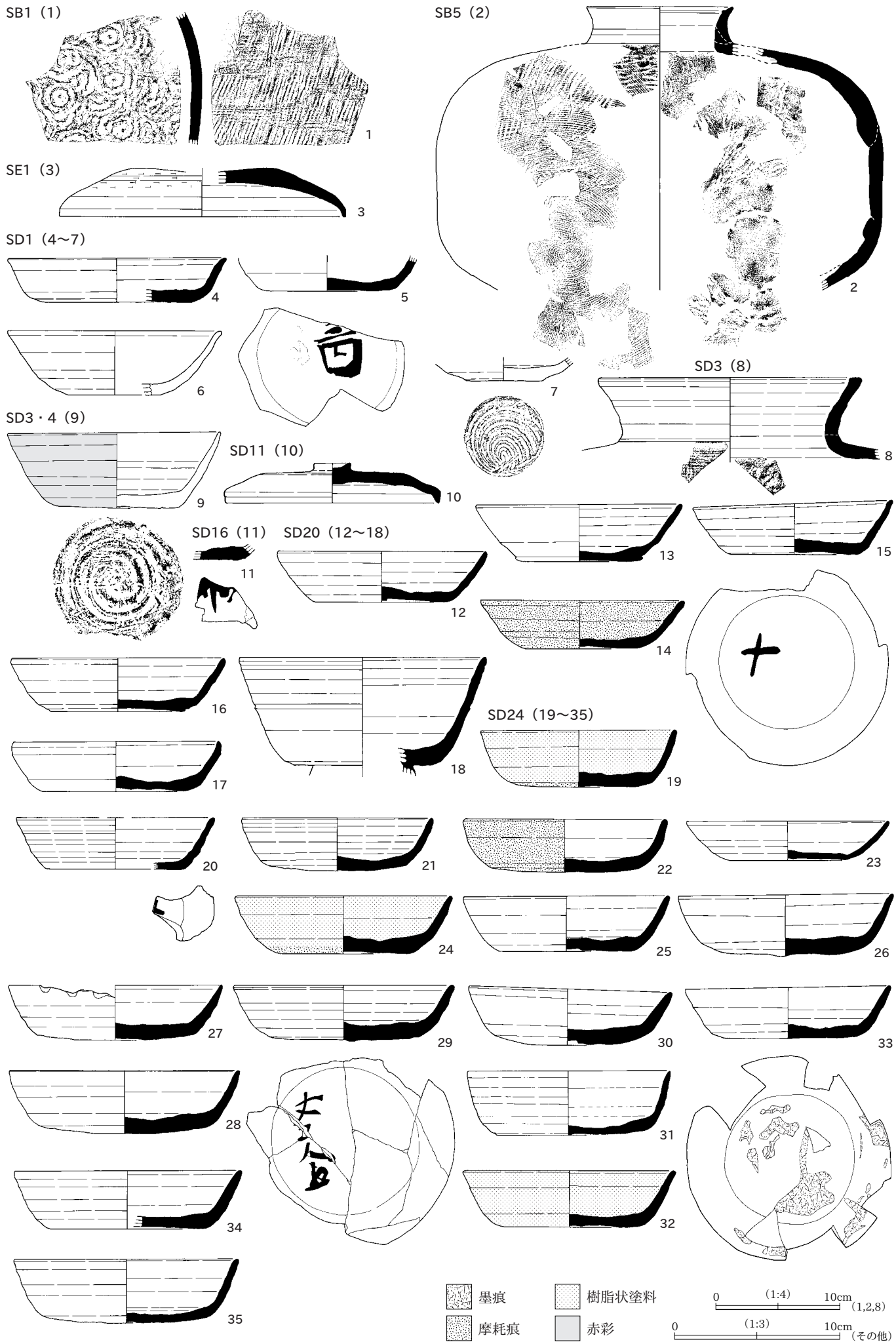

158

159

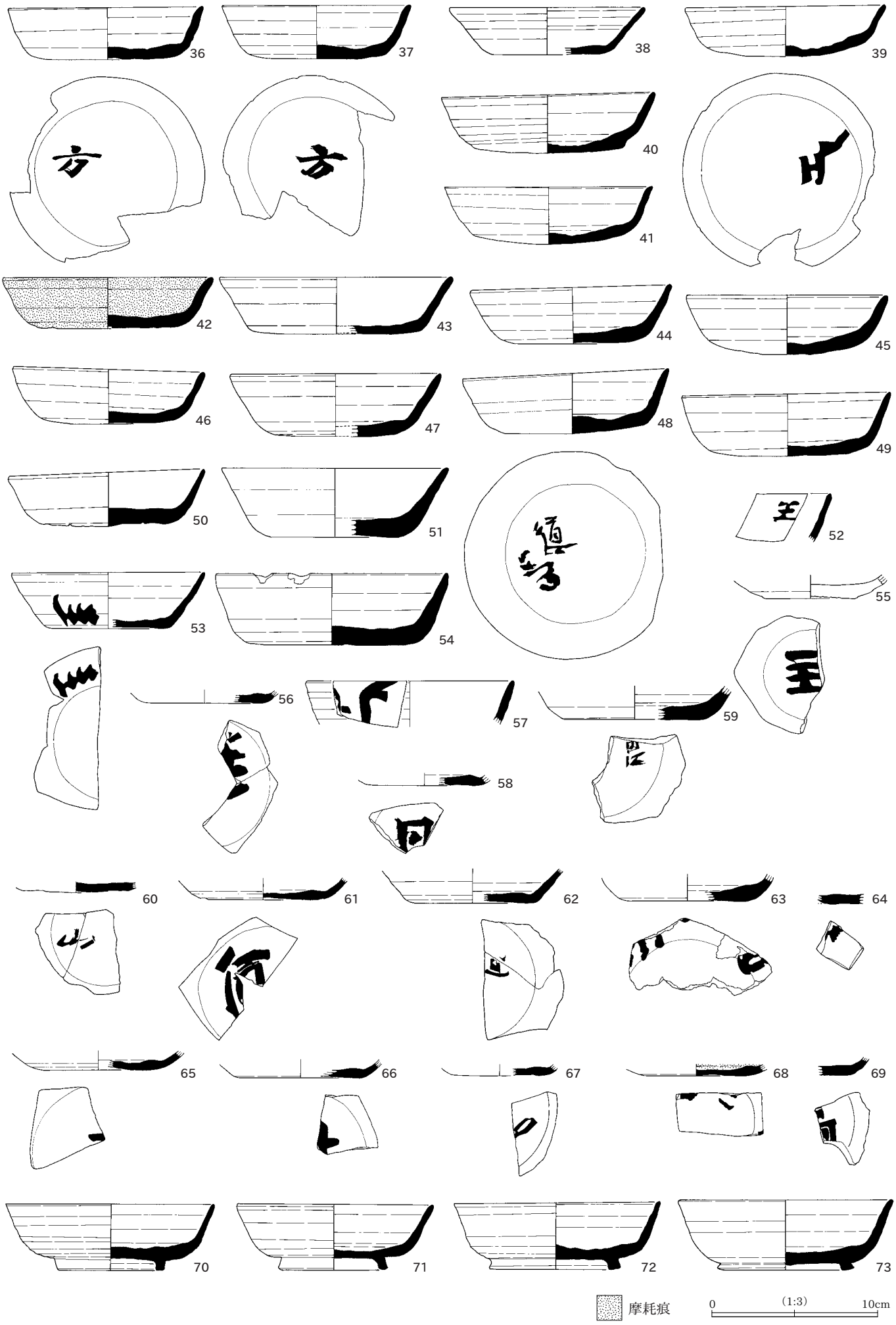
160

黒色処理

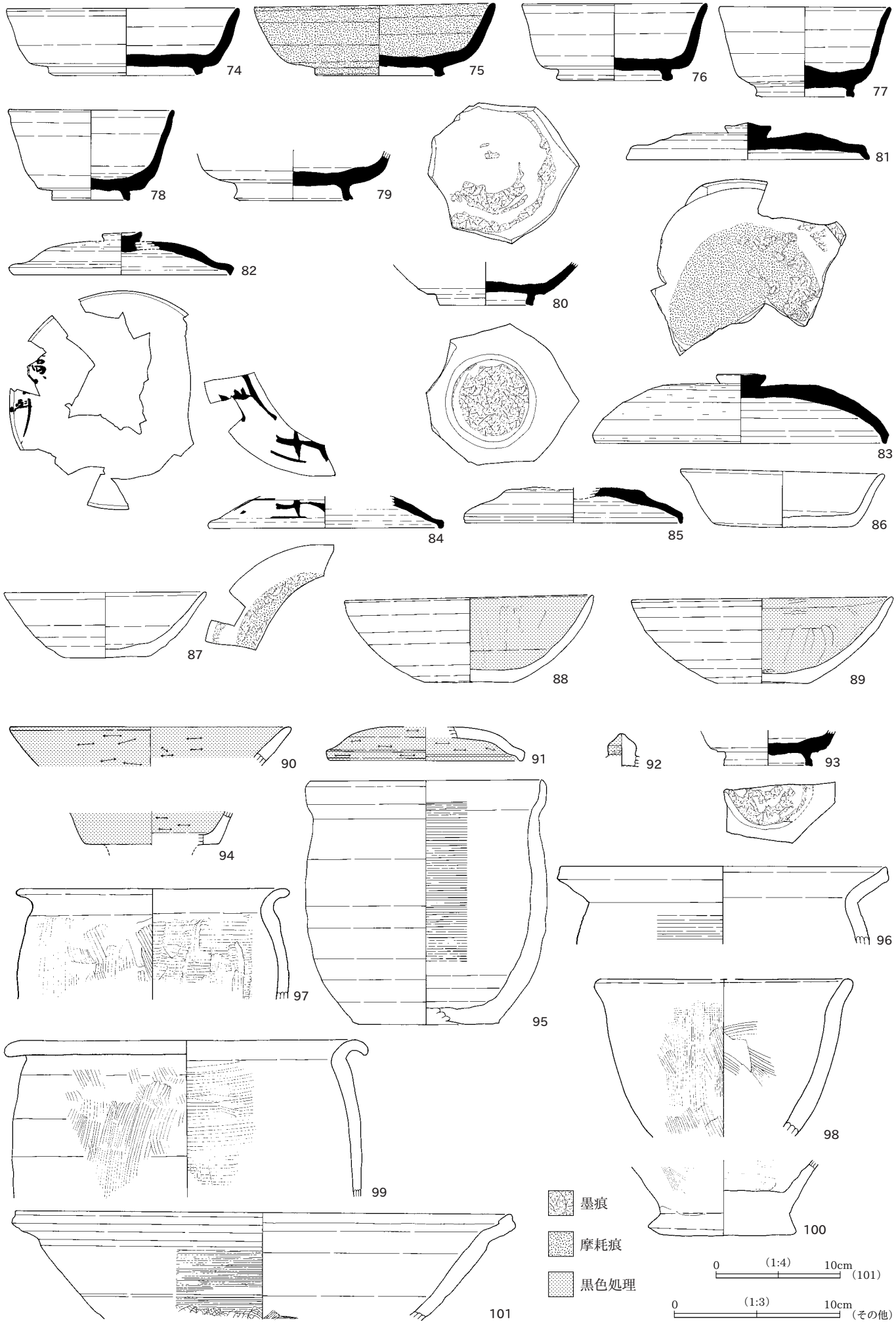
0　(1:3)　10cm


SB1（1）
1
SB5（2）
2
SE1（3）
3
SD1（4～7）
4
5
6
7
SD3（8）
8
SD3・4（9）
9
SD11（10）
10
SD16（11）
11
SD20（12～18）
12
13
14
15
16
17
18
SD24（19～35）
19
20
21
22
23
24
25
26
27
29
30
33
28
31
34
32
35
墨痕
摩耗痕
樹脂状塗料
赤彩
0 (1:4) 10cm (1,2,8)
0 (1:3) 10cm (その他)

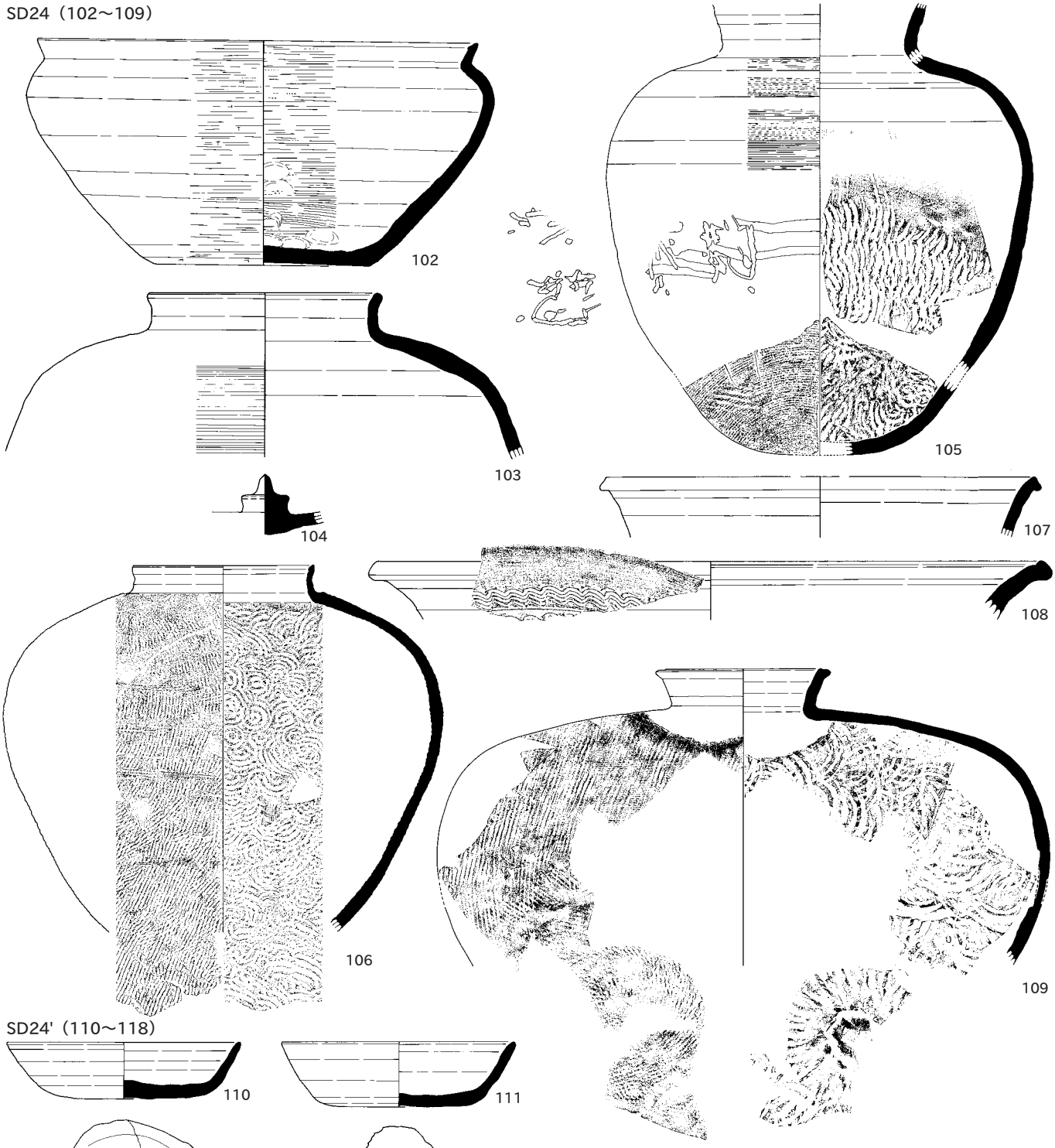
SD24（36～73）


36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
摩耗痕
0
(1:3)
10cm

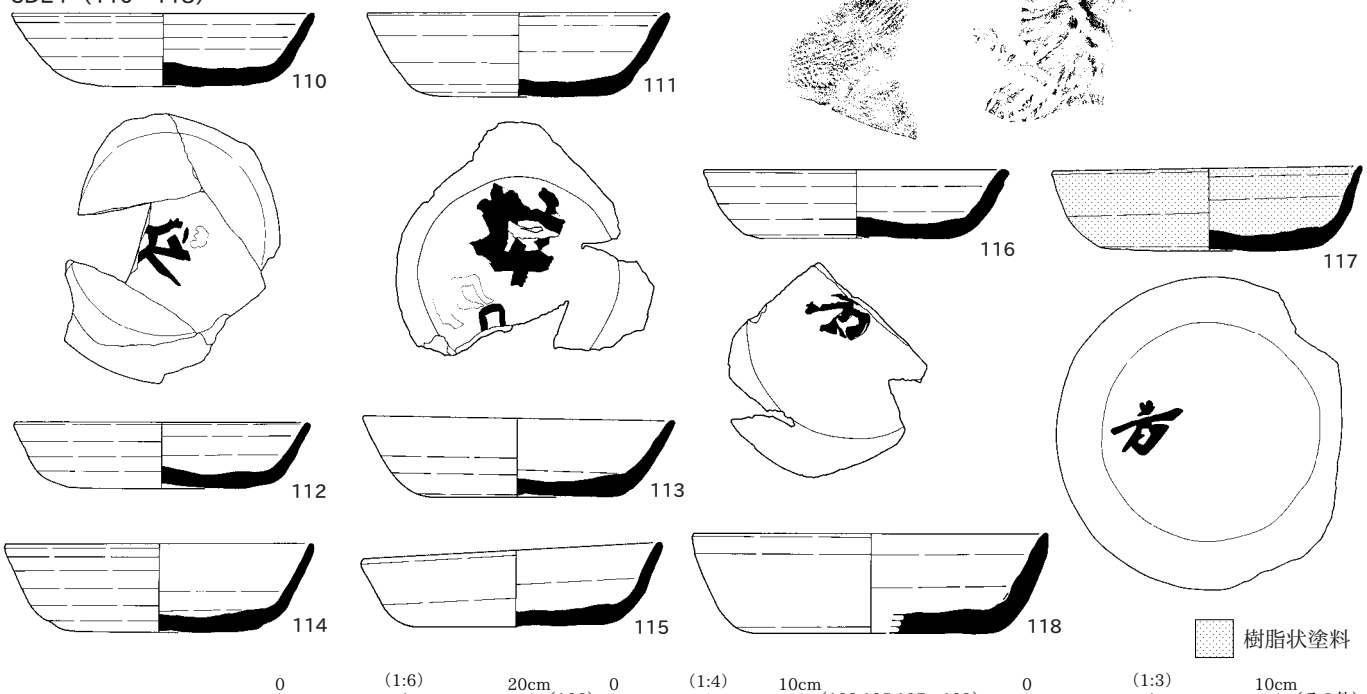
SD24（74〜101）


74
75
76
77
78
79
81
82
80
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
墨痕
摩耗痕
黒色処理
0 (1:4) 10cm (101)
0 (1:3) 10cm (その他)

SD24（102～109）

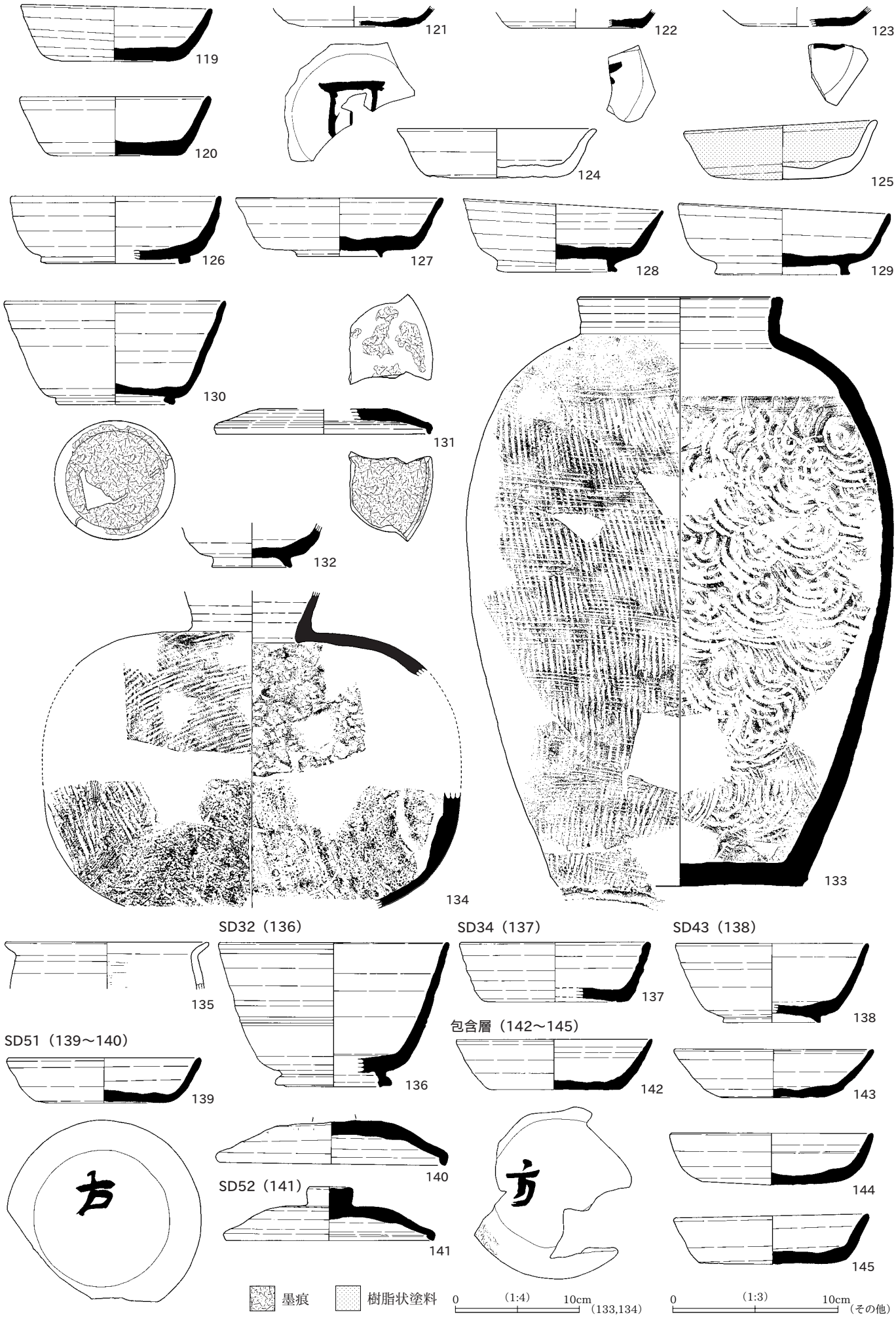


SD24'（110～118）

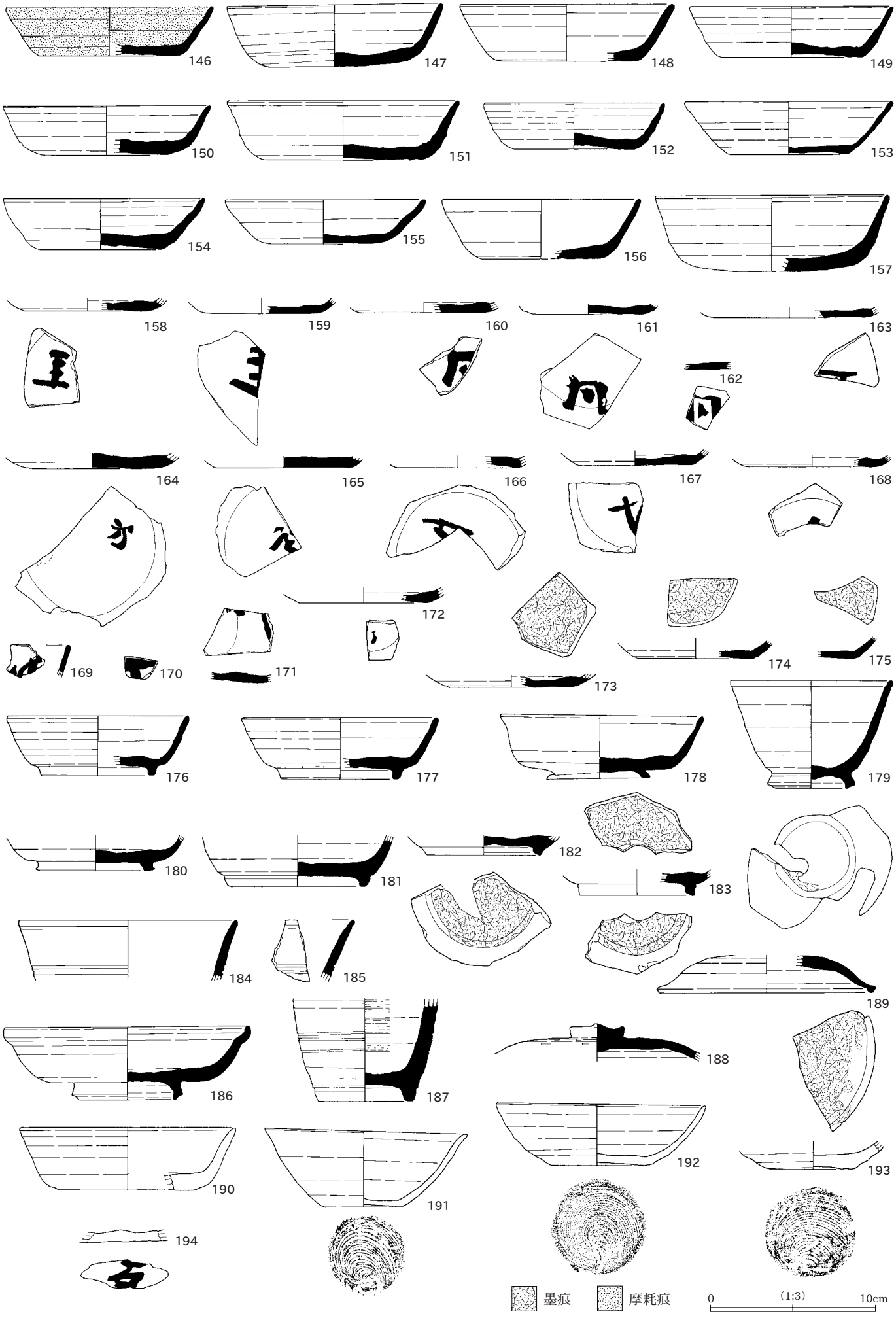


0　(1:6)　20cm（106）　0　(1:4)　10cm（102,105,107～109）　0　(1:3)　10cm（その他）

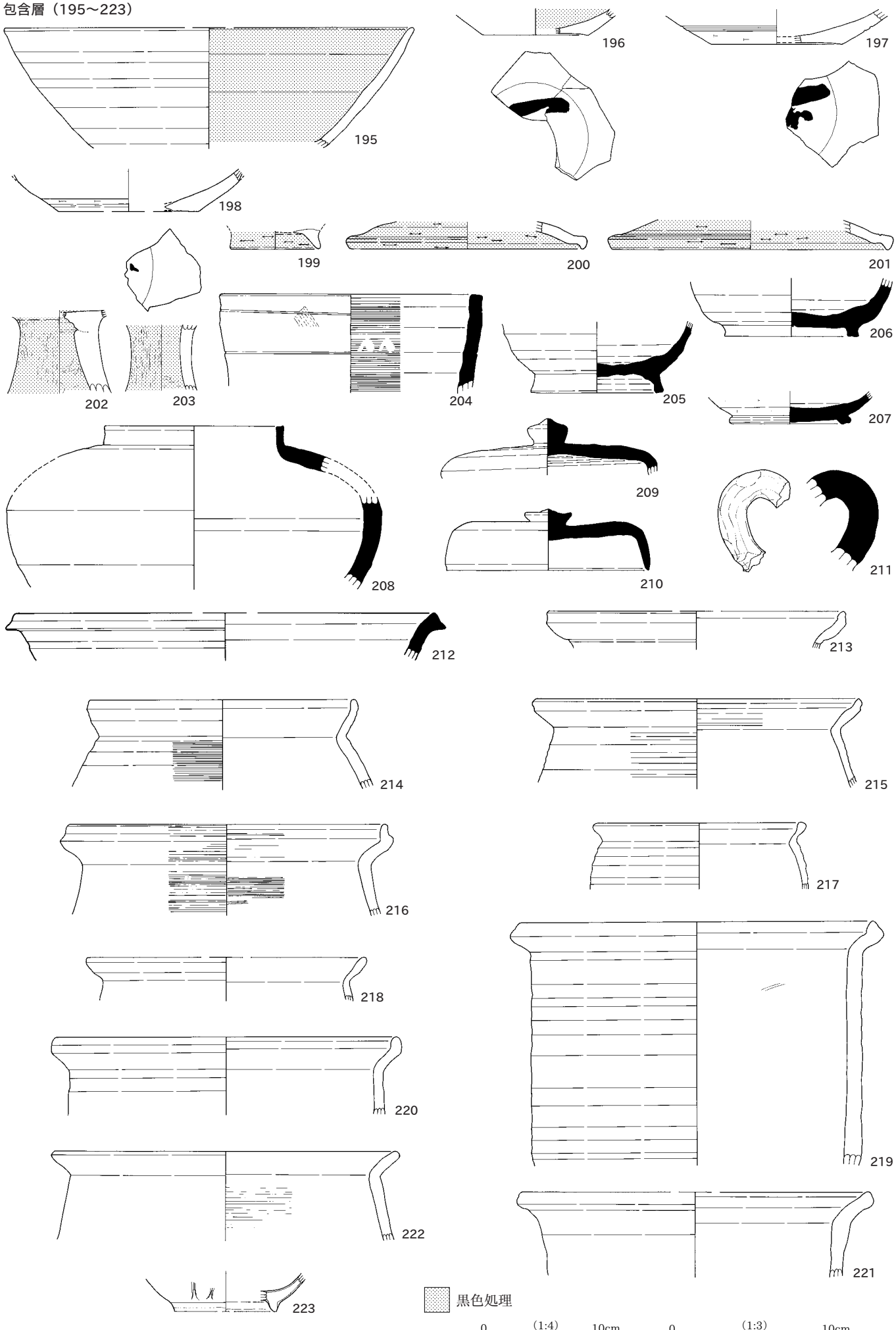
SD24'（119～135）


119
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
SD32（136）
135
136
SD34（137）
137
SD43（138）
138
SD51（139～140）
139
包含層（142～145）
142
143
140
SD52（141）
141
144
145
墨痕
樹脂状塗料
0 (1:4) 10cm (133,134)
0 (1:3) 10cm (その他)

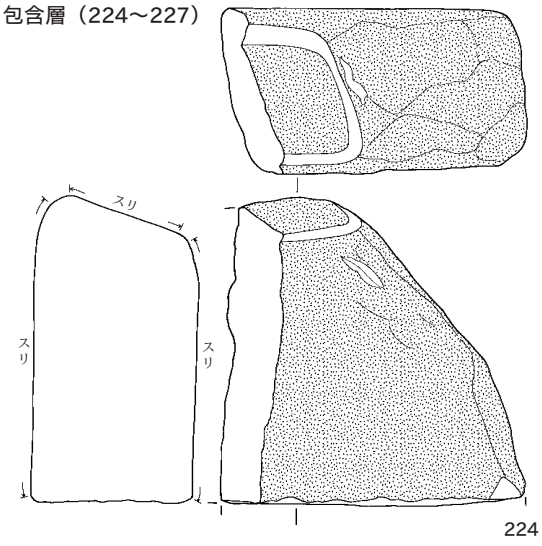
包含層（146～194）


146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
187
188
189
190
191
192
193
194
墨痕
摩耗痕
0
(1:3)
10cm

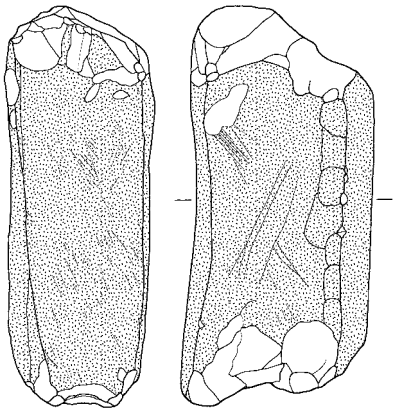
包含層（195～223）

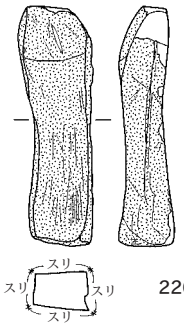

195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
223
黒色処理
0 (1:4) 10cm (212)
0 (1:3) 10cm (その他)

包含層（224～227）

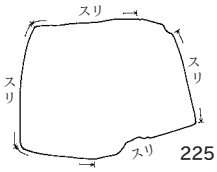


224

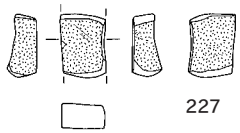




226

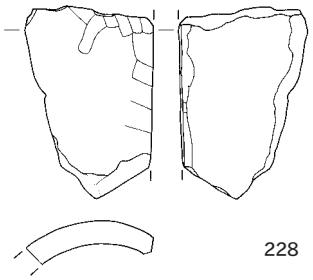


225



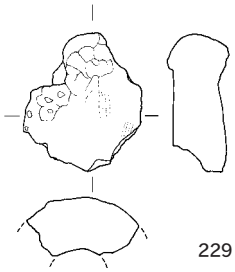
227

SD20（228）



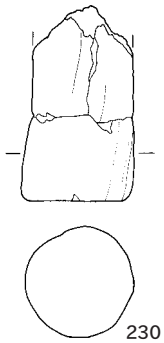
228

SD24'（229）

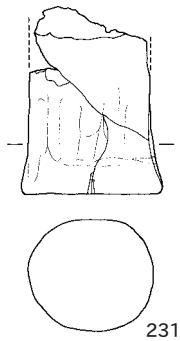


229

包含層（230～232）



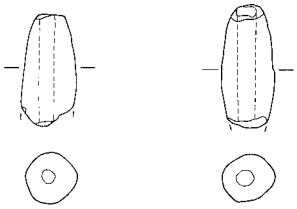
230



231

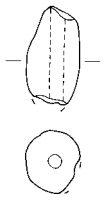
232

SD24（233・234）



233　234

包含層（235）



235

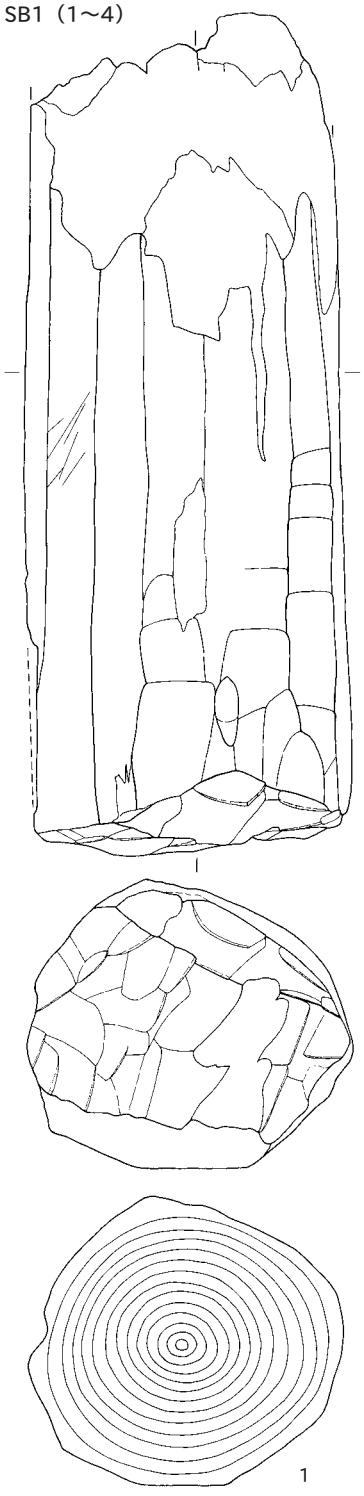
摩耗痕

0　(1:2)　5cm（233～235）

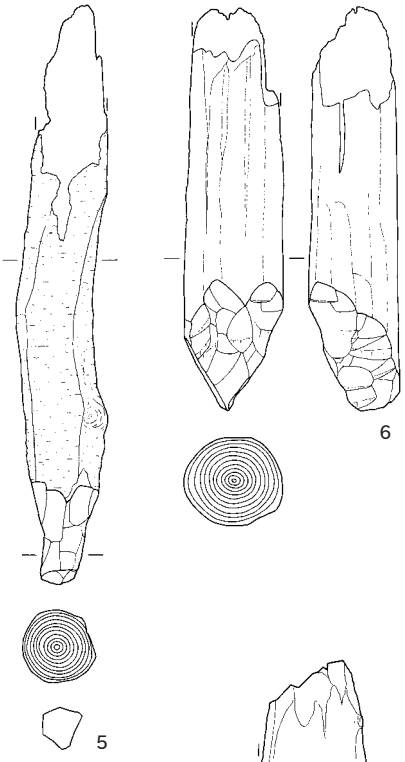
0　(1:4)　10cm（224）

0　(1:3)　10cm（その他）

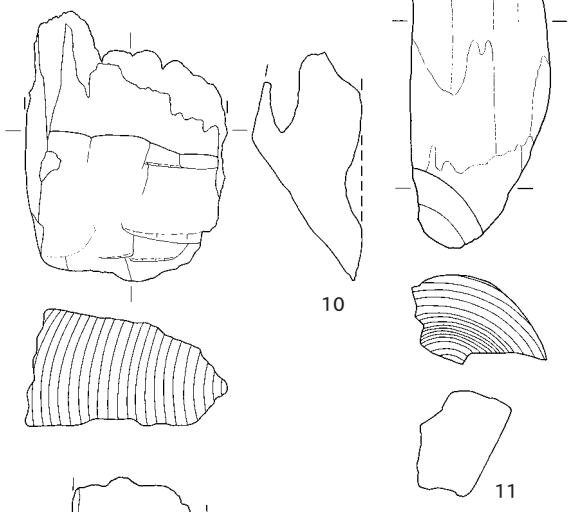
SB1（1～4）



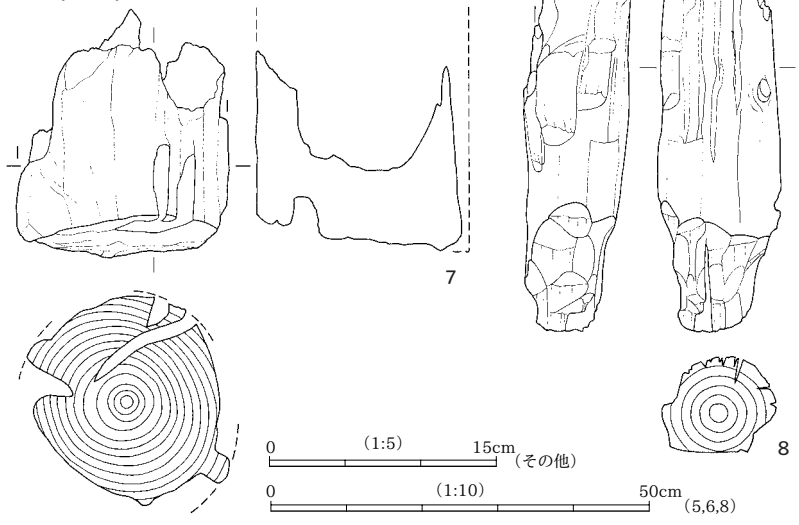
SB3（5・6）

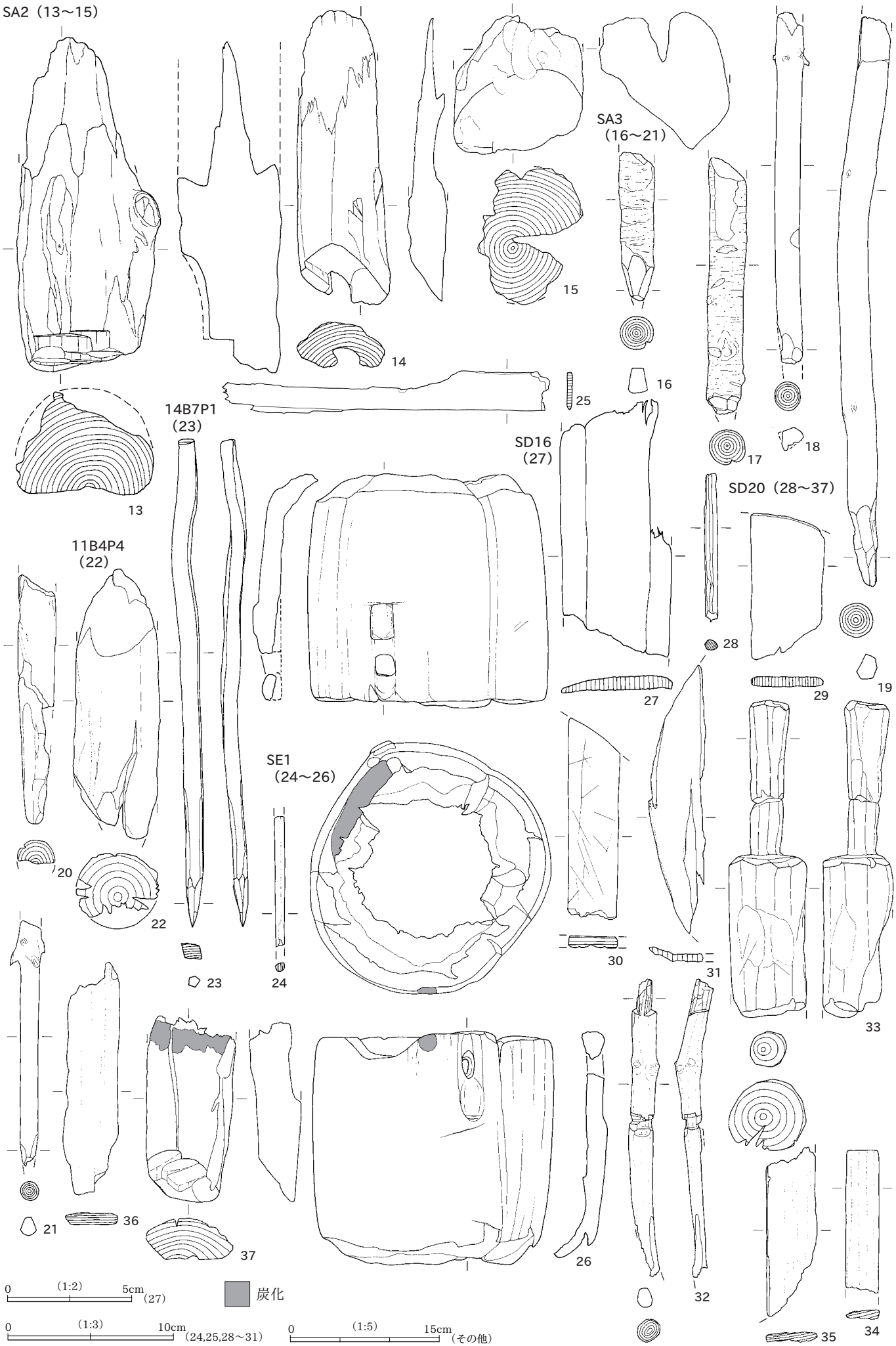


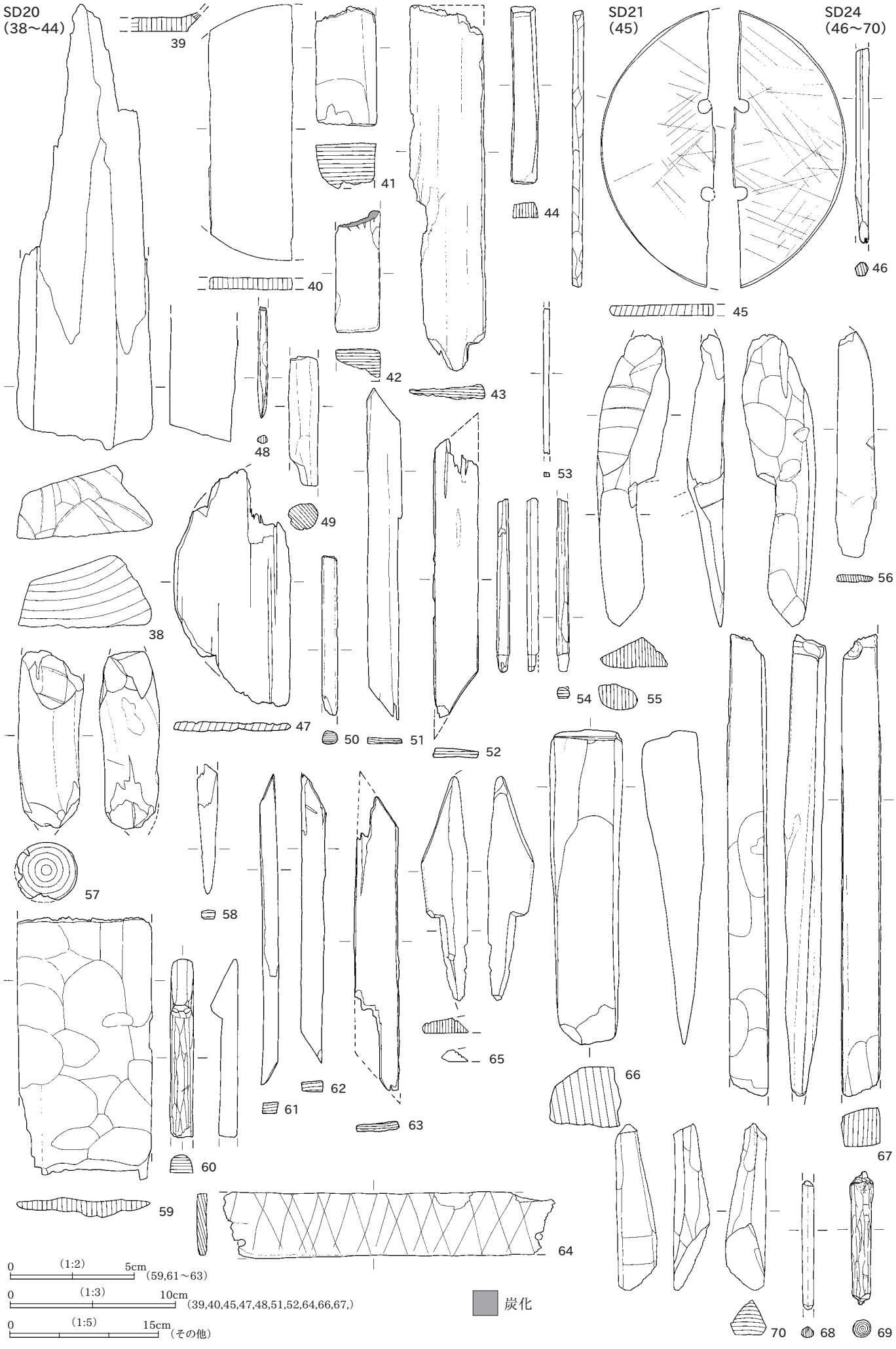
SA2（10～12）

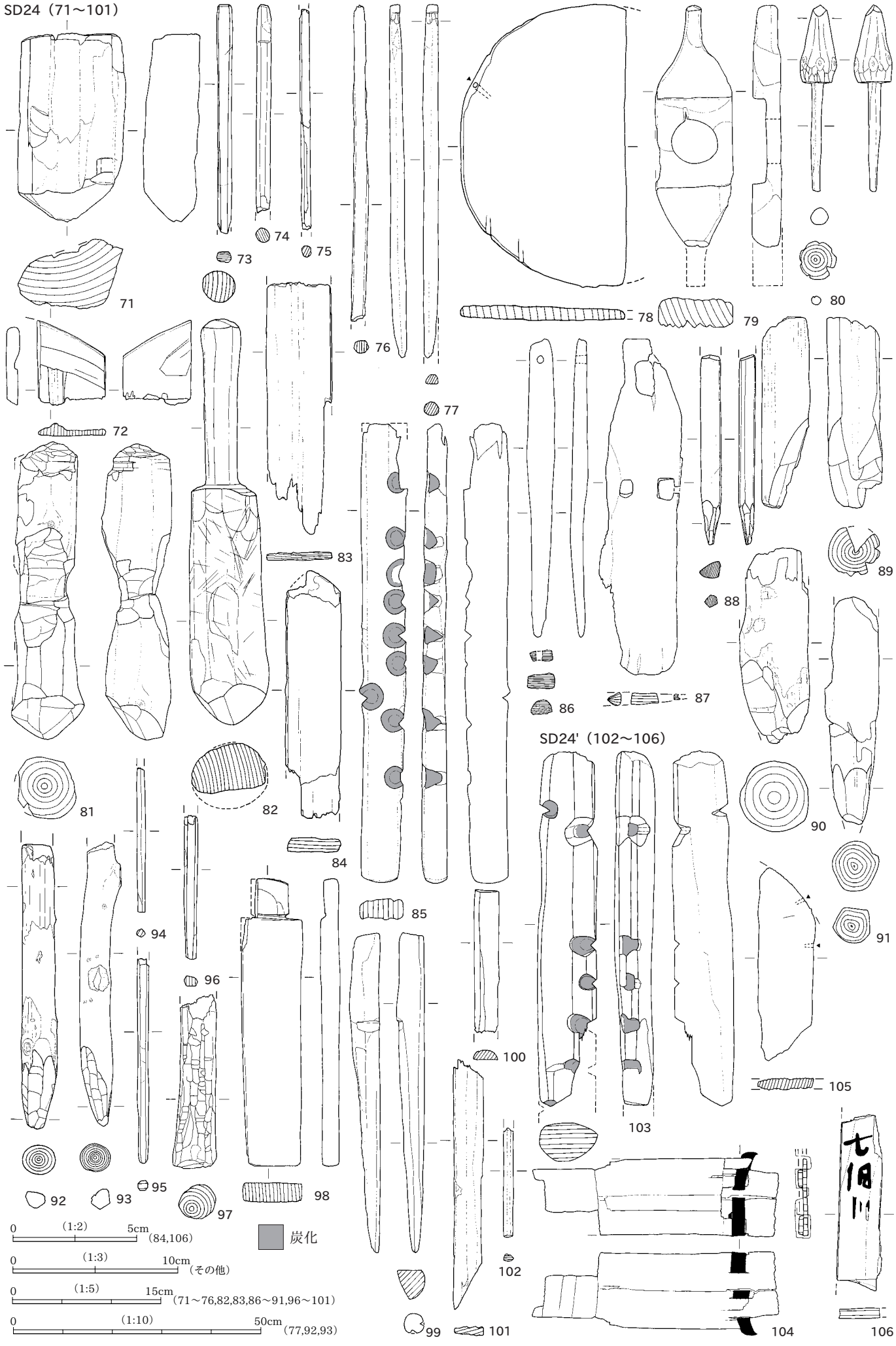


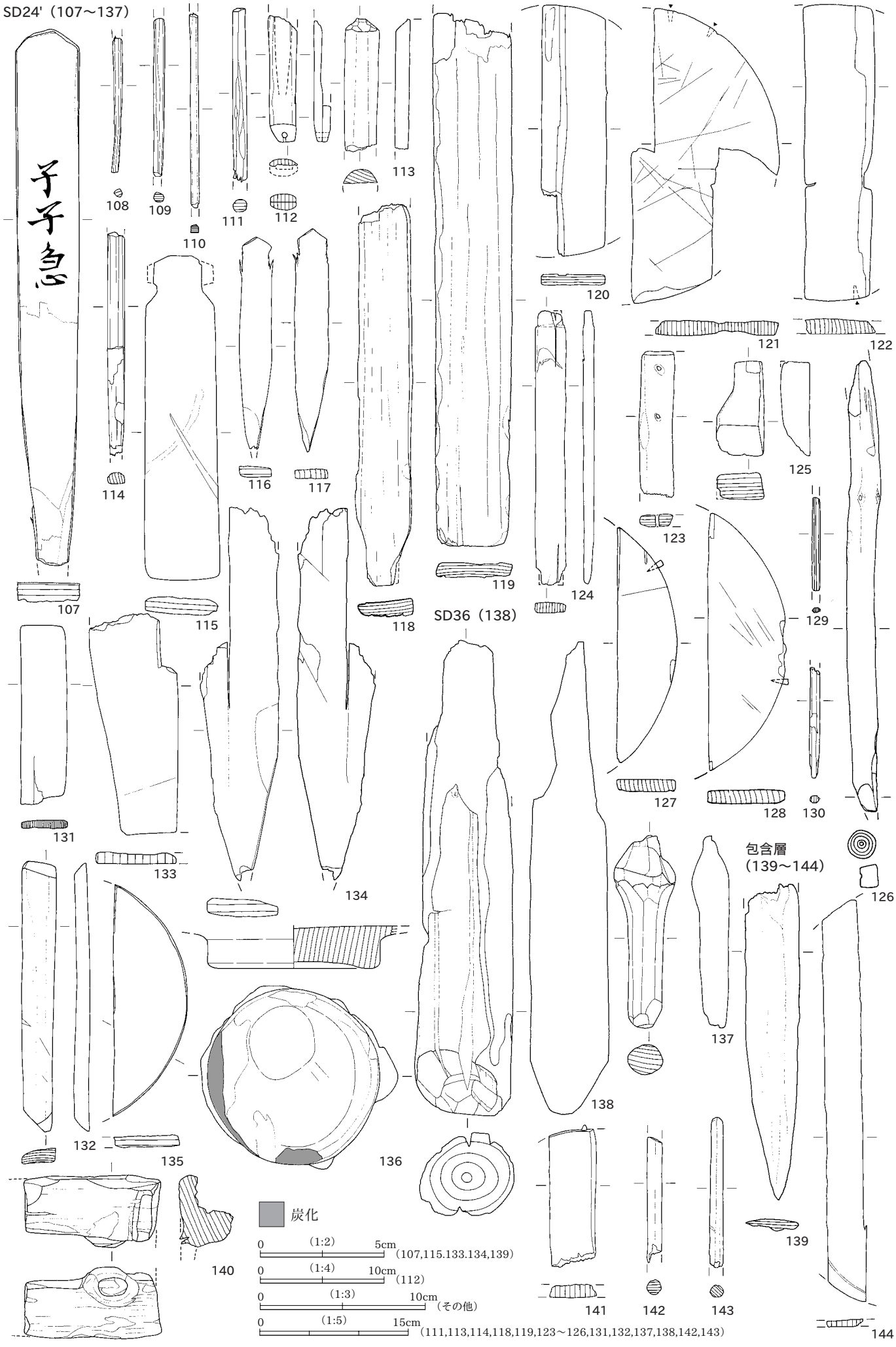
SB4（7～9）



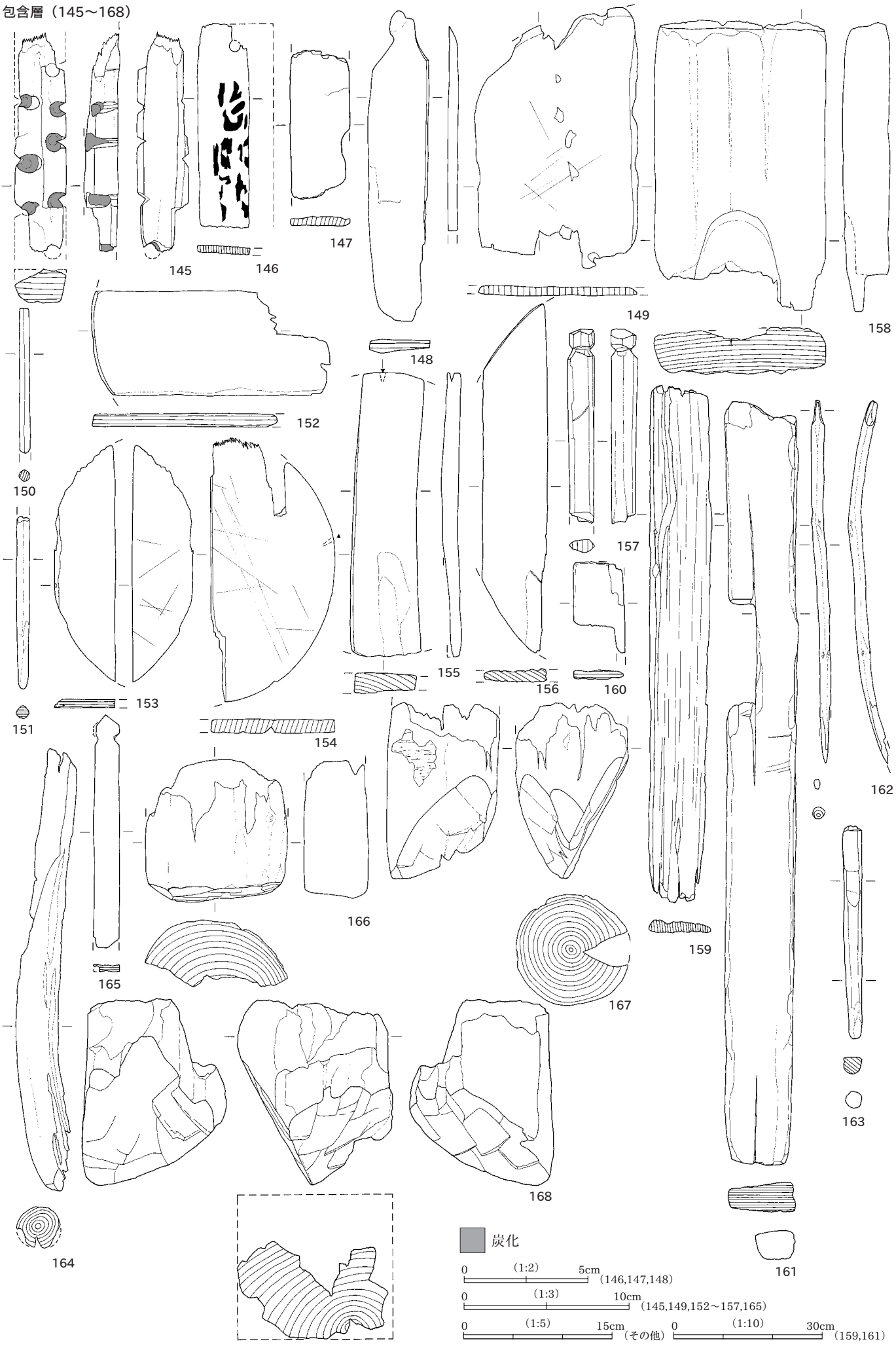

SA2（13～15）
SA3
（16～21）
14B7P1
（23）
SD16
（27）
SD20（28～37）
11B4P4
（22）
SE1
（24～26）
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
炭化
0 (1:2) 5cm (27)
0 (1:3) 10cm (24,25,28～31)
0 (1:5) 15cm (その他)


SD20
(38～44)
SD21
(45)
SD24
(46～70)
39
41
44
40
46
45
42
43
48
53
49
56
38
54
55
47
50
51
52
57
58
65
66
62
61
63
67
60
59
64
0 (1:2) 5cm (59,61～63)
0 (1:3) 10cm (39,40,45,47,48,51,52,64,66,67,)
0 (1:5) 15cm (その他)
炭化
70
68
69

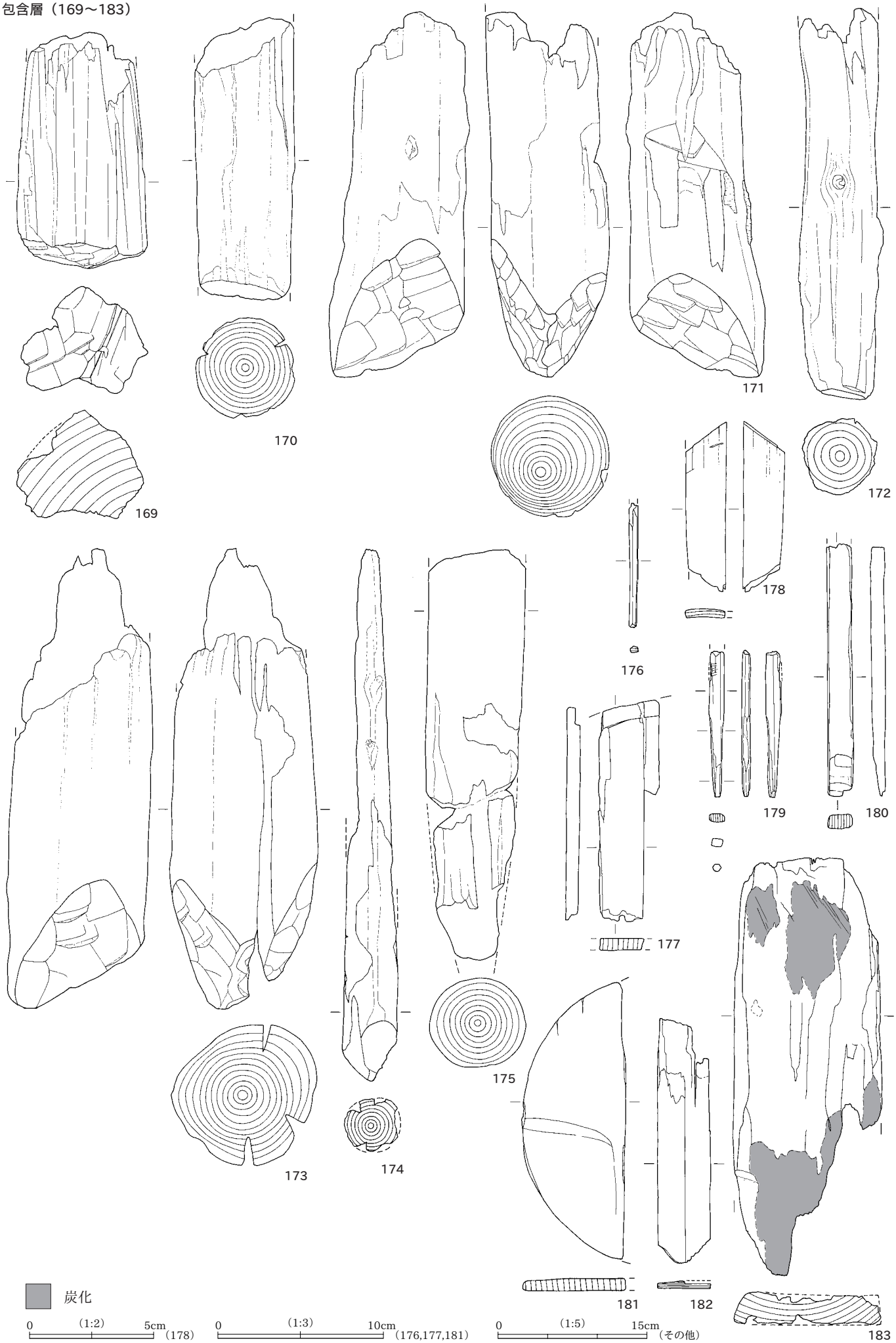

SD24（71～101）
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
SD24'（102～106）
103
104
105
106
0 (1:2) 5cm (84,106)
0 (1:3) 10cm (その他)
0 (1:5) 15cm (71～76,82,83,86～91,96～101)
0 (1:10) 50cm (77,92,93)
炭化


SD24'（107～137）
SD36（138）
包含層
（139～144）
炭化
0 (1:2) 5cm (107,115.133.134,139)
0 (1:4) 10cm (112)
0 (1:3) 10cm (その他)
0 (1:5) 15cm (111,113,114,118,119,123～126,131,132,137,138,142,143)

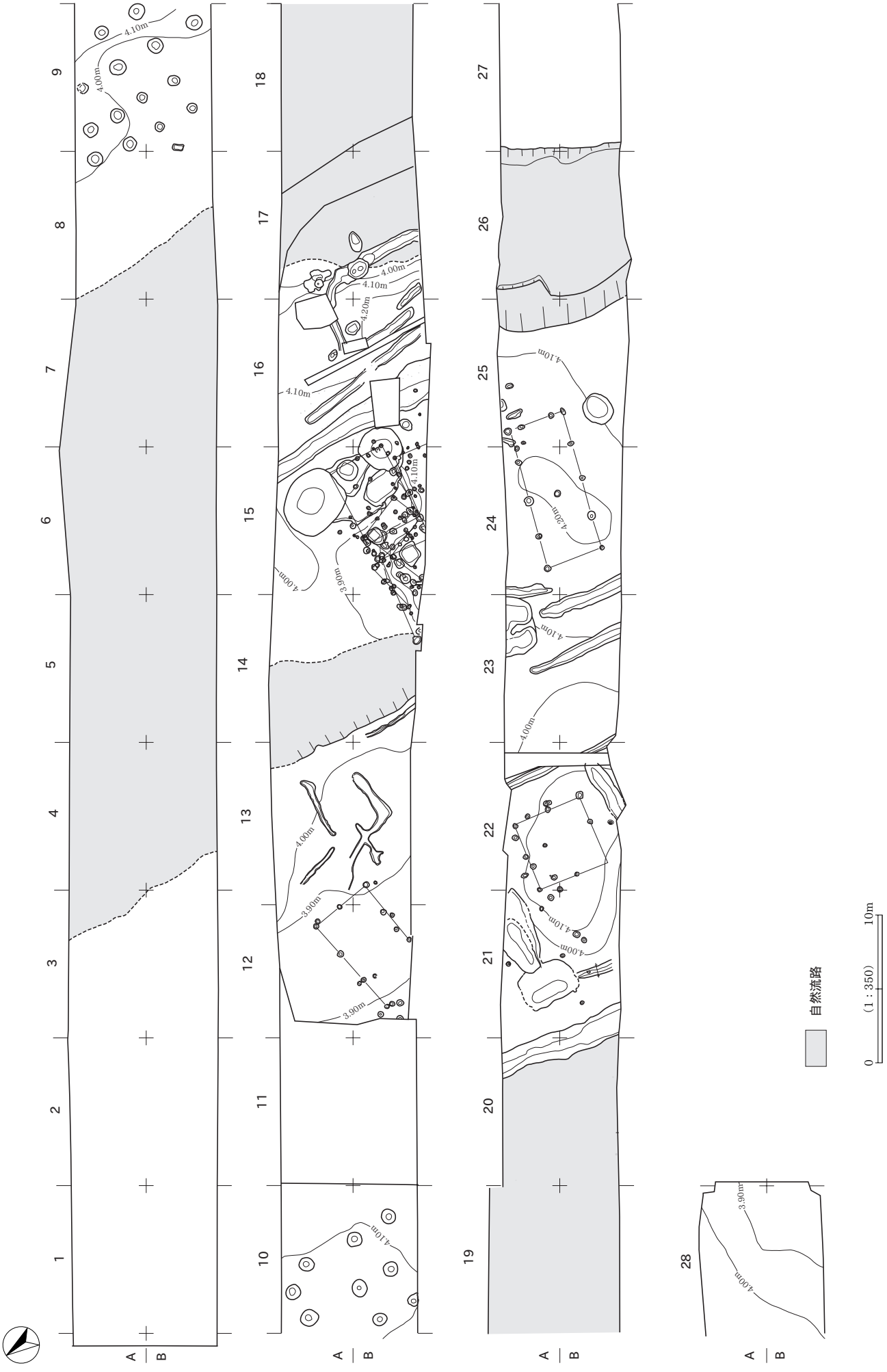
包含層（145～168）

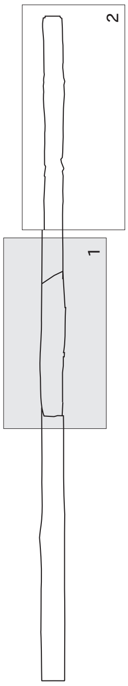

145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
163
164
165
166
167
168
炭化
0 (1:2) 5cm (146,147,148)
0 (1:3) 10cm (145,149,152～157,165)
0 (1:5) 15cm (その他)
0 (1:10) 30cm (159,161)

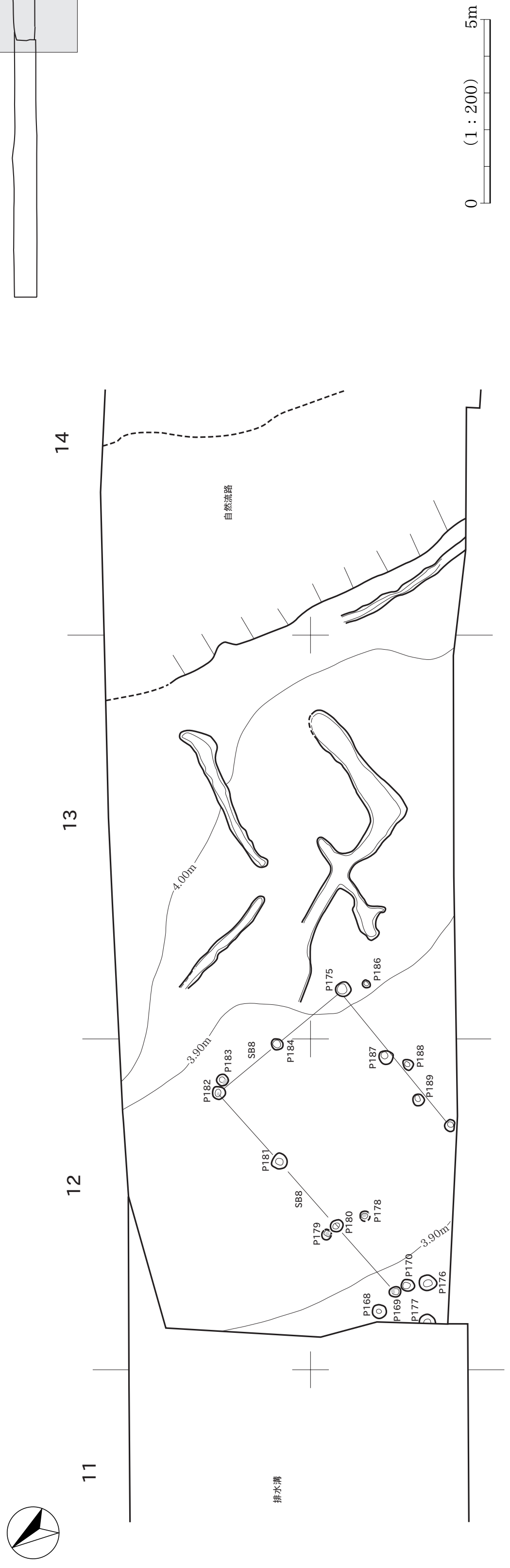
包含層（169～183）

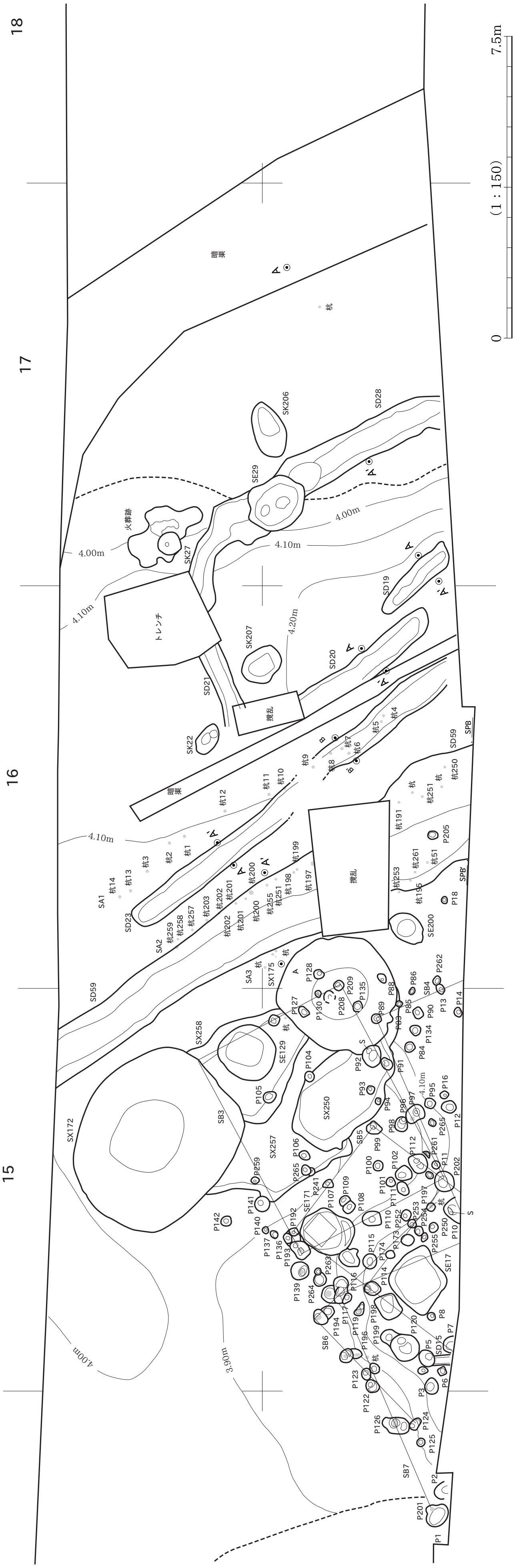

169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
炭化
0 (1:2) 5cm (178)
0 (1:3) 10cm (176,177,181)
0 (1:5) 15cm (その他)

砂山中道下遺跡　遺構全体図

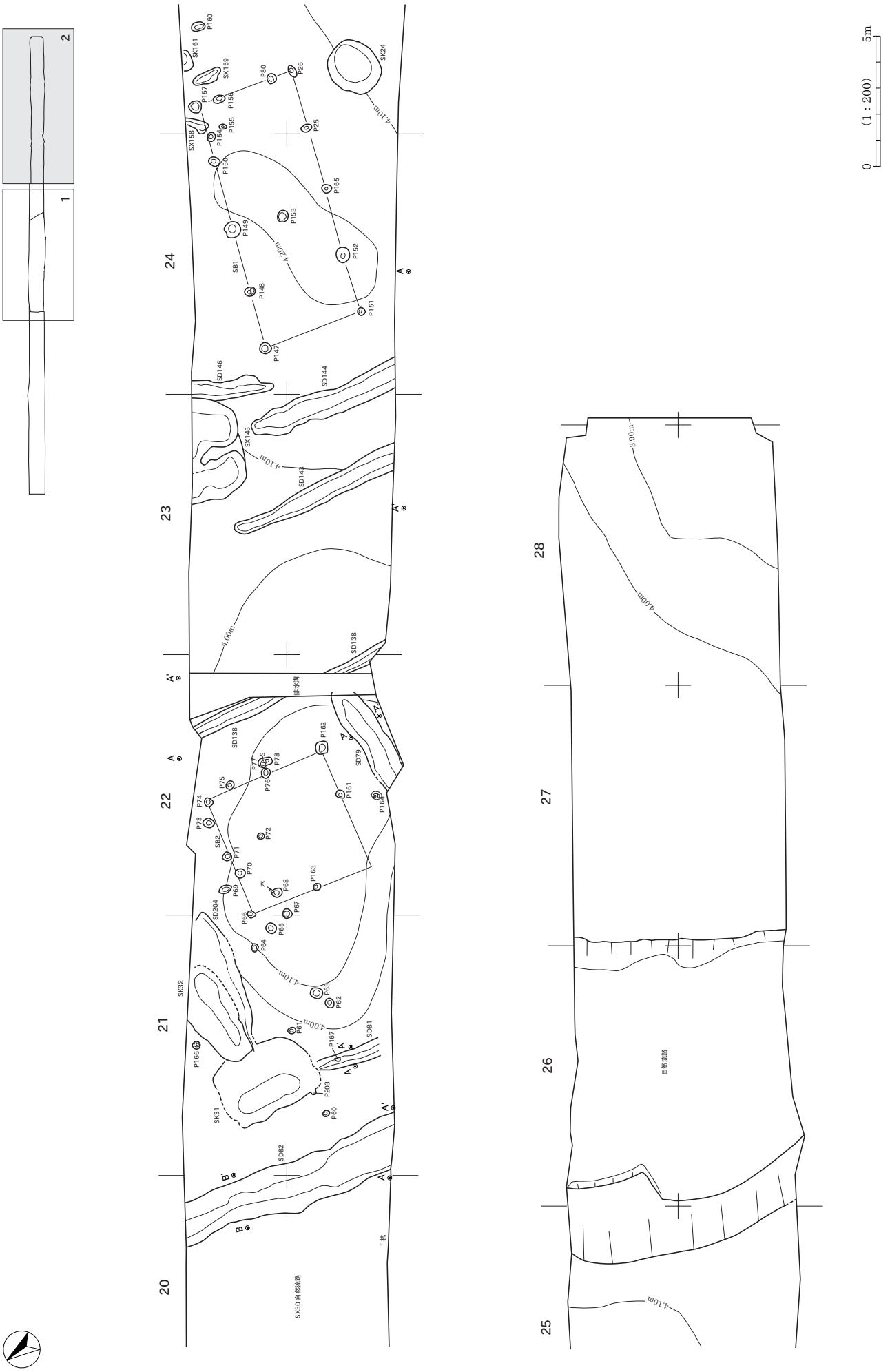


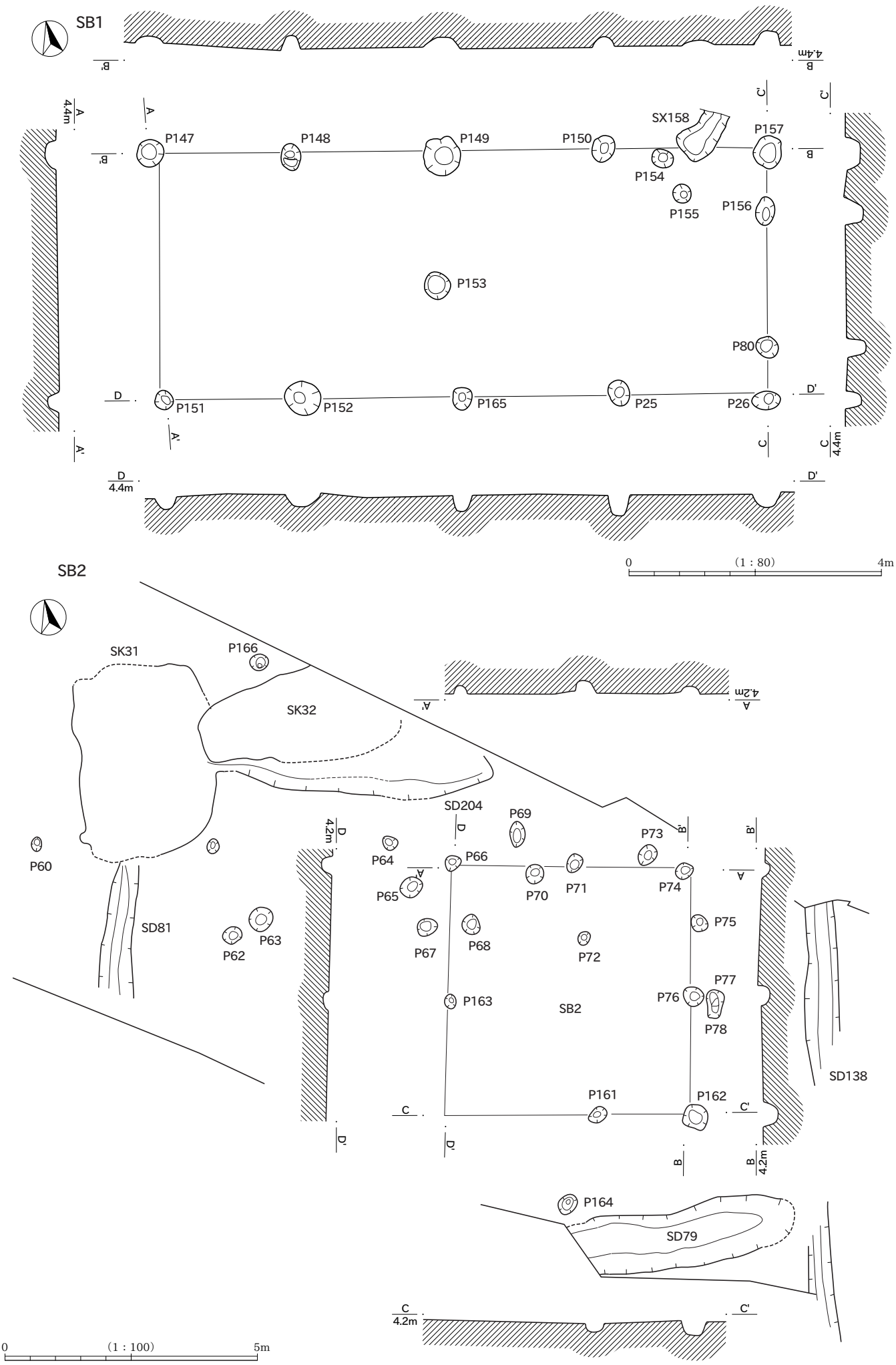

2
1

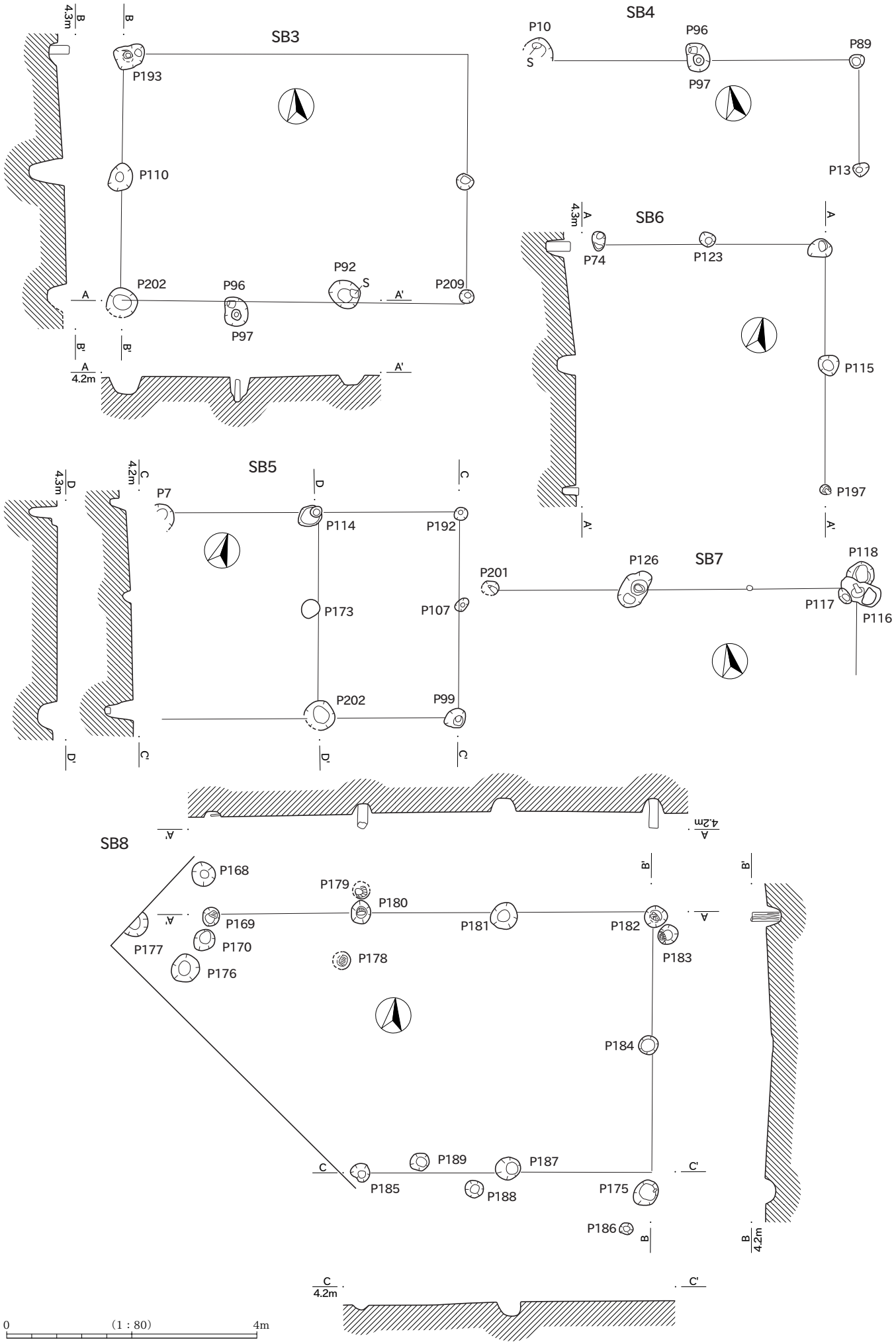

0
(1：200)
5m
14
13
12
11
自然流路
排水溝
4.00m
3.90m
SB8
P175
P186
P184
P183
P182
P187
P188
P189
P181
P179
P180
P178
P170
P176
P168
P169
P177


0
(1：150)
7.5m
18
17
16
15
SK206
SD28
SE29
火葬跡
SK27
4.00m
4.10m
4.20m
SD19
トレンチ
SK207
SD20
SD21
撹乱
SK22
SD59
4.10m
SA1
SD23
SA2
SE200
SA3
SX175
SX258
SE129
SX250
SX172
SB3
SX257
SE171
SE17
SB6
SB7
3.90m
4.00m

遺構分割図（2）

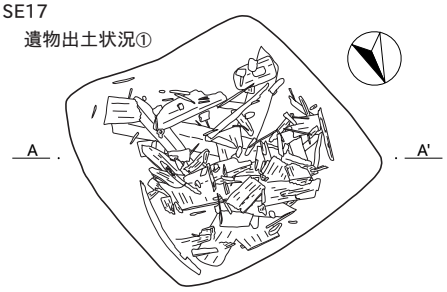

1
2
20
21
22
23
24
25
26
27
28
SX30 自然流路
SX31
SX32
SD82
SD81
SD204
SD138
SD143
SD144
SD146
SD79
SX145
SX158
SX159
SX161
SK24
SB1
SB2
排水溝
杭
自然流路
4.00m
4.10m
4.20m
3.90m
0
（1：200）
5m


SB1
P147
P148
P149
P150
SX158
P157
P154
P155
P156
P153
P80
P151
P152
P165
P25
P26
4.4m
SB2
SK31
P166
SK32
SD204
P69
P73
P60
P64
P66
P65
P70
P71
P74
SD81
P62
P63
P67
P68
P72
P75
P77
P76
P78
P163
SB2
SD138
P161
P162
P164
SD79
4.2m
0
(1 : 80)
4m
0
(1 : 100)
5m


SB3
P193
P110
P202
P96
P97
P92
S
P209
SB4
P10
S
P96
P97
P89
P13
SB6
P74
P123
P115
P197
SB5
P7
P114
P192
P173
P107
P202
P99
SB7
P201
P126
P118
P117
P116
SB8
P168
P179
P180
P169
P181
P182
P177
P170
P178
P183
P176
P184
P189
P187
P185
P188
P175
P186
A 4.3m
A 4.2m
B 4.3m
B 4.2m
C 4.2m
D 4.3m
0
(1 : 80)
4m

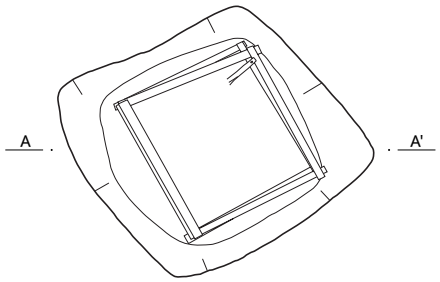
SE17

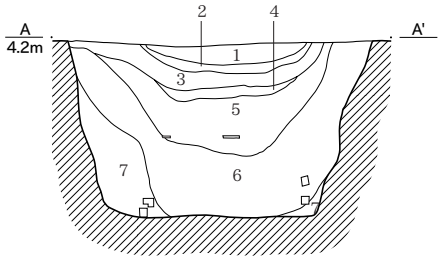
遺物出土状況①



遺物出土状況②

遺物出土状況③

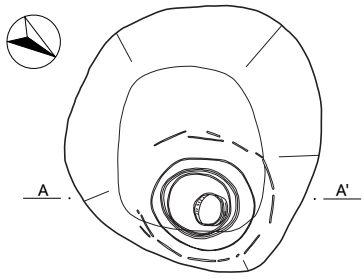


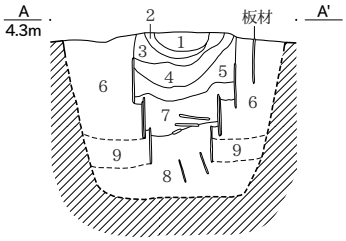


SE17
1　褐灰色シルト　基本土層⑤　1～2㎜の礫、炭化物を含む。
　粘性ややあり、しまりあり。
2　明褐灰色土　青灰色シルト（地山）　粘性弱、しまりあり
3　褐灰色土　基本土層⑤。炭化物少量含む。　1層より青灰シルト少。
　1～2㎜の礫を含む。粘性ややあり、しまりあり。
4　暗褐色ガツボ層　粘性、しまりややあり。
5　灰褐色ガツボ層　基本土層⑤。炭化物をまばらに含む。
　粘性あり、しまりややあり。
6　黒褐色土と明褐灰色土がブロック状に混入　基本土層③。
　植物遺体を含む。粘性あり、しまりややあり。
7　青灰色土　基本土層④。炭化物が斑に入る。
　粘性弱、しまりややあり。

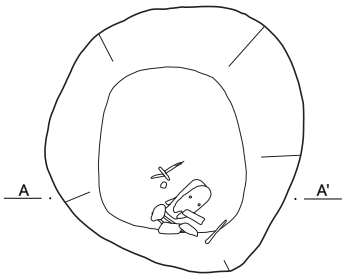
0　（1：40）　2m

SE129



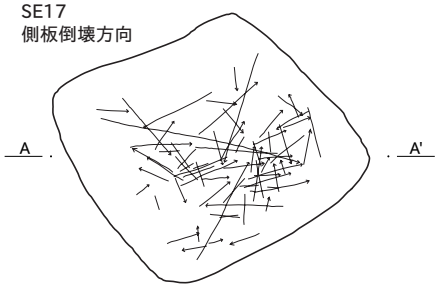


SE129遺物出土状況



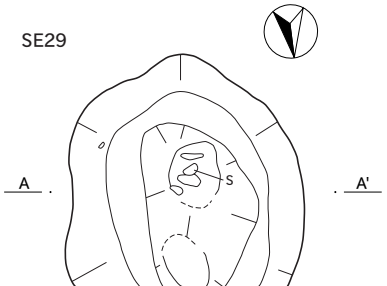
SE129
1　褐灰色土　基本土層④　1～2㎜の礫を小量含む。
　炭化物をまばらに含む。粘性ややあり、しまりあり。
2　褐灰色土　基本土層④　1～2㎜の礫をまばらに含む。
　炭化物をまばらに含む。粘性ややあり、しまりあり。
3　明褐灰色土　基本土層④　1～2㎜程度の礫を多く含む。
　炭化物をまばらに含む。粘性ややあり、しまりあり。"
4　黒褐色土　基本土層④　（1～2㎜）の礫をまばらに含む。
　炭化物をまばらに含む。　粘性あり　しまりややあり
5　褐灰色土　基本土層④　1～2㎜の礫をまばらに含む。
　炭化物をまばらに含む　粘性あり　しまり弱い
6　粗砂層
7　黒色のガツボ層　8層との境に植物遺体を含む。粘性あり、しまり弱。
8　砂層　部分的に褐色の粘質土との互層
9　基本土層③

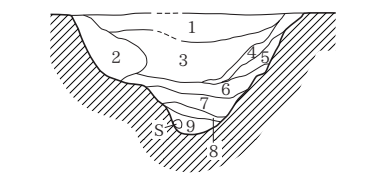
SE17
側板倒壊方向



	①	黒褐色土+砂混じり
遺構覆土	②	黄褐色砂（粗い）
基本土層	③	暗褐色粘質土
	④	炭混じり青灰色シルト
	⑤	黒褐色ブロック+青灰色シルト
	⑥	青灰色シルト（地山）

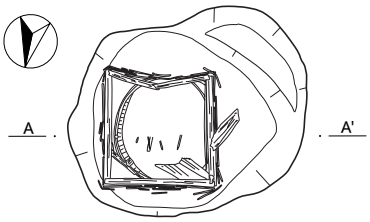
SE29

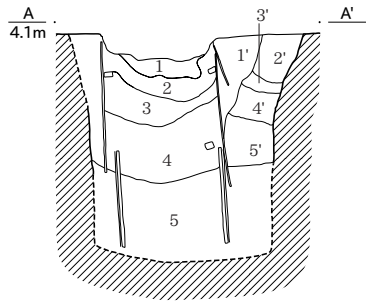




SE29
1　明褐灰色土　基本土層③+⑥。粘性ややあり、しまりあり。
2　黒褐色土　基本土層④。炭化物を多量に含む。
　青砂が混入。粘性ややあり、しまりあり。
3　褐灰色土　基本土層③。炭化物少量含む。粘性、しまりあり。
4　褐灰色土　基本土層③。炭化物をまばらに含む。
　粘性あり、しまりややあり。
5　灰褐色土　基本土層③+⑥。粘性あり、しまりややあり。
6　褐灰色土　基本土層⑥。炭化物をまばらに含む。
　粘性あり、しまりややあり。
7　褐灰色土　基本土層③。粘性あり、しまり弱。
8　明黄褐色土　基本土層②。2～3㎜程度の礫層。しまり強。
9　褐灰色土　基本土層③。炭化物をまばらに含む。粘性あり、しまり弱。

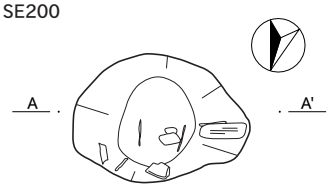
SE171

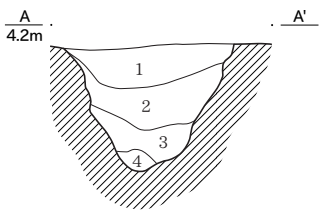




SE171
1　黒褐色土　基本土層④と⑤の中間。青灰色シルトは少量。
　炭化物は少量混入。　粘性あり、しまりややあり。
2　黒褐色土　基本土層④と⑤の中間。砂混入。炭化物は少量混入。
　粘性あり　しまりややあり
3　褐灰色土　基本土層④と⑤の中間。青灰色シルト少量混入。
　粘性あり、しまり弱。
4　黒褐色ガツボ層　粘性あり、しまり弱。
5　褐灰色土　基本土層⑥に③がブロック状に混入。
1'　褐灰色土　基本土層⑤。炭化物少量含む。粗い砂が混入。
　粘性ややあり、しまりあり。
2'　灰黄褐色土　基本土層⑤。炭化物少量含む。1'より粘性強。
　粗砂混入。しまりややあり。
3'　灰黄褐色　基本土層②。粘性弱い、しまりややあり。
4'　灰黄褐色土　基本土層②+③。炭化物少量含む。
　粘性あり、しまりややあり。
5'　灰黄褐色土　基本土層②+③。粗砂と粘質土の互層。
　粘性、しまりややあり。

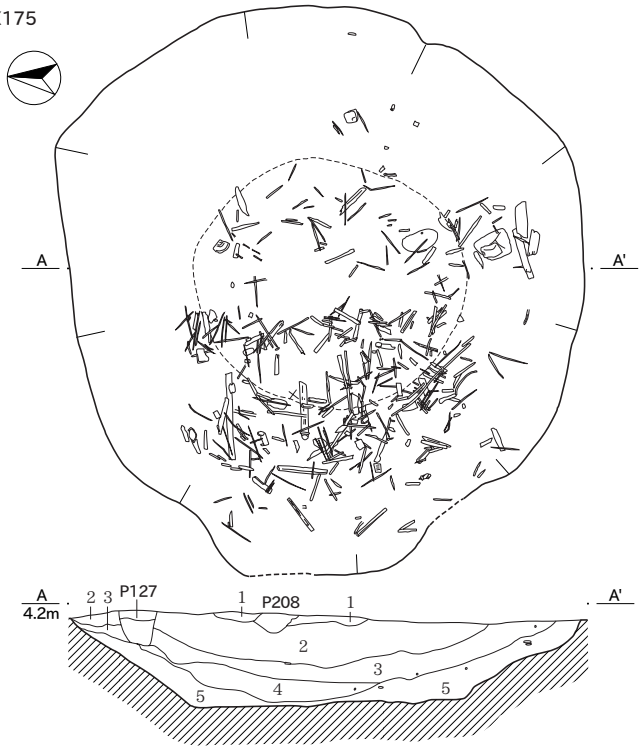
SE200





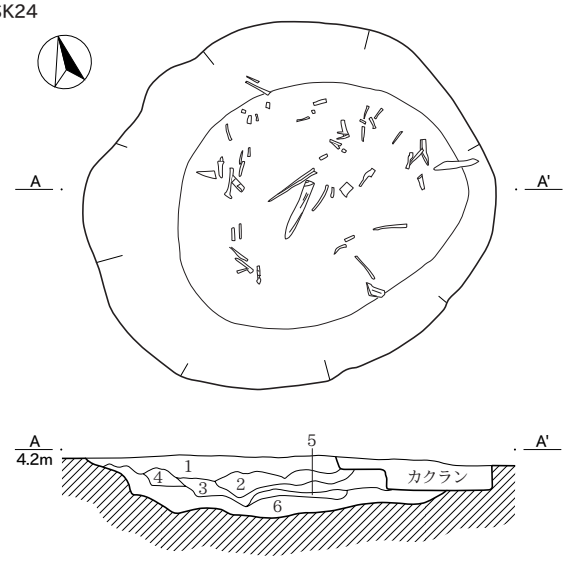
SE200
1　褐灰色土　基本土層④。1～2㎜の礫を含む。　中央と
　2層との境に2本の炭化層が入る。粘性弱、しまり強。
2　褐灰色土　基本土層④。炭化物をまばらに含む。　3層との
　境に薄いガツボ層が入る。　粘性ややあり、しまりあり。
3　褐灰色土　基本土層③。炭化物を多く含む。
　粘性あり、しまりややあり。
4　明褐灰色土　粗砂。　粘性なし、しまり弱。

SX175



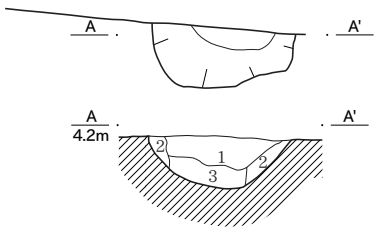
SX175
1　褐色色土　基本土層⑤。炭化物を含む。粘性ややあり、しまりあり。
2　明青灰色土　基本土層⑥。埋土。粘性弱い、しまりあり。
3　基本土層③＋ガツボ層　黒色・褐色ガツボ層と褐灰色
　シルトの互層。木片を多量に含む　粘性あり　しまり弱い
4　黒色ガツボ層　木片を多量に含む。粘性あり、しまり弱。
5　褐灰色シルト　基本土層③と④混入。炭化物を少量含む。
　粘性ややあり、しまりあり。

SK24



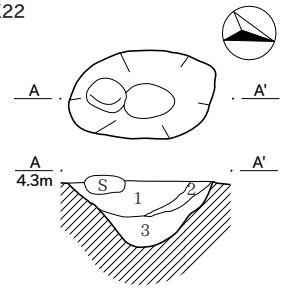
SK24
1　黒褐色土　基本土層③。細い砂を少量含む。
　未分解植物遺体を少量含む"
2　褐灰色土　基本土層③。1～5㎜程度の砂を少量含土
　炭化物、遺物を含む。
3　暗褐色土　基本土層③。炭化物を多量、腐食物を少量
　含む。遺物含む。
4　褐灰色土　基本土層③。色調青灰色をおびる。少量の砂含む。
5　黒色土　炭化した植物堆積層。遺物包む。
6　黒色土　腐植物、炭化物をやや多量に含む。3層に黒色の炭化
　物（5層）と同様な土をブロック状に含む。

SK161



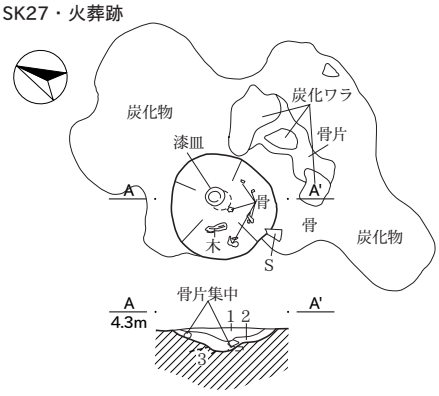
SK161
1　基本土層③
2　基本土層②に③を少量混合
3　基本土層③に②を混合

SK22



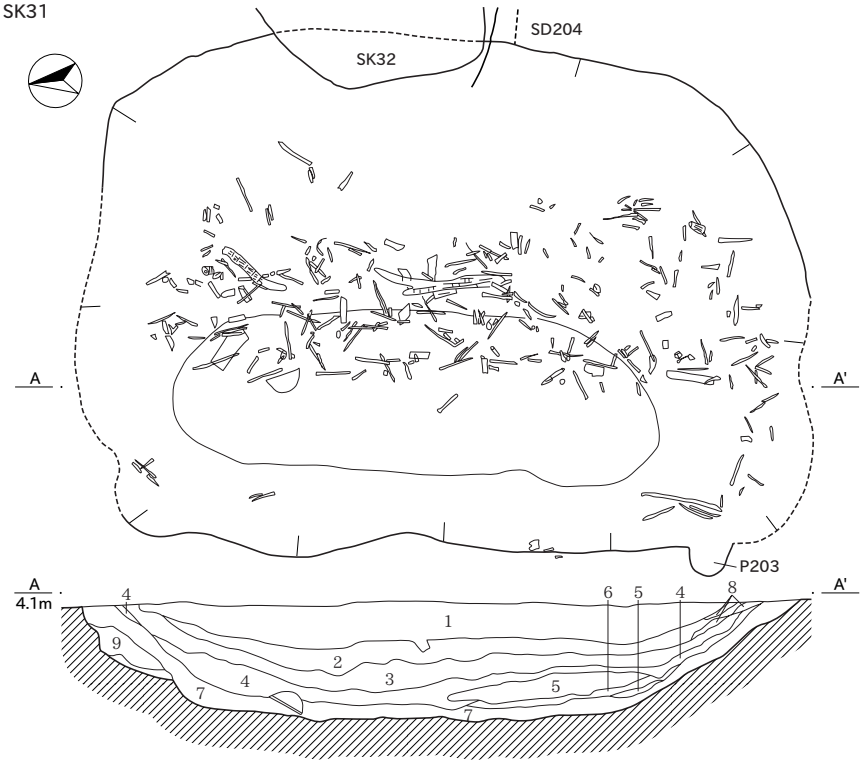
SK22
1　灰褐色土　　炭化物を少量含む。粘性あり、しまりややあり。
2　明青灰色土　粘性ややあり、しまりあり。
3　褐灰色土　炭化物を1層より多く含む。粘性あり、しまり弱。

SK27・火葬跡



SK27
1　灰褐色シルト　基本土層③。炭化物少量混入。
　骨片少量混入。粘性、しまりややあり
2　黒褐色炭化物層　木片、椀出土。骨片を多く含む。
　1層がブロック状に混入。粘性あり、しまりややあり
3　黒褐色炭化物層　粘性あり、しまりややあり。

SK31

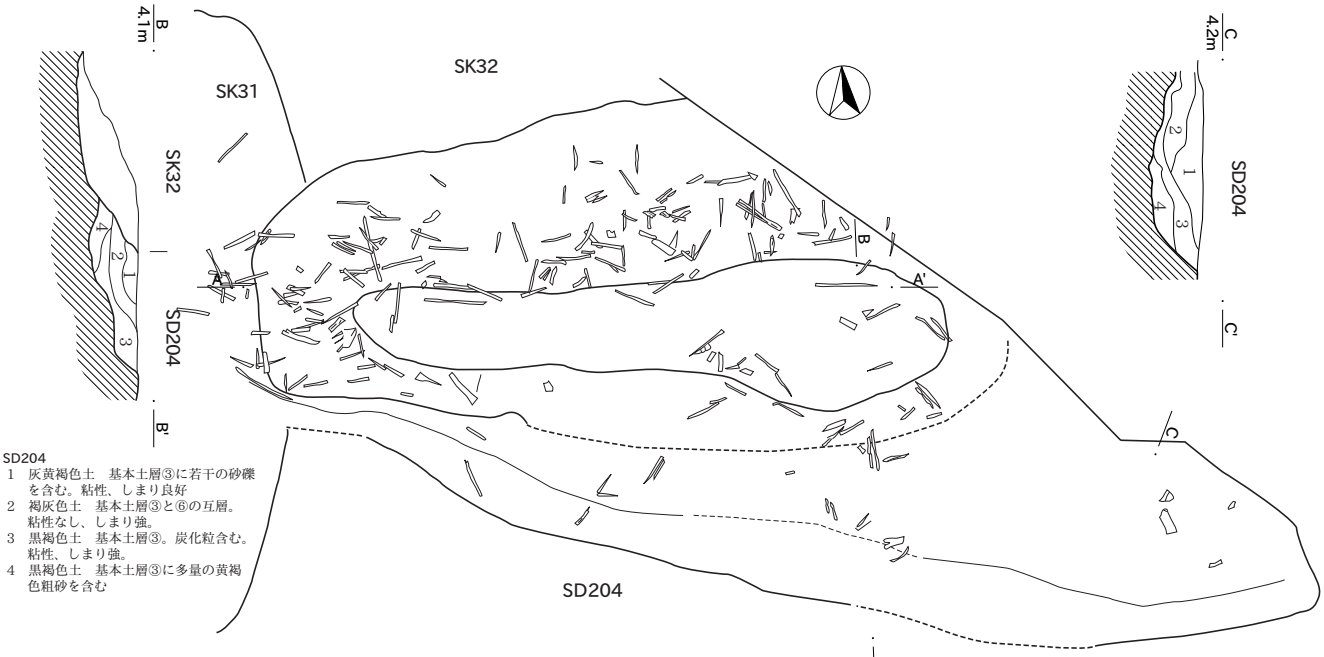


	①　黒褐色土+砂混じり
遺構覆土	②　黄褐色砂（粗い）
基本土層	③　暗褐色粘質土
	④　炭混じり青灰色シルト
	⑤　黒褐色ブロック+青灰色シルト
	⑥　青灰色シルト（地山）

SK31
1　暗褐色土　SK32の1層と同様。
2　黒褐色土　未分解植物遺体層。木器多量に出土。
　粘性あり　しまりなし
3　暗褐色土　未分解植物遺体層。上層に比べ若干
　褐色が強い。粘性若干あり、しまりなし。
4　黒色土　SK32の4層と同様　粘性若干あり　しまりなし
5　灰褐色土　粗い砂礫と未分解植物遺体層
　との混合　粘性、しまりなし
6　黒褐色土　4層に比べ粘性が強く、褐色が強い。
　粘性、しまり良好
7　灰褐色土　基本土層③に類似。未分解植物遺体を
　若干含む　粘性、しまり良好
8　褐灰色土　2層に近似するが若干黒味が強い
9　暗褐色土　1層とシルトの混合　粘性、しまり強。

0　（1：40）　2m

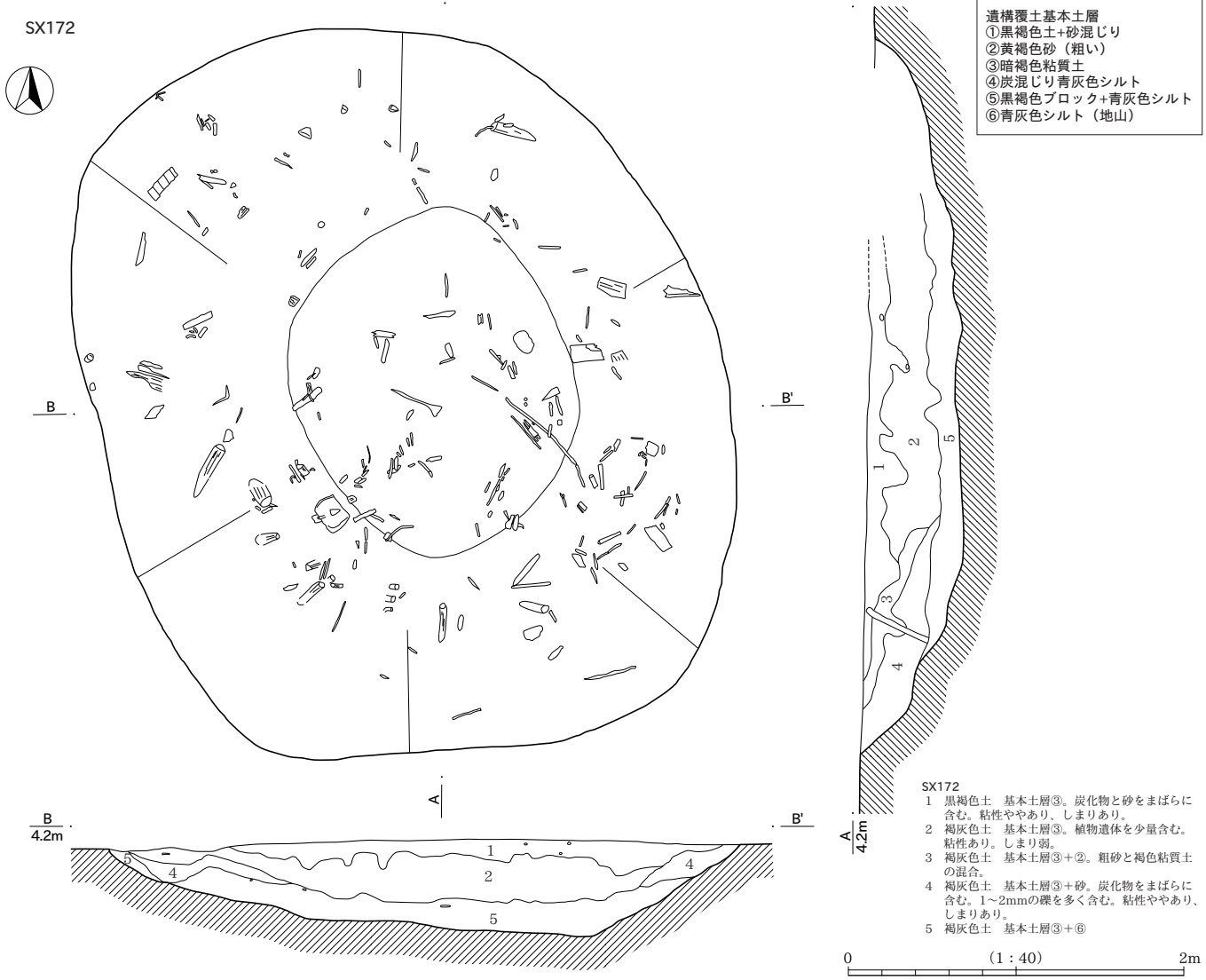
SK32・SD204



SD204
1　灰黄褐色土　基本土層③に若干の砂礫を含む。粘性、しまり良好
2　褐灰色土　基本土層③と⑥の互層。粘性なし、しまり強。
3　黒褐色土　基本土層③。炭化粒含む。粘性、しまり強。
4　黒褐色土　基本土層③に多量の黄褐色粗砂を含む

SK32
1　暗褐色粘質土　基本土層③。シルト分が強く全体的にしまっているがさらさらしている。
2　黒褐色シルト　1層に4層の黒色土が混合。
3　モミガラ堆積　未分解植物層とモミガラの堆積層。粘性、しまりなし
4　炭化層　未分解植物が炭化し黒色化している。
5　暗褐色土　基本土層③に若干の未分解植物遺体を含む。粘性、しまり強。
6　5層と同様だが砂質分が強い。粘性、しまり強。
7　褐色土　1層と基本土層⑥の混合。

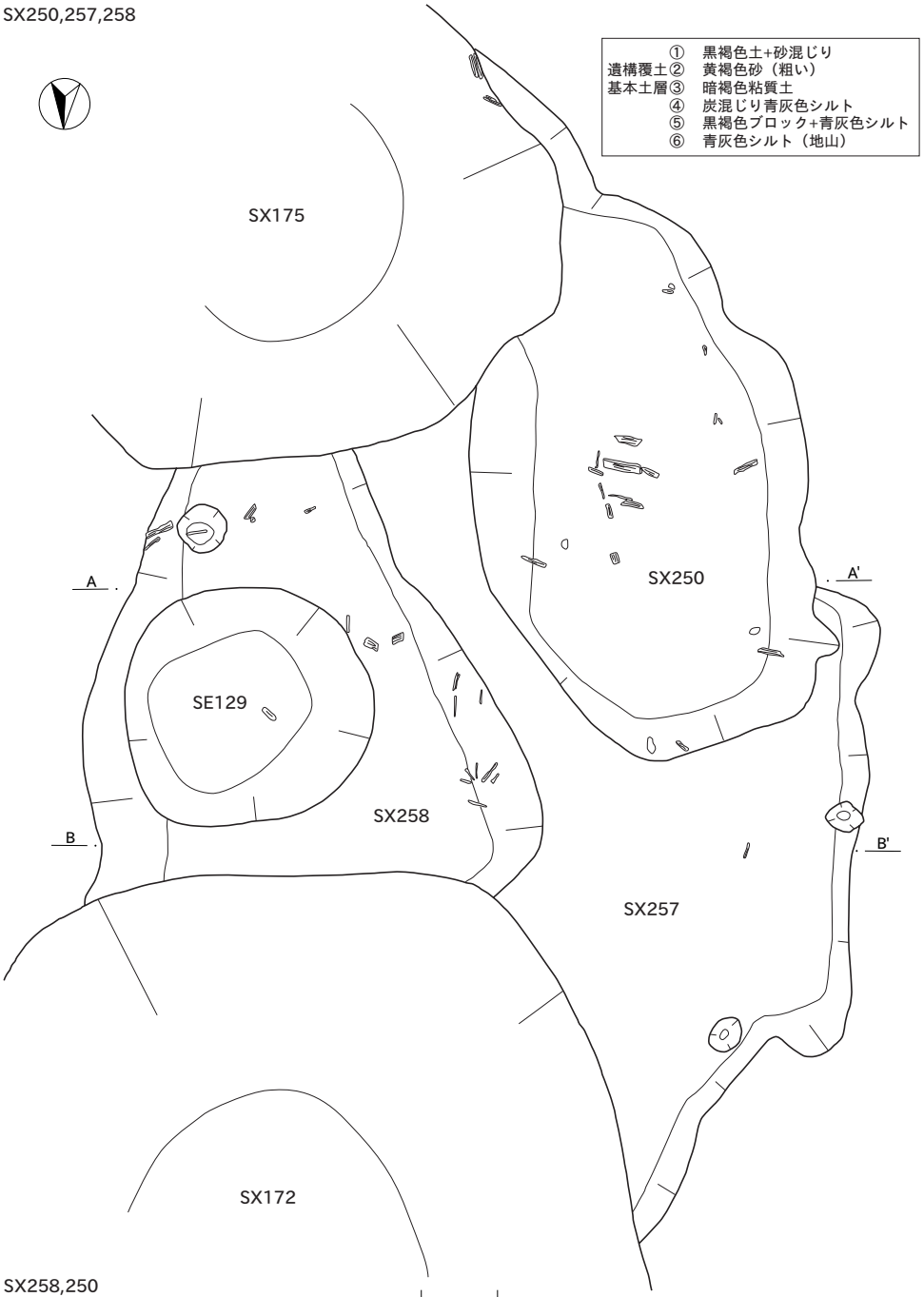
遺構覆土基本土層
①黒褐色土+砂混じり
②黄褐色砂（粗い）
③暗褐色粘質土
④炭混じり青灰色シルト
⑤黒褐色ブロック+青灰色シルト
⑥青灰色シルト（地山）



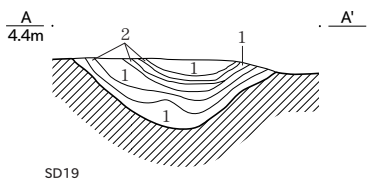
SX172
1　黒褐色土　基本土層③。炭化物と砂をまばらに含む。粘性ややあり、しまりあり。
2　褐灰色土　基本土層③。植物遺体を少量含む。粘性あり。しまり弱。
3　褐灰色土　基本土層③+②。粗砂と褐色粘質土の混合。
4　褐灰色土　基本土層③+砂。炭化物をまばらに含む。1～2mmの礫を多く含む。粘性ややあり、しまりあり。
5　褐灰色土　基本土層③+⑥

0　（1：40）　2m

SX250,257,258

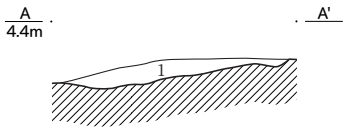


SD19



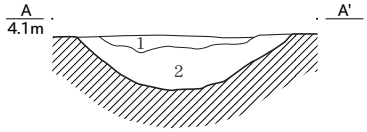
SD19
1 炭混り青灰色シルト　褐灰色土と灰白色土の砂層。しまりあり。
2 炭化物層　部分的に褐灰色の粘質土を含む。しまりややあり。

SD20



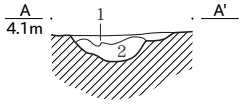
SD20
1 暗青灰色土　炭化物混入。灰褐色の粘質土を部分的に含む。しまりあり。

SD79



SD79
1 基本土層③
2 基本土層火③に粗黄褐砂が混合。

SD81

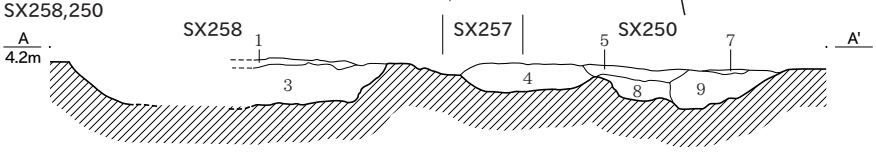


SD81
1 褐灰色土　基本土層③。炭化粒を若干含む。粘性、しまり強。
2 褐灰色土　基本土層⑥に③のブロックを少量含む。SK31に切られている。粘性、しまり弱。

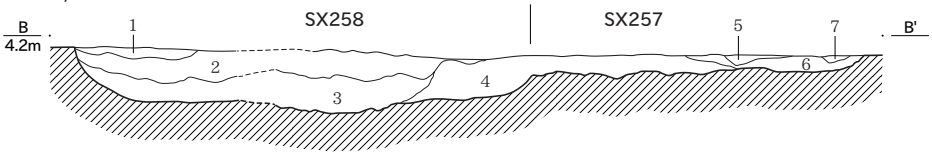
SX250,SX257,SX258
1 暗褐色土　基本土層③。炭化物が混入。砂を含む。
2 褐色土　基本土層③。炭化物混入。
砂礫が部分的に入る　1層より粘質が強い
3 灰黄褐色土　基本土層③。炭化物混入。植物堆積物が混入。
4 灰黄褐色土　基本土層③。植物堆積物が混入。炭化物は3層より少量。
5 暗褐色土　基本土層③。炭化物少量混入。1層より粘質が弱。
6 にぶい黄橙色土　基本土層③+⑥　炭化物少量混入。
7 暗褐色土　基本土層③。炭化物多量に含む。砂礫が含む。
8 灰黄褐色土　基本土層③+⑥。炭化物多量に含む。植物堆積物が混入。
9 灰黄褐色土　基本土層③+⑥。炭化物多量に含む。植物堆積物混入。砂礫が多く含む。

SX30
1　褐灰色土　シルト　基本土層③と⑥の互層。粘性ややあり、しまりあり。
2　明青灰色土シルト　基本土層③と⑥の互層。炭化物少量混入。粘性ややあり、しまりあり。
3　黒褐色土　基本土層④。炭化物の層と1～2mmの礫を少量含む。粘性ややあり、しまり強い。
4　黒色土　3層と異なり礫を含まない。粘性ややあり、しまり強。
5　褐灰色土　基本土層③。粘性ややあり、しまりあり。
6　明青灰色シルト　基本土層⑥。粘性弱い、しまりあり。
7　褐灰色土　基本土層④。炭化物を少量含む（10層より多い）。粘性、しまりややあり。
8　褐灰色シルト　粘性弱、しまりあり。
9　黒褐色ガツボ層　木片を多く含む。粘性あり、しまり弱。
10　褐灰色土　基本土層③と⑥の互層。11層より暗褐色
粘質土が多い。炭化物を少量含む（7層より少ない）。
11　明青灰色シルト　基本土層⑥。粘性弱、しまりあり。
12　褐灰色土　基本土層③と⑥の互層。10層と同様だが炭化物なし。粘性ややあり、しまりあり。

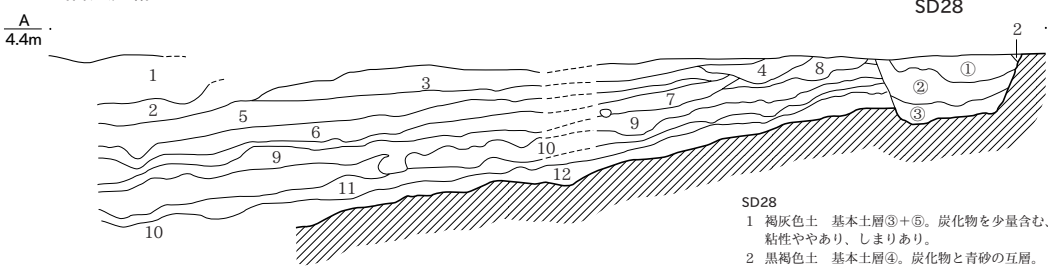
SX258,250



SX258,257



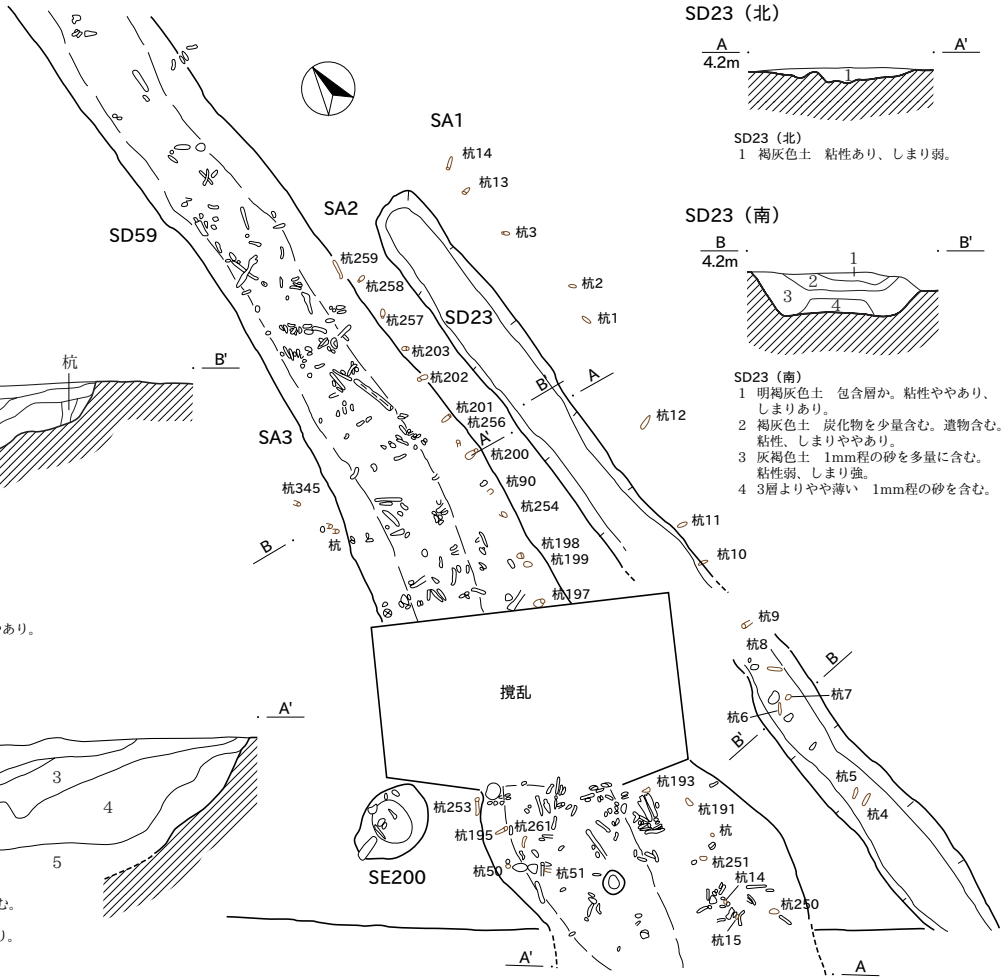
SX30（自然流路）



SD28
1 褐灰色土　基本土層③+⑤。炭化物を少量含む、粘性ややあり、しまりあり。
2 黒褐色土　基本土層④。炭化物と青砂の互層。粘性弱い、しまりややあり。
3 灰褐色度　基本土層⑥。青砂層と褐色砂混入。粘性弱、しまりあり。

0　（1：40）　2m

遺構覆土②　①　黒褐色土+砂混じり
　　黄褐色砂（粗い）
基本土層③　暗褐色粘質土
　　④　炭混じり青灰色シルト
　　⑤　黒褐色ブロック+青灰色シルト
　　⑥　青灰色シルト（地山）



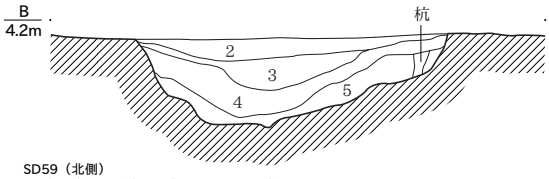
SD23（北）

SD23（北）
1　褐灰色土　粘性あり、しまり弱。

SD23（南）

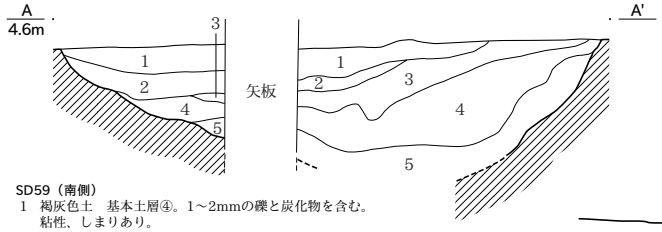
SD23（南）
1　明褐灰色土　包含層か。粘性ややあり、しまりあり。
2　褐灰色土　炭化物を少量含む。遺物含む。粘性、しまりややあり。
3　灰褐色土　1mm程の砂を多量に含む。粘性弱、しまり強。
4　3層よりやや薄い　1mm程の砂を含む。

SD59（北）



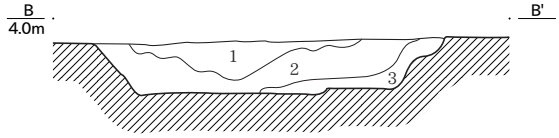
SD59（北側）
2　褐灰色土　基本土層④。1～2mmの礫を含む。粘性ややあり、しまりあり。
3　褐灰色土　基本土層④。炭化物をまばらに含む。粘性ややあり、しまりあり。
4　褐灰色土　基本土層④＋③少々混合。炭化物をまばらに含む。粘性あり、しまり弱。
5　褐灰色土　基本土層③＋⑥混入。粘性、しまりややあり。

SD59（南）



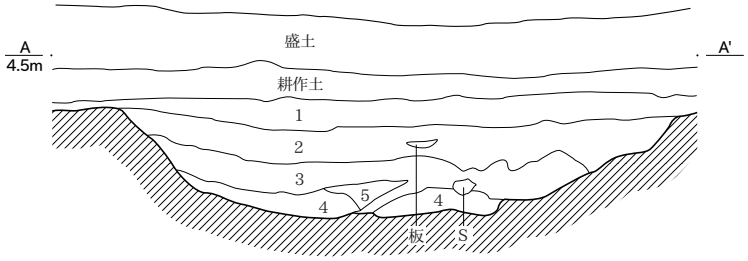
SD59（南側）
1　褐灰色土　基本土層④。1～2mmの礫と炭化物を含む。粘性、しまりあり。
2　褐灰色シルト　炭化物を含む。粘性、しまりややあり。粘性1層より少ない
3　褐灰色土　基本土層④＋③少々混合。炭化物を少量含む。粘性、しまりややあり。
4　褐灰色土　基本土層④。炭化物を含む。粘性あり、しまり弱。
5　褐灰色土　基本土層④+③。粘性、しまりややあり。

SD82（北）



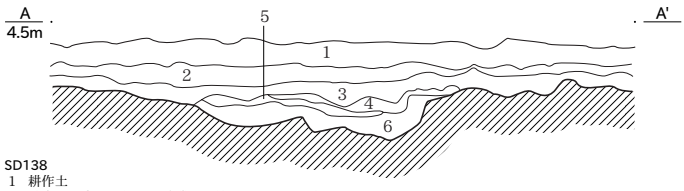
SD82（北）
1　基本土層③にシルトが若干混合。
2　基本土層③に⑥①、粗砂が部分的に混合。
3　2層と同様だが青灰色シルト（地山）、黒褐色＋砂混りの粗砂の含有が多い。

SD82（南）



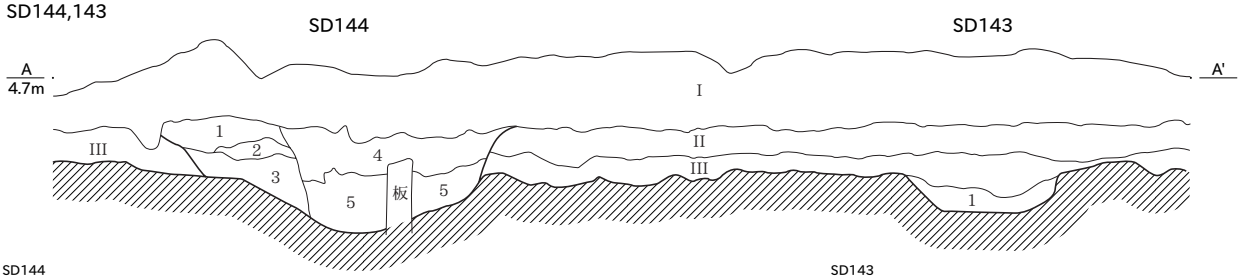
SD82（南）
1　灰黄褐色土　基本土層③にシルトが混合。粘性、しまり強。
2　灰黄褐色土　基本土層③。炭化粒を若干含む。粘性、しまり強。
3　黒褐色土　基本土層③にシルトを含む。粘性、しまり強。
4　黒褐色土　基本土層③にシルトを含む。青灰シルトの混合が多い　粘性、しまり良好
5　黒褐色土　4層に近似。基本土層②が混合。

SD138



SD138
1　耕作土
2　基本土層①に類似。　砂礫少。粘性弱、しまり強。
3　基本土層③　粘性強、しまり強。
4　黒色土　3層と多量の炭化粒との混合　粘性、しまり弱。
5　極暗赤褐色土　未分解食物腐食層　粘性、しまり弱。
6　暗褐色土　暗褐色粘質土を主体に黄褐砂の荒砂含む。

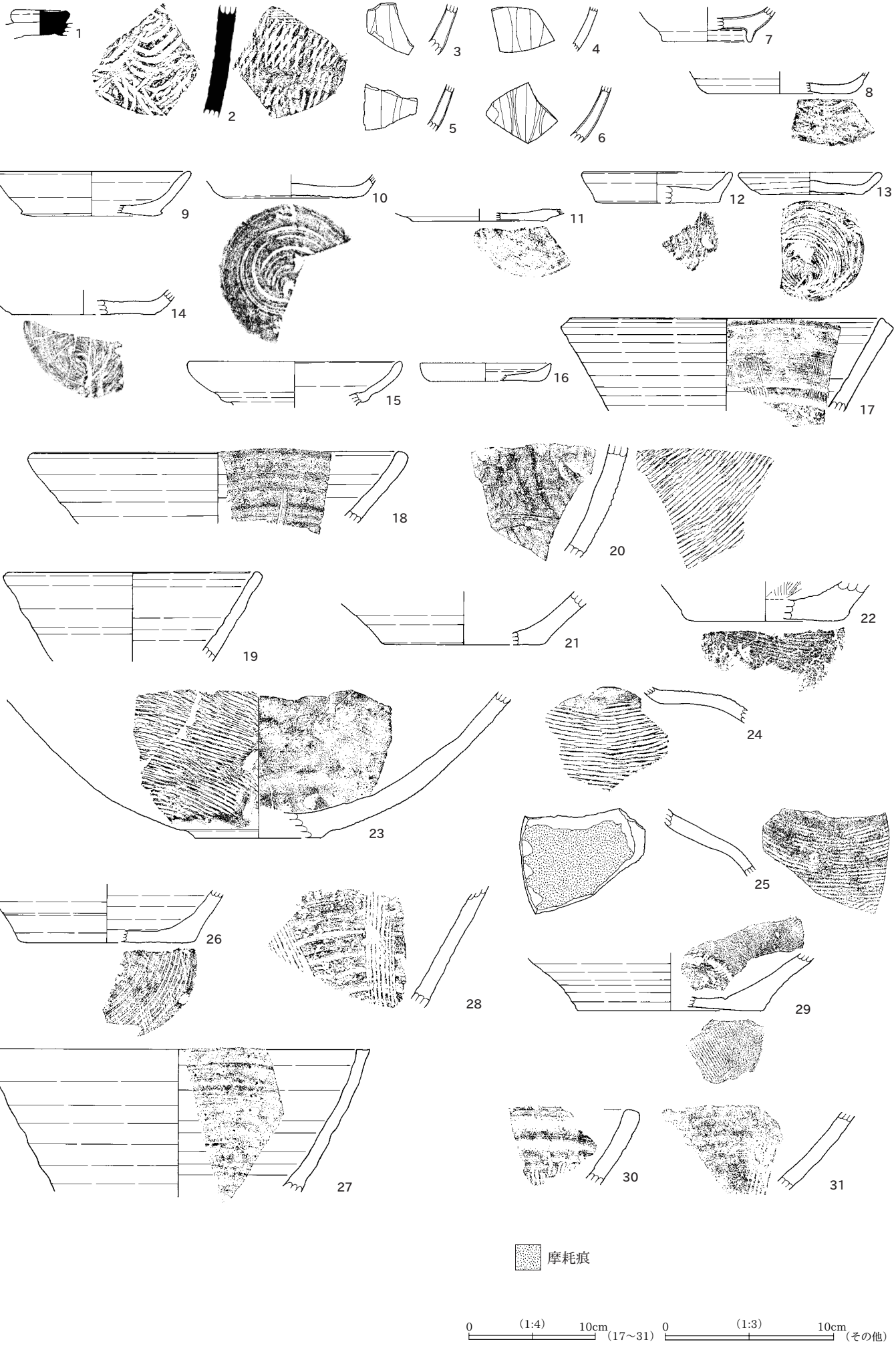
SD144,143

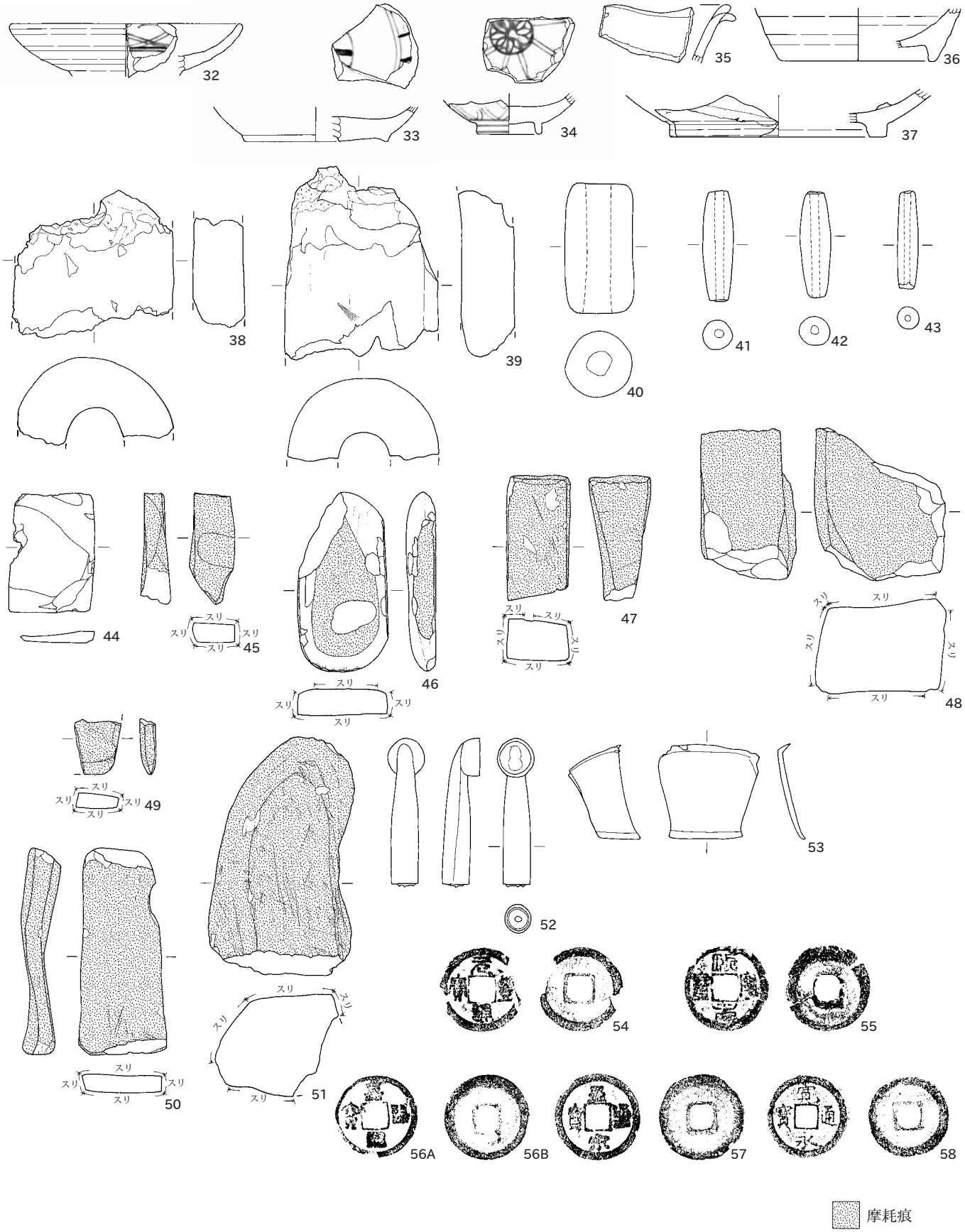


SD144
1　基本土層③に若干のシルト含む。粘性、しまり強。
2　暗褐色土　上層に類似。炭化粒含む。粘性、しまり強。
3　暗褐色土　基本土層③に炭化粒を含む。粘性強、しまり強。
4　にぶい黄褐色土　基本土層③と多量の黄灰シルト混入。粘性なし、しまり強。
5　暗褐色土　3層に類似。シルトブロックを多量に含む。粘性強、しまり弱。

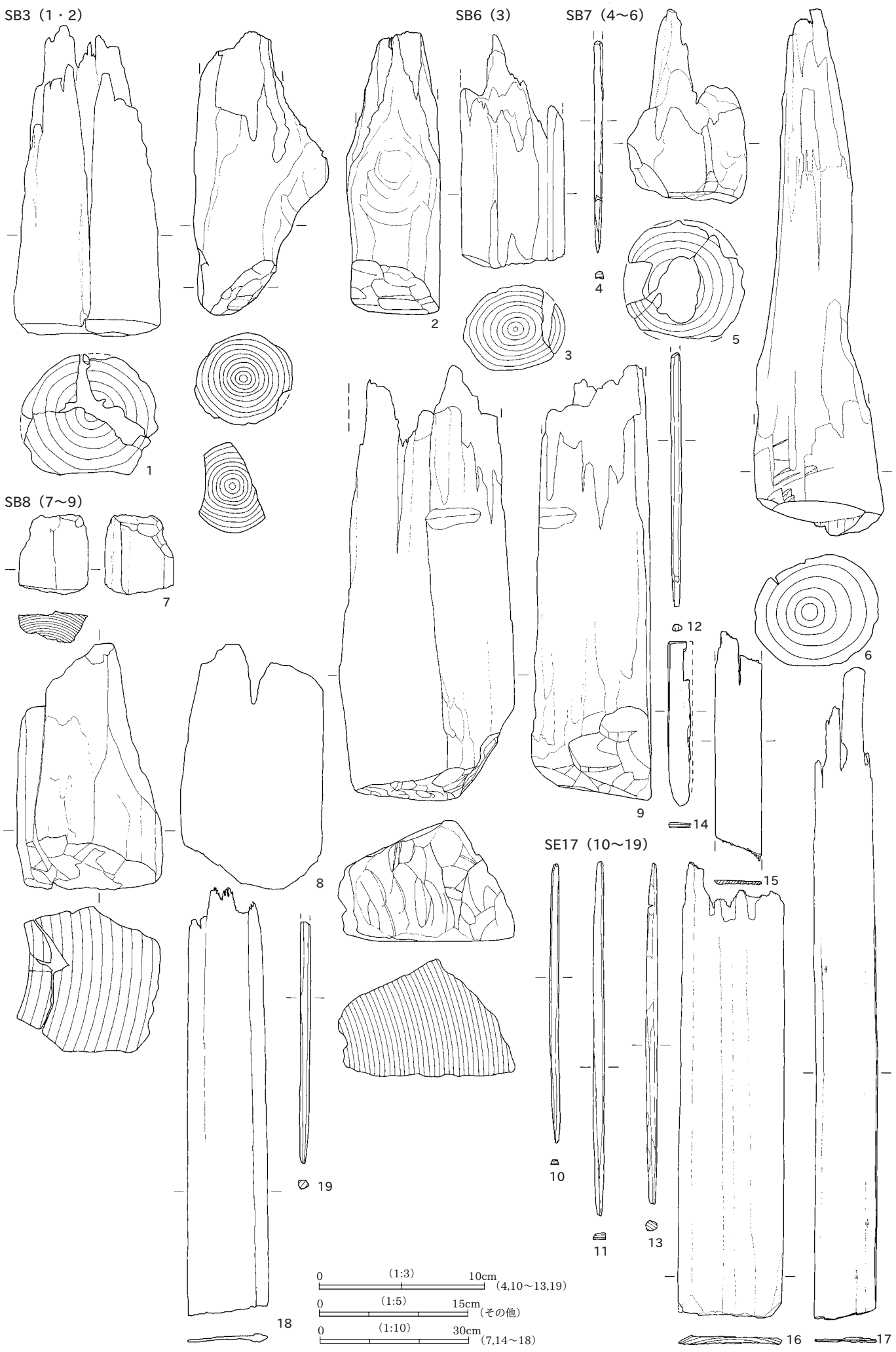
SD143
1　暗褐色土　基本土層③に類似。シルトブロックを多量に含む。粘性強、しまり弱。

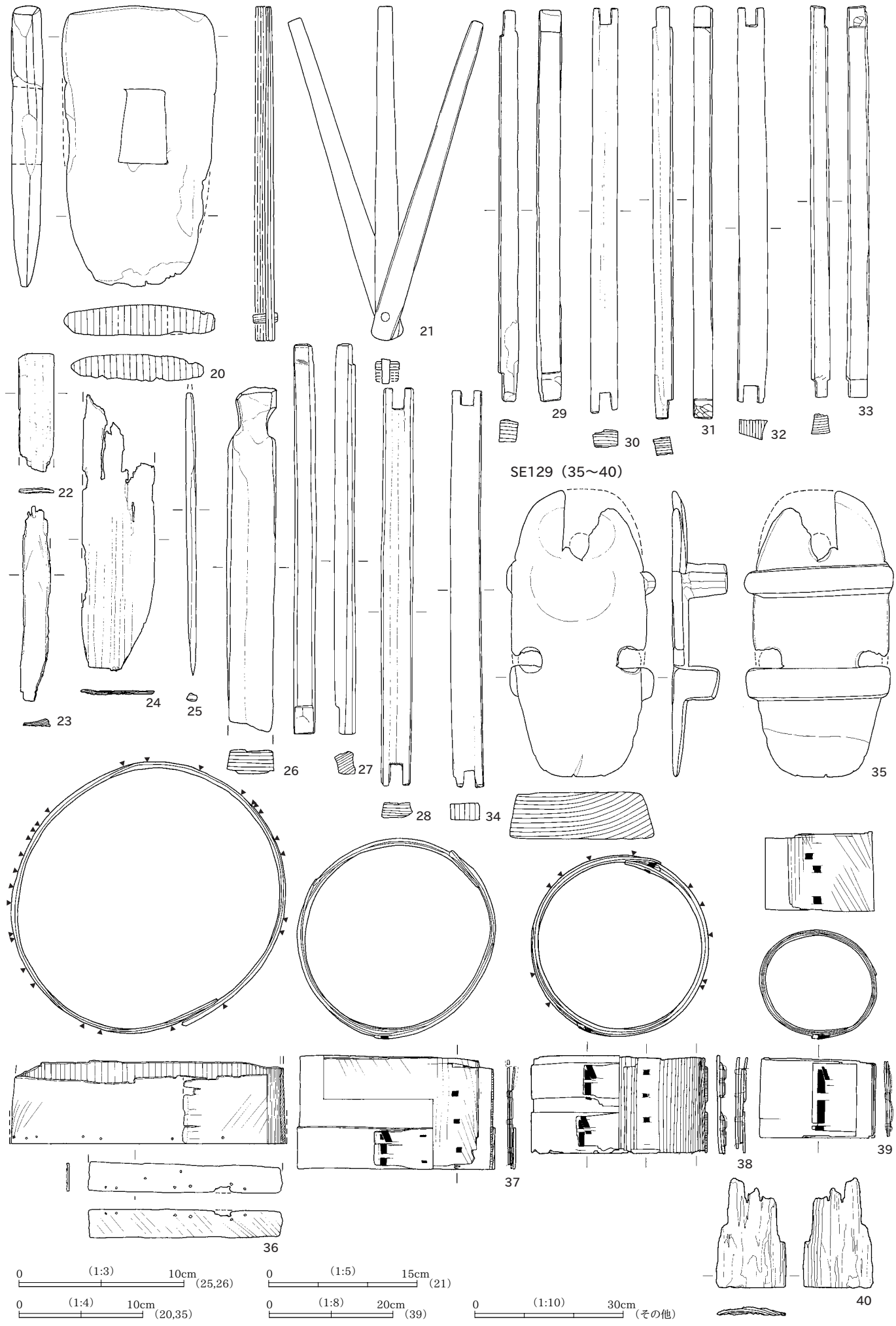
0　（1：80）平面図　4m　　0　（1：40）断面図　2m

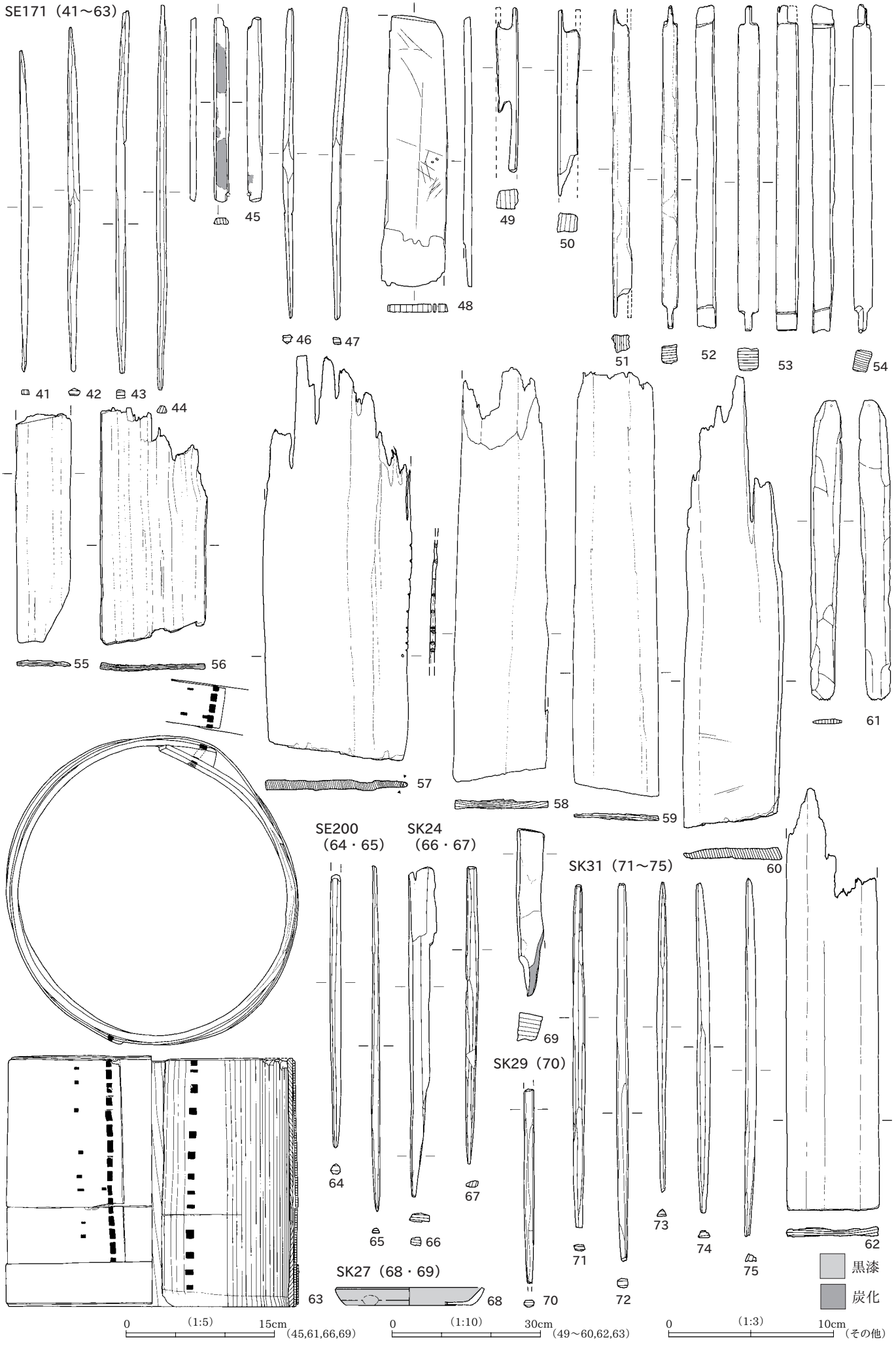

1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
摩耗痕
0 (1:4) 10cm (17～31)
0 (1:3) 10cm (その他)

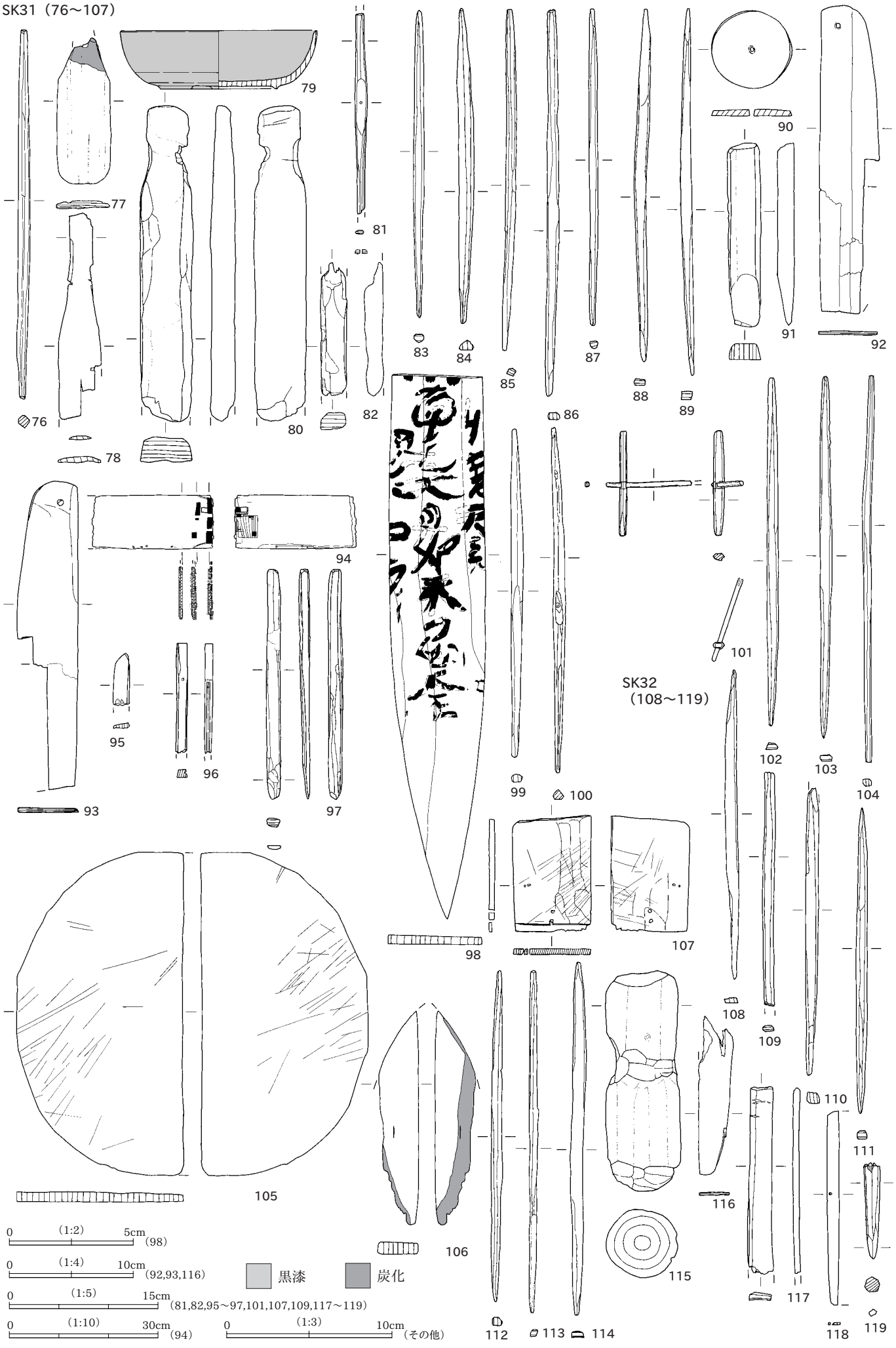


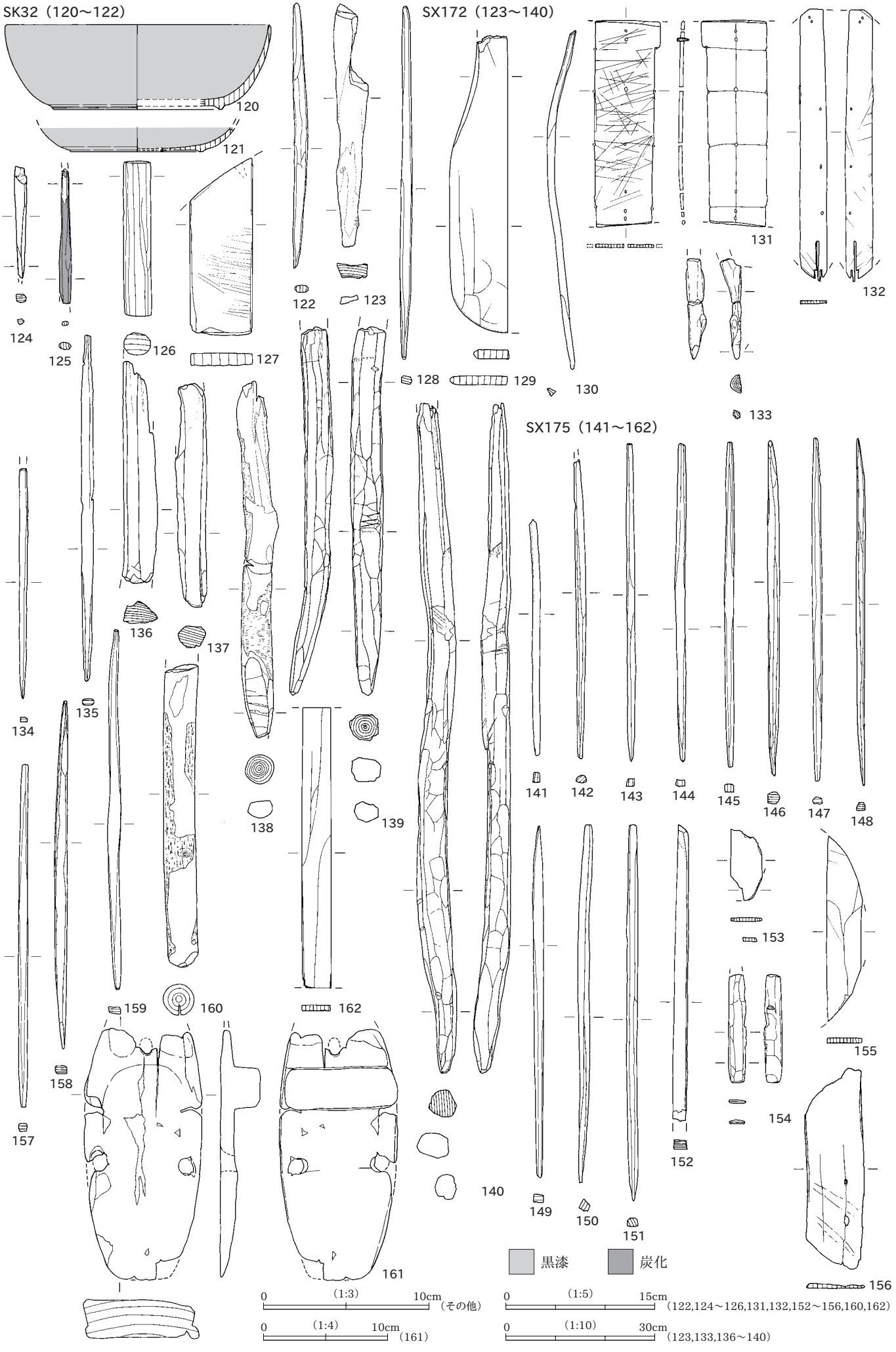
0 (1:2) 5cm (40～43,52,53)　0 (1:3) 10cm (32～39,44～51)　0 (2:3) 3cm (54～58)

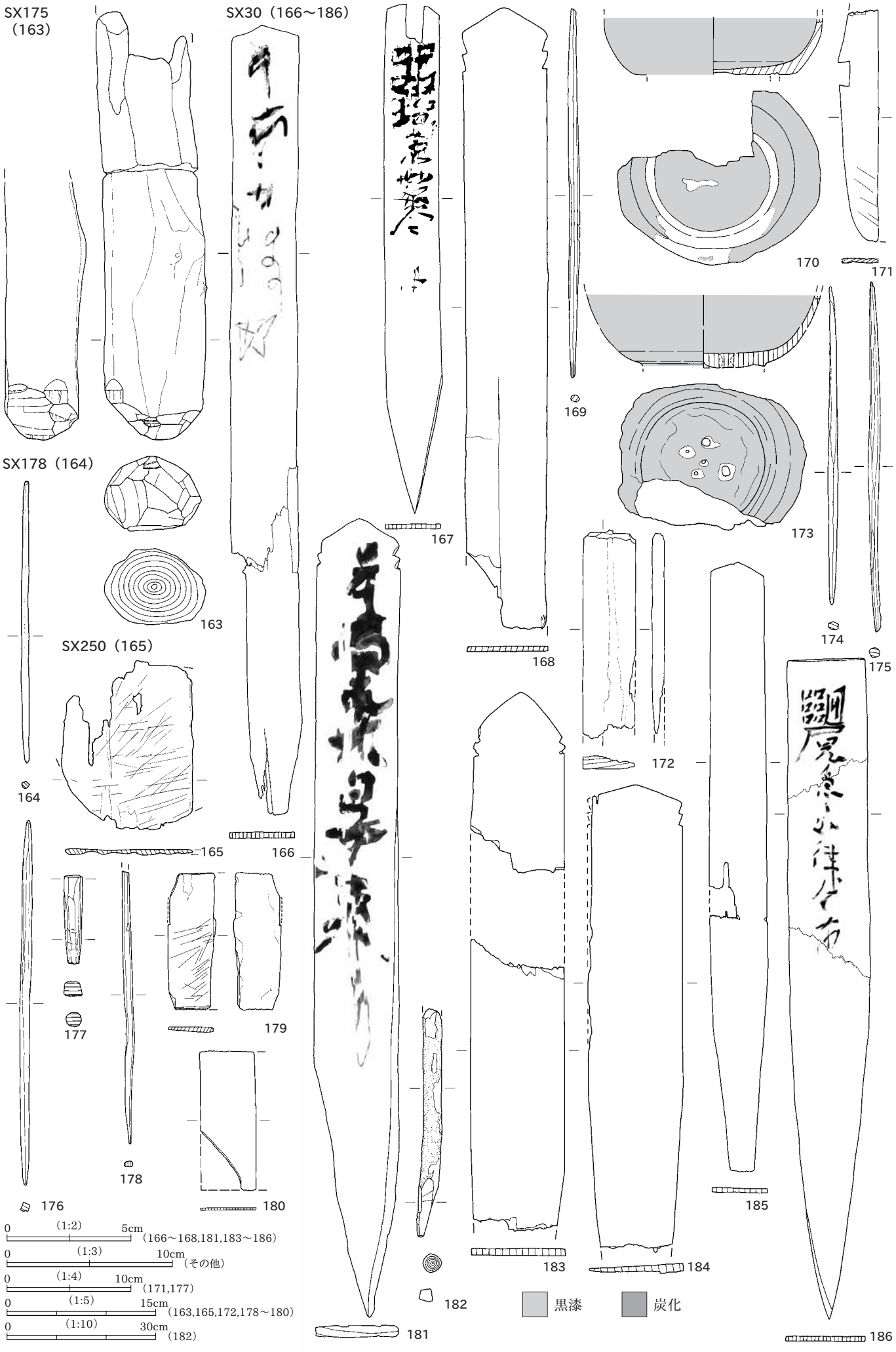

SB3（1・2）
SB6（3）
SB7（4～6）
SB8（7～9）
SE17（10～19）
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
0 (1:3) 10cm (4,10～13,19)
0 (1:5) 15cm (その他)
0 (1:10) 30cm (7,14～18)

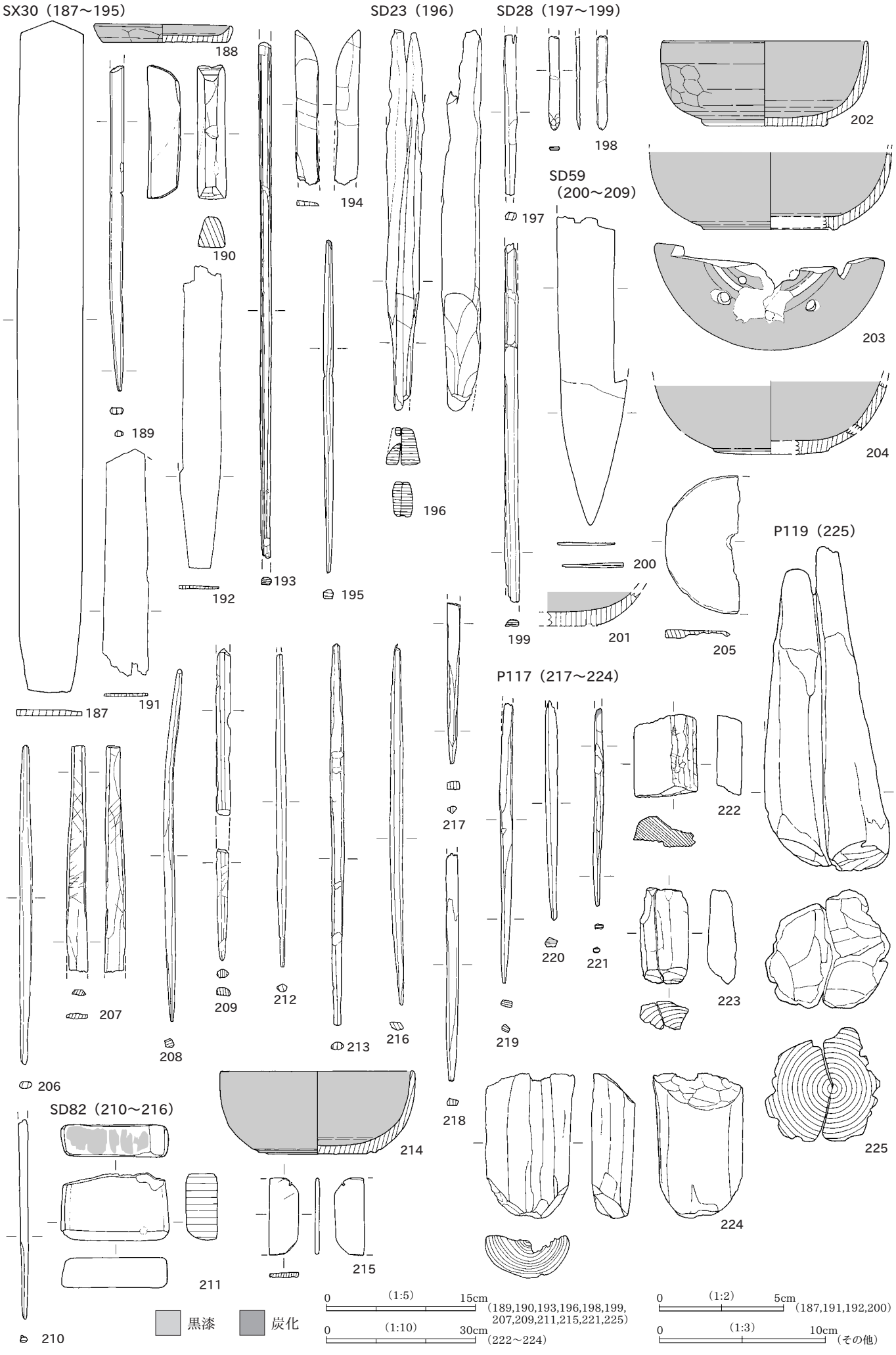

SE17（20～34）
SE129（35～40）
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
0 (1:3) 10cm (25,26)
0 (1:4) 10cm (20,35)
0 (1:5) 15cm (21)
0 (1:8) 20cm (39)
0 (1:10) 30cm (その他)

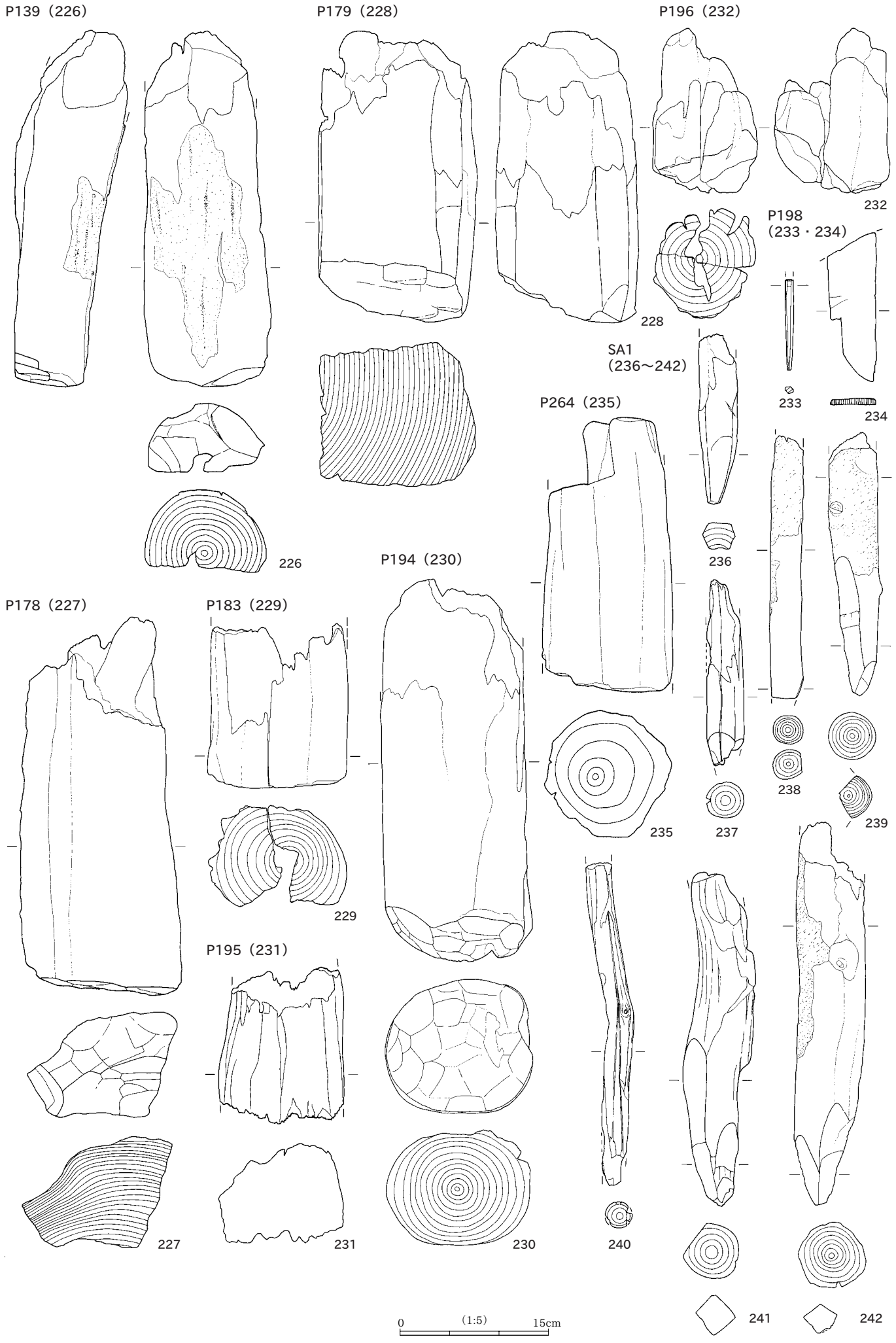

SE171（41～63）
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
SE200
（64・65）
SK24
（66・67）
SK31（71～75）
SK29（70）
SK27（68・69）
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
黒漆
炭化
0 (1:5) 15cm（45,61,66,69）
0 (1:10) 30cm（49～60,62,63）
0 (1:3) 10cm（その他）


SK31（76～107）
SK32
（108～119）
黒漆
炭化
0 (1:2) 5cm (98)
0 (1:4) 10cm (92,93,116)
0 (1:5) 15cm (81,82,95～97,101,107,109,117～119)
0 (1:10) 30cm (94)
0 (1:3) 10cm (その他)


SK32（120～122）
SX172（123～140）
SX175（141～162）
120
121
122
123
124
125
126
127
128
129
130
131
132
133
134
135
136
137
138
139
140
141
142
143
144
145
146
147
148
149
150
151
152
153
154
155
156
157
158
159
160
161
162
黒漆
炭化
0 (1:3) 10cm (その他)
0 (1:4) 10cm (161)
0 (1:5) 15cm (122,124～126,131,132,152～156,160,162)
0 (1:10) 30cm (123,133,136～140)


SX175
（163）
SX30（166～186）
SX178（164）
SX250（165）
163
164
165
166
167
168
169
170
171
172
173
174
175
176
177
178
179
180
181
182
183
184
185
186
黒漆
炭化
0 (1:2) 5cm （166～168,181,183～186）
0 (1:3) 10cm （その他）
0 (1:4) 10cm （171,177）
0 (1:5) 15cm （163,165,172,178～180）
0 (1:10) 30cm （182）

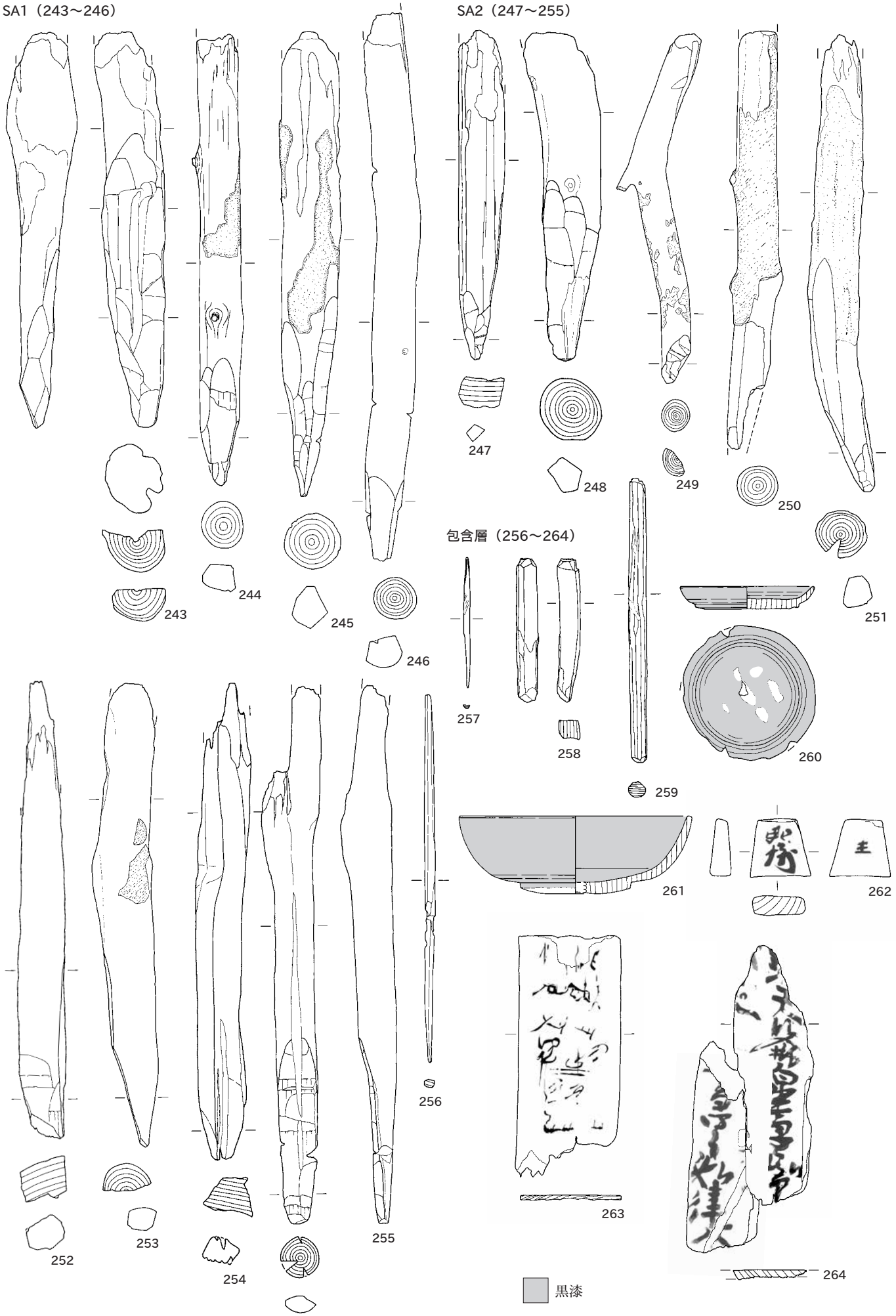

SX30（187～195）
SD23（196）
SD28（197～199）
SD59
（200～209）
P119（225）
P117（217～224）
SD82（210～216）
187
188
189
190
191
192
193
194
195
196
197
198
199
200
201
202
203
204
205
206
207
208
209
210
211
212
213
214
215
216
217
218
219
220
221
222
223
224
225
黒漆
炭化
0 (1:5) 15cm
(189,190,193,196,198,199,
207,209,211,215,221,225)
0 (1:10) 30cm
(222～224)
0 (1:2) 5cm
(187,191,192,200)
0 (1:3) 10cm
(その他)


P139（226）
P179（228）
P196（232）
232
P198
（233・234）
228
SA1
（236～242）
233
234
P264（235）
226
236
P194（230）
P178（227）
P183（229）
238
239
235
237
229
P195（231）
227
231
230
240
241
242
0
（1:5）
15cm

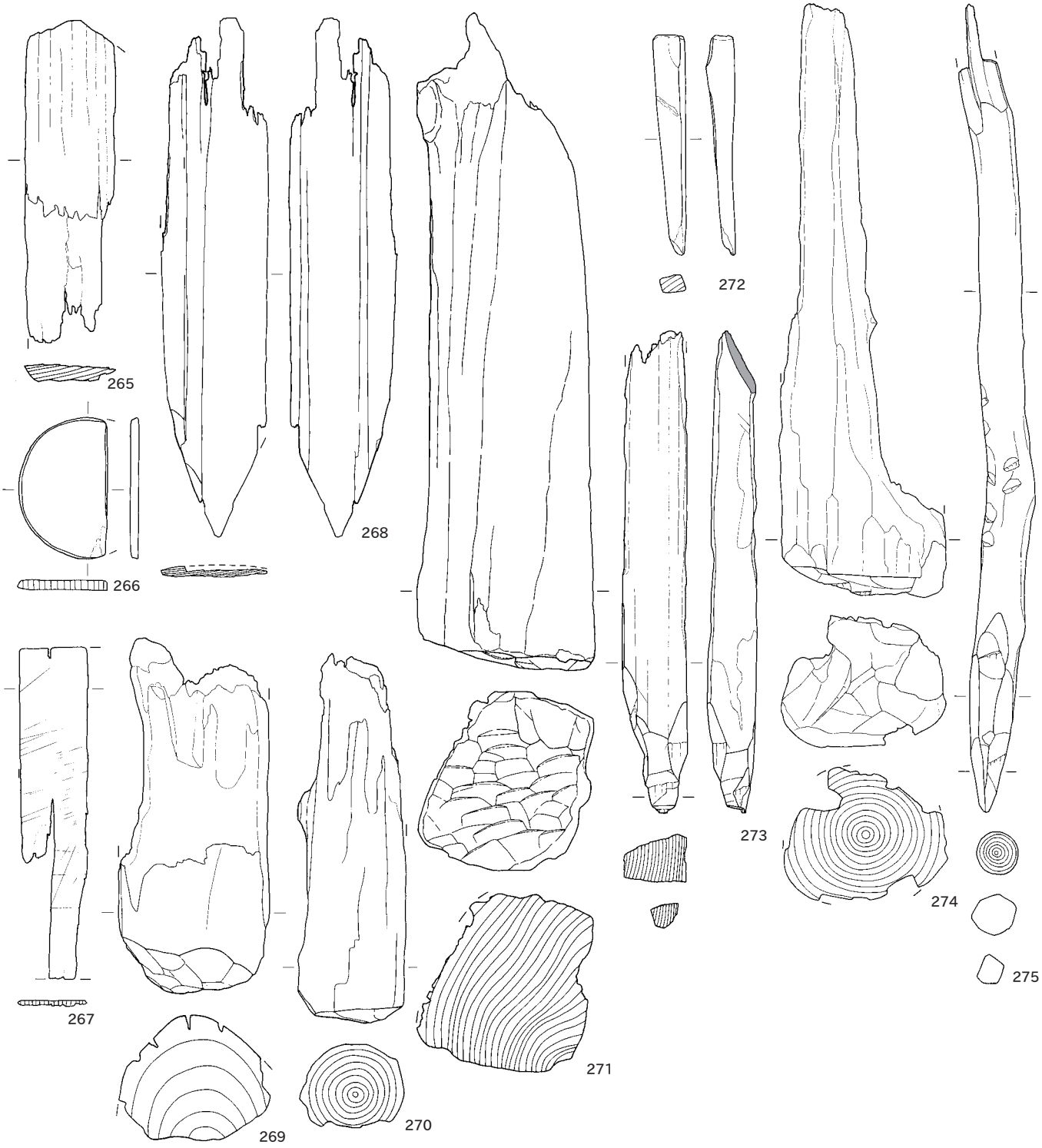
SA1（243～246）

SA2（247～255）

包含層（256～264）



包含層（265～275）



炭化

0 (1:2) 5cm (265)
0 (1:3) 10cm (266)
0 (1:5) 15cm (その他)
0 (1:10) 30cm (275)

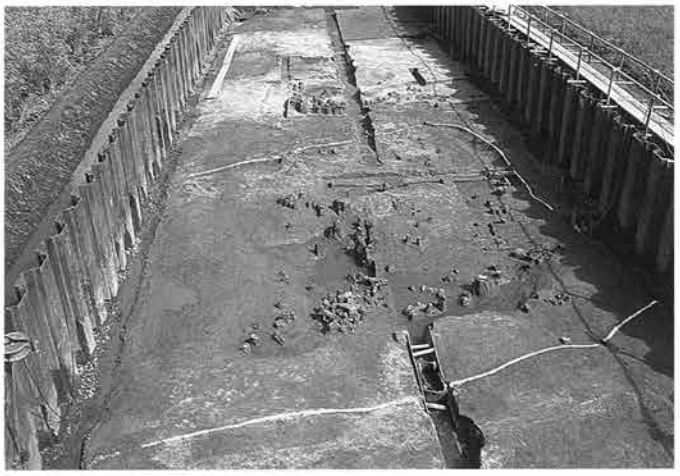
14・15ABグリッド　完掘　東から

14・15ABグリッド　完掘　東から

10～15ABグリッド　完掘　東から

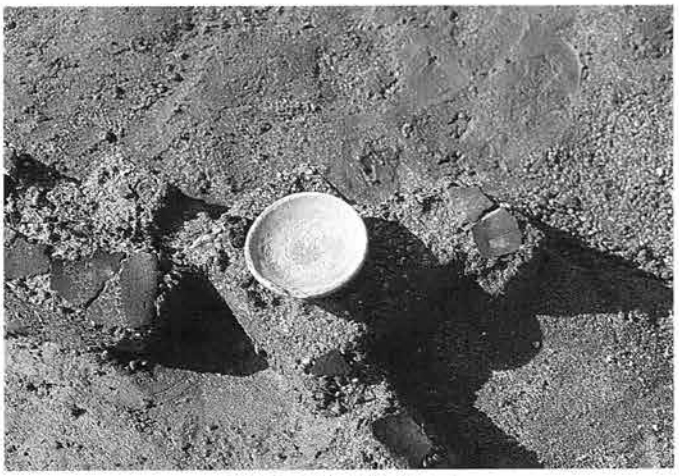
6～8ABグリッド　完掘　南から

1～3ABグリッド　完掘　東から



SI101　検出状況　北から

SI101　断面　南から

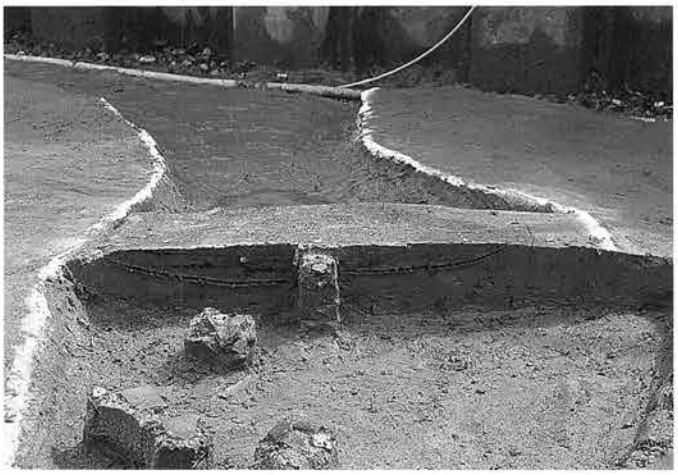


SK101　出土状況　南から

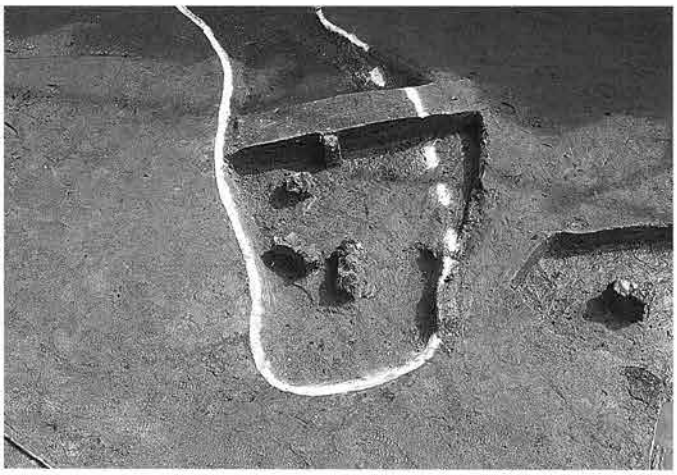
SK103　断面　北から

SK103　完掘　北から

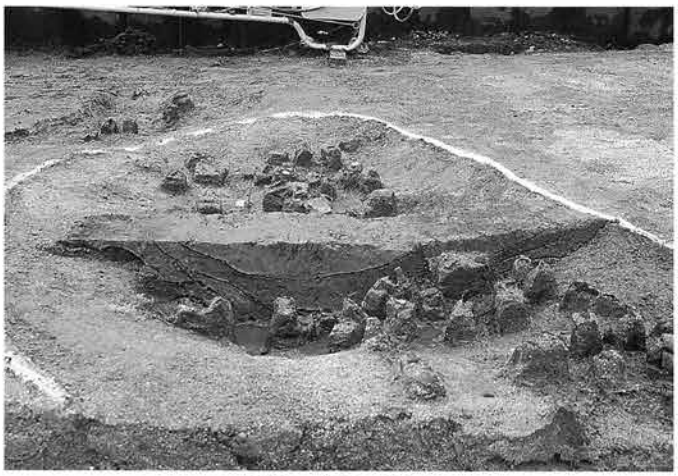
SD101・SX101　完掘　南から



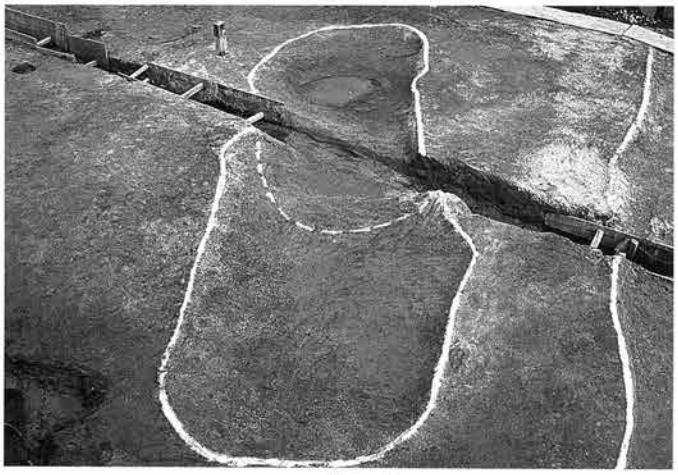
SD102　断面　北から



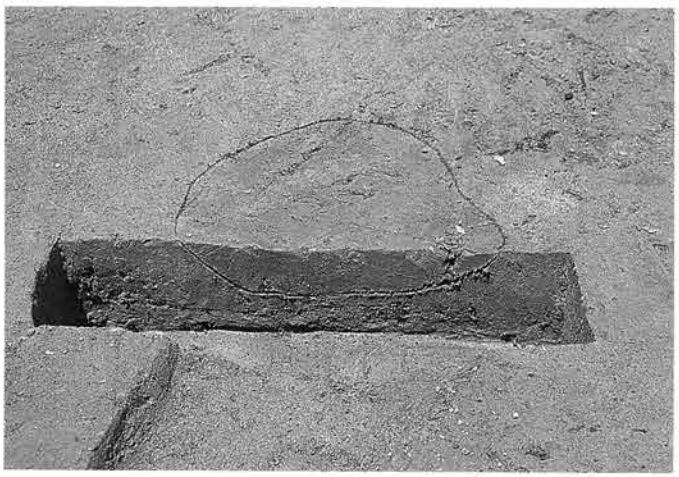
SD102　出土状況　北から



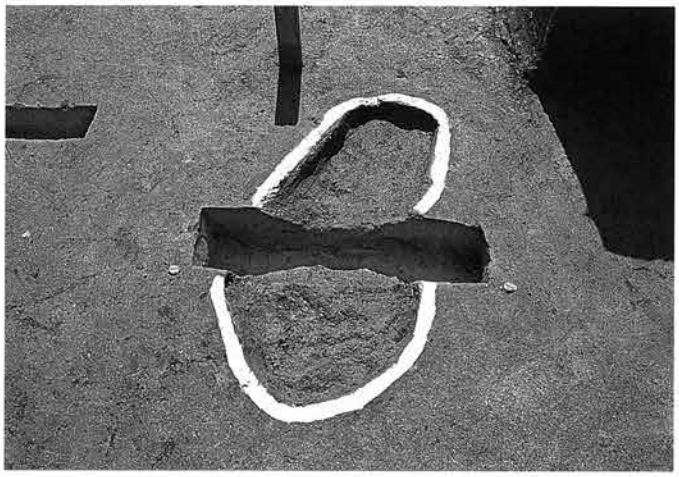
SK102　断面　南から



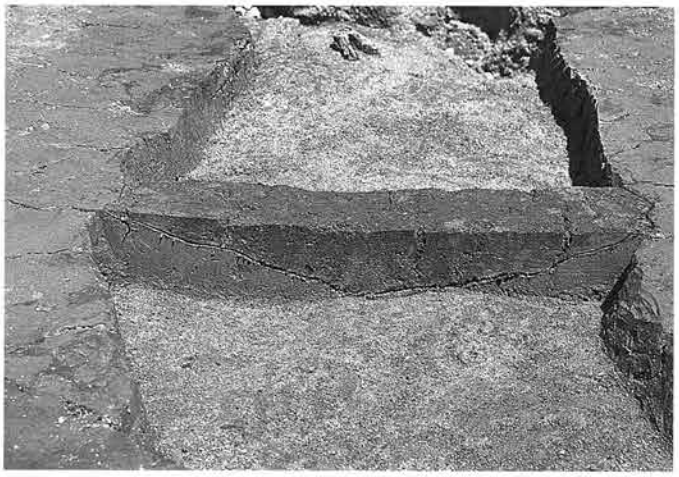
SK102　完掘　南から



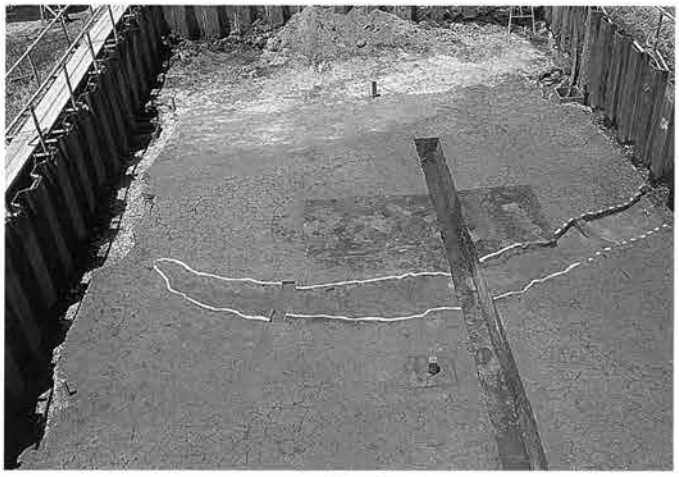
SX1　断面　南から



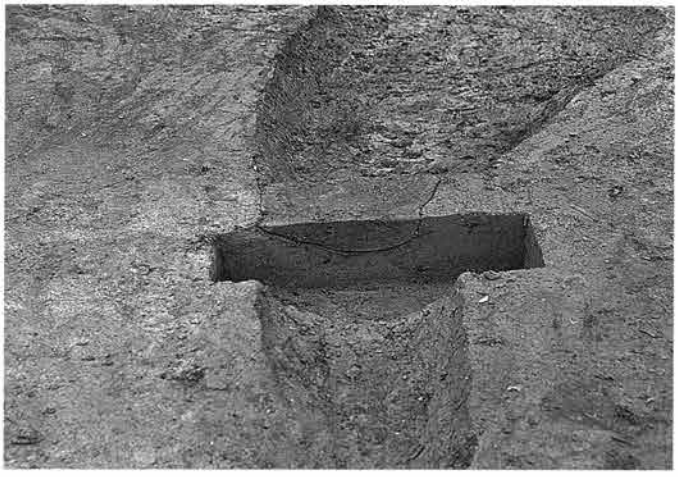
SX1　完掘　北から



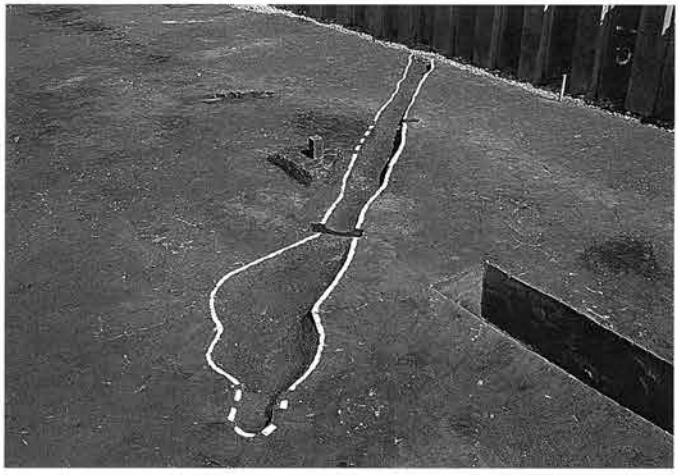
SD21　断面　南から



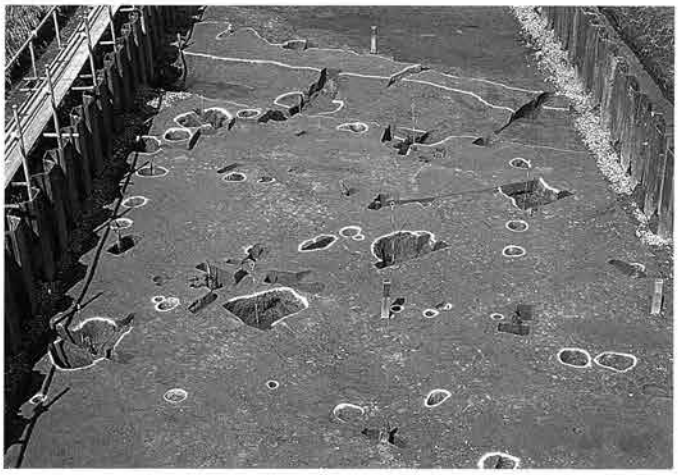
SD21　完掘　東から



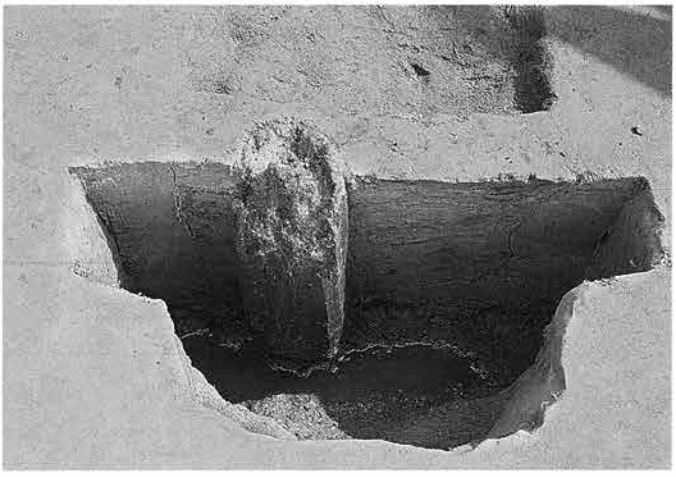
SD23　断面　北から



SD23　完掘　東から

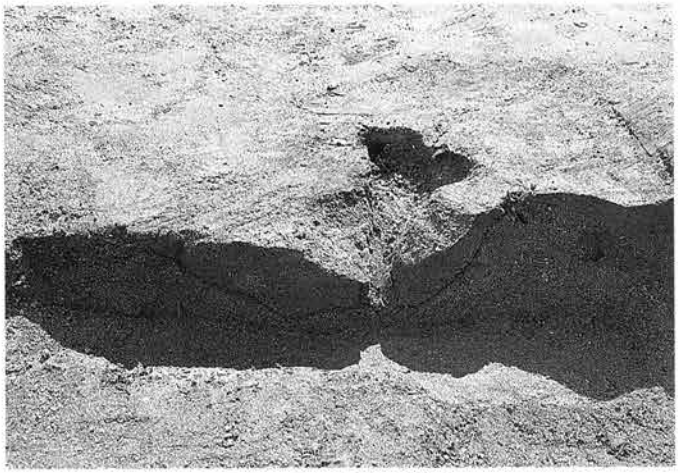


SB1　完掘　東から

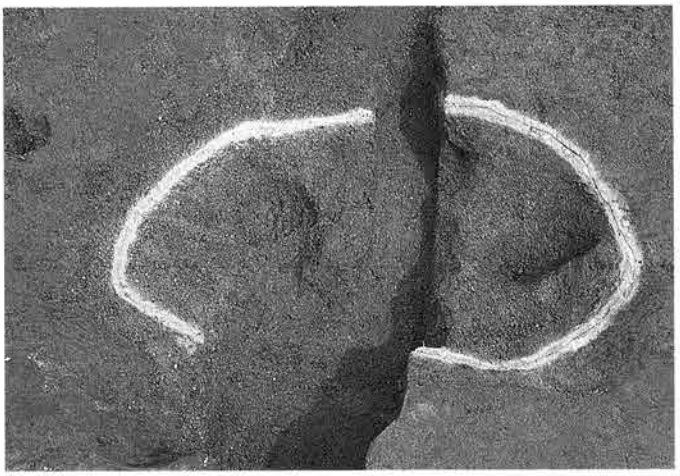


SB1-SK6　断面　北西から

SB1-SK6　完掘　東から

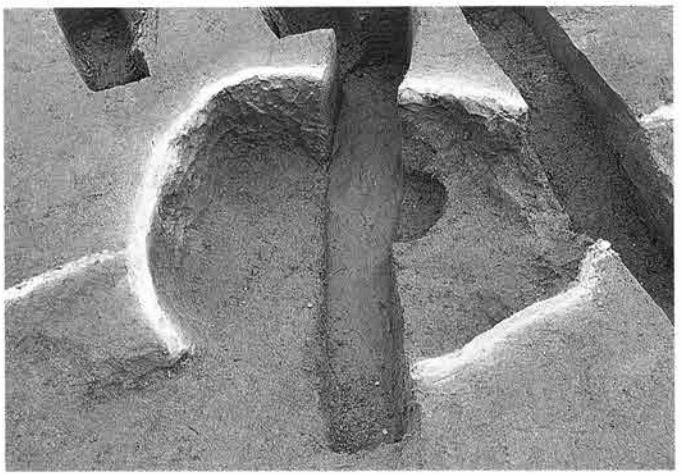


SB1-SK10　断面　東から

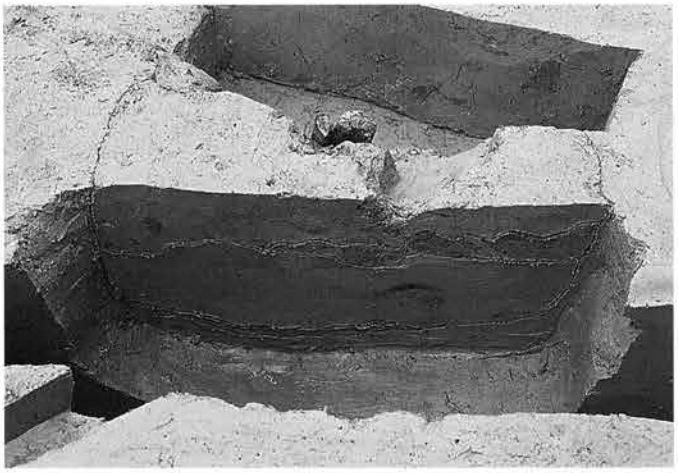


SB1-SK10　完掘　西から

SB1-SK2　断面　東から



SB1-SK2　完掘　西から



SB1-SK9　断面　東から

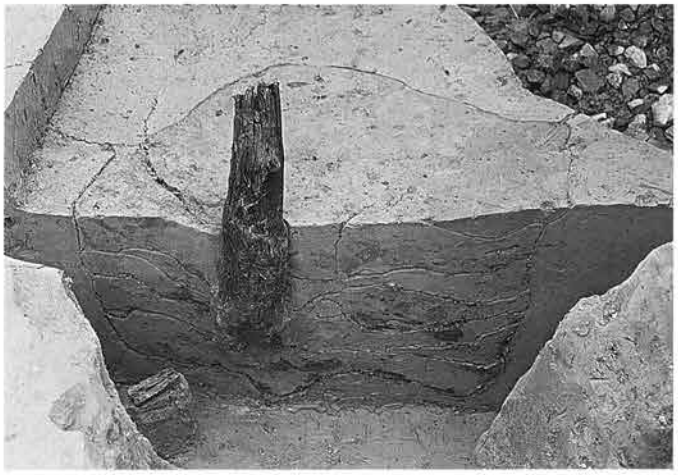
SB1-SK9　ワラ出土状況　東から

SB1-SK9　完掘　東から

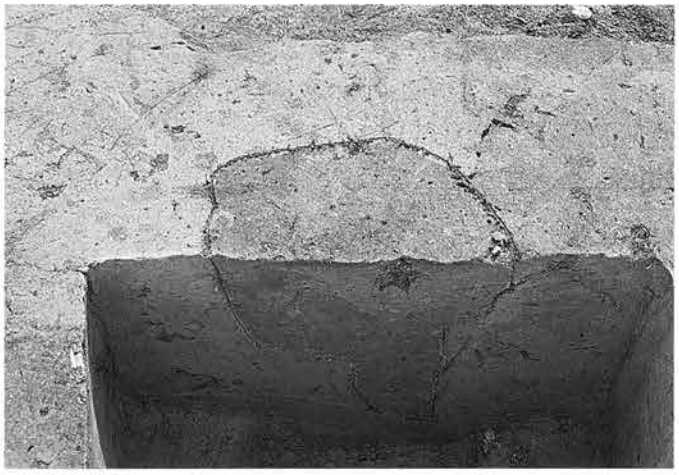
SB1-SK8　断面　東から

SB1-SK8　完掘　東から

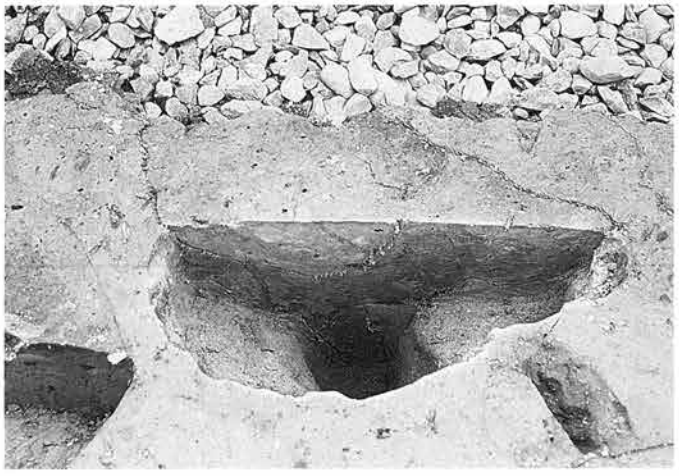
SB1-SK3　完掘　東から



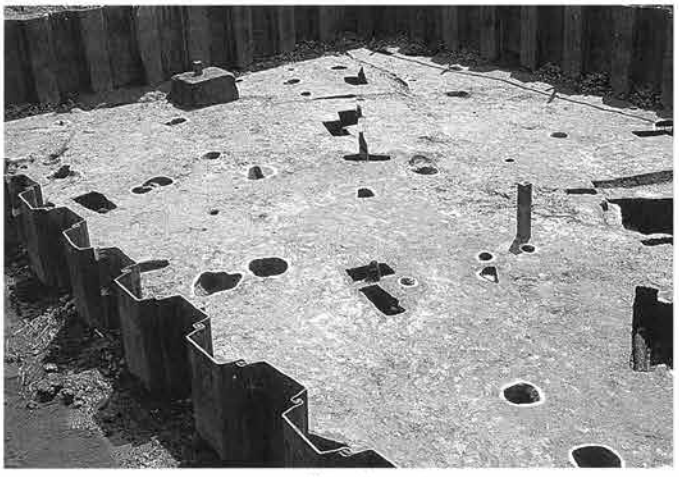
SB1-SK7　断面　北西から



SB2-2-14B5P1　断面　北から

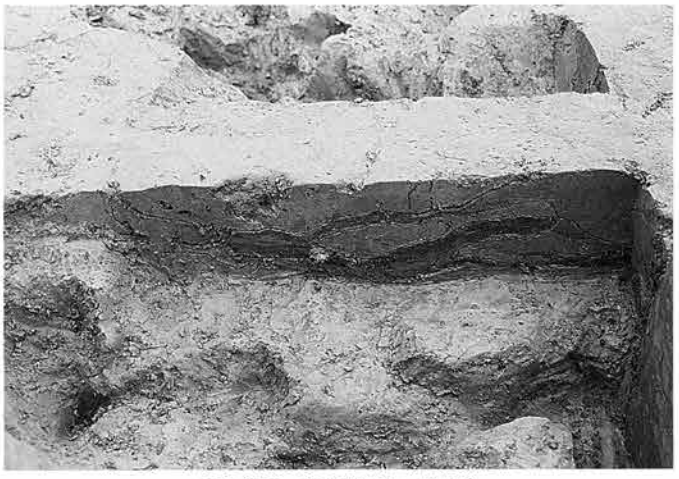


SB2-2-14B8P5　断面　北から

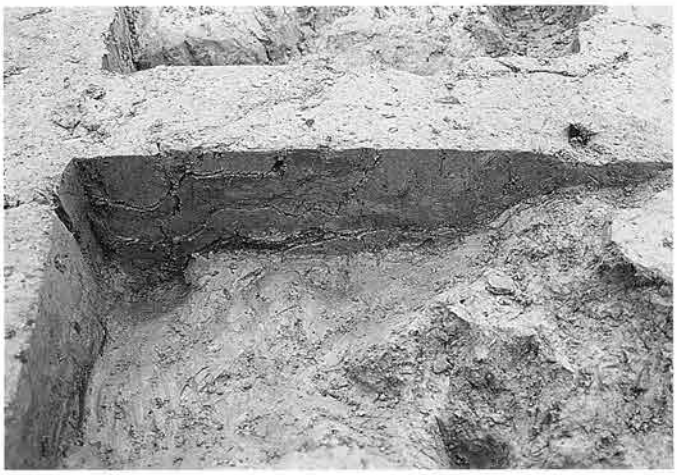


SB4　完掘　北西から

SB5-SK4　南北断面　東から

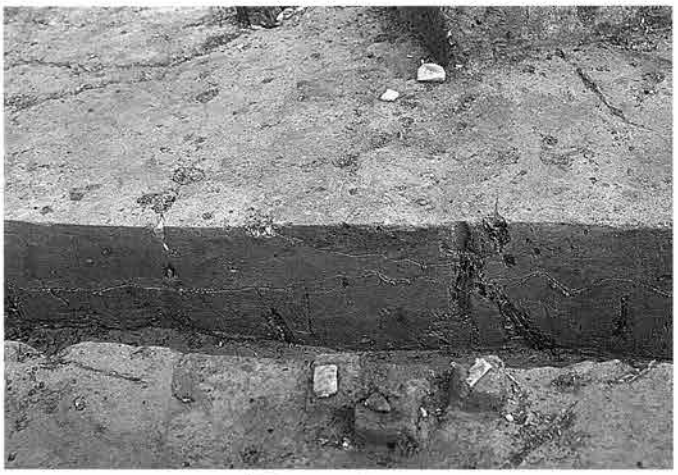


SB5-SK4　東西断面①　北から

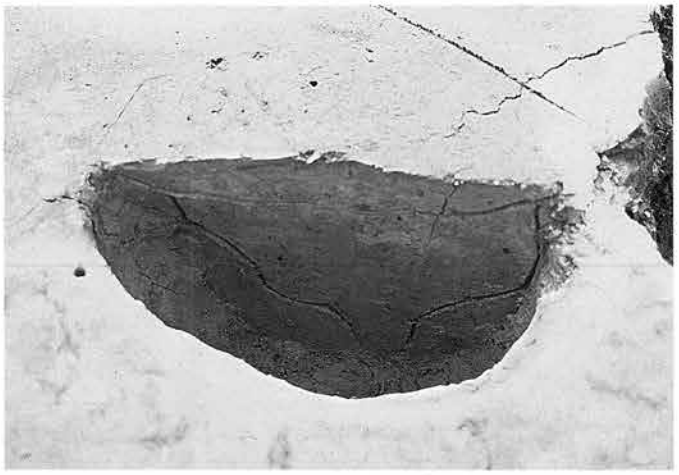


SB5-SK4　東西断面②　北から

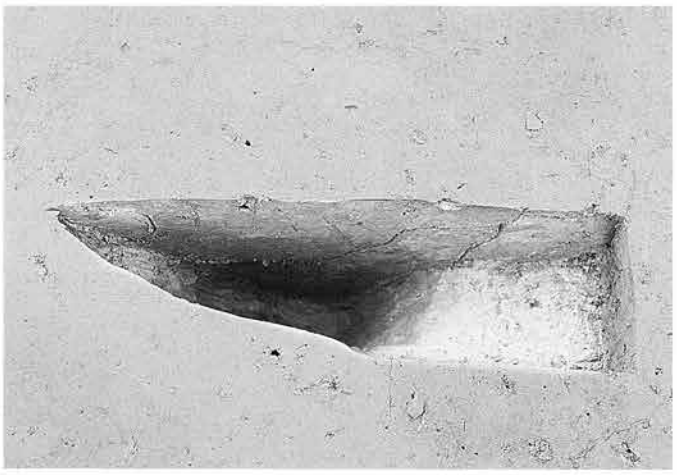
SB5-SK4　完掘　北西から



SB5付属SD12　断面　西から

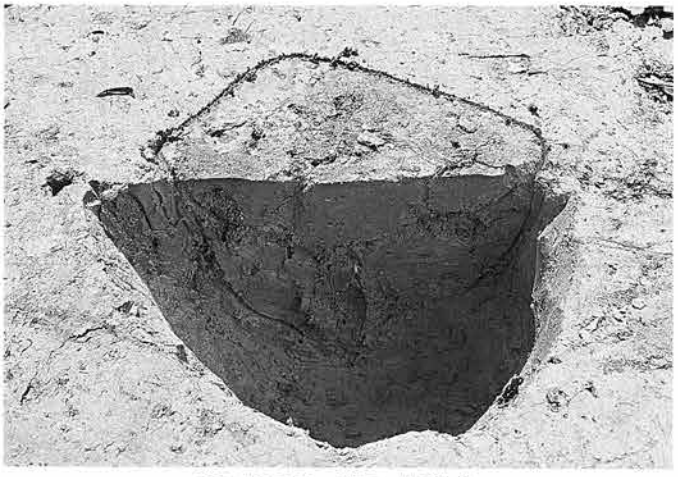


SB6-11A24P1　断面　北から

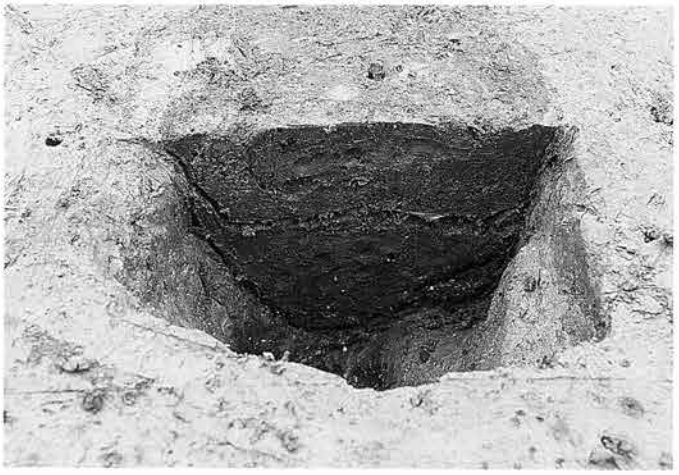


SD33、SB6-11A25P3　断面　北から

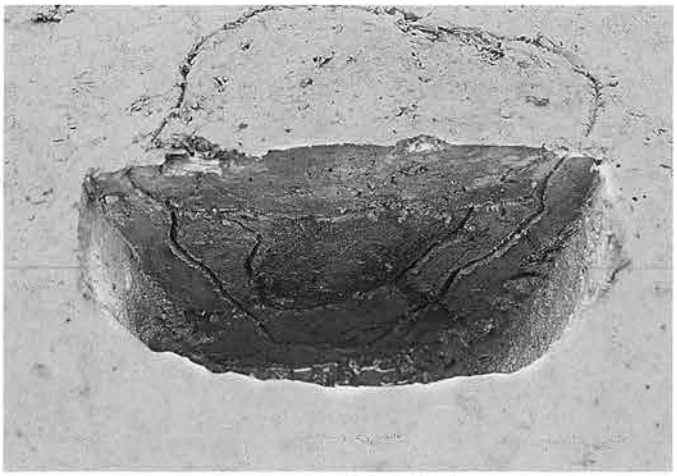
SD51、SB7-11B4P2　断面　南から



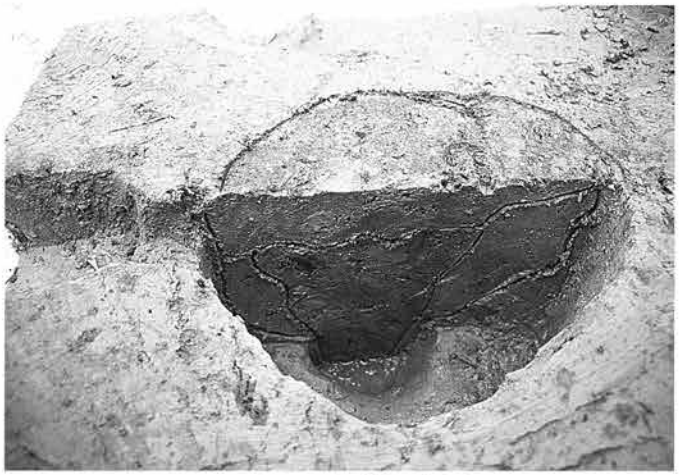
SB7-12B1P1　断面　北東から



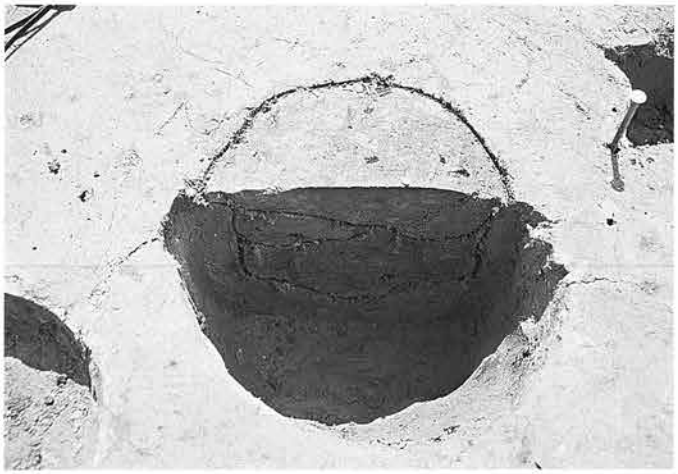
SB7-12B6P1　断面　南から



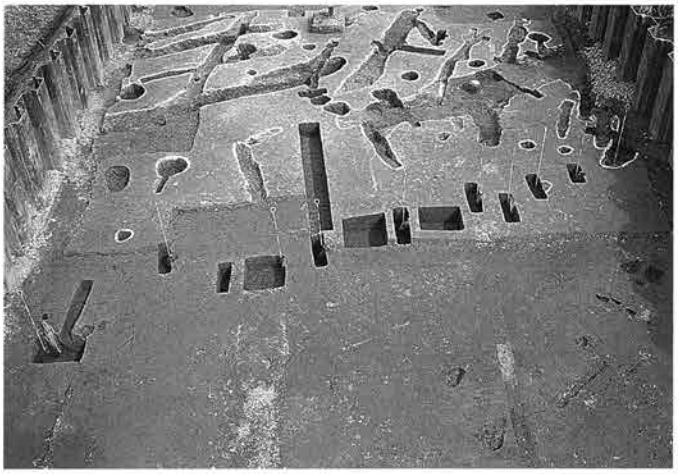
SB7-12B6P2　断面　北から



SB7-11B10P1　断面　南から

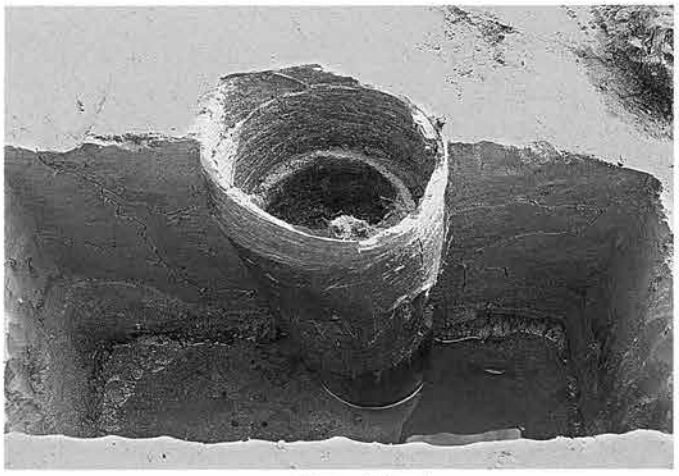


SB7-11B10P2　断面　北から



SA2　出土状況　西から

SA2-4　断面　北から

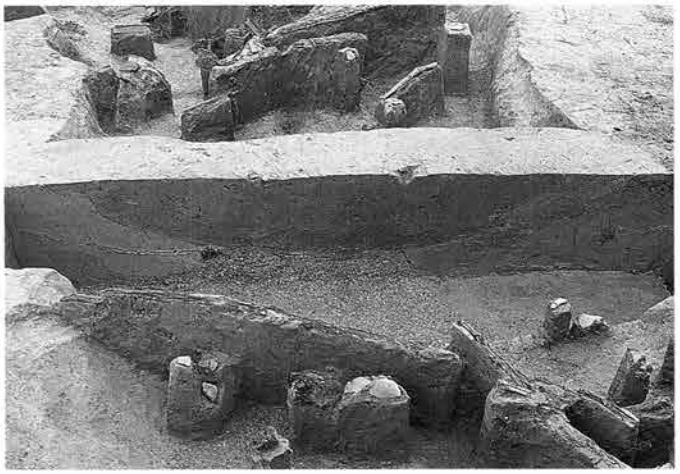


SE1　断面　北東から

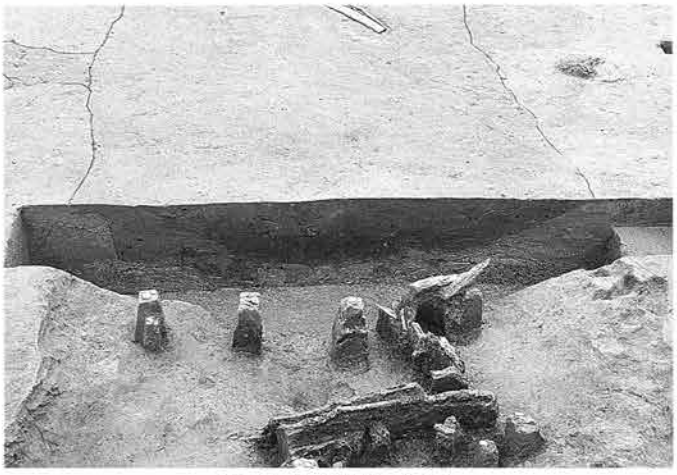
SE1　２段目剝物出土状況　北東から

SE1　３段目剝物出土状況　北東から

SE1　完掘　北東から



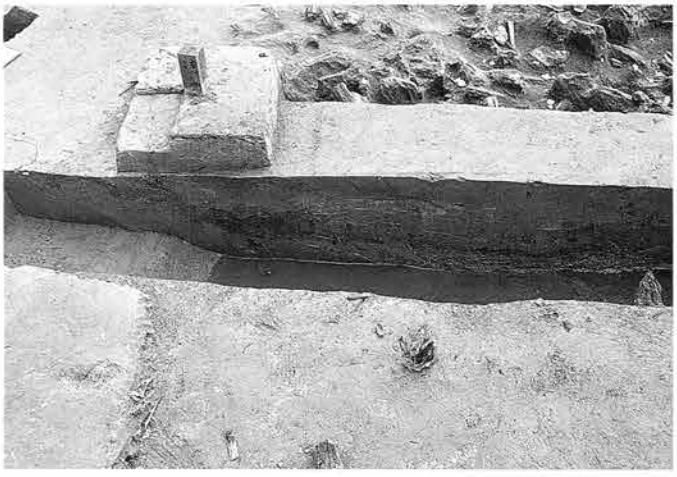
SD20　断面北側　北から



SD20　断面南側　南から

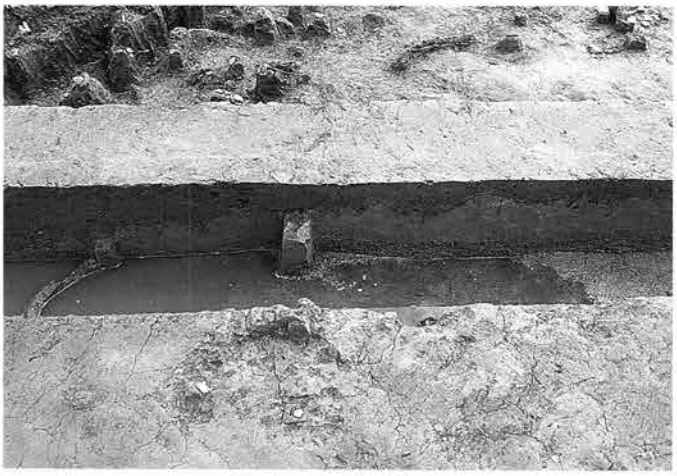
SD20　横槌出土状況　東から

SD20　完掘　南から

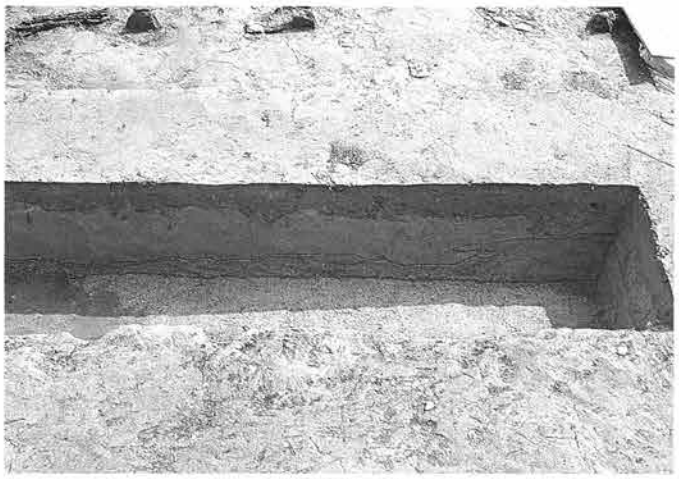


SD24　断面①　北から

SD24　断面②　北から

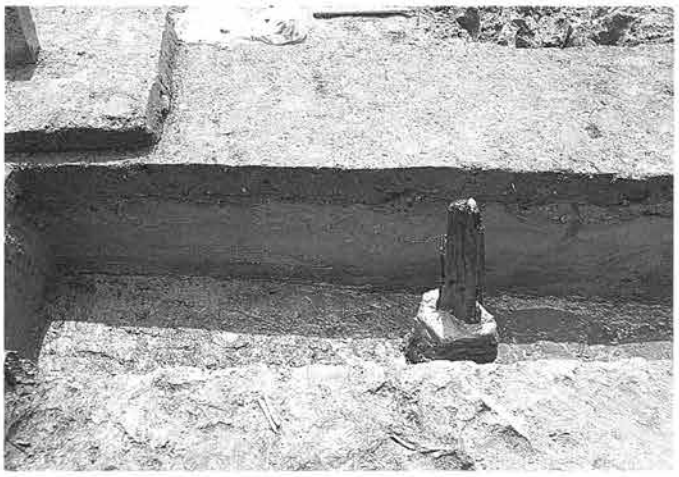


SD24　断面③　北から

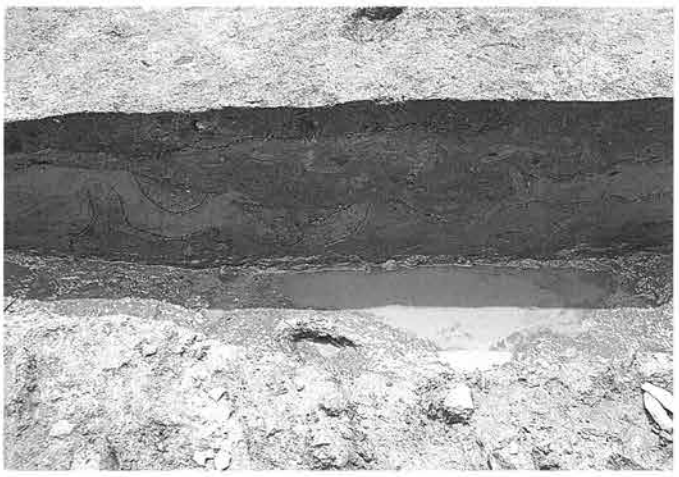


SD24　断面④　北から

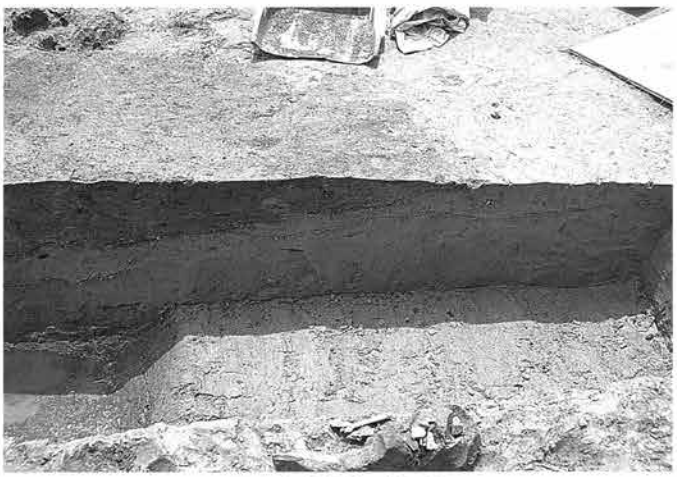
SD24　流木出土状況　北東から



SD24'　断面①　北から



SD24'　断面②　北から



SD24'　断面③　北から

SD34　断面　南東から

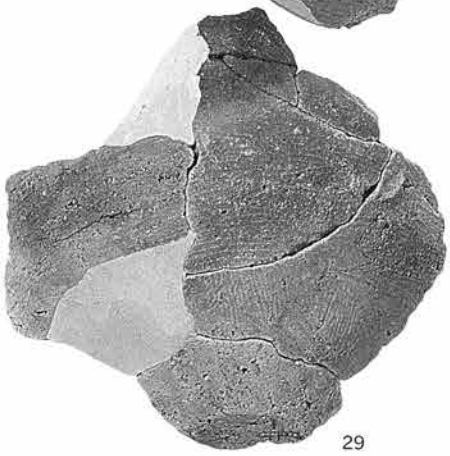
SD4　断面　西から

SA3　出土状況　北東から

SI101（1～28）

全て　〔1:3〕

SI101（29～36）



29

30

31

32

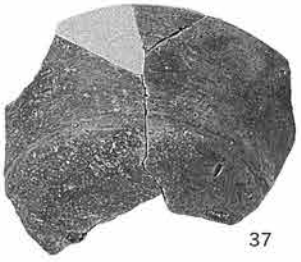
33

34

36

35

SD101（37～46・48）



37

38

39

40

45

41

42

43

44

46

48

全て　(1:3)

SD101（47・49～51）

47

49

50

SD102（52）

52

SX101（53～64）

53

54

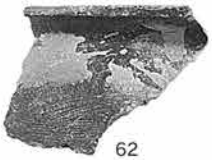
57

55

56

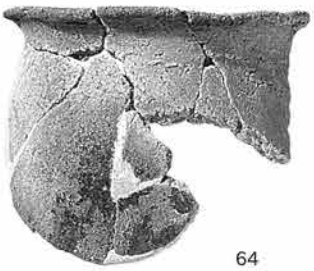
58

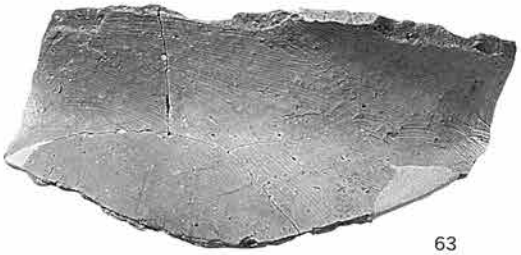
51


62

61

60

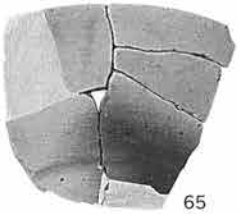

64


63

59

全て　(1:3)

SK102（65～69）


65

66

67

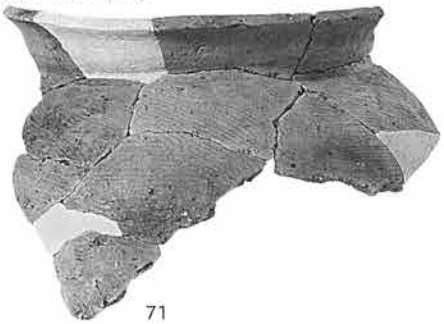
68

69

SK103（70）

70

8B-P101（71）


71

SD24（72）

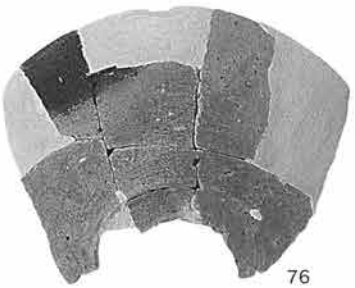
72

包含層（73～88）

73

74

75


76

77

80

78

79

81

82

83

84

88

85

86

87

全て　[1:3]

包含層（89～117）

89

90

91

92

93

94

95

96

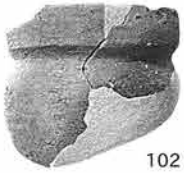
97

98

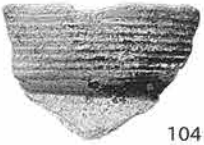
99

100

101


102

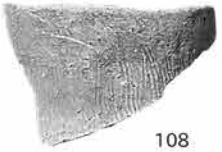
103

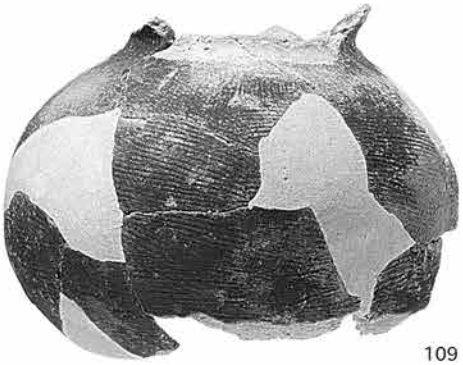

104

105

106

107


108


109

110

112

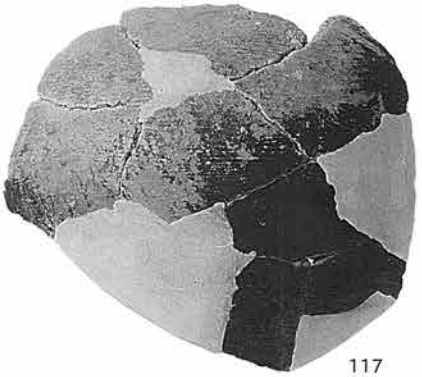
116

113

115

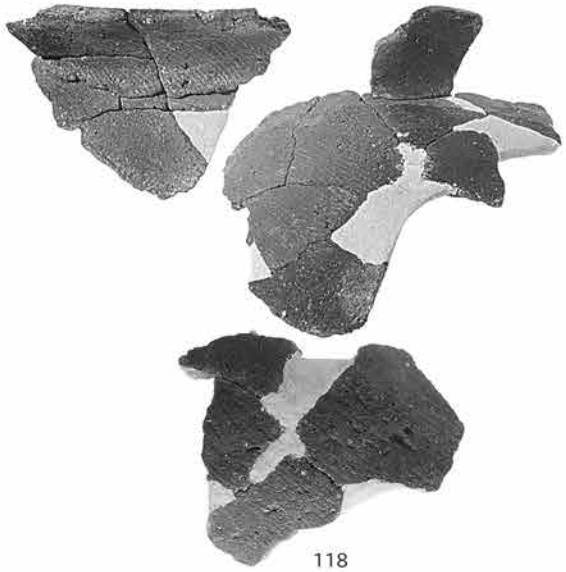
114

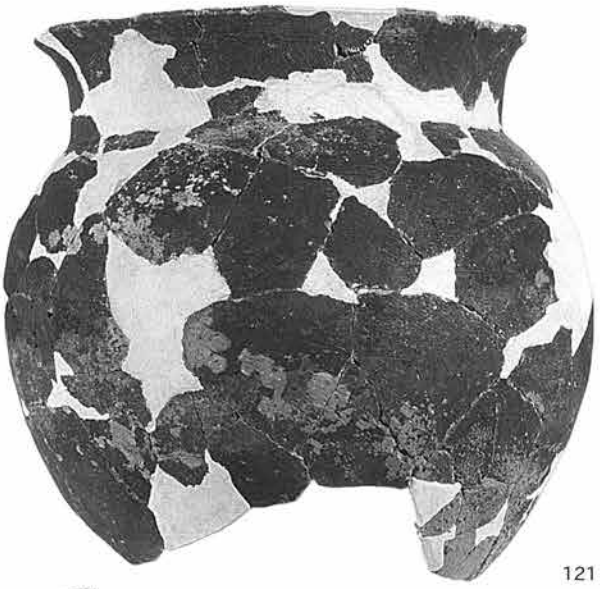
111


117

全て　[1:3]

包含層（118～123）


118


121

119

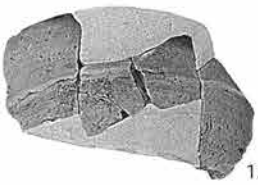
120

122

123

SD24（124～131）

124


126

127

128

125

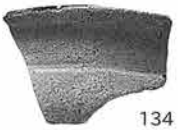
129

130

包含層（132～135）

132

133


134

135

131

全て　(1:3)

SD24（136～147）

136

137

138

139

140

141

142

143

144

145

146

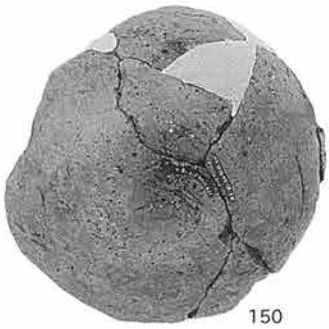
147

包含層（148・149）

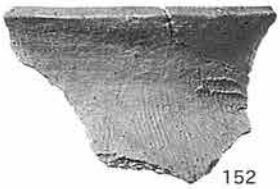
148

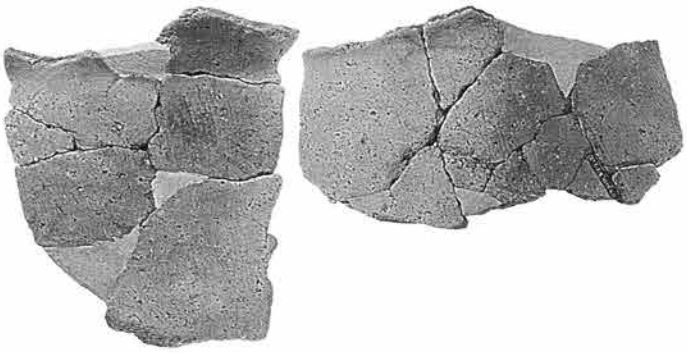
149

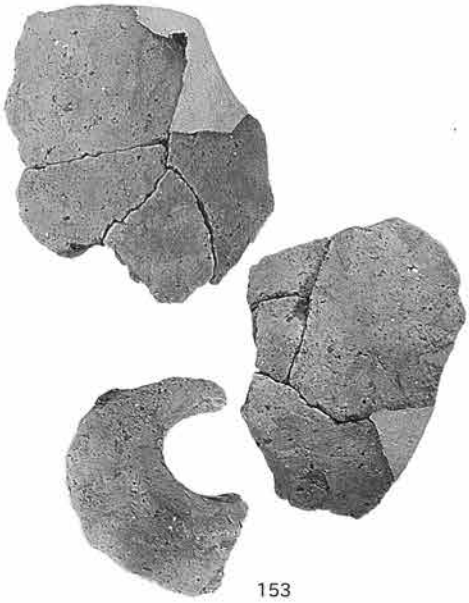
SD24（150～155）


150

151


152




153

154

包含層（156～160）

155

156

157

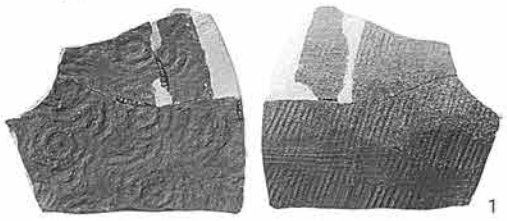
158

159

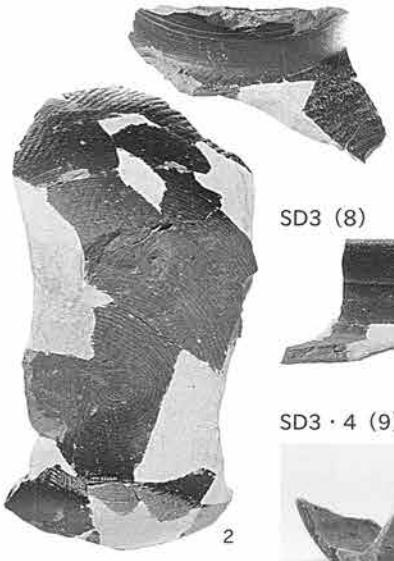
160

全て　〔1:3〕

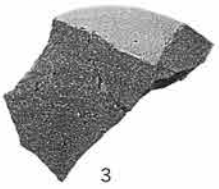
SB1（1）


1

SB5（2）


2

SE1（3）


3

SD1（4～7）

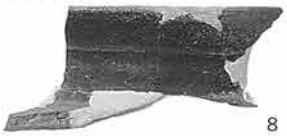
4

6

5

7

SD3（8）


8

SD11（10）

10

SD3・4（9）

9

SD16（11）

11

SD20（12～18）

12

13

14

16

17

18

15

SD24（19～35）

19

20

21

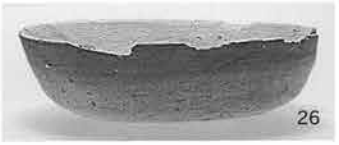
25

23

24

28

22


26

27

32

30

31

35

29

33

34

1,8　(1:4)
その他　(1:3)

SD24（36～80）

全て　(1:3)

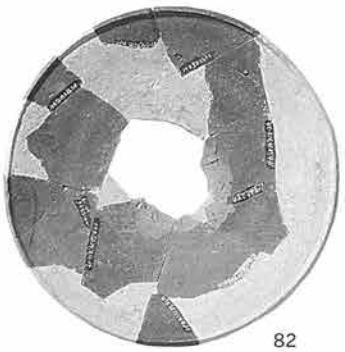
SD24（81～105・107・108）

81

83

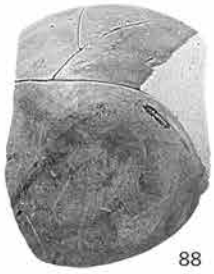
84

85


82

86

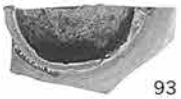
87


88

89

91

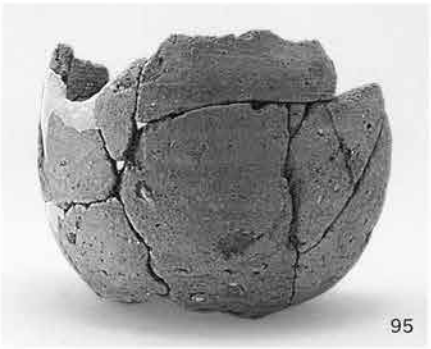
90


93

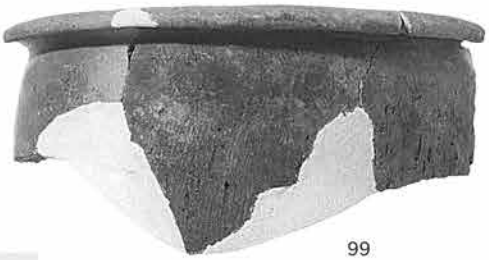
94

96

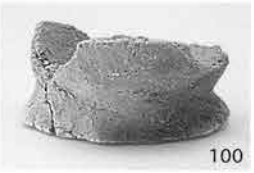
92


95

97


99

98

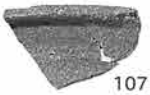

100

101

102

103

104

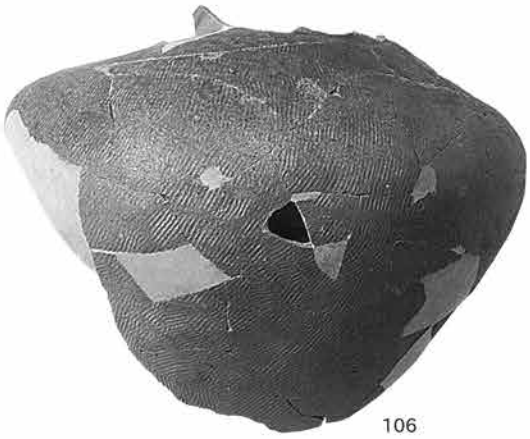

107

105

108

101,102,105,107,108　(1:4)
その他　(1:3)

SD24（106）


106

SD24'（109～135）

111

110

112

113

114

115

116

118

119

122

124

120

121

123

125

117

126

127

128

129

130

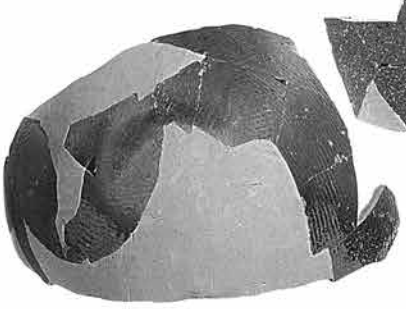
131

132

135

SD32（136）

136

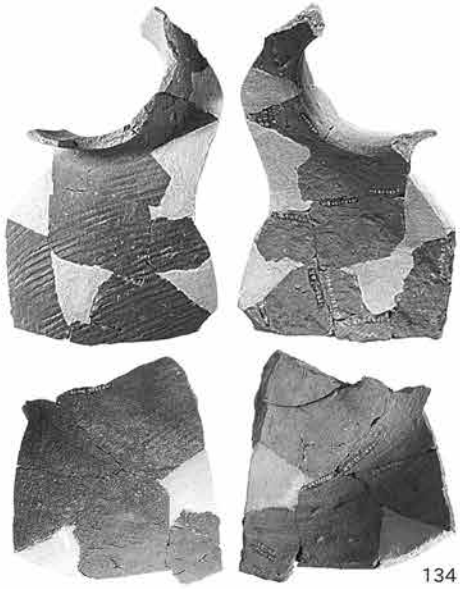


109

106　〔1:6〕　その他　〔1:3〕

SD24'（133・134）

133


134

SD34（137）

137

SD43（138）

138

SD51（139～141）

140

139

141

147

146

151

150

155

154

133,134　[1:4]
その他　[1:3]

包含層（142～157）

142

148

152

156

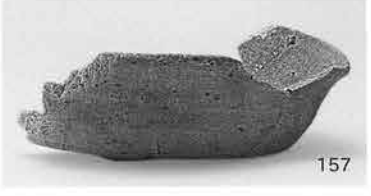
143

144

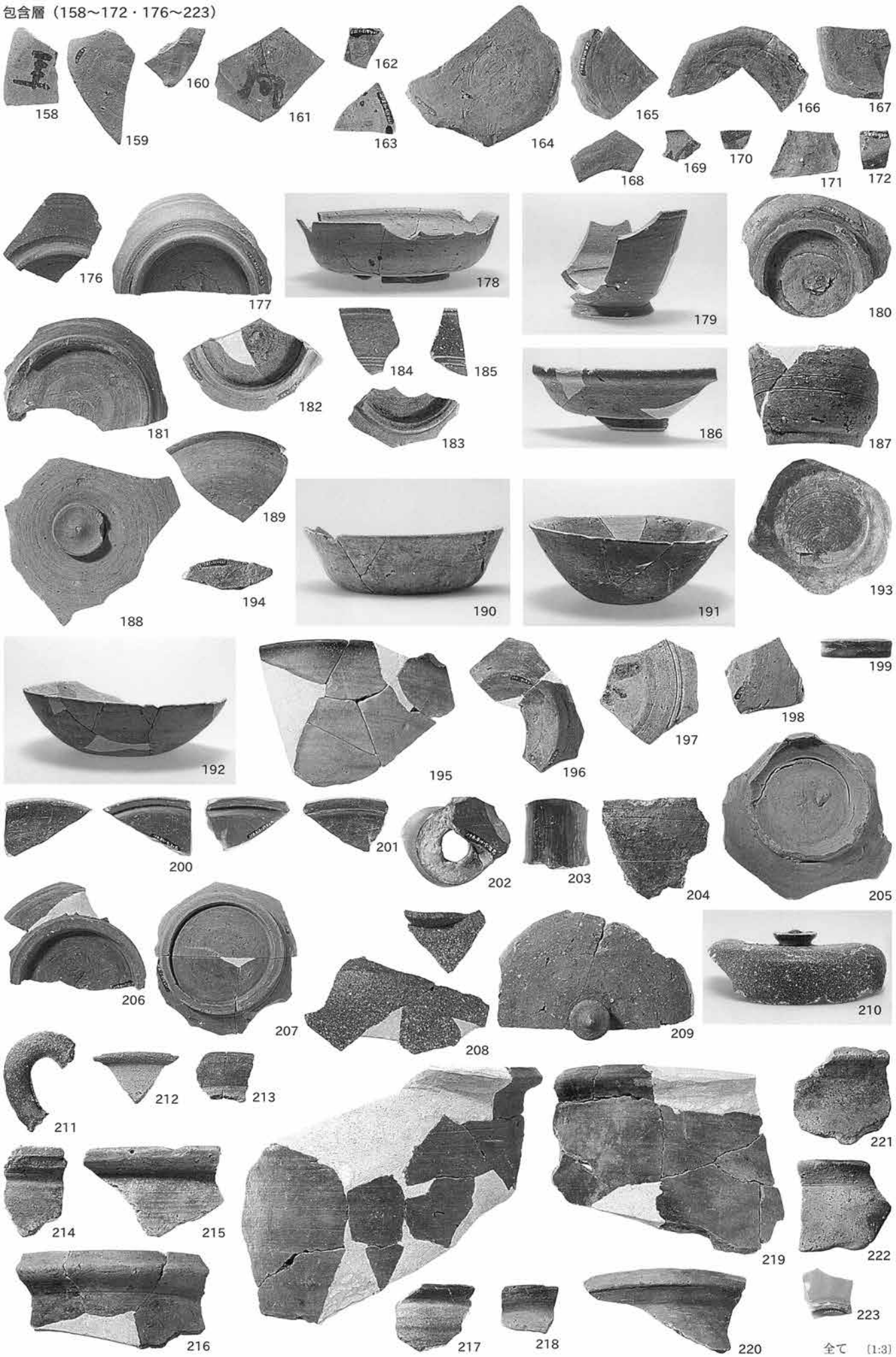
145

149

153


157

包含層（158～172・176～223）



全て　(1:3)

包含層（224～227）

224

225

226

227

SD20（228）

228

SD24'（229）

229

包含層（230～232）

230

231

SD24（233・234）

233

234

包含層（235）

235

232

233～235　[1:2]
224　[1:4]
その他　[1:3]

SB1（1～4）

1

2

3

4

SB4（7～9）

7

9

8

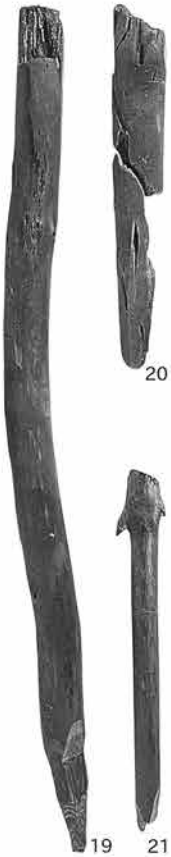
SA2（10～15）

10

15

SA3（16～21）

16


19

20

21

SB3（5・6）

5

6

11

12

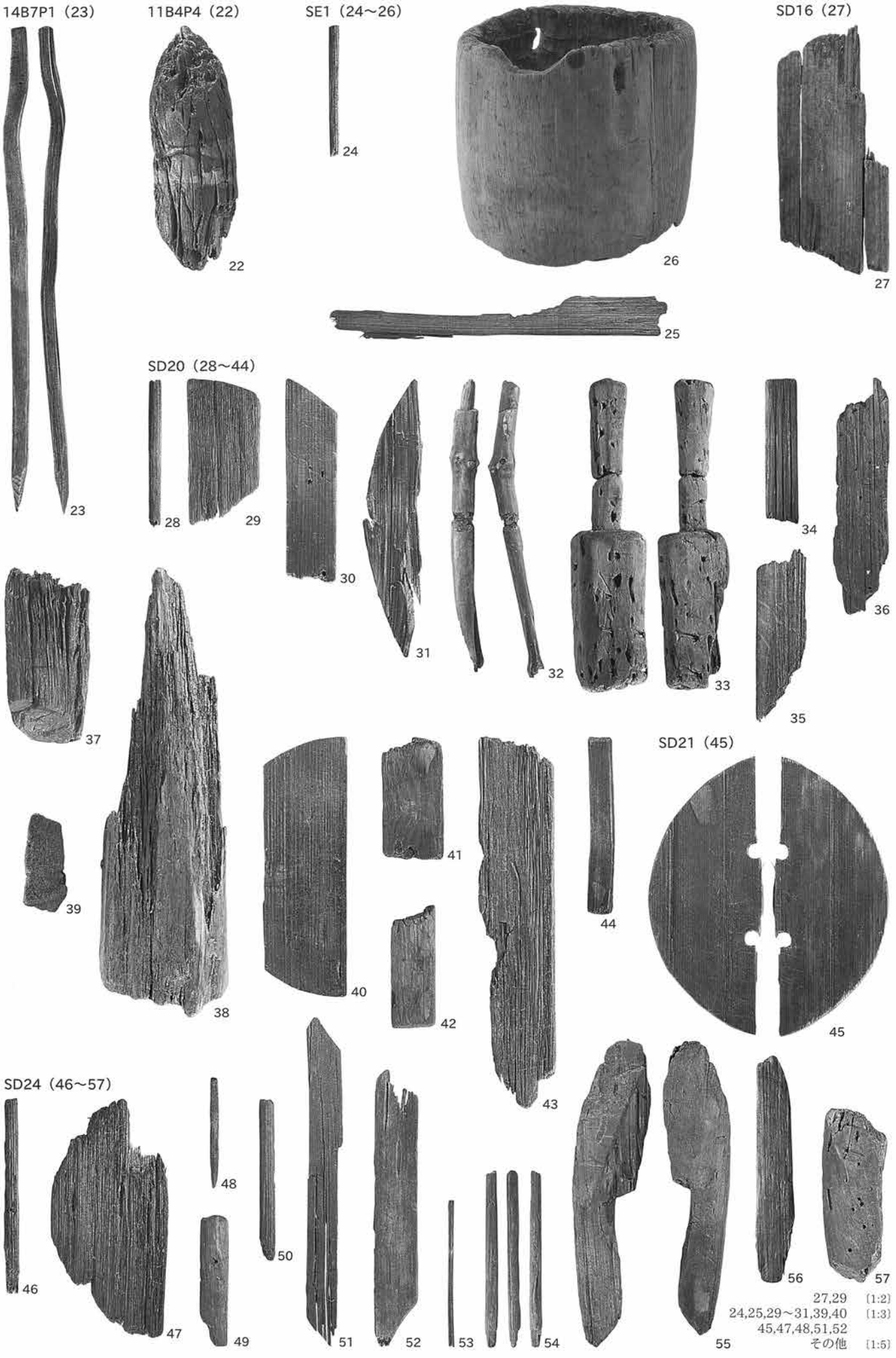
13

14

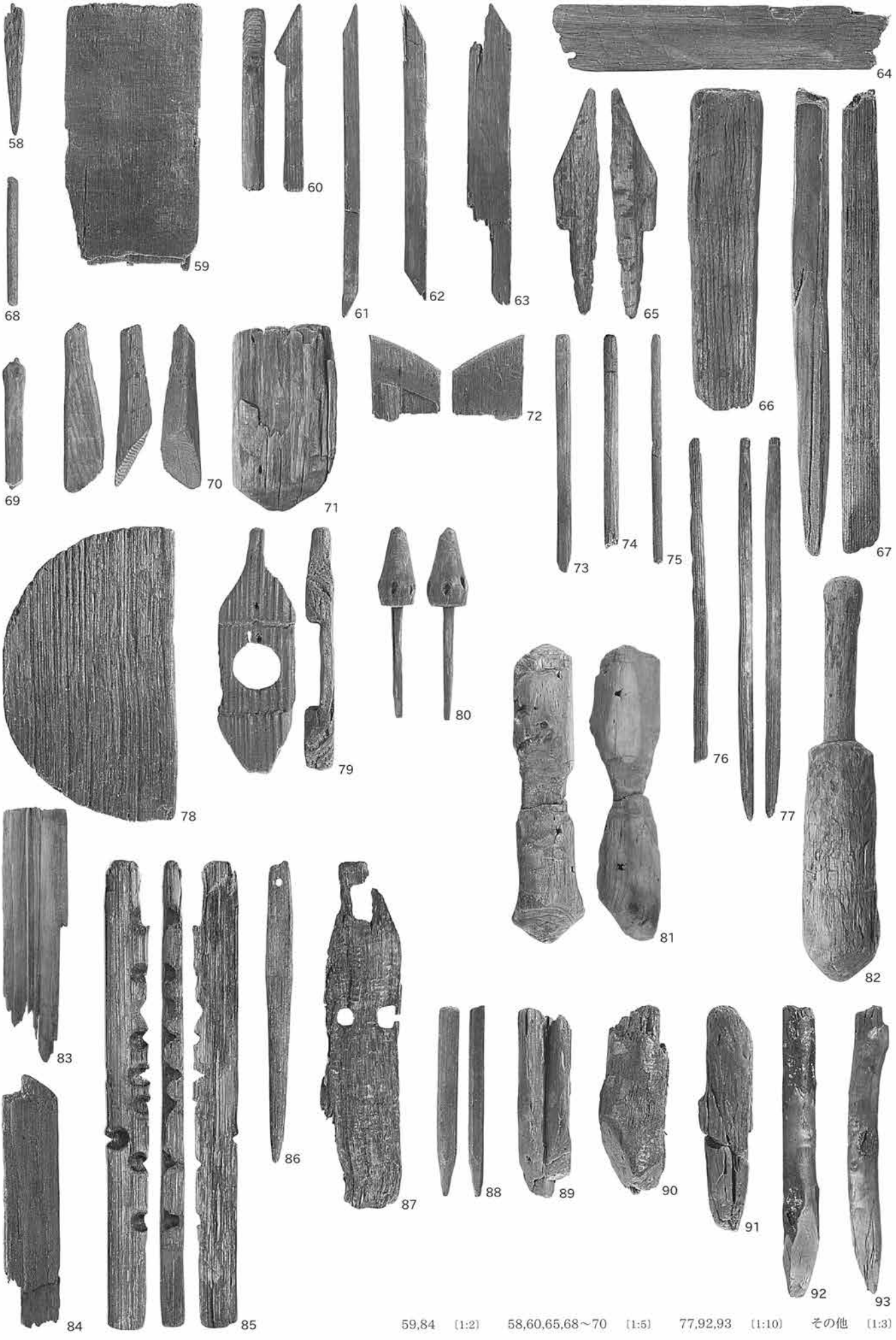
17

18

5,6,8　[1:10]
その他　[1:5]


14B7P1（23）
11B4P4（22）
SE1（24～26）
SD16（27）
SD20（28～44）
SD21（45）
SD24（46～57）
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
27,29　[1:2]
24,25,29～31,39,40　[1:3]
45,47,48,51,52
その他　[1:5]

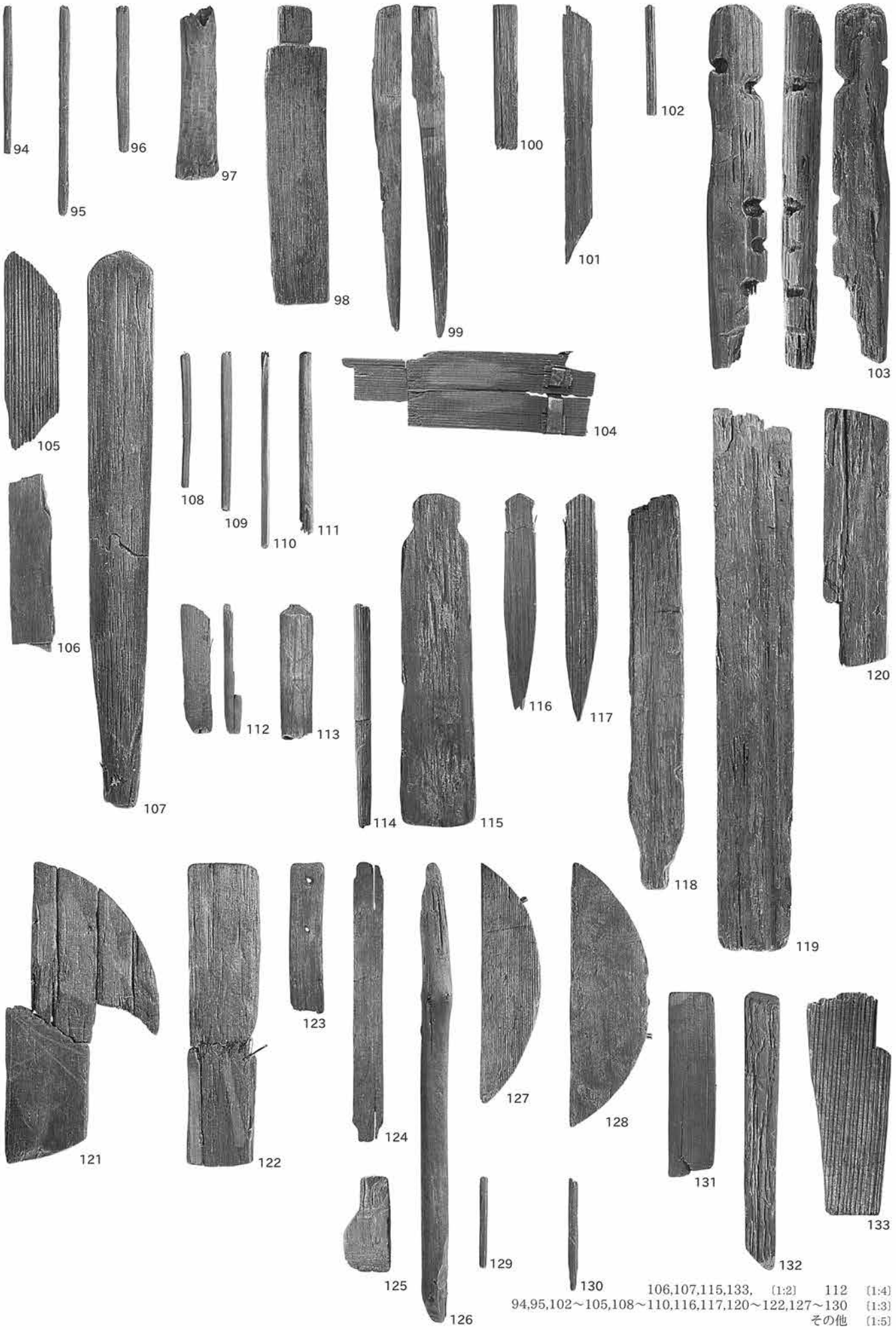
SD24（58～93）



59,84　〔1:2〕　58,60,65,68～70　〔1:5〕　77,92,93　〔1:10〕　その他　〔1:3〕

SD24（94～101）

SD24'（102～133）

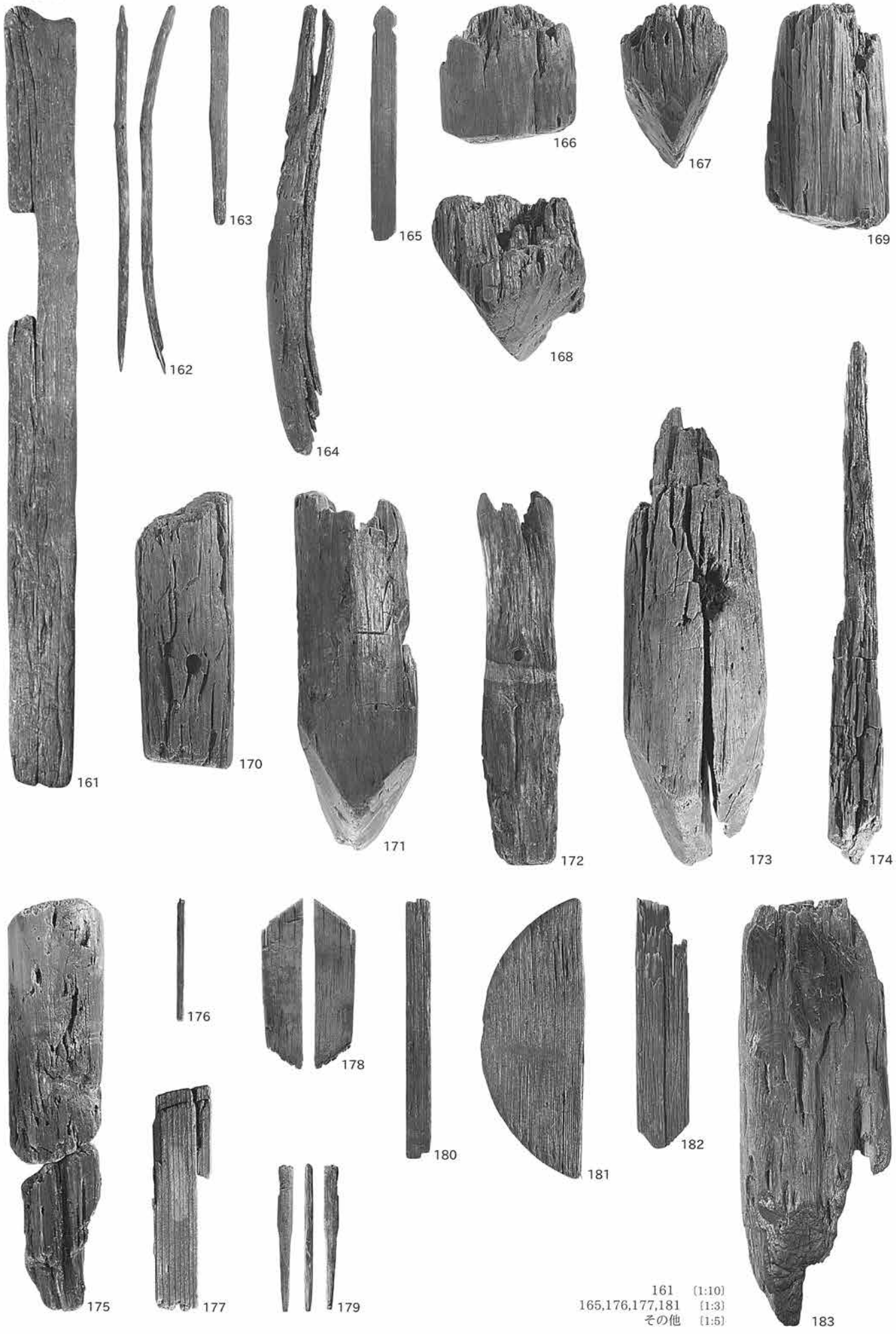


106,107,115,133,　[1:2]　112　[1:4]
94,95,102～105,108～110,116,117,120～122,127～130　[1:3]
その他　[1:5]

SD24'（134～137）　SD36（138）　包含層（139～160）

134,139,146,147,148　〔1:2〕
137,138,142,143,150,151,158,160　〔1:5〕
159　〔1:10〕
その他　〔1:3〕

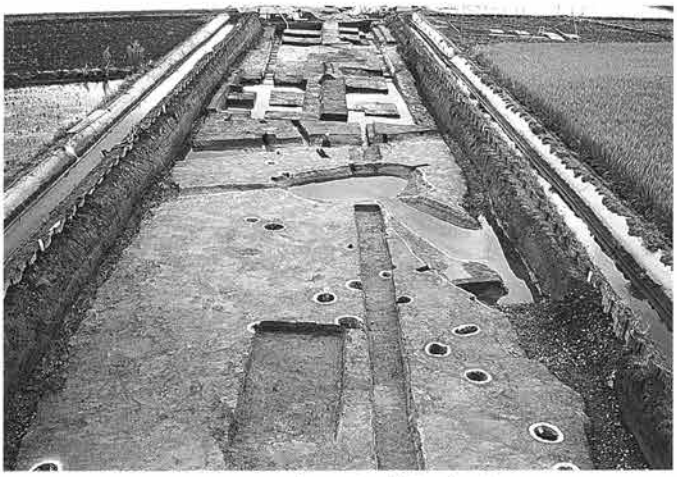
包含層（161～183）



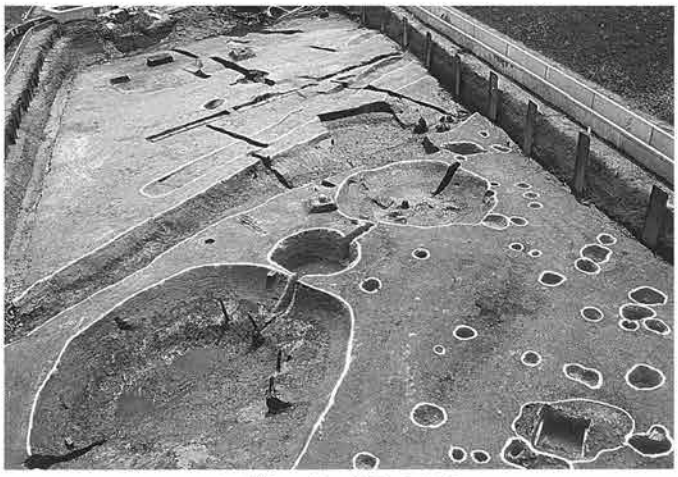
161　(1:10)
165,176,177,181　(1:3)
その他　(1:5)

25～28ABグリッド　完掘　東から

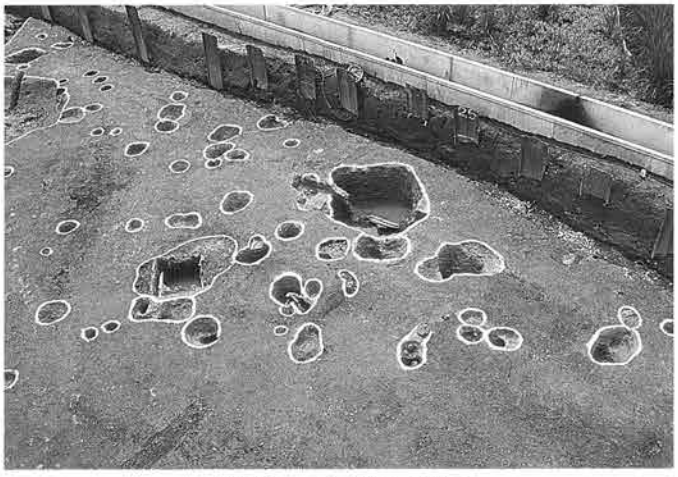
23・24ABグリッド　完掘　西から



19～21ABグリッド　完掘　東から



15グリッド　完掘　西から

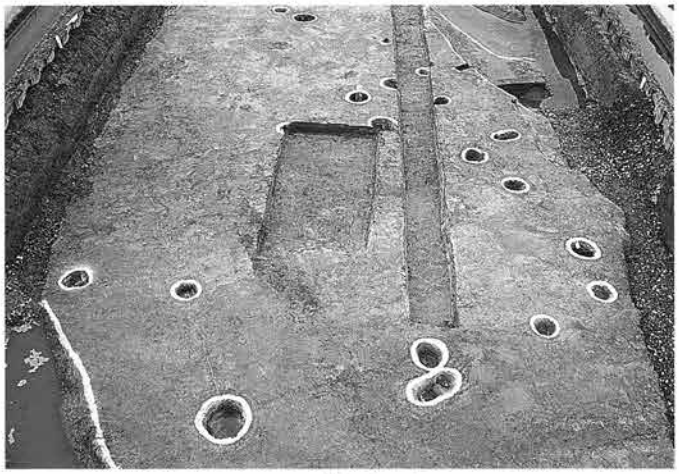


15Bグリッド　完掘　西から

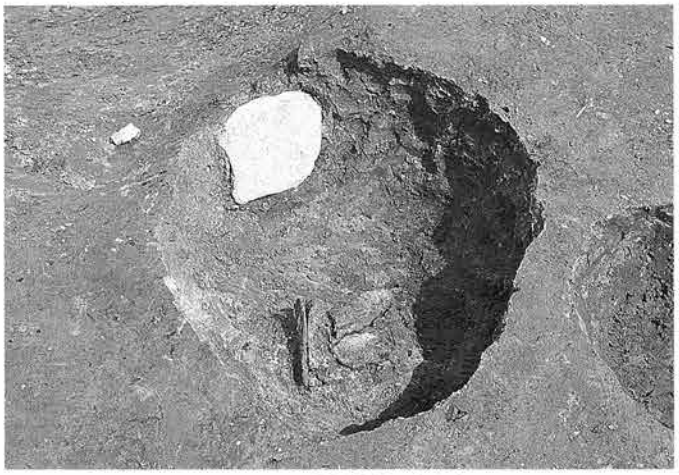
12～14ABグリッド　完掘　東から

8～10ABグリッド　完掘　東から

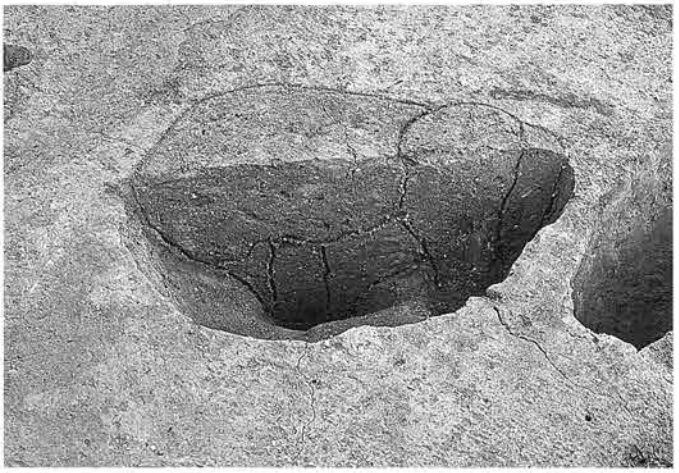
SB1　完掘　北東から



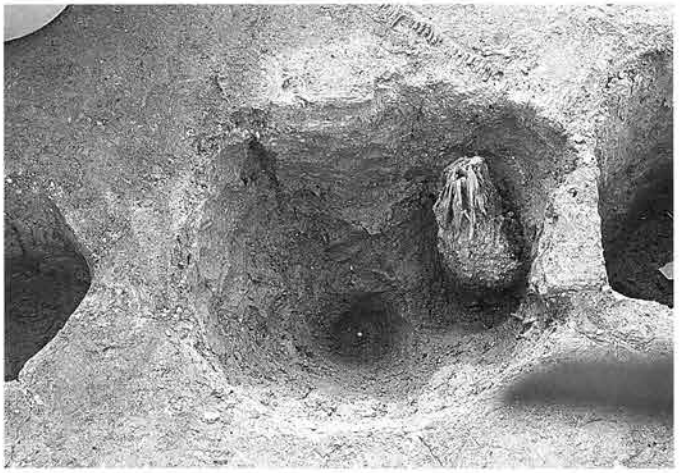
SB2　完掘　東から



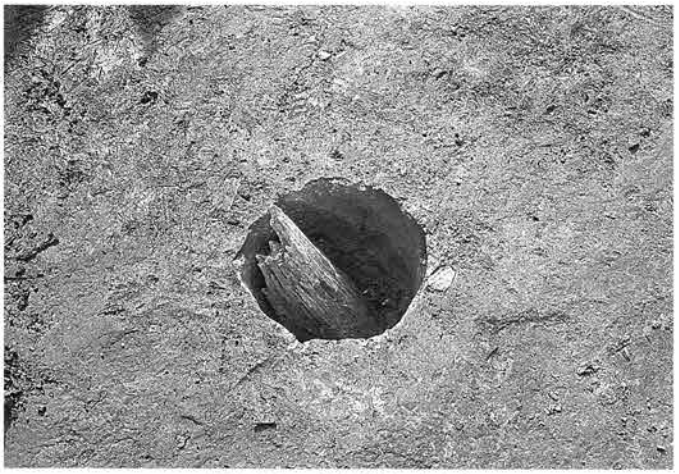
SB3-P92　出土状況　南から



SB3-P96・SB4-P97　断面　北から

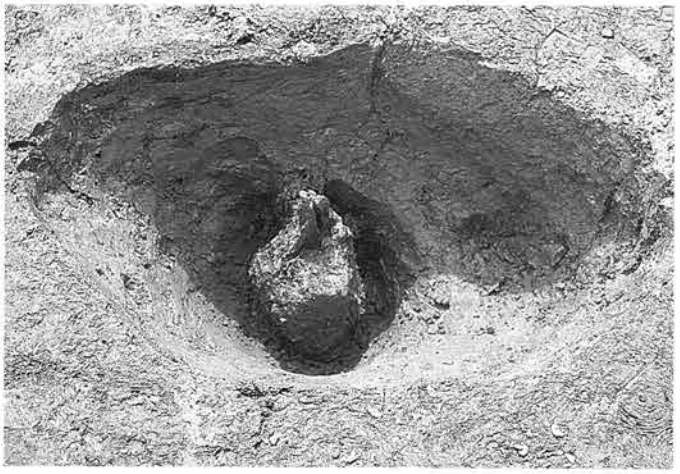


SB3-P96・SB4-P97　完掘　東から



SB6-P197　出土状況　東から

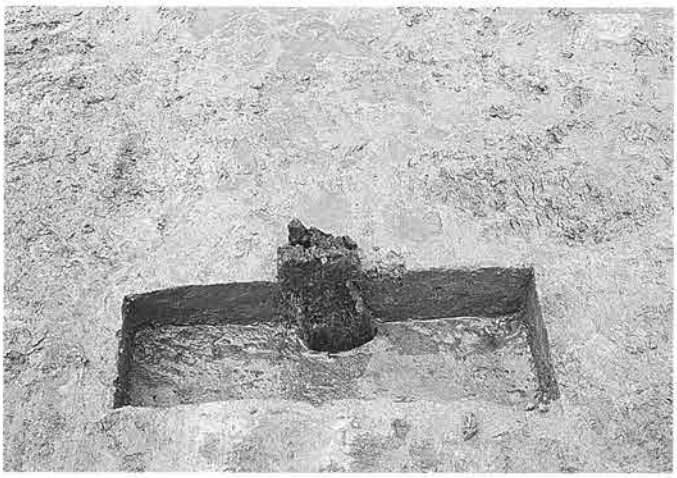
SB7-P117　出土状況　北から



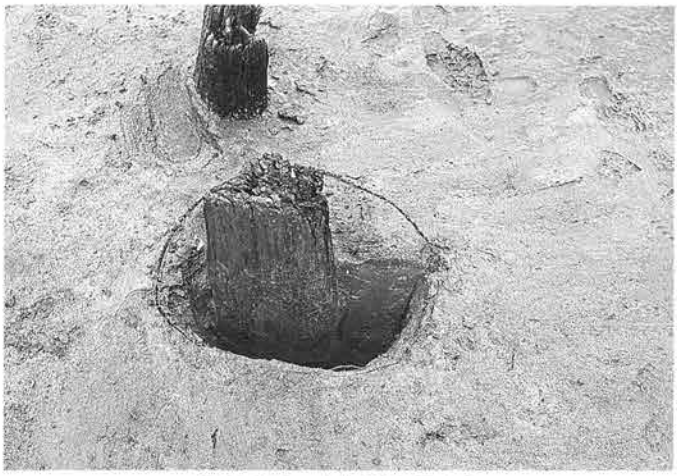
SB7-P126　出土状況　東から

SB8　完掘　東から

SB8-P169　出土状況　南から



SB8-P180　出土状況　南から

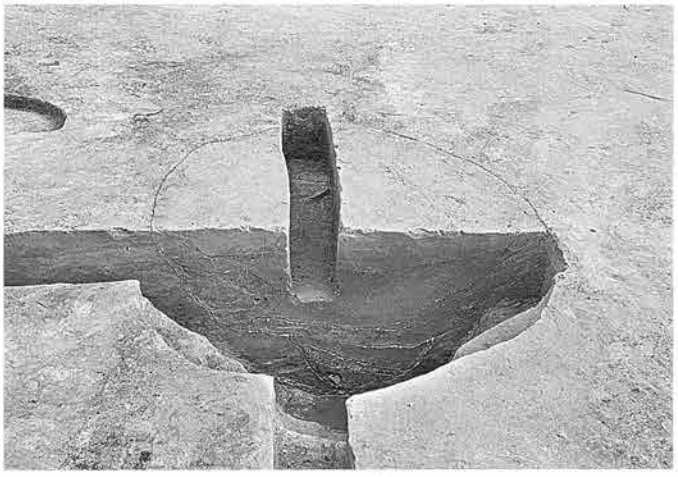


SB8-P182　出土状況　西から

SE17　鍬出土状況　北から

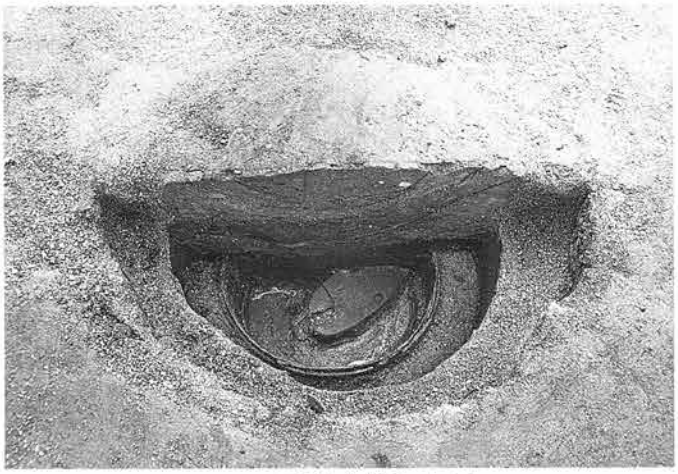
SE17　扇出土状況　北西から

SE17　横桟出土状況　北東から

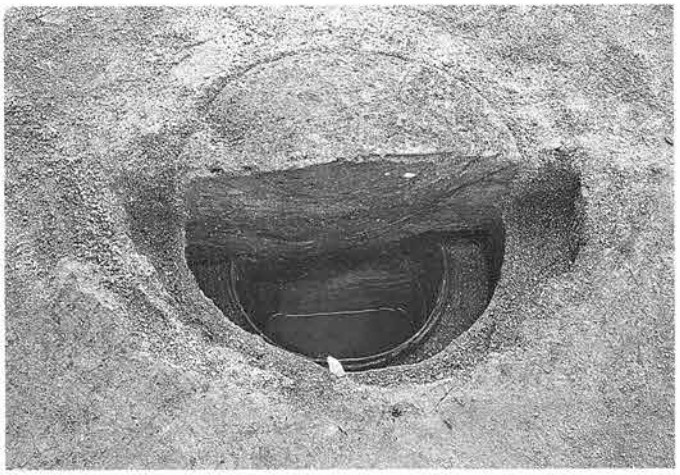


SE29　断面　南から

SE29　完掘　北から

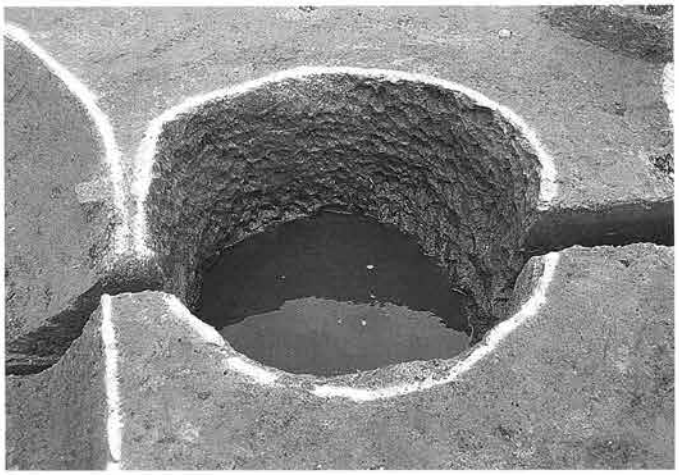


SE129　下駄出土状況　北から



SE129　断面　北から

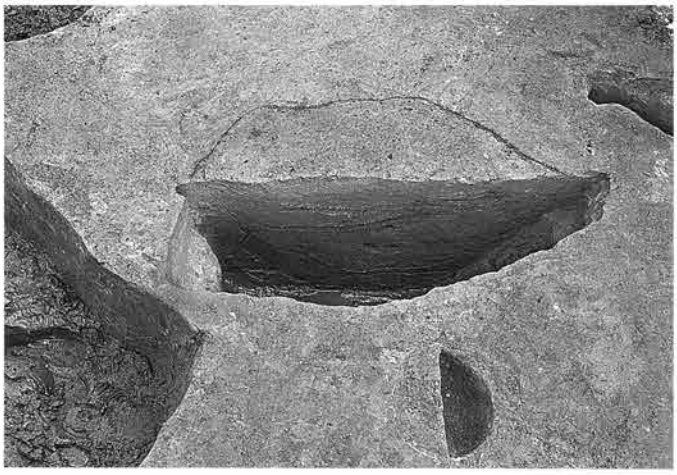
SE129　井戸側出土状況　北から



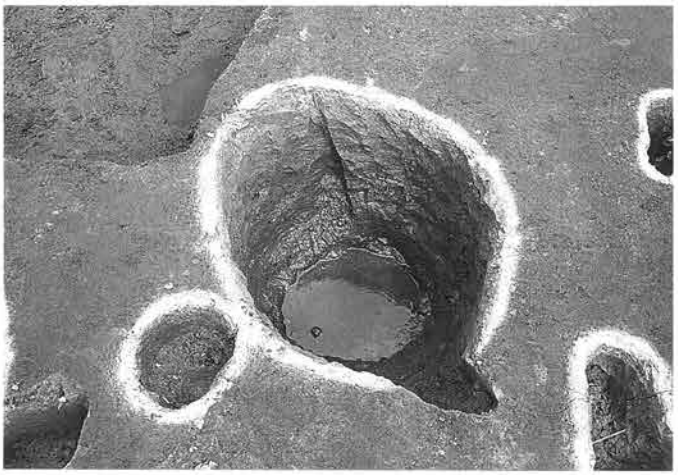
SE129　完掘　東から

SE171　井戸側出土状況　東から

SE171　完掘　東から



SE200　断面　北から



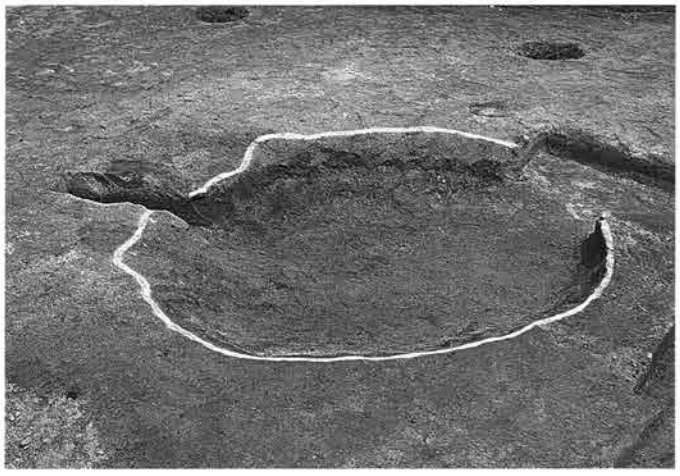
SE200　完掘　西から

SK22　断面　東から

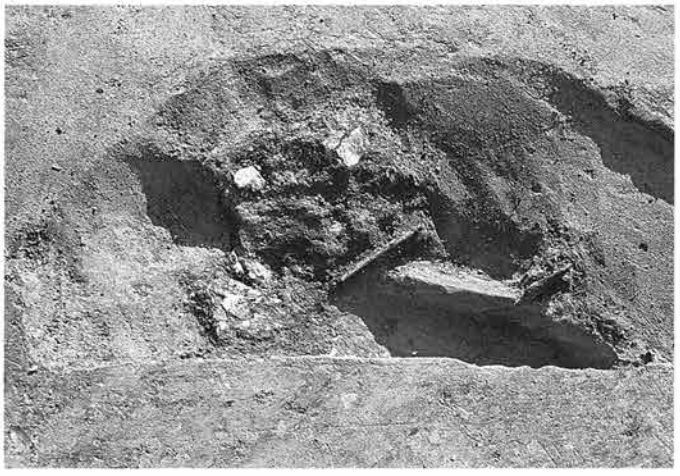
SK22　完掘　東から

SK24　断面　南から

SK24　出土状況　南から



SK24　完掘　南から



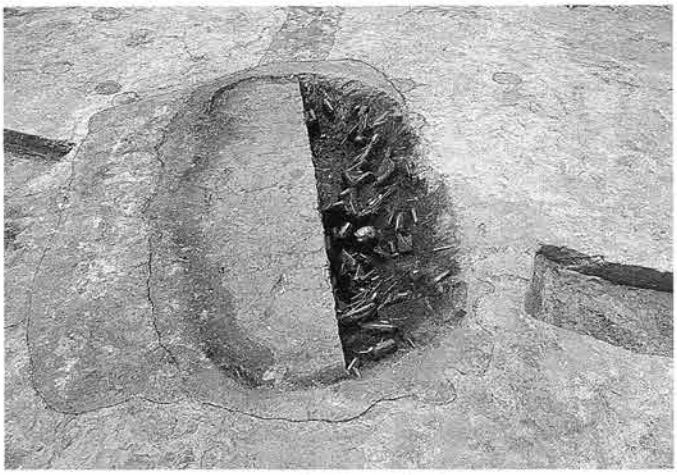
SK27　骨出土状況　北から

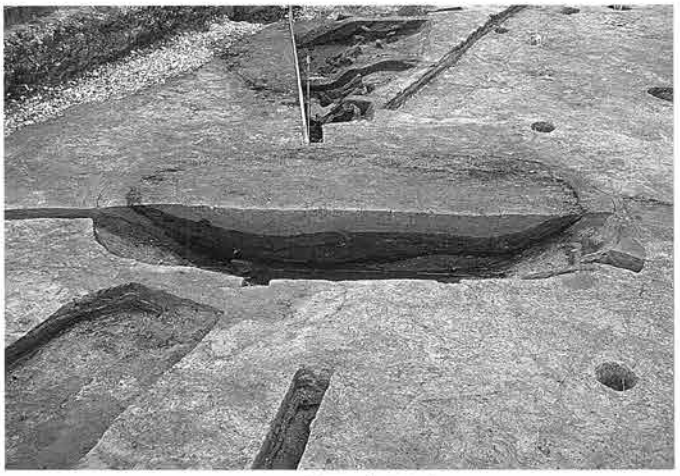
SK27　断面　南から

SK27　完掘　南から

火葬跡　出土状況　西から

SK31　木簡（98）出土状況　西から


SK31　出土状況　北から


SK31　断面　南西から

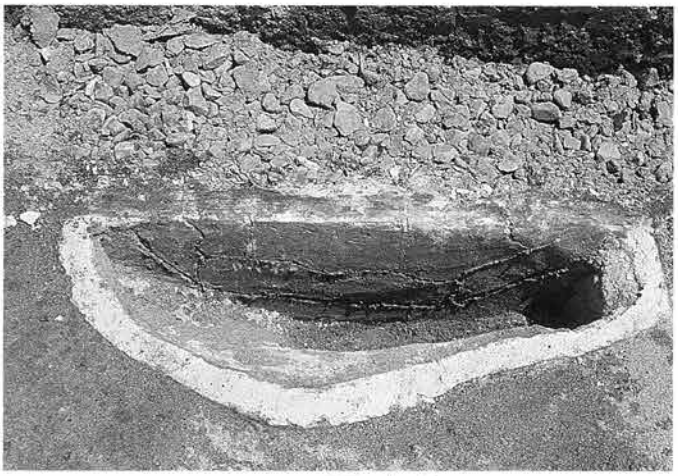
SK31　完掘　南から

SK32　出土状況　南から

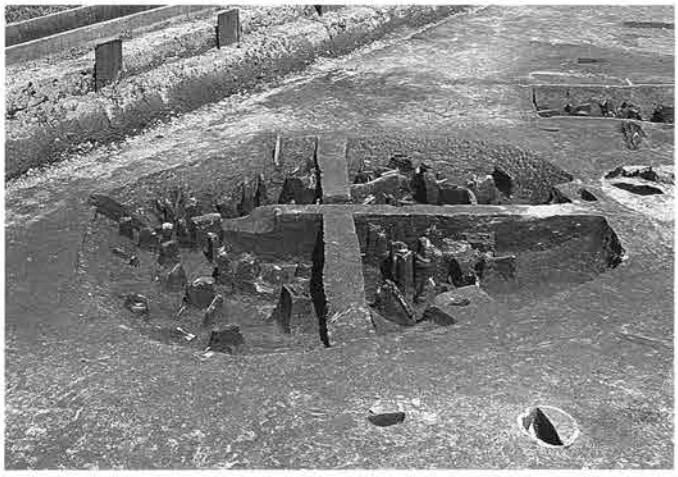
SK32　断面　南から

SK32　断面　南から

SK32　完掘　南から

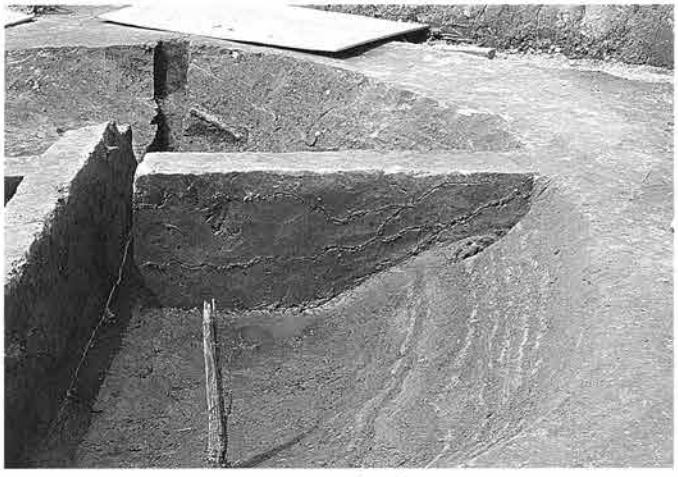


SK161　断面　南から



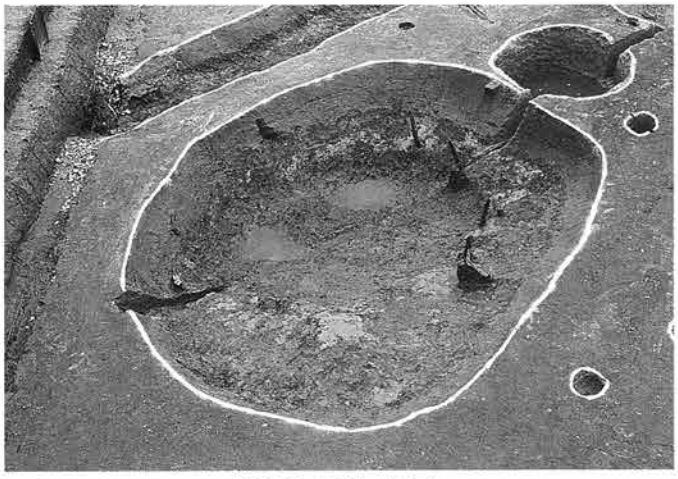
SX172　出土状況　西から

SX172　断面①　南から



SX172　断面②　南から

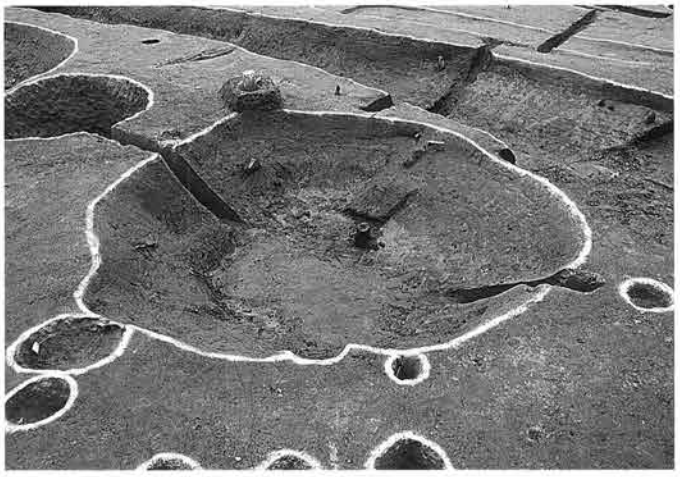
SX172　断面　東から



SX172　完掘　北から

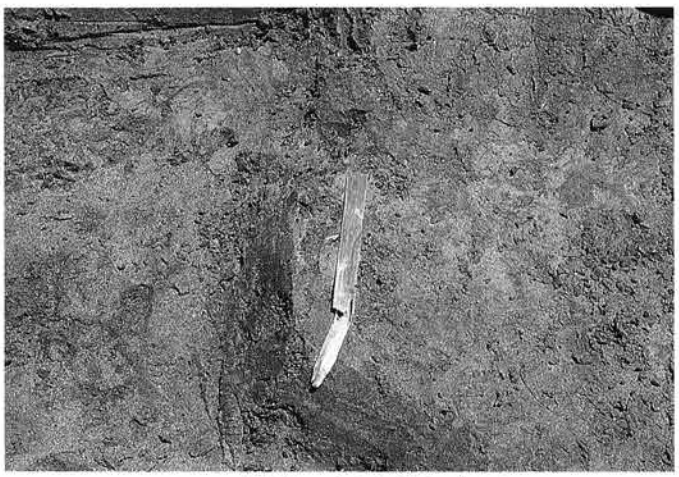
SX175　出土状況　南から

SX175　断面　南から

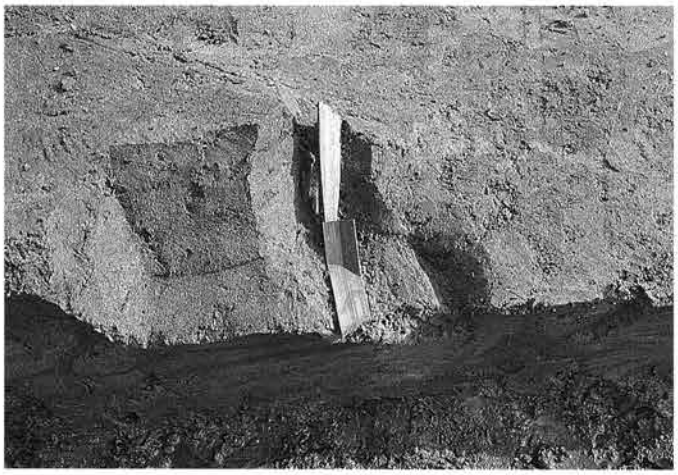


SX175　完掘　南西から

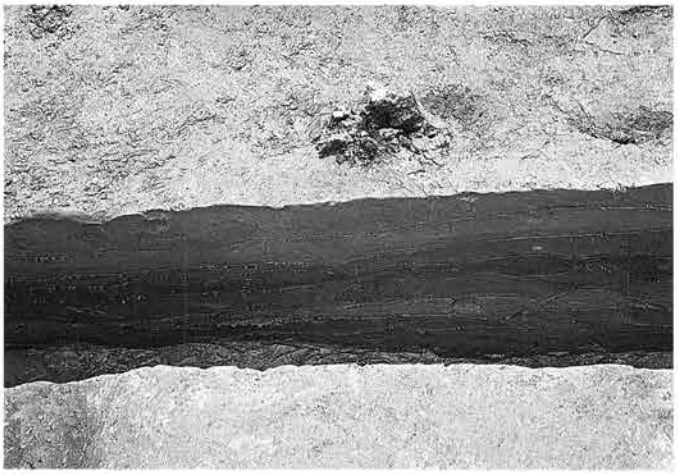
SX30　木簡（181）出土状況



SX30　木簡（166）出土状況　南から



SX30　木簡（186）出土状況　南から



SX30　断面①　北から

SX30　断面②　北から

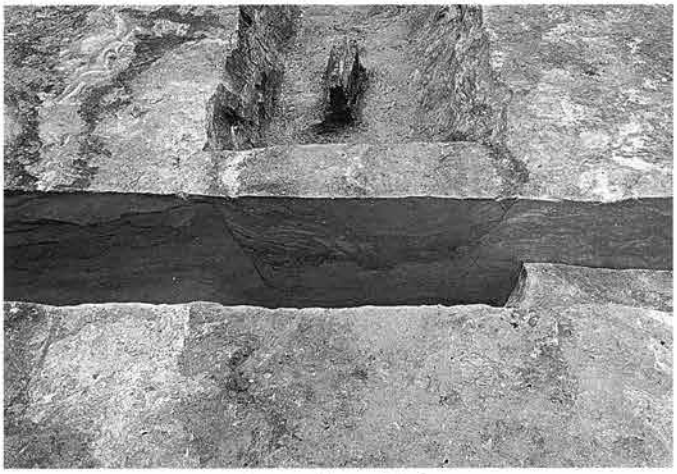
SX30　断面　北から

SD19　断面　北から

SD20　断面　南から

SD21　断面　西から

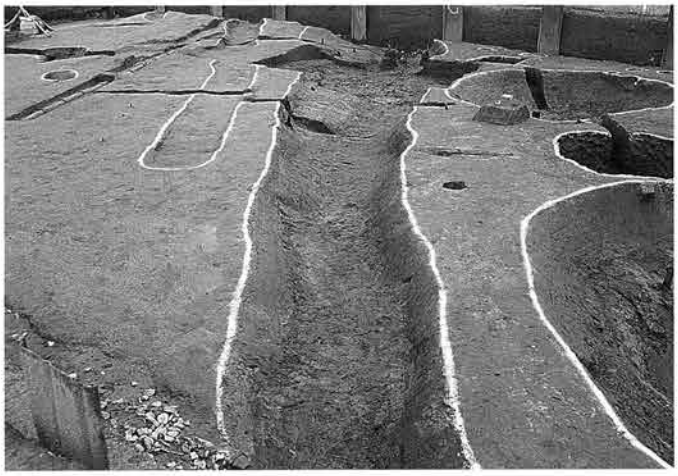
SD19・20・21　完掘　南から



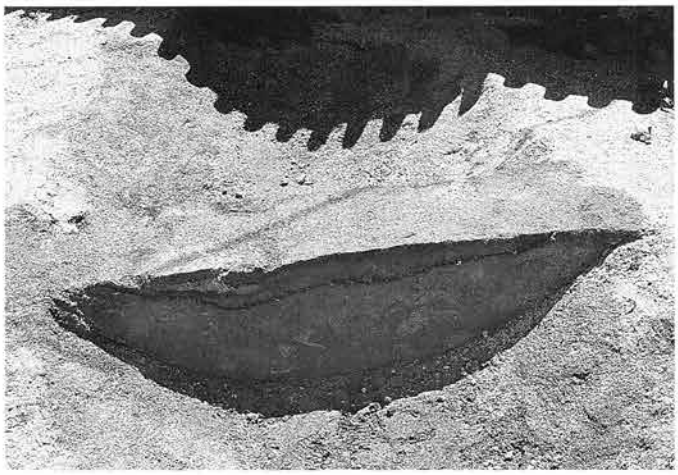
SD28　断面　北から

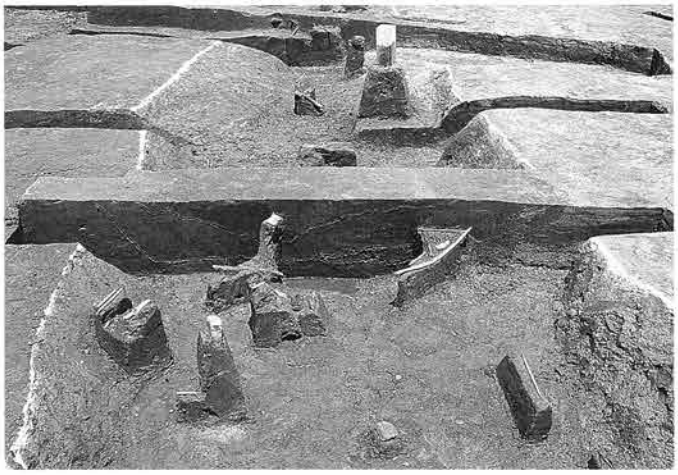
SD28　完掘　南から

SD59　断面　北から



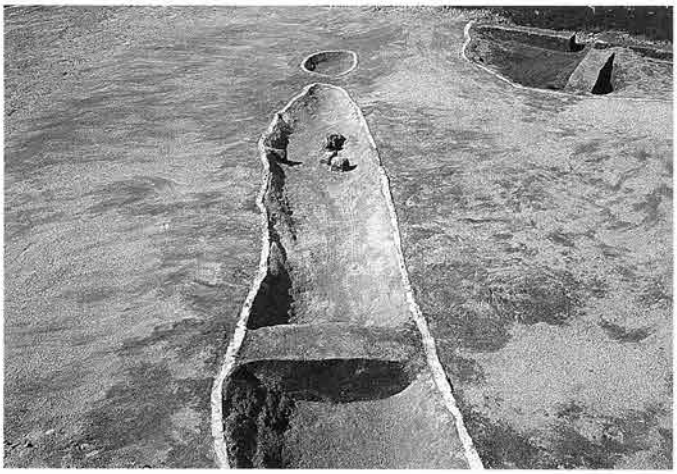
SD59　完掘　北から


SD79　断面　南から

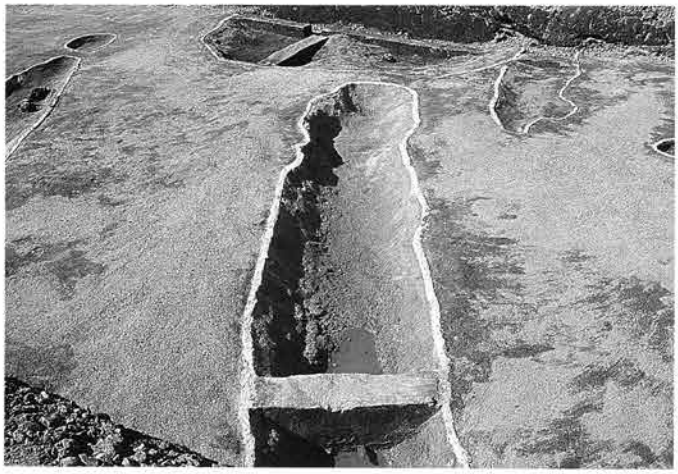

SD82　断面　南から

SD82　断面　北から

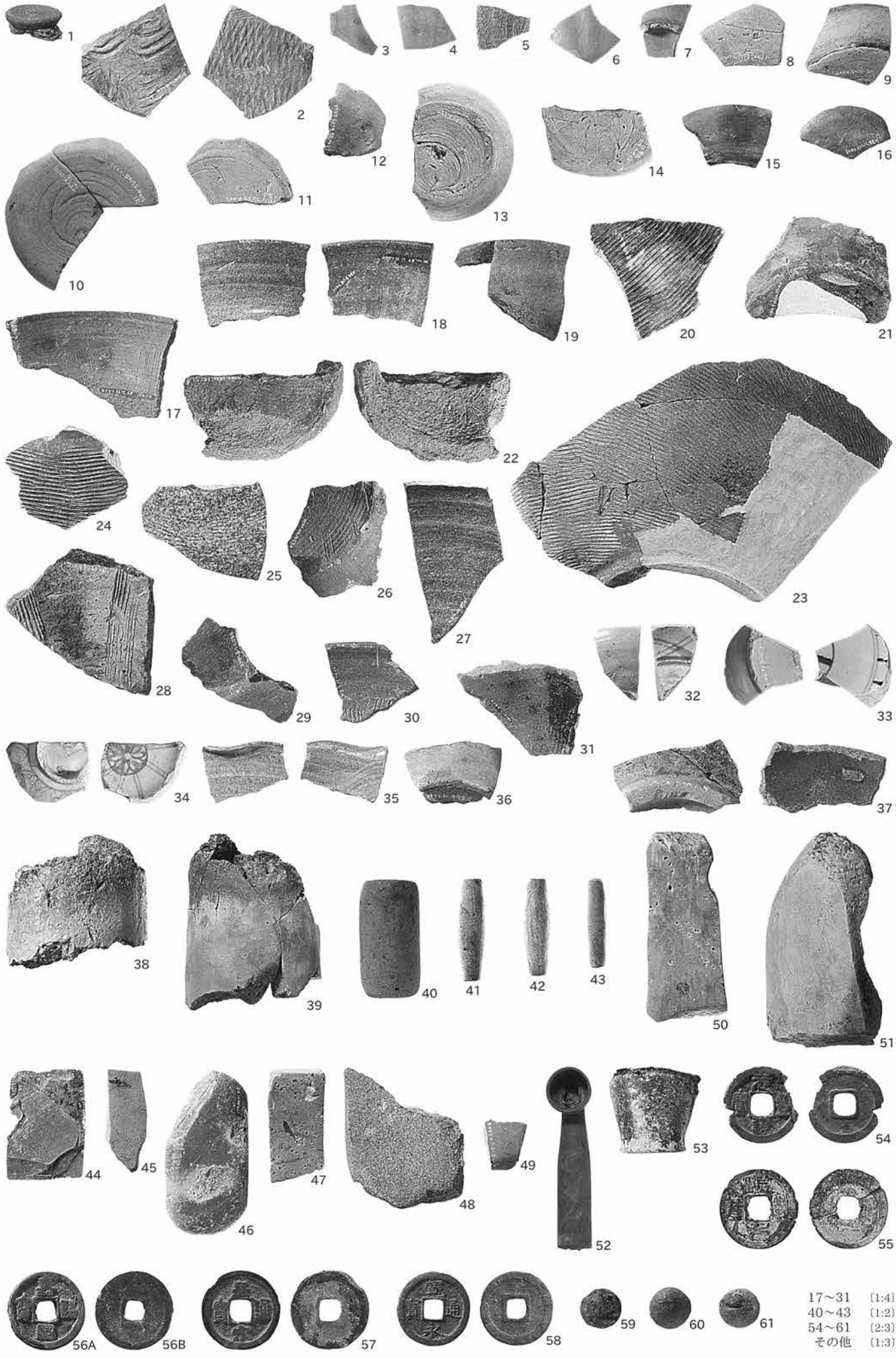
SD143　断面　北から


SD143　完掘　南から

SD144　断面　北から

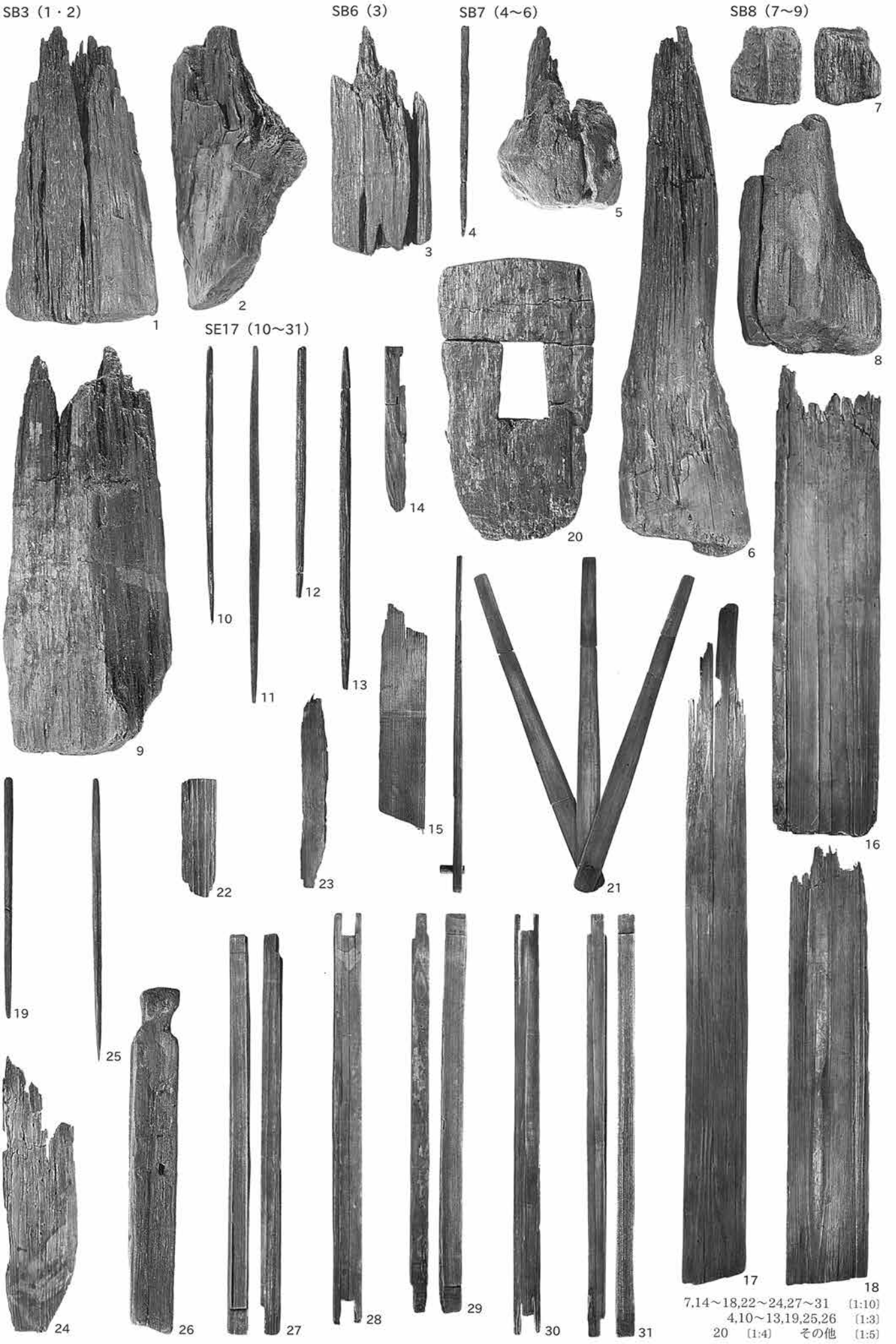

SD144　完掘　南から

SD204　断面　西から



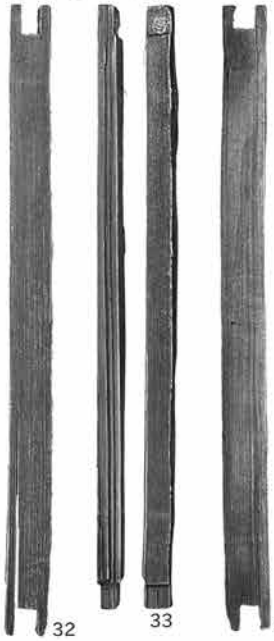
17～31　〔1:4〕
40～43　〔1:2〕
54～61　〔2:3〕
その他　〔1:3〕

砂山中道下遺跡　木製品（1）



7,14～18,22～24,27～31　〔1:10〕
4,10～13,19,25,26　〔1:3〕
20　〔1:4〕　その他　〔1:5〕

SE17（32～34）



32　33　34

SE129（35～40）

35

36

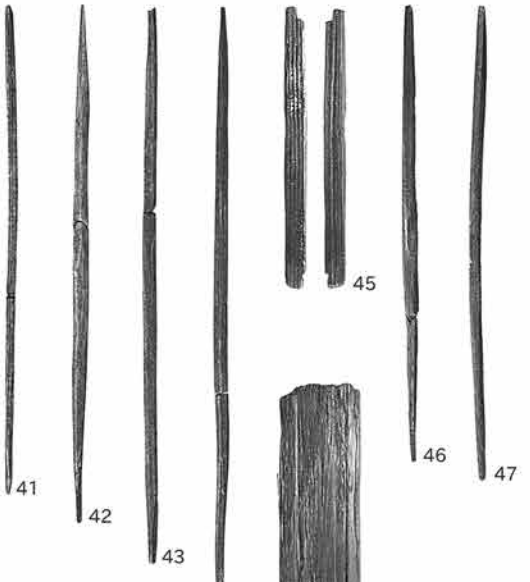
37

39

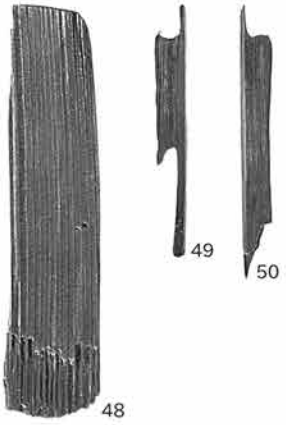
38

40

SE171（41～62）



41　42　43　44　45　46　47



48

49　50

51　52

53　54

55

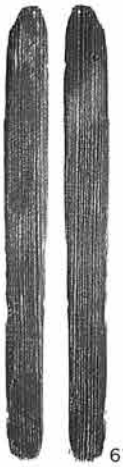
56

57

58

59

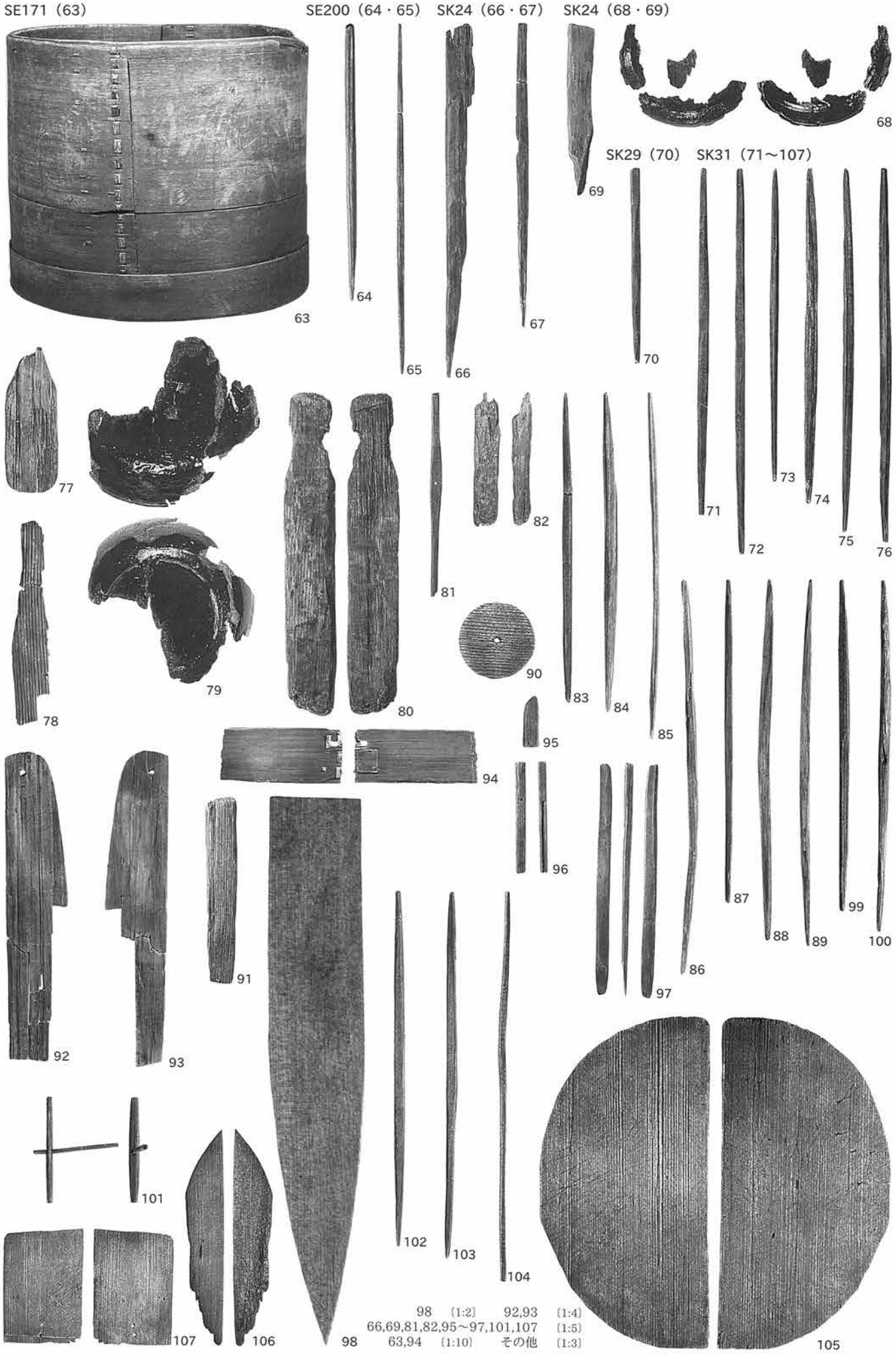
60

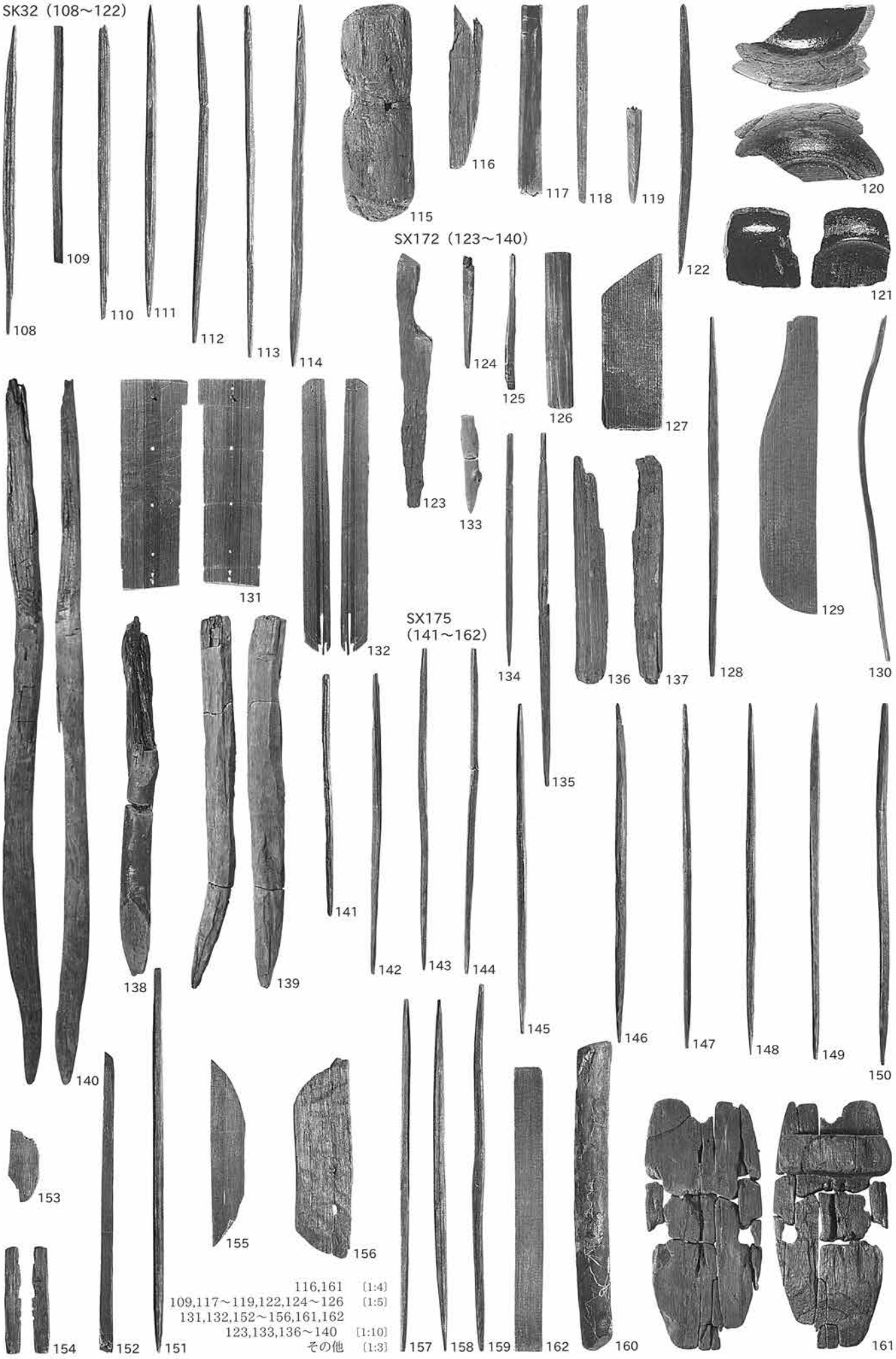


61

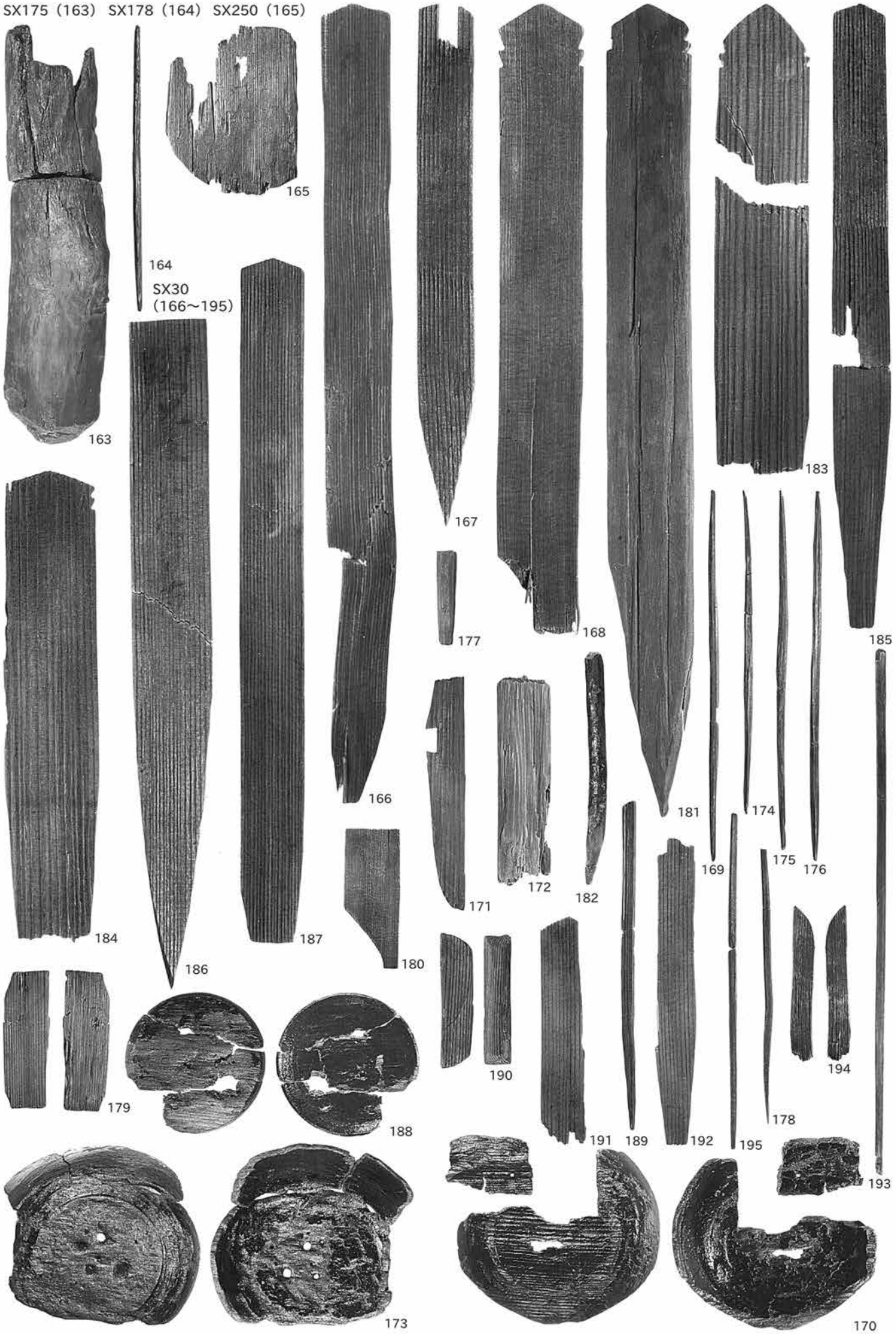
62

41～44,46～48,53,54　〔1:3〕
35,36　〔1:4〕
45,61　〔1:5〕
39　〔1:8〕
その他　〔1:10〕


SE171（63）
SE200（64・65）
SK24（66・67）
SK24（68・69）
SK29（70）
SK31（71～107）
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
76
77
78
79
80
81
82
83
84
85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105
106
107
98　（1:2）　92,93　（1:4）
66,69,81,82,95～97,101,107　（1:5）
63,94　（1:10）　その他　（1:3）

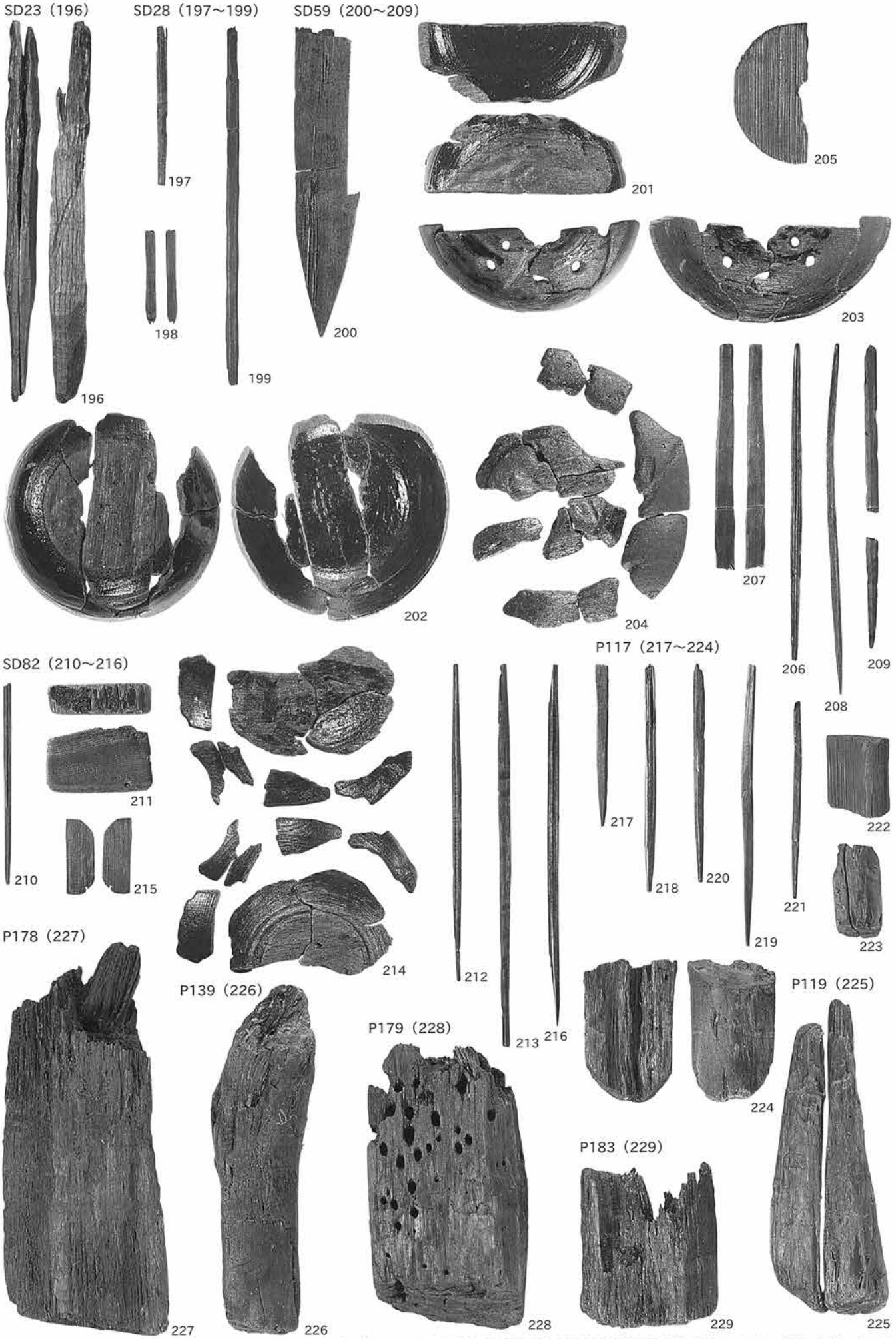


116,161　[1:4]
109,117～119,122,124～126　[1:5]
131,132,152～156,161,162
123,133,136～140　[1:10]
その他　[1:3]

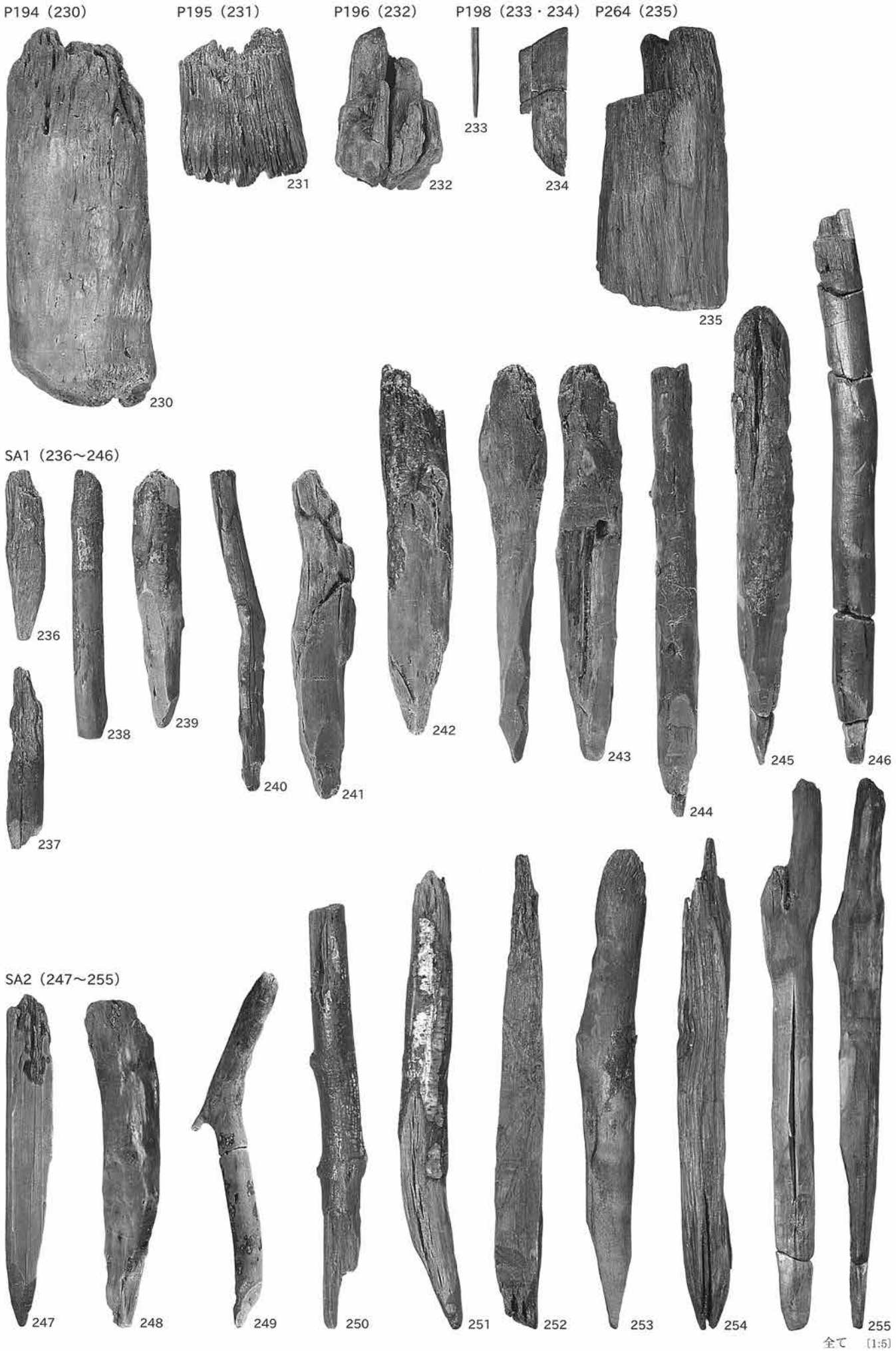


166～168,181,183～187,191,192 〔1:2〕　171,177 〔1:4〕　63,165,172,178～180,189,190,193 〔1:5〕　182 〔1:10〕　その他 〔1:3〕

SD23（196）　SD28（197～199）　SD59（200～209）

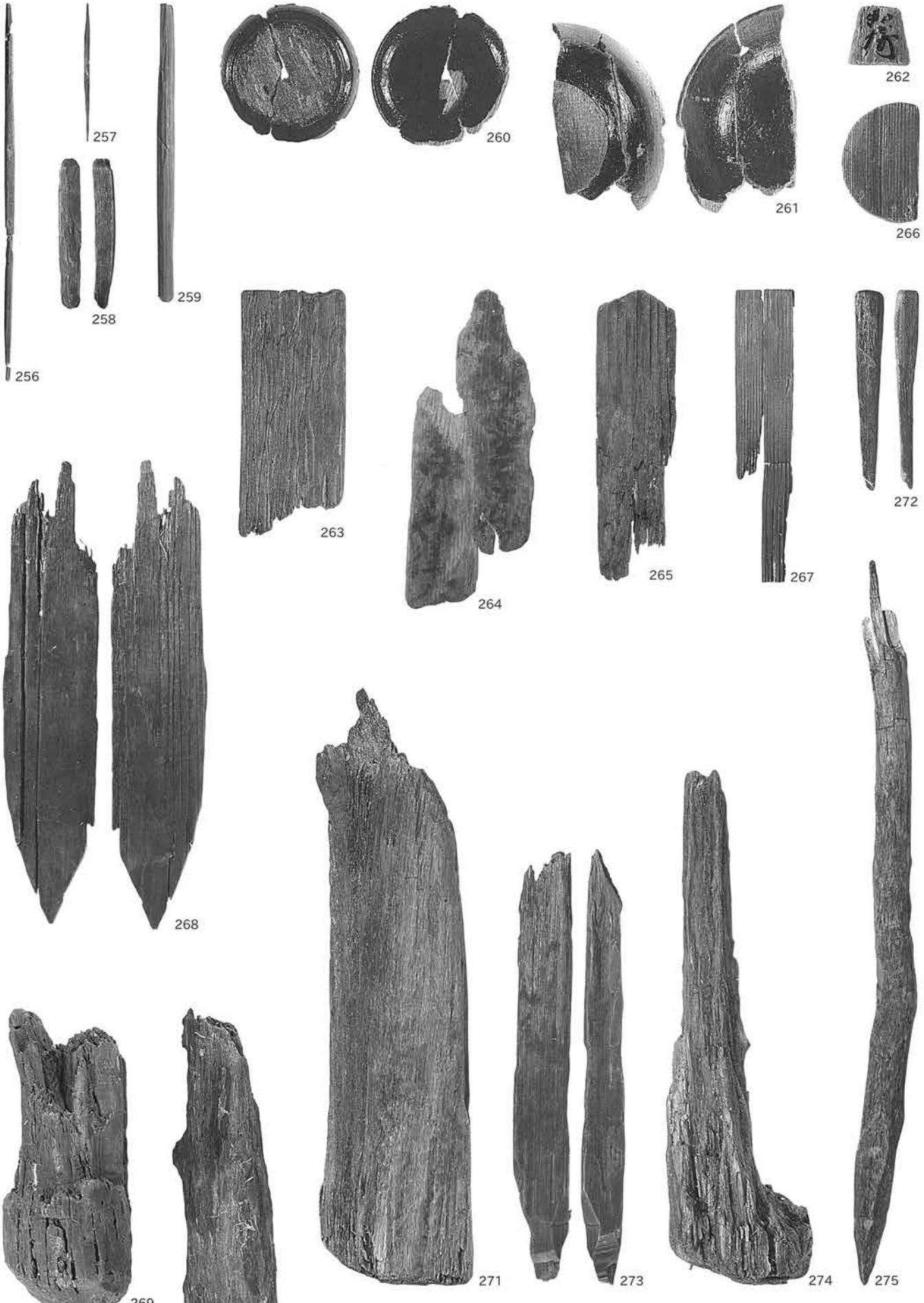


187,192,200 〔1:2〕　その他 〔1:3〕 196,198,199,205,207,209,211,215,221,225～229 〔1:5〕　222～224 〔1:10〕


P194（230）
P195（231）
P196（232）
P198（233・234）
P264（235）
230
231
232
233
234
235
SA1（236～246）
236
237
238
239
240
241
242
243
244
245
246
SA2（247～255）
247
248
249
250
251
252
253
254
255

全て　〔1:5〕

包含層（256～275）



262～265　〔1:2〕
256,260,261,266　〔1:3〕
275　〔1:10〕
その他　〔1:5〕

報 告 書 抄 録

ふ り が な	のなかどてつきいせき・すなやまなかみちしたいせき
書 名	野 中 土 手 付 遺 跡 ・ 砂 山 中 道 下 遺 跡
副 書 名	日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書
巻 次	XVII
シ リ ー ズ 名	新潟県埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第164集
編 著 者 名	佐藤友子（埋文事業団）、千葉博敏・高橋　敦（パリノ・サーヴェイ株式会社）
編 集 機 関	財団法人　新潟県埋蔵文化財調査事業団
所 在 地	〒956-0845　新潟県新潟市金津93番地1　　TEL 0250（25）3981
発 行 年 月 日	西暦2006（平成18）年11月21日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
野中土手付遺跡 （のかどてつきいせき）	新潟県新発田市野中土手付ほか （にいがたけんしばたしの なかどてつき）	15206	647	37度 59分 56秒	139度 21分 51秒	1998506 ～ 1998911	3,020m²	日本海東北自動車道湖南工事用道路建設
砂山中道下遺跡 （すなやまなかみちしたいせき）	新潟県新発田市湖南字砂山道下ほか （にいがたけんしばたしこ なんあざすなやまみちした）	15206	646	38度 00分 35秒	139度 21分 42秒	1998525 ～ 1998820	2,590m²	日本海東北自動車道湖南工事用道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
野中土手付遺跡	集落	古墳時代前期、後期	前期竪穴住居1、土坑3	土師器、須恵器	
	集落	奈良・平安時代	掘立柱建物7、井戸1、杭列3、溝状遺構40、土坑、ピット、自然流路3	須恵器、土師器、墨書土器、刻書土器、木製品、木簡、	
砂山中道下遺跡	集落	鎌倉～室町	掘立柱建物8、土坑8・井戸5、杭列3、溝状遺構16、火葬跡1、土坑墓？1、自然流路4、ピット160	中世土師器、珠洲焼、青磁、肥前陶磁器、木製品、木簡、石製品、金属製品	

新潟県埋蔵文化財調査報告書　第164集

日本海沿岸東北自動車道関係発掘調査報告書XVII

野中土手付遺跡・砂山中道下遺跡

平成18年11月20日印刷
平成18年11月21日発行

編集・発行　新潟県教育委員会
〒950-8570　新潟市新光町4番地1
電話　025（285）5511

財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
〒956-0845　新潟市金津93番地1
電話　0250（25）3981
FAX　0250（25）3986

印刷・製本　株式会社 第一印刷所
〒950-8724　新潟市和合町2丁目4番18号
電話　025（285）7161